XENOGEARS

THOUSANDS OF DAGGERS

[ゼノギアス・メモリアル アルバム]

THOUSANDS OF DAGGERS
[ゼノギアス・メモリアル アルバム]

いま紐解かれる神とヒトとの物語

株式会社デジキューブ　定価（本体2300円+税）

THOUSANDS OF DAGGERS

ゼノギアス メモリアル アルバム

DigiCube

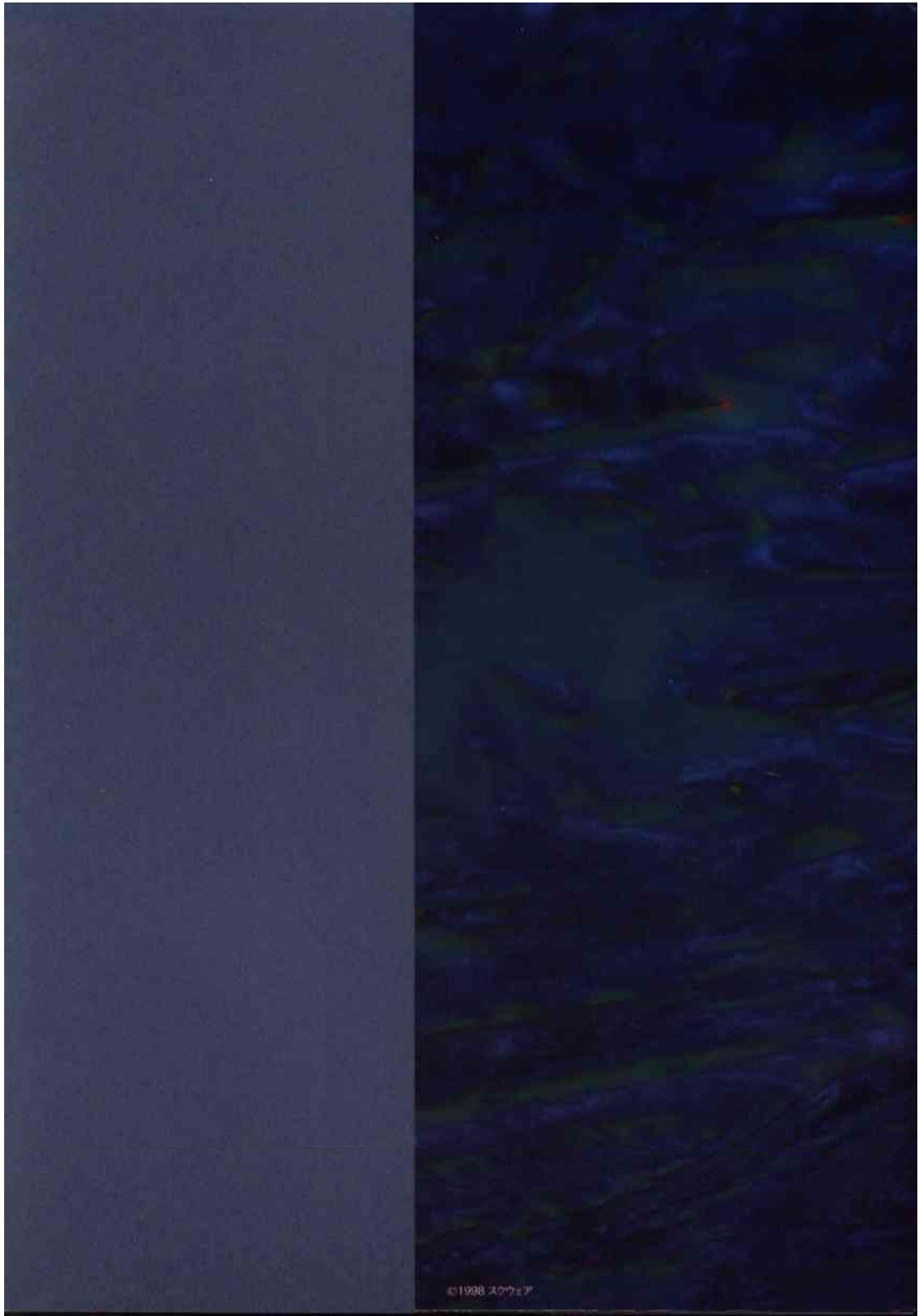
ISBN4-925075-27-6

C0076 ¥2300E

9784925075275

1920076023002

DigiCube
株式会社デジキューブ
定価(本体2300円+税)

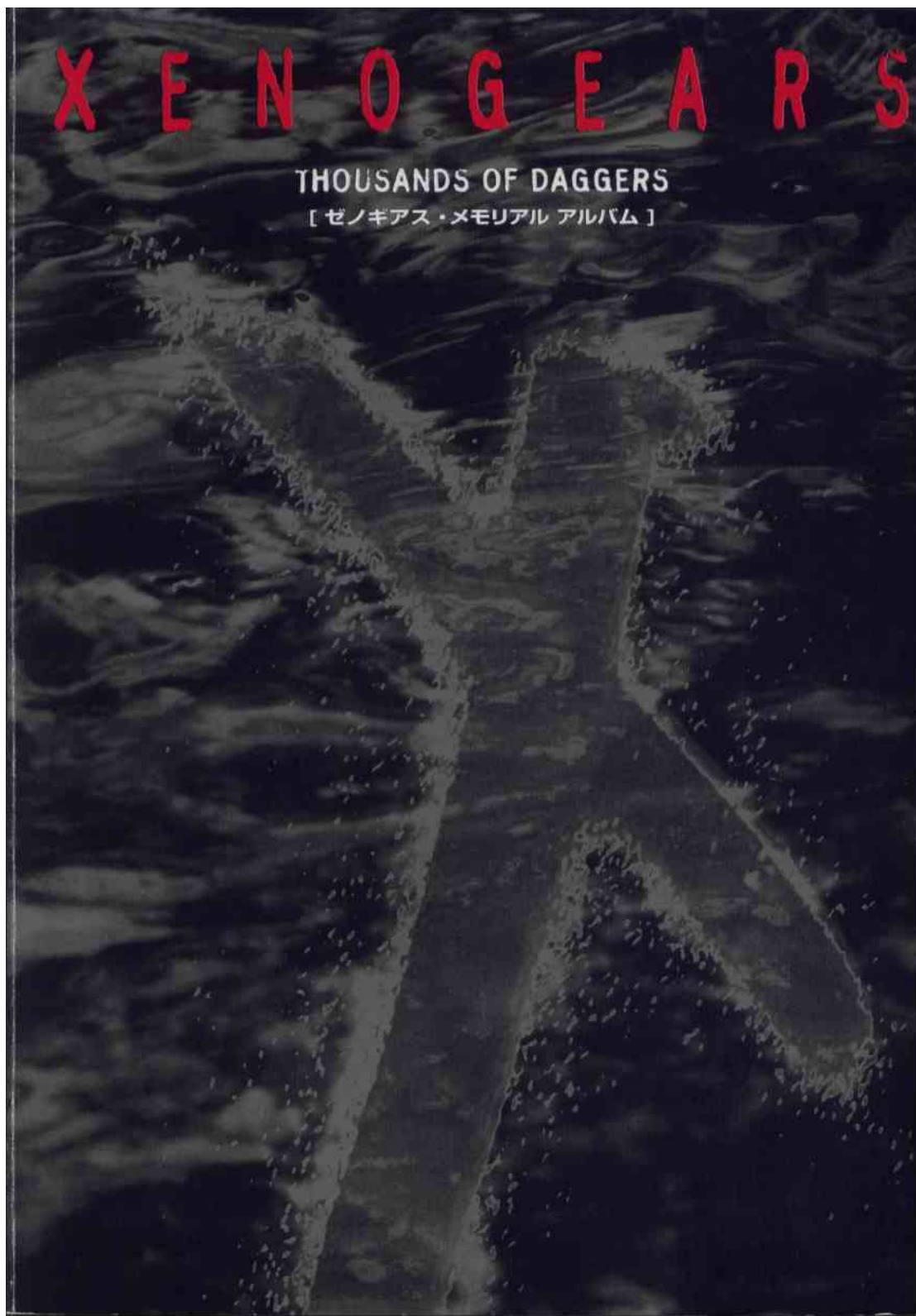
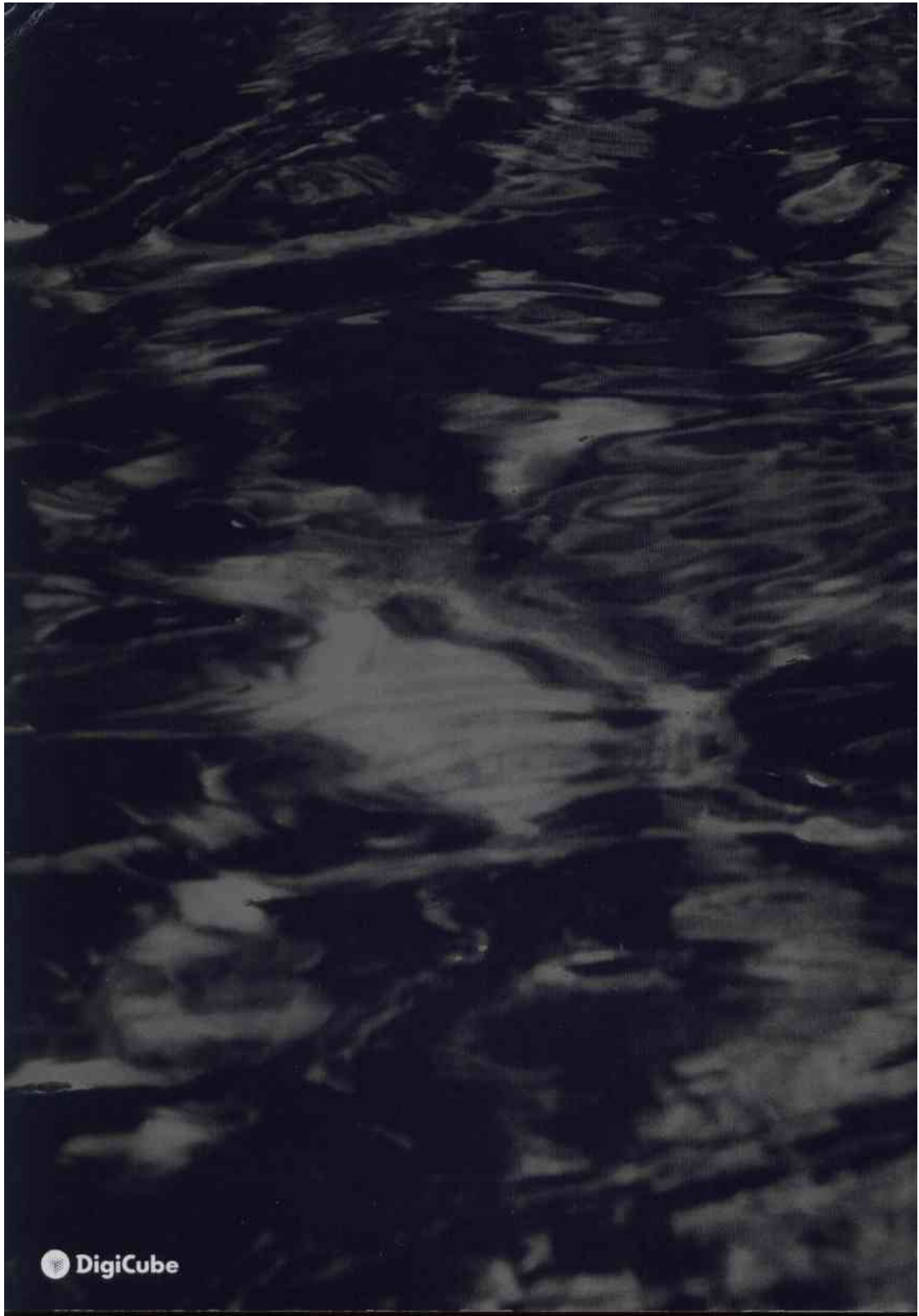
SQUARESOFT

ゼノギアス・メモリアル アルバム

XENOGEARS
THOUSANDS OF DAGGERS
[ゼノギアス・メモリアル アルバム]

THOUSANDS OF DAGGERS

ゼノギアス メモリアル アルバム

DigiCube

XENOGEARS
THOUSANDS OF DAGGERS
[ゼノギアス・メモリアル アルバム]

THOUSANDS OF DAGGERS
XENOGEARS MEMORIAL ALBUM
DigiCube

郵便はがき

お手数ですが50円切手をお貼りの上、ご投函下さい。

150-0013

東京都渋谷区恵比寿 1-20-18
三富ビル新館
株式会社デジキューブ
出版事業部
ゼノギアス・メモリアルアルバム
THOUSANDS OF DAGGERS 係

ご氏名	フリガナ	年齢	歳	性別	男 ・ 女
ご住所	〒	電話	(　　　)		
ご職業		学年	小・中・高・大・専門 年		
お買上げ月日		お買上げ店			
年 月 日		都道府県	市区町村		店

この度は「ゼノギアス・メモリアルアルバム THOUSANDS OF DAGGERS」をご愛読頂きまして、誠にありがとうございます。これからの商品の参考にしたいと思いますので、お手数ですが裏面のアンケートにご協力をお願いいたします。

ゼノギアス・メモリアルアルバム

■この本を何でお知りになりましたか？（複数回答可）

1. 書店で見て　2. 当社発行書籍の自社広告を見て（書籍名：　　　　）
3. 雑誌広告を見て（雑誌名：　　　　）
4. その他（　　　　）

■この本以外に『ゼノギアス』関連書籍を購入しましたか？

1. デジキューブのガイドブック　2. デジキューブのポストカードブック
3. 他社発行書籍（書籍名：　　　　）
4. 購入していない

■この本を購入された理由を教えてください。

（　　　　）

■この本について、下記の項目にお答えください。

値　段		安い	適当	高い	
カバーデザイン	最高	良い	普通	悪い	最低
本文デザイン	最高	良い	普通	悪い	最低
内　容	最高	良い	普通	悪い	最低
総　合	最高	良い	普通	悪い	最低

■内容について、どうでしたか？(複数回答可)

1. 面白かった　2. つまらなかった　3. 攻略に役立った　4. 懐かしかった
5. もう一回プレイしたくなった　6. 新しい発見があった　7. こんな本はいらない
8. あの場面が抜けてた！（　　　　）
9. あの写真が良かった！（　　　　）
10. その他（　　　　）

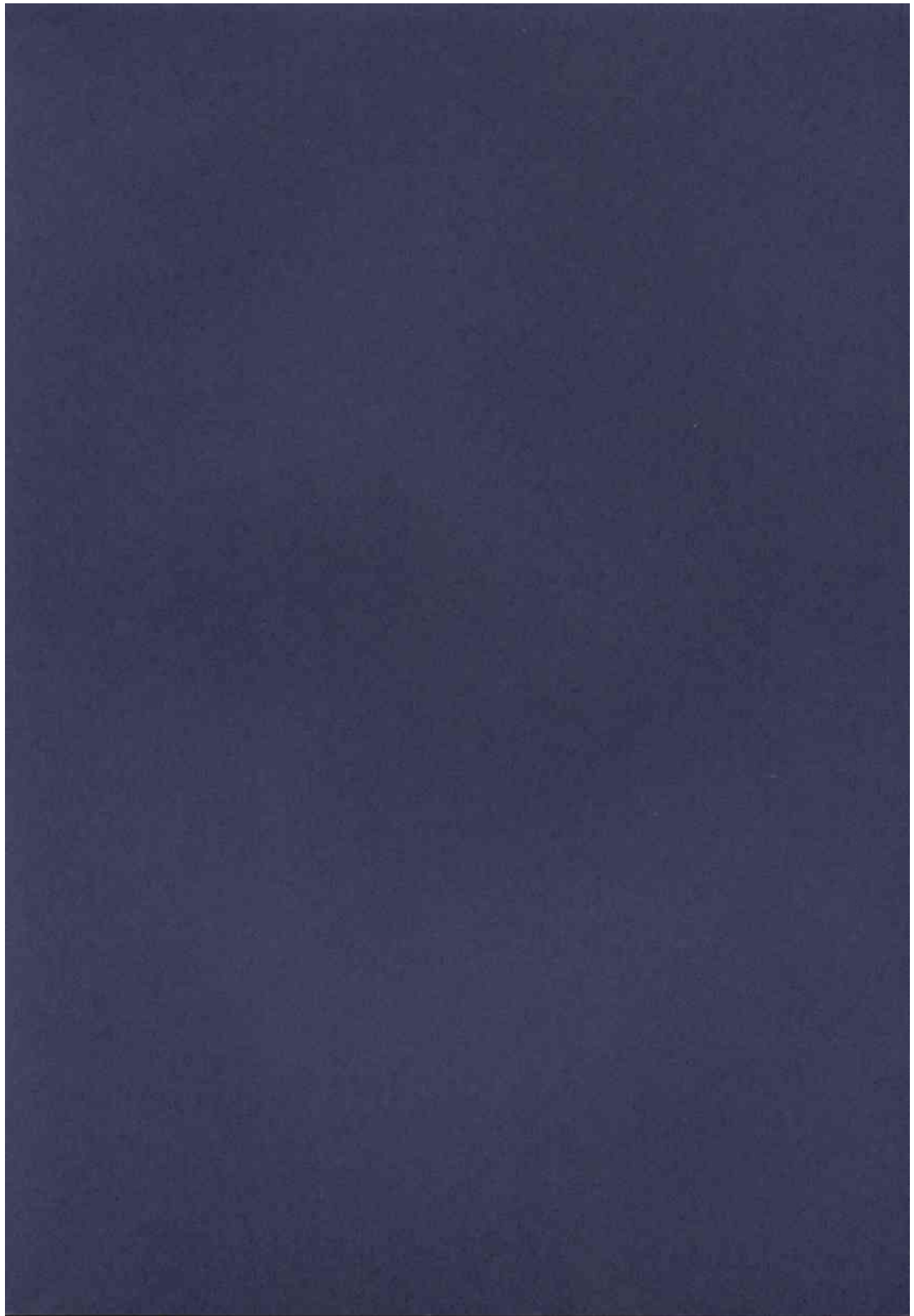
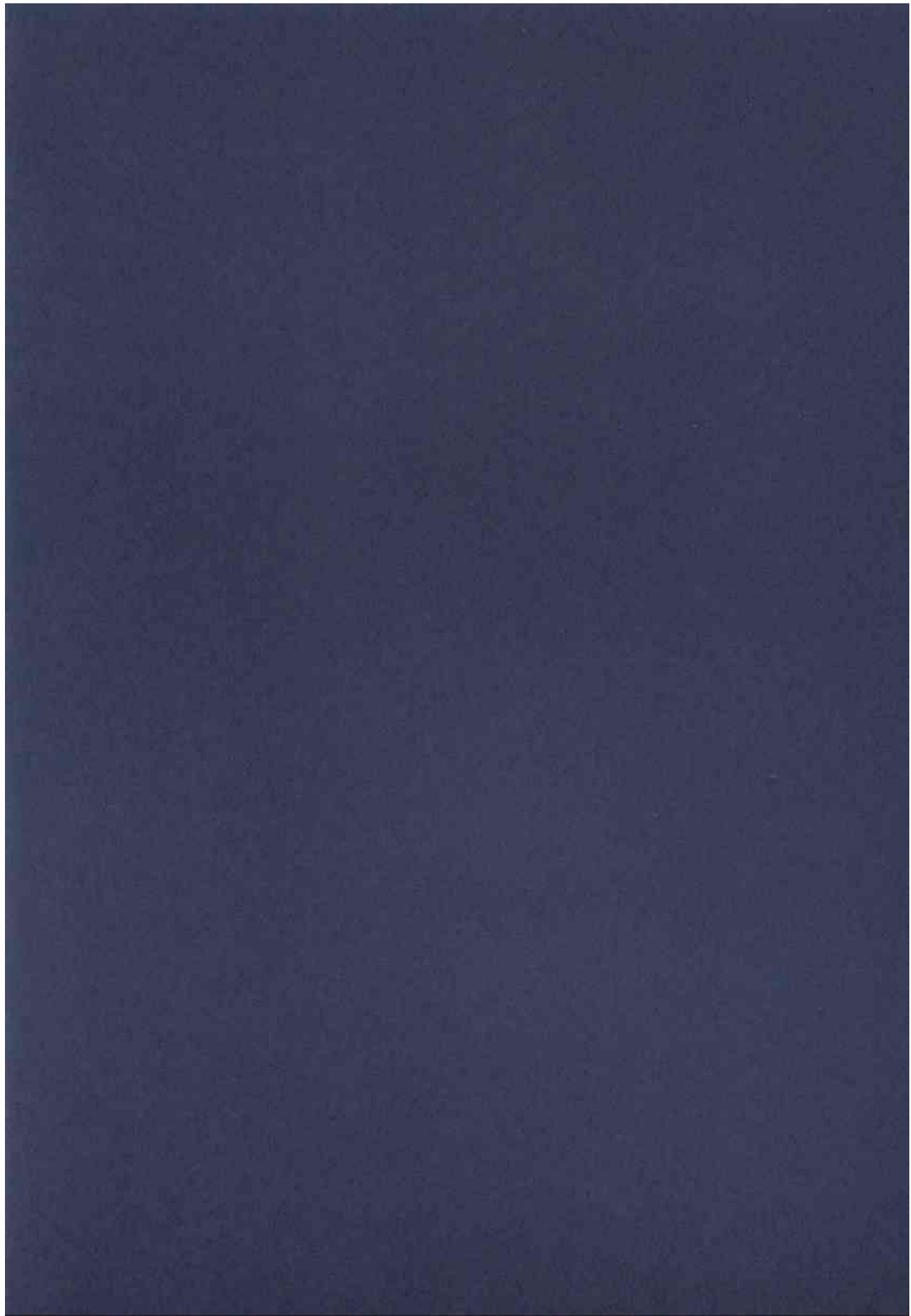
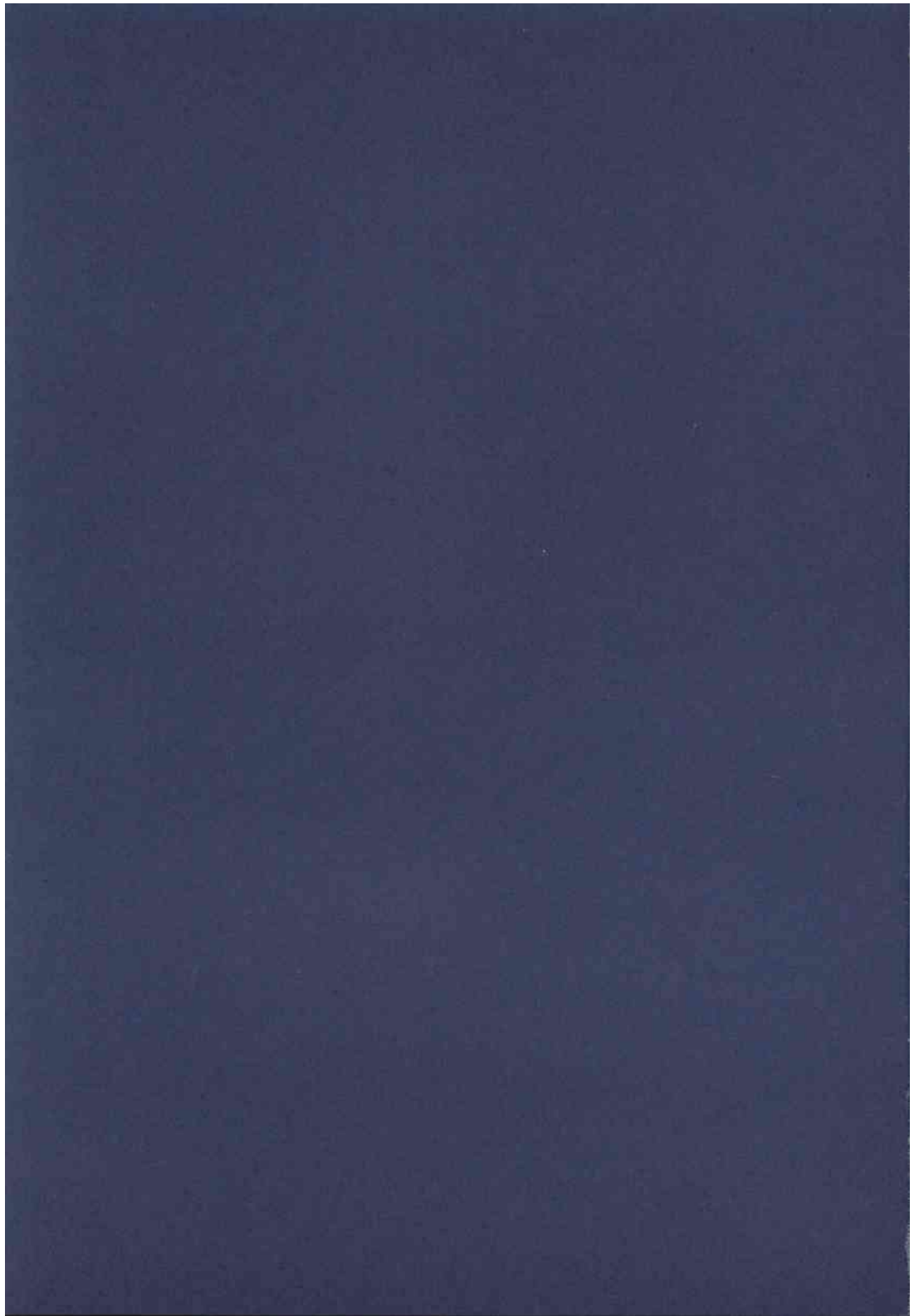
■今後、どんなソフトのメモリアルアルバムが欲しいですか？

ソフト名（　　　　）

■この本は、お店のどこに置いてありましたか？

1. レジのそば　2. ゲーム関連書籍の棚　3. ゲーム関連雑誌の下に平積み
4. ゲーム攻略本コーナーの棚　5. ゲーム攻略本コーナーの下に平積み

■この本の内容、デジキューブの本へのご意見・ご要望をお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

XENOGEARS MEMORIAL ALBUM

THOUSANDS OF DAGGERS

THOUSANDS OF DAGGERS

Xenogears Memorial Album

始まり、ラハン　山道をゆけば
山頂の家にて　闇にふるもの
黒き災い　樹海へ……
緑の森の少女　緑の静寂
アヴェ領土へ　砂漠の街
熱砂のシャチ　地底の隠者
戦う理由、死ぬ理由　偽りの王
嵐を呼ぶ大武会　ファティマ城脱出
一路ニサンへ　ニサンの聖母
決死の反撃　緋の鬼神
囚われの鳥　バトリングの勇者
闇にはうもの　無敵のバトラーキング
地に落ちた英雄　粛清！
秘密兵器を奪え！　めざせ新天地
漂流　星空の海　海の男の心意気
昨日の友は今日の……　裏切りの代償
ラムサス急襲！　少年司祭
海流のなかの孤児たち　死霊のわらう船
信仰　炎の海　海底遺跡へ
魂の在処　天にとどく道
風の歌を聴け　侵入者！
父の遺産　ニサンの微笑み
マルーの祈り　バベルの輝きは
暗き海の底　天上の楽園
なつかしの我が家　孤独な狼
疑惑　脱出！
憎しみの炎　忌むべき者よ
明日なき逃走　大樹海に消えて
刻印を打ち破れ
星よ知る　我らが魂の器
天帝暗殺　神の楽園に帰る
失われし約束の地　死の要塞で待つ
哀しみのメルカバー　夢の形見は……
墜ちた星　覚醒　ゼノギアス！！
全ての始まりにして終わりなる者

It started in the village called Lahan Over the gorges
the momentary peace The things fallin' in the dark night
The evil attached Lahan Setting out to the ocean of trees
a girl in the green woods the silence in the woods
to the territory of Ave At a loss
in hottest sands a recluse of underground
Pirates' hideout The false king
chaotic battle tournament Reunion with Maroeur
Straight for Nisan the Madonna of Nisan
the desperate counterattack Evil in scarlet
Jailbirds in the Empire Kislev to be a hero of the battling
Creeper in the darkness the invincible battler king
break into gear-dock Purge!
Get the secret weapon! Head for a new land
Drifting for nowhere the spirit of the sailor
Reunion The cost of betraying
Ramsus' blitz the young priest
with the orphans in the stream the cruiser full of zombies
faith the ruins under the ocean
the girl in a coma the road to the sky
listen to the songs of the winds the intruder
the legacy of the father smile of Nisan
prayer of Maroeur the shine of the Babel
the depth paradise upon the sky
home,sweet,home lone wolf
suspicion the escape
the flame of hate disgusting
lost bonds shot down
tear off the marks
let the stars know... ...our vessels of souls
assassinate the emperor going back to the paradise of gods
the lost and promised land fortress of the death
the Melcover of sorrow memento of dreams
fallen stars stimulation of Xenogears
the one that is the first and the last

ha and Omega, the beginning and the end, the firs

アルパなり、オメガなり、最先（いやさき）なり、最後（いやはて）なり、始めなり

Prologue

北半球に位置する大陸イグニス。世界最大の広さを持つこの大陸では、
二大国家の争いが数百年にわたって続いていた。
大陸北部一帯をその領有とするキスレブ、
大陸南部の砂漠地帯を領有とするアヴェ。両国間の長きにわたる戦いは、
そのおおもとの火種すら人々に忘れさせ、いたずらに争いと悲劇を
反復させるだけであった。慢性的かつ惰性的な戦はやがて大きな変化を
むかえることとなった。太古文明人の遺跡から発掘される道具、兵器の類が、
この世界の文化の保存を司る『教会』によって改修されたからであった。
両国はこぞってこれら遺跡を発掘、『教会』に改修させ、おのが戦力としていった。
遺跡から発掘される兵器の数々は戦いのあり方を大きく変えた。
両国間の戦争の勝敗は人対人ではなく、ギア・アーサーと呼ばれる遺跡から
発掘される人型機動兵器同士の戦いによって決せられるようになった。
一進一退を繰り返していた両国間の戦況は、やがてキスレブの優位となった。
これは埋没する遺跡資源の量に大きな差があったことが最大の原因であった。
そんなおり、イグニスの地に突如謎の軍事組織が出現した。
組織の名はゲブラー。ゲブラーはアヴェとの接触をはかった。
軍事組織ゲブラーの助勢を得たアヴェは、劣勢に追い込まれていた戦局を
五分にまで回復させた。勢いに乗ったアヴェは、
キスレブの領有を次々と奪い、なおその侵攻の手をゆるめることはなかった。

キスレブとの国境線にほど近いアヴェ辺境ラハン地区。

すべては、ここから始まる。

フェイ　はあ……、はあ……、くそっ、こいつら……！！　てやぁっ！はぁ、はぁ、……やったか！？　い、一体なんなんだこいつらは？倒しても倒しても起き上がってきやがる！
シタン　フェイ！　やめるんです！ここで戦ってはいけません！
フェイ　ぐッ！　てめえら、しつこいんだよ！！　はぁはぁ……。くそっ！　なぜ……どうしてこんなことになっちまったんだ……

フェイ　ふ〜ッ！　だいたい、こんなとこかな……。よし……、それじゃちょっとひと休み、するか。

お伝いさん　おや、フェイ、今日も元気そうだね。けど、はやいものだねえ。あんたがこの村にきてから、かれこれ3年にもなるなんて……。血まみれでかつぎこまれてきたあんたを見た時は、正直いってもうダメだと思ったものだけど……。あの日あんたを運んできた、ヘンな仮面をつけた男って……、やっぱりあんたの父親だったのかねえ？　ぜんぜんおぼえてないのかい？　あんた、父さん、父さんってさんざうなされてたって話だよ。

●回想

村長リー　誰じゃ？　おぬしは、誰じゃ？……その男を、預かって欲しいと？

お伝いさん　それが今じゃ、こんな元気でたくましくなって……。みんな村長のリー様のおかげだよ。感謝しないといけないよ。絵が好きなのはいいんだけど、あまり部屋を散らかさないどくれ。そうじも、楽じゃないんだから。

ティモシー　おう、フェイ！　ジャマしてるぜ。明日のことで、ちょっと村長様と話があって、な。

フェイ　いよいよ明日だな、ティモシー。おまえとアルルの結婚式！

ティモシー　ああ……まあ、な。なんかまだ、実感わかないけどよ。

フェイ　なあ、ティモシー。おまえとアルルには、ほんと感謝してるんだ。3年前のあの日、この村で目をさました俺は、すべての記憶をなくしていた……。自分がだれなのか、それまでどこでなにをしてたのか……、なにひとつ思い出すことができなかった……。そんな俺をおまえとアルルははげまし、勇気づけてくれた。おまえたちがいてくれなかったら、俺はどうなってたことか……。ほんとにありがとう、ティモシー。アルルとふたりで、きっと幸せになってくれよな！！

ティモシー　ハッ！　よせやい。なにみずくさいこと言ってんだよ。おまえとは、ずっとガキの頃から友達だったみたいな気がするんだ。これからもよろしくな、相棒！

フェイ　ああ、こっちこそ。

ティモシー　そうだ、フェイ。アルルのとこへも行ってやってくれよ。俺はまだ、村長様やおやじたちと話があるし……。きっとよろこぶぜ、あいつ。

フェイ　わかった。それじゃ、また後でな。明日の式、楽しみにしてるよ。

村長リー　おお、フェイか。明日の結婚式のことで相談しておったとこ

ろじゃ。なあ、おまえさんもたまにはギャールフレンドのひとりやふたり、家に連れてきたらどうじゃ？　いそうろうだからって、なにも遠慮することはないんじゃぞ。わしの若い頃なんぞは、毎日のように……い……、いや。なんでもないわい。さあ、わしらは大切な話し合いがあるのじゃ。ジャマするでないぞ。

—— いた、いた！　ねえ、フェイ兄ちゃん！　ちょっと話があんだけどさ！

フェイ やあ、ダン！　今日も威勢がいいな！

ティモシー こらダン！　よそ様の家に入ってくるなり、なんだ、いきなり？

ダン げ、ティモシーもいたのか。ティモシーのアニキはほっといてくれよ。アルル姉ちゃんと結婚するまでは、オイラとはなんの関係もないんだからさ！　オイラの用があるのは、フェイ兄ちゃんなんだよ。ねー、フェイ兄ちゃん、後でちょっと、その、話があるんだけど……。

フェイ なんだよ、ダン。あらたまって、話って？

ダン だからさー、ここじゃちょっと……。おジャマなヤツとか、いるじゃん。すっげー大事な話なんだ。ゆっくり、じっくり、男同士、腹をかちわって、さ！　オイラ、外にいるから、後でまた。それじゃあばよ、ティモシーのアニキ！　明日まで達者で、な。

フェイ はあ……？　どうしたってんだ、あいつ？

ティモシー 明日には、あいつのアニキなんだぜ……。やれやれだよ、ハッ。

●内緒話

ダン フェイ兄ちゃん！　もう、いいのかい？　いよいよ明日なんだよなあ、アルル姉ちゃんの結婚式……。話ってのは、ほかでもない、姉ちゃんの結婚のことなんだけどさ……。なあ、フェイ兄ちゃん。オイラ、ほんと言うとさ……フェイ兄ちゃんがアニキになってくれるといいなって思ってたんだ。今からでも遅くないよ。姉ちゃんさらって、逃げちゃいなよ。なんなら、オイラも手をかすよ。アルル姉ちゃんは、オイラが言うのもなんだけど、美人だし、料理うまいし……（それに、ここだけの話なんだけどさ、すっげーボインボインなんだぜ！　ウシシ！）な、な、やろうってば！

フェイ よし、わかった！　それじゃ、いっちょうアルルをさらって逃げるとするか！

ダン ほんとに！？　やっぱり、フェイ兄ちゃんだ！　そうこなくっちゃ！……なーんてわけにも、行かないのかなあ、こればっかりは……。当人どうしの問題ってヤツだしさ……。それにやっぱり、愛がなくっちゃ！　けど、オイラ、ぜったい忘れないからさ！　オイラのことを思って、そこまで言ってくれたフェイ兄ちゃんのやさしさ。せめて、フェイ兄ちゃんも祈ってくれよな、アルル姉ちゃんの幸せ！

アルルの家

フェイ やあ、アルル。それが花嫁のドレスかい？
アルル フェイ！？　ああ……、ビックリした！　ええ、そう……。さっきできあがったとこなの。けっこう、手間取っちゃった。
フェイ へ〜、うまいもんだな。きっと、よく似合うよ、アルル……。おめでとう。
アルル ありがとう。………。フェイ、あの………
フェイ なあ、アルル………。どうした？
アルル ううん、べつに……。
フェイ そうか……。
アルル えっと……あ、そうそう。ねえ、フェイ。ダン、見かけなかった？
フェイ ああ、ヤツなら例によって、そこらをふっとびまわってたぜ。
アルル まったく、あいつったら！　あとで用事があるからって、あれほど言っておいたのに……。
フェイ なんだい、その用事ってのは？
アルル 山の上の先生のところから、明日の式で使うカメラやライトを借りてきて欲しいと思って……。
フェイ なんだ、そんなことなら俺が行ってきてやるよ。
アルル ほんと？　でも……。
フェイ かまわないさ、べつに。デリケートな機械をダンのヤツにまかせるのは、あんまりぞっとしないからな。それに、先生のとこに行けば、なにかしらユイさんの料理、食えるかもしれないし、さ。
アルル くすっ……。フェイったら。
フェイ よし！　それじゃ、行ってくるか。
アルル あ……、待って、フェイ！
フェイ うん……？　なんかまだ、先生に用事でもあるのか？
アルル ううん……。そうじゃないんだけど……。
フェイ ………？
アルル ねえ、フェイ……、こんな風に考えてみたこと、ある？　もし……、もしもよ、あなたがこの村で生まれて……もっと前にわたしたち、知り合っていたら……。
フェイ ………。
アルル ………。ううん、なんでもない。ゴメンなさい……。
フェイ ………。それじゃ、行ってくるよ。
アルル ええ……。山道は気をつけて。先生に、よろしくね。……。運命の糸か……。わたしったら……バカみたい……。

<山の上の先生の家へ>
フェイ あの橋を渡って北へ上って行けば先生の家だ。

シタンの家

ユイ　あら、いらっしゃい、フェイ。
フェイ　こんちわ、ユイさん。先生は……。
ユイ　うちの人なら、裏の方でガラクタいじってたみたいよ。
フェイ　またかい？　先生も好きだよなあ。オッケー、それじゃ裏を見てみるよ。やあ、ミドリ。外は、いい天気だよ。あとでまた、鳥たちにエサでもやろうな。
ミドリ　………。

フェイ　どこにいるんだ、先生？　な、なんだ、いったい？
――　あーっ、ダメだ、ダメだ、これじゃ！　どうしてこんな粗悪なパーツ、使うかなあ！？　こんなだから、連中の介入を……。

●シタン登場

フェイ　先生！！　そんなとこにいたのか。
シタン　やあ、フェイじゃないですか！　いらっしゃい。
フェイ　大丈夫かい、先生？　そんなとこで、なにやってるんだ。
シタン　ちょっとこのランドクラブを改造してやろうと思いましてね。なに、あのくらいの爆発じゃどうってことありませんよ。いつものことですからね、ハハハ……！　すこし待っててもらえますか？　もうちょっとで、ひと区切りつきますから。そうそう、物置のなかに面白い物がありますよ。よかったら、見てごらんなさい。
フェイ　わかったよ、先生。それじゃ、さっさと頼むよ。もたもたしてたら、日が暮れちまうからさ。

フェイ　先生の言ってた面白いのって、こいつか？　どれどれ、どうなってんだ。わっ！？　な、なんだこりゃ……？　この曲は……？　なんだかどこかで聞いたことがあるような気がするけど……。
シタン　どうです？　わるくないでしょう。
フェイ　先生……。

シタン　やあ、フェイ。すみませんね、待たせてしまって。音楽というのはふしぎなものですね……。時に人の思いもよらぬものまでよびさましてしまう。忘れかけていた、さまざまな想い、感情、もちえぬ記憶……。聞く者がそれを望もうと望むまいと、ね……。
フェイ　先生、これは……。
シタン　昔の遺跡から発掘されたものです。まだ修理してる最中ですが、一種の音響装置のようですね。この曲を聞いて時にはげまされ、時に泣いたりしていたのでしょう。遠い昔の人たちも、きっと……。
フェイ　………。

シタン ところで、今日はどうかしましたか。
フェイ ああ、そうだ。アルルに、カメラなんかを借りてきて欲しいって頼まれたんだ。
シタン そういえば明日でしたっけ、ティモシーとアルルの結婚式は……わかりました、用意しましょう。じきに夕食の支度もできると思いますよ。どうです、いっしょに。
フェイ ラッキー！　それじゃ、ごちそうになってこうかな。
シタン 私はまだ後かたづけがあるので、家でミドリの相手でもしてやっていてもらえませんか？
フェイ オッケー。べつに急がなくてもいいよ、先生。料理ができたら、先に食わせてもらってるからさ！
シタン ハハハ。どうぞ、遠慮なく。ただし、ユイの料理でお腹をこわしても、私は責任はとりませんよ。
フェイ ねえ、先生……この曲を聞いてると、ふしぎな感じがしてくるよ。なんだか、胸の奥の方がほっとあったかくなってくるような……。
シタン それはきっとあなたのなかで、この曲が好きだった、遠い昔のだれかが生きているからですよ……。
フェイ ………。

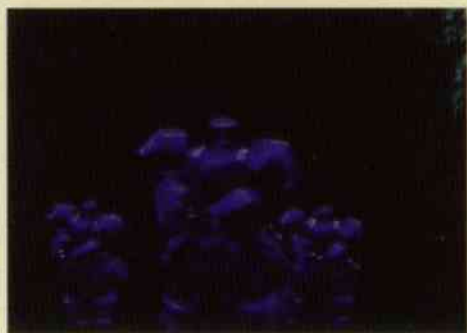
●砕け散るオルゴール

シタン もう明日か、ティモシーたちの結婚式は……。このまま何事もなく暮らして行ければ、それでよいのかも知れないな。人の子として……。さて、と。それじゃ、ジャイロの調整だけでもすませておきますか。むっ！　こ、これは……まさか……、予兆なのか？……始まると言うのか……。

フェイ ふーっ！　食った、食った！　やっぱりうまいや、ユイさんの料理は！　ユイさん、どうもごちそうさま！
ユイ どういたしまして。私の料理でよければ、いつでもどうぞ。
シタン 必要な機材は、明日の朝、私が責任をもって村まで届けますから、ご心配なく。デリケートな機材をあなたにまかせるには、正直かなりの勇気がいりますからね。
フェイ ………。どこかで聞いたセリフだな。まあ、いいや。それじゃ、また明日、先生。おやすみなさい、ユイさん、ミドリ。
ユイ おやすみなさい。明日の結婚式が楽しみね。
ミドリ ………。

フェイ それじゃ、おやすみなさい、先生。
シタン ええ、おやすみなさい。あ、フェイ！　くれぐれも気をつけて……。ああ、その……暗いですから、夜道は……。
フェイ どうしたんだ、先生？　なんでもないさ、このくらい！　それじゃ、また明日。

●暗闇を飛び去るギア

フェイ ！？　あれは……？　巨人……？

シタン　フェイ！！
フェイ　先生っ！　ラハン村の方へ飛行物体が！！
シタン　あなたも見ましたか。機影からして、隣国キスレブのギア集団ではないかと。
フェイ　あれが……ギア……。

シタン　！！　いけないっ、ラハン村の方ですよっ！
フェイ　さっきのかっ！？
シタン　急ぎましょう！
フェイ　ああっ！

●炎に包まれるラハン村

フェイ　く……！　ラハン村が……！？
シタン　アルル！？　ティモシー！！
アルル　先生！？　フェイ！！
ティモシー　先生！　チクショー、あいつら、いきなり降ってきて村を……！
シタン　ええ……。まさか、こんなところで戦闘を始めるとは……！！あなたたちは、大丈夫ですか？
アルル　はい！　でも、ダンが……、ダンが見当らないんです！！
ティモシー　俺、もう一度さがしてくるぜ！　アルルは先に村の外へ……
シタン　待ちなさい、ティモシー！！　あなたもアルルや他の人たちと安全な場所へ避難しなさい！

ティモシー　先生、だけどダンを、あいつを放っちゃ行けない！
アルル　ティモシー……。
シタン　気持ちはわかります。ですが、ここは私とフェイにまかせなさい！　今は自分たちの安全を第一に考えるんです。ティモシー、アルルを守ってあげてください。
ティモシー　………。しかし……
フェイ　先生の言うとおりだ。ひとまず、ふたりは村を出るんだ！ダンなら心配ないさ。あいつのことだ、きっととっくに逃げ出してるさ！

ティモシー　………。そうか……。よし！　アルル、ここは先生とフェイにまかせよう。
アルル　………。わかりました。お願いします、先生！　フェイ、ダンを……！
フェイ　ああ、心配するな。まだ村にいるようなら、かならず助け出すよ！
シタン　さあ、急いで、ふたりとも！！　フェイ、私は家の中に逃げ遅れた人がいないか、確認してきます。あなたは外をまわって、残った村人たちを安全な所へ誘導してあげて下さい！
フェイ　ムチャするなよ、先生！
シタン　あなたこそ！

フェイ　うわっ！！………。く……！？

シタン　むっ……、フェイ！？　待ちなさい、フェイ！！
フェイ　………。
シタン　いけない、フェイ！　ここで戦っては……！！
<対キスレブギア戦>
フェイ　新手か！？　右にも！？　チクショウ！　一体何機の……やるしか……ないのか……

シタン　フェイ……！！　あの戦い方は……。く……、マズイな。このまま彼が、目醒めてしまうようなことがあれば……。

ダン　先生っ！
シタン　ダン！？　大丈夫ですか！？　いったい何をしてるのです、こんなところで！？　アルルやティモシーがどれほど心配してるか！

ダン　ゴメンよ、先生。一度は、外へ逃げたんだよ。でも、オイラ、どうしても姉ちゃんのウェディングドレスのことが気になっちゃって……。

シタン　それで取りに戻って来たというわけですか……。フッ……、まったくあなたという人は……。さあそれじゃ、フェイが連中を引きつけてくれてるうちに安全なところへ避難しましょう！　どうやら連中の狙いは、フェイの乗っている、あのギアのようですから……。

ダン　あの化け物のなかに……、フェイ兄ちゃんが！
シタン　縛られているのですよ、フェイは……。暗く、残酷な、神の

夢に……。

ダン　………。フェイ兄ちゃん……？

シタン　さあ、ダン！　早くここから離れましょう。

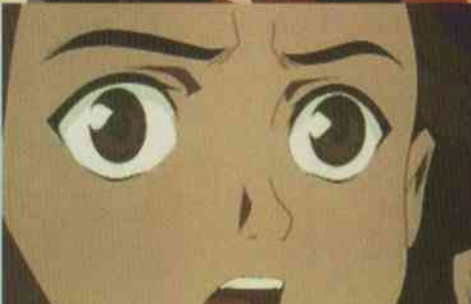
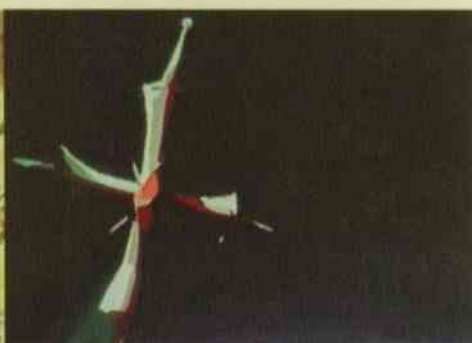
ティモシー　ダン！！　よかったぜ、無事だったか！やっぱり、まだ村に残ってたんだな。はッ……！？

●ティモシーを狙うキスレブギア

シタン　しまった……！　ティモシー！！

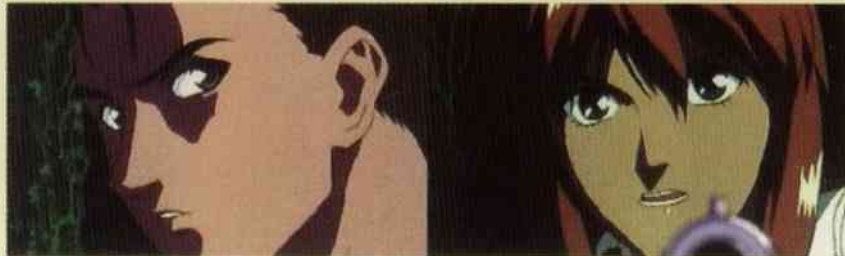
ティモシー　う……！

フェイ　待てっ！！　撃つなっ！！　やめろっ！！　村の者には、なんの関係もないはずだ！

フェイ　ティモシー！　この野郎っ！　そこをどけっ！　やめろーっ！やめてくれーーーっ！

フェイ　う、うん……？　はッ…！　俺は……！？　先生！！
シタン　ああ、気がつきましたか、フェイ……。
フェイ　先生……、いったい何が……？　リー爺さんやティモシー、アルルは……？　俺は……？
シタン　ええ……、それは……。
ダン　人殺しッ！！
シタン　ダン！
フェイ　……！？　ダン、いったい何を……。
ダン　フェイ兄ちゃ……おまえ…、おまえがあんな化け物に乗るから…アルル姉ちゃんやティモシーや……、村のみんなは……！！おまえがその化け物で、みんなを殺したんだ……！！
フェイ　………！？
——　なんで、村のなかで戦ったりしたんだ……。
——　あんな怪物みたいなもの、どうして動かせるの……？
——　母さんは……？　母さんは、どこ……？
——　だから、言ったじゃないか……素性のわからない者を村に入れるのは反対だと……。
——　うう……痛い……、痛いよぉ……。
フェイ　ダン……！！　み、みんな……、俺は……！
ダン　人殺しッ！！　姉ちゃんを……アルル姉ちゃんを返せッ！！
シタン　ダン……、フェイひとりを責めてもどうなるものでもありませんよ。それにギアのシステム暴走では、フェイにはどうしようもなかったのです。
ダン　わ……、わかってらい、そんなこと！　でも……、でも……！！バカヤロー！！　うわあああ……
フェイ　ダン……！？
シタン　いまはそっとしておいてあげましょう。自分の哀しみ、怒りをどう扱えばよいのかわからないのですよ……。
フェイ　………。
シタン　それはそうと……あなたはここを離れた方が良さそうですよ、フェイ。昨夜の連中の後続部隊が来ないとも限らないし……。きっと連中は、何が起こったのか知りたがるでしょう。あなたがここに残っていたら、あまり愉快とは言えない事態が引き起こされると思いますよ。双方にとって、ね。
フェイ　そうだな……。俺が一緒にいたら、またみんなに迷惑がかかるかも知れない……。でも……、俺はいったいどうすればいいんだ……？
シタン　そうですね……、黒月の森をぬけて、アヴェに出てはどうですか？　昨夜の連中は、アヴェの手の者ではなかったようです。アヴェ側に入ってしまえば、連中もうかつには追っては行けないでしょう。
フェイ　そうか……。わかったよ、先生……。それじゃ……、あとのことはよろしく頼みます。
シタン　ええ……。気をつけて。

●耳に残るダンの声

おまえがその化け物で、みんなを殺したんだ……！！
人殺しッ！！　姉ちゃんを……アルル姉ちゃんを返せッ！！
フェイ　くッ……！！

・ラン・アハス！　　・ガルティ　ナイユ　タット　ヴァ　ダイーアトゥナ　アクヴァ！

・ヴァル　ナ　ラン　ダク　ラナルカティ！
・武器を捨てなさい。おかしなマネをしたら撃つわよ！

―――　う、後を向いて！
フェイ　……………………
―――　後を向きなさいっ！
フェイ　……震えているのか？
―――　黙って！……追撃してきたキスレブ兵ではないようね。……でも……動かないで！　任務中に接触した地上人<ラムズ>は誰であれ消去せよと命令されているのよ。悪く思わないでね。……一つだけ尋ねるわ。この樹海の出口はどこ？
フェイ　あんた……迷ったのか？
―――　質問だけに答えて！　どうすればこの森から出られるの？
フェイ　悪いな。俺も出口を探してる口なんだ。
―――　そう……
フェイ　いつまでそうしている？　俺を撃つんじゃなかったのか？撃つのなら早くしてくれ。
―――　お、おかしなことを言うわね。あなた、自分の置かれている立場がわかっているの？
フェイ　立場なんてどうでもいいんだ。どうせ俺は生きている価値の無い男だから……
―――　こ、来ないでっ！
フェイ　どこを撃っている？　ここだ、ここを撃ってくれ。さあ……
―――　ば、馬鹿にしてっ！　あなた変よ！　どうかしている！　少しは抵抗なさいよっ！　な、何？　こいつ！？
フェイ　やめろーっ！　“エリィ”に手を出すなーっ！
<対フォレストエルフ戦>
フェイ　おい！　しっかりしろ！

フェイ　気がついたみたいだな。なかなか起きないから心配したよ。どうだい、具合は？　まだ俺を殺すつもりか？　だったら好きにしてくれ。ただ、この森ではよした方がいい。森の獣は大きい音に敏感なんだ。

――　…………

フェイ　まあ、いいや。話したくないならしなくてもいいよ。ただケガの手当の礼くらい言ってもバチはあたらないと思うぜ？

――　！　あ……ありがと……で、でも、だからって私に恩をきせようとしたってだめよ。もちろん命ごいにも応じられない。その手にはのらないんだから……。

フェイ　何をそんなに恐がっているんだ？

――　べ、別に恐がってなんかいないわ。警戒してるだけよ。怪しい地上人<ラムズ>に会ったんだもの当然じゃない。

フェイ　何もしやしないよ。それに俺よりも、あんたの方がよっぽど怪しい格好だ。

――　なっ……

フェイ　あんた名前は？

――　ラ……地上人<ラムズ>に名乗る名前は持ち合わせていないわ。

フェイ　何だ、そのラムズって？　俺達はどちらも樹海で迷ってるんだ。ここにはやばいモンスターも多い。樹海を抜けるまではお互いに協力した方がずっと安全だ。違うかい？

――　……

フェイ　よし。で、あんた名前は？　これから二人で協力していこうっていうんだ……お互い名前も知らないんじゃやりにくいだろ。俺の名前はフェイだ。

――　エ……、エレハイム。両親はエリィって呼ぶわ。

フェイ　ああ、そうか。そうだったよな、"確か"。

――　？？

●フェイの回想

・ねえ待ってー！　ボクをおいてかないでー、待ってよーぉ

・ひとりじゃさみしいものね

・……ェイ　フェイ　フェイ……ッ！

フェイ　とにかく、夜やたらと動き回るのは危険だ。明日、陽が昇ってから出口を探そう。それでいいか？
エリィ　それしかないようね。いいわ、それで。
フェイ　よし、エリィ。まずは腹ごしらえだ。
エリィ　フェイ？……起きた？
エリィ　ねぇ……昨日言ってたでしょ？　俺は生きている価値がないって。あれってどういうこと？
フェイ　なぜそんな事を聞くんだ？
エリィ　え？　だって、あの時のあなたってまるで自殺志願者のような顔をしてたもの。気になるでしょ？　そんなこと言われたら。どうしてこの樹海の中をさまようことになったの？
フェイ　そういうエリィは何故ここに？
エリィ　えっ？　わ、私は……
フェイ　俺は…逃げて来た。村から…逃げて来たんだ……。
エリィ　村？　村って……まさか……
フェイ　この樹海と山頂との間にあるラハンって村さ。そこから逃げて来たんだ。
エリィ　あの村に……！？
フェイ　のどかな、いい村だった。村のみんなは、よそ者の俺にも家族同然に接してくれた。それがあの夜、何機ものギアが突然降りてきて戦闘を始めたんだ。村は火の海になってしまった。俺は村のみんなを救おうとして、放置されてたギアに乗った。動かし方も知らないのにな。ただそうすればなんとかなると思った……いや……そうしろと誰かがささやいたんだ。そうしろって……。けど、結局なんともならなかった。村は……

エリィ　キスレブ軍に壊滅させられた？　フェイ……？
フェイ　……そうじゃない。村を壊滅させたのは……俺さ……。そう。俺がこの手で破壊したんだ。きっと……
エリィ　……破壊したって、どういうこと？　村の人達を助けようとしたんじゃなかったの？
フェイ　助けようとはしたさ。実際、村を襲ってたギアの何機かは倒せたんだ。でも、すぐに新手のギアから激しい銃撃を受けて……そして友達が……、ティモシーが流れ弾にやられたんだ……。俺は目の前が真っ白になって……それから後のことはよく覚えていない。機体が暴走した……って先生は言ってた。気がついた時には村も村人も……。アルル……。いい奴だったんだ、アルルもティモシーも……みんな……
エリィ　機体の暴走って…ギアの？　それで村が？　フェイ？
フェイ　……そうだ、ギアだ！　最初に現れたあのギアさえ村に降りなければこんなことには……！

●エリィの回想

――――　……クソッ、まだ追って来やがる。アヴェ領内に入ったのにあきらめねえ。…よっぽどこのギアが大事……チッ、このままじゃ不利だ。……ヴァンホーテン！……どうした、応答しろ！エリィ
――――　ひ、被弾……右上背部に被弾。スラスター出力減少。高度、維持できません。
――――　……クソッ、全機降下だ。地上で展開。応戦するぞ！

フェイ　奴等が村に来なければ、戦闘を始めなければ、俺はギアに乗ることもなかった。村のみんなを巻き込むことだってなかったんだ。そうだ、全て奴等のせいだ。俺は悪くない。悪いのは奴等だ。奴等さえやってこなけりゃこんなことには…奴等さえっ！　奴等さえっ！　奴等さえっ！！　奴等さえっ！！！

エリィ　いい加減にしてっ！　あなた卑怯よ！

フェイ　卑怯？　俺が？

エリィ　だってそうでしょ？　さっきから聞いていれば奴等、奴等って。あなた自分には何の責任も無いって言い方してるじゃない！

フェイ　俺に責任なんて……

エリィ　あるわ！　確かに村での戦闘の直接の原因はその…ギアが不時着したことかもしれない。でもキスレブの目標はあくまでそのギアでしょ？　村を侵略しに来たって訳じゃないわ。それをあなたがギアに乗って応戦なんてするから被害が拡がったんじゃないの！？

フェイ　…………

エリィ　だいたい、どうして乗れもしないギアに乗ろうなんてしたのよ？　あれは誰もが扱える機械じゃないのよ！　訓練も受けていない民間人が乗ってちゃんと動かせる訳無いじゃない！　それに、もっと他に……村の人を避難させるとか、何かやることがあったはずでしょ？　なのに自分で敵をあおっておいてそのあげく、出た被害は全て不時着したギアのせい？　どうしてその責任を自分で背負おうとしないの？　どうして他人になすりつけようとするのよ？　そんなのただの逃げじゃない！　あなたは卑怯だわっ！

フェイ　ああ、そうかもな……そうさ……、俺は卑怯者なんだよ。そんなことは最初からわかってるさ。自分の力量も知らないで、結果を他人のせいにして泣き言を言ってるだけの情けない男さ……だけど……あの時、なぜだか無性に血が騒いでどうしようもなかったんだ！　自分でも他にどうしようも……

エリィ　フェイ、わ、私……

フェイ　うるさい！！　お前に何が解る！？　気がつけば周りはガレキの山、何が起こったか、自分が何をしたかなんて全く憶えちゃいない。なのにこの手にだけはハッキリと感触として残っているんだ。悲鳴が、血の臭いが、骨の砕ける音が、俺を呪う声が、ギアの分厚い隔壁さえ貫いて伝わって……見ろ！　この手を！　お前にこの感触がわかるってのか！？　声が聞こえるってのか！？　自分の手で村を破壊した俺の気持ちが……遺された子供達を前にして何もしてやれなかった俺の気持ちが……俺にはもう帰るとこさえ…誰も…乗りたくて乗ったんじゃない……仕方なかったんだ…あの時は仕方なかったんだよ……

エリィ　私……なんで、あんな事を……。

●エリィの回想

・あなたは自分には何の責任もないって言い方してるじゃない！

・違う！　私、何もやってない！

・あなたがギアに乗って応戦なんかするから被害が拡がったんじゃないの？

・私じゃないの！　知らないの！！

・あれは誰もが扱える機械じゃないのよ！

・私がやったんじゃない

・どうして責任を自分で負おうとしないの？

・私……そんな力なんてない……

・どうして他人になすりつけようとするの？

・そんな……特別の能力なんてありません…

・卑怯だわっ！

・そうさ！　俺は卑怯者なんだよ！

エリィ　そうね……卑怯者……よね。！？　キャー！！

フェイ　まさか！？　エリィ！！　エリィ、大丈夫かっ！？　くそっ、気を失っている！

シタン　フェイ～！！　フェイ！　探しましたよ。さあ、これを使ってください！

フェイ　な！？　ちょっと待ってくれ！　これをって言われても…エリィ…くそっ！　先生！　頼みがある！　この化けモンは俺が必ず倒す。だけど、もし前のように途中で暴走しそうになった時は、俺ごと撃ってくれっ！

シタン　フェイ……そうならない事を祈ってますよ！
　<対地竜ランカー戦>

シタン　フェイ？　大丈夫ですか？

フェイ　ああ……なんとかね。

シタン　あのランカー相手に見事なものだ。あいつはね、並のギアでは倒せない程の怪物なんですよ。さすがに普段から身体を鍛えていると……

フェイ　先生。なんでこいつを運んできたんだ？

シタン　こいつって……ヴェルトールのことですか？

フェイ　……ヴェルトール？　こいつは……村を破壊した元凶のギアじゃないか。なんだってそんなものをわざわざ？　俺は、ギアなんてもう二度と見たくなかったのに……

シタン　気持ちはわかります。ですが、身を守り、生き抜く為にはある程度の自衛の力がなくては。我々のように追われる立場の者はなおさらね。

フェイ　身を守るためにある程度の力が必要だってのは俺も解ってるよ。確かにこいつがなかったら、俺もエリィも、今頃はランカーの腹ん中だったろうしな。だけどこいつの力は、ある程度なんてものじゃないだろ？　全てを破壊してしまうような力が本当に必要なのか？

シタン　…………

フェイ　俺はそんな力、要らないよ。やっぱり……ギアは好きじゃない。

シタン　フェイ。力に使われるも、力を使うも、それは人間の側の心の問題……人が誤った使い方さえしなければ、それは良き力となり、我々を助けてくれるものと私は信じてます。それにあなたならきっと大丈夫ですよ。現にその方を助けられたではないですか。違いますか？

フェイ　俺だってそう思いたいさ。思いたいけど、思えない何かがあるんだよ。こいつには……まあいい。とにかく今はエリィが無事だっただけで十分だ。

シタン　気がついたようですね？

エリィ　私……

シタン　私はシタン。フェイの友人です。いやぁ、危ないところでしたね。彼が助けに入らなければ、あなた今頃どうなっていたか。もっとも生身でランカーに挑みかかるような彼の無鉄砲さはいただけませんがね。

エリィ　生身で？

シタン　まぁ、おかげで万が一の時の為にと持ってきた物が無駄にならずに済みましたけど……

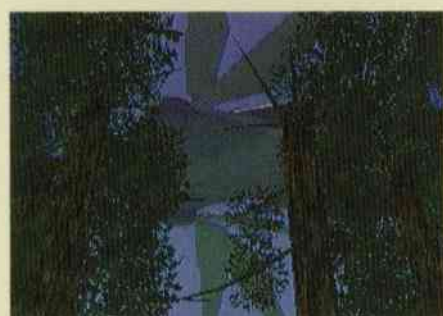
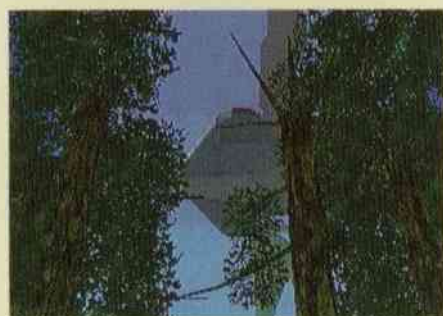
エリィ　！！

シタン　キスレブ軍が落としていった物を拝借したんですよ。
エリィ　……そう。ありがとう、フェイ。これで二度目ね。
フェイ　いいよ、礼は。その代わり一つ貸しにしとくぜ。な？
シタン　辺りも暗くなってきましたね。今日のところはここで野営にして明日の朝出発することにしませんか？　ふたりとも疲れているようだしこいつも修理が必要なようですしね。

シタン　ダメだな。膝のアクチュエーターとバイパス回路が、完全にイカれてしまっている。アクチュエーターはともかく回路の方は交換パーツがないと……。おや？　寝付けませんか？
エリィ　あ……
シタン　無理もない。昼間あんな事があったばかりですからね。村が襲われた時、フェイが乗った機体です。そういえば一機だけ、村の外れに放置されていた機体がありましたね……ニル　バイア　ダース　レグス？（あれはあなたのものですか？）
エリィ　！
シタン　やはりそうでしたか。ラハンへ不時着したギア、姿を消したパイロット、それらと時を同じくして樹海をさまよう謎の少女……。これらの関連性が無いはずがない。加えてその格好、どう見たって軍属のものですよ……違いますか？
エリィ　どうして？　あなたは一体……
シタン　ラハンの戦闘の犠牲になった兵士達のIDタグを見たんですが……そこにあったデザインが、貴方の服についているものと同じだったんですよ。手厚く葬っておきましたから心配いりません。もっともここは異国の地だから彼等としては不服でしょうけど。
エリィ　そう……ですか。
シタン　フェイは貴方のことは？
エリィ　多分、気付いていないと思います。
シタン　でしょうね。フェイはラハン以外の世界を知りませんからね。
エリィ　あの……
シタン　……ま、いいでしょう。お互い深い詮索は無しということにしておきましょうか。
エリィ　でも……
シタン　私は、ただ他の方々より少しばかり世間に詳しいだけですよ。ところで、エリィ。折り入って貴方にお願いがあるのですが……
エリィ　……何か？
シタン　この先を真っ直ぐ抜ければ街道に出ます。このまま……フェイが眠っている間に我々の元を去って頂けませんか？　フェイの周りで何やら良からぬ事が起こりつつあるような気がするのです。出来ることなら守ってやりたい……不毛な争いに巻き込まれて欲しくないのですよ、彼には。それにこれは貴方の為にも言っているんです。エリィ、貴方はこんな所にいるべき人ではない。国の御家族のもとへお帰りなさい。
エリィ　あの……、私……
シタン　心配しなくても、フェイにあなたの正体を明かすような事はしませんよ。適当に……家族が迎えに来たとでも言っておきますから。

エリィ　違うんです！　私、フェイにひどい事を……だから、彼に…その……ごめんなさいと……伝えてほしいんです。
シタン　ひどい事？
エリィ　フェイから聞いたんです。私達が来たことが原因で村が壊滅したって。フェイは、奴等さえ来なければ……と。それで私、自分が責任の重圧から逃れたいばっかりにフェイに卑怯だって言ってしまったんです。私があの村に不時着さえしなければ村は平和なままでいられたはずです。無関係の人達を巻き込むこともなかった。なのに私……
シタン　珍しい方ですね、貴方は。あそこの人間はそういったものの考え方はしなかったはずです。彼等にとって地上の人間は家畜同様……
エリィ　『牧羊者＜アバル＞は地上人＜ラムズ＞を管理統制し、その生殺与奪の権利も持つ……』
シタン　そう、それだ。なのに貴方はフェイやラハン村の人々に対して責任を感じている。なぜです？
エリィ　自分でもわかりません。私はユーゲントで、地上人は愚かで野卑なものと教わりました。だから我々が管理する必要があると。……でも……
シタン　実際にフェイと出会って感じたものはそれとは違っていた？
エリィ　ええ。私達となんら変わらない……むしろ、たくましくさえ感じました。私達が持っていない何かを持っているような…それに、私なんかの為に二度も身を挺して戦ってくれた。
シタン　あそこの人間は普通、そういった行為を受けることをも恥とするはず。しかし貴方はフェイに感謝している。
エリィ　多分、父の影響もあると思います。父は地上人に寛容でしたから。私の乳母は……地上人なんです。外には隠していましたけど。それに……私にもフェイと同じ……
シタン　同じ？
エリィ　い、いえ。なんでもないんです……。
シタン　なるほど。なんとなく理解出来ました……あ、すみません。先程詮索しないと言ったばかりなのに。うーん、これは性分だな。妻にも良く言われるんですよ、しつこいって。それとあなたは口数が多いとも言われます。自分ではそんなに多いとは思わないんですけどね。しかし、そういうことならなおさら国に帰った方がいい。やはりここはあなたのいるべきところじゃない。
エリィ　本営には戻ります。でも、その後のことまでは……
シタン　悩んでいると……
エリィ　ええ……。
シタン　悩むのは当然です。"私も以前はそうでした"。
エリィ　シタンさん……。
シタン　フェイには上手く伝えておきます。さぁ、お行きなさい。

●翌朝

フェイ　エリィは行ったのかい？
シタン　気付いていたんですか？
フェイ　途中からだけどね。聞いていたんだ、二人の話。
シタン　……………
フェイ　エリィは……やっぱり、そうなのか？

シタン　フェイ、彼女は……

フェイ　わかっているよ。エリィには何の責任も無い。村があんなことになったのは俺の責任だ。それを……俺は自分の感情をぶちまけて……エリィを追い込んでしまってたんだな。謝るのは俺の方さ。

シタン　フェイ、自分を責めてはいけない。貴方にだって責任はないのですよ。村を守ろうとしていたのですから。

フェイ　ありがとう先生。ところで……村のみんなは？

シタン　彼等のことなら妻に任せてあるので何の心配もいりません。それに妻には早々に村を離れ、ある場所へ行くようにも言ってあります。そこならば当分安全に暮らせるはずです。今は自分のことだけ考えましょう。

フェイ　ああ。

シタン　さて、これからどうしますか？　とりあえず森を出て砂漠の町ダジルにでも行ってみましょうか。アヴェやキスレブの動きが何かしらつかめるかもしれませんし、故障したヴェルトールのパーツも調達しなくてはね。それにあの騒ぎではアヴェ本国もいずれは黙っていないでしょう。

●空中戦艦目撃

フェイ　あれは……？

シタン　あれは……どうやらアヴェの空中戦艦のようですね。

フェイ　空中戦艦？　アヴェにそんなものがあるなんて聞いたことないぞ。

シタン　もちろんそんな代物はアヴェにはありませんよ。おそらくアヴェに駐留するゲブラーのものでしょう。

フェイ　ゲブラー？

シタン　神聖ソラリス帝室特設外務庁……通称ゲブラー。フェイも聞いたことぐらいはあるでしょう？　アヴェの軍政に対して大規模な軍事援助をした組織のことを。それがゲブラーです。彼等がイグニスに現れたのはほんの数カ月前。キスレブ帝国によって劣勢に追いこまれていたアヴェは彼等の助力を得て戦況を五分にまで回復させた。そして現在着々とその領有を拡げ、そこに埋没している遺跡資源を獲得しているんです。

フェイ　爺さん達が話しているのを聞いたことはあるけど……！　もしかしてエリィは！？

シタン　多分そうでしょう。彼等は卓絶した科学力と軍事力を持った組織。うわさでは彼等も遺跡資源を獲得する為に世界規模で活動しているということです。それにしても、まさかあれほどの船を投入してくるとは……。これは国境付近の小競り合いだけでは済まされなくなってきたな。

フェイ　じゃあ、あれはキスレブとの戦闘？

シタン　ええ、アヴェ領の北端で新たな遺跡が見つかったんです。約五百年前に建てられた神殿らしき建造物の下にね。ところが三週間程前にキスレブにその遺跡を制圧されてしまった。おそらくはそれをめぐっての争奪戦でしょう。

ダジル

フェイ ここが……、ダジルの街……。
シタン ええ、そうですよ。ここが砂漠の街、ダジルです。
フェイ 活気にあふれた街だな。
シタン ここは、アヴェにおける遺跡発掘の拠点ですからね。遺跡に眠る資源を求めて、各地から多くの人々が集まって来ているのですよ。この街ならば、アヴェやキスレブの動向もつかめるでしょう。それに、ヴェルトールの修理もしなくてはいけませんからね。
フェイ ヴェルトールの修理……。
シタン ええ。壊れたパーツを交換してあげないと、ヴェルトールは動けませんからね。確か、街の南端に『教会』の工房があったはずです。行ってみましょう、フェイ。
フェイ そうだな。行こう、先生。

工房

フェイ へぇ～これが『教会』の工房なのかい、先生？
シタン ええ、そうです。ギアの修理を行える唯一の場所、それが、『教会』の工房です。さあ、フェイ。ヴェルトールを修理するのに必要な部品を頼みましょう。時は金なり、と昔から言いますでしょう？　やらなくてはならないことは、早めに済ませてしまいましょう。
—— ん？　何かご用ですか？
シタン お忙しいところを申し訳ありません。我々のギアが故障してしまいまして。修理したいので、パーツを売っていただきたいのですが。
—— なるほど、それはお困りでしょう。パーツの型番を教えていただけますか？
シタン X-29型インジェクションのバイパス回路に使う部品を探しているのですが……。
—— X-29型のインジェクション？　そんな、最新型の軍用ギアにしか採用されていないパーツの保守部品はこの工房には置いてませんね。そういった特殊なパーツは、イグニスの『教会』管区本部に発注しないと手に入らないですよ。この工房は、民生用のギアを補修するための施設ですから……
シタン そうですか。お忙しいところを申し訳ありませんでした。
—— お役に立てなくて、申し訳ない。

フェイ　……先生、話があるんだけど、いいかい？
シタン　ええ。私はかまいませんが。

●橋の上

シタン　フェイ、それで話とはなんでしょうか？
フェイ　……。なあ、先生。ヴェルトールのことなんだけど……パーツも見つからないことだし、あれ、直さなくてもいいんじゃないかなぁ。
シタン　修理しない？　それはまた、どうしてですか。
フェイ　あのさ、とりあえずダジルまでは来れたわけだろ？　もう、ヴェルトールは必要ないよ。俺、考えたんだけどさ、あの事件のほとぼりが冷めたら、ラハン村に戻って村の再建を手伝いたいんだ。今の俺が出来ることってそれくらいだから……。
シタン　……そうですね。フェイがそうしたいのならそれもいいでしょう。しかし、ヴェルトールはあの場所から移しておいた方がいいと思いますよ。
フェイ　あいつを動かす？　なぜだい、先生。
シタン　これは、私の推測でしかないのですが……。あの晩の事件は、ゲブラーの特殊部隊がキスレブ軍のギアを奪ったことが原因なのではないでしょうか。
フェイ　特殊部隊……エリィたちのことか！
シタン　そうです。村で破壊された機体を調べてみてわかったのですが、ゲブラー兵の乗っていたギアはキスレブ製のものでした。それも、キスレブ軍の追撃部隊が乗っていたものよりも新しい技術を盛り込んだ機体だったのです。
フェイ　新しい技術？
シタン　私が思うに、ゲブラー軍特殊部隊の任務は、新型試作機の強奪。特殊部隊の任務失敗はすでに王都にも伝わっていることでしょう。そして彼らは、キスレブの新型ギアの一部だけでも回収しようと、ラハン村方面へ調査隊を派遣するはずです。
フェイ　待ってくれ、先生！　村にはまだ、キスレブ軍がいるかもしれないじゃないか！
シタン　そうです。そして、アヴェの調査隊とキスレブの追撃隊との間で小競り合いが起こるでしょう。そして、彼らの求める新型機、ヴェルトールが原形をとどめた形で放置されているのが見つかれば……
フェイ　ヴェルトールをめぐって、両軍が激突することになる。それもラハン村の近くで。
シタン　そういった事態を避けるためにも早くヴェルトールをどこかに移動させた方がいいと思いますよ。
フェイ　でも、動かそうにも、直せないんじゃ……
シタン　確かにそうですが、ここでたそがれていても何の解決にもなりませんよ。幸い、ここは遺跡発掘の拠点です。何か情報があるかもしれません。案ずるより生むがやすし、です。

シタン　これは、サンドバギーですね。……そうだ、フェイ。ヴェルトールの部品を手に入れる、いい方法を思い付きましたよ。まずは、このバギーを貸してくれる人を見つけましょう。
フェイ　サンドバギー？
シタン　サンドバギーとは、砂漠走行用の特殊車両の事です。砂にタイヤをとられることなく走ることが出来るので、砂漠で遠出をする時には欠かせないものなんですよ。
フェイ　で、先生。そのサンドバギーとやらで何をするつもりなんだい？
シタン　まあ、私に任せておいて下さい。

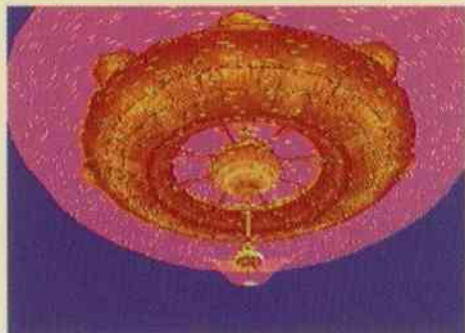
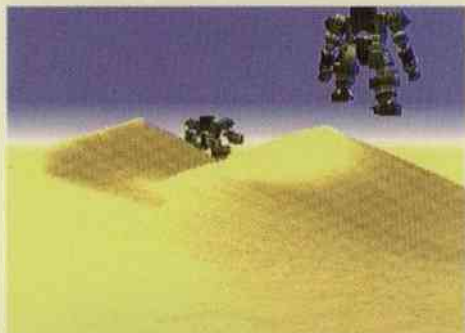
レンタルショップ

――――　ん？　新顔さんだね。あなたたちも、サンドバギーを借りに来たのかい？
シタン　ええ、そのつもりです。お借りできますか？
店主　もちろんだよ。キーは差したままだから、すぐに使えるよ。
シタン　では、使わせていただきます。フェイ、私はこれから砂漠へ行って、あのギアに使えるパーツを探してきます。
フェイ　砂漠に行く？　先生、遺跡でも発掘するのかい？
シタン　今、砂漠ではアヴェ軍とキスレブ軍がにらみあっています。そして、遺跡をめぐって両軍の間でしばしば戦闘も発生している、そういうウワサです。
フェイ　それとあのギアに何の関係があるんだい？
シタン　戦闘エリアに転がっている軍事用ギアのスクラップを探せば、探している部品も見つかるでしょう（それに、ヴェルトールはキスレブ軍が作ったギアです。きっと、キスレブ製のギアから必要な部品を回収できますよ。
フェイ　でも……
シタン　フェイは心配性ですね。成さねばならぬ、何事も。そんなに心配しなくても大丈夫です。じゃあ、フェイは私が帰るまで、酒場ででも時間をつぶしていてください。
フェイ　先生……
店主　あんた、あの人を一人で行かせてしまっていいのかい？　砂漠での紛争がおさまりつつある、といっても、危険な場所であることに変わりないよ。それに、潜砂艦に乗った海賊が砂漠を旅する人を襲っている、というウワサもあるしね。そんな場所に、ひとりで行かせるべきじゃないと思うけど。

●シタンの後を追い、砂漠へ

砂漠

フェイ　な、何だ！？　あれはアヴェのギアか？……先生が心配だな……取りあえず、あのギアを追ってみるか。

フェイ　先生、どこまで行っちまったんだ？　あのギアも見失ったし……

フェイ　何だ？　！！　な、何だありゃ……

フェイ　別部隊？　さっきの円盤の行った方へ向かってるのか？　見失わないように追いかけないと……。

フェイ　どこまで続くんだ？　この砂漠。急がないと夜になってしまう……

フェイ　いったい何が起こってるんだ？　さっきの空飛ぶ円盤といい……先生……大丈夫なのか？　……ええい！

――――　うわーーーっ！！
フェイ　悪いな！　ちょっと借りてくぜ！
――――　ま、待てぇー。
フェイ　な、何なんだよ、お前ら。た、たかだかバイク一台盗んだぐらいでおおげさな……
フェイ　あ……！
シタン　探しましたよ、フェイ。
フェイ　先生！　大丈夫だったのか？
シタン　ええ、何とか……！　どうやら、ゆっくり話している暇は無さそうですよ。フェイ、早く！

フェイ　いや、でも……
シタン　フェイ、私ではヴェルトールの性能を十分に発揮できません、早く！
フェイ　……わかった。
<対トルーパー戦>

フェイ　何とか……倒せたのか？
――――　ふはははははは
フェイ　な、何だ？

黒衣の男　戦いを欲する血、やはり抗えぬようだな。

フェイ　お前は……ラハンの！
シタン　やはり……
黒衣の男　我はグラーフ。力の求道者。フェイよ。お前の力、ラハンでとくと見せてもらった。
フェイ　俺の力？　一体何のことだ！
グラーフ　我の目的遂行にはより強大な力が必要なのだ。その力を目醒めさせる引き金として、我はかの地にそのギアを送り込んだ。お前と接触させる為にな。
フェイ　引き金だと！？　じゃあ、あれはお前が仕組んだ事だったのか！？
グラーフ　そう。近しい者の死。それに対する無力な己。そこから生まれる哀しみ、心の叫び、それこそが力の引き金なのだ。
フェイ　その為に……俺をギアに乗せる為だけに村を襲ったというのか！？　何故だ！　村のみんなを犠牲にしてまで……

・誰だっ！　・誰？　・……そうだ…オレはお前をよく知っている……　・お前は殺した……あの人を……

・……あの人？　・いや、殺したのは……

・違う……ボクじゃない……　・ボクは……　・……臆病者　・お前だよ

グラーフ　知らぬな。己が課せられた天命を全うせず、ただ日々暮らすばかりの下民外道がいくら死んだとて我は何も感じぬわ。それに忘れたか？　村を滅ぼしたのはお前自身ではないか。我は何ら手を下してはおらぬわ。

フェイ　違うっ！！　俺は村を、みんなを救おうと思っただけだ！滅ぼそうなんてこれっぽっちも思っていないっ！！

グラーフ　果たしてそうかな？　お前は聞いているはずだ。自身の本質、破壊を欲する欲動の声をな。

フェイ　うるさいっ！　たとえそうだとしても、その原因を作ったのはお前じゃないか！　お前さえ来なければ、村はあんな事にはならなかったんだ！！

グラーフ　ふん。今度は転嫁か。成る程、いかにも“お前らしい”台詞だな。それもよかろう。どのみちお前の本質は変わらんのだ。

フェイ　くっ……俺の力が必要だと言ったな？　力を得てどうするつもりだ！

グラーフ　知れたこと。母なる神を……滅ぼすのだ。

フェイ　か、神を滅ぼす？

グラーフ　そうだ神を滅するのだ。それが我等が目的。我等が天命。

フェイ　ふざけるな！　俺はそんなもんに手を貸す気はさらさらない！　神だか何だか知らないが、そんなに滅ぼしたきゃお前一人で殺ればいいっ！！

グラーフ　ふふふふ。……似ておるな。父親に。

フェイ　父親？　親父？　お前、親父を知っているのか！？

グラーフ　あれは……心地よい絶叫だった。我は感じ入った。死の際の絶叫とはかくも美しいものかとな。

フェイ　親父に何をした！　親父との間に何があったんだ！！

グラーフ　ふん。知りたいか？　だが今のお前がそれを知ったとて、仕方の無い事だ。

フェイ　何っ！？

グラーフ　お前のその力、未だ我の目的に能わず。能わぬものは適うまで試練を与えるが道理。

フェイ　な、何だ？　！！　何だこいつは！？

グラーフ　さあどうする？　フェイ。ここで倒れればそれまでのこと。何も知らぬが故に得られる幸せもあろう。だが、お前が真に望むはそうではなかろう？　お前が望むもの……真実を知りたくば、他を滅し、己が力で我の高みまではいあがってみせい！　そのときこそお前は、死への絶叫と引き替えに失われた全てを得ることになろう！！　ふはははは一っ！！

フェイ　ま、待て一っ！　まだ話は終わっちゃいないっ！！

<対ミミー戦>

シタン　大丈夫ですか！？　フェイ！　フェイ！

フェイ　……大丈夫……こいつは壊れたみたいだけど……

シタン　いや、無事で何よりです。応急修理の機体故、いきなりの戦闘に無理がきたのでしょう。

フェイ　……

シタン　フェイ？　こんな時に……フェイ、ここは大人しく……？

フェイ　……

シタン　フェイ？

輸送船

・我らがひとつとなれば！　・このような形で貴様と再会するとはな……これも定めか。皮肉なものだ。だが……こやつだけは渡すワケにはゆかん……たとえ……この身、砕けようともな！

シタン どうですか？　フェイ？　ちゃんと休めましたか？
フェイ ……え？　ああ……まぁ……
シタン いやぁ、うかつと言えば、うかつでした。キスレブの極秘試製機じゃ、アヴェ側も当然血まなこで探していたんでしょう。フェイ？　怪我でもしました？　元気ないですね？
フェイ いや……ちょっと……ね……
シタン ……あの黒衣の男、……あなたのお父さんがどうとか言っていた、その事ですか……
フェイ ああ、それもあるけど…それより奴の言ったこと……ラハン村の…あの事が、俺をギアに乗せるために仕組まれた事だった、ってのが気になって……
シタン あなたをギアに乗せるために……ですか……
フェイ 先生、俺は村が無くなるまで、自分自身に何の疑問も抱かず暮らしてきた。でも、今は違う。俺は…自分が何者なのか知りたい。こんな気持ちは初めてだ……
シタン 何か事を起こすにしても、囚われの身ではどうしようもありませんよ。とにかくもう少し休みましょう。そうすれば、いくらか気持ちの整理もつくでしょう。
フェイ そうだな、休もう。
シタン （……あれは間違いなくあの男だった……ただの偶然ではない、な……やはり迫っているのか？……福音の劫＜とき＞…が……）

天帝 そう、福音だ。神の眠りと共に楽園から追放され、異郷の民として、過酷な地上で生きることを余儀なくされた我等ヒト。地に満ちた我等が再び神の御下、楽園へと回帰し、永遠の生を得る。それが福音の劫＜とき＞だ。その劫＜とき＞が迫っておる。我等ガゼルはそれまでに神の眠る地を見つけだし、神を復活させねばならぬ。それが叶わぬ時は……
シタン 叶わぬ時は？
天帝 我等は原初からの運命＜さだめ＞により……
シタン （滅亡しよう、ですか……陛下……）

ユグドラシル

—— ビンゴ！　情報通りだな。アヴェの輸送船……か載ってる奴は……間違いない！　キスレブの新型！　例の強奪された奴だ！！　どっちにしろ、シャーカーンの野郎にみすみす渡すこたぁ、無い、な……ラトリーン！

ラトリーン A砲塔＜アントン＞とB砲塔＜ベルタ＞、ハッチ開放から方位盤作動まで20秒でいけます！

—— バンス！

バンス 流砂サウンド以外、な〜も聞こえません。怪しい電波も無し！

—— マルセイユ！

マルセイユ ミロクの大将の小隊が既にカタパルト下で待機中、浮上後1分で全機展開できます。

—— よぅっし！　バトコンレベル1発令！

—— 表層打撃戦区、ようそろ！　砂雷戦区、ようそろ！
対ギア戦区、ようそろ！　航法区、機関区、ようそろ！

—— わ、若！　何事でございますか？　い、今の警報は……

—— 若！　お待ち下さい！

—— 全艦戦闘配置！　浮上航行、排砂ポンプ始動！　浮上と同時に右舷同行砲戦に入る！

—— 若！！

—— わ、若！！

—— ツリムを右寄りにとれ！　上は風が強い、あおられるぞ！……ジェリコ！　舵をこっちに渡せ！

シタン あ、あれは……潜砂艦……噂の砂漠の海賊か！

—— 交互射撃初弾、A＜アントン＞B＜ベルタ＞共に挟叉！
修正値計算中！

—— よっしゃあぁぁ！　第二射から斉射＜サルヴォー＞に切り替え！ 奴の足を止める。ケツを思いっきりひっぱたいてやれ！

—— お待ちください、若！　ひょっとしてあれは軍艦にあらず、ただの徴用船では……？

—— だまってろ、爺！　軍艦であろうとなかろうと、新型のギアを積んでいることに変わりはねぇ！　ラトリーン！　派手に叩き込んでやれ！！

シタン なんと！　このかたむき具合から察するに…どうやら砲撃で艦底に大穴が開いちゃったみたいですね。このままでは沈没します。おそらく数分のうちに。

フェイ 数分……先生！！

シタン 鍵が……おーいだれか……うわ！！

フェイ 行こう、先生。

シタン 隔壁の右手に防砂扉のスイッチが！　でも、一度閉めたら開かないから気をつけて！

フェイ　先生！？　先生は！？
シタン　聞こえますか！　フェイ！　今からクレーンをヴェルトールのコクピットへ向けます……クレーン伝いにヴェルトールへ！　急いで！　埋まっちゃいますよ！
フェイ　……わかった、終わったら先生も急いで上に！

フェイ　また、お前に乗るか……腐れ縁だな。

フェイ　先生！　早く！
シタン　よっと……おっとと……
フェイ　先生！　大丈夫か！
シタン　はっはっは……なんだか三半規管に一生分の仕事をさせちゃったみたいで……
フェイ　すまない、コクピット開ける暇が無くて……ほんとに大丈夫か？　先生？

シタン　いやいや、冗談ですよフェイ。掌でも、なかなかの乗り心地でした。さすがはキスレブの極秘試製機。
フェイ　ああ、立ち上げるときに環境対応システム起動とか、ホバリング自重軽減化とか……何か勝手に色々やってた。
シタン　ほう？……やはり……
――――　友達甲斐の無い連中だな、お前ら！
シタン　……？
フェイ　！！？……

――――　自分らだけギアで逃げ出そうなんてぇーのは、男らしくねぇぜ？
フェイ　ま、待ってくれ！　俺達はアヴェの軍人じゃないんだっ！
海賊　ふん。もうちっとマシな命ごいはできねえのかよ？　アヴェの船から飛び出しといてアヴェの軍人じゃないだと？　ふざけんじゃねえ！
フェイ　本当に違うんだ！
海賊　カーっ、情けねえヤツ！　てめぇも軍人のはしくれなら男らしく勝負したらどうだ！？

フェイ　だからそうじゃないんだって！　やめてくれ！　俺は戦いたくない！
海賊　あきれたヤツだ、まだ言うか？　四の五の言ってねえで、さっさとそのギアを置いて帰っちまえ！
<対ブリガンディア戦>
海賊　ほう？　逃げ腰の割には、ちったぁやるじゃねぇか。……なるほど、全環境対応型……そいつのおかげってヤツか？　こいつは、ますます欲しくなったぜえ！

フェイ　！？
海賊　あっ！　しまった！！　くそっ、俺としたことが！　戦闘に夢中になってるうちに流砂につかまっちまったか！！　ったく、てめえのせいだからな！　後で、とっちめてやるから覚悟しとけ！！
フェイ　何でだよ！

—— ほら、さっさと降りてこい！　命までは取らねぇ。ただし、このギアは置いていって……アレ？
フェイ　ン？
—— ハァ？　お前、アヴェ軍の人間じゃねぇのか？
フェイ　だからさっき通信で違うと言った。少しも耳を貸さなかったのはそっちだろ？
—— はっはっはー。わりぃわりぃ。そういやぁそんなこと言ってたっけ。ちょっと、はやっちまってさ、いやー敵かと思ったんだ。あー、オホン。俺はバルト。この辺りを縄張りにしている海賊だ。
フェイ　俺はフェイ。訳のわからないままアヴェの輸送船に押し込まれて収容施設送りにされるところだったんだ。そこへさっきの騒動さ。まあ、何にせよ助かったよ。
バルト　そうか。しっかしお前さんみたいな民間人が軍用ギアに乗っているたぁな。しかもこいつは見たこともない新型じゃねぇか？
フェイ　色々あったんだよ。別に好きで乗っている訳じゃない。それにしてもここはどこだ？　なんかえらいところに落っこちたみたいだな。砂漠海の地下にこんな巨大な洞窟があるなんて聞いたこともない。
バルト　はぁ？お前何にも知らねぇんだな。いったい、どこの出だ？あのな、砂漠海ったってそれは地表表層部数百シャール程度を覆っているに過ぎねぇんだ。そっから下はこういった火山性岩盤の地層なんだよ。
フェイ　やれやれ、樹海、砂漠ときて、次は鍾乳洞か……
バルト　何だって？
フェイ　いや、なんでもないよ……
バルト　しかしまいったなぁ。見ろよ、落ちてきた地表の穴がなくなっちまってる。こりゃ別の出口を探さねぇとな。しばらくの間、休戦とするか？　とりあえずは、出口を探して外に出ないとな。
フェイ　そうだな。まずは、出口か。とにかく、進むか……

●ユグドラシル甲板
シタン　なるほど……やたらと撃ちまくっている訳じゃないんですね。あなたの“若”くんは。シグルド。
シグルド　あれでもちゃんと計算はしている……らしい…今回も人死はなさそうだしな。
シタン　で、肝心のその“若”くんの行方は？
シグルド　あのギアの奴と一緒に、勢い余って地下鍾乳洞に落っこちたらしい。ま、昔の発掘現場の辺りだし、ギアに乗ってるから自力で出てくるだろうが……とにかくある程度探したら、先に合流地点に行って待ってるさ。
シタン　信頼してるんですね……
シグルド　信用は、して無いがな。しかし、偶然とはいえ、選りに選って“お前”とここで出会うとはな……
シタン　偶然ではありません。必然です。恐らく。
シグルド　……ヒュウガ……何が始まるというんだ？

バルト　おいフェイ、センサーが反応している。どうやら、こいつの向こう側にかなり大きな空洞があるみたいだな。この岩、なんとかすりゃ…といっても、壊せそうにねぇか。おいおい、デケーな、こりゃ。さぁて、どうする？　こりゃ、いくらなんでも壊せやしねぇーぞ。
フェイ　とりあえず、そうだな、押してみるか……。
バルト　おいおい、そりゃいくら何でも……
フェイ　なにやってんだ、さっさと手伝え！！

●岩を押す

フェイ　二人でやればなんとかなるもんだな。こんな調子で、さっさとこんなところから出ようぜ。
バルト　こっちは膝関節の流体パイプの具合がやばくなりかけてるってのによ。これも上から落ちたうえに、あんなバカデカイ岩を押したせいだ。こんなだだっ広い洞窟の奥で故障だなんてシャレんなんねぇぜ。
フェイ　仲間の救助はないのか？
バルト　待つだけ無駄。こねーよ、多分。
フェイ　そんな、仲間だろ？
バルト　放任主義だからな、うちは。自力で脱出してくると思ってるよ。
フェイ　先生、大丈夫かな。
バルト　お前と一緒にいた奴だったら全然、心配ねぇよ。今頃うちの連中に救助されてるよ。
フェイ　……。
バルト　なんだよ？
フェイ　……。あんたが人の話を聞いていれば、こんなとこに落ちずにすんだのにな。
バルト　俺の所為にすんじゃねぇよ！　お前がとっとと降伏してりゃあ良かったんだ。ったく、それをマジになって応戦なんかしやがって。俺は、お前が乗ってるそいつさえいただけりゃ良かったんだからよ。
フェイ　無茶言うなよ！　問答無用でかかってこられたら他にどうしようもないだろ？　本気で応戦しなきゃやられるかと思ったんだ。
バルト　俺は手加減してたぜ？　それが判らねぇたぁ、お前、割とぬるいねぇ。
フェイ　嘘つけ。そっちだって本気だったくせに。
バルト　んだとぉ！　上等じゃねぇかっ！　今ここでケリ付けてやる！　構えやがれ！
フェイ　……。
バルト　ちょっと待て！　まず、ここで決着を付けるのが先だ！　俺は白黒つけなきゃ気がすまない質なんだよ！
フェイ　しばらく休戦するんだろう？　それに、ここを出るのが先だ。表に出てからだったら、いくらでも相手をしてやるよ。先を急ぐぞ。
バルト　いけ好かない奴だな……。ちっきしょう！　外に出たら、覚えとけよ。

バル爺の家

バルト　おい、フェイ！　こんなとこにホントに人が住んでいるぞ。
――　ほう、珍しくギアの足音がすると思っておったら、お主らのギアか。まぁ、遠慮せず奥に入ってきなさい。久々の客人だな。どうした、若いの？　上から落ちてきたのかい？
バルト　ま、そんなとこだ。
――　そうか……気の毒にのぅ。足音から察するに、2人ともなかなかいいギアに乗っとるようだが……足の調子が悪そうだな。
フェイ　は？　爺さんは足音だけで調子がわかるのか？
――　はっはっは。ギアの調子の聞き分けなんぞ容易いことだよ。察するに、片方のギアは関節の流体パイプあたりがやられているようだな。バタついた嫌な音を出している。それでは、歩き辛かろう。あとな、わしの名はバルタザールだ。まあ、爺さんでも構わんが…。
バルト　ほう。こりゃ、相当の物好きのようだな。ところで、爺さんはなぜこんな所にいるんだ？
バル爺　物探しと言ったところかな。この穴の中にはいろんな物が落ちているからな。
バルト　物探しねぇ。ご苦労なこった。そこの棚に並んでるのがその収穫かい？
バル爺　化石のことか？　まぁ、物探しの一つはそれのことだ。ちょっと、眺めてみるといい。この辺りを発掘すると古代の機械や、人やら動物の化石が出てくるんだよ。どうだ、この棚を見て何か気付かんか？　左側が一番古い年代で、右に行く程新しくなっている。
バルト　爺さん考古学が専門か？　しかし気付かないか、と言われてもなぁ。俺にはどうも只の骨の化石にしか見えん。フェイ、お前は、どうだ？
フェイ　……そうだなまず、ここまでには人骨がない。それに、ここより右は微妙に何かが違う……そんな気がする。
バル爺　そう、ある一定の年代を境にぱったりと人骨が出土しなくなるのだ。およそ一万年前を境にな。
バルト　どういうこった？　そりゃ？
バル爺　わしに聞かれてもな。答えようがないわ。ひょっとすると、それ以前のこの世界には、人は全く存在してなかったのかもしれんな。
バルト　そんなことがあるのかよ。進化の系譜って奴はどうなるんだ？
バル爺　教会の唱える進化論か？　そんなもんは、あてにせん方がいい。わしは口碑伝承や神話の方を信じるよ。
フェイ　口碑伝承？　神話？
バル爺　知らんのか？　こんな話だ。かつて人は神と共に天空にあり、常春の楽園で暮らしていたという。そこでは、神の庇護により、死の恐怖に怯えることも、自然の驚異にさらされることもなかったそうだ。だがある日、人は神の禁断の果実を口にした。それにより人は卓絶した知恵を得るに至ったが、神にその罪を問われ、楽園より放逐されることとなった。楽園から放逐された人は、神の仕打ちを憎み、禁断の果実から獲た知恵を使い、巨人を創り神に戦いを挑んだ。戦いを挑んだ人は神の怒りによって滅びたが、神もまた無傷ではすまなかった。傷ついた神は楽園共々その身を大海深くに沈め、永い眠

りについた。眠りにつく前、神はその残された力で、心義しき人達をこの地上に住まわされた。その人々が我々の祖先……という話だ。まぁ、無駄話はこれくらいにしておくか。

フェイ　ところで、この洞窟の……

バル爺　出口か？　出口だったら、あの防砂壁の先にある発掘場を抜ければ外に出る事が出来るが。

バルト　防砂壁？　ここの入口から見えるあのでかい壁のことかい？

バル爺　ああ、そうとも。あの壁の向こうにアヴェの発掘場がある。だが、もう発掘はしてないがな。アヴェの連中が発掘してた時、上からの砂の進入を防ぐために造った大きな壁だ。

フェイ　それで、あのでかいのはどうすれば開くんだ？

バルト　壁なんて壊しちまえばいいだろう。

バル爺　おいおい、待ちなさい。いくらいいギアに乗っておっても、あの壁は壊せんよ。あれは、よく出来てるからな。ううむ、ひとつ取引せんか？

バルト　取引だって？

バル爺　壁が閉まってるのは、降砂センサーが反応したからだ。おかげでわしは向こう側の発掘場に行けなくなってしまった。多分、お主らが砂と一緒に落ちてきたせいだろう。大方、上で二人で暴れていたのではないか？

フェイ　なんでも、お見通しか。で、なにをすればいいんだい？

バル爺　なぁに、簡単なことだ。降砂センサーのスイッチを切ってくればいい。そうすれば、あの壁は二度と閉まらなくなる。お主らが止めに行ってる間に、あの壁は開けておいてやろう。

フェイ　ああ、わかったよ。

バル爺　センサーは二ヶ所ある。赤く点滅しておる。よろしくな。

フェイ　いくぞ、バルト。

バル爺　ちょっと待ちなさい。ギアの燃料やパーツだったらわけてあげられるぞ。いつでも声をかけなさい。

バルト　悪いな爺さん。さてと、仕事を片付けてくるとするか。

●降砂センサー解除

バル爺　おう、ちょうど今から防砂壁が開くところだ。

フェイ　やるもんだな、爺さん。

バル爺　取引、終了だな。

バルト　あのな、爺さん少し聞きたいことがあるんだけどな。

バル爺　何をだ？

バルト　この世界のどこかには、全てのギアを超越する、太古の昔に創られた神のギアが眠ってるって話を聞いたことがある。それについて何か知らないか？

バル爺　神の知恵を使い創られた人造神。その力は一騎当千、腕の一振りで街を消し去り、その雄叫びは天まで轟く。『ギア・バーラー』のことか？

バルト　知っているのか！？　それって、もしかしてさっきの話に出てきた神と戦ったっていう……

バル爺　やれやれ、お主もか？　あんなもの、人心をあおる為に作り上げられた話、それこそ伝承だ。“そんなもの”在りはせん。さて、お主らのギアの調子でも見てやるとするか。小一時間で終わるだろう。少々待っていなさい。

バルト　お、おい、ちょっと待ってくれ！　ああ…、行っちまった…。

フェイ　なぁ、バルト。さっきの話の神のギアって、地中に埋っているものなのか？
バルト　俺の聞いた話では、そうらしいぜ。
フェイ　俺達の使っているギアもそのうちの一体なんだろうか？
バルト　いくらなんでも、そりゃないんじゃねーか？
フェイ　？
バルト　発掘されているギアはせいぜい数百年前の物なんだ。とてもじゃないが、伝承に出てくる様な大昔のもんじゃない。
フェイ　じゃあなんで地中に……
バルト　知らねぇよ。それについての記録もないしな。ただ……
フェイ　ただ？
バルト　大規模な戦争後に埋没したってことは確からしい。ほとんどの機体の装甲板に銃創が刻まれていることからもそれは確実だ。
フェイ　記録がないって、数百年前の記録が？　それ以前のものも？
バルト　ああ、どちらもな。もっともその辺りの記録に関しては『教会』が管理しているからな。ひょっとすると大昔のものもあるのかもしれない…… "俺達が手にすることが出来る歴史ってのはわずか" なのさ。ところで、フェイ、あの爺さん、お前はどう思う？
フェイ　どうって……
バルト　あんな年寄りが一人きりでこんな放棄された洞窟ん中で一体何をしているんだ？
フェイ　さあな。やっぱり、太古のギアでも掘り起こしてるんじゃないのか？
バルト　やっぱり、お前もそう思うか！
フェイ　おいおい、俺は冗談で言っただけだぜ。そんなこと真に受けるなよ。所詮、伝承だろ。
バルト　いや、きっとあの爺さんは手がかりつかんでたり……
バル爺　こ、こいつは……
フェイ　？？
バルト　どうした？　爺さん！
バル爺　お、お主のギアか？　こいつは？
フェイ　ああ。まぁ一応そうだけど……
バル爺　お主、こいつをどこで手に入れた！？
フェイ　俺はそいつを拝借しているだけなんだ。
バル爺　こいつは……神を滅ぼす者の憑代……
フェイ　ち、ちょっと待ってくれ！　爺さん、今なんて言った！？
バル爺　な、何でもない！　何も言っとりはせん！！
フェイ　いや！　今確かに聴こえたぞ！　神を滅ぼすとか……おい、そう言ったんだろ！　爺さん！！
バル爺　ギ、ギアは修理した。もうお前さん達はここに用は無いはずだ！　わしは具合が悪い。とっとと出ていけ！
フェイ　出てけって……あっ！　お、おい爺さん！！

対カラミティ戦

バルト　ふう。この野郎脅かしやがって。とんだ見かけ倒しだったな。なあフェイ？
フェイ　…………
バルト　さて…と。どうやらこの先が出口のようだぜ。こんな辛気くさい洞窟とは、さっさとおさらばだ…
フェイ　！？
バルト　な、何！？
フェイ　どいてろ！　バルトっ！！

バルト　お、おい……今、何やったんだ……？　お前？
フェイ　……
バルト　おいっ！！
フェイ　……あ？
バルト　あ？……じゃねぇよ。今のは一体何なんだよ？
フェイ　……いや……俺にもわからない。
バルト　凄ぇじゃねぇか、今の攻撃は。あのデカ物が一瞬で消し飛んだんだぜ？　あーいうのはもっと早く出してくれよ。
フェイ　俺は……あんな技は知らない…何故出せたのかも判らないんだ。
バルト　ふーん。まぁ、そんなことどっちだっていいじゃねぇか。とにかく助かったぜ。
フェイ　………
バルト　邪魔者も片づいた事だし、出ようぜ、フェイ。
バルト　へぇー。こんなとこに出るとはな……。
フェイ　ここは一体どこになるんだ？
バルト　双子の山が遠くの方に微かに見えるだろう。そこがアヴェ王都ブレイダブリクとファティマ城。もっとも現在王様はいないがな。ま、俺達の故郷だ。
フェイ　故郷か……。
バルト　そろそろ決着を付けるとするか、といきたいところだが、アヴェからの距離を考えると捕まっちまうな。
フェイ　……。
バルト　そんな嫌な顔しなさんなって。お前さんの仲間に会わせてやんないとな。事前に決めてあったユグドラとの合流地点はすぐそこだ。すぐ会わせてやるよ。

シタン　やあ、フェイ。よく無事で……！！　心配したんですよ。
フェイ　先生……。
メイソン　潜砂艦“ユグドラシル”へようこそ。私は執事のメイソンでございます。先程はとんだ失礼を致しました。既に自己紹介はお済みのこととは存じますが、改めて紹介させていただきましょう。我等、潜砂海賊の主バルトロメイ様でございます。ところで若、ちゃんとフェイ様にはおわびになられたでしょうね？
バルト　え？　あ、ああ……。ちゃんと『悪い』って言ったぜ……なぁ？
フェイ　……。
シグルド　まったく……。何かあってから『悪い』では通りませんよ、若。申し遅れました。私はこの潜砂艦の副長で“シグルド”と申します。
メイソン　では、何かお望みがあれば、遠慮なくお申し付け下さい。
バルト　ってわけだ。勘弁しろよなっ！！
シグルド　こらっ、若、おいたが過ぎますよ。
バルト　いてててて！！　耳、ひっぱんなって！
シタン　それじゃあ私達は到着まで船室へ行きましょうか。これが結構快適に作られていてね。居心地がいいんです。
フェイ　……。
シタン　どうしたんです？　元気ないですね？
フェイ　いや……ちょっと……
シタン　何かあったんですか？
フェイ　何でもないよ。

バルト　もうすぐオレのアジトだ！
シグルド　もうすぐアジトに着く。補給・整備のためにしばらく停泊する事になろう。

●ユグドラシル帰還

——　おかえりぃ～！　若ぁ～！
——　若っ、おかえりなせぇ！
——　おかえりなさい！
——　若ぁ～！　おみやげはぁ？
バルト　おうっ！　新型のギア一機に助っ人二人ってとこかな。
——　えーっ！　ギアなんかつまんないよ～。もっとめずらしいもんないのぉ～？
バルト　そう言うだろうと思ってな……。ほら！　砂漠の下の鍾乳洞で見つけたコハクだ。虫が入ってて珍しいだろ？
——　わ～い！　若、ありがとう！　ボクらはコハクを手に入れた！　ナンチャッテ！　行こう！　みんなに自慢しなくちゃ！
バルト　さて、と。オレはもうちっとギアをいじってるから…、フェイと先生は爺のお茶でも飲んでゆっくりしててくれ。爺、よろしくな。
メイソン　ささ、こちらへ。

食堂

メイソン　食堂でございます。粗末なところで申し訳ありません。こちらへどうぞ。当家自慢のお茶でもいかがですかな？　フェイ様、シタン様。いやはや、同じ年頃のお客人は珍しいとあって若のはしゃぐ事、はしゃぐ事。世が世なら若もこんな砂漠の上暮しなどでなく王宮で賑やかに……。

シタン　王宮？　では、あの少年は旧ファティマ王朝の……？

メイソン　はっ？　い、いえ……、これは年寄りのおしゃべりが過ぎましたかな、ははは……。

シタン　いえ、先程の片目の少年にはそこはかとない気品がありましたからね。

メイソン　むむむ……。よくぞ言って下さった！　よろしい、お話ししましょう。あれこそ憎き宰相シャーカーンに滅ぼされた、誇り高きファティマ王朝最後の忘れ形見、“バルトロメイ・ファティマ殿下”でございます。

シタン　バルトロメイ？　エドバルト4世の世継ぎ……。確か、バルトロメイ王子は12年前、病死と報じられたはずですが…？

メイソン　はい、表向きには。ですが真相は違うのです。若は、王亡き後アヴェの実権を握ったシャーカーンによって幽閉されていたのです。その若を我々がお救いしたのでございます。

シタン　しかし、なんでまた正当継承権を持つ王子が海賊行為などを……？

メイソン　……。我々はこの地に落ち延びてからただ、若がご立派に成長なされることだけを望んでまいりました。

シタン　王位の復権よりもですか？

メイソン　そうでございます。もちろん、いつの日にか再び復権を……と願っていなかったと言えば嘘になりましょう。実際、そのための準備もしてまいりました。

シタン　その一環が海賊行為である……と？

メイソン　はい。しかし、これには理由がありまして……。アヴェ、キスレブ共に遺跡発掘に一意専心。その力は日増しに強大になってゆきました。このままでは同志達の助力を得て反乱を起こしたとしても、シャーカーンが掌握する近衛部隊によって鎮圧されるは必定。我等にも力が必要でした。ユグドラシルを使い遺跡発掘を試みたのですが、思うようになりませんでした。もとより遺跡発掘には多大な時間と人と資金が必要。いかに潜砂艦といえど砂中に埋もれる小さな遺物を発見するのが関の山だったのです。

シタン　それで海賊行為を……。

メイソン　遺跡技術はアヴェ、キスレブどちらの手に渡っても相手を制圧する戦力となります。両国間の軍事力の均衡をはかりつつ新たな戦力を削ぐ……という若の発案に賛同したのです。

シタン　手ずから遺跡を発掘するよりも横からかすめ取る方が遥かに効率が良い……、という訳ですか。

メイソン　無論、略奪という行為それ自体は許されないことなのでしょう。が、しかしアヴェを、イグニスを、このままにしてはおけない……、というのは独善的でしょうか？

シタン　それについては私達外部の者がとやかく言えることではありません。ただ、お話をうかがうにあなた方のやっておられる事は結果的に良きこととなるのでしょう。ここの子供達を見

	れば分かりますよ。
メイソン	そう言って頂けると癒されます。ところでお茶のおかわりはいかがで？
シタン	ああ、どうも。いただきます。先程、戦力が整いつつあるとおっしゃったが、何故、事を実行に移さないのです？
メイソン	マルー様さえ幽閉されていなければ、サイは投げられていたはずなのです。
シタン	その方、ひょっとしてニサンの……？
メイソン	よくご存じで。ニサン法皇府の教母マルグレーテ様、若の従妹にあたる方でございます。
シタン	そのニサンの教母を何故シャーカーンが？
メイソン	“ファティマの碧玉”でございます。
シタン	あの至宝の在処を示したといわれる碧玉の事ですか？
メイソン	シタン様はあらゆる事をご存じなのですね？　いやはや感服いたします。爺の紅茶はお口に合いませんでしたかな、フェイ殿？
フェイ	いや、そんなことないけど。
メイソン	至宝といっても、全体どういったものなのかは私共にも皆目判らないのです。ただ、王国の危局を救う力を封じられた至宝……とだけ伝えられております。
シタン	マルグレーテ殿がその在処を記した碧玉をお持ちなんですね?
メイソン	正確にはその半片です。若とマルー様、それぞれが碧玉の片方ずつを持っておられ、それが二つ揃わなければ至宝の在処は判らないのです。
シタン	その碧玉ですけど、具体的にどういった物なのですか？　半片の碧玉という言葉から宝石か首飾りのような物を連想するのですが……？
メイソン	実は、その実体はアヴェ・ニサン代々の継承者、すなわち若とマルー様にしか知らされてないのです。
シタン	なるほど、それでマルグレーテ殿が幽閉されているという訳か。私の知るところから判断するに、実体が明らかになればマルグレーテ殿は生きては……ああ！　すみません。つい。いや……そういったこともあるかな……と。あくまでこれはたとえですからどうかお気になさらずに……。
メイソン	いえ、それは事実でございましょう。
シタン	……。コホン、至宝とは一体なんなんでしょうね……？
メイソン	さて？　私にも一向に……。
バルト	ギアだよ、ギア！　それしかないって！
メイソン	若、ギアの整備はどうなさいました？
バルト	ああ。シールしてんのに関節が砂食っちまってさ。メンドーだから連中に任せてきた。俺はもっぱら乗るのが仕事。それに俺、機械苦手だかんな、いても邪魔になるだけだって。
メイソン	若……。
バルト	で、なんの話だっけ？
シタン	至宝の正体はギア……ですか？
バルト	ああ、そうそう。実はな、アヴェの建国の絵巻物の中にそれらしい描写があるんだ。
シタン	絵巻物？
バルト	よし。じゃあ、作戦室に来てくれ。特別に見せてやるよ。
シタン	そいつは面白そうですね。

作戦室

シタン　こいつは凄い。ここまでの設備は都にもそうあるものじゃない。

バルト　へへへ。驚いたかい？　これらはみんなシグの奴が集めてくれた技術のお陰さ。コラ、フェイ、スクリーンの上に立つんじゃねぇ。見えねぇだろ？　よし。おい、スクリーンに例のやつを。

シタン　これは……？

バルト　およそ、500年前の絵巻物。"総身に炎をまといて巨人と血の契約交わせし王"、ファティマ一世だ。一世はこの巨人の力を借りてアヴェを建国したと言われてる。

シタン　こんな昔の絵巻物がよく残っていましたね。この類の記録は全て教会が管理しているものと思っていましたが。

バルト　普通はな。親父の遺品の中にあったんだ。次のやつを。建国後、一世は後世の人間のためにどこかにこの巨人を眠らせたらしい。もっともその場所がどこなのかはわからない。だが、別の記録ではこの巨人を"ファティマの至宝"と呼んでる。

シタン　で、"碧玉"の方は？

バルト　おいおいおい。あんたうまいな。ひょっとしてシャーカーンのスパイかなんかじゃねーの？

シタン　い、いえ滅相もない。私はただ知的好奇心から……。

バルト　冗談だよ。まぁ、碧玉は至宝を手に入れるためのカギ…みたいなものさ。

シタン　カギ…ですか。とにかくそのカギをアヴェを乗っ取ったシャーカーンが狙っている……と。

バルト　ヤツだけじゃない。ゲブラーの連中も碧玉を狙っているらしい。

シタン　そうですか。これはマルグレーテ殿を一刻も早く助け出さねばなりませんね。

バルト　だろ？　そこでだ。あんたらを助けたついでに一つ頼みたい事がある。

シタン　ひょっとして彼女の救出を助勢してくれ……ですか？

バルト　察しがいいねぇ、その通り。シグルドから聞いたけど成り行きとはいえキスレブとアヴェの両方から追われてるんだろ？　どうだい？　そんなに悪い話じゃないと思うが。

シタン　一宿一飯の恩義もありますし、私でお役に立てることでしたら何でもしますが……。フェイはどう思います？　さっきから一言もしゃべっていないようですけど……。

バルト　そうそう。鍾乳洞でのアレ、凄かったじゃねぇか。あの力さえありゃあシャーカーン部隊の十や二十、ものの数じゃないぜ？

フェイ　……。

バルト　なぁ、お前の力が欲しいんだよ。

フェイ　なんでみんなで俺を戦わせたがるんだっ！？

バルト　お、おい……、どうしたってんだよ？　いきなり。

シタン　フェイ？

フェイ　俺は今、それどころじゃないんだ！　『力が欲しい』？　俺にはそんなもんないんだよっ！　なのに、お前も先生もあの男も、何故みんなで……。俺は考えなきゃいけないことだらけなんだ！　あのギアの事や、グラーフと親父の事……。そんなことに付き合ってられる程俺は暇じゃない！！

バルト　な、なんだあいつ？　カンシャク持ちかなんかか？

シタン　い、いえ、けっしてそういう訳では。すみません。矢継ぎ早に起こった出来事をまだ整理できてないのです。察してやって下さい。

●甲板

バルト　ちょっといいか？　シタン先生から聞いたぜ、今までのお前の話。お前ちっとも話してくれなかったじゃねーか。いやー、大変だったんだなお前も。さ、さっきはオ、オレが悪かった……、許してくれよな？

フェイ　……。

バルト　よっと！！　で、またあの話だけどよ……。

フェイ　断る。

バルト　何？

フェイ　俺はバルトみたいに戦いが好きじゃない。ギアにも行きがかり上、仕方なく乗っているだけだ。出来れば乗りたくない。そんなにあれが欲しければやるよ。

バルト　俺が好きで戦っている……ってのか？

フェイ　そうだろ？　どうみてもそうとしか思えない。戦いを楽しんでいるようにしか俺には見えない。

バルト　聞き捨てならねぇな。今のは。誰が好きで戦ってるって？　撤回しろよ。俺には好きとか嫌いとかじゃなく戦わなくちゃいけない理由があるんだ。それをお前は……。

フェイ　俺には戦う理由なんかないんだよ！　戦いたくもない。静かに暮らしていたいだけなんだ。なのに何故そうまでして俺をギアに乗せたがる！？　何故そっとしておいてくれない！？

バルト　だからそれはお前の腕を見込んで……

フェイ　俺は嫌なんだ！　俺がギアに乗れば誰かが必ず傷つく。俺が戦えば誰かが必ず犠牲になる。もう誰も傷つけたくない！　誰も犠牲にしたくないんだ! 嫌なんだよ……そういうの……。

バルト　ふん。目の前の現実から逃げたい気持ち、わからん訳じゃないがな……。お前、そんなことで遺された村の子供達が納得するとでも思ってんのか？

フェイ　……。

バルト　ラハンでの一件なら先生から聞いたよ。だからってお前、何もしないでいていいのか？　確かに直接的にはお前がギアに乗ったことでの出来事かもしれない。しかしな、たとえお前がギアに乗らなくても犠牲者は出てた……多分な。原因はお前じゃない。戦争……いや、そういったものを引き起こそうとする人間に原因があるんだ。だったらその原因を取り除かなきゃなんにもなんねぇだろ。原因を無くす為に戦う……今は他にいい方法がないからそうするしかねぇが、少なくとも俺はその為に戦っている。別に好きで戦っている訳じゃない。お前が村の子供達に対して罪の意識を持ってるのはわかる。傷つけたくないってのもわかる。けどな、その子供達に罪滅ぼしをしたいってのならば、争いはなくさなくちゃいけないんじゃないのか？　お前にだって戦う理由があるんだよ。戦わなくちゃいけない理由がな。だが、その戦いを放棄してお前が逃げ回っている限り、村の子供達は絶対にお前の事を許

俺に協力出来ないことを逃げると言ってんじゃねーからな。別に協力してくれなくたっていい。これは俺自身の問題だからな。無理強いして、お前を巻き込みたくはない。ただな、俺は、お前程の腕があればその現実と対決出来ると……村の子供達にも罪滅ぼし出来ると、そう思ったんだがな……。悪かったな。手間ぁ取らせて。そういや、メカニックがお前のギアの事で何か話があるらしい。ま、今のお前にとっては関係の無い事かもしれんがまぁ、顔ぐらい出しとけよ。

シグルド　フェイ君！
フェイ　シグルドに、先生……。何か用……？
シグルド　少し話があるのだが……。
フェイ　あ、ああ。
シグルド　あれを……。
バルト　なぁ、親父……聴こえてるか？　俺、初めてフェイの瞳を見た時感じたんだ……。こいつは俺と一緒だ。こいつなら俺の気持ちを解ってくれるかもしれない……って。でもあれは気のせいだったのかな？　俺は自信がないよ。親父の後を継ぐなら……、飾りでいるだけならまだしも、遺言を実行することなんか今の俺にはとても出来ない。マルーだって救い出せやしない。俺は奴に逃げているだけだなんて言ったけど、本当に逃げ出したいのは俺の方なのかもな……。
シグルド　若が君に謝っておいてくれとね。おかしいだろう？　自分で謝ればいいのに。素直じゃないんだよ、若は……。ああ見えても若は結構寂しがり屋でね。友人を求めているんだ……いつも。だが我々は彼の友人にはなれない。否、我々がそのつもりでも彼はそう見ようとはしないだろう。それを若はわかっているんだよ。何故かって？　それは若の背負っているものの重さ故なんだ。あの若さでそれら全ての重荷を背負うのは辛いことだ。しかし若はそれに応えようとしてくれている、精一杯ね。だから我々は若に付き従っているんだよ。別に王子だからとかそういうのではなくてね。フェイ君、きっと君も何か途方もない重荷を背負っているんだろう。これは私からの勝手なお願いだが、若を助けてやってはくれまいか？
彼の重荷を背負ってくれ、というのではないんだ。若と何かを……君達にしか解らない何かを共有してやってはくれないか。お願いだ。
フェイ　ごめん。しばらく考えさせてくれないかな……。
シグルド　ああ、もちろんそれは君の自由だ。まぁ、どちらにしろ明日は早朝に出港を予定している。旅立ちの準備が整い次第、休息をとって今までの疲れをとるといいだろう。上の居住区の寝室を使ってくれ。
シタン　私はまだシグルドと話したい事があるので先に休んで下さい。

●居住区・寝室

――　起きたらすぐ出発だ。準備は出来てんのか？
フェイ　ああ、いいぜ。
――　そうか。じゃあゆっくり休むといい。
フェイ　なんか……もうとても…疲れた……。

●真夜中のドック

ブロイアー	正解。間違いなくやつらの巣だ。
ヘルムホルツ	意外にもろい岩盤だったな。もう少し手こずるかと思ったが…。
ストラッキィ	地上人<ラムズ>風情がいいとこ住んでんじゃねぇか…。
ランク	こいつぁ…ブレイダブリクの施設より遥かにいい造りしていやがる。どうやらここは先王時代に造られた隠し砦の一つらしいな…。
フランツ	そんなこと、どうでもいいじゃないか。ちゃっちゃと片づけちまおうよぉ。
ストラッキィ	さてと……。ギアはどこだ？　こっちか？
ヘルムホルツ	右だ！　ハンガーがある。
ストラッキィ	！！
フランツ	見ぃつけたぁ～！！
ヘルムホルツ	海賊組織の汎用ギア“ディルムッド”だな
フランツ	ははっ！　見なよ。やつら、押っ取り刀で駆けつけてきたみたいだよぉ。
ストラッキィ	いいじゃねぇか。そうでなければわざわざ侵入した甲斐がない。
ランク	ようし！　シュピラーレは後方で待機！　しゃしゃり出てくる障害物は各個に撃破だ！
ヘルムホルツ	準備完了！！
ストラッキィ	こっちも大丈夫だ！
ブロイアー	いつでもいいぞ！
ランク	ＧＯ！！

●ゲブラー攻撃開始

フェイ	なんだ、今の衝撃……？
——	ユグドラシルドックにギア侵入……！　ゲブラー特殊部隊ギア5体、未確認の大型ギア1体と推定されます！　全パイロットはギアハンガーへ！
——	非戦闘員はユグドラシルに避難するんだ！！　急げッ！
——	わ～ん、コワイよ～！！
シタン	フェイ！！　早くヴェルトールにっ！！　フェイ！？ 若くんたちが戦っているのですよ！　あなたは何もしないのですか？　関係ないとでも言うのですか！！　……。
フェイ	オレは……オレは一体何者なんだ？　あいつは……あの男は、オレのことを“神を滅ぼすもの”と呼んだ……そんな力オレはいらない……おれの……ちから……おれの……居場所……
バルト	一体何機ギアがいるんだっ！！　ザコは一通りかたづけたようだが！？
——	少なくとも残り4、5体はいるかとっ！　今までのとは性能もテクも段違いですっ！！
バルト	っくしょぉ！！
——	若ッ！！　来ますよっ！！ <対ソードナイト戦>
バルト	くっそぉ～！　手間取らせやがって！

シタン メイソン卿、このギアは動くんですか？
メイソン は？　はい、一応動くことは動きます。ですが……。
シタン よしっ！
メイソン いけませんっ！　それは未だ整備中なのです。とても稼働出来る状態では……。
シグルド いいんだ、メイソン卿。
メイソン シグルド様っ！ しっ、しかし、シタン様のような方では……？
シグルド いいんだ。奴ならば大丈夫。あれでも物足りないくらいかもしれない。
メイソン シグルド様……？
シタン さて……。5年ぶりの実戦か……。体が憶えていてくれれば……。ほ！　なかなかのじゃじゃ馬ぶり…ならしには丁度いいですね。気に入りましたよ。
ブロイアー ウォォォォッ！！
シタン 新手かっ！？
ブロイアー い、イテェじゃねぇか！！
シタン 私の友人の痛みに比べればあなたの痛みなど……！！　無抵抗な人々をなぶる貴方たちのその姿勢、許す訳には行きません。代わりに私がお相手しましょう。かかってきなさい！
ブロイアー ？？　何言ってやがんだ！！
<対シールドナイト戦>
シタン まっ、こんなとこですか。
なまっているなぁ……。体に染み着いたものと違ってこうやって後から体得したものだとやはり無理があるか。それにしてもこれだけ攻撃しても倒れないところを見ると、彼等"例の物"をやってますね。若くん！　彼等は戦意昂揚剤<ドライブ>を打ってます！　なまじの攻撃では倒れませんよ！
バルト マジかよ？　どおりでネチネチとしつこい！　クソッ、きりがねぇっ！
シタン フェイ！！
バルト もういいっ！　あんな奴、ほっとけ！！

●子供を襲うフランツ

男の子 ！！　おねぇちゃん！！
フランツ どこへ行こうってんだい？
女の子 や、やめて……
フランツ ケナゲだねぇ……、さぁて、君はどんな声でさえずってくれるのかなぁ？
女の子 キャァァァァァァァァ！！！！
フランツ んだぁ！？

フェイ お前たちは何故戦う！？
フランツ こ、こいつ、何言ってやがる！？
フェイ 戦って何を得られる！？ 自分の居場所があるっていうのか！！
<対カップナイト戦>

シタン　フェイっ！！
バルト　やっぱお前っ！！
フェイ　そういうのは後にしようぜっ！　デカいのがっ！
<対シュピラーレ戦>
バルト　……。あ、あ、あり……ありがとう……フェイ。
フェイ　バルト……。
シグルド　ありがとう、フェイ君。君の加勢がなければ、今頃どうなっていたか。
フェイ　俺……、まだ、自分が何をすればいいのか分からないんだ。
シグルド　フェイ君……。
フェイ　バルトのしていることは私利私欲の為じゃない。周囲の人々の幸せを願って一歩一歩自分の信じた道を歩んでいる。それに比べて俺は……。
シグルド　……。
フェイ　俺、自分の前には進むべき道がないと思っていた。でもあいつの言うように、それはただ逃げているだけ。道は自分で見つけなきゃいけない。そうだよね、先生？　バルトが望んでるなら俺、協力するよ。今はそれしか出来ないから……。でも、その中で自分の進むべき道を見つけようと思うんだ。それにあんな恐ろしい連中をほっとけないよ。
シグルド　ありがとう、フェイ君。

メイソン　我々は一刻も早くアヴェへ潜入しマルー様を救出しなければなりません。このアジトもゲブラーに発見されてしまいました。最低人員を残し脱出いたします。不幸中の幸いと言うやつでユグドラシルは無傷ですんだのですぐに出港いたします。乗組員の準備は出来ております。フェイ様たちの準備が出来次第若とともにブリッジにいらっしゃって下さい。シタン様、フェイ様、この爺、心から感謝しております。ぜひとも若にお力添えを……！
バルト　あ〜、もう、いいからいいから。おばさんたちにあいさつしたら行くって。

●食堂

子供 フェイ兄ちゃん、……ありがと

おばちゃん あらっ！　フェイちゃん！！　あたしゃ、あんたのこと信じてたよ。必ずバルトちゃんを助けてくれるってね。おばさんからも礼をいうよ。バルトちゃん、こんないいお友達、なかなかいないんだから！？　大切にしないとダメよ！

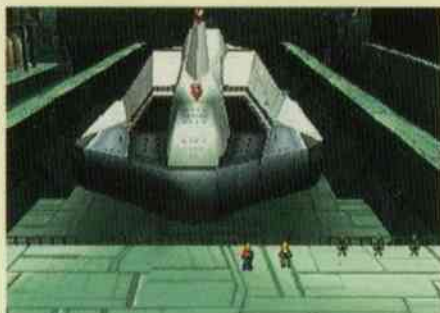
バルト ああ。今度帰ってくる時はマルーのやつも一緒だからおいしいもん作って待っててよ。

おばちゃん あいよっ、おばちゃんにまかせときな！

●ブリッジ

ビンゴ やったぁ！！　操舵手の見習いにしてくれるってよ！　操舵手見習いのビンゴです。シグルド様からユグドラシルの操作方法を教えてもらってるんだけど……。僕のメモ見る？　おいらも早く一人前の操舵手になりてぇなぁ……。

シグルド ついにアヴェへ潜入する時が来た。まずはアヴェ市街を視察してから作戦を練ることにする。

ラムサス艦

ラムサス　警戒体制解除。ただちに補修作業、及び補給作業にかかれ。
ミァン　閣下、シャーカーン殿とヴァンダーカム将軍が出迎えに見えてますわ。
ラムサス　ふん、最悪の歓迎だな。
ミァン　下界ですもの。仕方ありませんわ。
ラムサス　ミァン、降りるぞ。
ミァン　はい、閣下。

●出迎えるシャーカーン

シャーカーン　さすがはラムサス司令。着任早々、見事なお手並みですな。我が方がてこずっていたキスレブ前衛部隊をものの数日で……いや、恐れいります。
ラムサス　貴様、あの程度の戦力に今の今までてこずっていたとは……着任早々よくも恥をかかせてくれる。
ヴァンダーカム　恐れながら閣下。奴等、あれでいてなかなか粘りまして……。特に新たに配備された新型の機動力あなどり難く、ちょこまかとよく動きまする。おかげで我がキファインゼルの主砲の狙いが定まらず……、いや、狙いさえ定まりますればあの様な小物の集団なぞ……
ラムサス　愚か者！　大艦巨砲も相手を選べ！　何事も力押しで解決出来ると思うから失敗するのだ。どうやら貴様の脳は筋肉で出来ているようだな。
ヴァンダーカム　閣下！
ラムサス　もういい、下がれ。貴様は自慢の1200セム砲でも磨いていろ。
シャーカーン　明日は我が国の建国五百年の記念日。歓艦の式典、是非お立ち会い願いたいのですが、閣下。歓艦式の後には通例の大武会の催しも……
ラムサス　報告にあった例の件、どうなっている？
シャーカーン　は？　ああ、遺跡から発掘された五百年前の機動兵器ですな。あれならば『教会』の手によって既に改修済みでして、歓艦式の日にはお披露目出来るかと……
ラムサス　そのような玩具はヴァンダーカムにでも与えておけ。私が言っているのは『ファティマの碧玉』のことだ。
シャーカーン　それでしたら、既に片割れの紋章は手中にしております。ただ残りの片方の在処を未だ吐きませぬで。いや、これがなかなか強情な娘でして……
ラムサス　よもや、手荒な真似はしていないだろうな？
シャーカーン　当然でございます。閣下がそのような愚劣な行為をお嫌いなのは重々承知しておりますゆえ。
ラムサス　その少女、たしかニサンの教母といったな。この上か？
シャーカーン　はい。東塔に。
ラムサス　ミァン。"器"の可能性はあるのか？
ミァン　はい。未だ反応は出ておりません。何か強固な障壁があるようです。しかし五百年前の記録からもこの地に存在することに間違いはありません。恐らくはその保存状態も良好かと。
ラムサス　……会おう。私が直接訊きただす。ミァン、同席しろ。
ミァン　はい。
シャーカーン　開けろ。ラムサス閣下が面会される。どうぞ、ラムサス閣下。

マルーの部屋

—— あなたたち、誰？

ラムサス 私はラムサス、彼女はミァン。君に尋ねたい事がある。

マルー ボクはマルー。本当はマルグレーテっていうんだ。聞きたいことって何？　好きな食べ物の事？　ケーキは何でも好きだけど、シフォン・ニサーナが一番だよ。もうずっと食べてないなあ……

ラムサス マルグレーテ君、私が聞きたいのは『ファティマの碧玉』の事だよ。ファティマ王家の家宝だったね。君が持っていた一つは私達が預かっているが、もう一つがどこにあるのかがわからない。君なら知ってるんじゃないかな？

マルー 知らない。ボクが持っていたのも取り上げられちゃったしさ。代わりに何かくれるわけでもないし。ね、こんどシフォン・ニサーナを持って来てよ。ニサンにいた頃は毎日食べてたんだ。アヴェじゃ作ってないみたい。昔はアヴェにも上手いケーキ職人がいたらしいけど、戦争で死んじゃったんだって。

ラムサス それは残念だね。私はケーキの事は詳しくないが今度探して持ってこよう。

マルー ありがとう、ラムサスさん。楽しみにしてるよ。

ラムサス 他に何か不自由な事はないかね？　欲しい物があれば持って来てあげよう。

マルー ううん。それよりもニサンに帰りたいな。きっとみんな心配してるよ。

ラムサス 申し訳ないが、それはしばらく待ってくれたまえ。『ファティマの碧玉』のもう一つが見つかるまでは、ここにいて欲しいのだよ。

●シャーカーンの部屋

シャーカーン あの娘があれ程よくしゃべるとは。なるほど見かけに違わず、女の扱い心得ておるわ。

—— 良いのですか？

シャーカーン 会わせぬ訳にもいくまい。相手があの男ではな。それに、マルグレーテはしゃべらんよ。心配はない。それにしても碧玉の情報、どこで漏れたのか……『教会』？…まさかな。う～む、このままではわしの計画が……。情報漏れの件、即刻調べを入れろ。それと近々にマルグレーテに自白剤を投与しろ。『ファティマの碧玉』の残りの半片の情報、なんとしても早急に聞き出せ。

—— しかし……

シャーカーン いかに前司令官のヴァンダーカムがふがいないとは言え、こたびのゲブラー最高司令官の着任。本国も本腰を入れたということだ。もはや手段を選べる状況ではない！

●アヴェ国首都・ブレイダブリク

—— ブレイダブリクへようこそ！　今ちょうど建国記念のお祭りなの。武術大会もあるのよ。よそからのお客さんが久しぶりに大勢来てるわ。もうホテルは決まっているのかしら？

フェイ まだ。

—— 早く決めないと部屋が無くなるわよ。そうだわ、いいホテルを紹介してあげる。そのホテルはね……あそこよ。ホテルのカウンターでわたしの紹介だって言えば安くしてくれるわよ。

ホテル

シタン	さて、とりあえず作戦会議用に部屋を借りましょうか……
――	あの……失礼ですが……バルトロメイ殿下ですよね。
バルト	……あんたは？
――	わたくし、ニサン正教から派遣された者です。教母様の状況を調べていたんです。いずれ殿下がいらっしゃると……
シタン	オホン、ここで立ち話もなんです。とりあえず部屋を借りましょう。
――	お疲れのところをごめんなさい。わたくしは自分の部屋にいますから、後でいらしてください。あそこが私の部屋です。
――	殿下、失礼ですがお連れの方は……
バルト	ああ、シタン先生にフェイだ。マルー救出作戦を手伝ってくれる。
――	暑い中をようこそおいでくださいました。わたくしはニサン正教にお仕えしています。教母様がシャーカーンに捕えられてしまってからは取り返すための調査活動をしてきました。どこに捕われているのかずっと調べていたのです。出入りの業者の方のグチを一晩聞いてあげたり、祭りの準備をなさっている兵隊さん全員に食事を差し入れたり、それはもう大変でした。そして昨日、ようやくその有力な情報を手に入れることができたのです。教母様が幽閉されているのは天守閣です。問題はどうやって城に潜り込むかですが……なにしろ大変だったもので……色々と考えたのですが……申し訳ありません。
バルト	気にするなよ。場所がわかっただけでも十分さ。城に潜り込む方法は俺たちで見つけるから、あんたは休んでな。
――	申し訳ありません。わたくしで手伝えることがありましたらなんなりと言いつけてください。……それで、なにかいいツテでも？
バルト	まだ何も。今から街で情報を集めるからその後で考えようぜ。
――	わかりました。みなさんに来て頂いて心強い限りです。では、何か情報があったら、またここにおいでください。

●井戸

子供	あいつ……どこに隠れたんだろう。おにいちゃんたちも手伝ってよ。
フェイ	ああ。
子供	ありがとう。どうやっても見えない所と家の中には、隠れない決まりなんだ。
おばあさん	ここで洗濯し続けて60年。ここの水だけは昔から変わらないよ。お城の地下の湧き水が流れて来てるのさ。王様が亡くなった時は、心配だったよ。水を止められるんじゃないかと思ってね。でも大丈夫だった。お城の地下で水を管理している爺さんが水に関してだけはシャーカーンに一歩も譲らなかったそうだよ。
おじいさん	そうさ！　あいつは大した男だ。わしの幼なじみじゃよ。ここは涼しいのう。その格子の下から冷たい風が吹いてくるんじゃよ。だめじゃ、だめじゃ。井戸の鍵が無いと開かんわい！　数年前に中で迷子になった子供がおっての。確か、そこの防具屋の坊主じゃったか……

子供　あ～あ、見つかっちゃった。にいちゃん、やるね。よし、今度はもっと見つけにくい所に隠れるからね。えっ！　井戸に入った時の事を聞きたいの？　その話を聞きたがる人は久しぶりだなあ。あの頃はみんなが聞きたがってさあ、オイラ、のんびり遊んでられなかったよ。コホン……あそこに隠れた時は、まだオイラも子供だったよ。中で迷子になっちまってさあ。格好悪いよね。流れにしたがっていれば出れるって最初は思ってたんだけどさ。途中に柵があって行き止まりになってるんだ。それで仕方なく流れに逆らって泳いだんだ。大変だったのは、流れが速くなったり遅くなったりすることさ。タイミングよく泳ぎ切らないといけない場所もあるんだよ。流れの速さが変わるのはね、お城の貯水槽の水門が開いたり閉じたりするからさ。ずっと流れに逆らって行くと、お城の地下に出るんだよ。あの時は管理人のじいさん、腰抜かしてたなあ……その後からだよ。井戸のふたに鍵がついたのは。隠れるには最高の場所なんだけどなあ。でも初心者には危ないかもね。えっ！　鍵？　鍵なら、いつも東の井戸のベンチに座ってる爺さんが持ってるよ。

●井戸

おじいさん　井戸の鍵？　わしが持っとるよ。こう見えても水道管理組合の会長じゃ。鍵を使って何をする気じゃ？
フェイ　マルー救出。
おじいさん　なんと！？　シャーカーンに楯突く気か？　ハッ！　そいつはいい！　そいつはいいぞ。坊主ども！　気に入った。鍵を貸してやろう。シャーカーンに一泡ふかせてやれ！　しっかりやれよ。坊主！

（少年遊撃隊の歌）
キスレブの～
蒸気野郎を蹴っ飛ばせ～
やかん頭がピーピー泣くぞっ
ネジの鼻がもげるまで～
われら～少年遊撃隊っ
砂漠の平和を守るため～
オーッ！　オーッ！　オーッ！

●ホテル

――――　何かよい情報はありましたか？　いい作戦は考えつかれました？
バルト　街の水がどこから来ているか思い出したよ。ファティマ城の地下の湧き水を地下水道で街に供給してるんだ。その地下水道を通って侵入する！　街の井戸から地下水道に侵入して城の地下貯水槽に出る。そこまで行けばなんとかなるさ。
シタン　それはいい考えですがもう一つ確実性に欠けますね。どうやら今はお祭りのようです。なんとか利用できないでしょうか。
――――　街を北に行けば祭りの広場、その向こうにはお城があります。そちらに行けば何か見つかるかもしれませんよ。

バルト フェイ！　この先は城だ。オレが行くと面倒なことになるかもしれない。城に行くなら二人で行ってくれ。オレはここで待ってるよ。
シタン フェイ、どうしますか？
フェイ 二人で行こう。
バルト そうか、気をつけろよ。

●大武会会場

—— よっ、兄さんっ！　どうだい優勝者を当ててみないかい？
シタン 優勝者って何のですか？
—— ハアッ？　何のって『大武会』の優勝者に決まってるじゃねえかっ！
シタン 『大武会』では賭けも行われているのですか？
—— カァーッ！　何言ってやがんだよ！　大武会と言えば賭けじゃねえか。知らねえのかよ。出場するヤツ以外の人間がなんで大武会を楽しみにしてると思ってんだ？　賭けよ、賭け。優勝者を当てるんだよ。
シタン すいません、わたしたちはこの街に着いたばかりで、『大武会』が何か知らないのです。
—— おのぼりさんってわけだな。いいだろう、『大武会』について教えてやろうじゃねえか。『大武会』ってのはなあ、年に一度このアヴェで行われる武術大会のことよ。世界中から腕自慢どもが集まってだれが一番強いか決めるってわけだ。ま、ケンカみたいなもんだな。そして出場しないやつも熱くなれる。優勝者を予想することでな。どうだい、やってみねえか？
シタン 『大武会』の賭けですか？……そんなに堂々とやっても大丈夫なのですか？
—— あたりめえよ。なにせ兵隊どもが一番熱くなってるんだ。もし明日キスレブが攻めて来たら、アヴェは終わりだな。どうすんだい？　まだ出場登録は終わってないけどよ、有力なのは出揃ってるし、残りは参加賞狙いだな。
シタン もう少し様子を見ますよ。この後で強い人が登録する可能性もありますからね。
—— ケッ！　臆病な野郎どもだぜ。
シタン フェイ、これは使えますよ！　大武会が盛り上がれば兵士たちの注意がそちらに向きます。そうなればマルー救出のために城内に忍び込むのが楽になります。フェイ、どうです？　あなたが出場してみませんか？
フェイ えっ？　オレ？
シタン あなたが兵士たちの注意を引きつけている間に、若くんが城内に侵入するんです。この役回りを逆にするわけにいかないのは解りますよね。さあ、出場を申し込みに行きましょう。あ、それからフェイ。本名で申し込んではダメですよ。適当な名前を作ってください。
—— 大武会の出場申込の窓口です。出場なさいますか？
フェイ 出場する。
—— では、こちらにご記入ください。『放浪の拳闘家』様ですね。参加登録しました。大武会は明日行われます。必ず来て下さい。

―― お祭りを利用する方法は見つかりました？

シタン 明日は『大武会』があります。会場では賭けも行われています。その間は兵士の気持が警備よりも試合に向いているはずです。これを利用しない手はありません。

―― 利用とおっしゃいますと？

シタン フェイが出場するんですよ。大会をひっかき回して盛り上げてもらいます。

―― ……確か『大武会』の出場受付は今日までです。早めにお城の会場で登録してもらった方がいいですよ。

シタン ご心配なく。すでに出場の登録をしてきました。それでいきましょう。フェイは『大武会』に参加。大会を盛り上げて兵士たちの注意を引きつける。その間に若くんが井戸から地下水道を通って城に侵入。天守閣のマルー殿を救出する。わたしはフェイについて『大武会』会場に入ります。大会を盛り上げる援助と退路の確保をしておきます。侵入作戦の準備が整いました。今晩はこの宿に泊まって明朝、作戦開始です。しばらく自由に行動しましょう。フェイ、ブレイダブリクの街を見物して来てはどうです？　それでは明日に備えてゆっくり休むことにしましょう。それとも、もう一回りしてきますか？

フェイ もう休む。

シタン そうですね。明日の為に英気を養っておきましょう。

●大武会当日

シタン おはようございます。さあいよいよ、マルー救出作戦の開始です！　まず私とフェイが『大武会』の会場で出場の準備をします。若くんは試合が始まる頃に井戸に入って地下水路を城に向かって下さい。確か、流れに逆らって行けば城に辿りつくということでしたね。さすがに城内には兵士が残っていると思いますが、もし出会ったら騒ぎにならないうちに片をつけてください。大会を盛り上げて、できるだけ長く兵士たちの注意を引きつけておきます。その間に天守閣に捕われているマルーさんを救出して下さい。どうでしょうか？

バルト 了解。

シタン それでは行きましょう。若くん、気をつけて下さい。

●大武会出場

―― あんた、出場するのかい！？　ふ～ん……ま、20倍ってところだな。

―― 出場者の方ですね。どうぞ、お通り下さい。

―― この先は出場者以外立入禁止です。お連れの方は観戦席で応援して下さい。

シタン それでは、わたしはここで応援しています。あまり、あっさりと倒してはダメですよ。大武会が盛り上がるほど若くんの侵入が楽になるのですから。頑張って下さい。

●控室

―― オレ様の名前を知ってるかい？
フェイ 知らない。
―― ふん、憶えておきな！　オレ様の名は……ビッグ・ジョー！　世界を制する男さ。ヘイ、ボーイ。強さの秘密を知ってるかい？　それは……感謝の気持さ。自分を応援してくれる人への感謝の気持。彼女たちの愛がオレに勇気を与えてくれる。ヘイ、ボーイ。オマエを応援してくれる人はいるかい？
フェイ いる。
ビッグジョー オーケイ、そいつへの感謝を忘れちゃいけないぜ。

フェイ ！！　ダ、ダン……ダンじゃないか！　どうしてここに！？
ダン ……お前のせいで……姉ちゃんは……お前を許さねえ。ぶっ殺してやる！
フェイ ……ダン……
―― 出場者の皆様。まもなく開会となります。入場の準備をお願いします。
ダン ラハン村のみんなの仇だっ！　観客の前でメッタメタのギッタギタにしてやるからな！　逃げんじゃねぇぞっ！！
フェイ ダ、ダン……。
謎の男 お主、ラハンの出身か……？
フェイ ？？
謎の男 お主とあの少年。何やら訳ありのようだが……。
フェイ なんだよ、あんたは！？　そんなこと、あんたには関係ないだろう！？
謎の男 ふふふふ……
フェイ 何がおかしいんだ！？
謎の男 いや、なに……。お主があの少年に対してどのように戦うのか非常に興味があるのでな……。まあ、楽しみにしているぞ、“フェイ”。
フェイ えっ！？（あの男、何故俺の名前を……？　本名でエントリーしていないのに……）

●ファティマ城潜入作戦

バルト ……そろそろ始まる頃だな。俺も準備しとくか。
―― 本当にあの作戦で大丈夫でしょうか？
バルト もう動き出してるんだ。今さらまずいところを見つけたってどうしようもないぜ！　なぁに、心配するなって。フェイたちはうまくやってくれるさ。シタン先生もついてるしな。あとは俺が井戸から地下を通って城内に忍び込むだけだ。それでいいんだろ。
―― はい。
バルト じゃ、行って来るぜ。マルーは天守閣だったよな。
―― はい。どうかお気を付けて。教母様をなにとぞよろしくお願いいたします。
バルト まかせとけ！　あんたも今の内にアヴェを離れた方がいいぜ。大騒ぎになるからな。
―― ありがとうございます。

大武会会場

シャーカーン　……勇敢な若者たちが前線で血を流している。我が軍の優位は明らかとはいえ、戦況は予断を許さない。今、我々には、この偉大な国アヴェの伝統と美しい砂漠の平和を守るため一歩たりとも引かない覚悟が求められている。砂漠は父祖より受け継いだ、かけがえのない財産であると同時に精神と肉体を鍛えてくれる修練の場でもある。叩きつける風と肌を焦がす太陽が我等の師だ。そして今この瞬間、砂漠に鍛えられた強者達がここに集っている。最も強き者、風と太陽に最も愛されし者を決するために。この頭上に燃える太陽は、残した家族への想いで、前線の父親たちの胸を焦がす太陽であり、ここを吹き抜ける風は、我等の闘志と祈りを前線の息子達に送り届けてくれる風である。私は信じている。この大武会が国民諸君の士気を高め砂漠に暮らす者としての誇りを新たにしてくれることを。勇敢なる出場者、戦士諸君。どうか前線の兄弟達に恥じないよう力を尽くしてくれ。
ここに第338回大武会を開会する！

シャーカーン　ふむ……、我ながら感動的な演説だったな。おお、これはこれはラムサス閣下。お待ちしておりましたぞ。ささ、こちらへ。

ラムサス　あいにく、貴公の酔狂に付き合っている程暇ではないのでな。立ち寄っただけだ。

シャーカーン　これは手厳しい。閣下はお嫌いでしたかな？　この手の催しものは……

ラムサス　興味が無い。

ミァン　よいではないですか閣下。シャーカーン殿もああ言っておられることですし……それに、私、武術というものに興味がありますの。せっかくの機会ですからこの目で見ておきたいものですわ。

シャーカーン　そうですぞ。いわばこれは閣下への感謝の催しと言っても過言ではございませぬ。閣下の御力添えがあったからこそ、危急の最中にもかかわらずこの様な建国記念の催しが開催出来るのですからな。

ラムサス　建国などと、よくもぬけぬけと言えたものだ。もとより貴様の国ではなかろう。ふんっ。勝手にしろ。

シャーカーン　ところでミァン殿、どうですかな大武会は？　楽しんでいただけそうですかな？

ミァン　ええ。楽しめそうです。

シャーカーン　お？　始まりますぞ！

――――　第一試合……「ゴンザレス」対「放浪の拳闘家」

ミァン　まぁ、素敵な子……

地下水道

バルト　あれが水門だな……。

おじいさん　コリャーッ！　また地下水道で遊びおって！　上がってこい、小僧！　小僧、何度言ったら……ん？　あれから何年たった？　おい、ずいぶんと大きくなったじゃないか。小僧、本当にあの時のかくれんぼ小僧か？　わしをだましとるんじゃないか？　おい、どうなんだ？

バルト　何、ねぼけた事を言ってるんだ。じいさん、いつ俺があの時の子供だなんて言った？　昔からトンチンカンだったけど、またひどくなったんじゃないのか？

おじいさん　なんだと！　トンチンカンだと！　小僧、わしをトンチンカンだと言うか！？　生意気な小僧め。わしをトンチンカンと呼んでいいのは死んだ女房と若様だけじゃ。……何殿下だったかのう？　名前が思い出せんが……

バルト　バルトロメイ殿下だろ。

おじいさん　そうじゃ、バルトロメイ殿下じゃ！　小僧、小僧のくせによく知っとるのう。バルト殿下、生きておればちょうどおまえさん位の歳になっておったはずじゃが……知っておるか？　あのシャーカーンに家族もろとも殺されてしまったんじゃ。おいたわしい。シャーカーンめ、負けんぞ。わしゃ死ぬまでこのアヴェ水を守り続けるんじゃ！　それがわしによくしてくれた王様と若様への恩返しじゃ。

バルト　そうかい。爺さん、ありがとうよ。親父も喜ぶだろうぜ。

おじいさん　？……親父さんというと誰のことじゃ？　おまえさん、わしの知り合いの息子かい？　まてまて、今思い出すからな……！　……いやいや、そんなことは有りえん。王様には隠し子なぞおらんかったはずじゃ。

バルト　悪いが説明してる暇は無いんだ。そのうち思い出すさ。じゃあな！

おじいさん　……誰じゃろうのう？

大武会会場

＜大武会準決勝＞

フェイ　なんで、ダンがここにいるんだ！？

ダン　フン！　ユイさんの所から逃げてきたのさ！　ねえちゃんの仇をうつために！

フェイ　……たのむ、ダン。やめてくれ！

ダン　うるせえ！　オレは絶対おまえを許さない。……この、人殺しッ！！

フェイ　くっ！……どうすればいいんだ……

ダン　おまえを、みんなの前で倒してやる！　これは、村のみんなの分！　これは、ティモシーの分！　これは、ねえちゃんの分だーっ！　くだけちれ！

ダン　やい！　フェイ！なんでかかってこない？　勝負だ、フェイ！

フェイ　……だめだ。オレにはダンを殴ることなんてできるわけないよ……

ダン　……くそッ！　こんなんでおまえを倒しても、ねえちゃんもティモシーもうかばれねえや！　えーい、ちきしょう！　この勝負は、おあずけだ。今度会った時が、おまえの命日だからな！　その時まで、こいつをおまえにあずける！　毎日それを見て罪の重さに苦しむがいい！
フェイ　ダン……オレは……
ダン　うるさい！　おまえのいいわけなんて聞きたくねえや！　フェイのバカヤロー！！

<大武会決勝>

ワイズマン　ヌルいわ！
観客　ブ～ブ～！　つまんねえぞ！　ちゃんとやれ～っ！！
フェイ　（まずいぞ。このままじゃ…）
ワイズマン　……やはりそうか。
フェイ　？？
ワイズマン　お主、その技、どこで覚えた？
フェイ　どこだっていいじゃないか。さぁ、ちゃんと戦ってくれ！
ワイズマン　ふむ。ならば何故お主は戦う？　自らの為か？　他人の為か？
フェイ　何故、そんな事を聞く？
ワイズマン　人が戦うのにはそれなりの理由と目的があろう？
フェイ　俺の戦う理由なんて、あんたには関係ないことだろ！
ワイズマン　お主、理由も目的もなく戦っているのか？
フェイ　うるさいっ！　それを探している最中だ！
ワイズマン　……やめておけ、お主に見つけられるハズがない。
フェイ　何だと！
ワイズマン　お主は前を向いているようでいて実は足下のみ、己の事しか見ておらん。それでは何も見つけられんよ。
フェイ　そんな事、あんたに解る訳が…
ワイズマン　解るさ、こうして拳を交えれば大抵の事はな。
フェイ　くっ！　黙れっ！！
ワイズマン　ぬるい、ぬるい。そんな撃ち方ではかすりもせん。まぁそれでも見かけだけは大分たくましくなったようだな。
フェイ　？？
ワイズマン　よくあの怪我から回復したものだ。フェイよ……
フェイ　！！　なぜ、俺の名前を知っている！？　さっきだってそうだ。俺は本名でエントリーした憶えはないぞ。それに怪我から回復って………………！？　あんた、まさか！？
ワイズマン　……むっ！？
フェイ　？？
ワイズマン　なんと……最早そのような刻限であったとは…………致し方ない。さらばだ！
フェイ　！！　待ってくれ！　あんたには聞きたいことが……！
審判　……えー、オホン。ワイズマン選手、試合放棄とみなし、残った選手の不戦勝と致します！
フェイ　ワイズマン……。

マルーの部屋

マルー　！　若！
バルト　マルー、帰るぞ！
マルー　絶対来てくれると思ってたよ！
バルト　手間かけさせやがって！　脱出するぞ。ついて来い。
マルー　うん。あ、ちょっと待って。これ、お気に入りなんだ。

廊下

マルー　若っ！
バルト　クソッ！　ゲブラーか！
ラムサス　やはりネズミが紛れ込んでいたか。小僧、その娘をどこに連れていくつもりだ。
バルト　小僧とは何だっ！　小僧とはっ！　もういっぺん言ってみやがれっ！　誰なんだ、てめぇは！
ラムサス　その威勢の良さだけは買えるが、貴様ごときネズミに名乗る名を私は持ち合わせていない。
バルト　何をっ！
ラムサス　さあ、マルー殿をこちらに渡してもらおうか。その方は我らにとって大切な客人でな、『ファティマの碧玉』の半片の所在を聞き出すまではむやみに連れ出されては困るのだよ。
バルト　ふんっ！　月並みだがな、渡せと言われてハイそうですかと渡すと思ってんのか？　ざけんじゃねぇぞっ！　え？　おっさん！
ラムサス　ふっ、ならばその月並みのたんかを切った愚か者の末路も知っているだろうな。
ミァン　その子を本当にまもりたいのなら投降なさい。バルトロメイ王子。
バルト　ほぉ？　俺のことを知ってるのか。へへッ、あんたみたいな美人に名前を知られてるってのも悪くない気分だな。
マルー　若ってばっ！
ミァン　シャーカーンとの間で色々あったようだけど悪いようにはしないわ。シャーカーンとの事は、我々には“どちらでもいいこと”なのよ。
バルト　しゃらくせぇ！　うれしい申し出だが、聞けないね。俺にとっちゃ、“どっちもよくない”んでね。
ラムサス　……では、決まりだな。
バルト　ちっ……マルー！　そこの物影に隠れていろ！
マルー　やだ！　ボクも戦うよ！
バルト　いいから隠れていろっ！
＜対ラムサス戦＞

フェイ　バルト！！
大丈夫か、バルト！
バルト　フェイ、助かったぜ！
ラムサス　フェイだと……？
フェイ　何やってたんだよ、バルト。とっくに脱出したものとばかり思ってたのに。
バルト　うるせぇ！こいつらに邪魔されて身動きとれなかったんだよ！
ラムサス　（今の技は……あの時の……）まぁいい。戦えば判ることだ！

バルト　気を付けろフェイ！　このおっさん相当手強いぜ！！
ラムサス　（姿は……まるで違う……手応えも皆無。やはり気のせい？だがあの技は確かに奴の……それに……フェイという名前……どこかで……）
ラムサスに語りかける声　フェイ……それが私の子の名前……
ラムサス　！！　くっ！
マルー　後はボクにまかせて！
バルト　マルー？
ラムサス　ネズミ？
フェイ　今だ！
ラムサス　（やはり“奴”なのか……まさかとは思いたいが。だが、もし本当に“奴”であるのならば……俺は……この俺は……）……塵＜ごみ＞……。警備兵！　今後昼夜を問わず警備を倍に増やせ！　二度とネズミ共を城内に立ち入らせるな。

●ファティマ城脱出

バルト　おい、フェイ！　このエレベーターがどこにつながってるか、わかっているのか？
フェイ　どこにつながっているんだ？
バルト　知らん！　オレがいた頃、こんなものは無かった。心配するな。絶対に連れて帰る！
マルー　心配なんかしてないよ、ボク。
バルト　ところでフェイ、大武会はどうなった？
フェイ　ああ、優勝したよ……。いちおうな……。
バルト　やっぱりな。オマエならやると思ってたぜ。

戦艦ドック

フェイ　あれは…………ゲブラーの空中戦艦だ。

マルー　それよりも、あれ！

バルト　もう一戦やらかすか？

マルー　若、早く逃げようよ！

フェイ　ここは……逃げよう！

ゲブラー兵　基地内に侵入者あり、侵入者は三名。現在、ドック付近を逃亡中。男性二名は見つけ次第射殺、ただし少女は無傷で保護せよ

エリィ　フェイ！

フェイ　おまえ！　エリィか！？　なんでこんな所に？

エリィ　あなたこそ、どうして……！侵入者って、まさかフェイなの？

フェイ　は？

バルト　おい！　俺達の邪魔をするってんなら悪いが……。

フェイ　ちょっと待ってくれ、バルト！　こいつは、エリィは敵じゃないんだ！

バルト　敵じゃないって、お前正気か？　こいつの服を見ろ！　ゲブラーの士官じゃねぇか！

フェイ　…………。

アヴェ兵　こっちに逃げたんだな？

エリィ　早くっ！　こっちへっ！

エリィの部屋

エリィ　……行ったみたいね。

バルト　フェイ、説明してもらおうか。なんでお前がゲブラーの士官と面識があるんだよ？

フェイ　それは……。

バルト　どこで知り合ったか知らないが、こいつはどっからどう見てもゲブラーの士官だぞ？　敵じゃないって、お前、わかってて言ってんのか？

エリィ　そうよ。神聖ソラリス帝室特設外務庁……通称ゲブラー……。火軍＜イグニス＞突入三課少尉、エレハイム・ヴァンホーテン……。そして……キスレブの軍事工場に潜入して新型ギアを奪取、帰還途中追撃隊の攻撃を受けてあなたの村に不時着したのも……。

フェイ　…………。

エリィ　話そうと思ったわ、何度も……。けど言える訳ないじゃない。私が村に不時着したせいであんな事になったなんて聞いたら……、言えないわよ……。

フェイ　……知っていたさ。

エリィ　！？　フェイ……。

フェイ　聞いていたんだ。エリィと先生の話。

エリィ　だったら何故？

フェイ　あれは……俺の責任なんだ。なのに俺はエリィに自分の感情をぶつけちまった……。すまないと思っている。

エリィ　そんな……。

フェイ　あの事はもう忘れてくれ。エリィはエリィで必死だったんだから。
エリィ　フェイ……、なぜ彼等と？
フェイ　俺は、バルト達に協力しているんだ。城に幽閉されていたそこのマルーを救出する為にな。
エリィ　そう……。
バルト　おい！　ちょっと待て！　どこに行くつもりだ！
エリィ　城から脱出したいんでしょ？　今なら混乱しているから、ギアの射出口から抜け出せるわ。
バルト　なるほどそいつは名案！　……って素直に信じると思ってんのか？　俺を甘く見るなよ！　うまいこと言ってこの野郎、俺達をあのハゲジジイの前に突き出すつもりだな！？　だまされるなよ、フェイ！
フェイ　…………。
マルー　待ってよ、若。この人そんなに悪い人じゃないよ。ボク達を助けてくれるって言ってるんだから言うとおりにしようよ。
バルト　お前って奴は、どうしていつもそうなんだ。こいつはゲブラーの人間なんだぞ？　お人好しにもほどがある！
マルー　そんなことないって。ね？　エリィさん、そうでしょ？
バルト　どうだかな？　第一……フェイ、お前はどうなんだよ？　信じるのか？そいつを。
フェイ　信じるも何も、俺の考えは最初から決まっている。
エリィ　フェイ……。
バルト　かーっ！　ったく、どいつもこいつも！　知らねぇぞ、どうなっても！
エリィ　ちょっと待ってて。いいわ、ついて来て！

ギアドック

エリィ　はい。ギアの起動キーの暗証番号。汎用のギアはすべてそのコードで起動出来るから。
フェイ　エリィ？
エリィ　私に出来るのはここまで。後はあなた達の運次第……。
バルト　よしっ！　フェイ、行くぞ！　何やってんだ！早く来い！
フェイ　エリィ！　一緒に行こう！
エリィ　！？
フェイ　お前はこんなとこにいるべき人間じゃないんだ！
エリィ　フェイ……。
バルト　何トチ狂ったこと言ってんだ、お前は！　そんな奴ほっといてさっさと来い！　見つかっちまう！
フェイ　エリィ……。
エリィ　ありがとう、でも無理。私は……ソラリスの軍人だから……。私には私の居場所があるの。一緒に行くことなんて出来ない。
フェイ　エリィ！
エリィ　フェイ、今度会うときは……私達、敵同士ね。

戦艦ドック

ラムサス　ミァン！　私のワイバーンの立ち上げを急がせろ！　奴等を追……。
ゲブラー兵　閣下！（閣下、ヒュ……様が…………）
ラムサス　……何！？　立ち上げは一時中止！　総員部署に戻り別命あるまで待機！　……奴め、今時分何用でここに……。

ユグドラシル

シグルド　さて、マルー様、うかがいましょうか。こうして助かったから良い様なものの、何故お一人で敵陣へ？
マルー　ごめんなさい……だって……こないだ町へ出た時、人が噂してたんだ。アヴェに捕らわれた法皇府の修道女達がまだ生きてる、って……。
シグルド　明らかに敵のまいたデマですね。貴方を誘い出す為の。
メイソン　まあまあ、そう厳しくされずとも…法皇府ニサンは、マルー様のお里。心情としては、致し方ありますまい。
バルト　それで……一人で助け出せると思ったのか！ このバカが！！
マルー　思ったんだよ！　悪かったな！！　でも……でも……本当はおばあちゃんもママも、とっくに処刑されてた……
シグルド　マルー様……
メイソン　さてさて、何はともあれ、こうしてマルー様は無事でおられる。それで、よかったではありませんか。この幸運に恵まれているうちにマルー様をニサンに無事にお送りいたしましょう。つもるお話はそれから、という事で。どれ、私はマルー様のお部屋の用意でもしてきます。マルー様、お手数ですが、ご足労願えますかな？

バルト　マルー！！　次からはちゃんと云え！！　俺達が出てやるから！
マルー　うん……そうする。
シグルド　マルー様も随分無理をしておいでだ。若。あなたが、気遣ってあげねば。

●ブリッジ入口

バルト　マルーのやつ、こんなとこに変なぬいぐるみ置きやがって！ブリッジに入れないじゃねぇか。
ぬいぐるみ　変じゃないでチュ！
バルト　コラッ、フェイ！！　変な声出すんじゃねぇ！
フェイ　えっ、俺、なにも言ってないぜ？
バルト　……。なんだか気味悪いな……。マルーに言ってどけてもらおう。

マルーの部屋

バルト おい、マルー！　ブリッジの前の変なヌイグルミどかしとけよ！　邪魔でしょうがねぇ。

マルー “変なヌイグルミ”じゃないよ！　ちゃんと名前があるんだからね！　名前はね……名前はチュチュって言うんだ！　でも、おっかしぃなぁ。さっきまでそこに置いてあったんだけど……。

チュチュ はじめまチュて！！　わたチュはチュチュといいまチュ！！　アヴェで一目見た時から……フェイ、あなたにホレたっチュ！！　どこまでもついていくでチュ！！　キャ、コクハクしチャったでチュ！！

バルト ヌイグルミかと思ってたら生き物だったのか！　なんか変だと思ったぜ！

マルー 妙にナマあたたかいと思ったんだ！

フェイ なっ、何だよ！

バルト ひゅーひゅー、お似合いだぜ、フェイ！！

フェイ うるせぇ！！

バルト よしよし、艦長の俺が許可する！

チュチュ やったでチュ～！

フェイ ……、勝手にしろ！

バルト ハッハッハ！　お邪魔みてぇだから外で待ってるぜぇ！

マルー ……。お城ではありがとね。大武会で大暴れしたんだって？　若が自慢してたよ、マブダチだって。

フェイ ……。そ、そうか？

マルー ダメだなぁ、ボク。若の助けになりたいのに、また借り作っちゃったよ。フェイさ、若の背中、見た事ある？　むごいんだよ、背中一面にキズ跡があって。あれね、昔、二人してシャーカーンに捕まってた時にボクのかわりにぶたれてくれて……。その時にボク、若の子分になろうって決めたんだ……！　でも守られてばっかなんだよなぁ、いつも……。

フェイ ……。

マルー あっ、ごめんごめん、とにかく助けてくれてサンキュ！

ガンルーム

メイソン ううっ、マルー様がニサンにお戻りになられるとは……。思えば王都脱出は二度目ですな。まだ小さなお二人を連れ出した夜をずいぶん昔に感じます。

バルト ついでにこの艦まで盗み出したんだからダイタンだよな。王国の主力兵器だったんだぜ？

メイソン は、シグルド様の手柄かと。お若いのにたいしたものです。それにユグドラシルは亡き先王がこよなく愛された、若にとって形見ともいえる艦。

バルト なんか、俺の人生って奴に頼りっぱなしなんじゃないか？　元は俺付きの騎士だっても、今の俺はただの海賊のガキなのに！

メイソン いずれは若も立派な主になられますよ。

バルト　いいかげんヒヨッコから成長しなきゃカッコつかねぇなぁ。でなきゃあいつに勝てゃしない。
メイソン　……。

機関室

機関士1　ニサンまでもうひとふんばりだっ！！　がんばれ、エンジン！
機関士2　ニサンに行けばまたエンジンを休ませてやれるな。この真下、周りの6本柱に沿って大きなドーナツが走ってるでしょ？　そいつの中にわき出るプラズマがこのフネの動力源だ。ギアでも一緒だよ。
機関長　よくやった！　無事マルー様を救出したぞ！　なにやらフェイとか言う格闘の達人のおかげだとか。やっ、お前、こんなとこブラブラしてねぇでフェイとやらみてぇに修行にはげめ！！

ブリッジ

シグルド　若、マルー様のお話によるとゲブラーに少々やっかいな人物がいるようです。
バルト　何者なんだそいつは？
シグルド　カーラン・ラムサス。神聖ソラリス帝室特設外務庁……つまり、ゲブラーの総司令官です。ゲブラーの目的がアヴェ周辺の発掘だけであるとは思えません。
バルト　碧玉が目的じゃないってのか？
シグルド　それだけであるならば、あれほどの男がわざわざ来る必要がない。若、今回のは意外に面倒なようです……。
フェイ　先生はまだ来てないのか？
シグルド　……。ヒュ、いや、やつなら心配ない。じき合流するだろう。ニサンには秘密通路から入る。砂漠に一本だけ木が立っているのが目印だ。

ユグドラシル船室

シグルド　……。そうかそれで地上に……。よかろう、お前のことは分かった。しかしカーラン・ラムサス……、アヴェにあいつが着任したのは厄介の極みだ。
シタン　余程本国に特殊な事情があったのでしょう。
シグルド　ああ……恐らくはな。
シタン　勝ち目がない、とは言い切れません。かつて指揮官養成学校<ユーゲント>でエレメンツと呼ばれた貴方と私がこうしてこちらにいるのですから。
シグルド　だといいのだがな。
シタン　ところで彼女は未だ……？
シグルド　フェイ君の話では、カールの側に女性の副官がいたということだ。インディゴブルーの目と髪をした女性だったと言っていたから、恐らくは彼女だな……。
シタン　ということはかつてのエレメンツ全員がこの地にいる訳ですね。
シグルド　そうなるな……。ヒュウガ。俺は……正直言って彼女が恐い。カールを影で支え、誰彼の別無く優しく振る舞う彼女の姿勢は良く知っている。だがな、俺は彼女に何か得体の知れぬ恐怖を感じることがあったんだ。カールがこの地にいることよりもむしろそちらの方が気にかかる。
シタン　まさか……。彼女に限ってそんなことは……。
シグルド　ああ、俺もそう思いたい。だが昔から俺のカンは良く当たるだろう？
シタン　確かに……。ところで、若くんには……？
シグルド　ああ、まだ話していない。ソラリスの目的がなんなのか、確証が得られない以上は余計な心配をさせたくない。いずれは知らねばならぬことだがな。時にヒュウガ、お前は何かつかんでないのか？
シタン　いえ、私も詳しくは……。中枢部に入る前にあそこを出ましたから……。

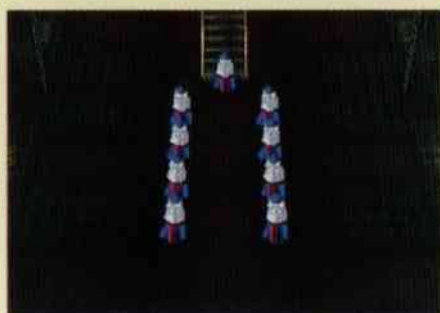
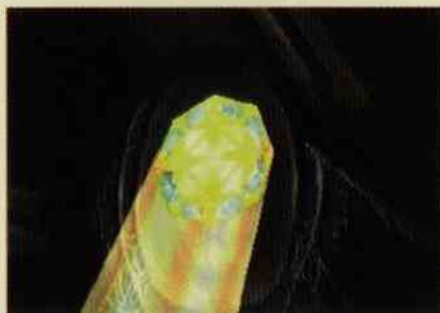
バルト　（フェイ！！）
フェイ　（なんだ、バルトか。おどかすなよ……）
バルト　（すまん、すまん。しっかし、どうやらうちのシグとお前の先生は知り合いらしいな。シグの奴……ずいぶん俺の知らない部分があるんだな）
フェイ　（先生、いつの間に戻ったんだ……？）

シグルド　私は残って艦内のチェックをしておきます。メイソン卿、宜しくお願いします。
メイソン　御意。では、お供つかまつる。
――――　バルト様、お変りないようで。
バルト　まあな。で、街の様子はどうだい？
――――　数日前に王都から進軍の可能性があるとの知らせを受けて、法皇府の代表が話し合いを続けております。
バルト　何か対策でも考えてるのか？
――――　とりあえず、周辺の防備は進めております。また、今回の情勢を聞き付けてか各方面から反シャーカーン派の者たちがこの地に集まっています。

バルト　それは心強いな。
――――　はい。しかし、逆に住民達に不安の色が出始めています。北方の山奥へ避難する者も現れ始めました。
バルト　まあ、無理もないだろう。
――――　ところでマルー様は……
バルト　ああ、心配してたよりは元気だったよ。といっても実際のところつらい思いをしただろうが。
――――　マルー様！　よくぞ御無事で。
マルー　ありがとう。
――――　大教母様が御帰還されたとあって街の者たちも喜んでおります。

マルー　うわあ！　久しぶりだなぁ。
シタン　さて……まずはマルーさんをシスター達のもとへお連れしましょう！
バルト　……ん？　爺、どうした？
メイソン　ううっ……マルー様がこの街に……感激です！
バルト　お……おいおい爺。
メイソン　も……申し訳ありません。つ、つい……。私は……私は艦に残った者たちに指示を伝えておきます。若はマルー様をシスターの元へお連れ下さい。……では。

――――　バルト様！　お元気そうで何よりです。
――――　先程、隠し港の方から一足先に連絡をもらったのです。
――――　既に修道院の方々にも知らせてあります。すぐにマルー様を連れて行ってあげて下さい。きっとお喜びになられることでしょう！
マルー　早く行ってシスターに会わなくちゃ。

ニサン大聖堂

――――　マルー様！
マルー　みんなただいま！
――――　マルー様……よくご無事で……。
マルー　うん。若達のお陰でね。
――――　先程知らせを受けてから……祝福の詩を詠唱していたところなのです。本当に……よかった。
アグネス　お帰りなさいマルー様。私ども皆、マルー様とバルト様の御無事を信じて……今日まで他の同志達とお待ちしておりました。
マルー　シスターアグネス！

アグネス 残念ながら……お母上と聖太后様は……。
マルー うん。……王都で聞いたよ。……でもボクはこうして帰ってきた。これからはどこへも行かないよ。これ以上みんなに心配はかけないからね。
アグネス そうですね……。
マルー なんだかシスターアグネスらしくないなぁ！　せっかくこうして元気に帰ってきたんだからさ。前みたいに小言の一つでも聞かせてよ！
アグネス ……すいません。でもあまりに嬉しくてつい……。
―――― シスター……。
アグネス ……しんみりしてもしょうがありませんね。さあ、みなさん！　マルー様の御帰還を祝して……そして私たちの喜びを天に伝えるために、終わりまで詠唱しましょう。
マルー ……ありがとうみんな。……そうだ、ボクは2階に上がってもいい？　久しぶりだもの。上を見てまわりたいんだ。
アグネス ええもちろんですとも！　なにも遠慮なさる事はありませんわ。ただし……くれぐれもおいたをなさってはいけませんよ。
マルー ははっ！　そう言うと思った。やっぱりアグネスはそうでなくっちゃ！
―――― マルー様、本当によかった。
バルト ここへ来るのも久々だな。……？　マルー、どうかしたか？
マルー ううん、何でもない。ただ何かさ……少しグッときちゃった。……へへへ。
バルト ……まっ、とりあえずゆっくりしろや！　……お前は充分がんばったよ。
マルー ……泣かそうったってそうはいかないよ。そうだ！　フェイ達に大聖堂の中を案内してあげるよ。ついてきて！
シタン 強いお方ですね。本当は泣きたくてしかたないでしょうに……
バルト まあな……あいつは昔からそうさ。なんだかんだいって自分の立場をよくわかってる……。俺もちったぁ見習わねえといけねえのかもな。

シタン ……素晴らしい！
マルー 昔ね、よくイタズラして叱られると若とこの下へ隠れたんだ。
バルト お前、そんな昔の話いうなよ。格好悪いだろ！
マルー でも、ボクから見たら若はあの頃とあんまり変わってないけどなー。
バルト なにぃ～！？　それって俺がガキだって言いたいのかぁ～！
マルー ボクはここからの眺めが一番好きだな。
シタン う～む、確かに！　正面のステンドグラスから外の光が差し込んできて……見事な演出効果ですよこれは。
マルー ね、この大天使様って二人とも翼が一枚ずつしかないでしょ？　ニサンの言い伝えではね……神様は、人間を完璧に造る事も出来たんだけど……そうすると人間達はお互いに助け合わなくなっちゃうから……だからこの大天使様達は翼が一つずつなの。飛ぶ時はいつも一緒なんだよ。
シタン ほう。そういう理由があったんですね。成る程……良く観れば左の天使像はどことなく男性的だし……反対に右のは女性的だ。ああ。こういう造作も珍しいなぁ！　本来こういった

物は中性的な物が多いのに。敢えて分けてある。そして、その間が神の降臨する道……否、到る道なのかな？　まぁ……とにかくそうなる訳なんだ。……そうかそうか！　これはニサンの教えとも符号するなぁ。

マルー　ハハハ！　シタンさんって面白い人だね。
シタン　ああっ！　いやいやこれは失礼。つい、いつものくせで……。
フェイ　先生って物知りなんだよ。時々俺も何を言ってるのかわかんない時がある。
バルト　……ったく、どうでもいいけどよ……わざわざ二人で飛ぶなんて……かったるいよな、フェイ？
マルー　んもう、若はせっかちだなぁ！　ボクは、いつかこうやって誰かの助けになりたいな……そうだ、ソフィア様の間にはまだ行ってないよね？　本当はちゃんとした手続きをとらないと観られないんだけど特別に見せてあげるよ。
フェイ　ソフィア様？
マルー　うん。ソフィア様。このニサンの建国の母と呼ばれているお方で、ニサン正教そもそもの教義を創られた神祖様なんだ。そのソフィア様の肖像画の間がこの上にあるんだよ。
シタン　それは是非拝見したいなぁ。フェイ、行きましょうよ！

●壁画の間

シタン　これはまた……。目も及ばない程の妙齢のご婦人ですね。……それにしても……似ているなぁ。ねぇ、フェイはどう思います？
フェイ　ああ。俺も今そう思っていたところだよ。髪の色こそ違うものの、雰囲気なんかはそっくりだ。
シタン　え？　髪の色？　なんの事です？
フェイ　何って……樹海で会ったあいつに……エリィに雰囲気がそっくりだって……違うのかい？
シタン　ああ、そう言われれば……確かに似てますね。いえ私が聞いたのは……この絵の筆運びの技法なんかがフェイの描く絵に似てますねってことだったんですが。
フェイ　……そうか？　似ているかなぁ……第一、俺はこんなに巧くはないよ。
シタン　いやいや似てますよ。でも、どことなくこの絵には哀しげな雰囲気がありますね。微笑みかけているのだけど何か憂いに満ちたような表情をしている。この絵の女性の持つ内面を反映しているのか……それともこの絵の描き手の心情の発露なのかは判りませんけど。ああ。それに良く観るとこの肖像画は描きかけだ。完成間近にして筆を置いている。……何故なんです？
マルー　それはボクにもちょっと……。おばあちゃんなら何か知っていたかも知れないけど。そうだ。アグネスに尋ねれば何か知っているかもしれないよ。それじゃ、ボクはアグネスのところにいるから。

バルト　俺達はひとまず街へ戻るとするか。
シタン　そうですね。ただ、私はどうしても絵の事が気になるんですよ。帰る前にシスター・アグネスのところへおじゃましてもいいですか？
バルト　じゃあ帰りに寄ってくか。

●微かに甦る遠い日の記憶

・ラカン……

シタン　どうしたんですかフェイ？　ぼぉーっとして……
フェイ　あ……い、いやなんでも……

●シスターの部屋

アグネス　ソフィア様の絵をご覧になったそうですね。あの絵のお方はニサン教の初代大教母……一説では今から500年程前に描かれたものだと云われております。
シタン　500年前ですか……そいつは凄いな。個人的に大変興味深いのですが、何か当時を伝える史料等はないのですか？
アグネス　我々の手もとにそのようなものは一つも残っていないのです。ソフィア様に関する記録等は全て紛失してしまっていて……形として遺っているものはあの肖像画だけ。私どもも詳しくは判らないのです。

シタン　そいつは残念だなぁ！　本当に何もないのですか。
アグネス　私としてもマルー様にお力添えして頂いた方とあれば、喜んでお見せしたいですが……こればかりはさすがに……
シタン　あ、いやそこまで気を使って頂かなくても結構です。でも、何となく不思議ですね。これだけの偉容を呈した建造物が存在したなら、伝記のひとつやふたつあっても不思議ではないのに……

アグネス　言い伝えによれば、ソフィア様が生きておられたのは500年ほど前であられたということ……人々の為に自らを犠牲とされ、神の御下に召されたということだけなのです。
シタン　……なるほど。全ては歴史の闇の彼方というわけですか。
マルー　ソフィア様ってどんな方だったんだろうね。一度でいいから会ってみたいな。

●仮アジト

メイソン	若ぁ～！　ニサンの方々の御好意でこちらの家を貸して頂く事になりました。しばらくの間、宿をとられる必要はございません。ついては今後の動きについて話し合う必要があるとシグルド殿が申しております。
バルト	そうだな。で、シグの奴は？
メイソン	中でお待ちしております。
バルト	わかった。
シグルド	ここはいつ来ても心なごみますな。それはそうと、若……今後の計画を練りたいのですが。
バルト	ああ。……だがその前にお前に聞きたい事がある。
シグルド	……私に？
バルト	そうだ。シグ……。あのゲブラーの将校とお前とは、どういう関係なんだ？　お前は奴に……、いや、ゲブラーについてやけに詳しいじゃないか。
シグルド	……解りました。お話しましょう。私と……ここにいるシタンは……昔、ソラリスにいたことがあるのです。
バルト	ソラリス……てことは、つまり……ゲブラーの本国の？
シグルド	そうです。ソラリスは……国外の人間を『ラムズ』と呼び……、自らの国家運営の労働力として使っていました。まぁ、言ってみれば奴隷みたいなものです。
バルト	奴隷だと？　あの野郎とはそこで出会ったのか。
シタン	まあ、そんなところです。
シグルド	我々は、ソラリス政府の一員として、しばらく活動していたのですが……彼等のやり方にいつしか反感を覚え、機を見て脱出してきたのです。
バルト	……奴等の仲間だったってのか。お前とは、俺がガキの頃からの付き合いで、以来ずっと一緒だ。……て事は、今の話はそれより前からって事になる。確かに昔の俺だったらそんな話を聞かされても理解できなかったかもしれないが……今の俺にだったら話してくれてもよかったんじゃないのか？　しかも、それが今ファティマ城でシャーカーンとつるんでる奴等と関係してるんだったら……早く教えて欲しかったぜ。
シグルド	……その事に関しては、もはや弁解のしようがありません。しかし、これだけは信じて頂きたい。我々がソラリスから離反したのは己の意志に基いた確たる理由があっての事……それに今こうして我々の前に彼等が姿を現した以上、黙って見過ごすわけにはいかない。私は彼等の動きを止める為ならこの身を犠牲にしてもいいとさえ思っています。
バルト	よし、わかった。じゃあ、もう少し詳しく話を聞かせてくれ。さっきの話で引っ掛かったのが『地上人』って呼び名だが……なんだか、ソラリスが別の所にあるみたいな物言いだな。雲の上にでもあるってぇのか？
シグルド	ええ。ソラリス帝都、エテメンアンキは天空にあるのです。ソラリスと地上とは、『ゲート』と呼ばれる歪曲空間によって閉ざされており地上との行き来は特別な移動手段……例えば空中戦艦のようなものを使わないと不可能だった。アヴェへ戻るには、地上へ向かう定期連絡船に潜り込んできました。
シタン	私は彼よりも数年後にやはり同様の手段で出奔したんです。

バルト　『ラムズ』って何だ？
シグルド　ソラリス側が、我々地上に住む人間を指す言葉です。先程申したように、彼等は国家運営の労働力として我々地上人を使っています。労働力といっても一次産業に従事する者から兵士まで様々。ソラリスはそういった労働力を地上人の中から集めています。仕事は個々の適性に応じて振り分けられますが、場合によっては洗脳を施して使役させていました。
バルト　洗脳！？
シグルド　私は……まだ、若が幼い時分に……ソラリスに被験体として拉致されたのです。恐らくはこの私の中に、彼等にとって何がしかの有益なものがあったからでしょう。
フェイ　……先生も？
シタン　いえ……私はあそこの下層市民街の生まれです。厳密に言えば違うのでしょうが……一応ソラリスの人間です。どんなに科学技術が向上しても国家運営の基幹はやはり人なんですよ。それなくしては維持は困難です。
シグルド　純粋なソラリス人は少ない。総数ではアヴェの人口の四分の一にも満たないのではないかな。つまり、残りを地上人で補う事で国を維持しているわけです。
バルト　あの男は何者なんだ？
シグルド　名前は、カール……カーラン・ラムサス。若も既に御存知の通りゲブラーの総司令官です。
バルト　ラムサス……か。
シグルド　我々はカールと呼んでいました。ソラリスには『ユーゲント』と呼ばれる指揮官養成学校があります。彼はそこを出た後、任官しました。
シタン　私と同じ、下層市民の出です。しかし、卓絶した能力を持ち合わせており……その後、異例の早さでもって軍部でその頭角を現していったのです。
シグルド　あの男にはひとつの理想がありました。そして、それを達成する為に同志を集めていたのです。地上人であっても、有能であれば次々と軍の要職に登用していきました。
バルト　それじゃあ、二人共ラムサスに……？
シタン　いえ、私達はラムサスによって引き上げられたというよりは……彼の志に同調したのです。
シグルド　その当時は……です。
シタン　当時のラムサスは、まさに私達の希望でした。彼は自身が抱いていた高邁な理想のもと、ソラリスを新たな体制へ変えようとしていたのです。下層市民や被験体として生きねばならなかった私達にとって、彼は希望だった。
バルト　恩人ってとこか。
シグルド　確かに……私の被験体としての人生を変えた男と言えます。
バルト　じゃあ、何でまたソラリスから逃げようと思ったんだ？
シグルド　ラムサスのおかげで軍の要職に就いた我々は、そこでようやくソラリスと地上との関係を知りました。
バルト　つまり……ラムズ……だな？
シグルド　単に労働力として使役させるだけでなく、私のような被験体を選出、その人間の人格を変え、闘争心と潜在能力を引き出す薬物を投与し、精製する為の人体実験もしていた。

バルト　人体実験だって！？
シグルド　例えば……『ドライブ』。現在、彼等が使用しているあのような類の薬品はそれらの人体実験によって得られた副産物なのです。
シタン　といっても当然被験体の役割はそれだけではありませんが。
フェイ　そのドライブとかって薬はソラリスの軍人なら誰もが使うものなのか？
シタン　少なくとも地上派遣部隊であるゲブラーの兵であれば誰もが使用しているでしょう。
バルト　お前、気になるんだろう？　あいつのことが。
フェイ　……！
バルト　あったぜ。あいつの部屋に。
フェイ　そんな……。
バルト　……にしても奴隷に被験体か……。とんでもねぇな。まあ……だいたいのところはわかった。爺！　街に頼んで議事堂を押さえといてくれ。話の続きはそこでやろう。俺は少し風に当ってくる。
シグルド　……もっと早くに打ち明けるべきだったかもしれないな。
シタン　気にしない方がいいですよ。あなたなりに考えての行動だったのでしょう？　若くんならわかってくれますよ。
メイソン　きっと若にとっては想像もつかないような話だったに相違ないでしょう。
フェイ　……ひょっとして、あなたは知っていたんですか？
メイソン　さよう。しかし、シグルド殿に打ち明けられた時には、私も黙っているべきだと思ったのです。どうか、若を励ましてあげて下され。

●橋の上にて

バルト　シグにあんな過去があったとはな。
シタン　まだ、シグルドを疑ってらっしゃる……？
バルト　……っつーか、まあ、あんまり突然だったんでな。何て言うか、もっと違う話を期待してたってとこはあるな。若い頃からの敵同士で……とかなんとかさ。それにしたって、さっきの話に比べりゃ、大した事ないだろ？
シタン　ふむ。ところが、話を聞いてみたらそんな程度の事ではなかったと。かつてはあのゲブラーの将校と手を組んでいた事があり……おまけにそのゲブラーの背後には聞いた事もないような国が存在していた……。

バルト　何だよ、突っ掛かるような言い方だな。
シタン　いや、もちろんあなたを責めるつもりはありませんよ。ただね……彼の気持を考えるとあなたに打ち明けられなかったのも無理はなかっただろうと思うんですよ。今までソラリスの他国に対する行動は、あくまで自国を維持する範囲を超えてはいなかった。それに、あなたもご覧になった通り、彼等の兵力は強大だ。彼としてはまず、このイグニス大陸の問題を片付けた後のその次の段階として、ソラリスの事を考えていたのではないのかな。はやって勝ち目のない戦をするよりは、まずしっかりした地固めをするのが先決と考えるのも、自然な選択に思えます。
バルト　まるであいつと気持ちが通じ合ってるみたいな言い方だな。
シタン　まあ、確かに短い付き合いではありませんからね。それに、ソラリスを抜け出そうと決意するまでの間に、お互い色々話しましたから。
バルト　それなんだが……。何で逃げ出してきたんだ？　例のラムサスって奴は"希望の星"だったんだろ？
シタン　ええ、確かに最初はそう思った。しかし、結局は彼の考えているのもそれまでの体制と同じだという事がわかったんです。簡単に言うと、階級を重んじるか能力を重んじるかの違いだけのね。所詮それは毛色が違うだけで依然としてソラリス自体と何ら変わるところはなかった。彼も全ての国民を救い上げようとまでは考えていなかったんですよ。
バルト　いわゆるエリート主義ってやつか。確かに俺も気に入らねえな。なぁ、シタンさんよぉ。俺がゲブラーに勝てると思うか？
シタン　彼等と闘うつもりですか？
バルト　奴等がシャーカーンと手を組んでいる以上、避けては通れないだろ？　このままだと、いつか奴等とは一戦交えなきゃいけないのは確実だと思うんだ。
シタン　そうですねえ……仮に、今この地にいるゲブラーの部隊に勝ったとしてもその先にはソラリスがいるという事は、その後も新たな勢力がやって来る可能性があります。下手をするとシャーカーン相手よりも長い戦いになるかもしれませんよ。いつまでも今の状態のままではかなり辛いんじゃないですか？　もっと多くの人の力を借りる必要があると思いますね。
バルト　シャーカーンを倒してもゲブラーみたいなのはなくならないのか……。つまり、あんたはこう言いたい訳なのか？　"ゲブラーを倒したければまずは王座につけ"と？
シタン　ふむ……まぁ、そういう捉え方も出来るでしょうね。
バルト　なにが"そういう捉え方"だよ。まぁ、確かにそういう時期に来てるのかも知れんな。

●アヴェ奪回作戦

シグルド　道具屋からテーブルを借りてきました。若のためなら何でも調達するから、遠慮なく言ってくれとの事です。
バルト　ありがたいな。そういえばガキの頃あそこの売り物を拝借してひどく怒られたっけ。

フェイ　拝借したって……何を持ち出したんだ？

バルト　船のオモチャだよ。……というか置物だったかな。そいつに花火を仕掛けて聖堂の湖に浮かべてさ。軍艦ごっこみたいな事をして遊んでたんだ。もうあまり覚えてないけど湖を大海原に見立てて……大艦隊を指揮官してるつもりになってたような気がする。まあ昔の話はいいや。さっそく始めるとするか。まず……厄介なのはゲブラーだな。

シタン　ラムサスは目的に向かって邁進している。ゲブラーの司令官という現在の地位が何よりの証拠です。並の人間では、あの国家体制であそこまで上り詰められはしないでしょう。そして、その男が現在ここイグニスにいるというわけです。正直なところ、状況はかなり不利だと言えます。何らかの手段で相手に隙を作り、そこを一気に攻める事を考えるべきでしょう。

バルト　まずはシャーカーンだけに的を絞ろう。奴を倒してアヴェを平定した後ゲブラーとの折衝の中から次の手を考えるんだ。今の俺達の戦力なら、近衛部隊くらいは押さえられるはずだろ。問題は、その間ゲブラーにどう対処するかだな……。シャーカーンの要請で動いてくるだろう。黙って見てるとは思えん。

シタン　……ちょっと見せてくれませんか。要は、我々が王都を掌握するまでの間、一時的にゲブラーに出ていってもらえばいいのでしょう？　これらが現在アヴェに駐留、展開するゲブラーの部隊ですね？　西方警護部隊、王都防衛部隊そして……キスレブ国境配備の前線部隊。大きく分けると、この三つです。それぞれが、ゲブラーとアヴェの混成部隊で成っていて、このうち大きなものは二つ。王都防衛とキスレブ国境部隊です。ニサン国境の西方警護部隊は、国境監視隊に毛の生えた程度となっています。

シグルド　王都奪還に際してはこの防衛部隊をアヴェ王都から引き離す必要があるか……。

シタン　確か我々にはキスレブ製のギアがありましたね？

バルト　ああ。以前、だ捕したやつがある。

シタン　そいつを使ってニサン国境の西方警護部隊を急襲するというのはどうです？

バルト　なるほど。キスレブがアヴェに侵攻してきたように見せかけ中央を誘い出すわけだな。

シグルド　しかし、国境部隊が襲われた程度で中央が動いてくれるかが問題だな。

シタン　その場合はニサンがキスレブに同調したと見せるしかないでしょうね。それならば確実に動きます。

バルト　ニサンを矢面に立たせろっていうのか！？

フェイ　先生！？

シグルド　確かにシャーカーンはキスレブとニサンの動きにかなり過敏だ。ニサンが動いたとなれば、奴がゲブラーに働き掛けてくるだろうが、しかし……

シタン　もちろん私だって最初からそんな事を望んではいません。ただ、これほどの劣勢を覆すとなるとそれぐらいの覚悟は必要だと思うんです。

バルト　ううむ…まず王都内に潜入する事だ。シャーカーンを倒すにあたっては現地に潜んでいる同志達と合流しなきゃならない。
シタン　あともう一つありました。キスレブ国境沿いの前線艦隊です。
バルト　……！
シタン　先代王の時代から就役している戦艦キファインゼルを旗艦とするアヴェ主力艦隊です。通称、無敵艦隊。確か昨日入った情報では、これが国境付近に配備されたとの事でしたよね？
バルト　やれやれ……。もう少しましな話はないのか？
シタン　そう落ち込まなくてもいいですよ。私はただ、現状の勢力分布を確認したかっただけです。万が一やって来たとしてもその艦隊はそれほど心配には及ばないと思います。
バルト　どういう事だ？
シタン　その前線艦隊についての追加情報として、旧アヴェ司令官が転属してきているとの事です。まぁ転属というよりは左遷……ですかな。その男の名はヴァンダーカム。
シグルド　ヴァンダーカム……ひょっとして、あのユーゲントにいたヴァンダーカムか？
シタン　その通り。若くん、この男はギア出現による戦術転換に馴染めず……旧態依然とした大艦巨砲主義から離れられない男なんですよ。
バルト　要するに頭がカタいんだな？ でかいだけが取り柄で見かけ程の戦力はないって事か。海賊にはもってこいの獲物だがなぁ。
メイソン　若！　今回は海賊行為とは違うのですぞ！
バルト　冗談だよ。
シタン　事実、艦隊に配備されたギアの数はかなり縮小されているらしいです。それにしても……徹頭徹尾、己の信念を貫くとは彼も潔いですねぇ。
バルト　そいつ、脳みそが筋肉で出来てるんじゃねーの？　おちょくりがいがあるなあ。
メイソン　若！！
バルト　わかってるよ！　で、先生から見て、そいつらは俺達のギア部隊でも叩けるのか？
シタン　問題ないでしょう。但しヴァンダーカムはさておき、うまくこちらの思惑通りに陽動出来たとしても、本国には充分な戦力が残っているはずです。その意味では、楽観視はできませんけどね。
シグルド　敵の状況はそれでよいとして我々の出方だが……アヴェに向かう本隊以外に……キスレブ国境側の部隊が王都に戻って来ないように足止めしなくてはならない。
バルト　別部隊が必要か。
シタン　寡兵よく敵を制す……小規模の部隊が望ましいでしょう。
シグルド　小規模な部隊か……。
シタン　フェイが行ってはどうです？
フェイ　俺が……！？
シグルド　ちょっと待ってくれ！　今回ばかりは君たちを巻き込むわけにはいかん。
フェイ　……やるよ。俺にやらせてくれ。いつ決行するんだ？
バルト　……いいのか？
フェイ　乗りかかった船だ。最後まで付き合うよ。

シタン	兵は神速を貴ぶもの。決行は早い方がいいでしょう。
バルト	よし、明日だ！
シグルド	かたじけない…。フェイ君、シタン。
バルト	よしっ！　とにかく勝ち目のない無茶はなしだ！　誰も犬死になんかさせたくない！
メイソン	御立派ですぞ、若！

●翌朝

マルー	おはよう！　どうしたのその顔？　元気ないぞぉ～！　もしかして緊張してる？
バルト	バカやろう茶化すなよ！
マルー	へへへ。……いよいよだね。
バルト	……ああ！　みんな出発の用意できたか？　俺はここで待ってるから。準備が整ったら呼んでくれ。
メイソン	私はこの日をどんなに待ちわびていたことか。
シグルド	出発までまだ時間がある。慌てないで準備を整えることだ。
マルー	若から聞いたよ。フェイも作戦に参加するんだって？　随分巻き込んじゃったね。
フェイ	まあ、ここまで来たら最後まで付き合うさ。
マルー	ありがとう。きっと上手く行くよ。
バルト	準備はいいか？
フェイ	よし！

シグルド	では予定通り、ニサンの同志がキスレブに偽装して西方警護部隊を叩きます。我々はその隙にユグドラシルで王宮を！
バルト	わかった。だがくれぐれも無益な殺生は無しだぜ。アヴェの軍人はもとよりゲブラーの人間もだ。
シグルド	はい。心得ております。
フェイ	俺はヴェルトールでひと暴れだな。
シグルド	頼みます！
マルー	今度会うときはもう“若”って呼べないね。“陛下”……かな？
バルト	やめてくれよ。“若”でいいよ“大教母様”。
マルー	もうー！　その呼び方はきらいなの！
バルト	ははは！　じゃあ、行ってくるぜ！
マルー	うん！　がんばってね。
アグネス	マルー様とバルト様……お二人を見ていると希望が湧いてきますわ。古来アヴェのファティマ王朝はファティマという名になる昔より……御兄弟や御夫婦、お二人で国を栄えさせる御世＜みよ＞が多いのだとか。マルー様が、いずれは法皇府を統べる大教母様として、バルト様と御夫婦で王座に並ばれる日が待ち遠しゅうございますわ。
マルー	ちょ、ちょ、ちょっと、ボクは王妃様とか恋人とかそーいうのは苦手なのっ！　若とボクは一番の仲間なの！
アグネス	ふふ、結婚というのは一番の盟友関係でございましょう。それに、マルー様がこうしてどんどんきれいになられたら、バルト様の方が放っておかないと思いますわ。
マルー	んもぅ、恥ずかしー事言わないでよねっ！

ギアハンガー

ミロク　ギアは、発見されないようにここで、分隊単位で順次発進。明日の12:00に、国境の岩山に集合。いいな？
バルト　いくら旧式艦とはいえ、わずか一個中隊で戦艦の相手だ。きつい戦いになりそうだが、お前らの働き如何でアヴェの未来が変わる。よろしく頼む、この通りだ。
ミロク　任して下せぇ！　若！　ヴァンダーカムの尻尾を引きずり回して、きりきり舞いさせてやりますぜ！！　なぁ？　ぼうず！
フェイ　……俺は"ぼうず"じゃない。死んでも経はあげてやれないぜ、おっさん。
ミロク　ん？　はぁっはぁっはは……では若！　誓って戦果をあげてきます！
バルト　フェイ、お前を巻き込んだ俺が言うのも何だが気をつけてな！
フェイ　……お前もな。
バルト　……俺が……いざという時にはマルー達を頼む。
フェイ　……縁起でもない。らしくないぜ。……が、引き受けた。安心しろ。

●ヴェルトール発進
メイソン　おや、お休みになれませんかな？　明日はいよいよブレイダブリク。若は王子でありながら王都を知りません……。私はそれを不憫だと思って参りました。しかし……今振り返れば王に相応しく育てようとして若に"王"という重荷を背負わせてしまったのでは、そしてそれは前途ある幼子にとって重過ぎたのではないか……、と思うのでございます。私はひどい大人なのかも知れません。
シタン　メイソン卿……。そんなことはありませんよ。若くんが背負うのが嫌なら自分で捨てているでしょう。彼ももう立派な大人です。その重荷を背負うだけの力も持っているはずです。それにその力を若くんに与えてきたのはあなた方なのではないでしょうか。
メイソン　シタン様……。

ユグドラシル・甲板

シグルド　浮かない顔をしてますね。明日は12年ぶりの帰城だというのに。

バルト　帰城か……王宮奪回が成功したら王様か……似合わねぇな。

シグルド　じきに慣れますよ。

バルト　なぁ、シグ……

シグルド　はい？

バルト　別に……別に王様ってのは誰でもいいんだろうな。希望の象徴であれば。俺でなくっても。

シグルド　私はソラリスにさらわれ、実験台として洗脳されました。だが、"帰らねば"という心までは、奴等には消せなかった。その時思い出したのは、一国の王子様ではない、ただの子供の貴方とマルー様でした。私は、王朝再建なんて、どうでもいい。若の家だから取り返したいんです。

バルト　俺の家だから？

シグルド　ええ。その為にも明日はシャーカーンを叩きのめさなくては。違いますか？

バルト　……そうだな、いっちょ、派手にやるか！！

シグルド　では、まず風呂に入ってもらいましょうか！

バルト　風呂ぉ！？

シグルド　そのままでは到底、王者の風格がありません。敵の総大将にまみえるのですから、バシッと決めて頂かなくては！

バルト　お前、今、王としての俺はどうでもいいって言ったばかりじゃないかーっ！！

シグルド　それはそれ、これはこれ、です！

シタン　誰かが待っているから……か。その想いだけで奪われた心を取り戻してしまったとは……全く大したヒトですよ、あなたは。……シグルド……

●エルルの悪夢

ラムサス　（ば、暴走だっ！　止めろっ！　どんな手段を使っても構わん！　奴を止めろーっ！

な、なんてことだ…うっ！　た、た……うわあーーーーっ！！）

ミァン　どうしたの？　大分うなされていたようだけど……また例の夢？

ラムサス　……いや……なんでもない。

ミァン　カール……

●突如、現れるグラーフ

ミァン　覗き見なんて、趣味が良くないわね……。ふふふ、あなたのお目当ては大武会に出ていたあの子かしら？　一目で分かったわ。だって、あなたによく似た子だものね。

グラーフ　法院に手を回し、あの男を使ったそうだな……。何をたくらんでおるのか知らぬが下らぬ密謀なぞせぬ事だ。うぬらの手出しは無用ぞ……。

ミァン　あら、もう貴方のところに……。相変わらず耳が早いのね。でも心配しないで。あなたの大切なものを奪ったりしないわ。協力してあげているのよ。だって、あなたは私を……

バンス　お……？

バルト　どうした？

バンス　いえ……今一瞬、人工的な音源を捉えたような気がしたんスが……

バルト　帝都の近くだ。そりゃ、何ハイかはフネがいるだろう？

バンス　表層じゃありません。砂中です。

バルト　砂中？　潜砂艦は、アヴェ広しといえども、このフネ1パイきりだぞ。

シグルド　アヴェの艦政本部に潜り込ませた連中からも、新造艦の情報は入っていない。バンス、再捕捉は？

バンス　…………再捕捉、出来ません。砂クジラだったかも……

――　若！　Fバンドの使用ゲインが急増中！　王都防衛隊の使用通信帯です！

バンス　おっと……表層に抜びょう音、機関始動音、多数確認！　王都防衛隊……出港スね、これは！

――　キスレブの国境守備隊通信も傍受！　平文です。緊急出動の是非を本国に問うています！　国境でうまく騒ぎが起こせた模様！

バルト　……よし！　状況を開始する！　内火艇準備！　我々が上陸したら、艦を隠せ！

メイソン　わ、若！　なにやら悪い予感が。重々御気を付けあれ。

バルト　大丈夫だ、爺。

●ラムサス艦

ランク　なんだぁ？　こんな小娘が俺達の指揮官だってのか？

ブロイアー　ユーゲント出たてのエリートさんだとよ。

ストラッキィ　キスレブへの潜入作戦、一人で逃げ帰ってきたそうじゃねぇか。

ヘルムホルツ　土産もなしでな。

ランク　どおりで。きれいな顔しちゃって。まぁ、戦向きじゃねーわな。

エリィ　あ、あなた達！ 上官に向かってその態度は何？ 慎みなさい！

ランク　おー恐。

フランツ　僕らにそんなものは関係ないよぉ。それにちょっとばかし美人だからって調子に乗るんじゃないよぉ。

ブロイアー　けっ！　この野郎嫉妬してやがるぜ。

フランツ　な、なんだとぉ。僕の方がずっときれいなんだ。嫉妬なんてするもんか！

ストラッキィ　おいっ！　その変態を黙らせろ！　虫酸が走るぜ。

ランク　まぁ、そういう訳だ。隊長さんよ、せいぜい足手まといにならないでくんな。

エリィ　…………

ランク　……と言っても一応あいつを動かせるんだ。見かけだけで判断は出来んか。

ストラッキィ　なんでぇあの機体は？　見たことねぇぜ。

ランク　士官専用の新型機ヴィエルジェ。なんでも並の精神力じゃ稼働もさせられないってぇ代物らしいぜ。

ストラッキィ　腐ってもユーゲントってか。

フランツ　へぇ、そりゃあ楽しみだ。お手並みを拝見しようかぁ。

岩山

ミロク 一気に山頂を目指す。ゆっくりしてる時間はないぞ。散開！

―― フェイさん！　ゲブラーのギア部隊が！
フェイ 何？　ここは俺に任せて行くんだ！
―― し、しかし……
フェイ 時間がない！　こうしている内にもバルト達は城へ向かっている。早く！
―― り、了解。
エリィ あのギアは！　まさかフェイ？
ブロイアー おい、あいつは？　あン時の奴か？
ランク ああ、間違いねぇ。
ブロイアー 丁度良い。雪辱戦といこうじゃないか。ちんたらやってんじゃねーよ！　ねーちゃん！
ランク 足手まといだ。そこで見物でもしてな。
ストラッキィ そうそう。こんな奴等、俺達にかかればな。
ヘルムホルツ すまんな。
フランツ 邪魔だよぉ。
エリィ あ、貴方達！　待ちなさい！　まだ攻撃の指示は出していないのよ！

<ヴェルトール対ゲブラー部隊戦>

フランツ うわぁーーーーーっ！
ヘルムホルツ ぐわぁっ！
ランク 大丈夫か！？　フランツ！　ヘルム！
フランツ なんで？　なんでこの僕が、こんなラムズなんかにぃーー！！おかしい！　おかしいよぉっ！！
ランク おい、落ちつけ！　フランツ！！
フランツ そうだ！？　もっと！　もっと『ドライブ』を！！

エリィ ……私には出来ない。フェイと戦うなんて……。でも……後は……『ドライブ』を使うしか……でも……

●エリィ・回想

エリィ	な、何するの！
――	心配しなさんな只の『ドライブ』だよ。『ドライブ』はね、配合比を変えるだけでいい気持ちにさせてくれるんだ。
エリィ	いらないっ！　私、そんなものやらないっ！
――	父親が軍のお偉いさんだからって、特例が許されるって？
エリィ	いや！　来ないで！
――	まったく記憶にないというのか？
――	現在に至るまで昂精神剤投薬の記録はない。
――	急なことだった訳だ。
――	『ドライブ』を受け付けない体質なのだろう。
――	軽いせんもう状態であったのはそのせいか？
――	暴走か？
――	内在している欲動の解放だろう？　誰もが持っているものだ。
――	潜在能力＜ポテンシャル＞が高いのはそれ故か？
――	ああ……閣下の……何といったかなあの娘達は？　あれより上なのではないのか？
――	瞬間の数値上では。
――	しかし、エーリッヒの手前、被験体とする訳にもいかん。
――	残念だな、それだけの資質を持ちながら制御出来んとは。
――	君の身柄は局で預かる。追って通達があるまで自宅で待機していたまえ。なに、気に病むことはない。君の力は選ばれし民に相応しいものだ。その力に耐えきれなかった彼等が愚かなのだよ。
エリィ	お願い！　やめてっ！
ランク	よせっ！　それ以上『ドライブ』をやると精神崩壊しちまう！！
フランツ	構うもんか！　どうせ、僕は元から壊れてるんだぁっ！！
エリィ	やめなさい、フランツ。……私がやるわ。
フェイ	…その声は！？　……エリィ？　エリィなのか！？
エリィ	フェイ……ここで何をしているの？　目障りだわ。
フェイ	エリィ！？　お前……！？　そ、その顔……！？　ま、まさかバルトが言っていた人格まで変えるっていう薬で！？
エリィ	お前には関係ない。気安いぞっ！
ブロイアー	す、すげえ！
ランク	こ、これは、エアッド！
フランツ	エアッドぉ？
ヘルムホルツ	精神波＜エーテル＞感応誘導式攻撃モジュール…通称エアッド…俺達ゲブラーん中でも、アレを使えるのはごくわずか…エレメンツクラスの者だけと聞いたことがある。
ストラッキィ	で、でもよぉ、そんなの『ドライブ』の副次効果じゃねえのか？　大した事じゃあ…
ランク	…いや、『ドライブ』は、その人間が本来持ってる力しか引き

フェイ　やめてくれエリィ！　なぜ俺達が戦わなければならないんだ！！
エリィ　何故？　知れた事。それが摂理だからよ！　我ら選ばれし民、アバル…地上人<ラムズ>は我らに隷属してこそ、その存在意義がある…邪魔者は排除するのみ！
フェイ　目を醒ますんだ、エリィ！　お前は薬に感情をコントロールされているだけなんだっ！
エリィ　これが私の本質！　他にはないっ！
フェイ　嘘だっ！　ラハンでの出来事を、自分が来たせいだって、あんなに責任を感じていたじゃないか！　悩んでいる俺のことを気遣ってもくれて……本当のお前はそんなことを言う人間じゃないっ！！
エリィ　利いた風な口を……お前に何が解る！　ははは！　もがけ！踊れ！！　ここで朽ち果てるのよ！
フェイ　…くっ！　エリィ……戦うしか無いのか！

<ヴェルトール対ヴィエルジェ戦>

エリィ　そこまでのようね。止めを刺してあげる。心配しないで。私に優しくしてくれたお礼に、苦しまずに死なせてあげるわ。さよなら、フェイ……　うっ！……あぐっ…あ、頭が……
フェイ　…どうしたんだ？　エリィの様子が変だ。！？　今ならエリィの動きを止められるかも知れない！！　エリィ！　目を醒ましてくれ！
エリィ　うぐっ！……黙れっ！　まだ言うか！　ラムズ如きが、この私に……！！　ち……ち、がう……わ、私……い、いや……こんなの……ぐっ……！
フェイ　大丈夫かっ？！　エリィ！　まさか！　薬の効果が切れかかってきているのか？
エリィ　うぁっ！
フェイ　そうなのか？　エリィ！　そうなんだな！
エリィ　う、うるさい！　外面だけの同情なんて必要な……あ、あ……フ……フェ…イ……た、す…け、て……こ、こんなの……違う……私じゃ…ないよ……
フェイ　エリィ！　しっかりしろ！　元の自分を離すんじゃない！
エリィ　いやぁーーっ！

フェイ　エリィっ！！　エリィ、どうして……？

エリィ　だって…言ったでしょ？　今度会う時は…敵同士だ……って。

フェイ　だけど、こんなことをしてまで戦う必要があったのか？　俺とお前が戦わなきゃならない理由なんて……これっぽっちもないじゃないか。

エリィ　他に……なかったもの……。私は、ソラリスの軍人……。部下と任務……捨てることはできない。

フェイ　どうして『ドライブ』なんて使ったんだ？

エリィ　使いたくはなかった……。使うと自分がいなくなってしまうから。そして、自分がいなくなって得体の知れない力に支配されて……。そんなこと望んでないのに……。認めたくない力があるのよ私の中に。でも……、仲間を救う為には『ドライブ』を使うしか……それしかなかった。

フェイ　……エリィも俺と同じなんだな。

エリィ　同じ？　……そうね。そうなのかもしれない。あなたと初めて会った時、何か他人じゃないって……そんな気がしたのは、それは私達の境遇が似ていたからなのね、きっと……。

フェイ　俺で良ければ力になるよ。何も出来ないかもしれないけど……、エリィの気持ちぐらいは理解できる。

エリィ　……お互い傷をなめ合えっていうの？

フェイ　そういう訳じゃ……いや、そういうことなのか……。すまない……。

エリィ　……ごめんなさい。素直じゃないね、私……。

フェイ　そんなことはない。俺が後ろ向きなだけなんだ。だけど……それでも……、独りで悩んでいるよりは……いい。

エリィ　フェイ……

フェイ　変えられないのか……？

エリィ　そんな顔しないで。私には選ぶことなんて出来ない。私の唯一の居場所だから……。

フェイ　……俺、行くよ。“仲間”が待ってるんだ。もし、出来るんなら軍から抜けるんだ。エリィ……。お前にあんな表情<かお>は似合わないよ。

●山頂を目指すフェイ

フェイ　この上が山頂だな。

●ユグドラシル・ガンルーム

メイソン　若のカップが……もしや、若の身になにか……

バルト ……俺とシグは部下2人を連れて最上階を目指す。先生はその間に、残りの二人と城門を開いてくれ。それで城外に待機している本隊が突入できる。シャーカーンを押さえていれば制圧は簡単なはずだ。
シタン わかりました。シャーカーンを捕獲したら合図を下さい。恐らく、そのタイミングで城門を開くのがベストでしょう。
バルト もうこの上は城の中庭だ。一気に天守閣を落とすぞ。シャーカーンは最上階にいるはずだ。
シグルド ……若の父君の部屋ですね。できるだけ城を傷つけないためにも、無用な戦闘は避けましょう。なによりも迅速さです。
バルト ああ、そのための少数編成だ。狙いはシャーカーンただ一人。ゲブラー兵もアヴェ兵も無視しろ。よし、行くぞ！
シグルド 若、あまり気負わずにいつも通りにやりましょう。
シタン この時期にアヴェの国政が変わるのは、大きな意味があります。必ず成功させましょう。

●ファティマ城・中庭

バルト 行くぞ！　探す手間が省けたぜ。シャーカーン、覚悟しろ。
シャーカーン 待っていたのだよ。
バルト 何！？
シグルド くそっ、待ち伏せか。
シタン カールはどこに……しまった！
ミァン さすが、飲み込みが早いわね。閣下は今頃ニサン国境付近の反乱分子を鎮圧している頃かしら。キスレブを陽動に使おうというあなた達の策……、閣下はとうにお見抜きになっていたわ。甘いわね。下界に長く暮らしていると、知性が衰えるのかしら。ね、ヒュウガ。それにシグルド……。まさか、あなたが前王朝の残党に付いていたとはね……。
シグルド くっ……なぜそこまでシャーカーンに肩入れする？　お前達にとって、一王国の主など誰でもいいはずだ。
ミァン それで？　我々への協力を拒んで消されたファティマ王の息子が、今さら操られたいというの？　裏切り者のあなたの口から聞いても信用がおけないわね。ふふふ……それに……操り人形は馬鹿なほうが便利なのよ。
シャーカーン ば、馬鹿ですと！？　ミァン殿、何をおっしゃるのか？
ミァン シャーカーン殿、ここはあなたにお任せするわ。自分の立場は自分で守らなければね。私達は誰が王座についても構わないのよ。従順な羊でさえあればね。だけどあなたには、まだまだやり足りないことがあるんでしょう？　あなたさえその気ならば私達はどんな援助でもしてあげるわよ。
シャーカーン ……ふん、言われなくても自分の国の犯罪者は自分の手で始末しますとも。
ミァン では私はこの辺で失礼させて頂こうかしら。
バルト おいこら！　ちょっと待てよ！！
ミァン さよなら。……ぼうや。

シャーカーン　くっ、この海賊……いや、スナミミズどもがっ。何度も恥をかかせてくれおって。だが、それもこれで終わりだ。自分の主人が誰だかもわからない身の程知らずは滅びる運命なのだよ。全員射撃用意……ん！？

●ランドクラブで駆けつけるメイソン

メイソン　逆賊シャーカーン！　一歩でも動くと、ガトリング砲が火を噴きますよ。

バルト　爺！

メイソン　若、加勢に参りました。お乗りになって下さい。では、出発いたします。

バルト　じゃあな、ハゲジジイ！　いずれ決着はつけてやる。頭でも磨いて待ってろ！

シタン　！　これは……、まずい……

シャーカーン　それはなにかの冗談かね？　うむ、所詮スナミミズは飛べないということだな。さあ、投降したまえ。おもしろい冗談を見せてくれたお礼に銃殺は許してやろう。

バルト　くそっ、こうなりゃ相討ちしかないか……

メイソン　みなさん、伏せて下さい。

バルト　爺、何か策があるのか？

メイソン　おまかせを。

バルト　爺、歩き回ったって仕方ないぜ。

メイソン　おまかせを。

●ジャンプで城を脱出

●ユグドラシル

バルト　爺、すまない、助かった！

メイソン　若、頭をお上げ下さい。主君をお守りするのは臣下たる者の務め。爺こそ、お助けが遅くなりまして何卒、ご容赦を。

バルト　とんでもない、感謝してる。……しかし、爺があんなモノ動かせるなんて知らなかったな。

メイソン　昔とった杵柄と申しましょうか……いえ、何、ほんの手なぐさみでございます。余興程度のモノでお目汚しいたしまして。恥ずかしゅうございます。

シグルド　若！　王都防衛隊が戻りつつあります！　どうやら、おとりに食いついたのは我々の方だったようです。捕捉されるまでに逃げ出さないと！　準備でき次第、発令所へ！

メイソン　若、発令所へ参りましょう。

――――　シャーカーンの野郎め……会うたんびに憎らしさが増してやがる。毛は減ってたけどな。

――――　いやぁ、メイソン卿がアレに乗ってきた時は、どうなる事かと思いました。

山頂

フェイ　あれか……ヴァンダーカムの国境艦隊……
ミロク　俺達のシゴトは、あいつらの足止め。さて、どうする？
フェイ　……簡単だ、こうするのさ。

●山頂から一気に飛び降りるフェイ

ミロク　…………若よりもとんでもないかも知れんな、あの小僧……ファルケ！　小僧に付け！　残りは分隊単位で俺に続け！　俺達も行くぞ！　小僧に遅れるな！

――――　ベクタ3-3-6より、ヴァンパイアー！　2群、計7～8機、距離2000！
――――　各艦へ通達！　兵装使用自由、回避運動開始！　但し、相互支援のできる陣形を崩すな！
――――　了解。旗艦より全艦へオールウェポンズ・フリー、レッツ・ダンス！

――――　全速射装置、作動開始
――――　空中機雷散布開始、投射パターン、MK3！
――――　CAPには、何機あがってる！？
ヴァンダーカム　まぁ待て、航空参謀<コクサ>。通信兵！　命令を変更する。フォン・ヒッパーに連絡。第二駆逐戦隊を率いて、敵ギアの後方へ回り込め。艦隊の横腹をあけて、キファインゼルの主砲射界へ敵ギアを誘い込む。
コクサ　は？　む、無茶です！　動きの早いギアを旗艦の主砲で捉えられる訳が……
ヴァンダーカム　射撃指揮所！　砲術長<ホチ>！　三式弾を用意しておけ。それと、主砲発射に備えてキファインゼルの甲板機銃員を待避させておけ！　カトンボめ……主砲で光にまで分解してくれるわ……

コクサ　提督！　対ギア戦で機銃員を下がらせてなんとします！

ヴァンダーカム　騒々しいぞ、航空参謀<コクサ>！　貴重な御意見をわざわざすまんが、司令官は私だ！　貴官ではない！　大体、40セムぽっちのメルルやボルフォースのマメ鉄砲が何の役に立つ？　議論はおしまいだ。艦長！　速度を上げ過ぎるな！　敵を置き去りにしては話にならんからな。
コクサ　（そんな事態<こと>には絶対、なりませんよ……）

ファルケ　西へ進んで旗艦を目指すぞ！　駆逐艦は、相手にするな！　俺は少し離れて支援する。

●キファインゼルへ向かうフェイ

ヴァンダーカム　ヒッパーの無能め！　敵ギアを追い込むどころか遊ばれてるではないか！　イヌの役すら満足に出来んのか！
コクサ　機動力が違い過ぎます。
ヴァンダーカム　射撃指揮所！　砲術長<ホチ>！　まだ主砲を一発も撃っていないぞ！　三式弾の有効散布界は500近くあるはずだ！目見当でいいから、ぶっぱなせ！
コクサ　戦闘機動時のギアは、許容加速内で単位時間あたり2000は動けます。

ヴァンダーカム　どいつも、こいつも……！　無能モノばかりか！　この艦隊は！
コクサ　（あんたが一番、無能だよ……）
――　黒い敵ギア、内陣、直衛艦にとりつきます！

ファルケ　この先の艦列を越えたら艦隊旗艦のキファインゼルだ！　よおっし！　直衛をかわした！　目の前のフネがキファインゼルだ！

ヴァンダーカム　射撃指揮所！　砲術長<ホチ>！　何をしている！　かすりもしないぞ！！！！　貴様の目玉は節穴か！！！
――　駆逐艦イルティス、不関旗があがりました！
――　ルーヴェより発光信号！　“ワレ、ルーヴェ、操縦フノウ、操縦フノウ”
――　味方ギア、残存3機！
ヴァンダーカム　馬鹿な、馬鹿な……！　何だ！　このざまは……
――　敵機直上！　急降下！　真上から、来ます！
ヴァンダーカム　うぉ、落とせぇ！　ラムサスにまたコケにされるぞ！

<対　主砲戦>
――　総員退去！　総員退去！　本艦は放棄される。繰り返す、総員退去！
――　て、提督……
――　ほっとけ！　そんな奴！
ヴァンダーカム　そうだ……アレがあった……あれがあったんだよ……うん……アレがあった、あった……あれがあった……よな。あれがあった、あった……

ミロク　やったな。大金星だぜ。
フェイ　ああ……いや、あんたらのサポートのおかげだ、ありがとう。
ミロク　国境艦隊を、足止めどころか壊滅させちまった。こっちは十分だな。あとは若の方だが……
フェイ　そうだな……バルトの事だ。うまくはやってるだろうが……何か連絡は？
ミロク　なんにも。まぁ、便りがないのは良い便り、って言うしな。それに俺らのギアの受信能力もそんなに高いもんじゃない。大丈夫、多分みんなうまくいくさ。

フェイ　……
ミロク　どうした？
ヴァンダーカム　こ　ろ　し　て　や　る　！
<対　ドーラ戦>

ヴァンダーカム　うぉ……おのれぇ……
――――　うぬは、力が欲しくないか？
ヴァンダーカム　な、なにやつ！

●グラーフ飛来

グラーフ　我はグラーフ。力の求道者。うぬは、力が欲しくないか？
ヴァンダーカム　ち、力だとぉ……
グラーフ　そう、力だ。
ヴァンダーカム　ち、力……チカラ……欲しい……欲しいとも、力が！
グラーフ　よかろう！　我の拳は神の息吹！　“堕ちたる種子”を開花させ、秘めたる力をつむぎ出す！！　美しき滅びの母の力を！

ヴァンダーカム　ぐぅお、お、お、おお……

●ユグドラシル・ブリッジ

バルト　ニサンに戻るぞ！
シグルド　無茶です！　若！
メイソン　はぁ、ふ、ひぃ、そ、そうですぞ、若……こ、国境要塞の襲撃もラムサス率いるゲブラーに蹴散らされたらしいですぞ。ここは一旦退いて、再起の道を……
バルト　あそこには、マルー達が残ってるんだ！　戻る！　絶対に戻る！　……そうだ、フェイ達はどうした？　無事か？　無事なら一緒に……
バンス　と、突入のト連送を受信して以来、なんにも……
バルト　ちくしょう！　なんてこった！
メイソン　若……

バルト　……後ろ……？　ケツから何か来る！　ジェリコ！　舵をこっち……いや、そのままでいい、急いで、どっちかにきれ！！！
シグルド　若……？
バンス　後方300！　発射管扉開放音！　潜砂艦！？　大きい！
速度60！　相対進路0-0-0！　バッフルズに隠れてやがった！
シグルド　カールか！
バンス　高速推進音、敵艦より分離！　恐らく魚雷！　数2！　速度87！　続いて魚雷よりソナー音確認！　アクティブホーミングに移行！！

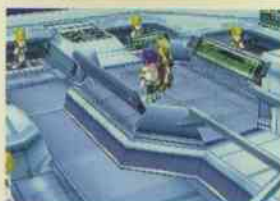
バルト　戦闘配備！　マスカー展開！　ノイズメーカ用意！
――――　全艦戦闘配備よし！
――――　マスカー展開！　ノイズメーカ、2、4番管……スタンバイ！
バルト　ノイズメーカ射出！　機関停止準備！　舵……今だ！　思いっきり反対にきれ！　機関停止！　衝突警報！！
――――　機関停止！　衝突警報！！
バンス　魚雷…1、なおも追尾中！　だめだ！　命中まであと、3！！！

—— 艦体破壊音を確認。……続いて急速ブロー音。敵艦、急速浮上中の模様。
—— 敵艦周辺の流化帯電減少中。敵艦砂中機動60%ほど低下……どうやら、主機関と粉粒化動翼<エフェクト・フィン>に機能障害が発生した模様。
ラムサス 動翼が死ねば、埋まりっぱなしで身動きがとれない。浮上は賢明な処置だな。砂雷長、敵艦の戦闘力だけ上手く奪ってくれた。見事だ。
—— 恐れ入ります。
ラムサス さて……どうしたものかな……？
ミァン あら？　御迷いになるなんて、珍しい。
ラムサス 古い友人と約束してな……手加減してやらねばならん。古い……友人……か…………

●ラムサス・回想
ラムサス シグルド！　なぜお前はこの国を捨てる！？　俺達の理想国家の実現の為、力を貸してくれるんじゃなかったのか！？
シグルド 捨てるわけじゃないさ。俺は最初から、この国の技術を盗む為に生きてきたんだ。それに俺には待っている人がいるんだ。恨むなよ。お前達と語った束の間の夢、悪くは、なかったぜ。
ラムサス ……裏切り者！！！

ラムサス 通信手！　私の名前で降伏を呼びかけろ。ニサンの無事を祈るなら、投降しろ、とな。各部署、攻撃態勢のまま現状を維持！　但し、敵艦に攻撃の兆候があれば、各個に撃て！

●ミクロの決断
ミロク ……な、何だったんだ？　今の奴ぁ？
フェイ ……や、奴だ……何故奴が……？　一体何をしたんだ！！？
—— ……う？　え！？……いかん！！　大将！ミロクの大将！！R信号を受信！　よく解んないけど、若がヤバイ！！　あんなポンコツにかかずらってる場合じゃないです！！
ヴァンダーカム 君達ぃ……ボクを無視して何ゴチャゴチャやってんのかなぁ……て言うか、お前ら全員殺ス！！！！
ミロク …………フェイ、ケガ人をまとめて、先に若のところへ帰れ。急げよ。俺の分隊は悪いが居残りだ。時間を稼ぐ。残りの稼働機は、各長機の判断で俺らを支援しつつ、順次離脱しろ。
フェイ バカ言うな！　俺も残る！！
ミロク 黙って言うことを聞け！　小僧！！　あんたは若の大事な客人だ。こんなとこで死なすわけにはいかねぇ。
フェイ し、しかし……
ミロク ……若が……若が本当に必要としているのは、あんたの力だ。若の力になってくれ。頼む。
ミロク フォアラント、ヴィンド、行くぞ！！

●惨劇を目の当たりにし、壊れていくフェイ
フェイ う……ぁぁや、…や、めてくれ……や……め………ぅあ……あ、ぁ……

バルト　すっかり囲まれちまったか……おやっさん、修理状況は？

機関長　主機と効果動翼のオシレータはほぼ無事だが、その間の電路がこっぴどくやられてる。今、主電路を捨てて、バイパスを寄せ集めて電荷を稼いでるが、全力の7割が出せりゃ御の字だ。推進器は無傷だが、砂が粉粒化出来なきゃ、同じ事だ。第三戦速がやっと、ってトコだな。

バルト　シグ！　ゲブラーの優男は、なんて言ってる？

シグルド　最初の降伏勧告以来、沈黙を保っています。

バルト　……総員、合戦に備え。電路が回復し次第、突破離脱を計る。

シグルド　若！

バルト　聞け！　シグ！　俺らがここで降伏しようが、多分ニサンの運命は変わらねぇ。そして、このユグドラシルは……アヴェやマルー達を取り戻すための貴重な戦力のコアは、間違いなく失われる。なら、無茶でも希望のある方に賭けるのが、砂の海の男ってモンだ！！

メイソン　若！　よくぞおっしゃいました！！　この爺、地獄の底までお供いたしますぞ！！

バルト　悪いが、爺、俺はまだ死ぬ気はねぇ！！　連中は腰が引けてる……本気でこっちを叩き潰す気がない、……そう見える。

シグルド　……確かに…若か、マルー様か……何か政略的な効果でも、狙っているのか……

バルト　そういうこった、シグ！　だが、あっちの都合はどうあれ、ケモノを生け捕るのは、ひと思いに殺すより、難しいよな？

機関長　お～い、若さまよ……電路の応急処置、終わったぜ。機関は心配しないで派手にやんな。

バルト　ありがてぇ！！　おやっさん！！　ようし……野郎ども！！いっちょ、かましてやるぞ！！

●真紅のギア襲来

――――　敵ギア一機の発進を確認。直衛中。敵艦、機関音ゲインアップ。……速度上昇、操舵音確認、変針開始……戦闘機動です。

ミァン　司令官閣下殿？……ふふふ。

ラムサス　……仕方がない、か。各部署、待機姿勢解除！……攻撃再開！艦首発射管1～3番、ナムタルミサイル。ホーミングは1、2番ハンズフリークルーズ、3番アンチレーダービームライダー。4～6番、マカラMk5砂魚雷。全て有線誘導後パッシヴホーミング。各機へ、統制射撃を行う。斉射は本艦にならえ。

――――　ま、待ってください！！！　艦隊外縁で爆発音、艦体破壊音多数確認！　高エネルギー反応も……なに？……何だ？　このゲインは！！？　司令官閣下！！　信じられません！　こんな……ギア……？　まるで反応弾が飛び回って……

ミァン　落ち着いて。解析映像をモニターに。

――――　は、はい……

ラムサス　う、……あれは……！！　あ、あのギアは……間違いない！奴だ！　エルルの悪夢……ミァン！　出るぞ！

ミァン　閣下！　お待ち下さい！　閣下！！　　ふふっ……

●バルトに迫る真紅のギア

バルト　な、なんだぁ……何が起きてるんだ？　こっちに……来る！？

真紅のギア　貴様は、強いのか？
バルト　……な、なんだ？　お前……

真紅のギア　貴様は、強いのか？　と、聞いている。

バルト　（後ろ？！！）…………いきなり何すんだよ、危ねーな……
真紅のギア　ふふっ、いいな、……トボけた男だ……貴様、強い、な……ん……？

ラムサス　そこの海賊！　貴様、そいつを知っているのか！！……そ、そうだ…あのフェイとか言う若僧は一緒じゃないのか！？
バルト　さあな？　知ってても、お前に答える義理はねぇよ。

ラムサス　よかろう！！　ならば、そいつは譲ってもらうぞ！　そいつには大きな貸しがある！

ラムサス　ついに見つけたぞ！　いざ勝負！！

ラムサス ぐわっ！ こんなバカな！ ば、化け物め……ぐはっ！ お…のれ……貴様さえ……
バルト チィッ！ こっち来ンなよ！！

ミァン 閣下、離脱いたします。
ラムサス よ、余計なことをするな！ ミァン！ まだ、腕一本残っている！！
ミァン 離脱いたします！ ……それに、狂犬はもう、新しいおもちゃに食いついているみたいですわ。

真紅のギア さて、モーターのコイルもいいあんばいにあたたまった……始めようか、メーンイベントを！！
バルト ……厄日か、今日は……トホホもいいところだな……しゃあねぇ！ 腹くくって、やるか！

●シグルドの奇策

シグルド 若！！！ 機関、全力用意！！ ジェリコ！ 舵をこっちに渡せ！
ジェリコ しかし、副長！ 効果動翼が死んでいる今、全速を出したら、マサツで艦体がもちません！！
シグルド 代わりに翼面効果で"ハネる"事が出来る！！
ジェリコ 副長！！
シグルド 構わん！ 若あってこそのユグドラシルだ！！ 機関全力！！両舷最大戦速！！ うおぉぉぉぉぉぉぉぉおおおお！！！！いっけぇえええええ！！！

シグルド　若！　ご無事ですか！！！

バルト　む、無茶すんなぁ……シグ……フネを飛ばすなんて……帰ったら竜骨の修正でひと月はドック入りだぞ。

シグルド　はっ……はは……いや、ご無事で何より。

バルト　……やれやれだぜ……一体、何だったんだ？　あの化け物みたいな奴ぁ？　！　どうした！？　シグ！！

シグルド　か、艦体が……？　機関は落ちているはずなのに……？　こ、これは一体……

真紅のギア　今のは、なかなか面白かった。でも、セコンドの乱入は、ハンソクだよな……

バルト　シグ！！　爺！！……う！……

——　排砂ポンプ、効果動翼、推進器、全て使用不能！！

——　主機、補機、オートスクラム作動。電源、バッテリーに切り替わります。出力比0.5、稼働時間…500！！

バンス　第三艦橋、大破！！

——　艦首格納区、武装区、共に耐圧殻まで破殻！！　砂の流入を止められません！

シグルド　各区完全閉鎖！！　独立稼働！！

バンス　そ、それじゃあ、ダメコンチームが移動できない！！　アナがふさげないっすよ！！

シグルド　構わん！！…どのみち艦全体を救うのは無理だ。本発令区の保全を優先する！！　発令区に全科員を集めろ！　急げ！……ヒュウガ……いや、今はシタンだったな。お前は脱出しろ、ポッドまで案内させる。

シタン　そんな！　貴方がたは！？

シグルド　お前は関係ない人間だ。巻き込むわけにはいかない。……もしカールとミァンに会ったら、俺の分まで一泡吹かせてやってくれ。メイソン卿、お願いいたします。

メイソン　どうぞ、こちらへ。

●シタンを乗せた脱出ポッド発射

シタン　シグルドぉぉおおお！！！

シタン　国境近くまで風に流されましたか……あれは……？　これは……ドーラ……こんなところに配備されていたんですか……うかつでした……しかしこの有様………やはり、同じですね……

キスレブ・総統の部屋

――― ご報告があります。総統閣下。
ジークムント うむ。
――― 先刻、アヴェとの国境線の南で起きました巨大爆発の原因が判明しました。爆心地を調査しましたところ大量の放射線を検出。恐らくは戦艦クラスのスレイブジェネレーターの誘爆かと思われます。誘爆の原因は依然不明ですが、爆発とそれに伴う衝撃波により、アヴェ、ゲブラー双方合わせて約三分の二が消滅した模様です。現在アヴェでは残存兵力を急ぎかきあつめ、再編成しているとのことですが、これにはかなりの日数が必要となる見通しです。それと、閣下よりご指示のあった件ですが、捜索部隊に指示地点を捜索させました所……。
ジークムント あったか……。
――― はい。
ジークムント そうか。
――― 発見された機体は、以前第11開発ベースよりアヴェ駐留ゲブラー部隊によって強奪されたものに間違いありません。尚、機体発見の際、コクピット内に昏倒した搭乗者を確認、これを捕縛。回収した機体と共に帝都への移送を完了したところであります。状況から判断するに、この一件に関してはアヴェへの技術の漏洩はないかと。
ジークムント 何故そう言えるか。
――― 当機以外の機体は全てラハン地区の戦闘で大破しております。登録されていた識別信号から判断するに、この機体はアヴェではなく海賊組織の手に渡っていたかと思われます。
ジークムント 海賊組織？　例の若造のか？
――― はい。
ジークムント ふむ……。
――― 現在は機体に記録されている戦闘データを解析中ですが、何分ブラックボックス化されているところが多すぎ難航が予想されます。
ジークムント ブラックボックス？
――― 機体は我々が製造したものではなく素体として“彼等”が持ち込んだものでした。
ジークムント そうか……。
――― ……あの……閣下？
ジークムント なんだ。
――― これを契機に一気にアヴェへと侵攻されるのでは？
ジークムント おまえはこのキスレブに滅べというのか？
――― は？
ジークムント たしかに今アヴェを落とすことは容易いかもしれん。が、それにはこちらもそれ相応の疲弊を覚悟しなければならぬ。
――― ですが、この機を逃すのは……
ジークムント かいらいのシャーカーンを倒したところで、ソラリスは代わりを立てればよいだけのこと。疲弊したところを襲撃されるのが関の山だ。それにニサンのこともあるのでな。今動くのは得策ではない。

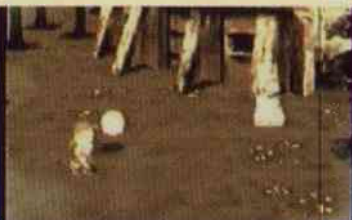
キスレブ兵 失礼致します！
ジークムント “彼等”が来たそうだ……。

戦艦ドック

ジークムント あれがそうか？
仮面の女 そう。あれを使用すれば障壁を越えられるわ。どこへなりと自由に行ける。
ジークムント あの男……グラーフといったな。おらぬのか？
仮面の女 彼は多忙でね。私はその代理。
ジークムント 今一度、聞こう。何故我々に手を貸す？　貴殿らは何者なのだ？
仮面の女 前にも言ったはずよ。私はただ世界の行く末が見たいだけ。貴方達には知らなければいけないことが多すぎるの。私はその為の道標。直接手を貸すことは出来ない。これをどう使うかは貴方達次第。
ジークムント 見返りはいらぬと申すのか？
仮面の女 そうね……なら、こういうのはどうかしら……。それでは、これで……。

ジークムント ……しかし、面妖な事をいう。
―― あの者、何と……？
ジークムント 捕獲したギアと搭乗者、D区画へ移せ……とな。
―― D区画？　何故そのような事を……？
ジークムント 判らぬ。……が、こ度の借りがある以上、不受する訳にもいくまい。
―― はい……。

フェイの夢

フェイ はぁ、はぁ、はぁ……。……ここ……は……。
フェイの幻 ここはお前の来るところじゃない。

キスレブD区画・宿舎

フェイ　……こ、ここは？

――　目醒めたようね……。4日間も眠ったままだったからもう駄目かと思ってたんだけど。

フェイ　……きみは？　それにここはどこだ？　なぜこんなところに……くっ、ううっ……！？

医者　目醒めたばかりなんだから無理はしないで……。私は医者よ。ここはキスレブ帝都犯罪者収容区、……通称D区画。

フェイ　犯罪者……収容区？

医者　ここは、その区画にある囚人たちの宿舎なの……。キスレブ兵の厳重なガードの下ここに運び込まれた様子からしてただの犯罪者ではないようだけど……んっ！？

スザーン　おっと、これは丁度いい。王子様が、お目醒めのようだ……。早速だが、一緒に来て貰おうか。

医者　まさか、洗礼の儀式！？　この患者は目醒めたばかりなのよ。それをいきなり洗礼の儀式なんて！！

スザーン　おいおい……、ちょっと待てよ。そいつは犯罪者としてここへ放り込まれたんだぜ？　その犯罪者を数日間休ませてやったこの俺達の“優しき、慈悲の心”には逆に感謝して欲しいぐらいだ。

ハインリヒ　そうそう……。それに犯罪者としてここに来た以上、ルールには従ってもらわないとねぇ。

レオナルド　……っと、そういう訳だからよ。その兄ちゃん、暫く借りるぜ。なぁに、すぐに帰してやっからよ。

スザーン　おまえに選択の余地はない！　逆らえば、そこの関係のない医者も巻添えになるぞ！！

フェイ　…………。……わかった。そっちの好きにしてくれ。

医者　ご、ごめんなさい……バトラーには逆らえないの。どうか許して……。

スザーン　ほお？　意外と利口な奴だな……。まあ、こちらとしても手間が省ける。では、一緒に来て貰おう。“キング”がお待ちかねだ……心配するな、すぐに帰してやるさ。すぐにな……。よしっ行け！！

リコの部屋

スザーン　キング、連れてきました。

キング　ごくろう、スザーン。ふむ、おまえが新入りか……。何を仕出かしたかは知らんが帝都、D区画へようこそ。まず、名を名乗って貰おうか。

フェイ　……フェイだ。で、あんたの名前は？　キングってのが名前じゃないだろ？　こっちとしても知る権利ぐらいはある……。

スザーン　貴様！？　無礼だぞ！！

キング　落ち着け、スザーン。別に構わんさ……。俺の名は、リコだ。

小僧……、威勢がいいのは結構なことだ。その威勢が本物ならな……。早速だが、おまえの実力のほどを見極めさせてもらおう……。ハインリヒ！　バルガス！　レオナルド！　スザーン！
洗礼の儀式を始める！　そいつを連れて行け！！

街外れ

リコ　小僧、おまえは前だ。さて、何となく察しはついているだろうが、教えてやろう……。ここに送り込まれた者のうち犯罪者は個人ランクで分けられる。ランク自体を決めるのは簡単だ……この4人のバトラーと戦って貰う。安心しろ、戦いは1対1で行う。もうわかっただろう……結果が全てだ！　この4人のバトラーに勝てばそれなりの自由を約束しよう……。それでは、始めようか……。と、言いたいところだが……我々にも慈悲はある。しばらく時間をやろう……。1対1といってもこの4人のバトラーを相手に戦うのだからな。戦いの前に準備を整えるがいい。言っておくが、この場から逃げようなどとは考えぬことだ……。所詮、無理な話しだからな。

スザーン　おい、準備はもういいのか？
フェイ　さっさと始めてくれ
スザーン　……キング。準備が整ったそうです。……洗礼の儀式を。
リコ　うむ、それでは、始めようか……。最初の相手はレオナルドだ。

＜対レオナルド戦・勝利＞

レオナルド　病み上がりの奴に負けるとは……、がっくし。
リコ　ふむ、次はどうかな？

＜対ハインリヒ戦・勝利＞

ハインリヒ　ぐ、うう……この俺が負けるなんて……。
リコ　ほほう、楽しませてくれる。次はどうかな？

＜対バルガス戦・勝利＞

バルガス　くっ、この借りはいつか返すぞ。
リコ　やるな、バルガスを倒した奴はスザーン以来だ……。では、最後だ！　倒せるかな？

<対スザーン戦・勝利>

スザーン ば、ばかな……この俺までが負けるとは……。

リコ 4人とも倒したか……。ふふ、予想外の展開になったな。特例だ、最後はこの俺直々に相手をしてやろう。

フェイ もういいっ！　こんなことに一体何の意味がある！　俺とあんたらとは何の関係もないだろう！

リコ 意味などない。それがこのD区画のしきたり！　序列は決めねばならん。いくぞ！

<対リコ戦・敗北>

リコ 貴様、その程度か？　やる気があるのか！？

フェイ ぐ……がっ……

リコ どうした？　抵抗しなければこのままクビをへし折るぞ！

フェイ い……、い……

リコ ん？　なんだ？　聞こえないな！

フェイ い、や……だ……

リコ ふん。ならば、これで終わりだ！

フェイ ぐ……う、う……。……どけよ

リコ 何ぃっ！？

フェイ ……俺は……。

リコ ふふふ。そうだ、それでいい……貴様、やるじゃねぇか。この俺に傷を負わせたのは貴様が初めてだ。これでやっと俺も本気になれる。ワクワクするぜ！

<対リコ戦・再び>

リコ ふん！　未熟者！　少々てこずったな。さて、勝ちは勝ちだからな貴様のランクはAとする。

フェイ …………。

リコ ……、聞こえていないか。おまえら、こいつを宿舎に連れて行ってやれ。……それとあれを忘れるな……

宿舎

フェイ うっ……？……今度はどこだ？

医者 ……場所は変わらないわ。ただ、部屋が別なだけ……。大変な一日だったわね。

フェイ ああ……、きみか。また世話になっちまったみたいだな……。

医者 いいえ、別に構わないわ……それが私の仕事ですもの。それよりも、体は大丈夫？

フェイ んっ？　ああ……ちょっと痛みを感じるくらいだ。大丈夫さ、これくらい……。この程度のことなら最近じゃすっかり慣れちまったよ……。……あいつら、ランクがどうとか言っていたような気がするが？

医者 ああ、そのことだけど……。

フェイ 何か知ってるのか？

医者 あなた強いのね。あの体で４人とも倒すなんて。ランクはAだそうよ。でも、キングが戦いを挑んでくるなんて……。あなたよく無事で還って来られたわね……。

フェイ ……意味のない戦いだった。俺は何も……望んでいないのに……。

医者 ……何かあったの？　顔色がよくないわよ。

フェイ いや、なんでもない……こいつは、なんだ？

医者 ああ、それは爆弾なの……。帝都の領土外に出たらたちまちその首輪は"ドカン"。残念だけど､それを付けている限り帝都から出ることは出来ないわ。このD区画の市民と一部のバトラー以外は全員、それを付けられるわ……。……このD区画で囚人を繋ぐ唯一の鎖がそれ……。

フェイ ……ははっ、爆弾か。つまりどうあがいてもここから出られないって訳か。

医者 今日はもう休んだほうがいいわ。それと、この街の生活にも早く慣れることね……。

●翌日

医者 調子はどう？　休みたい場合は隣の部屋で寝ることが出来るからね。ここでの生活は大変だけどまず"調達屋のハマー"にでも会ってみることね。変わった子だけど根はいい子よ。多分酒場にいるはずだから行ってみるといいわ。何かと助けになるかもね……。

ラティナズバー

ラティナ いらっしゃい。「ラティナズバー」へようこそ。ゆっくりしていってね！

獣人の男 あっ、どうもはじめまして。俺、"調達屋のハマー"っていいやす。へへっ、久々に凄腕の犯罪者がこのD区画に送り込まれたって今この街じゃ結構有名っすよ！　つまり兄貴は注目の的なんすよ！

フェイ ……その"兄貴"っていうのはやめてくれないか。俺の名前はフェイだ。

調達屋ハマー ……別にいいじゃないっすか一減るもんじゃないんすから。それとも旦那って呼びますか？

フェイ ………。そっちの好きにしてくれ。

調達屋ハマー んじゃ、決まりだ！　兄貴って呼ばせていただきやすね！　それにしても兄貴、強いっすね。ランクAなんて滅多にいませんぜ？　俺、すごく感動しちゃったっすよ！　……それに兄貴は他の囚人とはなんか雰囲気が違うんすよね。

フェイ ……雰囲気？　変なことを言う奴だな

調達屋ハマー いや、別に悪い意味じゃないっすよ。俺っちがそう思っただけっすから。……別に深い意味はないっす！それと、これからのことなんすが何か困った事とかがあったらこの俺っちに言ってくださいね！　俺、調達屋っすから顔は広いんすよ。

警備兵 んっ……初めて見る顔だな。帝都の管理委員会の連中が探してるのはおまえか……どうやらこの前のキングとの一件が委員会の耳に届いたらしいな。まだ、この区画内にいるはずだ。委員会直々の訪問だからな……おまえのような囚人にとっては絶好のチャンスかもしれんぞ。

フェイ ここにもいないか。……もう帰っちまったのか？　んっ？

謎の女性 ……やっと会えたわ。貴方がフェイさんね？……って、どきなさい！！

部下らしき男1・2 ！？　すっ、すみません、ルア様！！

ルアと呼ばれた女性 まったくもうっ！　これだからあなたたちと一緒に来るのは嫌なのよね。んんっ、どうもはじめまして。私、帝都-B管理委員会のルア・クーンと申します。

フェイ　……B管理委員会？　で、この俺に何か用でも？
ルア　……単刀直入に申します。貴方にバトリングに参加して頂きたいのです。
フェイ　……バトリング？
ルア　ギア対ギア、ときには対モンスターといったカードで行われる娯楽競技です。本来、バトリングは自由参加の方式を取っており我々、管理委員会が直接接触することはほとんどありません。これは名誉あることなのです。“キング”たちとの一件が我々委員会の元に届いたこと、これもまた幸運でしょう。……どうでしょう。参加して頂けないでしょうか？　囚人でいるよりもバトラー……決して悪い話ではありませんよ。
フェイ　…………悪いが俺はギアは好きじゃないんだ。そんな大衆娯楽の競技にも興味はない。第一、俺はギアなんか持ってない参加自体、無理な話だろ。
部下1・2　確かに無理な話だ。
ルア　あーもう、うるさい！　あなたたちは、黙ってなさい！！
部下1・2　すっ、すみません！！
ルア　んんっ、失礼……それについては御心配なく。バトリングに必要とされるギアは管理委員会のほうで用意させて頂きますので。……参加して頂けますか？
フェイ　何度も言わせないでくれ。ギアは嫌いだしそんなものに興味はないんだ！
ルア　答えは変わらないと……まあ、ここに来てまだ日は浅い。暫く時間をあげましょう。こちらもあまりにも唐突すぎましたね……よく考えておいてください。よい答えを期待しております。
フェイ　ハッ、ハマー！？
ハマー　なんでですかぁー兄貴ぃー？
フェイ　ちょっと待て、ハマー。なんのこと言ってるんだ？
ハマー　何って、聞いちゃったっすよ！　この耳でしっかりとね！　なんで誘い断わったんすか？　管理委員会の連中が直接、接触してくるなんてほんと、滅多にないっすよ！？　今からでも遅くないっすよ！　やりましょうよ、兄貴ぃー。まだ間に合いますって、ねぇ？　バトラーっすよ、バトラー！！
フェイ　ああ、そのことか……聞いてたのならもうわかるだろ。戦い自体、好きじゃないんだ。ギアに乗ることだって……それにそんなことに一体何の意味があるっていうんだ。
ハマー　バ、バトラーになりゃあ今の囚人生活とはおさらばしていい暮らしが出来るっす！　ここじゃあ、強さがすべてなんす力無き者……、弱者はただ虐げられるだけなんすよっ！！　だから、やりましょうよ、ねっ？
フェイ　…………。……もういいのか？
ハマー　はっ、なんすか？
フェイ　……それだけか？
ハマー　そっ……、それだけって
フェイ　もういいだろ……そこをどいてくれないか？　ハマー、おまえには悪いが考えを変える気はない……。戦うことも、ギアも好きじゃないんだ、悪いな。
ハマー　あっ、兄貴ぃー。

宿舎

フェイ 新しい医者が来たっておまえ言ってたけど……誰もいないじゃないか。

ハマー あっれー、おかしいっすねー。俺っちの情報網によればもう来てるはずなんすけど……

フェイ いないんじゃ仕方が無い。さっき言ってた裏流通てのはあきらめ……

ハマー ドアの開いた音っすよ！　どうやら新人の先生、隣の部屋にいたみたいっすね。

フェイ せっ、先生！　どうしてここに！？

シタン キスレブの無線を傍受しましてね。ヴェルトールらしきギアがキスレブに回収……帝都に移送されたと聞いて、ひょっとしたらと思い、こうして探しに来たんですよ。……正解でしたね。

ハマー ありゃ？ひょっとして兄貴、この先生とお知り合いなんすか？

シタン ところでフェイ。ここではまだ何も行動を起こしてないようですが？

フェイ ……行動を起こす？　どういう意味だい、先生。

シタン いつまでもここにはいられないでしょう？　抜け出さないのですか？

フェイ 抜け出す？

シタン フェイ。貴方まさか一生ここにいるつもりじゃないでしょうね？　約束、守らなくていいんですか？

フェイ 約束……？

シタン やれやれ……そんな大事なことも忘れてしまうなんて……。若君と約束したんでしょう？　万が一の時はニサンの人を、マルーさん達を護ると。

フェイ ああ、それか。たしかに約束はしたけど……！？　ま、まさかバルト達は！？

シタン ええ、残念ながら。敵の新戦力を前に善戦むなしく。ユグドラシルは大破し、砂の海の底に……。私は、艦が沈む直前に脱出艇に乗せられ射出されて……巻き込む訳にはいかないって……その後の消息は残念ながらつかめませんでした。

フェイ そうか……。そんなことになっていたなんて……それなのに俺は……。

シタン 一体何があったんです？

フェイ また……記憶を、時間を失ったんだ……。ヴァンダーカムって奴と戦ってる最中、あいつが……、グラーフが現れて、それでバルト達の危機を知って……。ヴァンダーカムの大型ギアに仲間がやられて……。そっから先は、ラハンの時と一緒さ。気がついたら帝都<ここ>の囚人施設にいたんだ。先生、国境の艦隊はどうなった？　俺がここにいて、ヴェルトールがキスレブに回収されたってことは……。

シタン ……潰滅していました。見たこともない大型ギアの残骸もありました。

フェイ …………。

シタン フェイ、まだ、そうと判明した訳では。違う原因かもしれない。

フェイ いや、いいんだ。うすうすわかってたことさ……。もしかしたら……。きっとそうなんじゃないか……。俺はまた……って。

シタン フェイ……。

フェイ　約束……果たすよ、俺。このままじゃバルト達に合わせる顔がないものな。それにあいつらはきっと生きている。そんな気がする。
シタン　では……。
フェイ　ああ、何とかしてここから出よう。だから、手を貸してくれないか？　先生。
シタン　ええ、喜んで
ハマー　あ、あのぅ……、兄貴…そいつはちょっと無理なんじゃ……。
シタン　なぜです？
ハマー　これ、この爆弾首輪。こいつがはめられている限りここから出ることは出来ないっすよ。
シタン　爆弾首輪……？　それはまた物騒ですね。ちょっと見せてもらってもよろしいですか。……これは、……また、むう……、なるほど。…………ふむ。ひょっとしたら何とかなるかもしれませんよ。
ハマー　ほっ、ほんとっすか！？　機工学の専門家だってうなるしろもんっすよ！？
フェイ　先生は機械いじりが得意だからな。じゃあこれ何とかしてよ。
ハマー　あっ、兄貴！　やめましょうよー。いくら何でもそればっかりは。もし失敗でもしたらドカンすよ、ドカン！！　それこそ一巻の終わりっすよ！
フェイ　……大丈夫さ。俺は先生を信じる！
シタン　……わかりました。それでは一つやってみましょうか。……ところでフェイ、本当にいいのですか？ 少し考えてみては？…………いやなに、念のためということもありますし。まあ、私に任せておけば大丈夫ですがね、一応……。
フェイ　そうだな…………心の準備はできたよ。もう迷わない、やってくれ。
シタン　わかりました。本当にやるんですね……。
ハマー　……あ、兄貴ぃー
シタン　それでは……やってみますか。

……カチャカチャ……カチャ

シタン　思ったより

……カチャカチャ……カチャ

カチン

シタン　あっ、……しまっ……ととっ。
フェイ　先生、今の音は……？　それに……何か、後ろに
シタン　えっ？　いっ、いえ……何でもないですよフェイ、ははは っ。
ハマー　そっ、その部品は……爆弾首輪の安全装置じゃないっすかー！？
シタン　……す、すみません。私としたことが……
フェイ　別にいいよ、先生。部品の一つや二つ取れたって、どうせ外すんだからさ。

シタン　……あのですね、フェイ。今、私が外してしまったのはその爆弾の安全装置なんです……。
フェイ　安全装置？　……それが？
ハマー　あのっすね、兄貴。安全装置ってのは簡単に爆発しないようについてる物なんす。その装置が外れてしまったということはっすね……その爆弾、いつ爆発してもおかしくないってことなんすよ。
フェイ　………。そっ、それはまずいよ！？　先生、早く外してくれよ。
シタン　……安全装置がない今、下手にいじってしまえばそれこそ一巻の終わりです。これ以上はいくら私でもどうにも……すみません……フェイ。……ですが、その爆弾。余程の衝撃がない限りは簡単に爆発はしないようですね。手をつけるともろいのですがバトリング競技を見る限り“対衝撃吸収力”は格段に優れているようですからね……
フェイ　でも、いくら優れていてもこのままの状態じゃ危険なことに変りはないよ。
シタン　……確かにそうですね。下手に触れない以上何か別の良い手があれば……？
ハマー　あのー、先生……。その爆弾の安全装置、俺っちが貰っていいっすか？　それコレクター達の間じゃ結構な額で取り引きされるんすよ。もちろんただとは言わないっす！
シタン　……これをですか？　私は別に構いませんが。どうします、フェイ？
フェイ　俺達が持っていてもなんの価値もないよ……別に構わないよ、先生。
シタン　そうですか、では……。
ハマー　へへっ、毎度どーもっす！　それじゃあ、これが代金っす。
シタン　……さて、問題はまだ残ったままです。なにか爆弾を外す良い方法は……？
ハマー　一つ言い忘れてたっすがこの爆弾首輪を外す方法、何もない訳じゃないんす……今度の御前試合の“特赦”を受けられれば話はまた別なんすけど……。
シタン　特赦？
ハマー　毎年開かれるバトリングの御前試合っす。総統御自ら観戦されるバトリングの大会で、その優勝者にはそれまでの刑罰を帳消しにしてもらえるんすよ。しかも軍隊仕官の地位っていうおまけ付きで。
シタン　ならその大会で優勝すればいいじゃないですか。ねぇ、フェイ？
ハマー　だから無理なんすってば。それには現キングであるリコの旦那を倒さなきゃならないんすよ。だけど兄貴はこないだ、その旦那にこっぴどくやられたばかりなんすよ。そんでもって今度はバトリング……ギアっすよ、ギア！？　果たして無事でいられるかどうかわからないっすよ？　下手すりゃ、事故に見せかけて殺されちまうかも知れないっす！
フェイ　…………。
シタン　そうなんですか？
フェイ　ああ。この前は全く戦う気が起きなかったから……。でも、果たして真剣に勝負したとしても勝てるかどうか……わからない。

シタン　そんなに強いんですか？　その方。

ハマー　強いなんてもんじゃないっすよ。40戦40KO。しかもそのほとんどがバトリング開始から30秒以内にカタがついてるんすから。御前試合も今年勝てば3連続キングっす！

シタン　ちょっと待って下さい。その方、囚人？

ハマー　そうっすよ。

シタン　おかしいなぁ……。勝者には特赦が与えられるんでしょ？　なんで未だに囚人をしているんですか？

ハマー　そうなんすよ。旦那、とっくに囚人生活とはオサラバしててもいいはずなんすけどねぇ。自分から断わっているみたいっすよ。よっぽど戦うのが好きなんすかねぇ……？

フェイ　ここでこうしていても始まらない。バトリングだろうとなんだろうと、可能性があるならやるよ、俺。

ハマー　本気＜マジ＞っすか？

フェイ　ああ。

ハマー　勝てる見込みあるんすか？

フェイ　ない。でも今はやってみるしかない。

ハマー　そうっすか……。兄貴がそうまで言うんなら、俺っちが登録に行って来るっすよ。

フェイ　ハマーの奴なんだか嬉しそうだったな。

シタン　……でも本当にいいんですか？　さっきも言いましたけど。無理強いされた、されないにかかわらず、望んでいなかったでしょう？　……ギアで戦う事を。

フェイ　…………。

シタン　ここから出る方法は他にもきっとあるはずですし。私はフェイに強要するつもりはまったくないんですよ？

フェイ　わかってる。今でもギアは好きじゃないよ。それは変わらない。乗れば不安定な“自分”をいやでも認識させられる。だけど、それは失った“部分”との接点でもあるんだ。なら、とことん付き合うことにしよう……ってね。こないだ決めたんだ。エリィだって、同じ様なことで悩んでいたんだ。俺一人ふさぎ込んでいたってはじまらないから……。

シタン　そうですか……。わかりました、フェイ。今日はもう休みましょう。これから忙しくなりますからね。

ガゼル法院

――　予想より早かったな……。

――　触れえざる者の目醒め……。

――　消息を絶ってから3年。メモリーキューブからの情報によれば、現在はキスレブ帝都ノアトゥンだ。忌々しや……忌々しや……忌々しや……。

――　奴の存在さえなければ、ラムズを“アニムス”とすることもなかった。崩壊の日より500年。現在のような面倒な方法を取らずとも済んだのだ。

―――　各エリアでの“アニマの器”の発掘は順調だ。今更振り返ったところで現実は変えられん。だが、未来は我等の手で創り出す事が出来る。
―――　消去……消去……消去……。
―――　ならば、どのルートで流れたかは知らぬが、ゲートキーパーの起動、もっけの幸いだったな。
―――　「教会」からか？　それとも……。
―――　どちらでもよい。しかし……。
―――　イグニスの均衡、破る訳にはいかぬ……ということか。
―――　地が地だからな。あれは不浄の地だ。
―――　それは、言い訳に過ぎぬ。
―――　正当な理由だ。これならばカインも異存はあるまい。
―――　だが“ゲーティアーの小鍵”は使えん。来るべき時まで。
―――　ブレイダブリクには第三艦隊がいる。あれの残存兵力で十分だろう。
―――　あの男のか。下命は？
―――　粛清だ。真意は告げぬ。告げればあの男が先走るのは目に見えている。
―――　しかし、ノアトゥン全域を焦土とするにはいささか戦力が足りぬのではないか？
―――　ノアトゥンには旧文明の原子炉がある。それを利用する。半減期は1000年。それまで周辺300ケルテに生物は住めん。前と同じだ。しかし、それでも人は生き延びた。我等の肉。その程度のことでは滅びはせん。
―――　だが、奴だけは消さねばならぬ。
―――　うむ。あそこに得るべき物はもうないからな。処分してもよかろう。
―――　直撃ならば……。
―――　では……。
―――　裁決を下そう。

宿舎

ハマー　はあ、はあ……と、登録、済ませてきたっす！
フェイ　……は、早いな？　そんな簡単にいくものなのか。
ハマー　ほんとは、こんな簡単にはいかないはずなんすけど……管理委員会のルアって女性が話自体はもう通してあったらしいんすよ。
フェイ　管理委員……あの時の3人組か。
ハマー　とまあそんな訳で、登録はあっという間に……へへっ、でもこれでバトリングにはいつでも参加できるっすよ！兄貴っ！
フェイ　それにしても、ハマーおまえ。昨日からやけに嬉しそうだが何か裏でもあるんじゃないか？
ハマー　……へっ？　いっ、いや、べっ、別に何にもないっすよ！？ゆっ、優勝者のメカマンも罪が帳消し、何てことは全然ないっすから……ははっ。
フェイ　ふーん、そういうことか……。
ハマー　なっ、なに言ってるんすか！　そんなことはないっすってば！う……、おっ、俺っちいろいろやることがあるっすから先に

行ってやすね。

フェイ　あっ、おいっ！　ちょっ……ま……。

ハマー　言い忘れたっす！　バトリングの闘技場はD区画の外れっす。警備兵に言えば通してくれるはずっすから、そんじゃ！！

フェイ　…………。D区画の外れ……か。

シタン　フェイ！　ちょっと待って下さい。

フェイ　なんだい、先生？　さっき、しばらく別々に行動しようって……。

シタン　ええ、そうなんですが。ちょっと、気になることがあるので……。バトリング会場には私も一緒に行きますよ。別行動はその後からでも遅くはないでしょう？

フェイ　……？　まあいいや。それじゃあ、行こうか。

D区画・出口

警備兵　おいっ、貴様……んっ？　ああ、おまえか。委員会から話は聞いてる。これより、通行は許可するが一般街区にはその首輪がある限り行く事は不可能だ。死にたくなかったら近づくな。囚人からバトラーか。まあ、がんばりな……。

C区画・バトリング闘技場

フェイ　……ここが、バトリング闘技場。

シタン　……の受付ですね。

フェイ　んっ！？

ルア　バトリング闘技場へようこそ。……フェイ様。数日前はあれほど、拒んでおいででしたのに……この数日の間になにか身の回りで大きな変化でもおありになったのですか？

フェイ　一生下水の化け物と付き合う人生も悪くないが……いろいろあってね。あとは、この首輪だな。なにかと邪魔なんだ、これ。

ルア　その首輪が……、ですか？　ふふふ……おもしろい方ですね。バトリング初参加にして優勝を狙うおつもりですか？

フェイ　……おかしいかい？

ルア　いいえ、……これは失礼。ギアでの戦闘によほどの自信がおありなのですね……。これはこちらと……っと……失礼。では、パドックへご案内します。時間も余りありませんので…。

フェイ　パドック……？

ルア　まさか生身でバトリングを？　……ふふふ、こちらはそれで

も一向に構いませんけど……。以前、言いましたわ。機体は委員会で用意させて頂きますと……お忘れですか？

フェイ　あっ、いや……俺が搭乗する……ギアか。

ルア　では、行きましょうか。この奥が……。

シタン　ちょっと待って下さい。こちらの準備が万全では……少し、待って頂けますか。

ルア　……わかりました。ですが時間は余りないのでお急ぎを……。準備はよろしいですか？

フェイ　ああ、いいぜ

レナ　よろしいのですね。では、あちらへ……

ハマー　ああっ、兄貴ぃー。メカマンを忘れてるっすよー！　待って下さいよー。

ルア　……そちらですわ。その奥がギアパドック……緒戦開始まであとわずかです。お急ぎを……

ルアの部下　ルア様、我々は……いかに。

ルア　上層部に報告しなさい。搭乗者を確認、緒戦の黒と……。

ルアの部下　はっ、わかりました。

ギアパドック

フェイ　こ……こいつは！？

ハマー　こいつが管理委員会から支給されたギアっすね！

シタン　……さすがにこれには驚きましたね。

フェイ　先生！？

シタン　……うーん、ただの偶然……てことはないでしょうね。……推測ですが、おそらくは何らかのデータ収集の為にわざと貴方にヴェルトールがあてがわれたのでしょう。

フェイ　わざと？

シタン　バトリング自体がキスレブの軍事プランの一つなんですよ。そこから得られる種々の戦闘データや有能なバトラーは実際に軍で使っているみたいですからね。

フェイ　いったい、この俺とこいつからどういったデータを取ろうっていうんだ……？

シタン　さあ、そこまでは何とも。アヴェでの一件がからんでいることには間違いはないでしょうが……。しかし、帝都の目論見が何であれ良かったじゃないですか。こうして乗り慣れた機体を手に出来たんですから。考えようによっては、脱出の可能性が高まった訳ですしね……。

フェイ　………。

<バトリング緒戦・勝利>

レオナルド　へっ、なかなかやるじゃねえか。まあいい、お遊びはこのくらいにしてそろそろおひらきにしようか……。

フェイ　？？？？……どういうことだ？　なんだ！？　機体がっ！？う……、ああ……ぐ……うう……

地下水道

レオナルド　へへへ……。あの野郎、今ごろまたベッドでおねんねだぜ。
ハインリヒ　少しやりすぎじゃないのか？　キングに見つかったらただじゃすまないぜ。
レオナルド　ふん。わかりゃしねえよ。それよりも早いとこ済ましちまおうぜ。今夜は妙に、ネズミどもが騒いでやがる。
ハインリヒ　なんだ、おまえらしくないな……。じゃあな、そっちは頼むぜ。
レオナルド　いけねえ、いけねえや……。首の後ろがチリチリしやがる。何かとてつもねえヤツがひそんでやがる。
ハインリヒ　むっ…………なんだ？　フッ……気のせいか。なにっ
レオナルド　ちっ。出やがったな！　なんだありゃ！　まさか……こんな……化け物とは……。く……来るな……うわあああぁぁぁぁーーーー！！！

宿舎

フェイ　………。ここは、……医務室か？
シタン　やあ、フェイ。目が醒めましたか……。
フェイ　先生、……俺は一体？　なぜ、ここに……？
シタン　バトリング競技中に起きた突然の爆発……覚えていませんか？
フェイ　……そうだ、あの爆発に俺は……あれで意識を……、そうか。
シタン　……大規模な爆発でしたが機体がヴェルトールであったことが幸いでした……もし他の機体だったら今頃どうなっていたことか……まあ、無事で何よりです。
フェイ　……ヴェルトール、あいつのおかげか……。……先生。あれから何日経ったんだ？
シタン　あの事故から1日しか経過していませんよ。比較的軽傷でしたからね……。
フェイ　そうか、……1日か。…………。
シタン　どうかしたんですかフェイ……？
フェイ　なにか、嫌な夢を見た……思い出せないけど……嫌な夢だったのは覚えている……
シタン　夢……、ですか？
フェイ　……いや、いいんだ。気にしないでくれ、先生。
シタン　…………。
フェイ　先生、バトリング再開だ。早いとこ、この爆弾首輪を外さないとな。
シタン　フェイ、体のほうは大丈夫なんですか？　あまり無理をしては……。
フェイ　そんなこと言ってられないよ。時間は待っちゃくれないんだ

……。こうしてる間にも……。

シタン ……そうですね。わかりました、フェイ。私たちは一刻も早くここから出なければならないのですから……ですが、いきなり動かす訳にはいきません。もう少し休んで下さい……。

フェイ わかったよ、先生……もう少……し休んで……。

バトリング競技場・競技2日目

受付嬢 突然の機体トラブルで先日の対戦者"レオナルド・スナイパー"が本選参加権を拒否……。同じく、"ハインリヒ・クライブ"機体トラブルで本選参加権を拒否。結果、フェイ様は不戦勝。2日目の出場権を獲得しております。本日は、競技2日目、2戦勝利すれば第3戦の出場権を獲得できます。競技2日目、エントリーしますか？
搭乗者・フェイ様のエントリーを確認しました。……しばし、お待ちください。搭乗機・ヴェルトール……エントリーパドックに転送終了。ゲートチェック・スタンバイ。搭乗者・フェイ様パドックへお進み下さい。

＜相手ギアに勝利＞

受付嬢 バトリング競技勝利者に支払われる賞金です。どうぞ、お受け取り下さい。それと、B・管理委員から特別ボーナスが支払われてるわ。この調子でがんばってね！

競技3日目・勝利後の宿舎

フェイ んっ？　誰か降りてくる……ハマーの奴か？

リコ ……久しぶりだな、小僧。

フェイ おっ、おまえは！？　リコ、なぜ……

リコ まあ落ち着け、小僧。別に貴様と戦う為にここに来た訳ではない……。

フェイ じゃあっ、なぜおまえがこんなところに来る！？　他に理由があるとでも言うのか！

シタン　何事ですか？　仮にもここは寝室ですよ。もう少し静かに……誰かと思ったらフェイじゃないですか？　それにバトリングのキング……なぜ、貴方のような方がこんな囚人宿泊施設なんかに。……何か特別な用事でも？

リコ　そうだ。……バトリング緒戦の爆発事故の件でここに来た。

フェイ　爆発事故？　……あの時のか。

シタン　フェイが巻き込まれたあの競技中の爆発事故ですね。それが何か貴方に関係が？

リコ　……済まなかった。あの爆発事故は俺の部下が仕組んだことだ。部下共は洗礼の結果がどうあれ何かと新参者のおまえが気に入らなかったらしい……

シタン　それで事故に見せかけてフェイを……ですが、なぜ今頃になって？　彼等が、自ら犯した罪を証言でもしたんですか？

リコ　……あいつらはもういない。医者の先生、何も知らないのか? 今、この帝都-D区画で何が起きているかを……。

シタン　ここの地下水道で起きた謎の連続殺人事件ですか？

リコ　……そうだ。手練のバトラーたちが連続的に殺されている事件。その殺された犠牲者はすべて俺の部下……小僧……いやフェイ。おまえをワナにかけ、亡き者にしようとした俺の部下達だ。

フェイ　だからどうだっていうんだ！?　それと俺に何の関係がある！

シタン　……殺害されたバトラー達がフェイをワナにかけ殺そうとしたから……それを知ったフェイには彼等を殺す十分な理由がある……恨みによるバトラー達への報復。そして、“殺人”という訳ですね。

フェイ　……この俺が、犯人だとでも言うのか？

リコ　そういうことだ。今朝、新たな犠牲者が出た。これで犠牲者は五人だ！　地下水道で人が死ぬのは別に珍しいものではない。弱ければ死ぬ、それが摂理だ！　だが、立て続けに五人ものバトラーが殺されたのだ！　今回の事件、前例がないだけにおまえを疑っていないと言えば嘘になるが、白だとも思えん。おまえの無実を証明できるのは五人ものバトラーを殺せる怪物がいたとしたらの話だ。部下のこともあるんでなこれから地下に潜ってみる。伝えたい事はそれだけだ……

フェイ　待ってくれ、この俺も……この俺も一緒に行かせてくれ。自分の無実は自分で証明してみせる！

リコ　…………おまえとか？　ふっ、別に構わんさ……。だが自分の身は自分で守るんだな。

シタン　あらぬ嫌疑をかけられてしまった以上、フェイ自身の手で解決するほかありませんが……。…………仕方ありませんね。その地下水道の件、私も一緒に同行させて貰いますよ。

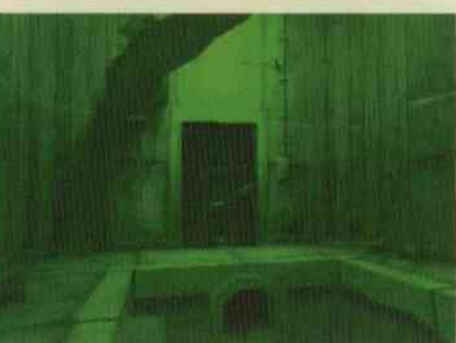
リコ　医者の先生がか？　どうなっても知らんぞ……。

地下水道

フェイ 一体この中のどこにいるんだ？
リコ そいつを探すんだよ。もし、本当にそんな怪物がいるとしたらの話だがな。
フェイ 本気で俺を疑っているのか？
シタン シッ。静かに
フェイ ！？ ……。
リコ どうした。先生……。
シタン ！？ ……とにかく……探してみましょう。

フェイ ここは……！？
リコ どうやらここが、殺人の現場らしいな。
フェイ ！？ このゲル状のものはなんだ？
リコ 人間のものじゃあねえな……。
シタン あれを、見なさい。
リコ あれも同じものなのか……？
フェイ 化け物の残したものなのか？
シタン まだ、断定は出来ませんが、……可能性は高いでしょうね。！？ ……。
リコ どうした。先生……なにかいるのか？
シタン 鈴……鈴の音が聞こえました。
フェイ 鈴……？
リコ 鈴……！ 鈴か……。
フェイ 何か知っているのか？
リコ そういやあ、地下で不気味な鈴の音色を聞いたって、うわさしてたな……。

老人 なんじゃおまえら。
リコ おい！ じいさん。なんでここにいるんだ？ 入口は閉鎖されてるはずだぜ。
老人 ふん。わしは昔からここに住んでいるんじゃ。
リコ こんな物騒なとこに一人でか？
老人 わしは見ての通りの亜人でな､化け物どもも襲ってこんのじゃ。じゃがな。最近、新参者が住み着きおってここを荒しまくっておるんじゃ。

リコ なに！ 本当か？ オレ達はそいつを探しているんだ。
老人 おお！ あんたらが退治してくれるのか。分からないことがあったらなんでも聞いてくれ。協力するぞい。この奥は危険じゃ。近づかん方がええぞ。
シタン 現場の近くには、必ずゲルがありますね。しかも、一度きりのようです。

リコ　……どういうことだ？
シタン　同じ現場には、二度と現われない……と、いうことでしょうか。

フェイ　！？　……これは……？
リコ　こいつはネズミを駆除するマシンだ。通称『ネコイラズでチュー』だっっ！！
フェイ　で……。
シタン　なんですか？　それは。
リコ　いや……。べ、べつに壊れたところはないが、なんで動かねえんだ？　ちょっと調べてみようぜ。
フェイ　！？　……。
フェイ　……む！　なにか奥にはさまっているぜ。…………！？　なんだこれは？
リコ　！！　……そいつはバルガスの持っていた、下水道の共通のカギだぜ！　そうか！　落ちていたカギをこいつが巻き込んで動かなくなっていた……ってワケか。
フェイ　どこで使うカギなんだ？
リコ　そいつは下水処理施設のカギだ。
シタン　……下水処理施設？
リコ　すべての下水が集まる場所だ。
シタン　そこが怪しいですね……。それはどこにあるんですか？
リコ　ここからだと北東の扉をぬけて一番奥の滝の側だ。
フェイ　よし、行って見るか。

フェイ　ここもか……。
リコ　むっ！　……またこの匂い。かすかに、焼ける様な……。
シタン　焼ける……？　うーん。なるほど……。
リコ　おい！　あれを見てみな。あそこの下水口にも、例のゲルがあるぜ。
シタン　どうやらあのゲルは、化け物の残して行ったものに間違いない様ですね。

フェイ　うーむ、これか…………くそっ、違う……これだなきっと…………なにっ。
リコ　……はやくしろよ……。
フェイ　なんでこんなにあるんだ！

リコ　これだろ……。
フェイ　違うじゃん……あー、これだな……。…………！　ふーっ。開いたぜ！
リコ　覚悟はいいのか……？
フェイ　ちょっと待った。
リコ　バカヤロー！　待ってられるか、つーの。いくぜっ！！
フェイ　わ、わっ！　ちょ、ちょと……。

フェイ　なにっ！？
リコ　いねえ……。
フェイ　上！！
リコ　おどかすな……。
フェイ　いないか……。
シタン　どうやら、ここの下水口を通って外へ移動しているようですね。
リコ　くそっ！　どうすればヤツを、見つけだせる……。
フェイ　！？　……これ（お守りの鈴）は……！？　なぜヤツはこんなものを……？
リコ　まてよ！　それでヤツを、おびきだせるかもしれないぜ！
シタン　うーん……ここにはもう、現れないでしょうね。
リコ　じゃあ、いったいどこで使うんだ？
シタン　これまでの情報を、よく整理して考えてみてください。
フェイ　……？？？

フェイ　下水口にゲル……たしか、何ヶ所かこういう場所があったはずだ。
シタン　そうですね。その中に、化け物の出入りしている下水口が、一つだけあるはずです。
フェイ　そうか！　そこで鈴を鳴らせば、ヤツをおびき出せるぜ。

●老人に鈴を見せる

老人　ほう、この鈴で、誘き出すんじゃな。
フェイ　どこで鳴らせばいいんだ？
老人　うーむ。そうじゃのう……やつが出入りしている下水口にはゲルが必ずあるはずじゃ。そして、やつは殺人現場には二度と近づかん。
フェイ　近くに殺人現場がなくて、ゲルのある下水口だな。
老人　そうじゃ。確か……このフロアの北の方にあったような気がするぞい。

●鈴を鳴らす

フェイ　……！　ここだっ！！
シタン　……確かに。近くに現場もなく、ゲルのある下水口はここだけですね。
フェイ　よし。鳴らすぜ！

フェイ　むっ！
シタン　来ましたよ！
リコ　……ど、どこだ！！
フェイ　……！　うしろだっ！！
リコ　なにっ！！

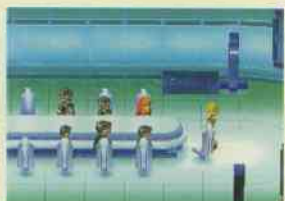
＜対　レッドラム戦＞

リコ　こいつは、一体なんなんだ……。
フェイ　なぜ、鈴なんか……持っていたんだ……。
シタン　……人なみの知能が、あったようですね。いえ。残っていた……、と言うべきでしょうか。
リコ　なに！　どういうことだ？　まさか……。
フェイ　！？　……。
シタン　……いずれにしても、悲しいことです……。

リコ　じゃあな……宿舎で待ってるぜ。うっ……。
フェイ　おい……その右腕。まさか、さっきの戦闘で……。
リコ　なんでもねえよ……。
シタン　彼はあの怪我で、バトリングに臨むのでしょうか？
フェイ　！？　……。

ソラリス・天帝の部屋

天帝　目醒めたか……。
シタン　はい。二度目……正確には三度目となりますでしょうか。……一つお聞きします。何故このような場所に……よもや御老方が……？
天帝　否。彼等はむしろ早急な処分を望んでおる。無理もない。記憶の深層に刻み込まれた“おそれ”の対象だからな。
シタン　では……。
天帝　うむ。恐らくは、な……。
シタン　処分するにはいささか早計。あの男の目的が判明してからでも遅くはないかと……。
天帝　卿がそう判断するのであれば、そうするがよい。
シタン　御意。それでは私は……。
天帝　しばし、待て…………そうか……。
シタン　何か……？
天帝　彼等の……裁断が下った。
シタン　……と、いいますと……。
天帝　……粛清だ。

ゲブラー・作戦会議室

上官　……ノアトゥンの南西200ケルテ、地下4000シャールの地点には第一ゲートのジェネレーターがある。その干渉度によってこの地域での誘導兵器は使用不可能だ。よって直前までヘヒトは有人コントロールを行う。諸君らには、ステルス飛行解除後、敵の可視防空域内でのヘヒト直衛にあたってもらうこととなる。何か質問は？
エリィ　あの……。
上官　何だ、少尉。
エリィ　護衛の骨子は解りました。ですが、肝心の目標の所在が……。
上官　それは機密となっている。
エリィ　しかし、所在もわからずにただ護衛しろと指示されましても、それでは初動対応が遅れます。せめて目標だけでも確認させていただかないと……。
上官　具体的な目標の提示は作戦進行途中、ヘヒト隊のパイロットに直接通達する。
エリィ　ですが……。
上官　君達ギア部隊は敵の対空兵器からヘヒトを護衛する事だけを考えておればいい。不服かね？
エリィ　……い、いえ……そういう訳では……。
上官　他には？　……無ければ本ブリーフィングはこれまでとする。地形、及び気象条件、敵対空設備等の詳細は手元のデータで各自確認。作戦開始は明後日17：00。それまでは各小隊単位で待機。改めて言うまでもないが、本作戦は粛清である。我等の権威をラムズに知らしめるのだ。以上。

ストラッキィ　まずいよ隊長。ありゃどう見ても作戦に異議を唱えているようにしか見えない。目標が何であれ、俺達にゃ関係ないこと……。

エリィ　静かにしてっ！　考え事してるんだから！

ストラッキィ　お、俺に突っかかるない。

フランツ　いやだなぁ、女のヒステリーはぁ……。

エリィ　貴方、意味解っててその言葉使ってるの！？

フランツ　う……。

●**作戦会議後の廊下**

エリィ　ふぅ……。

ランク　どうした？　何か気になることでもあるのか？

エリィ　ごめんなさい、カリカリして。でもケフ級投下弾に航行ユニットを取り付けただけの自走爆弾。いきなりあんなものを使用する作戦なんて、意図が明確でない……というより見えすぎている。あれだけの大質量爆弾をそれも8機もよ？　いくらなんでもおおげさ過ぎる。目標が提示されないってことは、ただ落とすだけじゃないってこと。気になるわ。

ヘルムホルツ　粛清だろ？　ラムズの。

エリィ　彼等だって私達と変わらない人間なのよ？　それを、どんな理由があるにせよ、一方的に粛清なんて納得出来ないわ。

ランク　ふーん……。

エリィ　何？

ランク　いんや……。ソラリス人とはいっても、俺達三級市民＜働きバチ＞はそのルーツをたどればラムズだ。俺達が作戦に異議を唱えるならまだ解る。だがあんたは違う。生粋の第一級市民だ。それもかなりの家柄なんだろ？　あんたの親父さん、軍じゃかなり影響力を持ってるって話を……。

エリィ　家も父も関係ないでしょ。

ランク　まぁ、なんだ。その、あんたみたいな第一級市民がそんな考えを持ってるってのが……俺にとっては意外でね。

エリィ　別に……おかしなことじゃないわ。

ヘルムホルツ　……で、どうすんだい？　やるのかい？

ストラッキィ　軍規に背いて再び三級市民に逆戻りってのはごめんだぜ。

エリィ　心配しなくていいわ。任務には就きます。でも、“ヘヒトの護衛だけ”よ。それ以外には手は出さない。

ヘルムホルツ　……で、その結果、後で何が起ころうと見ない振りを決め込む訳だ。

エリィ　……仕方、ないでしょ……。

ランク　ま、俺達にとっちゃどっちでもいいことさ。ただ指示されたままのことをする。上の意向も下界の結果も関係ない。

D区画・宿舎

リコ　遅かったな、随分待たされたぞ。
フェイ　あ、ああ、すまない。あの後先生が、モンスターを手厚く葬りたいって言ったんで俺は外で待っていたんだ。
リコ　……そうか、まあいいさ。ここ数日間に連続して起きた殺人事件も一応は解決だ。
シタン　そうですね。これでフェイの無実は証明された訳ですから。
リコ　…………。地下水道にしかれた戒厳令も直に解除されるだろう……。おまえ達とはここまでだ……。フェイ、次に会うときはお互い敵同士だ。勝ち上がってこい……俺との決着をつけたいのならな。……楽しみにしているぞ。
フェイ　おい、腕の怪我は……。まさかあんた、そのままでバトリングを？
リコ　………。他人の心配をするくらいの余裕がおまえにあるのか？
フェイ　……しかしっ！？
リコ　他人の心配をする前に自分の身を心配するんだな。手加減は一切なしだ。本気で来い！ でなければ、死ぬのはおまえだ…。
フェイ　…………。わかった……。
リコ　そうだ、それでいい……。
シタン　さて、事件も解決したことですし私が手助けできるのはここまでですね……。あとは、フェイ。貴方自身の手で決着をつけなくてはなりませんよ。
フェイ　……ああ。
シタン　腕の怪我、やはり気になりますか？　ですがフェイ、今の私達には……。
フェイ　わかってるよ、先生……俺達には、時間がないんだ。それに、あいつの言うとおり力をセーブして戦えるような相手じゃないんだ。本気でいくよ、それが礼儀だ！
シタン　余計な心配でしたね。今日はもう休みましょうか。何にせよ、まずは決勝リーグまで勝ち進まなければなりません。倒すべき相手はキングだけではないのですからね……。

バトリング闘技場・決勝前戦

＜相手ギアに勝利＞

ハマー　あっにきー、やったすねー！ バトリング優勝っすよ！ 優勝！
……じゃなかったす。いや、その優勝ももう目前っす！
明日の決勝リーグ、兄貴が勝てば晴れて俺っち達は無罪放免！！
明日はバッチバリバリがんばっす！
フェイ　簡単に勝てる相手じゃないさ。ハマー、お前にもわかるだろ？
あいつの実力の凄さが……。3年連続でバトリングキングの

座に君臨するなんて並大抵のことじゃない……。……今日までなんとか勝ち進んでこれたけど、明日は……どうなるか俺にもわからないよ。

ハマー ……やる前からそんなんじゃ勝てる試合も勝てないっすよ！　兄貴、気合いっすよ、気合い！！

フェイ ……ははは。お前にそんなこと言われるとは思わなかったよ。そうだな、やる前からこんな気持ちじゃダメだよな。よし、宿舎に戻るか、ハマー。

ハマー そうっすねって言いたいんですが明日は俺っちの運命を賭けた大事な大事な決勝リーグっす！　ギアの整備点検、カスタマイズじっくりたっぷりしといたほうがいいと思うんすよ、俺っち。兄貴も絶対そう思うっすよね？

フェイ ……ギアの整備点検か。メカマン一人じゃ心配だから先生にも手伝ってもらうか。

ハマー ガーン！？　兄貴そりゃないっすよー！　これでも俺っち精一杯メカマンやってるんすよー。

フェイ 悪い意味で言ったんじゃないよ。そんなに怒るなよハマー。さあ、宿舎に先生呼びに行くぞ。

ギア格納庫

フェイ ……これだけか？

ハマー そうっす。これがここで集められる最高のものっす。

フェイ こんな粗悪な部品で奴のギアに勝てるのか？

シタン たしかに。キングのギアの部品と比べるとかなり質が落ちますね。

ハマー 仕方ないっすよ。リコの旦那の機体は言って見れば委員会の特別製なんすから。部品からメンテまでカンペキっす。金がからむ以上、キングってのはそういうもんなんす。旦那が強いのにはそういった理由もあるんすよ……。

フェイ もっといい部品はないのか？　これじゃあ……。

謎の声 はーっはっはっはっはっ！　相変わらずお主は何もわかっておらんな。

フェイ 誰だっ！？

ワイズマン 久しぶりだな……、フェイ。

フェイ あんたは……アヴェの大武会にいた……なんだよ。俺はいま忙しいんだ！

ワイズマン ふん。たとえ、お主がどんなに高性能の機体に乗ったところで奴には勝てはせんよ。

フェイ な、何だって！？

ハマー ひっ！？

ワイズマン わからぬか？　ならば教えてやろう。

<対　ワイズマン戦>

フェイ　な、いきなり何をするんだっ！ あんた、気でも違ったのか！？

ワイズマン　問答無用っ！　そらそらそらそらっ！

フェイ　うわっ！　ほ、本気なのか？

ワイズマン　無論！　よって、お主もキモをすえて相手をせいっ！　嫌なら命をもらうまでっ！！

ワイズマン　ヌルいわ！

フェイ　うう……その技は俺と同じ……なぜ、あんたが？

ワイズマン　力に力で対抗するは愚の骨頂。真っ向からでは体重の軽いお主の方が不利になるは自明の理。今のが良い例だ。お主と私のわずかな体格差でもこのざま。ましてやその倍の差はあろうかという、あのリコとかいう男ならば尚更だ。それは、ギアとて同じこと……。たとえ、リコに匹敵する程の高性能パーツを揃えても、絶対的な体格の差は埋められん。その差をうめ、必殺の一撃を決めるには、いかにして相手の隙を突くかが肝要なのだ。

フェイ　…………？

ワイズマン　手がかりは与えた。後はお主自身で実践してみるがいい。

フェイ　待ってくれ！　なぜあんたは俺と同じ技を使えるんだ！？　それになぜ俺の名前を知っているんだ！？　教えてくれ！

ワイズマン　ふむ……、よかろう。三年前……大怪我を負ったお主を、あの山間の村に運びこんだのは、他でもない、この私なのだ。

フェイ　あんたが俺をラハン村に！？

ワイズマン　……そうだ。お主の父の頼みでな。

フェイ　親父の……！？　一体あんたと親父はどういう関係なんだ！？

ワイズマン　私とお主の父カーンとは同門。

フェイ　……カーン？　それは親父の名前なのか？

ワイズマン　なにゆえ父の名を聞く？　まさかお主……記憶が……？

フェイ　ああ……。だから、あんたの知っていることだったら何でもいい。教えてくれないか？

ワイズマン　そうか……あの怪我の状態ならば……それもありえた……な。

フェイ　ワイズマン。

ワイズマン　……ウォン・カーン。それがお主の父の名だ。私とカーンはともに若い時分から武を極めんと学んだ仲だったのだ……。

フェイ　あんたと親父が……？

ワイズマン　……うむ、やがてカーンはとある国の武官となり、そこで一人の娘を見初めた。齢にして二十歳そこそこ。“カレン”という名の解語の花の如き娘だった。

フェイ　かい……？

シタン　大層美しい方ということです。

フェイ　ああ、そう。つまり、その人が……？

ワイズマン　うむ、お主の母親だ。カーンはお主の母をめとり、私は己を極める為に旅に出た。

フェイ　母さんは？　俺の母さんは一体……。

ワイズマン　それも憶えていないのか？　……そうか。……カーンの話によれば、お主が幼い時分に死んだということだ。

フェイ　そう……なんだ……。

ワイズマン　月日は流れた。私は旅先でカーンから一通の手紙を受け取った。手紙には、息子が……お主がある男にさらわれたとしたためられておった。カーンが言うにはお主には何か特別な力があったらしい。その力を狙って現れたのが、お主をさらった男、グラーフ。

フェイ　グラーフ！？　あの男が俺を！？

ワイズマン　お主、会ったことがあるのか？

フェイ　ああ……三度程。

ワイズマン　よく今まで無事だったな。

フェイ　グラーフの目的成就の為には、今の俺ではまだ物足りないらしい。……それより、話の先を聞かせてくれ。

ワイズマン　カーンは息子を探す、出来るならば協力して欲しいと私に……私はカーンの申し出を受け、お主と男の行方を探した。そして三年前のあの日だ。殴りつけるかのような激しい風雨が吹き荒れる夜だった。カーンから息子の行方を突き止めたとの知らせを受けた私は、何かに引きよせられるようにあの場所へ向かっていた。カーンとお主は大怪我を負っていた。お主達とグラーフの間に何が起こったのかはわからない。既にグラーフの姿はそこにはなかった。何故かはわからぬが、恐らくはカーンによって退けられたのであろう。カーンはグラーフの後を追う、息子を頼むと言い残して去っていった。私はお主に応急の手当を施し、近隣の村人にお主をたくしカーンの後を追った。お主が記憶を失ったのはその時の怪我のせいであろう。

フェイ　何故親父はグラーフを追って？

ワイズマン　私にもわからぬ。ただ、最後に会った折り、カーンは息子の為だけでなく、世の為にもあの男は消さねばならぬ……、と言っておった。自分が敗れた時には後を頼む……ともな。その後のカーンの行方は知れぬ。

フェイ　グラーフは、親父が死んだって……言っていた……。

ワイズマン　そうか……。グラーフが今またお主の元に現れたのであるならば……それもありうるか……。残念だ……お主、自分の技について何か憶えていることはないか？

フェイ　え？　いや……、何も……。

ワイズマン　ふむ。お主の技、恐らくは幼い時分、カーンから学んだものなのであろう。私とカーンは同じ師の下で学んだ仲。私がお主と同じ技を使えるのはそういう訳だ。さて、そろそろ行くとするか。

フェイ　どこへ？

ワイズマン　奴を探す。そして奴の目的を突き止めねばならぬ。……カーンの為にもな。

フェイ　一つだけ教えてくれ。親父が武官をしていたって国はどこに？

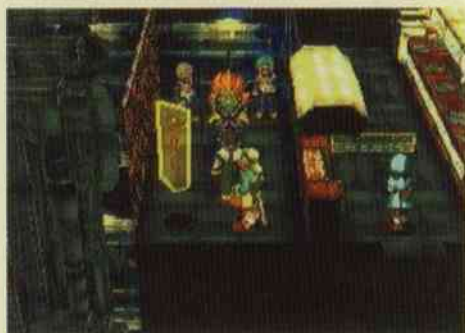
ワイズマン　行くのか？

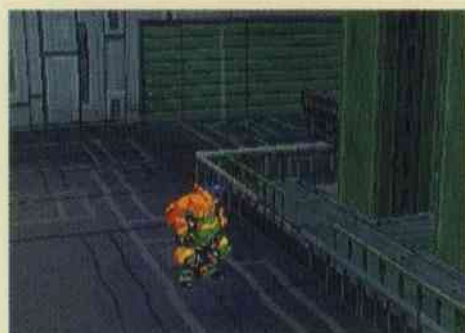
フェイ　わからない。今は他にやらなきゃならないことがあるから……。
ワイズマン　ふむ。自らの犯した過ちを覆い隠すかのように壁に護られ、空をさまよう国。シェバト。それがお主の父の国だ。
フェイ　シェバト……？　空を……、さまよう国？
ワイズマン　ではさらばだ。
フェイ　あっ！
シタン　……なんとも不思議な方でしたね。彼と会うのはこれで二度目ですか。
フェイ　ん……、ああ。アヴェの大武会以来だよ。ほんと不思議な人だ……。
ハマー　なんなんすかー、今のー！？　風みたいにヒュッと目の前でき、きき、消えたっすよ！
フェイ　今日言われたことすぐには理解できないだろうけど……なんとなくつかめた気がするよ。明日のバトリング決勝リーグなんとかなるかもしれない……。歴然たる機体の性能差が直接勝負に関ることはないと思うよ。
ハマー　ここに来る前の兄貴のこと俺っち、何も知らないっすー！アヴェの大武会ってなんすか？もう訳わかんないっすよー！
シタン　教えをつかめたとおごっては、とんだしっぺ返しを食らいますよ。決して気を抜かないことです。
フェイ　わかってるよ、先生。
シタン　さあ、フェイ。今日はもう宿舎に帰って休みましょう……。明日の決勝リーグは貴方の命運がかかってるんですから体力は温存しておかないとね。

バトリング闘技場・決勝戦

ルール嬢　……とうとう、きたね！　バトリング決勝リーグよ。がんば、がんば、なんだからぁ！
受付嬢　本日が競技最終日、決勝リーグです。対戦者は“リカルド・バンデラス”！　決勝リーグ、エントリーしますか？
フェイ　エントリーするぞ。
受付嬢　搭乗者・フェイ様のエントリーを確認しました。……しばし、お待ちください。搭乗機・ヴェルトール……エントリーパドック転送終了ゲートチェック・スタンバイ。搭乗者・フェイ様、パドックへお進み下さい。

<リコ・シューティアに勝利>

リコの部下1　貴様の機体にはなにか特別な仕掛けがされてるんだ！！　管理委員に報告してやる。
リコの部下2　そうだ、絶対規約違反したギアのパーツか何かを搭載しているはずだ！！

リコ	だまれっ！！　……これ以上この俺に恥をかかせるな……。そんな特別なものがこの帝都にある訳がないだろう。ましてや、首輪をつけたまま帝都から出ることなど不可能だ。
リコの部下1	しかしっ、！？　リコ様……、それではっ！？
リコ	“やめろ”と言ったはずだ！　……黙っていろ。
ハマー	そうっす、そんなの不可能っす！　勝ったのは兄貴の実力っす！　言いがかりもいいところっす！
リコの部下2	ぐっ……、貴様ぁ……。
フェイ	やめろ、ハマー。俺が勝てたのは、運が良かっただけさ……。ある人の教えもあったしな。……それにまだ腕の怪我は完治していないんだろ？　怪我さえなければこの勝負勝っていたのはあんただったと思う……。
リコ	負けは負けだ……。怪我のせいなんかじゃない。バトリング優勝者は……、貴様だ。
フェイ	…………。
リコ	……さて、俺にはやらなければならないことがあるんでな……。もう、行かせてもらう。
リコの部下1	キング、待って下さい。俺達も一緒に……
リコ	俺はもうキングじゃない。貴様らは邪魔だ、付いて来るな。……わかったな？
リコの部下1	そ、そんな……キング。
リコの部下2	……リコ様。
ハマー	これで俺っちは晴れて無罪放免。ああっ、自由な外の世界がこの俺っちを呼んでるっすよ。

ギア格納庫

リコ	……シューティアよ。こいつで最後だ……。付き合ってもらうぜ。……この手で、奴を……。

ゲブラー基地

ランク おい見ろよ。こいつは……。

ストラッキィ コントロール艦が1艦だけ……後の7艦は全てエーテル誘導か？　一体どこのどいつがこんなものを動かせるってんだ？

ドミニア 貴様が護衛小隊の指揮官とはな……。

エリィ ドミニア！？

ヘルムホルツ ……ドミニア……って？　おい、まさかエレメンツの……？

ドミニア ふん……。久しぶりだなエレハイム。ユーゲント以来か。

エリィ 貴方が何故ここに……？

ドミニア これは中央からの指示による重要な作戦だ。先刻、ラムサス閣下の命を受けた。ヘヒトの操艦は一般兵に任せるべきでないと判断されたのだ。ヘヒトは私が預かる。本来護衛など要らんのだが、これも作戦の内。まぁ精々健闘することだな。

エリィ 待って！　教えて！？　この作戦の標的は何？　貴方なら知らされているはずでしょ？

ドミニア 作戦上の機密と言いたい所だが、いいだろう、教えてやる。キスレブ帝都東エリアにある発電施設。旧文明の遺した原子炉がその標的だ。

エリィ 原子炉！？　そんなものを爆撃したらキスレブは……。

ドミニア 当然その大半が潰滅するだろう。加えて何百年もの間、人は住めなくなる。

エリィ 一体何のために！？

ドミニア 粛清。それ以外に何があるというのだ？　貴様も聞いたはずだ。キスレブはゲートキーパーを手に入れた。元来ゲートは愚かで野卑なラムズを管理する為にある。偉大な先達によって造られた地上の障壁だ。その障壁がラムズによって破られようとしている。この事実、放っておけというのか？

エリィ それは……、それはそうだけど、だからといって私達にそれを行使する権利があるというの？

ドミニア 気でも触れたか？　貴様、いつからそのような世迷い言を言うようになった。戦い、争い、裏切り、略奪。それしか頭にない連中がラムズだ。それはこの国の馬鹿共を見ていれば判るだろう？　そんな奴等を野放しにしてみろ。世界の主にでもなったかのように奴等の世界を辱め、略奪を始めるのは目に見えている。過ぎた知識と道具は家畜には不必要なのだよ。ラムズは我々が、在るべき方向へ導いてやらねばならん。

エリィ あなただってもとは地上の人間でしょ？　なのに何故……？

ドミニア 私は閣下によって選ばれた者だ！　それを愚劣なラムズと同一視する気か！　ふ、まあいい……。ユーゲント時代、せっかくの素養がありながら、その与えられた責務を放棄し逃げ出した貴様だ。ここで議論しても時間の無駄にしかならん。かつて地上人であった私自らが行うラムズの粛正。牧羊者<アバル>である貴様のその目でしかと見届けてもらおう。

旧リコの部屋

フェイ ……この部屋は！？　キングの……。
ルア そう、キングに与えられる部屋ですわ……。なにか不満がおありでも？
フェイ いや、そうじゃなくてリコの……。
ルア ……リコ？　彼は元キング……、いまはあなたがキングですわ。
フェイ ……あいつは、リコはどうなったんだ……？
ルア 決勝リーグ後に組まれていた団体リーグ戦の競技中、突然の機体の暴走事故が発生。暴走した機体は総統閣下の観覧席に突入し、機体は中破。現在元キング・リカルドは消息不明、その後の彼を見た者はいません……。
フェイ …………。
ルア しばらくバトリング競技はありませんのでゆっくりお休みください。爆弾首輪も取れたのです。A区画-一般街の方へ足を運ばれてはいかがです？
フェイ ……A区画-一般街？
ルア 帝都、南東に位置する街。そこがA区画-一般街と呼ばれております……。では、私達はこれで……。この部屋は自由にお使い下さい。隣の寝室も御自由にどうぞ。……それと、フェイ様。あなたには、キングの称号とランクSの特権が与えられますわ。そうそう、バトリング優勝おめでとうございます……。こちらとしても大変良いデータが取れましたわ……ふふ。それともう一つ、吉報ですわ。ジークムント総統閣下がぜひ一度キング・フェイ様にお会いしたいと申しておりました。ぜひ、セントラルエリア『帝都-総統府』へお立ち寄り下さい。……それでは。
シタン これで名実ともに自由の身、……ですね。
ハマー そんで、これからどうするんですか、兄貴？　帝都を離れるんすか。
シタン まだ、終ってはいません。この帝都でやり遺してることが一つあります。
フェイ ……わかってるよ、先生。ヴェルトールだろ。あいつをこのままここに置いては行けない。なんとか取り戻さないと……
シタン 恐らく、ヴェルトールは別ドッグに移送されたと考えるべきでしょうね……。さて、出番ですよ、ハマー！
ハマー 了解っす、先生！　帝都一の調達屋の名にかけてっギアの所在、突き止めてご覧に入れるっすよ！！
フェイ それじゃ、別々に行動しよう。俺は単独で、先生とハマーは一緒に行動……
ハマー 兄貴、この俺っちを信用してないんすか？　一人で行動したほうが俺っちとしては効率がいいっす！　先生には悪いんすが足手まといっすよ、兄貴。……つー訳なんで、この俺っちに任しといて下さいっす！
フェイ ハマーの奴……。
シタン …………。私達も行きましょうか。

バトリングキングの部屋・階下

ラティナ　あっ、ちょっとフェイさん。ついさっきここを出て行ったハマー君から伝言があるわよ。一区切りついたら一般街の酒場「ワイルドキャット」で落ち合いましょうですって。いい、私はしっかり伝えたよ！

キスレブ-総統府

――――　ここは、キスレブ総統府。許可なき者は、入ることは……ん！これはこれは、バトリングキングのフェイ殿ではありませんか。総統閣下がお待ちになっております。さあ。こちらへどうぞ。

リコ　だれもいないな。思った通り、フェイ達を招き入れるんで、警備が手薄になってやがるぜ。うーん……。さすがに正面からは、まずいか。上の通気口から入るか。

――――　ここは、奥様の部屋です。総統閣下の許可がなければ入ることは出来ません。どうぞお引き取りを。

――――　ここは、奥様の部屋です。奥様が、行方不明になられてから出入りは禁止されています。どうぞお引き取りを。

総統の部屋

ジークムント　なんだね、君たちは？　！！　ほう……君がフェイ君か……。よく来てくれた。

フェイ　あんたは……？　なぜ、オレのことを知っている？

ジークムント　ははは、これは失礼した。私はキスレブ総統府、総統ジークムントである。さっそくだが、我々と組む気はないかね。君の力が、ぜひ、必要なのだ。

リコ　あっ！？

ジークムント　！？　むっ……きさまは、リコ！

リコ　やべえ！　また来るぜ！　じゃあな……。

ジークムント　……亜人め！ 警備兵！！ 侵入者を捕らえろ！　まさか、君達が手引きしたのではないだろうね。
フェイ　い、いや……俺達は何も……。

リコ　うーん。下はまずいか……。とりあえず、あそこに隠れるか……。
おい、総統閣下が、お呼びだぜ。
――　なに！　本当か。
――　おい！　いいのか？
――　……ああ。どうせこのドアは、奥様か総統閣下でないと開かない様になっているんだ。なんだ、開くじゃねえか。

総統の妻の部屋

リコ　んー、なんだこの部屋は……！？　……この匂い……。
……どこかで……。……あれは……いつだったか……。

リコの記憶・回想

幼少のリコ　……さん。……あさん。母さん。どうして、となりのジェニちゃんには、お父さんがいるのに僕にはいないの？
リコの母親　それはね、あなたのお父さんは。……なの……でね……。
幼少のリコ　……さん。……あさん。……寝てなくちゃダメだよ。
リコの母親　いい？　あなたの、お父さんはとても立派な…だからあなたは、いつか……お父さんのあとを継いで……ゴホッゴホッ……。
幼少のリコ　！！　母さん、母さん……。

幼少のリコ　……さん。……あさん。母さん……。……僕なんだか、他の子と違うんだ。……ツメだってこんなに長いし耳だって、ほら……。
リコの母親　……！！　……ああ……そ、そんなことはないのよ……。
幼少のリコ　……はすむかいのミヨちゃんが言うんだ。おまえは人の子じゃないって。大きくなったら亜人になるんだって。僕……人じゃないの？ ……母さんの子じゃないの？ ……いやだ、そんなのいやだー……。
リコの母親　ああ……神様、どうぞ……この子をお助け下さい……。

—— 出ていけ！！　亜人の子は出ていけー！
リコの母親 うう……。ゴフッゴフッ……ゴフッ。
幼少のリコ ！！　わーん、母さんが、母さんが……。

リコの母親 いいですか……よくお聞きなさい……。あなたはこれからは、……ひとりで……。
幼少のリコ ……母さん……。僕は……。
リコ 僕？　オレは……？　オレ……なのか……。あの子供は……。オレの子供のころの記憶……。すっかり忘れていた……。

総統の妻の部屋

リコ ……なぜ今になって思い出したんだ……。この部屋は……？このかすかに残る匂い……。
フェイ おい！　いるのか？　ここを開けてくれ。お前、総統府に侵入するなんて、何考えてんだ。ヤバいぞ…………！？どうした？
リコ なんでもねえよ……。なんでもな……。

廊下

フェイ ……！？
ジークムント 貴様……。この部屋へどうやって入った？
リコ 別に……。ただ入口から、入っただけだ。
—— バカな！　この扉はDNAを検知して、開く仕組みになっているんだ。そう簡単に、開くものか！
ジークムント ……壊れていたんだろう。まあいい……。侵入者を連行しろ。管理委員会もバトリング規約違反でこの男を探していたはずだ。処分は連中に任せればいいだろう。
—— はっ！
リコ じゃあな……。また、いつか会おうぜ。
ジークムント ……まさか……な……。あの男にはこの私の暗殺未遂の嫌疑がかけられていてね。帝都警備隊が捜索していた最中だったのだ。私は急用が出来たのでこれで失礼するが、君達はゆっくりとこの総統府内でも見学していってくれたまえ。ああそれと先程の件だが、良い返答を期待しているよ。では。

総統府･出口

―― これはフェイ殿。お帰りですか？
―― またいつでも、いらして下さい。
シタン そろそろハマーが情報を仕入れているころですね。『ワイルドキャット』へ行って見ましょう。

A区画･一般街

シタン 集合場所は一般街の酒場『ワイルドキャット』でしたね。さあ、行きましょうか。
ハマー あっ、にきぃーーー。ギア情報しっかりこの耳でゲットしたっすよー！！ へへっ､兄貴のギアの所在突き止めたっすよ。
フェイ ……ちょっと待て。(ここじゃ、その話はまずいだろ……)
ハマー へっ？ なんでっすか、兄貴？ ギアの情……。ひぃっ！なっ、なんすか！？
シタン 説明はあとです。まずは移動しましょう。
ハマー ちょっ、兄貴ぃー。せ、先生ぃー、どこ行くんす？ ねぇ、聞いてるっすかぁ。待ってぇーーーっす！

フェイ ここなら大丈夫だろう｡さあハマー､ギアの所在を教えてくれ。
ハマー 先生の予想通り、兄貴のギア。もう別の搬入ドックに移送されたあとだったっす。
シタン それで、ヴェルトールは一体どこに？
ハマー そんでもって、現在は……D区画エリアの地下ドック。詳しく調べたんすけど潜入経路は2つ……｡そのうちの一つはバトリング会場の中からしか行けないっす。
フェイ 会場を経由しての潜入はまず無理だな……。で、もう一つの方は？
ハマー 少々危険なんすが、輸送列車トンネルっす。トンネル内のダクトに潜入｡あとはそのダクト内をうまくたどって行けば……地下ドックにたどり着けるっす。ただ、構造自体がどうなっているかまでは……。すまないっす、兄貴。
フェイ ……あのトンネルか｡爆弾の件も解決したし､なんとかなるか。
シタン ですが、列車の通過時間などの問題もありますね。はたしてその輸送列車がうまい具合に通過してくれるでしょうか？
フェイ 別に、今すぐって訳じゃないんだ……。じっくり計画を練ろう。……それでだ。悪いんだがハマー。輸送列車の通過日。それと時刻を調べてくれ。
ハマー 了解したっす、兄貴。そんじゃっ、早速！
シタン 私達もいったんD区画に戻りますか。

D区画

フェイ　なんだ、あんた達は？
――　そう邪険にするなよ。あんたを待ってたんだ。
シタン　待ってた？　私達を、……ですか。
――　ちょっとでいいんだ。　一緒に来てもらおうか……。
フェイ　……また、くだらない洗礼の儀式でもやろうってのか？
――　ちょっと、ちょっと。待ちなさいって！？　私達はケンカを売ってる訳じゃないんだ。そんな言い方したら誤解されるじゃないか。ここは私に任せて……。
――　わかった、すまん。
シタン　……どうやら、争うつもりではないようですね……。
フェイ　…………。
――　……ここじゃまずいね。場所を変えよう。こっちだ、付いて来て。
シタン　ここでこうしていても仕方がありません。行きましょう、フェイ。

バトリングキングの部屋

フェイ　……で、一体俺達になんの用があるんだ？
――　キングを……、いや。リコ様を助けてくれ。
シタン　助ける、キングを……？
フェイ　ちょっと待て。どういうことだ？
――　ついさっきのことだ。宿舎のヴィジョンで流れた管理委員会による臨時放送。
――　放送の内容はこうだ……。今夜、元キングを総統暗殺未遂、及びB規約違反の罪とみなし……。闘技場内において、公開処刑を執り行う、……と。
フェイ　確かにあいつは捕まって連行はされた、だが……。総統暗殺未遂、ってのは！？
――　委員会の連中さ……。キングの存在が邪魔になったんだろう。
シタン　……B・管理委員が？
――　B・管理委員会はそのほとんどが『教会』の人間で構成されているんだ。昔はキスレブ帝都での政治的発言権もかなり高かったらしい……。ところが、現総統のジークムントは政府内の『教会』勢力のほとんどを放逐してしまったんだ。
――　おまけにここ数年……、総統は兵員増強の為か、『教会』の運営するバトリングに対しても口を出すようになっちまった。
――　円滑なバトリングの運営の為には総統が邪魔になったんだろう。そこでキングに……。
フェイ　なぜリコに……？

――― リコ様は、もともとこの街の生まれ……。ジークムントによる亜人排斥が盛んだった幼い頃、この街を追われたのです。リコ様は総統とキスレブの街を憎んでいたんだ。

フェイ それでリコに目を付けた訳か……。

――― キングは過去何度も総統暗殺の機会をうかがっていたんだ。先日の競技終了後に起きた観覧席の突入事件は事故を装ってのこと……。

――― でも、それも失敗。事の露見を恐れた委員会はリコ様を……。

――― キングは委員会にいいように操られているんだ。頼む、フェイさん！　キングを助けてくれ。

――― いまじゃ、あんたがバトリングキングだ、でも俺達にとってのキングは……。

ハマー あっ、にきぃーーー！！　居るっすかぁー。輸送列車の時刻。それと日時の情報！　しっかりゲットしたっすよ！
……あや？　なんすか兄貴、こいつら？

フェイ ちょっと待っててくれ。ハマー、輸送列車の件を聞かせてくれ。

ハマー へっ？　あの……いいんすか？　部外者が……？

シタン 構いません、彼等は味方です。

ハマー えっ、そうなんすか？　んじゃ、遠慮なく……輸送列車は定期的補給物資を輸送してるっす。こりゃ、常識っすね……。そんでもって次の輸送日なんすが、なんと今夜となってるっす！　……まあ、これは置いときやしょう。んで、次の輸送……。

フェイ ハマー、今夜輸送列車がここを通過するのか？

ハマー はい？　今夜っすか？　一応、ここ通過するっすね。あっ、でも兄貴。じっくり計画たてるんすから今夜はまず無理っすよ！

フェイ ……状況が変わった。その話はもうなしだ！　今夜、作戦決行だ！！

ハマー そうっすかぁ、……って？　ちょっ、本気っすかぁ？

シタン ……貴方、外で何か気になった情報とかありませんでしたか？

ハマー そういえば……、リコの旦那の話で宿舎が盛り上がってたっすね。

シタン 詳しい情報は知りませんか。そのキングが今夜、会場で公開処刑されるそうです。

ハマー リコの旦那が処刑……、それほんとっすか？

フェイ おまえ確か、もう一つルートがあるって言ってたよな？

ハマー へっ？ ああっ、あの会場内からの……って、兄貴、まさか！？

フェイ そのまさかさ、そこから逆にバトリング会場へ出ることが可能って訳だよな……。

シタン なるほど、それならキングを助けることが出来るかもしれない……。

フェイ 先生。

シタン ええ、……なんとかなるかもしれませんね。

ハマー ちょっ、待ってっす！？　なんとかなるって……まさか、
バトリング会場に乱入する気っすか？

フェイ どっちみち、脱出するには会場を経由するんだ。同じことさ、……だろう？

—— そ、それじゃ……？
フェイ 気にするな。ギア奪取の際にやることが一つ増えただけさ。
シタン 後は私達に任せて下さい。それと、貴方達は今夜闘技場に行ってください。私達は帝都を離れますし。それに関ったとあっては貴方達がどうなるかわかりませんからね……。
—— キングを、……頼む。
—— こんなこと、頼んですまない……。
—— 感謝する……。それと、こいつを受け取ってくれ。
フェイ ハマー、おまえはどこかに身を隠しておけ。俺は、会場脱出の際にそのままギアでひと暴れする。それを見計らって帝都脱出。……わかったな、ハマー？
ハマー わかったっす！　飛び切り派手なのお願いしやすよ、兄貴！
フェイ 列車時刻まではまだ、……時間があるな。
シタン 準備が万全なら、それまで軽く寝ておいたほうがいいですね。

展望塔

アマゾネス ……ごめんよ。私は……、闘技場には行けないよ。ダメと言われてもこればかりは。さあ、もう時間だよ……。今夜の輸送列車がもうじきここを通過する……、成功を祈る。また……、生きて会えたらいいな。

輸送列車

フェイ うわあっ！！　なんだっ！？
シタン ふ〜、今のは危なかったですね！　振り落とされるところでした。
フェイ ガキどものイタズラのせいだな！　監視の爺さんがいないとすぐこれだ。ったくしょうがねぇなぁ。
シタン イタズラ好きの誰かさんが言うセリフじゃないですね。
フェイ ん？　なんか言った？
シタン ま、とにかくこのまま乗っていれば大丈夫でしょう。まずは作戦成功と言ったところですね。
フェイ 何の音だ？
シタン 連結器が……！　フェイ、早く飛び移りましょう！！

シタン　この列車、相当ガタが来ているようですね。危ないところでした。
フェイ　ギアドックに着く前に脱線したりして……。！！
シタン　この車両も危険です！　早く先頭車両へ！！

シタン　一難去ってまた一難……とはこの事ですね。
フェイ　なんだか頼りない列車だな。
シタン　そろそろギアドックに通じる通気口が見えてきます。行きますよ！！

ギアドック

バトリング会場

リコ　生身でバトリングとは……な。ジークムントめ……。この俺を殺す気らしいな。…………？　……気のせいか。気のせいじゃない……。なんだ……、この振動は？　ギアの振動とは違う……。まさか……な。あ、あいつは……。ランカーじゃねえか！？　くそっ、冗談じゃねえ！！　こんな奴とギアもなしに生身で戦えというのか！？
リコ　なんだ？……ギアの飛行音！？あの黒い機体は、奴の……！？
フェイ　うおおおぉぉぉーーーー！！

リコ　……なぜ、貴様がここにいる？
フェイ　こいつを取り戻すためだ。別にあんたを助けるために来た訳じゃあない……。脱出ルートのエレベーターはこの会場に通じていてあんたが化け物に襲われていた。それで助けた……それだけさ。
リコ　偶然にしては出来すぎた話だな……。
フェイ　あんたがどう思おうが勝手だ。……で、あんたはどうするんだ?
リコ　……なにがだ？
フェイ　会場に乱入したんだ。俺も帝都のおたずねものさ……。だからこの帝都を脱出する。あんただってこのままじゃ、またあの化け物とバトリング。今度こそ死ぬぞ……。それでもいいのか？
リコ　…………。
フェイ　あんただって何かやり残したことがあるはずだ！　だが、今の状態じゃ……。
リコ　うるさいっ、だまれっ！　二度も、二度もこの俺の……。帝都を脱出したければさっさと行くがいい。俺は帝都を離れん、例え、ここで終わろうともな。わかったらさっさと行け！！

フェイ　……ん？　なんだ……。地鳴り……か。それになんだ、この振動？
リコ　この振動は……。なにか…違う？　地面から来るものではない。大気が振動、……してるのか？
フェイ　……おい。なにか、やばいぞ。いったい何が……。

シタン　フェイ。アヴェ、いやゲブラーによる空襲です！　彼ら、本気で帝都を……。
フェイ　何だって！？　民間人も巻き込んで！？
シタン　戦艦をこの帝都ノアトゥンに直接叩き込むつもりです……。……まさか！？　あの艦の方向は！　まずい、あれは発電施設、原子炉を狙っています！　恐らくはあの艦こそが彼らの本命。もしあれが原子炉に落ちようものなら、帝都全体が……。
フェイ　吹き飛ぶ……か。進路さえ、変えればいいんだろ？
シタン　ええ、しかし……
フェイ　先生、俺、行くよ。黙って逃げるわけには……いかないんだ。
シタン　……わかりました。くれぐれも気をつけて。民間人の避難を急がないと……。
リコ　……。

キスレブ上空

ブロイアー　お、おい。あいつ？ アヴェの海賊組織にいた奴じゃねえか？

エリィ　！？　あれは……フェイ！　そんな……。

ストラッキィ　ここはキスレブだぜ？　何で野郎がいる訳よ？

ヘルムホルツ　ふん、どこにでもしゃしゃり出てくる奴だ。

フランツ　縁って奴ぅ？　ちょっとしつこいんじゃない？

エリィ　……。

ブロイアー　三度目の正直。行くぜ！

エリィ　あっ！？　待ちなさい！　ランク！？

ランク　この前の一件から思うに、どうやら、あんたとあのギアのパイロットとは知り合いらしいな。だが、止めても無駄だ。今の俺達にはヘヒトの護衛なんざどうだっていい。俺達は兵士としてではなく、武人として奴とやり合いたいんだ。このまま負けっぱなしじゃ、俺達ゲブラー特殊部隊の名が泣く。

エリィ　……。

ランク　悪いがやらせてもらう。異存はなかろう？

エリィ　私は……。

フェイ　邪魔だぁーーーっ！！　どけっ！！　早く後方の艦の軌道を変えないと……。……！！　……また、お前達か！

フェイ　こんな事に……何の意味があるんだ！？

<ヴェルトール対ゲブラー部隊戦>

シタン　皆さん、こっちです！　急いで！！

ハマー　旦那ぁ、向こうにも逃げ遅れた人がいるっすよお！　もう無理っすよお！！

シタン　あきらめるんじゃありません、ハマー！！　フェイも戦っているんです。フェイは……もう見たくないんです。罪もない人々が家を、街を、大切な人々を失う姿を……。

リコ　俺の…………街？　へっ、笑わせんじゃねえ、誰がこんなクソッタレの街なんか……。
「あんただって何かやり残したことがあるはずだ！」
（フェイの言葉がよぎる）
……俺も、クソッタレだな。

フェイ　もう……たくさんなんだよ！

フェイ　敵は……2機か。
リコ　ふん、情けねぇ、こんな野郎共に手間取るとはな。
フェイ　リコ！？
リコ　気にくわねえ奴らをぶっとばすのに理由はいらねえ。もちろん、てめえも含めてだ。
フェイ　それも、一つの理由だ。
リコ　うるせえ、行くぜ。

●リコの協力を得て敵を撃破

フェイ　よし、後は最後の艦の軌道を…………！？　エリィ！？
……リコ、すまないが、先に行ってくれ。
リコ　何だとう！？　お前、ここまで来て怖くなったのか？
フェイ　必ず、後で追い付くから。……頼む。
リコ　……ふん、まあお前なんざいなくても俺一人で何とかなるがな。じゃあ先に行くとするか。

フェイ　……。冗談だろ？　なんでエリィがここに？　軍を抜けろと言ったのに！
エリィ　無理言わないで！　私はゲブラーの士官なのよ！
フェイ　なら、これも任務って奴なのか！？
エリィ　そう！　私の任務はヘヒトを護衛すること。そして、行く手を阻む敵があれば、それを排除すること…。だからそこをどいて！　邪魔しないで！　どけないと言うのなら、あなたを排除します！
フェイ　本気か？　お前、自分が何をやってるか解ってるのか！？
あの艦が何処に向かってて、その結果がどうなるか知ってて言ってるのか？
エリィ　…………。
フェイ　おいっ！　エリィ！　なんとか言えよ！
エリィ　知ってるわ！　解ってるわよ！
フェイ　だったら……。
エリィ　変えたい、変えたいって……そう思っても変えられなかった……。
私はあなたみたいに自由じゃないのっ！
フェイ　自由？　俺が？
エリィ　そうでしょ？　自分の信念を持っている人達と一緒に戦って、自分の居たい場所を選択出来て…もし色々悩みがあっても、それが選べるだけでもあなたは自由だわ！　私なんかと違って！
フェイ　ならエリィもそうすればいいっ！
エリィ　出来るならとっくにやってるわ！　でも出来ない……
それが私の居場所。そういうところなの！
……だから……お願い、解って…………。

フェイ　エリィ……俺も、居場所はないよ……。

エリィ　え？

フェイ　……バルト達は、お前達ゲブラーとの戦いで、艦ごと行方不明になってしまった……。だから、居場所はない。もう、ないんだ……。

エリィ　そんな……　じゃあ、なんで今戦っているの？　一体誰の為に……。

フェイ　……好きか？

エリィ　？

フェイ　他人の国に土足で上がり込み、何の罪もない人まで巻き込んで…そんなに戦いが好きなのか！？　そんなに人が死んでいくのを見るのが楽しいのか！？

エリィ　馬鹿なこと言わないで！　そんなの楽しいわけないでしょ！

フェイ　そうか……。だったら、来いっ！

エリィ　な！？　何するの！？

フェイ　いいから来いっ！！

フェイ　出ろっ！

エリィ　い、痛い！　何よ！？

フェイ　いいから来いっ！　見ろ！　この街を！　その目でこの光景を見てみろ！　これがお前達のやっていることなんだぞ？任務なんていう、たった二文字だけですべて片付けられるってのか？　これが！？　エリィ！

エリィ　だって、私にはそれしかないものっ！

フェイ　お前、まだそんなことを！　……似合わないことをするなよ。望んでないんだったら、やらなくていいじゃないか。無理して居場所、作らなくったっていいじゃないか……。

エリィ　……。

フェイ　さっき俺に、何のために戦っているのか？　……って聞いたよな。実は俺にもよくわからない。もちろんバルト達に協力してたことは確かさ。でも、だからといって俺は、自分が何をすべきなのかなんてまだ、よくわからないんだ。その都度、自分にとって都合のいい場所を決めてるだけなのかもしれない。でも、それでも戦うのは、何もしないでいるよりマシかもしれないって思ったから。戦うことが、自分や、自分を必要としてくれている人にとって少しでもプラスになるのなら、何もしないでいるより遥かにいい。それは……ゼロじゃないんだ。……それだけさ。

エリィ　フェイ？

フェイ　俺は、行くよ。

エリィ　だめっ！　行ってはだめっ！　彼女は、ドミニアは今までの兵士とは違うの！　私たちゲブラーの中でもエリート中のエリート。エレメンツと呼ばれる、ラムサスの近衛部隊の一人なのよ！？　かないっこない！

フェイ　それでも俺は、あれを止めなくちゃならない。

エリィ　フェイ……。

フェイ　キスレブとは何の関係もない先生も、ハマーも必死で住民を避難させている。リコは、この街を憎んでいるはずなのに、この俺に付き合ってくれている。だから、俺は行くよ。

エリィ　フェイ……。

リコ　何やってんだ？　フェイ！　こんな面倒くせぇヤツを俺一人に押しつけやがって……。
フェイ　すまない。奴を倒しさえすれば、この艦の進路は変えられるハズだ。やるぞ！
ドミニア　フン、ザコが一匹増えたとてこの『爆弾戦艦へヒト』、落とせやしないよ！
フェイ　当然。"こいつ" は落としはしない。叩き落とすのは、"あんた" さ。
ドミニア　くっ！　こざかしい！　ラムズ風情が！

<対　爆弾戦艦へヒト戦>

ドミニア　きゃあっ！　く……おのれ……この借りは、いつか必ず返す！覚えていろ！！

フェイ　時間がない！　リコ、急いで軌道を変えるぞ！
リコ　ぬぅおおおおおおおおーーっ！！

フェイ　うぉおおおおおおおおーーっ！！　くそっ！！　質量が大きすぎる！　エリィ！？　お前……
エリィ　手を放さないで！　3機なら何とか原子炉直撃は回避させられるわ。
フェイ　あ、ああ。

リコ　良し、発電施設からは逸れた。離れるぞ！　フェイ！

フェイ　しかし、このままじゃ住宅街に！

エリィ　そうよ！　少しでも被害の少ない場所に落とさないと！

リコ　無理だ！　どのみちこれ以上軌道は変えられない！

フェイ　だめだっ！　ギリギリまで支える！

リコ　聞き分けのねぇ野郎だぜ！　な！？　オーバーヒート？

フェイ　くそっ！　こんな時に！

リコ　もう限界だっ！　心中するつもりか？

フェイ　しかし……。

リコ　もういい、離れるんだ！　行くぞ！

フェイ　エリィ！？　やめろっ！　何をする気なんだ！　そんなことをしたら……。

エリィ　大丈夫。私のギアはソラリス製。まだ……もつわ。

フェイ　だからってエリィ！　お前はどうするんだよっ！　このままじゃお前も！

エリィ　でも……他に方法がないでしょ？　少しでも長く支えられれば、それだけ被害が少なくて済むから。……ごめんなさい。でも、何もしないよりは、いいよね？

フェイ　エリィーーー！！

エリィ　……もう少しだけ耐えて！　お願い！　……！
ここまで……なの？

エリィ　私……生きてる？　……？　あなたは……誰？　どうして、私を？　待って……。

―― ……エリィ、エリィ……。
エリィ 誰……？
―― ……エリィ！
エリィ あなたは……。フェイ？ フェイ？
フェイ …………ばか……やろお……。
エリィ ……泣いて……るの？ ……ごめんなさい。
フェイ ……いいんだ。
エリィ 許して……くれるの？
フェイ ……お前のせいじゃないよ、エリィ。お前のせいじゃない……。
エリィ フェイ……。
フェイ 帰ろう、エリィ。
エリィ …… "あの人" どこかで……。……ここ、誰もいないのね。

A区画・一般街

フェイ 鍵も掛けないでこの家の住人はどこに？
シタン 家具などはそのまま……アヴェの帝都襲撃で家を放棄したんでしょう。
エリィ …………。
フェイ ハマーが来たようだ。
ハマー 兄貴、先生！ 帝都脱出の鍵になる情報しっかりつかんで来たっす！
フェイ それでその情報ってのは？
ハマー 帝都の新造大型空中戦艦…… "ゴリアテ"。これで決まりっすよ、兄貴。
シタン 帝都が新造してる……大型空中戦艦 "ゴリアテ" ？
エリィ ……大型戦艦って。そんなに大きなものなの？
ハマー ちっ、ち、大きいなんてもんじゃないっすよ！ ！？ ……　……。
エリィ ……エリィよ。

ハマー　！？……なんすよ！　エリィさん。“ゴリアテ”の大きさは超ド級！　その“ゴリアテ”と比べたらギアなんかマメ粒らしいっすよ。それに、そいつ単体でもアヴェ王都・ブレイダブリクを壊滅状態にできる代物らしいっす。

フェイ　単独で、アヴェを壊滅！？　とんでもない戦艦だな。

ハマー　有力な情報によれば場所はキスレブ帝都、北方に位置する軍事施設の地下搬入ドック……。！？

エリィ　……帝都、北方の……軍事施設って……。

フェイ　どうした、エリィ？

エリィ　その軍事施設なら知ってる。そこが以前、あなたに話した。私が潜入した……、帝都軍事施設。……でも、そんなものがあそこの地下にあったなんて……。

シタン　……エリィ。そこへの潜入ルート……まだ、覚えていますか？

エリィ　はい、先生。キスレブ帝都の遥か北方の地……“切り立った山脈を越えた場所”そこに帝都軍事施設があります。

フェイ　よしっ、帝都がアヴェ報復に出撃する前にそいつを奪ってこの帝都を脱出しよう。

ハマー　あっ、そうっす！　リコの旦那のこと！　言い忘れてたっすよ、兄貴。

フェイ　会えたのか？

ハマー　ええ、そんで帝都脱出のこと持ちかけたんすが……協力は出来ないそうっす。

フェイ　……そうか。

シタン　フェイ、彼には彼なりの考えがあるんですよ。さあ……、行きましょう。

エリィ　……フェイ。急がないとアヴェまで……。

フェイ　えっ、ああ……。わかってるよ、エリィ。急がないとな……。正面ゲートでは警備兵との戦闘になるかもしれない……。ハマーは突破が成功したら後から付いて来てくれ。

ハマー　そっちの方は得意分野じゃないんで任せるっす、兄貴。健闘を祈ってるっす！

フェイ　先生、エリィ、行こう。目的地は北方の地、帝都軍事施設だ。

ハマー　あっ、ちょっち待ってっす！　エリィさんにどうしても聞きたいことがあるっす。

エリィ　聞きたいこと？　……私に？

ハマー　うぃっす！　ほんのちょっちっすから。

●エリィに何やら聞き出すハマー

ハマー　よっしゃー！

シタン　よっしゃー？

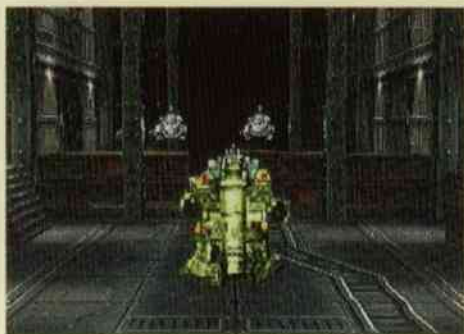
ハマー　なんでもないっす！！　正面ゲートの突破成功祈ってるっすよ、兄貴、先生。がんばってくださいっす！

A区画・出口

――― ……おい。あいつ、手配中の…………じゃないか？
――― ……そうか？　顔が似た奴ってのは世界に2、3人はいるって聞くぜ……。それに、仮に手配中の奴だとして一介の警備兵の俺らが相手になる訳ねぇよ、元キングだぜ？
――― …………、触らぬ神にたたりなし、ってやつか？
――― そういうこと。ここはだな、見て見ぬ振りを……
――― おい、あいつはっ！？　手配中の、闘技場にギアで乱入した元キングだぜ！
――― あっ、バカッ！？
フェイ しまった！？　くそっ！　強行突破だ。くっ、やるしかない。先生、エリィ！　ここは、強行突破だ！
シタン ……やはりその手しかありませんか。
エリィ ちょっと、ほんとにやるの？
――― ああっ、やる気だよ。
――― キングになんか勝てる訳ないじゃないかぁー！！
――― はぁっはーー！！　手柄は頂きぃー

●あっさりと負ける警備兵

――― なん……て、こった……。
――― だ、だから……言ったのに～。
――― て、……手柄がぁ～。
フェイ おまえは……リコ。……どうして？
リコ ……考えが変わった。騒ぎが沈静化するまで俺も帝都をひとまず離れる。新造大型戦艦“ゴリアテ”奪取。……この俺も手伝おう。ただし、帝都領域外までな……。
フェイ …………。一緒には戦えないのか？
リコ ……勘違いするな。俺はおまえ達の仲間になる気はない。俺には、俺自身の手でやらなければならないことがある……。帝都領域を離れたら、適当なところで降ろしてくれればいい。
フェイ …………。
シタン ……帝都脱出までとはいえ心強い味方ができた、それでいいじゃないですか。ねぇ？
エリィ えっ、ええ。……そうですね。
リコ こんなところでぐずぐずしてるヒマはない。いまの騒ぎを聞きつけて別の警備兵がやってくる前にさっさとここを離れるんだ。目的地は帝都領土『北方の地』キスレブ帝都の軍事施設だ。さあ急げ、置いて行くぞ！

ゴリアテ工場

＜対　への6号戦＞

●ゴリアテの奪取に成功

ゴリアテ

リコ　こんなものまで造っていやがったのか……。
シタン　……とりあえず、やってみましょうか。
フェイ　先生、動かせるのか！？
シタン　さあ……しかしフェイ……あなたは動かすあてもなく、こんな巨大なものを奪うつもりだったのですか？
フェイ　う……
シタン　まあ、いいでしょう。

ハマー　なんかすごいっすねぇ、兄貴ぃ。わくわくするっすねぇ。
リコ　……
エリィ　ここまで実用段階に入っていたのね……。
シタン　どうやら、いけそうですよ。それでは、危険ですから各自、席に着いて下さい。皆さん、準備はいいですね。少々……揺れますよ。
リコ　は、早く……
ハマー　……言って欲しいっす……。

シタン　揺れも収まりましたね。取りあえず、大丈夫でしょう。
ハマー　兄貴ぃ、これからどうするんすかぁ？　やっぱりアヴェっすかねぇ。
フェイ　そうだな……
シタン　！！　フェイ！
フェイ　どうしたんだ先生…………！！

エリィ　あ、あれは……
フェイ　……奴だ。
エリィ　フェイ、どこへ行くの！？
フェイ　ギアで出る……。
エリィ　フェイ！
ハマー　だ、旦那ぁ！？　エリィさんまで……

●飛来したグラーフとの戦闘

フェイ　グラーフ！？
グラーフ　ゴリアテはお前のために用意したものではない。お前は今しばらくこの地にとどまるのだ。行かせるわけにはゆかぬ……ほう。そこまでの力、引き出せるようになっておったか……ならば……
シタン　フェイ！　しっかりつかまっていてください！！
グラーフ　むっ

ハマー　すべるっすーーーあああああ危ないっすよぉ！！　シタンの旦那ぁ！！　黒い奴落とすのはいいんすけど、兄貴やリコの旦那まで落ちちまったら……
シタン　彼らなら大丈夫です。そんなことより、ハマー！　そちらのトリガーを！
ハマー　トリガー……ってこれっすね？　これをいったい…
シタン　撃つんですよ。ほら、来ました。
ハマー　で、出たっすーー！！
シタン　ハマー！　落ち着きなさい。相手は直線的に接近して来ているだけです。しっかり狙いを定めて、そして引き付けてから撃てばいいだけです。

ハマー　狙いを定めて…こ、こうっすか。
シタン　そう、そのまま狙いを動かさないで。発射まであと…5秒…4…3…2…1…発射！！
ハマー　や、や、や、やったっすーーーー！！！　旦那、旦那、見てたっすかあ、俺っちの腕前！！　こりゃあ俺っち天才かもしんないっすよぉ！　……あれ？　そういや、兄貴達はどうしたっす？　まさか一緒に落ちちまったすか？　ま、俺っちさえいりゃあアヴェでも何でも楽勝っすけどね。ねぇ、旦那。

エリィ　あの人……私を狙って来なかったわ。どうして……？
ハマー　リコの旦那ぁそんなに怒んないでくださいよぉ。ほんの冗談じゃないっすかぁ。リコの旦那あっての俺っちっすよぉ。ねぇ、旦那ぁ…
リコ　うるせぇっっ！！！
ハマー　ひぃーーーーーーーっっ！！　俺っちがやっつけたのになんで怒られなきゃ……。ぶつぶつ……っす。

フェイ　……先生。何だかうまく言えないけど、……変な気がする。
シタン　あの黒衣の男のことですか？気にしても何も始まりませんよ。第一、あなたらしく……
フェイ　そうじゃないんだ。そんなことじゃなくて…そう、何か胸騒ぎがして、前にもこんなことがあったような気がするんだ……。
シタン　あなたもですか！？　いや、実は私も今、妙な既視感を覚えてはいるんですが……。
フェイ　それに何だか誰かに見られているような……

バルト　ビンゴ！　情報通りだな。キスレブの機体……だ。でかいぞ……機種は……間違いない！　ゴリアテだ！　噂の地下工場の奴だ！！　畜生……奴ら報復に出やがった！　あれでブレイダブリクを爆撃する気だな！　何にせよ、あの野郎をみすみす行かすこたぁ、無い、な……ラトリーン！

ラトリーン　グングニー……いえ、バルトミサイル、燃料注入中！　ハッチ開放からイルミネータ作動まで15秒でいけます！

バルト　バンス！

バンス　表層風波サウンドとデカブツの機関音以外、な～も聞こえません。怪しい電波、空電ノイズ程度。脅威度希少！

バルト　よぅっし！　バトコンレベル1発令！

メイソン　わ、若！　何事でございますか？　い、今の警報は……

シグルド　若！　またですか！！

バルト　全艦戦闘配置！　浮上航行！　ベント弁閉鎖！　メーンタンクブロウ！　浮上と同時に対空戦闘に入る！

シグルド　……懲りないお方だ…………

メイソン　わ、若！　グングニルミサイルは、乗組員半数以上の承認なしには……

バルト　表層打撃戦区！　対空銃座をスタンバっとけ！　ラトリーン！　バルトミサイルのトリガーをこっちに渡せ！

●ゴリアテ艦内

エリィ　どうしたの？　フェイ。

フェイ　いや、別に何でもないんだ。

エリィ　そう、それならいいんだけど……それより先生、大丈夫なの？　こんな大きな機体で堂々と飛んでいて。もしキスレブや、アヴェに見つかったら……

シタン　大丈夫ですよ。ちゃんと考えて海上に進路を取っています。この辺りに展開している軍隊などいませんよ。それにそう簡単にやられるような代物でも……

●バルトミサイルがゴリアテに命中

シタン　まさか！　被弾！？

フェイ　敵か！？

シタン　わかりません。しかしこんな所に潜んでいるとは……

エリィ　大丈夫なの！？

シタン　……残念ながら、墜落を免れることは出来なさそうですね。フェイ、エリィ、先に脱出して下さい。私も後から行きます。

フェイ　でも……

シタン　議論している暇はないんです！！　あなたにこのゴリアテの墜落までの時間を延ばす操作ができるんですか！？

フェイ　……

シタン　わかったら早く行きなさい。さて…………って、ハマー！　あなたも行くんですよ！

ハマー　は、ははは、はいっすー！！

リコ　ちっ。ちんたらしてんじゃねえ、行くぞ。

ハマー　はいっすーーー！！

シタン　……しかし、いったいどこからの……！！　この艦影は……シグルド……。もう少し教育方針を考えた方が……

ラムサス艦

船員1 先程の時空震の正確な位置が出ました。N24、E92、イグニス、ラハン地区北東の海上です。波形からして、ゲートキーパーのものに間違いありません。
船員2 本国からの定期便の予定、ありません。
ラムサス シェバトのアウラ・エーベイルである可能性は？
船員1 ありません。質量が違います。あれより遥かに小規模のものです。
船員2 信じられません。ラムズにゲートキーパーを装備した艦があるなどとは。
ラムサス 恐らくは、キスレブのものだろう。先の粛清、やはり不完全だったか。貴様……。
グラーフ 追わずとも良いのか？
ラムサス 何？
グラーフ 転移した艦に乗っているのは、うぬのその胸に怖れと憎しみを刻み込んだ男。転移先はアクヴィだ。
ラムサス 総員、非常呼集。これより転移したキスレブ艦を追撃する。
ミァン なりません閣下！　まだ、本国からの指示が来ていません。ここを動くのはそれからでも……
ラムサス 構わん！　ここで、奴を逃す訳にはゆかぬ！

●グラーフとミァンの密談
グラーフ 小細工は無用と言ったはずだ。
ミァン 私は貴方の手助けをしているだけ。結果的にかせが外れやすくなったのだから良かったじゃない？　それに"器"は運命られた者にしか反応しないことは知ってるでしょ？　これはあの子達も知らないことなの。私の意思でしたこと。でも……カールにとって彼は必要ね。カールの存在意義そのものだから。そう。それよりお礼を言わなくちゃね。助けてくれたんでしょ？
グラーフ …………
ミァン 私？　それとも彼の為かしら？　……それとも……自分自身為？

船員 第一、第二ゲートの境界線を利用してアクヴィへの最短ルートを取ります。
ラムサス うむ。
船員 ケルビナ様より入電。ドミニア様はハイシャオにて回収。我々に先んじて、転移した飛行戦艦を追撃するとのことです。

ガゼル法院

——　勝手なことを……。ラムサスの任はイグニスに眠る“アニマの器”の発掘とラムズの監視であったはず。それを……。

——　“アニマの器”ならいつでも回収出来る。それより、転移した船には“奴”が乗っていたことが判明しておる。ラムサスはそれを追ったのであろう？

——　……トラウマ、か。

——　否。この場合はニグレト……陰性外傷だろう。

——　メモリーキューブからの情報によれば“奴”の周囲には“アニムス”となり得る因子を持つ者が複数存在しているらしい。

——　M計画対象者＜スファラディー＞では無くか？

——　ああ。

——　偶然か？

——　否、それにしては多過ぎる。“奴”に引き付けられたか……

——　図らずも500年前と同じ様相を呈してきたか。

——　あの男がそうなる様に仕向けた可能性も無いではない。

——　転移先はアクヴィ……タムズの近くだったな。

——　アクヴィならばカレルレンが向かうそうだ。

——　カレルレン？　直々にか？　なにゆえに？

——　見つかったのだそうだ。4000年の長きに渡り奴が探し続けていたゼボイムの遺産がな。

——　遺産……という事は、以前奴が話していた技術か？

天帝カイン　そうだ。分子工学……ナノテクノロジー創世の地、ゼボイム文明の首都がアクヴィの海底下に眠っていたのだ。19年もの間、その存在は『教会』によって秘められていたがな。

——　よいのか？　カイン。

天帝カイン　ああ、まだ暫くは保つ。

——　19年…ちょうどアクヴィの大地殻変動の年と重なるな……。

——　成る程。

——　しかし、解せぬ。その技術、さほど重要なものとも思えぬが……

——　奴とてラムズ。あまり勝手にさせるのもどうかと思うぞ。

——　あれには何を考えているのか解らぬ所があるからな。

天帝カイン　よい。その件は、私が責任を持とう。ところで……。お前達……“消すつもり”であったのか？

——　何、偶然だよ。

——　場所がイグニスだ。蓋然とも言える。

——　それに、あの程度で消せるなどとは思ってはおらぬ。

——　粛清そのものも失敗に終わった。今後はなかろう。

——　“アニムス”が集まっているのであれば尚更、だな。

——　うむ。

——　カインよ。何故そこまでこだわる？　我等にとって、何ら利のない“奴”に……

——　毒になりこそすれ、薬になることは有り得ぬのだぞ。

——　“アーネンエルベ”……未だに信じている訳ではあるまい？

——　そんなものは幻想だよ。理想ですらない。

——　結果は……この姿。見ての通りだ。

——　それとも……忘却の彼方に葬り去った“想い”からか？

天帝カイン　……

——　カイン。我等が“神”なのだ。

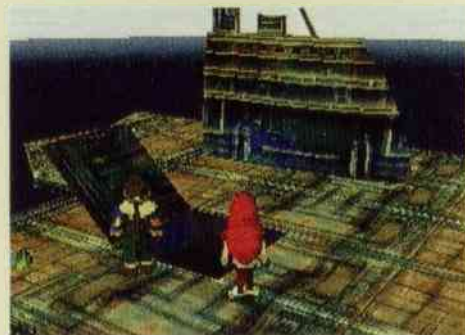
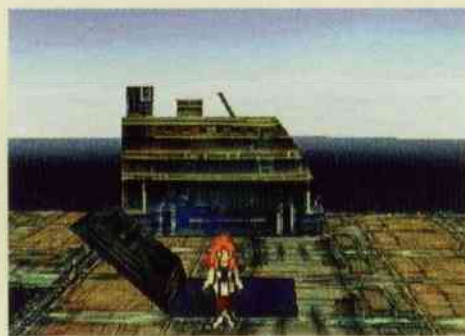
●漂流するゴリアテの残骸

エリィ　う、うーん……ここは……？　私、フェイと一緒に後部ブロックに向かって…………フェイ！　フェイは？
フェイ　エリィ、起きてたのか。
エリィ　お、起きてたのかっていったい何してたの！？
フェイ　いや、この中を探してたんだけど、2日分……もないな。
エリィ　え？
フェイ　食べる物だよ。この中にあっただけでも幸運だったけど。
エリィ　そんなことより、皆は！？　助かったのは私たちだけ？
フェイ　何とかしないとなあ。魚でもとるか。
エリィ　フェイ！
フェイ　……大丈夫だよ。
エリィ　え？
フェイ　大丈夫だよ……。先生もリコも、ハマーも、皆……大丈夫だ。

ユグドラシル

シタン　ハマー、リコ、起きるんです！
ハマー　どこっすか、ここは？
リコ　ん、ここはどこだ？　なんか臭いぞ。
シタン　ここはバルト一味の船の中です。ゴリアテを撃ち落とされて彼らに助けられたのですよ。
リコ　なんだ、そのバルト一味ってのは？
シタン　まぁ、アヴェを縄張りにする義賊……、とでも言っておきましょうか。バルトはその親分です。と言っても青年ですが。
リコ　ムフゥ、この時代に義賊たぁ骨のある男だな。気に入ったぜ！！
シタン　……。まずはそのバルトに会ってみませんか？
リコ　うむ……。スジは通しとかねぇとな。
ハマー　俺っちはここにいるっす。

バルト　先生とでかいの！　やっと目が覚めたみてぇだな。やあ、悪かった。反省してるって。な、許してくれよ？
リコ　俺はリコって名前がある。で、何でお前が謝ってんだ？
バルト　……。遠回しな言い方するなぁ。こんな素直なオレは珍しいんだからな……！？
シタン　つまり、我々はこの艦に撃墜されて同じこの艦に救助された……ってことです。
リコ　？？ってことは俺達が乗ってたゴリアテを撃墜したのは……。
バルト　ニブイなぁ……、でかいの。俺達がゲットしたこのユグドラシル2世がバケモンみてえな飛行機をヒットォォ！！　う～、スバラし過ぎるぜ！　すげぇよな、バルトミサイル！！
リコ　ガァッ～！！　許さねぇ！！

●怒ったリコ、バルトを殴る（？）

エリィ　やっぱり……ね。どうも不自然な浮き方をしてると思ったら……でもそれが分かったところで取り出す術はない……か。足下にあるっていうのに、水と厚い壁で覆われてるなんて……おそらく、ヴェルトールとヴィエルジェ、ね。こんな所まで一緒なんて私たち幸運なんだか不運なんだか……ま、役に立たないんだから、どうしようもないけど。どうやら私達のギアがこの下に格納されてるみたいよ、フェイでも結局手が出せないけど…………何してるの？　フェイ。

フェイ　何してるの……って、見ればわかるだろ。魚を捕まえようとしてるんじゃないか。さっきからまるで俺のことを馬鹿にしたように目の前をピョンピョンと……いたな！この野郎！！

エリィ　ね、ねぇ、まさかそれ捕まえて食べるなんて言わないわよね。

フェイ　食べなきゃ死んじまうだろ。……………よおし！！　捕まえたぞ！！

エリィ　じょ、冗談よね。お腹、こわすわよ。

フェイ　食わないのか？　ええと、何か焼くものが……

エリィ　ね、ねぇ、やめなさいよ。死んでも知らないから。

フェイ　大丈夫だって。腹のなかに入れば皆一緒さ。

エリィ　ホントに知らないわよ………………フェイ！！

フェイ　どうした！？　魚が逃げ出したか？　なんだ、いるじゃないか…………あれは！　あれは……砂漠で見た奴だ。あの時よりもかなり高く飛んでるけど。

エリィ　シェバト……ね。普通はあの位の高度で飛行してるわ。

フェイ　シェバト……どこかで……そうだ！　あの妙な仮面の男！親父が武官をしてたって……。あの円盤が、仮面の男や先生の言っていた、親父とおふくろのいた国だって言うのか？

エリィ　そうなの？　それは私には分からないけど……ソラリスの管理の外にある国。ソラリスと同じように障壁が働いて普通では捉えることのできない国。それがシェバトなの。

フェイ　あんな高い所をいつも飛んでるのが、国、なのか？

エリィ　ええ、驚くのも無理ないわよね。普段はアクヴィと呼ばれるエリアを中心に移動してるもの。恐らくあなたが見た時は、何か特別の目的があったんじゃないかしら。それで恐らく低空飛行を……。

フェイ　シェバト……

●やはり殴られていたバルト

バルト　……。イテェ……。やっぱバルトミサイルはまずかったか……。先生たちは救出できたけど……。フェイとエリィはどうなったんだろう……。きっと……、きっとどこかで生きてるよな。そして、また……。くそっ！　潮風ってのは目に染みるな……。これが海ってやつか……。とりあえず、ちゃんとあの二人に謝んなくちゃな。

シタン　あ、若くん。何か用ですか？
バルト　え、えっと……ゴリアテを撃ち落としちまったのはマジで……
シタン　ああ、そのことですか。いや、仕方無かったと思いますよ。でも、早とちりはあなたの悪いくせですよ。王たるものは常に冷静でなくてはなりません。
バルト　（爺と同じ事言ってら）あぁ、分かってるって。ところでさ、先生に聞きたいことがあんだけど……。
シタン　ん？　珍しいですね。
バルト　実は、今俺たちが乗ってるユグドラシルの同型艦のことなんだ。昔、親父がキスレブとの和平が進んだから廃艦にした、って言ってたから存在は知ってたんだけど。
シタン　ふむ。で、何が疑問なのですか？
バルト　この艦についてた紋章さ。我が王家の紋章じゃねぇんだ。見てくれよ。
シタン　これは……。
バルト　やっぱ知ってんのか？　一体どこの紋章だ？
シタン　確実なことは言えませんがシェバトの紋章に似てますね。
バルト　シェバト？　一体どういうことだ？
シタン　もしかするとユグドラシルはあなたのお父上が作られたのではないのかもしれませんね。当時の技術力では解明できないポテンシャルを秘めてますから。お父上はその力を恐れて封印されてしまわれたのかも。
バルト　う〜ん、なるほど。こいつはもともと俺たちのもんじゃないかもしれないのか。だったら会ってみてぇな、こんなすげぇものを作った奴等に。
シタン　意外に近くにいるかもしれませんよ……。
バルト　ん、なんか言った？
シタン　いえ、なんでもないです。それよりリコには謝っといた方がいいですよ。そのタンコブだけでは済まされないかもしれませんが。
バルト　ああ。
シタン　リコなら自分のギアを見てましたよ。

●ギアハンガー

バルト　な、なぁ……。おい？　シカトすんじゃねぇよ！！　わざわざ謝りに来てやったんじゃねぇか！
リコ　……。なんだ、さっきからゴチャゴチャとうるせぇな。さっきのでケリつけたつもりだ、俺は。昔の話をグダグダするのは好きじゃねぇんだ。それよりな、俺が気になってんのはあそこの2体のギアだ。お前ら何者だ？　あんなチューンでよく動かせるな。俺とフェイぐらいだと思ってたぜ、あんなのを動かせるのは……。
バルト　さすがバトリングチャンプ、いや元チャンプ……、か？　恐れ入ったぜ、一発であのギアの性能を見抜くとはな。
リコ　やっぱ暗い監獄の中だけじゃこの世はわかんねぇか。こいつぁ、おもしれぇ。このままトンズラしちまおうと思ったが気が変った。便乗させてもらうぜ、海賊の親分。
バルト　ああ、いいだろう……。

●漂流中のフェイとエリィ

エリィ　また……さっきより流されたみたい。

フェイ　……流されっ放し……か。今の俺みたいだな。

エリィ　え？

フェイ　結局俺は状況に流されてふらふらと行動しているだけなのかもな。

エリィ　そんな……そんなことないでしょ？　アヴェでバルトさん達に協力してあげてたじゃない。キスレブの事にしたって、あんなに必死に守ろう、助けようって。私の事だって何度も気遣ってくれて。

フェイ　いや……やっぱだめだよ、俺は。

エリィ　どうして？

フェイ　きっと心から協力したいなんて思っちゃいないんだ。誰かに必要とされたい、何かをしてあげれば……そうすれば、自分の居場所が出来るって、いままで行動してきた気がする……。そうやって癒されている自分がいるんだ。たしかにそれはゼロじゃあない。だけど、1でもないんだよ。そんな風に流されて行動しているうちにエリィと出会って、今は海の上。すまない……。巻き込んでしまって。

エリィ　気にしないで。私ね、考えてみたの。何で今自分はここに居るんだろう。あのまま戻っても良かった。それなのに、どうして戻らなかったんだろう……って。それは多分、あなたが何もしないより、何かしてる方がいいって言ったから。だから私も、何かしてみようって気持ちになれたんだと思う。1で無くてもいいじゃない。たとえそれがごくわずかでも、何度も繰り返せば1になるでしょ？　それは……ゼロじゃないもの。

フェイ　そうだな……ごめん……。助かったら……戻るのか？

エリィ　現隊への復帰はしないと思う。今はいたくないって気持ち強いし……それに、軍にいなくても、きっと私にも何か出来ることあるはずだから。だから国には戻ろうと思うの。

フェイ　大丈夫なのか？　軍の方は。

エリィ　別に表だって裏切った訳じゃないから。多分作戦行動中に行方不明ってことで処理されていると思う。大丈夫よ。

フェイ　そうか。エリィだけでも助かるといいな。きっとやるべきことが見つけられるよ。

エリィ　癒されてるって……言ったよね？

フェイ　ああ。

エリィ　思い詰める事ないと思う。誰だってみんなそうやって、お互い見返りが欲しいから、自分の中の何かを他人に分け与えているんだよ。……私だってそう。さっきの非常食、無理して食べてくれたでしょ？

●回想

フェイ　うげーっ！
エリィ　ね、ねぇ……ちょっと、大丈夫？　だから、あんな不気味な生き物食べない方がいいって……。
フェイ　ま、まずいのなんの。こんなまずい物食ったのは先生の手料理以来だぜ……。
エリィ　？
フェイ　でも何とかしないと、本当に死んでしまうぞ。
エリィ　仕方ないわね。もう少しとっておくつもりだったけれど……これであと一日くらいだったらなんとかなるわ……。でも非常時のカロリー補給だけを追及したものだから、味の保証は出来ないけど。
フェイ　んんん！？　何だ？　このボソボソしたのは？
エリィ　やっぱり……口に合わない？
フェイ　え？　い、いや……うまいよ。うんうまい。せっかくエリィが分けてくれたものがまずい訳ないじゃないか。

エリィ　さっきの非常食、無理して食べてくれたでしょ？　自分だけ生き残ろうって思ったら、独り占めした方がいいに決まってる。でもね、無理して食べてくれているあなたの姿見て、私も癒されていたんだ。分けてあげて良かったなって……それで少し元気出たもの。
フェイ　自分の為に？
エリィ　そう。自分の為。独善的なもの。でもね、最初はね、それでいいのよ。そうやって少しずつ与えることの喜びを学んでいけば、いつか他人の為に自分自身の大切な部分を分け与えることが出来ると思うの。きっと…………いつか。あ……
フェイ　？　どうした？
エリィ　ううん。何でもない。ただ、昔同じ様なこと、あなたに言った覚えがあったような……気のせいね。だってこの前知り合ったばかりのあなたに言える訳ないものね。気のせいよね……

フェイ　エリィ！　おいエリィ！　起きろよ！
エリィ　おはよう、フェイ。早いのね。
フェイ　何寝ぼけたこと言ってんだよ。あれ見ろ！　あれ！！
エリィ　え？

タムズ

—— 驚いたよ。まさか、こんな大海原で漂流している人間がいるとはね。しかも2体のギアと一緒に、とは聞いた事もない。
エリィ あ、ありがとう。助けてくれて……
—— 礼なら艦長に言うといい。海で漂流してる君たちを助ける指示を出したのは、我がタムズの艦長だ。
フェイ タムズ？　艦長……？
—— 海上都市タムズ。それが今君たちのいる場所の名前だよ。そしてこの船の艦長は変わった男でね。まあ、会ってみるといい。もちろん、悪い人間ではないよ。
エリィ あの……私たちのギアは？
—— ああ、心配しなくていい。物資搬入口からタムズ内部のドックに搬入しておいた。海水が入り込んでいたので修理には時間がかかるかもしれないが。
フェイ 修理……してくれるのか？
—— 親切すぎて怪しいぐらいに思っているのかい？　無理もないかな。でも、そういう人なのだから仕方がないよ、艦長は……さて、そろそろ僕は行かせてもらうよ。そんなに暇な身分でもないのでね。ゆっくり船内でも見ながら、ブリッジに来るといい。艦長はきっと君たちに会いたがっていると思うよ。では……
エリィ フェイ、どうしたの？
フェイ あいつ、どこかで見たことがある気が……まあ、いいか。

●ブリッジ
艦長 お、おめえらは、ギアと一緒に漂流してた酔狂モン共だな。
フェイ 別に好きで漂流してたわけじゃ……
艦長 がははは。まあ、そう気を悪くするもんじゃねぇ。海からの物資引き上げを生業とする俺たちにゃ、海から得られたものはすべてお宝さ。そう、お前らも、大事な大事なお宝さ。丁重に丁重に扱わねえとな。
エリィ あの……助けて頂いて、感謝しています。
艦長 おう、きれいな姉ちゃんだな。そんな心配な顔すんない。別に、釣ったもんだから焼いて食おうって訳じゃねえや。おめえらのギアもピッカピカにして返してやらあ。
エリィ どうしてそんなに親切にして下さるんですか？
艦長 それはな……俺が！　海の！　男だからだ！
フェイ・エリィ ……
艦長 がっはっはっは……おう、そうだ腹減ってんだろ。たらふく食わしてやらあ。ハーーーーンス！　俺は客人をもてなすぞ。後は任せた。
ハンス 了解しました、艦長。あまり度を越されぬように。
艦長 わかってらあ、しかしどうしておめえだけそんなに冷めてるかねぇ。
ハンス 艦長や他のみんながいい加減すぎるんですよ。
艦長 へっ、わかったよ。先に行って準備させてくらあ。
フェイ 何だ？　あいつは……
エリィ 悪い人では……なさそうだけど。

艦長 おう、遅かったじゃねえか。っても、まだ完全に準備できてねえけどもよ。おおい、まだかよ。お客人を待たせるんじゃねぇぞ。悪ぃな、こんな所でよ。座るところもあまりねえ。だがよ、ここからの眺めは最高だろ？　タムズ自慢のビアホールさ。ブリッジからすぐビアホールなんざ、ふざけたつくりだと思うかもしれねえが、俺はこれでいいと思ってんのさ。酒もうまく飲めねぇ人生なんざ波に飲まれて消えちまえってね。……ま、ここのおかげで飲んだくれだらけだがな。

フェイ いつも、こんな風に海を回遊してるのか？

艦長 ああ、普段はな。お前らを釣りあげたクレーンがあるだろ？あれやギアを使って、海からお宝を引き上げるのさ。サルベージって俺たちゃ呼んでる。だが、最近はとんとお宝も減ってきてな……ま、それもこれまでよ。大仕事が入ったのさ。ま、依頼された仕事だがな。

エリィ 大仕事？

艦長 ああ、『教会』からの仕事でな、今度『教会』が、大サルベージ計画を起こすのさ。詳しくは俺も知らねえがな。何でもすげえお宝が眠っているらしいぜ。

フェイ 『教会』がなぜそんなことまで……？

艦長 さあな。しかし、『教会』には日頃から商売相手としても世話になってるからな。ま、そうじゃなくてもこんな話断わるなんざサルベージャーの風上にもおけねえってもんだ。お、ようやく準備もできたようだぜ。メシだ、メシ。

●ゴリアテ捜索中のドミニアとケルビナ

ケルビナ 艦影捕捉。……捜索対象ではないわね。この型は……アヴェの海賊組織のユグドラシルとかいう艦と一致するわ。

ドミニア ユグドラシル？　先の戦闘で沈めたはずではなかったのか？

ケルビナ 撃沈の記録はされていないわ。こちらも例の赤いギアの攻撃で壊滅状態だったんだから。

ドミニア と、いうことは、沈まなかった可能性もある訳か……。データによれば、たしかユグドラシルはあのギアの母艦だったな？

ケルビナ ちょっと待って……ええ、その通りよ。

ドミニア ならば丁度いい。コントロールをこちらにまわしてくれ。

ケルビナ 丁度いいってどうする気？

ドミニア 無論沈める。二度も閣下の手をわずらわせることはない。

ケルビナ 待ってよ。閣下からの指令は消えた空中戦艦の捜索でしょ？任務外のことを容認する訳にはいかないわ。それにそろそろどこかで補給しないと。燃料も少ないんだし。

ドミニア これだけあれば十分。やってみせるさ。

ケルビナ もう、一度言い出したら聞かないんだから！　それと、水の中は陸の上のように簡単にはいかないの。わかっているわね？

ドミニア 当然だ。すまんな、ケルビナ。

エリィ　いくら食べてなかったからってよくそんなに次から次へとお腹に入るわね？

艦長　がっはっはっはっは……いいじゃねえか、いいじゃねえか。気に入ったぜぇ、その食いっぷり。だてに漂流はしてねえな。そう……男は！　度胸と！　食い意地だ！

フェイ・エリィ　……

艦長　がっはっはっは……

エリィ　？　今、揺れなかった？

フェイ　気のせいだろ。

エリィ　やっぱり！

船員　艦長、副長がお呼びですぜ。

艦長　おう、わかった。今行く。どうやら何かあったみてえだ。すまねえが俺は艦橋に戻ることにすらあ。ま、おめえらはゆっくりしてってくれや。

フェイ　なあ、エリィ、水柱か？　あれ。

エリィ　私には遠くてよく見えないけど。でも、だとすると……戦闘？

艦長　このタムズのそばでドンパチやらかすたあ、いい度胸じゃねえか。海の男の血が騒いでくらあ。なあハンス、もう大砲も長い間ぶっ放してねえや。ここいらで俺たちもケンカに乗っかる、ってのはどうだ？

ハンス　冗談でしょう？　敵も味方もない戦闘に何でタムズが加わるんです？　それに大砲なんて、艦長が酔狂で付けただけの役立たずのシロモノじゃないですか。

艦長　ちっ。全くてめえって奴ぁ海の男のロマンってモンが……

フェイ　いったい、どうしたんだ？

艦長　どうやら潜水艦が襲われてるみてえだな。

フェイ　潜水艦？　あ、あれは……　！　この船は！？

エリィ　何？　どうしたの？

フェイ　こいつは、ユグドラシルじゃないか！

エリィ　それってバルトさんの？

フェイ　ああ。そうか、あいつ、生きてたんだ！　よしっ！　こうしちゃいられない！　行くぞ！

エリィ　行くってどこへ？

フェイ　決まってるだろ？　助けにさ。

●ヴェルトール、ヴィエルジェ発進

ユグドラシル～海中戦

バルト　こん畜生、こっちは水の中で思うように動けねえってのに、よくもスイスイと……

フェイ　苦戦してるみたいじゃないか、バルト。

バルト　フェイ！？　生きてたのか！？

フェイ　それはこっちの台詞だぜ。

エリィ　あの機体は？

ドミニア　エレハイム！！　貴様、こんなところで何をやっている？

エリィ　ドミニア！？　あなたこそ何故？

ドミニア　何故だと？　我々ゲブラーに敵する艦を沈めるのに、理由なぞ必要ない！！　愚かな地上人<ラムズ>は優れた者の手によって導かれなかればならぬのだ。

エリィ　どうして？　私たち牧羊者<アバル>と彼らとどこが違うと言うの？

ドミニア　私にとってアバルもラムズも同等。あるのは個々の持つ絶対的な能力の差だけだ。愚者は智者によって管理統制されねばならぬ。それが摂理。貴様もエレメンツとして、その摂理の具現者たり得たものを！　何故だっ！？　あれだけの能力を持っていながら！？

エリィ　……弱者を傷つける能力が、優れた者の証だというの！？　私にはそんなものいらなかった……。それだけよ！！

フェイ　エリィ、大丈夫か！？

ドミニア　その機体、あの時の男か？　はははは、そうか、そういう事か、笑わせるぞ、エレハイム。結局は男か。どうやらあの話は本当だったらしいな。お前が卑しいラムズの子だと……。

エリィ　止めてっ！　それ以上言わないで！

ドミニア　ふん、言ったらどうするというのだ？　ラムズの混じり者が。あの時と同じように、私にも力を使うのか？　いいぞ、見せてみろ。貴様の真実の力を、この私に！

エリィ　……いいわ。あなたが、ゲブラーが智者の摂理というのなら……私は……、私は愚者で構わない！！

ドミニア　よかろう。ならば逆賊として処分してくれる！！　さあ、エレハイム！　貴様の本当の姿を見せてみろ！！

<対　ハイシャオ戦>

シグルド　若っ！　爆雷を投下します！　後退して下さい！

ドミニア　ぐっ！　何のこれしき。まだまだ！

ケルビナ　いい加減にしなさい！　退くわよ！　ドミニア！

ドミニア　ちっ！　ここまで追い込んでおきながら。だが……タダでは退かんっ！

エリィ　な、何！？　きゃあああーっ！

フェイ　エリィ！？

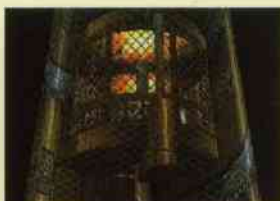
再びユグドラ上

シタン　フェイ、エリィは……？
フェイ　敵に……連れ去られてしまった。
バルト　へっ。どうだかな……
フェイ　どういう意味だ！　バルト！！
シタン　やめなさい！！　フェイ！　今はそんな事をしている場合ではありません。とりあえず被弾したユグドラシルを修理する場所を探さないと……。
フェイ　……それなら大丈夫だ。俺達を救助してくれた船が、そこまで来てる。タムズって、街みたいにでっかい船だ。あそこの艦長ならきっと力になってくれるはずだ。
リコ　あれが……タムズ……。

●タムズに収容されるユグドラシル

バルト　すまなかったな、さっきは……。
フェイ　いや、いいんだ。俺も悪かった。久しぶりに会ったってのに。
バルト　まったく……急造のユグドラシル2じゃ爆雷の準備もままならねえや。ま、バルトミサイルの装備を最優先させちまったばっかりに、爆雷程度の装備も後回しにした俺のせいなんだがな。
フェイ　バルトミサイル？
バルト　あ、ああ……ま、まあ、そんなたいしたもんじゃないんだけどよ。
フェイ　？　けど、生きてるとは信じてたけど、よく無事だったな。
バルト　あったりめえじゃねえか。不死身のバルト様に何言ってやがる……って言いたいところだが、今度ばかりは結構やばかったぜ。真っ赤な化け物みたいなギアにやられて、完璧に大破さ。
フェイ　真っ赤なギア……
バルト　ああ。そいつにやられて砂の海に沈むはめになっちまった。だがここから先が嘘みてえな話さ。砂の海の底はぽっかり空いた巨大な空洞。そこに沈んだ、何と！　ユグドラそっくりの潜水艦！！　そいつに使えるパーツやブリッジを乗せ替えて、改装したって訳だ。

シタン　私にも正直信じられないような話でしたが、見た目こそ同じながら水中航行可能な仕様になっています。おそらくユグドラシルのプロトタイプの同型艦あたりではないでしょうか。
バルト　どうやら昔、人が住んでいたような形跡もあって、兵器類もごろごろさ。おかげで改装もうまくいった。

シタン　バルトに見せてもらったその兵器類を見るに、おそらく……シェバトのものかと。
フェイ　シェバト……あの空飛ぶ国の……。
バルト　ま、そんなことより、早くその艦長とやらにあいさつに行こうぜ。
フェイ　……ああ。

●ねじレベーター内

バルト　俺……さ、あいつを戦に巻き込みたくなかったんだ。

フェイ　マルーのことか……すまないな、約束したのに……お前達にもしもの事があったら、ニサンの人々とマルーを守る……って。

バルト　そんなこと気にしてたのか。いいよ、お前もいろいろ大変だったみたいだし……。それに俺は無事だったんだしな。だったらそれは俺の役目さ。だから、ユグドラの改修が終わって、真っ先にそれを考えた……。ニサンが危ないのは当然わかっていた。けど、混乱している今だからこそ行けると思った。でも、連れてくるつもりはなかった。ニサンで無事を確認できればそれでよかったんだ。

シタン　でも、シャーカーンが黙っては……

バルト　それは法皇府の連中にも言われたよ。どっちにいても、その身が危険なことに変わりはない。だったら側について、護ってやって欲しいって。

フェイ　本当に……それでよかったのか？

バルト　……ああ。

●ブリッジ

艦長　お、こりゃまた威勢の良さそうなあんちゃんを連れてきたな。

バルト　俺の名はバルト。貴艦に寄港させて頂き、心より御礼申し上げる。

艦長　がっはっはっはっはーー。いいねいいねー。キカンにキコーときたか。

バルト　我が潜水艦ユグドラシル、敵部隊の攻撃による破損の為、今しばらくの間……

マルー　若！　ひどいじゃないかー。先に行っちゃうなんてさ！

バルト　何だよ、マルー。せっかく俺が艦長らしく決めてたってのに。

マルー　やっとニサンから出られたと思ったら、今度はずっとユグドラの中だもん。あきあきしちゃうよ。あ、艦長さん？　よろしく。ボク、マルグレーテっていいます。

バルト　だーーーっ、もう。ここは男同士の大事な話があんだよ。マルーはユグドラに帰ってろ。

マルー　ひっどーい！　何さ、ちょっとカッコつけて、シグの真似みたいな事しちゃって。

バルト　な、何だとう！　だ、誰がシグの真似を……

マルー　そんなことしたってやっぱりいつも若は無茶するんだから。フェイ達が漂流するはめになったのも、若が後先考えずにミサイルを、あの飛行機に撃ったからじゃない。

バルト　わ、ば、馬鹿、そ、それを……。

フェイ　バルト、ま、まさか……お前……

シタン　真実ですよ。フェイ。

バルト　し、仕方ねえだろ。まさかあんなのにお前らが乗ってるなんて……。

フェイ　あ、あきれて物も言えない……。

バルト　ま、そう怒るなよ、な。ちっ……やっぱりニサンから連れ出すんじゃなかった。

マルー　ひっどおーーーーい！　聞こえたよっ！！

艦長　がっはっはっはーーー。いいじゃねえか、いいじゃねえか。

若ぇってのはいいことだよなあ。おうっ、若ぇの。なりからすると、おおかた海賊かなんかだろ？

バルト　お、おうよっ。海の男さっ！　元、砂の海の男だけど……。

艦長　くぅーーーーーっっ！！　ますますいいじゃねえか。そう、海の男、海の男だ！！　若ぇの、バルトだったな。気に入った。気に入ったぜぇ。おう、自慢のビアホールに案内するぜ。ついてきな。おうっ、嬢ちゃん。悪いがこいつは借りるぜ。

マルー　な、何だか…変った人だね。フェイ？　若の事、怒ってるの？

フェイ　い、いや、そういう訳じゃ……

マルー　……エリィさんの……こと？

フェイ　……ああ。

マルー　大丈夫だよっ。そんなに心配なら、フェイが助けてあげればいいじゃん。若が……ボクのこと、助けてくれたみたいにさっ。

フェイ　……。

●ラムサス艦

ドミニア　まだそのような世迷い言を言うか貴様！

エリィ　私は間違ったことなんて言ってない！

ドミニア　これ以上、下らん問答を繰り返す気はない！　貴様の反逆行為は既に明白！　この場で叩き斬ってくれる！！

ミァン　おやめなさい。貴方、大丈夫？

ドミニア　ミァン！　貴様、どういうつもりだっ！　そいつは逆賊だぞ！

ミァン　如何な理由があろうとも、ラムサス閣下の艦内でのそのような行為は許しません。それに、ハイシャオとヴィエルジェの交戦記録を見た所、先に攻撃をしかけたのは貴方の方ではなくて？　何の確認もされずに一方的に襲いかかられては彼女としても防戦は止むなし。第一、貴方はあの時、ケルビナの指揮下にあったはず。今回の件、彼女の指示を仰いだのですか？

ドミニア　……。

ミァン　作戦遂行時の指揮者の判断なしに一士官を逆賊として処分する事は許されません。たとえ、同じエレメンツであっても。それに……貴方の少尉の姿勢に対するこだわり、それはいわば、“貴方自身の私憤から出たこと”……違いますか？

ドミニア　何をっ！　私がそのようなことに……

ミァン　その限りにおいて、彼女に背信行為があったかどうかは判断しかねるものがあります。事実関係をはっきりさせる為にも、以後、少尉は私が預かります。よろしいかしら？

ドミニア　貴様！　何の権利があって！？

ミァン　さ、行きましょう。

ドミニア　…………な、……何なのだ？　あの瞳……。

ミァン　……そう、そういうことだったの。他への示しもありますから、しばらくの間、ここで我慢してね。

エリィ　わかっています。

ミァン　心配しなくても大丈夫よ。後のことは私に任せて。今は漂流の疲れを癒しなさい。

ミァン　澄んだ湖面のような碧色……

エリィ　あ、あの……

ミァン　貴方の瞳って、とてもきれい。

●タムズ・ビアホール

バルト　……で、出てきた奴らを片っ端から、ドカッ、バキッ、ドッカーン……てな具合に……。
フェイ　おいバルト、シグルドがお前のこと……。
艦長　がっはっはっはっはー。やっぱり腕っぷしが強くねえと海の男たあ言えねえよなあ。
バルト　おうよっ。そう、この腕こそが……
バルト・艦長　海の！　男の！　証明でい！！
フェイ　……
艦長　がっはっはっはーー
バルト　わっはっはっはーー
船員　艦長、副長がお呼びですぜ。
艦長　ちっ、海の男の語らいを邪魔するたあ、ハンスの奴、相変わらず無粋な野郎だぜ。いったい今度は何だってんだ？
艦員　何でも例のお嬢ちゃんが帰って来たとか……
フェイ　例のお嬢ちゃんって……エリィか！
艦長　馬鹿野郎！　何でもっと早く言わねえんだ。
艦員　そ、そんな……。
フェイ　とにかく行こう。

●ブリッジ

フェイ　エリィは？
ハンス　今ギアを収容しました。取りあえずこちらに来るのではないでしょうか。
バルト　逃げ出せた……ってのか？
艦長　ま、何にせよ、良かったじゃねえか。なあ、フェイ。
フェイ　あ、ああ。エリィ、無事だったのか！？
エリィ　……ええ。あの潜水艦は？
フェイ　え？　あ、ああ、ユグドラシルのことか？　今は修理の為にタムズに寄せてもらってる。結構やられたからな。
エリィ　そう……少し休ませてもらってもいいかしら?……疲れてるの。
フェイ　ああ、そうした方がいいだろう。
バルト　おいフェイ、俺の船だぞ！
艦長　おいおい。お嬢ちゃんが疲れてるって言ってんだ。休ませてやれや。
エリィ　先に、行くわ。
バルト　……気にいらねえな。
フェイ　バルト！　まだお前……
バルト　そうじゃねえよ。確かにあいつは俺達を裏切るような真似はしないだろうさ。こちとら腹黒い連中に囲まれてガキの時分を過ごしてきたんだ。それぐらいのことはあいつの目を見ていればわかる。
フェイ　だったらエリィのことを認めて……
バルト　だからダメなんだよ。あいつはそれでいいかもしれない。けどな、国に残された家族はどうなる？ただですむと思うのか？あいつにそれが出来るってのか?家族を捨てられるってのか?これは決意の問題なんだ。あいつは……エリィはそのことで悩んでいると思う。捨てられないものがある奴を巻き込むわけにはいかないんだ。

●ユグドラ機関室

機関長　どぉーしたぁ？　マートル？　あぁ？　お？　よぉ､嬢ちゃん。とっ捕まってたってぇ聞いたが､無事だったんかい？こぉら、マートル！　例のソラリスの嬢ちゃんだ！　ほえんでいい！
エリィ　ケモノだからしょうがないわ。それより、おじさん、副長が急ぎの用だそうよ。
機関長　……お？　おお、そーけぇ。悪りぃな。

フェイ　エリィ！！
エリィ　……………………フェイ……？
フェイ　エリィ！！
バルト　こ、こいつ……やっぱり……ちっきしょう！　何しやがったんだ！？　どーすりゃいいんだ！！
フェイ　先生！　いったい、これは……
シタン　待って！　彼女なら心配いりません。今はこれを止めるのが先です。よっと……これで……どうかな……
バルト　わかんねぇ。上で会ったときは、少なくとも裏切り者の目じゃなかった。
シタン　……どうやら彼女、かなり強力な後催眠を施されていたようです。
フェイ　こうさいみん……？
シタン　ある状況をスイッチに、あらかじめ刷り込まれた行動を突然に始める、それまでは、何の異常も見受けられない、そういう特殊な催眠術です。医務室から出ていく彼女が、そんな感じだったんで、不審に思って後をつけたんですが…
バルト　……不審に思ったなら、止めろよ、先生。
シタン　いやぁ、刷り込み行動中に無理に行動をやめさせると、心が壊れることがあるんで……確かに対処が遅かったのは事実ですが……
機関長　こ、こりゃあ、どうしたこった？　若ぁ、おめぇさん、またなにかやらかしたな？
シタン　これはちょっと、修理に時間がかかるかも知れませんねぇ……
バルト　レストアしたばっかりでまぁた壊れちまった。参ったなぁ……
機関長　嬢ちゃんがやったんかい……後催眠？……ソラリスもこすっからい真似しくさるもんだ！
シタン　とにかく先に彼女を医務室に運びます。フェイ、ここが片づいたら医務室まで。大丈夫。よほど上手な術者がかけたようです。精神汚染は残らないでしょう。

●ユグドラ医務室

シタン　今、やっと起き上がれるようになったところです。
エリィ　わ、わたし……、一体……どうしてここにいるの？
フェイ　エリィ……。
シグルド　若、レーダーが大型ギアを捕捉！！　急速接近中です！
バルト　何ぃっ！？　またやつらかっ！？
シグルド　機影からして恐らく……！
バルト　よしっ！　世話んなったタムズを戦場には出来んっ！　すぐにユグドラシルを出港させろっ！　俺たちはギアで出る！
シグルド　了解！！
バルト　フェイ、先生、頼むぞ！
エリィ　待って！！
シタン　エリィはここで休んでいて下さい。我々が……
エリィ　待って！！　これは私の責任なの！　私がここにいるから……！　だから、だから私に行かせて！
バルト　何言ってやがる！　お前は今さっき　何をやったと……！！
シタン　若くん！　エリィ、今度の戦いはあなたの信頼がかかっています。自分の名誉のためにもあなたが戦うべきでしょう！
バルト　でも先生っ！　オレはこいつを……！
シタン　若くん、ここはエリィを信じてあげてください。エリィ、もしあなたがおかしなマネをした時は……私があなたを撃ちます。いいですね？
エリィ　はい。
シタン　若くんもそれでいいですね。
バルト　……。分かった。フェイ、エリィ、行くぞ！！
エリィ　はいっ！
フェイ　ああ！！

ドミニア　貴様さえ…いなければ…許さん…この……裏切り者がぁ！！
バルト　来やがったな！
エリィ　あれは……
<対　ブレードガッシュ戦>

バルト　ふうっ。しかし、しつこい奴だったな。
エリィ　な、何？
フェイ　下だ！
バルト　まさか、例の奴か？
エリィ　……。

ラムサス　あれか？　ミァン。
ミァン　はい中央の黒い機体がそうです。
ラムサス　了解した！　探したぞ！　我が宿敵！！
フェイ　うっ、お前は！？
ラムサス　……機体が違うな。貴様、“あの機体”はどうした！
フェイ　何のことだっ！？
ラムサス　まあいい。どのみち貴様を排除しない限り、私に光はないのだからなっ！！
＜対　ハイシャオ戦＞
ラムサス　ちぃっ！　ここまでか！！　だが、貴様だけは生かしておけん！
フェイ　うわぁーーーっ！
警報装置　！警告！＞装甲破損、コックピットに浸水　操縦者生命反応低下中…
ラムサス　とどめだっ！！
エリィ　フェイ！！
ラムサス　な、何ぃ！　エアッドだと！？　だ、誰が！？　！！　うぉぉぉっ！　チィッ！　メインタンクが……あと一息だというのに！　くそっ！……退くぞ、ミァン！
エリィ　フェイ！！

●タムズ医務室

医者　…わからん。だが、取りあえず、維持装置をつけている間は…
シタン　……大丈夫、と言うことですか……。
医者　……保証はできんがな。いかんせん、理由がわからん。
バルト　……。
エリィ　……私のせい、なの？……私が……。
医者　……ならば、何とかなるかも……
エリィ　！　フェイは、フェイは助かるの？
医者　保証はできんよ。じゃが、『教会』本部の医局ならば……
エリィ　助かるのね？
医者　恐らく、何とかなるじゃろう。しかし、一般人が『教会』本部の聖堂以外に入ることは許されてはおらん。修道者となるか、もしくは『教会』関係者の紹介がなければ……。
エリィ　……。
医者　おお、そうじゃ。そう言えば今、『教会』本部からエトーン＜罪をあがなう者＞がタムズに来とるらしいぞ。
シタン　『教会』のエトーンが何のために？
医者　何かの調査の為、ということらしいが。
バルト　何だ？　そのエトーンって。
医者　このアクヴィに出没する死霊を浄化することを聖職とする『教会』の人間じゃよ。
エリィ　その人に頼めばいいのね。
医者　頼んで、紹介してもらえるかどうかはわからんが、話してみる価値はあるじゃろう。
エリィ　わかりました。探しましょう、その人を。
シタン　それでは、私は維持装置と共にフェイをユグドラまで運んでおきます。バルトとエリィはそのエトーンを探して下さい。
バルト　……わかった。

●甲板広場

男　エトーン？ それならさっき見たけど、どっか行っちまったなあ。
マルー　ホント？　どこへ行ったの？
男　さあなあ……
バルト　何やってんだ、マルー。
マルー　あ、若。いや、先生に聞いて、ボクもそのエトーンさんを探してたんだ。それでこの人がさっきそのエトーンさんを見たって。
バルト　本当か？
——　てめえ！！　おとなしくしやがれ！
エリィ　バルト！　あれ！！
——　おとなしくしてりゃ、高く売ってやるからよお。
エリィ　なにしてるの、あなたたち！
——　何だぁ？　てめえは。このガキの代わりに、てめえを売りとばしてやろうか。
バルト　やるってのか、このごろつき共。
——　上等じゃねぇか。何だ！？
——　うわっ。てめぇ！　なにしやがんだ！！
——　ま、待て、あ、あいつは……
——　ま、まさか……『ジェサイア』！！
——　畜生！　おぼえてやがれ！
バルト　お、おい。どういうつもりだ。
ジェサイア　動くんじゃねえ。
マルー　ちょ、ちょっと……
ジェサイア　うるせえ。ソラリスの犬が。
エリィ　……
シタン　待ってください！ その短く丈を詰めたライフル、その銃さばき、貴方は、もしや、ジェサイア先輩！？　先輩、違います。お得意の早とちりですよ。彼女はそのお嬢さんを助けただけです。
ジェサイア　何？ その人をくった口のききかたは、ヒュウガ……か！？ だーーっ、もうわかったよ、プリメーラ。俺の勘違いだったんだろ。すまなかったな、嬢ちゃん。立ってくれ。こいつを助けようとしてくれたみたいだな。こいつがそう言ってる。なのに勘違いしてすまなかったな。あ、こいつはプリメーラ、俺の娘だ。でもって、俺は……ジェシーとでも呼んでくれジェサイアなんて呼ぶのは、生意気な後輩だけで十分だ。
プリメーラ　……。
エリィ　？
ジェシー　ありがとうって言ってる。少々事情があって、こいつ、しゃべれねえんだ。
シタン　……このお嬢さんがあわてて先輩が御結婚なさったときの？
ジェシー　人聞きの悪い言い方をするな！　それに歳を考えろ！　プリメーラは2人目だ。あの時のせがれはもう16だぞ。
シタン　これはすみません。で、奥方様はお元気ですか？
ジェシー　……死んだよ。最期を看取る事も出来なかった。
シタン　そうでしたか……。それで、今はこの街に？
ジェシー　いや、たまたま買い出しにな。せがれも野暮ったい用があって、その辺へ出てやがるが……
男　あのー……さっきのエトーンの方、いらっしゃいましたよ。
バルト　何！？　どこだ？

医者　……という訳なんじゃが、何とかお力添え願えんもんですかのう。

エトーン　そうですね……

ジェシー　……ったくよぉ、もったいぶってねえで、助けてやりゃあいいじゃねえか。

エトーン　お、親父！？　それにプリムまで！？

ジェシー　おう、こいつがせがれのビリーだ。

ビリー　どこに行ってたんだよ？　今まで。本部じゃ大変なことになっているってのに。

ジェシー　何が大変だ。娘と買い出しに歩いてて何が悪い。

ビリー　事情はよく解らないけど、親父の事、不穏分子として本部から手配が出てるんだよ！　今度は何やったの！？　ケンカ？　ギャンブル？　また人の奥さんに手を出したの！？

ジェシー　ふん、そんなのは俺の腕をやっかんでのデマだ、デマ。お前もそんなこと気にするんじゃねぇ。まったく、『教会』に入ってからお前、いやにギスギスしてるぞ。

ビリー　……。

ジェシー　そんな事より、この嬢ちゃんたちはプリメーラがさらわれそうになった所を助けてくれたんだぞ。ぐだぐだ言ってねえで力になってやれや。

エリィ　あの……それで、『教会』へは紹介して頂けるんですか？

ビリー　あ、ああ、そうでしたか。妹の恩人とは知らず、それは大変失礼しました。そうですね。本部の医務局にかけあってみる事にしましょう。僕は神父とは言え、エトーンとしての仕事が主であるため、必ず、との約束はできませんが。

エリィ　紹介して頂けるんですね？

ビリー　ええ。この後、『教会』本部に立ち寄ることにしましょう。

マルー　ふーん。神父さんやりながらエトーンもするなんて、変わってるね？『教会』って。ニサン＜うち＞とはやっぱ大分ちがうなぁ。

ビリー　ニサン＜うち＞？　あなたはニサンの関係者なのですか？

マルー　うん。ボク、マルグレーテ。よろしくね。神父さん。

ビリー　こちらこそ。そうですか。僕は常々、他教の方とお話しする機会を持ちたかったんです。後程よろしいでしょうか？

マルー　うん。いいよ。でもそんなに時間とれないけど。ボクたちも今、大変なんだ。

ビリー　ありがとう。ん？……マルグレーテ？　どこかで聞いた名前のような……？

バルト　んなこたぁどうだっていいじゃねぇか。ほら、『教会』で口きいてくれるんだろ、早いとこ行った行った。

ビリー　無礼な人ですね。もう少し口のきき方を学んだ方がいいですよ。

バルト　なにおう！

ビリー　それでは皆さん、僕は『教会』本部に先に行って話をしておきます。そちらの都合がつけば、『教会』本部の方にいらして下さい。

バルト　わかった、わかった。だから早く行けって。

ジェシー　おう、ビリー。俺はちょいと用事ができたんでな。本部に帰るんなら、ついでにプリメーラ、うちのガキ共のところに連れて帰ってくんねえか。

ビリー ……わかった。行くよ、プリム。
ジェシー よし、じゃ、俺も行くとするか。じゃあな、ヒュウガ。どうせまた会う事になるんだろ？
シタン さあ、どうでしょう。
ジェシー へっ、まあいいや。じゃあな、嬢ちゃんたち。
シタン まったく、あの人のああいうところは変わってないなぁ……。あ、そうそう、シグルドがユグドラの調整がもうすぐ終わると言ってましたよ。
バルト 何、本当か？ ようっし、今度こそ本当に出港だな。
エリィ アヴェに……戻るの？
バルト 冗談だろ？ 今はフェイをまずどうにかしないと。せっかくあの、いけすかねえ奴が紹介してくれるってんだ。『教会』本部に行くしかねえだろ。
エリィ ……ありがとう。
バルト へっ、何でお前に礼なんざ言われなきゃなんねえんだ？
マルー ふふっ。そうだよ、エリィさん。
エリィ ……そう、よね。

「教会」本部

エトーン ここは、修練堂です。我々エトーンの修練のために建てられた施設です。
エリィ 大聖堂には入れないのでしょうか？
エトーン 大聖堂及びその関連施設には『教会』の関係者か素性の明らかな人間しか入ることが出来ません。本来はこの修練堂もそうなのですが今回は兄弟ビリーのたっての頼みということで、司教様がお許しになったのです。
ビリー お待ちしておりました。フェイさんの治療の件についてですが、修練堂の医療施設ならば、ということで許可が得られました。後は私達『教会』の者にお任せ下さい。
エリィ フェイのこと、よろしくお願いします……。
ビリー 『教会』の兄弟たちがフェイさんの治療を医務室で行っています。案内しましょう。僕の後についてきてください。
ベルレーヌ ビリー、また君のお父上が大活躍なされたそうじゃないか。
ビリー ……。
ベルレーヌ 発掘現場が襲われて、『兄弟』たちや作業員が何人も傷を負ったという話だ。いやはや、君はエトーンとして死霊を討ち、『教会』の正義を世に示す素晴らしい人物なのに、お父上がねぇ。
ビリー ……僕とあの男の間には親子という血縁関係以外に何の関係もない。
ベルレーヌ 誤解しないでくれたまえ。我々の『兄弟』である君を疑っている訳ではないのだよ。ただ、君にお父上の話を伝えておきたかっただけさ。
ビリー ……親父の奴……。少しは僕の立場のことも考えて行動してほしいよ、まったく。

●医務室

ビリー　どうですか。彼の容体は。

医局員　患者の意識はまだ戻りませんが、脳組織にこれといった異常は見受けられません。水温が低かったことによる代謝機能の低下が幸いしたようです。一歩間違えば、脳組織が壊死して廃人となってしまうところでしたよ。

バルト　ってことは……

医局員　ええ。安心してください。もうしばらくは、検査を行う必要がありますがね。それが終われば、あとはそちらの艦の医療設備でも、十分な治療を行えるでしょう。

エリィ　……フェイの意識、戻るんでしょうか？

医局員　彼の意識が戻らないのは、体組織の疲弊に伴うものです。肉体を酷使し続けたこと、それが意識の戻らない原因です。彼の意識が回復するにはまだ数日を要するでしょうが。大丈夫、目覚めますよ。

エリィ　……ごめんなさい、フェイ。私が機関室を暴走させたばっかりに……。

シタン　エリィ、それは違いますよ。後催眠によって操られてしまったのは不可抗力なのですから。それより、あなたはフェイを救ったのです。あの時のあなたの活躍がなかったらフェイをカールから護れはしなかった。そうでしょう？

エリィ　ありがとう……。

バルト　さてと、俺たちがここにいても治療の邪魔になるだけだからちょっくら散歩でもしようぜ。フェイの治療にはもうちっと時間がかかりそうだからな。

エリィ　私……もうしばらくここにいます。だめですか？

シタン　そうですね。そのほうがフェイも安心できるでしょう。それじゃ、フェイの治療が終わったら教えてください。では、後のことはよろしくお願いします。

ビリー　しばらく様子を見るしかないでしょうね。

●治療終了後

医局員　やあ、みなさん。治療は終わりましたよ。

シタン　フェイの意識は戻ったのでしょうか。

医局員　残念ですが、患者の意識はまだ戻りません。しかし、もう安心です。あとは彼の身体が回復すれば意識も戻るでしょう。もう、そちらの艦に収容しても大丈夫ですよ。

バルト　ありがとうよ、先生。

医局員　お気になさらずに。聖職者として当然のことをしたまでです。

エリィ　あの……ビリーさんは？　お礼を言いたいのですが……。

医局員　ああ、『兄弟』ビリーですね。彼なら、孤児院に帰りました。残してきた子供たちが心配なんでしょう。

シタン　ビリーさんにはお世話になりましたからね。お礼を言いにいかねば。

バルト　とりあえず、フェイをユグドラシルに移しちまおうぜ。礼はその後でいいじゃねぇか。

孤児院

ビリー　ああ、これはようこそ。フェイさんのその後の具合はいかがですか？

エリィ　ええ、おかげさまで。まだ意識は戻ってないけれど、そのうち目醒めるだろうって。

ビリー　そうですか。それは良かった。

エリィ　あの、ビリーさん。フェイのこと、なんとお礼を言ったらいいか……。

ビリー　お礼なんていいんですよ。たとえ信ずる神が違っても救いを求めている方々を放ってはおけませんからね。

エリィ　本当に、ありがとうございました。ところで、ここの孤児院はあなたが……？

ビリー　子供しかいないので驚いたでしょう？　実は僕たち兄妹も小さい頃から両親がいませんでした……。僕らと同じ思いはさせまいと身寄りのない子供たちを集めて孤児院を開いているんです。みんなとっても元気ですし、『教会』の教えもきちんと守ってくれます……。時には僕の仕事まで手伝ってくれるいい子ばっかりなんです。

シグルド　若っ!! ユグドラシルのレーダーが巨大な艦影を捉えました!!

バルト　何！？　またぞろゲブラーか！？

シグルド　それは判りませんが、毎時10レブソルで南下中です。とにかくブリッジへ。

バルト　ああ、わかった。すぐ行く。

――――　おっ、そこの黒くて白いの。お前、シグルドか！？

シグルド　黒いだの白いだの、いきなり無礼な!　何者だ、おまえは！

シタン　あ……、パッと見ではピンと来ないでしょうが、先輩ですよ、シグルド。

シグルド　せ、先輩！？　ジェシー先輩！？

ビリー　シ、シグルド兄ちゃん！？

バルト　シグルド兄ちゃんだぁ！？

ジェシー　コハク色のハダに銀髪なんて男ぁ滅多にいないからな。なんなんだ、お前ら。今頃ガン首揃えてゾロゾロと！

シタン　まぁ、成り行きといいますか……

シグルド　色々ありまして……

ジェシー　まぁ、詳しい話は飲みながらジックリと聞かせてもらおうか。それにしても……今頃になってなんでこう集まるかねぇ。

ビリー　シグルド兄ちゃん、久しぶり……どうしたの、その片目？

シグルド　ビリーか……大きくなったなぁ。その笑顔、ラケルさんにそっくりだよ。

バルト　おいっ！　おいおいおいおい！　お前、なんだよ！　俺の部下に馴れ馴れしい！　な〜にが"シグルド兄ちゃん"だ。可愛い子ぶってんじゃねーぞ！

ビリー　君こそ、なんでシグルド兄ちゃんにそんなに偉そうなの？何様のつもり？

ジェシー　ビリー。シグルドの身内にケンカ吹っかけるんじゃねえ。悪ぃな、小僧。

シグルド　若、ソラリスユーゲントで、エレメンツ候補生であった私の管理責任者が先輩だったんです。私は先輩の家に間借りしていたんですよ。

ジェシー　こいつはそん時、まだオシメも取れてなかったもんだから、いまだに甘えん坊が抜けてなくてな。

ビリー　君はまだ、オシメも取れてないんじゃないの？

バルト　てめえなぁ！　なんでそうも俺に突っかかるよ！

ジェシー　さてと、そんじゃ早速、パァ〜っと飲みに行くとするか！

シグルド　飲みに行くと言っても一体どこで……。

ジェシー　何言ってやがる。お前の潜水艦にだって、バーの一つや二つ、あるんだろう？

シグルド　わ、私は少し頭痛がするので……。

ジェシー　なんだとっ？　そりゃいいぜ。そんなもん酒でも飲みゃ一発で吹き飛ぶ！

シタン　どうする……？

シグルド　あの人のことだ、断わったところで……。

ジェシー　てめぇら何してんだ、とっとと来い！

シグルド　ほらな。トホホ……。

ビリー　ボクもちょっと……。適当にくつろいでいて下さい。

バルト　シグの言ってた“巨大な艦影”って一体何だ……？

●奥の部屋

子供　いい音でしょ？　この鈴はね、ボクが迷子にならないようにってお父ちゃんがくれたものなんだよ。でもお父ちゃん、方向オンチですぐ迷子になっちゃうからお父ちゃんもおんなじ鈴を持ってんの。でも『教会』本部に行ったきり帰ってこないんだ……。またどっかで迷ってんのかなぁ……。しょうがないなぁ。あれ？　その鈴は……。なんでそれ持ってんの？ねぇ、もしかしてお父ちゃんに会ったの？　どこにいるの？

リコ　……。

子供　えっ？　もしかしてお父ちゃん……。

リコ　ボウズ、お前の父親は遠い所へ行ってしまった……。これがその鈴だ。

子供　お父ちゃんのウソツキっ！！　また2人で暮らすって……。ずっと、ずっと待ってたのに……。うっうっ……。

プリメーラ　……。

子供　うぐっ、うぐっ……。でも、ヒック、ありがとう。お父ちゃんの鈴、ヒック、持ってきてくれたんだね。ボク、元気出すよ……！！

●屋外

子供たち　！！　わ～い！！　ストーンのおじさんだぁ～！！
ストーンのおじさん　よしよし、みんな元気にしてたかい？
子供たち　うん！！　は～い！　モチ！！　うぃ～す！！
ビリー　ストーン司教！！
ストーン司教　やぁ、ビリー君！
ビリー　いつもお忙しい中ご苦労様です。
ストーン司教　そちらの方々は？
ビリー　この方たちは異国からの旅人たちです。
ストーン司教　ほう……。ところで先程連絡した件ですが……。
ビリー　はい。仕事ですね……。
ストーン司教　そうです。以前から行方不明になっていた『教会』の物資輸送船の行方が判りました。ですが、何の応答も無く……。
ビリー　……ということは？
ストーン司教　ええ。恐らくは、また死霊に。ビリー君、いつものようにお願いできますか？
ビリー　はい。わかりました。お任せ下さい、ストーン司教。
ストーン司教　それではお願いします。場所はここから北東。ですが気を付けて下さい。この近海は海流の流れが速く、近隣のサルベージャー達ですらなかなか近づこうとしない程危険な海域です。出来れば大きな船か何かで向かった方が良いのですが……。
バルト　おい、それってさっきシグの言ってた"巨大な艦影"のことじゃねぇか？
ビリー　さあ、それと同じものかどうかは判らないけど。
バルト　話を聞くに、そこは海流の流れが速くて小さな船じゃあ危険な海域なんだろ？その点、俺のユグドラシルなら安全だ。どんな大波も潮の流れもものともしない。フェイを助けてもらった恩もあるしな。乗ってけよ。そこまで送ってってやる。なんだったら、その仕事って奴を手伝ったっていいんだぜ？
エリィ　そうね、フェイの事では本当、お世話になったものね。
ビリー　気持ちはありがたいけれど、君達には関係のないことです。僕一人いれば十分です。
エリィ　でも、その場所って危険な所なんでしょ？　何か私達に出来ることがあれば……。
ビリー　しかし、関係のない人を巻き込むわけには……。
ストーン司教　ビリー君、人の善意は無駄にしてはいけません。表の潜水艦は彼らのものでしょう？　ここは彼らに協力を願った方がいいのでは……。
バルト　そうそう、旅は道連れ世は情けってね。手伝うぜ！
エリィ　ビリーさん、仲間は多い方がいいじゃない！
ビリー　……。そこまでおっしゃってくださるならお願いします。申し訳ありません。
ストーン司教　私からも礼を言います。ではビリー君、旅の方々、気をつけて。無事、仕事が終わったら『教会』本部へ報告しに来て下さい。
ビリー　了解しました。　申し訳ありません。それでは明日向かうことにしましょう。仕事の準備が出来たらすぐに参りますから先に乗り込んでいて下さい。仕事の詳しい話は道中にでも……。

●ユグドラシル・ガンルーム

ジェシー　なるほど、な。これがお前が帰る帰るってきかなかった場所か。お前が出てった後、ビリーの奴、泣いてなぁ。

シグルド　……。すみません。

シタン　ソラリスを去った時もそうでしたよ。あの時はカールが荒れて荒れて。

シグルド　別にあいつを裏切ったつもりはなかったんだが……。

シタン　あれでかなり人間不信に磨きがかかったようですよ。さて、昔話はさておき、先輩。貴方がただこの地をうろついているとは思えま……あっ、みなさん！

ジェシー　ワッハッハ！

シタン　先輩がこうなると誰にも止められません……！

シグルド　……。あ、はい、出発するんですね。先輩、申し訳ないですけど私は仕事が……。

ジェシー　おうっ、もうこんな時間か。じゃあ、最後に３人でいつものハラダンスを……。

シタン　！！　せっ、先輩、どうも急ぐようなのでそれはまた今度に。先輩、また聞きたい事もあるので、今度はゆっくりと……！

ジェシー　ああ。そん時に俺が生きてりゃあな。

シタン　……。

エリィ　キャアア！！　シグルドさんが！

シタン　またか！？　シグルドはめっぽうお酒に弱いんです！……。だめです、出発は明日ですね……。

●夜の孤児院

ジェシー　ウィ～ッ！！　帰ったぞぉ～。ビリー、いないのか～？

ビリー　大きな声を出さないで！　いったい何時だと思ってるの？子供達が起きちゃうから帰って来る時は静かにしてよ。

ジェシー　おまえも来てりゃ面白い話が山ほど聞けたのに。シグルドの苦労話とかよ、ケッサクだったぜ。

ビリー　また兄ちゃんが飲めないの知ってて無理に飲ませたね！　かりにも聖職者の親が……。

ジェシー　おいおい、いいかげんに目を覚ましたらどうなんだ。

ビリー　信仰心のかけらも無い人にそんなことを言われたくないな。僕の生き方に構わないでくれよ。

ジェシー　構うなだと？　お前、自分がまだどれだけ危なっかしいヒヨッコだかわかってるのか？

ビリー　ヒヨッコ……？　あなたになぜそんな事が解るのさ。僕はまだあなたを父親だと信じてるわけじゃない。あれほど母さんが愛してた人と同一人物だとは思えないよ。

ジェシー　ってぇと……お前は俺の事をニセモノだと……？　確かに証明する術は何もないわけだよな……。まぁいい、おまえはまだ物事の真理を解っちゃいねぇ。奴等が本当は何なのか、おまえはどこへ行くのか……。

ビリー　親父、何言って……？

ジェシー　今のままじゃ、ラケルの死んだ甲斐がないぜ。

ビリー　！！　あんたに母さんの名を呼ぶ資格なんてないよ！

ジェシー　……。そうか、そうだよな。ま、とにかく今の仕事はやめるんだ。他人かもしれん男からのたった一つの忠告だ。アバヨ！！……。

●ユグドラシル・ガンルーム

ビリー　おはようございます。まだ寝ていると聞いたので勝手に乗り込んでました。

バルト　ずいぶん軽装だな。そんなんで大丈夫なのか？

ビリー　エトーンはその性質上、装備も特殊なんです。この銃……。立派な銃ですね。さぞかし由来のあるものでしょう。

バルト　そりゃそうだ！　我がファティマ家に伝わる名銃"マシガネーター"だからな。

ビリー　……。ムチを振り回すだけの君にはもったいないなぁ……。

バルト　てめえなぁ！　なんでそうも俺に突っかかるよ！！

ビリー　……。あ、ごめんなさい……。銃の話なんて興味無いですよね。

エリィ　いえ……。ねぇ、ビリーさん。私、あなたがどうしてエトーンになったか知りたいんだけど……。

バルト　（俺は興味ねぇな……）

ビリー　……。そうですよね、見知らぬ人間の仕事を手伝うのですから気になりますよね……。

エリィ　あっ、そんなつもりじゃなくて。個人的な興味。だってビリーさんがエトーンだなんて意外なんですもの。

ビリー　……。分かりました……。この仕事もちょっと特殊ですからそれも含めてお話ししましょう。

●ビリー・回想

ビリー　あれはいくつの時だったろう……。よく覚えていない。8つか9つだったのかな。拳銃の扱いはその頃親父から教わったんだ。ある日その親父がいなくなった。親父は僕等をおいて出ていったきり……二度と戻っては来なかった。子供心にもひどいショックを受けたけど、泣くわけにはいかなかった。母さんとプリムがいたから。それでも僕は、よく独りで親父の部屋にいたよ。親父の銃、親父の匂い。残されたそういう物の中に、少しでも"父親"を感じようとしてたんだ。でもその幸せも長くは続かなかった……。12歳の時自宅が突如死霊の群に襲われ、母を亡くした。なぜかやつらはしつこく親父の行方を知りたがったけど、母は頑として口を割らなかった。今でも耳から離れない。母さんの撃った弾の音がゆっくりと3発響いて……薬莢が床を打った音まで憶えてる。その後に死霊の叫び声がして、誰かがくずおれる音がした。その時、僕等を助けてくれたのがストーン司教なんだ。その出会いが僕のその後の運命を変えたといってもいい。

バルト　おいおい、ちょっと待て。死霊ってしゃべるのか？

ビリー　そう。奴等はただのモンスターじゃない。中には人以上の知能を持った奴もいるんだ。

ビリー　僕とプリメーラは隠れていたお陰で一命をとりとめたけど、プリメーラはその時から一言もしゃべらなくなった。あのとき神のように現れた優しくて力強いストーン司教の姿に僕は、自分の歩くべき道を見つけたような気がした。あの人のように、誰かを悪しき者から救いたい。これ以上、プリムのような子を増やさないためにも教会で修練して、いつかストーン司教のようになろうってね。プリムを教会の施設に預けて、僕は修道院に入った。それから何年かたって……教会での修練を終え、僕はエトーンになった。孤児院を開くため、家に戻って暫くしてから……あいつが……親父がひょっこりと帰ってきたんだ。親父は、激しい事故にあったとかで人相が変わってしまっていた。人相だけじゃない、性格も仕草も、まるで変わってしまっていたんだ。記憶にある親父は、もの静かな人だったのに……。いや……、というより、僕が親父のことをハッキリと覚えていなかっただけかも……。そういうわけで……、いまだに本当の親父とは思えないんだ。でも、プリムには父親が必要だし、実際、なついてる。僕自身も、心の底では父親であってほしいと思っているんだ。だから……僕はあれが本当に自分の親父なのか、いまだに信じられないでいるんだ。

ビリー　フフッ、馬鹿みたいだよね。兄妹二人きりになってから、プリムを養うためなら自分自身さえ売ろうとしたのに……。プリムはいきなり現れた見知らぬ親父の方がいいなんて……。

バルト　“自分を売ろうとした”だぁ！？　おまえなぁ！　世の中には売って取り返しのつくモンと、つかないモンがあんだぞ！？　わかってんのか！？

ビリー　もちろん思いとどまったよ。でも、一晩で3000Gになるって言われたから……。

バルト　バカッ！　いいか！　今度からそういう時は妹連れて俺の艦に来い！　うちは自給自足だけど、少なくとも食う寝るには困らねーからなっ！　わかったら、俺の前で二度と売るだの買うだの言うんじゃねえ！　いいな！？

ビリー　あの……ひょっとして……キミって、ちょっと“いいヤツ”なんだ？

バルト　なんで素直に“ありがとう”って言わねーよ、おまえはッ！？

ビリー　うん……えぇと……その……、いや、まだ世話になった訳じゃないから、言わない。

バルト　可愛くねえやつ！

幽霊船

リコ 暗いな……。
バルト おい、変な匂いがしないか？
ビリー この独特の匂いは死霊<ウェルス>のですね。やはり、襲われてしまっているようですね……。あと、ひとつ。部屋の中央の壁に赤く光るスイッチがあります。そのスイッチを入れれば明るくなるはずです。
リコ 怖いのか？
ビリー ……いや、……少しだけですけど。
<対 ブラッディ戦>
ブラッディ むう……アニキあとは頼んだ
ビリー （アニキだって！！ これで呼んでおこう）

●孤児院

—— ！！ ビリー兄ちゃんの合図だ！！ お～い、みんな！！ シフト"G"だっ！！
—— 風向き、ダイジョーブでぇ～す！！ 目標座標、X1029、Z303！
—— ラジャー！！ オートパイロットモード、オン！！ カタパルトセットアップ！！
—— 危ないぞ！！
—— うんしょ、うんしょ！！ よいしょ、よいしょ！！
—— レンマーツォ、スタンバイOK！！
—— READY?
—— GO！！
—— しっかりやるんだぞぉ～！！
—— 今日のはまぁまぁだな。

●再び幽霊船

ビリー この輸送船はやっぱりクロでしたね。『教会』に行ってストーン司教に報告しなければ……。
リコ あれ？ 何か気配が……
バルト 何もいないぞ。魚でもはねたんだろ。それにしても、やっぱり海はいい。風は涼しいし……砂の上とは大違いだ。やっぱり『海の男』だな。
リコ なぁ、ビリー、『アニキ』って何だ？
ビリー きっと、巨大ウェルスのことだと思います。しかし、呼んでからそうすぐに現れるわけではないでしょう。人間じゃ相手になりませんが私のギアを呼んでおいたので安心して下さい。……。結構、早かったですね。まいりましたね。
バルト おい！ どーすんだ？ 人間じゃかなわねーんだろ？
ビリー もうそろそろだと思います。

●レンマーツォが救出

ビリー いいタイミングでしたね。子供たちに感謝しないと。さあ、来ますよ。
<対 巨大ウェルス戦>

●ユグドラシル・ブリッジ

ビリー　みなさん、協力ありがとうございました。今回の仕事は正直、一人では危なかった……。
バルト　お前、いつもこんな危険な仕事をしてんのか？　まさかギアを呼ぶとは思わなかったぜ！？　ったく、『教会』って一体何考えてんだ？
ビリー　！　我々エトーンは神聖な職務を遂行しているだけです！
バルト　……わ、悪かったよ。そんなムキになんなって。で、お前、その『教会』に仕事の報告すんだろ？　ついでだ、乗っけてってやるよ。
ビリー　……たびたび申し訳ありません。では、あなた方へのお礼もありますから『教会』本部へ参りましょう。

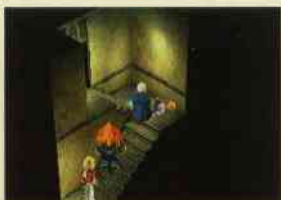
●『教会』本部

ビリー　こ、これは……いったい、どうしたというんだ？
―――　ビ、ビリー……
ビリー　大丈夫か！？　何が起こったんだ！？
―――　わ、わからない……突然、銃声がし…て……
ビリー　おい、しっかりするんだ！　おい！
バルト　あきらめな。死んじまってるよ。
ビリー　なぜ……なぜ、こんなことに。………ん、これは？ これは、親父の銃の薬莢……まさか、親父のヤツ、『教会』の人間に追われて、ヤケクソになって殴り込みをかけたんじゃないだろうな？
バルト　あのオヤジならやりかねねぇな。

●通路で殺される人

―――　ぐわっ！
ビリー　動くな！　何者だ、貴様。
暗殺部隊　まだ生き残りがいたか！
<対　暗殺部隊戦>
ビリー　一体……こいつは何者なんだ？　なぜ、『教会』を襲う？
バルト　やばいぜ、ビリー。こいつらは、暗殺のプロだ。
ビリー　そんな！　それじゃ、みんなは……
リコ　しっかりしろ。オレたちの手でまだ無事な人を助け出すんだ。

●地下通路

教皇　貴様ら、何者だ！
暗殺部隊　この期に及んで、まだシラを切るか。『教会』の長たる者が往生際が悪いぞ。
教皇　まさか、事が露見したのか！？
暗殺部隊　我らへの反逆、その罪は死で償ってもらう。
教皇　ぐあー！！
ビリー　教皇様！！　きさまら……！！
<対　暗殺部隊戦>

●階段

ビリー　司教様！　しっかりして下さい。

司教　お、お、ビリー……無事であったか…………粛清が……粛清が始まった……罪深き我々人類に神の裁きが下される……。

ビリー　神の裁き？　どういうことなのです、司教様！？
お亡くなりになられたよ。司教様は、僕に何を伝えたかったのだろう？　粛清って一体何のことなのだろう？

●地下室

ビリー　大丈夫ですか！？　しっかりして下さい！

――　知らな…い…私は…何も…こ…れ…以上しゃべる…ない……シ…シェバ…ト……シェバ…トへれ…れんら…く…を…

バルト　"シェバト"だぁ！？　おい……今こいつ"シェバト"って言ったのか！？

リコ　ひどい傷だ。

バルト　ユグドラに連絡して救けに来させようぜ。

●「教会」データバンク

ビリー　位置からして、大聖堂の真下辺りか……ということは、ひょっとしてここは『教会』のデータバンク？

バルト　データバンクだって？

シタン　間違いないでしょう。ここは「教会」のデータバンクですね。

ビリー　このデータバンクには『教会』に関する全ての情報が納められている。過去から現在に至るまでの、ね。僕らは絶対に入ることを許されない施設。ここには教皇クラスの人間しか入れないようになっている。

バルト　……にしても、すげぇ設備だな、こりゃ。

シタン　しかし、これだけの設備はソラリスにもそうはないですよ。なぜ『教会』がこんな設備を？

エリィ　……違う。これ、ソラリスの設備よ。

バルト　ソ、ソラリスだあっ！？

エリィ　変な声出さないで。こんな最新型の設備、世界広しといえどソラリスしか生産できないわ。

リコ　何者かに突如襲われた『教会』。その地下にはソラリスの設備。

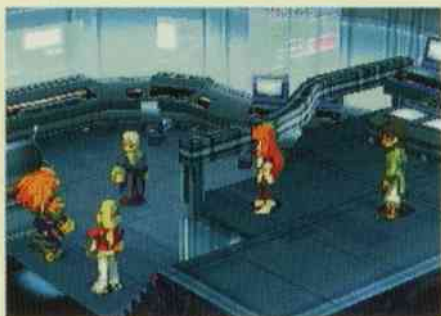
シタン　……事象が、入り組んでいますね。

バルト　なんなんだ、ここは？　おい、ビリー！　てめぇ、何か知ってるんじゃないのか！

ビリー　そんな、僕に聞かれたって…ここに来たのは初めてだし……

リコ　調べてみるか。

バルト　先生、その表示は何なんだい？

シタン　どこかの通信記録のようですね。何か手がかりをつかめるかも。ちょっと待っていて下さい……よし。これでリストを転送できますよ。

●データ表示

>イグニスの紛争状況。第37次武器供与アヴェD2レベルのギアをD3に。キスレブD2レベルのまま現状維持。均衡状態4対6。イグニス管区教皇、シャーカーン皇より報告。不確定因子の介入により補正が必要。計画進行率3割減退。
>キスレブD区委員会からの報告第50224。各バトラーのデータ転送。Aクラスバトラーの生体状況配置予定のY型デミヒューマンへの適応率以上のデータを本国に転送……
>キスレブD区委員会からの報告第50227。ジークムントによる総統府からの『教会』勢力放逐によって調整が難航。然るべき後にジークムントの消去を予定。実行に関してはバトリング被験体リカルドを使用。許可を求む……

バルト なんだ、これは！？　『教会』がなんだってこんな事を調べている？　しかも、あのシャーカーンが教皇！？　奴は17年前『教会』から放逐されたんじゃなかったのか！？
リコ 定期的に報告を入れているところを見るとそうではないようだな。
エリィ 見て、こっち！　各地と教会との交易で集められた資材の行方。全部ソラリス本国へ移送されているわ。
ビリー し、しかし、なぜ『教会』がソラリスに物資を！？
エリィ それは……わからないわ。これは、ソラリス語……それも暗号化されたものだわ。ちょっと待って……ええと……なんだろ………………
バルト 早くしろよ。
エリィ もう！　待ってって言ってるでしょ！　難しいのよ、口語体に訳するのは。ええと……ラムズ……大戦……崩壊……。再教育…………戦後復興計画……基づく……、各ゲート基幹部の設置予定を…………ラムズ……02～04をイグニス……05～08をアクヴィ……11～16は均等分布……その実行…………組織として『教会』を設立。管理を元老……会議とする……ガゼルによる管理！？　『教会』が！？
バルト へ？
リコ 『教会』は、ソラリスの下部組織。そういう事だな。
バルト つまりは……どういうことなんだよ？
エリィ 要約すると、こうよ。過去……500年以上前に、ソラリスと地上との間で大規模な戦争が起こったらしいの。結果がどうなったのかは不明だけど。終戦後、地上人が再び造反することを恐れたソラリスは『ゲート』を、つまり、ソラリスと他の地上世界との空間を分かつ障壁を作った。そのゲートで囲われた世界の内側に地上人を種族別に住まわせ、これを管理した。そして、実際の管理組織として『教会』を設立した。『教会』はガゼルの法院と呼ばれるソラリスの最高統治機関が管理する。つまり『教会』はソラリスの下部組織というわけ。地上で発掘された遺跡資源や生産物資は『教会』を通じてソラリスへ運ばれた。労働力たる人的資源も含めて、ね。地上とソラリスの窓口なのよ、ここは。記録によると、かなりの物資と人がソラリスへ移されたことになってるわ。

リコ　つまり俺達は『教会』に管理されていたというわけだ。他には？
シタン　こちらは最近の記録ですが、これもかなりの数の人間がソラリスへと移送されていますよ。……移送された人々のほとんどが『教会』に救済を求めてやってきた人のようですね。
ビリー　そんな、ばかな！　僕はそんな事、何も聞かされちゃいない！
リコ　……では、以前見たような、ここに救済を求めてやってきた連中のその後は？
ビリー　僕のように、エトーンに……
バルト　それで全部じゃねぇだろ？　エトーンにならなかったヤツはどこに行ったんだ？　決まり、だな。どうなんだ、エリィ？
エリィ　確かに、ソラリスには地上人を収容する施設があるわ。第三級市民層。そこには労働力として、定期的に地上から様々な種族の人が送られてきていたわ。
リコ　ここがその労働力の出所、というわけか。
ビリー　そんな……そんなことって……たとえ、それはそうとしても、一体誰が教会の人間を！？
シタン　これが、その答えかもしれませんね。第44次サルベージ計画。
バルト　第44次サルベージ計画？　それって、タムズの艦長が言っていたヤツじゃねぇのか？
シタン　『教会』が率先して行っていたこの計画だけは、ソラリスとリンクしていない。まったくの独立した計画になっているようです。始まったのは……19年前から。データを表示しますよ。

●データ表示
……推定4000年前に海底に沈んだ都市文明ゼボイムの最終調査完了……。百数十回に及ぶ試掘によって、その都市区画中枢部の存在判明……。本発掘予定は…………

シタン　どうやらこの記録によると、アクヴィの地下に、超古代文明の都市が眠っているようですね。かなりたくさんの試掘が行われ、大量の遺跡資源が発掘されています。生物兵器……反応兵器……なるほど、これが目当てですか。状況判断に過ぎませんが、恐らく『教会』の目的は主……ソラリスからの離反。そして、世界を支配すること。
リコ　離反……世界支配……とんでもない話だな。
シタン　その存在も、得られた成果も報告していないところを見れば『教会』の真意は明らかです。『教会』は超高度文明を独占して、反乱を計画していた。まあ、よくあることですよ。
エリィ　じゃあ、この襲撃はソラリスが？
シタン　多分そうでしょう。先に行きましょう。まだ何かあるはずです。
ビリー　『教会』は……僕の『教会』は……
バルト　おい、ビリー！　いつまでそうしている？　しっかりしろ！
シタン　全ては状況証拠による推測に過ぎません。真相は、あなた自身の目で確かめるのです。
エリィ　あなたたちは、このまま奥に行って。私と先生は、あの“シェバト”の人をユグドラシルに収容するわ。

ビリー　……僕は……まだ信じられない。『教会』がこんな得体の知れない組織だったなんて……今まで、僕の信じてきたものは一体何だったんだ？

――――　だからあの時言っただろう？　君は、僕たちと居るべきだって……

ビリー　ベ、ベルレーヌ！？

ベルレーヌ　けがれてしまったね、ビリー。『教会』を出て、何ら信仰心など持たぬ輩と触れ合うことによって、本当にけがれた者の姿が見えなくなってしまったんだね。信仰の為に生きてきた昔の君からはとても考えられないよ。僕たちのようにしていれば良かったんだ。でも、大丈夫さ。僕が浄化してあげる。君は、僕の中で生きるんだ。死を以て僕とひとつになろう……

●銃声

ベルレーヌ　何だ！？　き、貴様は……

ビリー　親父っ！　何てことをするんだ！

ジェシー　このタコ。何を慌ててんだ。スタン弾だよ、スタン弾。ちょいと眠ってもらっただけだ。そんくらい、激発音で判断しろって。それに、こいつらは『教会』の人間じゃねぇ。見ろ！

ビリー　その印は！

ジェシー　そうだ。こいつらはソラリスの工作員だ。恐らくは、ストーン配下の暗殺部隊。『教会』の人間全てを消去するって情報を聞いたんで、すっとんで来たんだが間に合わなかったようだな。『教会』の人間は、サルベージ計画とやらで出払っていた者以外、みんなやられちまったみたいだぜ。

ビリー　ベルレーヌ達が司教様の暗殺部隊！？　いいかげんなことを言うなよ！

ベルレーヌ　そうさ……僕達は、司教様のしもべ。堕落した聖職者と罪人に断罪を下し、悔い改めさせるのがその使命なんだ。

ビリー　本当なの、ベルレーヌ？　何故『教会』の人たちを！？

ベルレーヌ　教皇たちなど、死んで当然。ソラリスから課せられた“『教会』としての責務”を放棄し、世界を支配するという欲望。そのような欲望にとりつかれた時から彼らの死は決まっていたんだ。それだけじゃない。孤児、難民の救済……傍目には慈善に見えるだろうさ。その実、ここに囲われている少年や少女たちは、教皇や司教たちが己の欲望を満たす手段として使われていたのさ。己の欲望に溺れる。これは“聖職者にあるまじき”行為。あんな、けがれたやつらに神の代弁者たる資格はない。だから、僕達が浄化して、その罪を償わせたんだ。司教様のご指示でね。

ビリー　それが事実だとしても、僕達には勝手に人を処罰する権利なんてないはずだ！　審判は神が下されるもの。そう教えられたじゃないか！

ベルレーヌ　神だって？　そんなものが、どこにいるというんだい？　君も、もう知っているんだろう？　この『教会』の成り立ちを。愚かな地上の人間たちを管理する為だけに遥か昔ソラリスによって作られた組織。その教義は、大衆を統べるためのまやかしさ。『教会』は“信仰”と“技術”という二つの甘い果実を使い分け、地上世界の情勢を巧みに操作していたんだ。操作された衆愚は、ただいたずらに戦争を繰り返すだけだった。やがてその戦争から得られた“ヒト”そして“兵器”の戦闘データは、ソラリス本国へと送られ……地上世界統治の為の一助とする為に解析された。そうやって引き起こされた戦争は、様々な心理的軋轢を生んだ。だけどそれは神への信仰……救済という形をとって、和らげられていたんだ。システムとしては、良く出来ていたよ。だが、管理者の適性は最低だった。それとも君は、信心深い神のしもべを演じていれば、いつかはきっと偉大な神が応えてくれると思っていたのかい？　そんなものなど、“最初からなかった”のだよ。それに、君はまだわかっていないようだが、君だって、僕達と同じように“罪人を断罪していた”のだよ。

ビリー　僕が、断罪を下していた？

ベルレーヌ　そうさ。君が日頃、その手にかけていた……

———　私の至福の楽しみを奪うつもりかね？　ベルレーヌくん。

ベルレーヌ　がはっ！！

ビリー　ベルレーヌ！　しっかりしろ！

ベルレーヌ　ビリ………ぐわっ！

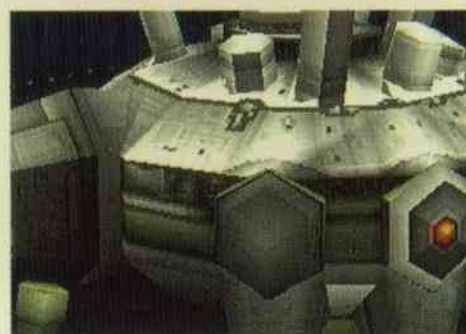
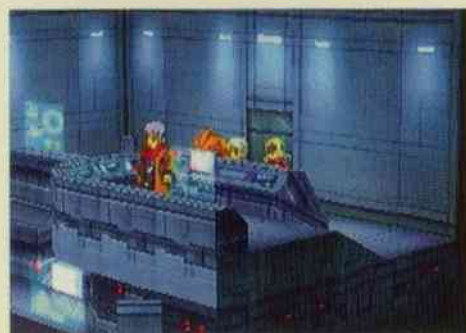
ビリー　ベルレーヌ！　ベルレーヌ！

ストーン　無能でおしゃべりな人間などに生きている資格はないのですよ。

ビリー　司教様！　なぜベルレーヌを！　司教様は一体何をしようとしておられるのですか！

ストーン　私は、ソラリスから派遣された地上の粛清官。

バルト　粛清官だって？

ストーン　『教会』での司教の地位は私が地上で活動するための便宜的なものに過ぎない。ソラリスの下部組織として創設され地上人の管理という責務を与えられていた『教会』。その『教会』は、長い年月の間に自らにとって都合のよい勝手な教義を定義し、衆愚を集め、その信仰の対象としての神を作り出した。そして、事もあろうにソラリスからの離反までも企てていたのだ。我々の制御を脱し、反旗をひるがえそうとするものは処分しなくては、ね。その「処分を行う者」として用意されたのがエトーンなのです。私が「教会」内で創設した組織、＜罪をあがなう者＞エトーンとは表向きは地上にはびこる「死霊＜ウェルス＞」の処分が目的。しかし、本来の目的は、違う。裏ではベルレーヌ達のような適任者を選出し、堕落した『教会』の人間の監視、処分を行っていた。早くに『教会』から離れたあなたは、それを知る機会がなかった。……というより、私が知らせなかっただけです。あなたには“別の役割”を演じてもらわねばならなかったのですから。

ビリー　別の……役割！？
ストーン　ビリー。世の中には知らない方が幸せなこともあるんですよ。嘘もまやかしも、その本当の姿、システムのカラクリさえ知らなければある人にとっては真実となり得るのです。現に、君や地上の人間にとって『教会』の用意した<神>と<信仰>そういったシステムは真実そのものだったでしょう？
ビリー　教えて下さい！　役割ってなんなんです！？　ベルレーヌの言っていた、断罪とは一体何のことなんですか！？
ストーン　知りたいのですか？　真実の重みに耐えられますか？　ビリー、君がその重みに耐えられるのであれば、お教えしましょう。
ビリー　…………。
ストーン　君が、迷える魂の救済と信じて行っている死霊<ウェルス>の浄化。それも、ソラリスが作り出した支配システムの一つなのですよ。君が、救済と信じて行っているその行為は……
ジェシー　よくもまぁ、ベラベラと下らねぇことをしゃべりやがる。
ビリー　親父！
ジェシー　貴様、あの頃と全く変わっちゃいねぇな？　え、スタイン！？
ビリー　スタイン？
ストーン　懐かしい名だ……その名を聞くと“この身体に刻まれた傷あと”の甘美な痛みが鮮やかに蘇ってくるよ。なあ、ジェサイア。
ジェシー　ふん。脳ミソのいかれ具合も相変わらずだな。答えろ！　何故“こんなまだるっこしいやり方”をしやがった！
ストーン　答えるまでもない。これは“私にとっての生き甲斐”なのだ。当然、貴様のもだえ死ぬさまを見ることも、だ。この場で貴様の体を切り刻み、そのハラワタを引きずり出したい衝動に駆られるが、実はそうもしていられなくてな。私はこれから向かう所がある。貴様のことよりもそちらの“任務”の方が優先なのだ。ここで時間を潰すわけにはいかん。
ジェシー　行かせんぞ！　スタイン！！
ストーン　貴様らごとき虫ケラに邪魔をされるわけには、いかん。それまでの間、彼等に足止めをしてもらうことにしよう。
ビリー　司教様っ！
ストーン　では、失礼。何かおっしゃりたいことがあるようでしたら、後程。お待ちしていますよ、ビリー。

●ストーン逃走

ジェシー　待て、スタイン！！　ひと足、遅かったようだな。スタインの奴は……あそこだ。
リコ　こんな巨大なギアは見たことがないぞ！
ジェシー　ソラリスの機動ギア、アルカンシェル。
バルト　機動ギア！？　なんだい、そいつは？
ジェシー　ナリがデカい分、動きがとれねぇからギアに乗ってりゃ難儀はしねぇが、その分、火力だけは折り紙付き。船なんかのデカい目標だったらドカン！　とイチコロさ。
リコ　待て。それじゃあ！
バルト　このままじゃ船長達が危ない！　連中は何も知らされていないんだ！
ビリー　ユグドラシルなら、あのギアに追いつけると思います。急いで、タムズ船団の方々を助けに行きましょう。

●ユグドラシル

—— 教会、及びタムズ船団捕捉。南方の海上を航行中。全速航行で約1時間で捕捉出来ます。
シグルド よしっ！　タムズへ向けて針路を取れ！
—— アイアイサー！！
—— 副長！　レーダーが……！
シグルド 何だ！？
—— レーダーがとてつもなく巨大な物体を探知！　船団の直上に現れました！
バルト まさか、ストーンがもう！？
—— いえ、あれより遥かに巨大です！　推定で2000シャールはあります！
ビリー そんな巨大なものが……。一体何が起ころうとしているんだ……。

●巨大戦艦

—— 主砲、エネルギー準位回復まで20。機関、全力発揮問題なし。本艦、戦闘機動に支障なし。障害物除去行動、達成率約8割。現状、進路クリア。カレルレン閣下、蒸発を免れた艦船が数隻ありますが、いかがいたしましょう？
カレルレン ラムズ03、05、11は損壊、非損壊を問わず回収。それ以外のゴミは消去しろ。回収、消去には試験体<ウェルス>を使用。
—— スタイン様からの目標のマーキングを確認。130ある検査発掘場のうち、最南端のものです。
—— 制圧隊、ゼボイムへ入ります。
カレルレン そうか……500年間、探し求めた"モノ"の姿。楽しみだ。
—— ウェルス、放出します。

●タムズ

艦長 な、何なんだよ！　あのバカでけえタコつぼみてえなのは！？
ハンス な、何なんだと言われても……
艦長 一発で他のサルベージ船団のほとんどが吹き飛んだじゃねえか。まさかこれが『教会』の挨拶の仕方だってんじゃねえだろう！？
ハンス 当たり前でしょう！？　何で発掘の手伝いに来た我々を攻撃する必要が……
—— か、艦長、死霊<ウェルス>なのね！　タコつぼから死霊がわんさかなのね！
艦長 何だとう！？
ハンス ば、バカな……
艦長 ……ギアを出せ！　大砲に弾を込めろ！
ハンス 艦長！？
艦長 野郎共、他船団の生存者を可能な限り救助しながら逃げる！大砲は2門とも死霊どもを撃ち落とせ！　このタムズにあのうす汚ねぇ死霊共を近づけさせるな！　ハンス！　ボサッとしてんじゃねえ！　舵を取れ！　あのタコつぼに海の男の逃げっぷりを見せてやれ！
ハンス り、了解！

●ユグドラシル

—— 救難信号探知！ タムズが死霊の群に襲われている模様です！

バルト ストーンの言っていた、ソラリスによる粛清か！

シタン 急ぎましょう！ このままではタムズは死霊に！

●タムズ

艦長 おう、先生さんじゃねぇか。何だ、心配して来てくれたのか？

シタン ええ、まあそんな所ですが、思ったより大丈夫そうですね。

艦長 あったりめえじゃねえか。俺たちゃ、海の！ 男だぜ！！
……って言いてぇ所だが、実は結構大変だったのさ。ケガ人も死人も出た。だが沈んだ他の船の事を思えば泣き言は言えねぇ。逃げられただけでも幸運さ。しかし、先生さんよぉ、あのタコつぼは一体何なんだよ。ハデにぶっ放して、おまけに死霊まで捨てて行きやがって。それに、あの後、何にもない片隅の発掘現場に向かってったぜ。俺らはもっと奥のでっけえ発掘場に行けって言われてたのによお。

シタン やはり……

艦長 それと、見るからに怪しいバカでけぇギアを見たって奴もいるらしいぜ。何でもその発掘場にシュッポシュッポと飛びながら案内してるみてえだった、って話だ。

シタン ストーンが……どうやら間違いなさそうですね。そこに何かあるのは……

艦長 俺のサルベージャーの勘もそう言ってる。もうあんなとこ近寄りたくもねぇがな。で、先生さんよぉ、あのタコつぼはアンタらの敵なのか？

シタン そう……とも言えますか。

艦長 そうか。仇を取ってくれとは言わねえ。ただこのままじゃ腹の虫がおさまらねえ。あいつらのジャマするんだったら何でも協力するぜ。その発掘場のポイントならハンスにでも聞いてくれ。

ハンス あのタコつぼ艦の向かったポイントは、ここからまっすぐ北の島です。その北の島の北端……ですけど、あそこには本当に小さな採掘場しかないはずなのになぜでしょう？

「教会」発掘現場

ビリー　シタンさんソラリスは、何が狙いなんでしょう？
シタン　ソラリス本国軍……か、なぜわざわざ……いえ、とにかく降りてみましょう。

●グラーフに話しかけるミァン
ミァン　……気付いているかしら？　彼のギアが再び目覚めようとしている……じきに彼自身も目覚める。彼の仲間はゼボイムに向かったわ。四千年もの間、閉ざされていた地。あそこに何があるかは、貴方の方がよく知っているでしょう？　多分彼は誰にも渡そうとはしない。でもね、私や貴方にとっても必要な物なの。解るでしょう？　……だから、お願い。

●遺跡の街へ
ビリー　これが遺跡の街……話には聞いていたけど……
エリィ　…知ってるわ、よく知ってる…私………そう……空洞都市ゼボイム……私たちは、自らをこの広大な霊廟に葬った。
シタン　エリィ！　エリィ！！　どうしたんですか！！
エリィ　え？　……え？　……わ、わたし今……
シタン　いえ……先を急ぎましょうか。

●血染めの通路
エリィ　……血だわ……血の染み……私の……血……痛みはなかった。ただ、寒かった。悲しかった…
シタン　！　エリィ！
エリィ　……あの子はあの時からずっとここに一人ぼっちで居たのね……
シタン　血……？　確かに血らしい染み……とこれは……強力な熱、いや放射線？　非常用の殺菌装置か……作動した跡が、確かに……！　エリィ！

エリィ　『新たなる魂の器よ。願わくば、宿るべきあなたのその魂に安らぎあれ』

シタン　いけない！　エリィ！　何が起こるか解らないですよ！！

エリィ　先生……私は……誰……？　何をして、話して……？

●ナノリアクター室

シタン　……こ、これは……。

ビリー　シタンさん……この少女は……？　なぜ急に人の形に……！？

シタン　どうやらこの少女は、このリアクター内で創られた人造生命体らしいですね。恐らくは、そこの操作室のデータベースの数列に基づいてリアクターの中で、再形成されたのでしょう……。恐らくこの子の体は……

ストーン　……分子スケールの自律機械、つまり、ナノマシンと呼ばれる物の群体です。そのナノマシンの群体は貰って行きますよ。それは我らヒトのクビキを外し、神の御下に導いてくれる大事な存在<ファクター>の一つですので。では、お願いしますよ。

ビリー　司教……さま……。

ストーン　おお、ブラザービリー。あなたも居ましたか。これは話が早い。あなたなら、解りますよね？　このナノマシンの群体は、義しき者の手に委ねられるべき存在なのです。ヒトの救いとなるものなのです。

ビリー　義しき者ですって？　今の僕にはあなた方がそうであるとは思えない。自らの意にそぐわぬからといって、『教会』や地上の人間を消去しようとするあなた方の行為は……。

ストーン　救いを受くるに足りない者達を消去することに何の問題があると言うのです？　そもそも信仰とは“選ばれた者だけが救われる事”を期待するものではないのですか？

ビリー　……それは何か間違っています。信仰による救い、その機会は、皆等しく持てるべきです。

ストーン　では、あなた方は全てのヒトを救えるというのですか？　カレルレン様がそのナノマシンの群体を使えば、少なくとも我ら選ばれたヒトだけは救われるのです。しかし、あなた方にはこれの使い方が解らない。世界で、誰も、救われない。あなたは我らヒト全てに対するその責任を取れますか？

ビリー　……。

ストーン　今の私は、そのナノマシンの群体をカレルレン様の下へ持ち帰る事が仕事です。『教会』のように、遺跡都市に眠る太古の兵器群が目当てではない。あなた方の利害とはぶつからないと思いますが。

エリィ　いけない！　彼らにこの子を渡しては！！！

ビリー　救うとか、救わないとか、一体あなた方はこの少女を使って何をしようと言うんですか！？　やはり僕には、あなた方の行為が義しき事とは思えない。司教様……、残念ですが、あなたのお心に沿うわけには参りません。

ストーン　お解り頂けませんでしたか……仕方ありませんね。しかし、時間をかけて解って頂く暇もございませんし。先を急ぎますので失礼いたします。

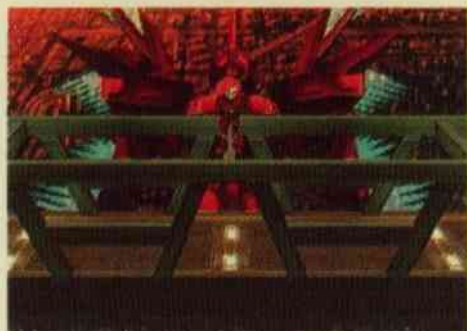
シタン　お待ちなさい！！

ストーン お待たせしました、エレメンツのお二人。お仕事ですよ。
——— ……ふん！
ストーン トロネ！　セラフィータ！　なるだけ時間を稼ぐんですよ！！
トロネ わあってるよ！！　俺らに命令すな！！
セラフィータ ね、トロネちゃん、トロネちゃん、ささっとすませてささっと帰ろ～よぉ。セラフィー、暗いトコきらい！！
トロネ そだな。どーせ、ラムサス様の頭ごしの命令だもんな。……ったく、拾いモンの護衛なんてよ～。そ～ゆ～ワケだから、お前ら、さっさとやられるように。

ビリー き、君らは何なんだ！　一体！　君らにつきあってる暇はないんだ！
トロネ そーは、いかない。カレルレンなんざどーでも良いが、あまりいー加減だと、仕事を受けたラムサス様の名に傷が付く。ま、お前らが考えナシにアイツをへこへこ復活させてくれたおかげで思ったより早く任務終了できそうだ。
セラフィータ そうだ！　セラフィーたち、キカイのつかい方わかんなくて、あたふたしてたんだ！　どうも、ありがとう！！

トロネ お、お前……そんな事をバラすんじゃない！！　人が苦労して心理的優位をつくってるトコなのに……
セラフィータ ええ～っ！！　……だってぇ……シンセツにしてもらったらちゃんとお礼するんだよって、おばあちゃんがぁ……でも、トロネちゃんすごいんだ！　シンリテキユウイ？　さすがポリクロロトルエン子牛脳トーサイさいぼぉぐっ！！
トロネ ポジトロン光子脳だっ！！！　何だ？　その、検疫でひっかかりそうな危ない名前は！！

エリィ ……気をつけて！！　ラムサス直属のエレメンツです。見かけはユカイでも、戦闘力は、ずば抜けています。
シタン と、言うことは、あの会話も計算尽くで……
エリィ いえ、天然です！！　だから恐ろしいんです！！
<対トロネ・セラフィータ戦>
トロネ セラフィータ！！　義理分は戦った！！　ひきあげるぞ！！
セラフィータ ああ～んトロネちゃん！！　まってよぉ！

●フェイ・回想
——— ……大地につながれた、呪われた生命……その“クビキ”を引きちぎるための新たなる魂の器よ……
——— ……その子を……わたすわけには…………い…か……な…い……よ、ね……
——— ……！　……！　……！、よせ！　やめろ！
——— くくく……くくくくく…………じゃあな……
看護婦 あれ？　……フェイ……さん……？

シタン　ストーン司教！！　お待ちなさい！！！
ストーン　ちっ、エレメンツめ、口ほどにもない……時間稼ぎすら出来ないのですか。
――　……返せ
ストーン　？
――　返せ、返せ、ふふっ……くーくっくっくく……はぁーっはっはっはっはっは！！！　ふふふ……それは“俺の”だ。返せ！！
ストーン　な、なんですか！！！　あ、あ、あなたは？
――　お前達には、過ぎたおもちゃなんだよ。だから、返せそれは“俺の”だ……
ビリー　一体何者だ？　君は？　名を名乗りたまえ！
――　名前なんてどうでもいいさ……どうしても、というなら……
……イド……
＜対　イド戦＞
ビリー　つ、強い……ん？
イド　！！　……貴様…か……
ストーン　い、今のうちです！！　早くカレルレン様の元に……
ワイズマン　こいつはわたしが押さえる！　早く、追え！！
シタン　その声は……ワイズマン！…………行きます！！　さぁ、みなさん！　急いで！！
ビリー　な、何が……
イド　ふん、随分と早いじゃないか？……そうか、あの女、か……いいぜ。今日のところの“おもちゃ”は、お前でも……。
ワイズマン　う？　……くっ……ぅ……
イド　ふふふっ、くっくっくっく……ふん……

ビリー　くっ……、危機一髪ですね。あの男とワイズマン……相当派手にやり合ってる様ですね。エーテルパワーの吹き返しがここまでくるなんて……

●ストーン逃走

シタン　遅かった……か…
ビリー　シタンさん、結局、あの子をカレルレンとかが連れていったらどうなるんです？　ナノマシンって結局何なんですか？
シタン　ナノマシンとは、細胞より小さなロボットのことです。ソラリスではこれを病気やケガの治療に使っています。……恐らく彼女は、古代のより進んだ技術で造られたナノマシンの集合体でしょう。
ビリー　たとえ、ソラリスの人だけに限定されているとしても……人の幸せに結びつくことなら別にいいんじゃないでしょうか？
シタン　心配なのはストーン司教の言葉です。彼は“クビキを外す”と言いました。もしかしたら彼女の体内には、古代の、人体改造の情報が隠されているのかも知れない……リコやハマーの様な亜人は、大昔のソラリスが、人類の再興を掲げ、DNAをもて遊んだ結果、生まれました。もし、カレルレンが、より進んだナノ技術で同じ事を考えていたら、……これは恐ろしい事です。

●ギアドック

シタン　フェイ！？
フェイ　あ、先生……。
シタン　フェイ、なぜこんなところに？　もう大丈夫なんですか？
フェイ　うん……。たぶん大丈夫なんじゃないか……。
エリィ　どうして病み上がりで動き回ったりしたの？
フェイ　いや……。自分でも何でここにいるかよくわからないんだ……。気がついたらギアのコックピットに……。まだ……、頭がハッキリとしない。
シタン　……。
フェイ　ううっ……。
シタン　フェイっ！！　やはりまだ動いてはいけません！！
――――　前方にアルカンシェル発見！！　ギア出撃準備！！

シグルド　どうやら、我々を監視していた様です。

フェイ　い、行かなきゃ……！！
シタン　そんな体で何を言ってるんですか！？　ここは私たちにまかせて……！！
ビリー　どうやら決着をつける時が来たようですね。フェイ、君は休んでいて下さい。これが僕の最後の仕事になるかもしれない……。
シタン　ええ。では私はフェイを医務室まで連れて行きます。あとは頼みましたよ、ビリー君。

ストーン　監視などと……迂遠な……片づけてしまえば済むことです……神聖なるガゼルに仇なす者、全てを消去いたします。悔い改めなさい。
――――　うぬは、力が欲しくないか？
ストーン　な、何やつ！
グラーフ　我はグラーフ。力の求道者。うぬは、力が欲しくないか？
ストーン　力？　ふん。力ならばこれ、ここに！　カレルレン様に頂いたこの身体がある！
グラーフ　所詮は、まがい物の力。果たして、それで勝てるかな？
ストーン　何と？　まがい物とな？
グラーフ　まがい物の肉体。作り物の目醒め。それではだめだ！　我が真の力を与えてやろう！　我の拳は神の息吹！　"堕ちたる種子"を開花させ、秘めたる力をつむぎ出す！！　美しき滅びの母の力を！
ストーン　はぁう、ふ、ううううう……
<対　アルカンシェル戦>

バルト　だ、だめだ！　全く通じねぇ！！
シタン　……何らかの障壁を張っているようです。恐らくは負の感情……憎悪をエーテルに変換して障壁としているらしいですが……こちらも何か強力な意思の力をエーテルに変換してぶつけられれば……

ストーン　ふふ……苦しんでいますか？　ジェサイアの息子！！　4年前、私が貴方を見込んだのは、貴方の父上と、私の旧い友情の証でした……共にゲブラー司令の座を争ったジェサイアとの憎悪にまみれた友情のね！　愛し合っていたラケルをケモノのように奪ったあげく、私があんなに欲したゲブラー至高の座までを、あっさり蹴飛ばして、ソラリスから姿を消したジェサイア！！　4年前、やっと見つけた地の果てにはすでに奴の姿は無く、奴に汚されたラケルと……汚れの証明……貴方と妹が……私はかわいそうなラケルをカレルレン様の英知、ウェルスで救ってあげました……。

ビリー　き、貴様が、母さんを……しかも、死霊を使って……！！

ストーン　ああ、そうだ。良いことを教えてあげましょう、ビリー。貴方が今まで浄化してきた死霊は全て『教会』が選びカレルレン様が術を施したただのヒト！　お前はヒトをほふっていたのデス！　ははは……外道な父親に相応しい外道な息子ではないデスか！　はははははははははははは！　さぁ、私にザンゲなさい！　そして、その罪を己が身で償いなさい！

――――　いいや、お前が悔いることなんざひとつも無いぜ！ビリー！

ビリー　……！？

――――　ラケルとおめぇが愛し合ってただって？　相変わらずナルシシズムと自己保存本能の強ぇ奴だな！！

ストーン　！！！　……こ、この声は……！！

ジェシー　この勝負、俺様が預かったぁ！！　こいつを使え！　ビリー！！　こいつなら奴の障壁をひっぺがせる！！

シタン　あ、アレはバントライン……パイロットが直接弾頭に乗るあのエーテルガンギアなら、確かにストーンの憎悪の負の感情パワーに打ち勝てる！　……し、しかし……

ジェシー　ビリー、俺のギアとお前のギアの合体攻撃なら障壁を突き破れる。ちょっとお前の肩を借りるから今のウチに、よーく狙っとけ。そろそろ終わりにしようや、スタイン。だがな、お前は死んでもラケルにゃ会えねぇ！　なんせお前の行く先は地獄なんだからなぁっ！

シタン　やはり！　ジェサイア先輩はあれを使うつもりです！　止めなくては！　聞こえますか、ビリー！　ビリー！？……だめだ、応答が無い！！

ジェシー　ビリー、もうわかったろ？　スタインの教えはまやかしだ。捏造された信仰なんてものは、世界や、脆い人の心を補償するために出来たシステムなんだ。だがな、本当の神や信仰は、他人から与えられるものじゃねぇだろ？　自分自身の中に見出すものだ。語らざるもの、表現されえざるもの、それが神じゃないのか？　"神は応えないもの"なんだ。俺が幼いお前に銃を教えたのは人を救うためだ。お前は、銃は人殺しの道具だと言うが違う。「銃」が人を殺すんじゃない。「人」が人を殺すんだ。お前は倒した死霊達の表情を見たことがあるか？　死霊化するってのはとてつもなく苦しいことなんだ。その苦痛を和らげるため、人の血を求め、襲う。だがな、それでも本当の、心の苦痛を取り払う事は出来ない。苦痛から救われるためのただ一つの方法、それは消滅する事よ。お前に倒された死霊達は皆安らいだ顔をしていたろう？　お前の銃は死霊化してしまった人達を救ったんだ。誰にでも出来ることじゃない。それが出来たお前の信仰心はまやかしじゃない。神はお前自身の中にいるんだよ。

ビリー　親父……

ジェシー　よし、今だ！　行くぜっ、ビリー！

シタン　遅かったか！　ビリー！　それは、搭乗者を人間弾頭として撃ち出す兵器なんです！

ビリー　何だって！？　じ、じゃあ、親父は……くっ……くそーっ！！

●ユグドラシル・甲板

ビリー　親父……。

シタン　ビリー君……。私があんなものを作ったばかりに……。

ビリー　いえ、あなたの責任ではありませんよ……。親父を送るにはこれが一番でしょう。

――　そうだな……。ありがとよ、息子。

ビリー　お、親父っ！

シタン　先輩！　無事だったんですね？

ジェシー　ったりめぇだ！　イカれた若造の作ったポンコツをいつまでもそのままにしておくか！　改良したんだよ、改良！　あつつつ。もっともこんなことは二度と御免だがな……。

シタン　それにしても、地獄……ですか。無信心な先輩が死後の世界を認めていたとは意外ですね……。

ジェシー　ん？　なんだてめぇ聞いてやがったのか。ありゃ言葉の呪いだ。あの野郎の死に土産にゃ丁度いいだろ？

シタン　まったく、性悪な先輩らしい送り方ですね。

プリメーラ　バ……バ……

ビリー　プ、プリム！？　プリム、今なんて言ったんだい？　ねぇ、プリム？

プリメーラ　バ……バ……

ジェシー　ハハッ、聞いたか？　プリメーラの呪いも解けたようだな！

ビリー　ハハハ……！　プリムがしゃべった！　プリムがしゃべったよ！　ね、ね、プリム、僕の名前も呼んでおくれよ、ビリーってさぁ！

●ブリッジ

ジェシー　しっかし、すっかりやられちまったなぁ、『教会』も。相変わらず無茶苦茶しやがるぜ、あそこは。

シタン　そろそろ本当の事を話した方が良いんじゃないですか、先輩？ ただ飲んだくれてケンカ売って歩いてた訳じゃないんでしょう？　ビリー君だってそれを知りたいはずです。ねぇ？

ビリー　ええ、その方が僕もスッキリします。親父が僕の事を心配してくれていたことはとりあえず解ったけど……。その親父に振り回されていた僕の気持ちの整理はまだついていないんだ。

ジェシー　なんだその“とりあえず”ってのは？

ビリー　プリムがしゃべれるようになったのは嬉しいけど親父の名前しか呼ばないし……。今までプリムの面倒を見てきたのはこの僕だってのに……。なんだってんだ……。

シタン　まぁまぁ……ビリーきっと恥ずかしいんですよ。その内あなたの名前も呼んでくれますって。うちの娘なんて父親の名前すら呼ばないんですよ。……で、先輩。一体何の為に単独で動いていたんです？

ジェシー　ちっ、しゃあねぇなあ。ま、こっから先はお前さん達の力を借りにゃならんかも知れんし……。いいだろう、話してやるよ。シラフで、ってのも気が効かねぇからガンルームへ行くぞ。

●ガンルーム

ジェシー　俺は、ソラリスにいた時分、カレルレンの指揮の下、極秘裏に進められた計画の存在を知った。それがM＜マラーク＞計画。その計画を進行させる為に、多くの地上人が『教会』によって集められ、実験体に。まぁ、それが死霊＜ウェルス＞だった訳だが……。ソラリスのやり方に嫌気がさしていた俺は、計画の真相を探った。やがて、計画の中心となる科学者がM計画の真相を試作ギアに移し、娘ともども脱出させた事を知った。……が、それが俺が掴んだ最後の情報だった。俺は、それを知ったが為に妻のラケルとビリーを連れ地上に身を隠した。以後、俺はそのギアと少女の行方を追っている。んでだ、やっとこそのギアと科学者の娘がシェバトにいるらしい……ってとこまでは突き止めたんだが、いかんせんそのシェバトへの行き方はおろか、連絡の取り方すらわからねぇ。ま、今までソラリスですら手が出せなかった程、強固な障壁に護られてた所だ。当然といやぁ当然なんだが……。

―――― その少女、もしかしてマリアとかいう名前では？

ビリー あ、お二人とももういいのですか？　まだ安静にしていなくては……。

シェバト工作員 いえ、おかげさまでようやく立って歩くぐらいは出来るようになりました。

フェイ オレももう大丈夫だ。

ジェシー マリア……、か。その少女の父親の名前、ニコラとかいう名じゃなかったか？

シェバト工作員 いえ、さすがにそこまでは。しかし、ギアと少女の話は耳にしたことがあります。

ジェシー うむ、間違いねぇ、そいつだ。巨大ギアはシェバトにある。……で、シェバトに行く方法は？　何か連絡手段とかないのか？

シェバト工作員 残念ながら捕われの身であった私には通信をする手段すらありません。

ジェシー そうか……。

シェバト工作員 方法がないでもありません！　本来、シェバトはバベルタワーの頂上部にあった都市なのです。塔の頂上部にはシェバト本国との通信施設があるらしいです。それが現在も残っていれば……。

シタン うーん。「教会」によって塔が封印されていた事を考えると、その施設も破壊されている可能性が高いですね。

ジェシー またお前はそういう悲観的な事を……。

シタン 私は現実的なものの見方をしているだけですって。

ジェシー ……。

バルト 行ってみるしかなさそうだな。どの道、ゲートが存在する以上、ソラリスの影響下からは出られない。ってことは、たとえシャーカーンからアヴェを取り戻せたとしても大団円という訳にはいかねぇ。

シタン その謎の計画というのも気になりますね……。地上から集められた人間を使った秘密裏の計画ですか……。

フェイ しかし、その計画にしろ、「教会」にしろ、ソラリスは一体地上の人間を何だと思っているんだ！……あ、すまない。エリィたちの国だってこと、すっかり忘れてた。

エリィ 国は国、私は私。私は何かが間違っていると思ったから、自分の意思でここにいるだけ。だから気にしないで。

フェイ とにかくダメでもともと、行ってみよう。「教会」で発見された記録、ビリーの親父さんの言った事、それらの真相を確かめる必要はある。それに個人的にも俺はシェバトに行かなきゃならない。善は急げだ！！　さぁ、早速バベルタワーへ向おう！

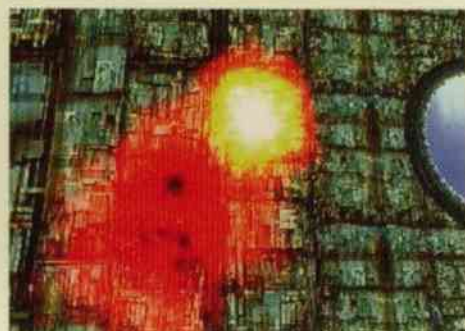
バベルタワー

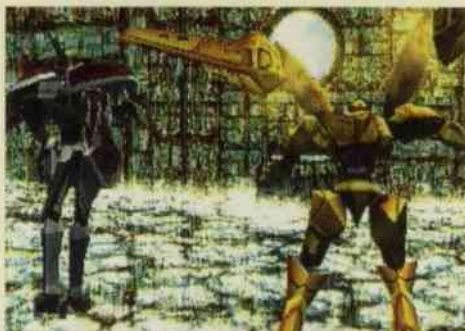
●制御室

フェイ　これか？　お！　起動したぜ。よし。いくぜ！

●エレベーター

フェイ　一体どこまで登るんだ？　む！　外壁に出るぞ。

フェイ　砲撃？　どこからだ。クソ！　線路をやられた。外に出るぞ！

フェイ　あれは！　ゲブラー艦！？　あの機体は！？

ラムサス　待っていたぞ、フェイ。先日は海中という状況と、思わぬ裏切り者の助勢によって不覚をとったが、今度はそうはいかん。貴様らをここから上に行かせはしない。
フェイ　奴ら、何故俺達がここにいるって……
エリィ　識別コードも発信器も外したのに。
フェイ　後ろは壁、逃げ場なし。こりゃ戦うしかなさそうだな……。来るぞっ！

<対　ワイバーン・ミャンギア戦>

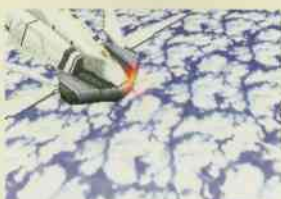
ラムサス　ま、まだだ！　まだ終わらせん！
ミァン　いけません閣下！　撤退します！
ラムサス　離せミァン！　こ、ここで退いて……なるものかっ！！ ぐふっ！
ミァン　そのお怪我では無理です！　ブリッジ！　退路確保！　主砲軸仰角0.8！　援護射撃30！　撃って！！

●ラムサス艦に謎の砲撃
ミァン　上！？　まさか……！？　ブリッジ！

――――　時空震、震度8！　巨大な構造体が転移してきます！
ミァン　……やはりシェバト！　180度急速回頭！　全艦全速！　この場から撤退します！

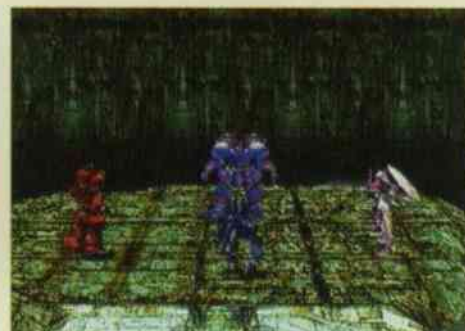
フェイ　……何だ？　今のは？
エリィ　上空からの攻撃みたいね。行ってみましょう。

●コントロールルーム
ドアロック解除！　DONE！

フェイ　なんだ！？　通信機能は、生きてるみたいだ。

●外壁
フェイ　ここから上に、登れそうだが……。

●バベルタワー頂上

フェイ	て、天井が……ない。
エリィ	以前、ここにシェバトがあったって話、本当の様ね。見て、周囲を。巨大なものがパージされた跡があるわ。
フェイ	そうだ！　通信施設は？　近くに何かないか？
エリィ	他には何も見当らないけど…。フェイ！　上！　何かが接近してくるわ！……ギアよ！
フェイ	ゲブラー……！？
謎の少女	ここから先はシェバトの領域です。それを侵すものは、何人であろうと私とこのゼプツェンが排除します。
フェイ	ちょっと待ってくれ。俺達はただ……
謎の少女	行きます！！

＜対　ゼプツェン戦＞

――	そこまでです。マリア。その方々もこちらに。
謎の少女	はい。ゼファー様
謎の少女	ごめんなさい。あなた方の力を試させて頂きました。上へ。女王がお待ちです。

ガゼル法院

―― ……役立たずが。シェバトとの接触を許すとは……。
―― シェバトには“アニマの器”が在るはずだ……。我等の準備が整う前に同調されるといささか厄介だぞ。
―― 我等の憑代の型、合わなければ意味がない。
―― シェバトごと葬り去るか？
―― “アニムス”はどうする？
―― 他にもある。今は過ちを繰り返さぬよう万全の対応を。
―― シェバトのゲート、どう処理する？　あれがある限り侵入出来ぬぞ。
―― なに、アハツェンの重力子砲で空間の歪みを補正すればよいだけのこと。
―― アハツェン？　出せるのか？
―― 再教育は済んだ。いけるよ。降下部隊の編制も終了している。
―― 人体への影響は？
―― 調整済みの、７１式降下兵ならば問題ない。
―― それは楽しみだ。

空中都市シェバト

少女 ここは空中都市シェバト最下層部に位置する、ドック・フロアです。先程は失礼しました。わたしは、マリア・バルタザールといいます。
フェイ バルタザール……？　どっかで聞いた名だな。

バルト おい、フェイ。そりゃ、あのヘンクツじーさんと同じ名じゃねえのか？　アヴェの地底でギアをいじくりまわしてた、ちょいといかれたじーさんがいたじゃねーかよ。
フェイ ああ、そうか！　世捨て人のバル爺さんか。そう言えば……、バル爺さんのカラミティとかいうギアと似ていたな、さっきのギア。
マリア カラミティ！？　それは、お爺ちゃんの造ったプロトタイプのギアです。あなた方は、お爺ちゃんのことご存知なんですか？　お爺ちゃんは、今どこに！？
フェイ いや、知ってるとは言っても、爺さんとはアヴェの砂漠の地下で偶然出くわしただけだ。特に知り合いって程でもないんだが……。そうか、君はあのバル爺さんのお孫さんなのか。
マリア ええ……、でもお爺ちゃんには、ここ数年会ってないんです……。お爺ちゃん、大事な捜し物があるからって、ひとりで姿を消しちゃって……。お父さんもソラリスに捕まったままで、その後どうなったかもわからないのに……。

バルト だけどよ、全然元気そうだったぜ、あのクソじ……、あんたの爺さん。ありゃ、殺したってくたばるタマじゃねえな。心配いらねえって、おチビさん。

マリア わたしは、おチビさんではありません！！　それに、バルお爺ちゃんも、ク、クソ爺ぃなんかじゃない、ぜったい！！

バルト 悪かったよ。そう怒るなって、おチ……マリア。別に悪気はなかったんだ。謝るよ。ゴメン、ゴメン。

マリア ゴメンは、一度言えばわかります。とにかく……、ゼファー女王がお待ちです。あなた方は、エレベーターで先に上にあがっていて下さい。わたしは、ゼプツェンのチェックを済ませなくてはなりませんから。わたしが宮殿の方へご案内します。それまで街の方でも見てまわっていてください。それでは、また後ほど。

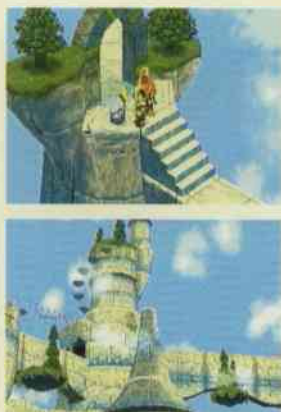
フェイ よし。それじゃ、上に出てみよう。

エリィ シェバト……。ソラリスに対抗する唯一の組織……。

バルト せっかくだから、さっきのチビ助が乗っかってたギアみたいなヤツ、2、30体もらって帰ろうぜ！

格納庫

マリア このゼプツェンは、父さんが開発したものです。ソラリスの研究所で……。わたしはまだ、五つになったばかりで、何が起こってるのかも理解してなかった……。あいつらは、わたしのことを盾にとって、嫌がる父さんに無理矢理研究を続けさせていたんです……。でも父さんは、わたしの前では、辛そうな顔や悲しそうな顔は決してしなかった……。いつもやさしく微笑んで……。大丈夫だよ、マリア、ゼプツェンがそばにいて、おまえを守ってくれるって……。5年前のあの日も父さんは、逃げ遅れたわたしをかばって、ひとり後に取り残されて……。父さんの声も、笑顔も……、どんどん遠く、小さくなって行く……。こんなことは決して起こらないと信じてた……。一生忘れないと、あの日心に誓ったのに……！　わたしと父さんとをつなぐ糸が、このゼプツェンだけになってしまうなんて……。でも……、父さんは、いつかきっと助け出す！　父さんの笑顔を取り戻してみせるから！　わたしとゼプツェンで、かならず……！！　かならず……！！　……。ごめんなさい……。ヘンな話を聞かせてしまって……。あなた方には、関係ない話でしたね……。

アウラ・エーベイル

おじいさん　ほう、下界からの客人とは珍しい。ようこそ、天空をさすらう街、アウラ・エーベイルに。ここは、ソラリスに敵対した独立自由国家シェバトのかつての首都じゃよ。昨日の涙を、明日の笑顔に変えるところ……。遥か昔には、この街もそう呼ばれていたものじゃが……。今では絶望も希望もとうの昔にすりきれ、風化し……、さまようとるのは、憎しみの木霊だけなのかも知れん……。お前さんたちの迷いや哀しみを断つ助けとなるものも、ここで見つかるかも知れん。じゃが、忘れるでないぞ。運命は、時にひどくイタズラで残酷になれるのじゃ……。それとじゃな、ほれ、そこに浮いとる石のプレート。こいつは飛び石と言うてな、人を乗せて動いてくれるのじゃ。上に乗っかって、石に話しかけてみるといい。お前さんたち3人くらい喜んで運んでくれるじゃろう。

空き家

フェイ　これは……！　ソラリスの連中にやられたのか……。

エリィ　………。

バルト　ちっ……！　くそったれどもが……！

エリィ　生命の奪い合いをしてるのね、わたしたち……。時に関係のない人達まで巻き込んで……。

バルト　ちくしょう……、あいつら！！　てめえが勝ちさえすりゃ、それでいいってのか！？　何がどうなろうと、気にならねえってのかよ？

フェイ　………。

マリア　人を傷つけてなんとも思わない人が、たくさんいるから、世界中に……。こちらにいたのですか。この家は、500年前の大戦で破壊されたのだとゼファー女王から聞きました。あえて当時のままに保存してあるのだそうです。大戦のことを忘れないために。お待たせしました。それでは、宮殿の方へいらして下さい。

フェイ　あ……。おい、ちょっと待ってくれ！

バルト　ちぇ……、愛想のないチビだな。

エリィ　さあ、それじゃ、王宮の方へ行ってみましょう。

マリア こちらです。

ワイズマン やっと来たか……。どこで道草をくっていたのだ。
フェイ あんたは……！？　どうして、ここに？
ワイズマン 以前話したであろうが。私は、お主の父カーンと共にシェバトで武術を学んだと、な。さあ、女王がお待ちだ、中に入るがいい。

●女王の間
ゼファー よくぞ、参られました。私がこのシェバトの女王、ゼファーです。
バルト よく来たって……なんだあ、まだ子供じゃねえかよ？
ゼファ このような姿ですが、実際私は522才になるのですよ。
フェイ 522才……！？　本当にそんなことが可能なのか……？
ゼファー ええ……、私や一部の家臣たちは、特殊な延命処置を施されているのです。生き長らえることを強要されたのです……。終末の日の訪れる、その時まで。ある男によって……。償いなのですよ、こうして生き続けることは……。500年前の悲劇の……。遠い昔の話は、やめましょう。あなた方のことは、ワイズマンからいろいろ聞いております。ワイズマンには、私の命で下界で行動してもらっていたのです。ある男の動きを監視してもらうために。また、もし地上に私たちの助けとなってくれるような方があれば、必ずシェバトにお連れするよう指示してあったのですが……。我らは500年前にソラリスと地上人の解放を賭けて戦い、その後も力及ばぬながらもずっと抵抗を続けて来たのです。地上人よ、どうか我らに力を貸して頂きたい。人を、ソラリスの支配から解き放つために……。真に自由で、平和な世界を築くために。
バルト ちっ、気に入らねえな。支配者からの独立、自由を勝ち取るための戦い。なるほど、たいそう立派な志だが、その実やろうとしてることは、ソラリスと同じだってんじゃねえのか？それにこっちも、アヴェをシャーカーンの野郎から奪い返すんで忙しいんだ。悪いが、そんなヒマねえな！
ゼファー フッ……あなたは、穏やかだったロニ・ファティマとは正反対な方ですね、バルト。それでいて、ロニに非常によく似ている……。あなたの言うことも、もっともかも知れませぬ。しかし、純粋に地上人の未来のため、我らが行動しているのは紛れもない事実。我らが信じられぬと言うなら、ソラリスを倒し、地上人の独立を勝ち得た後に、今一度共に天をいだくかどうか考えればよい。それに過去の因縁だの、国同士の確執だのと、小さなことにこだわっていて何とする？　もっと大きな目で世界を見なさい！
バルト う……。

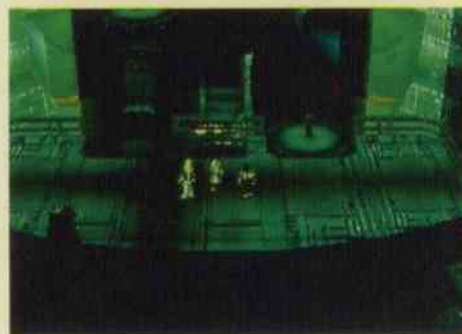
ゼファー　しばしこの宮殿で身を休め、よく考えてみるといいでしょう。いま自分が何をなすべきなのか。しかし、このところソラリスの動きが活発になって来ております。のんびりと構えている時間はありませぬよ。ことに、エリィ……。あなたは自分の両親、友人をも敵にしなくてはならぬのです。生半可な決意では、この先仲間たちの生死に関わる事態を引き起こすことになるやもしれませぬ……。
エリィ　………。はい……、承知しています。
ゼファー　ならば、結構。さあ、もう行って休みなさい。

●屋上

マリア　女王様とのお話はもう済んだのですか？　あなた方は、どうするつもりです……？　シェバトの人たちと共にソラリスと戦うのですか？誰もが、自分の生きてる理由を、戦う理由を探してる。死の褒をかくために……。ただしそれは自分の力で見つけて、自分のものにしなきゃいけない……。そうお爺ちゃんが言ってました。わたしにはよくわからないけど……。お爺ちゃんに連れられてこのシェバトに来てから、3年も経ってしまいました。お爺ちゃんも女王様もシェバトから出ちゃいけない、ひとりで勝手にソラリスへ行ってはダメだって……。わたしのゼプツェンならたとえどんなギアが相手でも負けはしないのに……。ぜったい……！　ソラリスのヤツらなんか、ゼプツェンでみんな踏みつぶして……、叩きつぶしてやるのに！！　どうしてお爺ちゃんも女王様も、わたしを止めるの？　父さんのことなんか、もうどうなってもかまわないの……？　見殺しにするの？　わたしは許さない、父さんを苦しめたヤツを、それを黙って見ていた人も……！　今こうしてる間にも、ソラリスで父さんは……。

●侵入者

ゼファー　決心は、つきましたか？
フェイ　心は決まった！
ゼファー　よろしい。では、
フェイ　む……！？　なんだ、今の衝撃は……！？
マリア　女王様ッ……！　今のは、まさか敵の……！？
――――　た、大変ですッ、女王様！！
ゼファー　何事です？
――――　はい！　それが……何者かがドック・エリアに侵入！　障壁<ゲート>発生機が爆破されました……！

フェイ　なんだって！？
ゼファー　被害状況は？
――――　は、はい！　子機が破壊されて……、障壁<ゲート>展開率、通常の70%にまで落ちています！　全力で消火、復旧作業にあたっておりますが……、いましばらく時間がかかりそうです！
ゼファー　侵入者はどうしました？
――――　はい、単独で潜入したと思われるゲブラー兵は、17格納庫方面へ逃れたもようです！

マリア　17格納庫！？　ゼプツェン……！！
ゼファー　待ちなさい、マリア！　あなたひとりでは危険です。
マリア　でも……、ソラリスのスパイを放っては……！
――――　女王様、シールド発生機の消火の方も、手一杯です。下手をすると、さらに被害が大きくなる可能性も……！
マリア　大丈夫です、わたしひとりで行きます……！！
ゼファー　ゼプツェンのないお前に、一体何ができると言うのですか、マリア？
マリア　………！　それは……。
フェイ　それなら、俺たちがマリアと一緒に降りようか？　ゲブラーのヤツらだろ？　あいつらには、こっちも頭に来てるんだ、相手になってやるよ。
ゼファー　………。お願いできますか、フェイ。マリアを頼みます。どうか、くれぐれも気をつけて。
フェイ　さあ、それじゃ行こうか、マリア。
マリア　それでは、あらためてよろしくお願いします、みなさん。
――――　あの……、誠に勝手ながら、できればお一人ここに残って女王様のおそばにいてもらえないでしょうか？　私たちはみな、実戦経験がないもので、その……。こんな時に、女王様にもしものことでもあると……。
フェイ　ああ、わかった。それじゃ、一人はここで待機することにしよう。

●エレベーター

マリア　ダメだわ。防御シャッターが閉じてしまっている……。
フェイ　格納庫におりるのに、別のルートはないのか？
マリア　非常用のシャフトを使えば下におりられると思いますが、普段使われていないので……。
フェイ　構わないよ。こんなとこでグズグズしてられないだろ？
バルト　そういうこった！　連中は、待っていちゃくれねーぜ。
マリア　はい、わかりました。シャフトの入り口は、このすぐ上です。

●格納庫

マリア　侵入者は、どこ……！？
――――　ふん、誰かと思えば……またお前たちか。ご苦労な事だよ。
フェイ　ドミニア！
ドミニア　逃げ込んだ先で、まさかゼプツェンに出くわすとは、な。ゼプツェンはもらってゆくぞ。元々こいつは、我らソラリスのものだからな。
フェイ　お前たちに、そいつを渡すわけにはいかないな！
ドミニア　ふん、ならば力ずくで止めてみな！　ん……？　そこにいるガキは……。おい、お前……、ニコラの娘か……？
マリア　確かにわたしはニコラの娘、マリア・バルタザールです！それが、どうかしましたか……？

ドミニア　なるほど……。お前が、ニコラが身を挺して逃がした愛娘ってわけか……。おい、小娘。面白い話を聞かせてやろうか？　そうだな……、ゼプツェンの呪われた秘密というのは、どうだ？

マリア　………！？　それは、どういう意味です？

ドミニア　さあ、どういう意味かな。話を聞きゃあおのずとわかるよ……この何十年というもの、うちの科学者どもは、より進化したギアを生み出すための研究に血道をあげてきた。どんなに優れたパイロットでも、人である以上、どうしてもマシンとのインターフェイスで時間差、誤差は生じる。そこで目をつけられたのが、おまえの親父、ニコラさ。ニコラは、脳神経機械学の天才で、な。連中はニコラに、人が人であることを超える道を模索させた……。人と機械の一体化によって。つまり生きた人間の脳とギアとをダイレクトに接続。新たな生命、最強の生体兵器を生み出そうってわけさ。まさに夢みたいな話だ。ニコラがいなかったらば、な。しかしあの天才は、その夢物語を現実のものにしちまった……。

マリア　ウソです！！　父さんが、そんなひどいこと……！！

ドミニア　私はウソはつかないよ、マリア。こいつは、真実だ。あんたの立派なお父様は、人と機械の融合に成功し、地上人にとっての地獄の門を開けちまったってわけさ。

マリア　………！！

ドミニア　無論、イグニスでの戦争、キスレブのバトリングによって得られた各種のデータ、素体が実験材料として利用された。そうして生み出されたのが、ヒト型特殊変異体ウェルスだ。ソラリスで創られたウェルスは、地上でテストされる。基準に合格したウェルスだけが解体、再構成され、生まれ変わる。ギアの中枢制御回路として……、機械の一部となって……。すべて、お前の親父の偉大な研究の成果だよ。その人機融合ギアの試作機が、このゼプツェンだ。つまり、ゼプツェンは星の数ほどの地上人どもの犠牲があって、はじめて完成をみたってわけなのさ。そして、ゼプツェンの神経回路には……

――――　そのくらいにしといちゃどうだい、ドミニア？

ドミニア　誰だ！？

ジェシー　どうして女ってのは、こうもおしゃべりなんだろうなあ？　いらねえことまで、ベラベラとしゃべりやがって、まったく……。

ドミニア　ジェサイア！？　貴様……！？　かつては次期ゲブラー総司令官とさえ目されていた貴様が、シェバトで何を！？

ジェシー　そう熱くなりなさんなって。美容によくないぜ、ドミニア。大人にゃ大人の事情ってもんがあるんだよ。ガキにゃわからねえだろうが、な。火遊びはここまで、だ。今日のとこは、このままおとなしく帰んな。ゼプツェンは、マリアじゃなきゃ動かせねえぜ。それくらいのことは、お前さんだって百も承知のはずだ。

ドミニア　ふん、バカ共め！　いきがるのも今のうちだ。パーティーはこれから、さ。だが、まあ、よかろう。今回の私の任務は、完了している。あとは……それじゃ、マリア、今日はこれで失礼する。楽しいダンス・パーティーを。くくくッ……！

フェイ　待てッ！　ドミニア！

マリア ………。父さん……。

フェイ なあ、マリア。気にするなよ…、あいつの言ったことなんか。

マリア ………。

フェイ ………！？　こいつは……？

ジェシー さあ、お客さんがおいでになさったようだ。上にあがろうぜ。ユグドラもドックに収容されてる。他の連中も、やきもきしてるこったろうぜ。しかし、どうもイヤな予感がしやがる……。まさかとは思うが、ヤツら……。

マリア ゼプツェン……。

●障壁<ゲート>防衛作戦

シタン ソラリスのギア部隊が急速でシェバトに接近中です。連中の狙いは、まず4つの障壁<ゲート>・ジェネレーターとみていいでしょう。ドミニアの破壊工作で出力の弱まっている今、一気にケリをつけてしまうつもりなのかもしれません。すでにこちらの迎撃部隊が緊急発進したそうですが、果たしてどこまで持つか……。シェバトの人間は、ギア戦には慣れていませんからね。無駄な犠牲は、極力出したくありません。

フェイ ああ……。わかってるよ、先生。俺達が出る！ 乗りかかった船だ。それに、ここの人たちをみすみす見殺しになんかできない。

バルト ただ働きはゴメンだが、しかし連中の前でしっぽを巻いて逃げ出すのはもっとゴメンだ！　やってやろうぜ！　どんなヤツらが来るにせよ、俺様のブリガンディアでぶっとばしてやらあ！！

エリィ ええ……！　私達にできることなら、ここの人たちを守りましょう！

リコ ちっ、お前らと知り合ってから、次から次へと、ろくなことがないな……。だが、ここまで来ちまったもんはどうこう言ってもしょうがない。連中に、リコ様を怒らすとどうなるか思い知らせてやろう。

ビリー ボクも行きます！　ユグドラシルを収容したために、敵の侵入を許したのでしょう？　ボクらのせいで、この国の人たちを危険な目にあわせるわけには、いきませんから……。

ジェシー おうおう、いいぞ！　頑張れ、若人！　しっかり頼むぜ。なにせ、俺様の命もかかってるんだ。まだ、こんなとこでくたばりたくねーからな。

ビリー うるさいな！　黙っててくれよ、親父は！

ジェシー へいへい、わかりやしたよ。ちぇ、かわいくねーな。

チュチュ よーし、チュチュもがんばるでチュよお！

フェイ ……？　がんばるでチュって……。なんで、チュチュがここにいるんだ？

エリィ それが、どうも……、ドサクサにまぎれて、ついて来ちゃったみたいなの。

フェイ まいったな……。遊びじゃないんだぞ。危ないから、ユグドラシルに戻ってろよ。な、チュチュ？　いい子だから。

チュチュ ふっふっふー、チュチュ、いい子しゃんじゃないでチュよ。もう、危ないお年頃なんでチュ。それにチュチュだって、ちゃんとがんばれるでチュ！　みんなと一緒にいるでチュよ。ね？　ね？

フェイ ちぇ、しょうがないな……。怖い目にあっても、知らないぞ。

マリア　くすっ、あなたもチュチュって言うのね。この街には、あなたの仲間がいっぱい住んでるわよ。後でわたしと一緒に会いに行きましょうよ？

チュチュ　ほ、ほんとでチュか？　みんなが、ここにいるでチュか？　わーい、ついに見つけたでチュ！！　チュチュの仲間、ちゃんといたでチュ！！　さあ、気合い入れて行くでチュよお。ガンバらなきゃ、ダメでチュからねえ、みなしゃん！

シタン　さて、それでは敵のギア部隊についてですが……。先程説明したように、4部隊が、それぞれ個別にジェネレーターをめざして接近中です。これらのギアに関しては、シェバトの得た情報から機体のタイプ、性能などある程度はわかるのですが……しかし、その後方に正体不明の巨大なギアが一機控えているのです。

ジェシー　正体不明の巨大なギアだと……？　まさか……。

ゼファー　いま、映像を出しましょう。

マリア　こ、これは……アハツェン……！？

バルト　なんだあ、この薄っ気味悪いギアは……？　お前、なんか知ってるのか、マリア？

マリア　アハツェンは……、父さんの設計したギアの2号機……。ゼプツェンの兄弟機なんです。でもまさか、アハツェンが完成されていたなんて……！　ゼプツェンの他にはもう二度とギアは造らないって、父さんは設計図を燃やしたはず……！　それが……どうして……！？

――――　聞くがいい！　シェバトの人間ども！

マリア　こ、この声は……まさか……、父さん！？

ニコラ　おもしろいネズミどもが、そこに逃げ込んだという話だな……。アハツェンのテストには丁度いい。シェバトもろとも叩き潰してやろう！　さあ、出てくるがいい、薄汚いネズミども、私のかわいいモルモット達よ。

マリア　そ、そんな……！！　どうして、父さんが……！？

ゼファー　落ち着きなさい、マリア！！　本当にあれにニコラ博士が乗っているとは限りません！

マリア　でも……！！　でも……、父さんの声が……！？

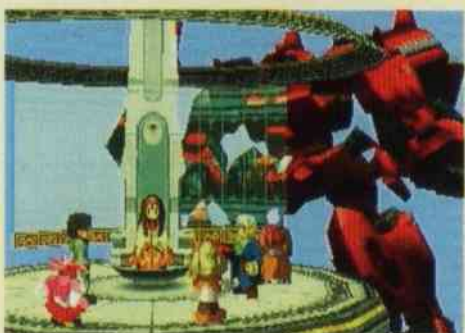
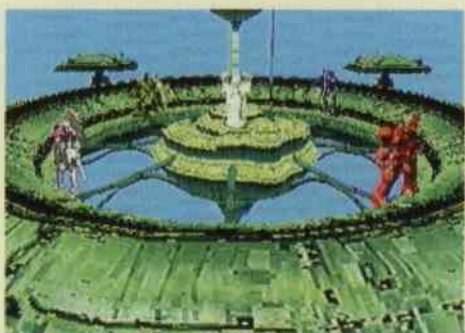
ゼファー　マリア！！　しっかりなさい！　あなたは戦う前から敗れるつもりですか……、あなた達親子を苦しめたソラリスに？

マリア　………！！　だけど………

シタン　さあ、いいですか。こちらの打つ手を考えましょう！　何としてもギア部隊を撃退して、ジェネレーターを守らなくてはなりません。そのためには、こちらも四手に分かれ、攻めてくる敵を迎え撃つのが得策でしょう。我々のうちの4人は出撃し、各自受け持ちのジェネレーターを単独で死守する！
残りの2人は、こちらで待機。危険ですが、後には引けません。ジェネレーターをひとつでも落としたら、もうこちらの負けですからね。

ゼファー　マリア……、あなたは、こちらで待機していなさい。

シタン　……。お願いします、マリアさん。

マリア　………。はい……、わかりました。

シタン　さてそれでは、具体的な敵の部隊編成についてですが……第1ジェネレーターには、小型のギア2機とソラリス兵部隊……。兵隊相手の戦いは、一気にケリをつけないと面倒かもしれません。第2ジェネレーターには、ホワイトナイトが3機ですね。こいつは、機動力が売りのギアです。つまり動きが素早いってことです。第3ジェネレーターには、大型機動ギアとホワイトナイト。この大型ギアは特殊攻撃主体のギアのようですから、気をつけて。第4ジェネレーターには、やはり大型機動ギアとホワイトナイト。こちらの大型ギアは、形状からしてパワー主体のヤツらしいですね。それでは、至急、出撃の準備を整えて下さい。よろしいですか？

フェイ　今すぐ出撃できる！

シタン　よろしい。では、ジェネレーターの防御に向かう者は、ギアで出発して下さい！

ゼファー　お願いします、みなさん。くれぐれも気をつけて。

●ジェネレーター

エリィ　あなたたちに恨みはないけど、もう私は引き返せないから！

バルト　さあ、どっからでもかかって来やがれ！　お前らごときにこのバルト様が、落とせるかってんだよ！！

フェイ　よし、やれる！　いつでも来い！

リコ　ふん！　みんなまとめて、ぶっとばす！！

シタン　さあ、来なさい。私が相手になりましょう！

ビリー　悪しき者どもを、心安らかに塵と化さしめたまえ。

●すべての戦闘に勝利

フェイ　やったぞ、みんな！　障壁<ゲート>・ジェネレーターは4つとも無事だ！

ジェシー　ようし、上出来だ。となると、残るは……こいつか。さあ、どう出る、アハツェンさんよ？　シェバトのギア部隊か……！！よせ！　お前らのかなう相手じゃねえ！！

マリア　やめてッ……！！

ジェシー　野郎ッ……！！　ふざけやがって！

マリア　どうして……？　どうして、こんな……？

ニコラ　それでは、次はこいつの実験台になってもらおうか。

マリア　きゃッ！？

ジェシー　む……！！

シタン　い、今のは……！？

ニコラ　アハツェンの新型兵器、対ギア用サイコ・ジャマーだ！

フェイ　………！？　ヴェルトールが動かない！？

エリィ　ヴィエルジェも反応しないわ！

バルト　ちくしょー、何だってんだ！？　ブリガンディアがうんとも、すんとも言わなくなっちまったぜ！

リコ　あの野郎のしわざか！？

シタン　強力な妨害電波で、ギアの神経回路が干渉を受けているのです。心配ありません、一時的なものです。ですが……

ニコラ　それだけの時間があれば、お前たちをこの地上から消去するには充分だ。人間とは、なんと不完全で、愚かな生命であることか……。お前たちに、完全なる生命の偉大さを見せてやろう！　人の知恵と、鋼の強さを備えた、このアハツェンの力を、な。

フェイ　このままじゃ、手も足も出ないぞ！　黙ってやられるしかないって言うのか！？

シタン　そうとも限りませんよ。ひょっとしたらゼプツェンなら……。

マリア　………！！

シタン　アハツェンと兄弟機のゼプツェンなら……ジャミングに対してのシールドが施されていても、不思議はありません。

ゼファー　………。お聞きなさい、マリア。他のギアが動けないとなればお前とゼプツェンが頼みの綱です。お前には酷ですが……、どうするかは自分自身で決めなさい。

ジェシー　それによ……、こんなことは言いたかねえんだが……あそこにいるのは、もうお前の親父さんじゃ……

マリア　やめてッ！！　利いた風なこと言わないでください！！　たとえ、そうでもわたしは……、わたしには……。

ジェシー　そうかい……、それも、仕方ねえや。腹をくくるか。

マリア　…………。ゴメンなさい……。

チュチュ　わたしが行くでチュよ。

マリア　………！？　何言ってるの、チュチュ！？

チュチュ　だって……このままじゃ、みんなやられちゃうでチュ。へっちゃらでチュよ。ちゃんと守り神しゃんが見てくれてるでチュ。チュチュ、行くでチュ。

マリア　チュチュ……！？　………。

●屋上

マリア　ダメよ、チュチュ！　いけないッ！

チュチュ　まかせといてくだしゃい、マリアしゃん。へっちゃらでチュよ！

ニコラ　なんだ、天文学的なほどに知能レベルの低そうな、この下等生物は……？

チュチュ　シツレイしちゃうでチュねえ。下等生物じゃないでチュ。チュチュでチュ。さあ、ほいじゃあ行くでチュよ、ワル玉しゃん！　このチュチュしゃまが、お空の向こうへちゅらり～んとぶっとばしてやるでチュから、カクゴするでチュよお！！　うきゃっ、やったでチュ～。でかでか変身できまチュた！

●アハツェンを相手に善戦するチュチュ

アハツェン　低級な下等動物の割には、よくやるな。

チュチュ　下等動物じゃないでチュ、チュチュでチュ。負けおしみはやめるでチュ。あやまるなら、いまのうちでチュよ。

アハツェンバカめ。死ね。

●本気を出したアハツェン

チュチュ　いたかったでチュ～

マリア　チュチュッ！！

ニコラ　なるほど……。お前、この星の巨大原生動物だな……。ランカーの幼体……じゃないな。学術名ドテスカチュチュボリン（知能レベル、天文学的に低い）か！　まだ絶滅してなかったのか。しかし、遺伝子操作で小型軽量化されていたはずだが……。シェバトの賢者どもにリミッターを外されたヤツの生き残りか。面白い……。モルモットとして、非常に価値のある生体だ。いろいろ実験してやろう！

ミドリ　お姉ちゃん……。

マリア　ミドリちゃん！？　ダメよ、こんなとこにいちゃ！！　危ないから中に……

ミドリ　呼んでる……、お父さん……。

マリア　えッ……？　………。

ミドリ　ううん……。ちがう……。あそこにいる……怖いヤツじゃ、ない。

マリア　………！！　ゼプツェン！！

●父·ニコラと戦う決意をしたマリア

マリア　ゼプツェン！！　ごめんなさい、遅くなってしまって……。行きましょう！　ソラリスの………ソラリスの……敵が、待ってる！！　ゼプツェン発進！！

ニコラ　ゼプツェン！！　マリアか。

マリア　………。たしかにわたしはマリア・バルタザール。だけど、あなたは……、あなたは……？

ニコラ　無論私だ、ニコラだよ！　見なさい、マリア、私の研究の成果を！　巨大で、力強く、永遠の輝きを放つこの体を！　もう老いも、死もない。私は、新たな種として生まれ変わったのだ。

マリア　………。わたしは人として生きていた頃の父さんが好きだった……。やさしそうに微笑んで……、いつも……、いつまでも……そばにいて欲しかった！！

ニコラ　マリア、お前は私の娘だ。人のバカさ加減は知っているだろう。愚かな人間どもと一緒に滅びることはない。さあ、来なさい、マリア。私とともに、新たな生命の1ページを開くのだ。輝かしい未来を築こう。約束するよ、今度こそ本当に、いつまでもお前のそばにいて、お前を守ってあげよう。

マリア　………。父さん……。………！！　ゼプツェン……！？

ニコラ　ゼプツェン……、貴様、創造主たる私にはむかうというのか？

マリア　こ、これは……！！　ゼプツェン！？

ニコラ　面白い……。相手になってやろう。ニコラの偉大さ、アハツェンの力を見せてやる。来い、ゼプツェン！？

マリア　……アハツェン！　あなたを倒します！！　ゼプツェン、行きます！！

●<ゼプツェン対アハツェン戦>

ニコラ　マリア……聞こえるか？　今から遠隔操作でそちらのグラビトン砲の封印を外す！　それで私を倒すんだ。

マリア　！！　お父さん！　正気に戻ったの！？　だめ、できません！！　グラビトン砲は、その破壊力ゆえにお父さん自身が封印されたのではないですか。そんなの使ったらお父さんは……

ニコラ 構わん！　撃て！　ニコラはもういない。ソラリスの洗脳を受ける前にアハツェンにはゼプツェンに共鳴して作動する良心回路を組み込んでおいた。このメッセージは、そこからのものだ。それに、戦闘中にそちらのゼプツェンに私のデータは全て転送した。体は失っても、心はゼプツェン、いやマリア、お前と共にある。これからもずっとな……

マリア ……だめ、私にはできません！！　はっ！　ゼプツェン！　やめて……制御できない！　お父さんが動かしているの！？　お願い、撃たせないで！！

マリア ……お父さーーーん！！

ニコラ マリア……私はお前と共にある。これからもずっとな……

マリア ………。父さん……。

●女王の間

ゼファー ありがとうございました、みなさん。ジェネレーターの修理も完了し、障壁<ゲート>も従来通り展開されています。それと、マリア……。よく頑張ってくれましたね。ニコラ博士のことは、本当に無念です…。博士をあそこまで追いやったソラリスを一日でも早く倒して、真の自由を取り戻さなくては。

マリア ………。はい。

フェイ ゼファー女王、俺たちもソラリス打倒のために共に戦うよ。しかし、そもそもソラリスは一体どこにあるんだ？　どうやったら、ソラリスへ行けるんだ？

ゼファー ソラリスは、3つのゲートによって人々の目からその姿を隠しているのです。ゲートのひとつは「教会」の地下にあるらしいのですが……、それがギアでも、とても下りられない深さなのです。残るふたつがどこにあるのかはまだわかっておりません。3つのゲートを破壊しない限り、ソラリスへの道は開けません。それと、先程気になる知らせが入りました。ニサンにアヴェの軍隊が侵攻したとのことです。

バルト なんだって……！？　シャーカーンの野郎！！

ゼファー 目的は、恐らくかの地に眠る、アヴェ王家の秘宝。ロニ・ファティマの封印したギア・バーラー！

バルト ちくしょう！！　こんなとこでグズグズしてられないぜ！　俺は行くぜ、ニサンに！　シャーカーンの野郎の好きにさせてたまるかッ！

フェイ そうだな。ニサンの人たちを見殺しにはできない。よし、まずはニサンへ急ごう！

ゼファー あなた方の艦には、飛行ユニットを取り付けておきました。もともとは、バルトの先祖、ロニの船で使用されていたものです。遠慮なく使ってください。

マリア あのう……、わたしもあなた方と一緒に連れていってもらえませんか？　もう、じっと待っているのはイヤなんです。動きたいんです、わたしも……、ゼプツェンも……！

ゼファー 私からもお願いします。フェイ、マリアを連れていってやってください。この子は、幼くして運命と戦わざるを得なくなってしまった。自分なりの決着がつかぬ限り、先へは進めないでしょう。行きなさい、マリア。生きる理由を自分の手で掴み取って来るのです。

フェイ　よし、わかったよ。一緒に行こう、マリア。今日からは俺たちの仲間だ、君と……、君のゼプツェンも。

マリア　はい！

ゼファー　賢者のひとり、ガスパールもこちらに戻って来ています。ガスパールはカーンやワイズマンに武術を指南した程の武人。彼ならば、今後あなた方の新たな力となりうる技の使い方を指南してくれるでしょう。ガスパールには、そのように言いつけておきましたので、出発前に彼に教えを乞うとよいでしょう。

フェイ　わかりました。さあそれじゃ、行こう、みんな！

●賢者帰還

ゼファー　よくぞ戻って来ました、ガスパール。バルタザールやメルキオールについては何か……？

ガスパール　いえ、彼らとはあれ以来一度も……。それに女王、私はかつての愚行を繰り返させぬよう監視に来たのです。

――――　女王様、地下のギア・バーラーが、き、起動しました……！！近くにあのエリィとかいう娘がいて、同調したようです！！

ゼファー　やはり……。

ワイズマン　当然でしょう。だが、あの娘は乗ろうとはしない……。"彼女"同様に。無意識の内にわかっているのですよ。自らに内在している存在のことを。

ゼファー　彼女も……ソフィアも同じだったのでしょうか？

ワイズマン　………。

ゼファー　……すみません。

ワイズマン　いえ、構いません。私は"彼"そのものではありませんから。

ガスパール　さて、それでは私は彼らの武術の腕の方でも見てやるとするかな。

フェイたちは、シェバトの武人、ガスパールによって、新たな技、超必殺の使い方を教わった。そうそう、それから……チュチュは、仲間との再会を果たし、互いの無事と脳天気さを喜びあった。当然のごとく宴がはられ、チュチュたちの甘く、危険な夜は、まるで醒めない夢のようにいつまでも続き…いや、やめておこう……。それはまた、別の物語だ……。

チュチュ　ありゃまー、ちょいと、どこ行くでチュか、フェイ、このチュチュしゃんを置いて？　チュチュは、この後もたとえ地の果て、アルデバラン。あんたしゃん達と一緒に行くでチュよ！乙女なチュチュの純情は、ほんと、一途なんでチュからね！うっふっふー。

●ユグドラシル3世・ブリッジ

バルト　我らがユグドラシルはシェバトの技術で生まれ変わった。この艦に"3世"の名を冠することにするっ！

シグルド　従来の操艦法とは若干異なるから君はまた勉強したまえ。

ビンゴ　はいっ！　がんばるっす！

ニサン法皇府

フェイ　（何か……街全体が静かだな）
バルト　（それに街の連中の姿が見えない）
ビリー　（避難場所があるって聞いたけどそっちは大丈夫なのか？）
バルト　（向こうはどうだった？）
シグルド　（街道付近の方も同様に静かです）
バルト　（……シグはどう思う？）
シグルド　（この様子ですと、なんとも言えませんな）
バルト　（すでに目当ての物を手に入れた後で数名を残して引き上げたのか……まだ探している最中なのか……いずれにせよ住民の安否を確認しないことにはこの場は引き下がれない。ところで、マルーはどうしてる）
シグルド　（見たところ、普段とお変わりありませんが、内心ではどうかと……）
バルト　（そうか。すまないな、シグ）
シグルド　（お任せ下さい。では、私は向こうの部隊の指揮をとります）
バルト　（ああ、気をつけてな。マルーの奴……船で待ってろって言ったのに）
フェイ　（きっと船で待っていても落ち着かなかったんじゃないかな）
バルト　（それはそうだが……まあここまで来ちまったもんはしょうがないか。さて……それじゃあ、行くか）
<対　シャーカーン私兵戦>

フェイ　よし！　市街地の兵士はこれで一掃したな。

フェイ達の力によってニサン法皇府はシャーカーン軍から解放された。だが、ファティマの碧玉とアヴェ王家に伝わる伝説の至宝は、依然として危機にさらされていた。そして、今まさにシャーカーンの次なる一手が下され、その姿が白日の元にさらされようとしていたのである。

シグルド　住民の姿はゼロ……か。

●議事堂にて

マルー　大丈夫？　シスター、ケガはない？
アグネス　私は大丈夫です。それよりもマルー様とバルト様に申し訳なくて……
シグルド　部下達を連れて付近一帯を捜索しましたが、住民は一人も発見できませんでした。
バルト　そうか。
アグネス　この前、みなさんが発たれた後……住民の半数以上の方が法皇府の外へ避難されました。その後、シャーカーン殿は国内における御自身の立場が危うくなってきたため……なりふり構わず、この地に攻めて来られたのです。
シタン　なるほど。政局における最後の逆転を図るために……
バルト　シスター、その街に残った連中はやはりあそこに……？
アグネス　ええ。大霊廟へ避難されました。
フェイ　霊廟……？　墓の中に避難したのか！？
マルー　歴代の教母様とアヴェの国王様がまつられているんだ。
バルト　と言っても、ただの墓とはちょっと違うがな。

アグネス　バルト様、そのことなのですが……シャーカーン殿はファティマの碧玉……そしてそれによって得られるファティマの至宝を狙っております。

シタン　至宝……？　至宝を狙ってこの地に攻め込んで来たとは一体……？

バルト　え？　ああ……実を言うと、ファティマの至宝は大霊廟の奥にあるんだ。親父の遺言もあったし、みんなには黙ってたんだが……

フェイ　至宝って……前にアジトで見せてもらったあの絵巻に描いてあるやつか？

バルト　そうだ。もしあの伝説に従えば奴は強大な力を手に入れる事になる。

シグルド　何としても食い止めなければ。

バルト　だが問題ないさ。碧玉ってのは……

アグネス　前教母様の網膜を使おうとしているのです。

バルト　な……なんだって！？

アグネス　亡くなられた前教母様の網膜を取り出して、それを使って封印を解こうとしてるのです。

バルト　マルーのお袋さんの亡きがらを使おうってのか！？

マルー　ママの……！？

アグネス　申し訳ありません。何ら罪のない住民や教団員を盾に取られ、致し方なく……以前マルー様から聞いた碧玉の正体とその使い方を……。本当に申し訳ございません。

バルト　そんな……人質取られてちゃあ当然だ！

シタン　ちょっと待って下さい。網膜……とは一体？

バルト　ファティマの碧玉は俺達王家の血筋の人間が持つトパーズブルーの瞳……つまり……網膜パターンの事なんだ。至宝の眠る場所に続く扉はそれによって開かれる……てぇ言い伝えさ。もっともそれを使った者はいない。争い事に使うべからず。扉を開く時は真の王国の危急の時のみ。だから俺も、親父も、爺さんも、その前の爺さんも使わなかったんだ。

シタン　それが碧玉の正体……。

バルト　くっそー！　あのハゲじじい、死者を冒涜する気か！？　元聖職者とは思えねぇぜ！

シタン　厳密には『教会』の人間は聖職者じゃありません。管理者です。

フェイ　そうだ。何も感じなくて当然さ。急ごうバルト！　霊廟が荒らされる前に！

バルト　よし！

シグルド　若！　ひとつ提案があります。

バルト　何だ？　シグ。

シグルド　現在、アヴェ国内はシャーカーンの暴走によって混乱しています。しかもゲブラー部隊がいなくなった今、中央を落とすのは容易いと思われます。再び王都の奪還を試みるには絶好の機会ではないでしょうか。

シタン　それはいい考えかも知れませんね。恐らくシャーカーンはアヴェ王家の至宝を最後の切り札と考えているはず。若くんが至宝があの男の手に渡るのを食い止めている間、別部隊で王都を取り戻す。そうなれば、その男はどこへも行くあてがなくなりますよ。

バルト　なるほど……よし、いいだろう。前回のかたを一気につけてやる！　二手に別れよう！　霊廟へは俺とフェイと……
ビリー　僕が行ってあげるよ。
バルト　よぉーし、これで決まりだ！　他のみんなはシグに協力してやってくれ！
マルー　ちょっと待って。ボクも行くよ！
バルト　ええ！？　お前は来なくて……ああ、そうか。すまないマルー。一緒に来てくれ。じゃあ、みんなよろしく頼むぜ！　今度こそ奴の息の根を止めてやる！
フェイ　それじゃあ、行こうか。その霊廟ってのはどこにあるんだ？
バルト　大聖堂の裏手の方に入り口があるんだ。まずはここの周りを一周している街道をつたって、裏側の方へ行かなくちゃならない。
ビリー　どれぐらいの距離があるんだ？
バルト　霊廟までは大した距離じゃない。だが、そこから先はわからん。
フェイ　バルトも中へ入ったことがないのか？
バルト　ああ……俺自身も霊廟から先の方へは入るのは、初めてだ。
マルー　何しろ、封印された場所だもんね。ボクだって奥の方は入ったことがないんだよ。
バルト　だから俺もマルーも詳しくは知らないんだ。シグ達も出発しちまったし。当分の間、船には戻れない。今は自分達だけで何とかするしかないな。
マルー　それじゃあ、ボクは先に入り口のとこへ行って待ってるよ。
バルト　俺達はもう少し準備を整えてから行く。入り口のところで待っていてくれないか。
マルー　わかった！

ニサン霊廟

バルト　お待たせ！
マルー　それじゃ入ろうか！

●霊廟内部へ

フェイ　大聖堂の裏手にこんな通路があったのか。
バルト　ああ。普段は閉ざされているんだけどな。
フェイ　この奥が霊廟なのか。
バルト　そうだ。万が一何らかの原因で街に危険が迫った場合、住民達は霊廟の中に避難する事になっているんだ。

●地下へと長い階段を下りる

バルト　着いたぜ。
フェイ　……で、どうなるんだ？
バルト　まあ、そうせかすなって。
フェイ　……まさか。
ビリー　どうすればいいか忘れたんじゃ……。

バルト　うるせえな黙ってろ！　……久し振りなんだからしょうがねえだろ。……ちきしょう本当に忘れちまった。
マルー　ボクが開けようか？
バルト　……た、頼む。おーっ、それだそれそれ！　いや、そうじゃないかと思った！　ハハハハ！
フェイ　(……こいつ大丈夫かな。なんか……先行きが不安だなあ)

●霊廟への扉が開き、内部へ
バルト　やはりここまで来てたか！
<対　シャーカーン私兵・僧兵戦>

――　坊ちゃん！？
――　バルトさんだ！　マルー様もいる！　おーいみんな！　もう大丈夫だぞ！
バルト　棺は！？　マルーのお袋さんは大丈夫か！？
マルー　大丈夫！　荒らされた様子はないよ。
バルト　ふう……そうか。よかった。みんなは……大丈夫なのか。
――　ええ。なんとか……
バルト　シャーカーンは……奴はどこへ行ったんだ！
――　ええっ、シャーカーンですか？　見ませんでしたけど……。ここへ来たのは、さっきの兵隊達だけで、“声をたてたら殺す”と脅されて……すいません坊ちゃん。私らが不甲斐ないばっかりに……。
バルト　まだ来てないのか……妙だな。
――　地上は……街はどうなってるんだ！？
バルト　上の方はもう片付けた。戻ってもいいぞ！
――　本当か！？　バルトさんあんた本当に強いな。街にちょくちょく来てたからあまり気にしてなかったけど、一体何者なんだ？
――　……！
バルト　みんな聞いてくれ！　俺は……俺の仲間が今ブレイダブリクに向かっている。その目的はシャーカーンを現政権から引きずり下ろす事だ。この国はもう一度やり直す必要がある。俺は、亡き先王からその仕事を受け継いで今までやってきた。上手くいけば、もうすぐそれが現実のものとなる。どうか、俺を信じて待っていてくれ。
――　シャーカーンをやっつけるっていうのか！？　それに……亡き先王って……あんたそれじゃ……
バルト　……。
――　さあ、街はもう安心だ。上に戻るぞ！　さあさあ荷物をまとめるんだ！　坊ちゃんくれぐれもお気を付けて！　大丈夫、坊ちゃんならきっと上手くやれますよ。上手くいったら……そんときは胸張ってみんなの前に現れて下さい。ファティマ城のテラスに立って下さい！　きっと成功させて下さいね。あたしゃ、応援してますよ！

バルト　何だかわかんないけどさっきは急にあんな言葉が出ちまった。ちきしょう、俺らしくもなかったな……。
マルー　“俺が王子だ”って言っちゃってもよかったのに。
バルト　いや、今はまだだめさ。親父の遺言を果たさないと。

●碧玉要塞内部へ

フェイ　……やけに暗いな。
バルト　ああ。普段は誰も来ないからな。動力は落とされているんだろう。
マルー　下の階は霊廟として使っているから、最低限の電力はいつでも使えるようになってるんだ。でもこっちの方はシスターでも入れないんだよ。
ビリー　……それでかな、なんかそのカビっぽいというか……
バルト　そりゃそうだろ。ほとんど誰も入ったことがないんだから。さあ、先を急ぐぞ！　シャーカーンが来る前に早く至宝を押さえとかなきゃ。
フェイ　大聖堂の天使像と同じ……これは……
バルト　これが王家の至宝へつながる扉だ。さてと、ファティマの碧玉の出番か……っと。俺のは一つ閉じてるんだった。
マルー　ボクがいるよ。
フェイ　これが……ファティマの碧玉。
バルト　ああ。シャーカーンの野郎はそれを王家に伝わる半身のペンダントの事と誤解してやがったんだよ。それならそれで都合がいいから黙ってたんだけどな。
フェイ　この先は一体……？
マルー　ここから先がいよいよ要塞の中心部だよ。今みたいに不思議な光にボク達の瞳を読ませると地上に姿を現すと言われてるんだ。アヴェの建国以前に造られたモノなんだって。さっ、行こっ！

バルト　計器類がたくさんあるな。
マルー　若が乗ってる船の操縦席とどっちが立派かな。
バルト　そりゃお前、俺の船の方が……。あ、いや……やっぱりご先祖様の手前、こっちの方が……。お前なあ、いじわるな質問するなよ。それに操縦席じゃない。ブリッジと言えブリッジと。
マルー　もー何だっていいじゃない。

●ギア・バーラー発見

ビリー　……これが！
フェイ　……なんとなく雰囲気がバルトのギアに似てるな。
バルト　あ？　ああ……そう言われてみると確かに……。でもまあ、俺のブリガンディアも元をたどれば、昔アヴェで造られた機体をカスタマイズしたやつだからな。何らかのつながりがあってもおかしくはないかもしれない。それはそうと……ここも非常灯以外、動力は来ていないみたいだな。
フェイ　このギアも……完全に灯が落ちてるな。駆動ユニットが封印されているのか……。
バルト　うーん。ここに何かあるのかもしれないな。……？　何か書いてあるな。明かりになるものを持ってないか？　これは……碑文が刻んであるな。旧ファティマ語だ。……御先祖だな。
マルー　何て書いてあるの？
『汝、ここを訪れる子らに幸あれかし災いの大きさを案じ我等かの遺産を封印するも裁断は汝等の腕に委ねるものなり』

●電源復旧

バルト　よし、これで動くぞ。

フェイ　次はどうやって外へ出すかだな。さっき……“瞳を読ませると地上に姿を現す”とか言ってたよな。ひょっとしてこの建物、移動できるんじゃないのか？

バルト　うーん、さっきのブリッジみたいな部屋が怪しいな。試してみよう！　親父、残念だがこいつを動かさなきゃいけなくなっちまった。悪いけど使わせてもらうぜ。

●ブリッジ

おやじさん　バルト様！

フェイ　あなたは確か……道具屋のおやじさん！？

バルト　大丈夫だったか。

おやじさん　ええ、あっしはかみさんと一緒に外の方へ逃げていたんですよ。

バルト　ところで、お前こんなところで何してるんだ！？

おやじさん　いやあ、街へ戻ったらバルト様が霊廟の奥へ入られたと聞いたもんですから……“これはいよいよ何かあるな！”なんて思いましてね。そしたら、居ても立ってもいられなくなっちまって……ここまで来てしまいました。

バルト　危ないから戻った方がいいぞ。

おやじさん　いやいや、ここまで来ちまった以上はもう戻れません！　あっしはここでバルト様のお手伝いをさせてもらいます！

●コントロールパネル操作

バルト　さてと……いっちょやってみるか！　ようし！　いけるぞぉーっ！

●要塞浮上

バルト　浮上完了！　さてと、お次は天井のドームを開けるぞ。……ん？　あれ？

フェイ　どうした？

バルト　え？　あ、いや、なんか動いてるから。

ビリー　君の巧みな船さばきのせいだろう？

バルト　い、いや違うんだよ。そうじゃなくて。なんか……押すとこ……間違えた。

●ビーム砲発射

バルト　……………………よーし成功！！

みんな　どこがぁ～っ！

バルト　へ？　何のこと！？

フェイ　とぼけるな！　一体何を動かしたんだ！？

バルト　……ああ……まあ確かに完璧な操作とは言えなかったかもしれないが……ま、大丈夫だろ？

ビリー　今のは……ビーム砲……

バルト 心配すんなって～！　この俺様がまぬけな事をすると思うか？　思わないだろぉ！？　あ、そーだ！　あれを見たまえ諸君！　もしや、あれに見えるはかのバベルタワーではないだろうかっ！？　なあ？　かあっこいいーだろー！！　このファティマの碧玉によって浮かび上がるスゴいやつ……名付けて<碧玉要塞>は、あんな遠いとこまで見通せるのだ。きっとさっきのビーム砲だってあそこまで届くに違いないぞ！　まー要するに俺は諸君らにこいつのスゴさをちょっとばかし見せてやろうと思ったのさ。どーだ、こんなすげえ大砲見たことないだろー。大砲って言ってもヴァンダーカムの奴なんかと一緒にしないでくれよー。こっちの方があいつの持ってるのよりも何倍も強力で、なおかつ何倍も洗練されているのだからなー。いっしょにすんなよー。なんてったって俺のご先祖様が代々守ってきた至宝が積まれているんだからなー。まあ言うなれば本物ってやつだ。そこんとこ忘れないでくれよなー。ということでまーとにかく、俺は何もへまはやっていない。さあ、さっさと至宝を持って帰るぞ！　そのためには天蓋のドアを開けないとな！　こっちの操作パネルではないという事は……あっちだ！

ビリー ………

フェイ （さっき"押すとこ間違えた"って言ってたじゃないか……！？）

バルト うーん、同じようなスイッチがいくつか並んでるなあ。ま、いいや、テキトーに押しちまえ。

フェイ おいおい！　ホントに大丈夫か！？

バルト さてと、さっそく至宝を表へ出してやるか。

―― ごくろうだったな、バルトロメイ殿下。わざわざ封印を解いてくれて。

バルト その声はシャーカーン！

●シャーカーン軍、天蓋より降下

バルト てめぇ、初めっからそれを！？

シャーカーン 当然だ。いくらなんでも、腐れた死人の網膜パターンで扉が開くわけがなかろう。そこで、敢えてその情報を流し、お前達が来るのを待っていたと言うわけだ。

バルト ちきしょう、どおりで姿を見せねえと思ったぜ！

シャーカーン 直情型のお前の事だ。間違いなく現れると踏んでいたが……まさか遺跡の封印まで解いてくれるとは思わなかったぞ。

バルト ……のやろう、ナメやがって！

シャーカーン この中はすでに私の兵士が占拠している。くやしかったら、ここまで来ることだな。ハハハハハハ！

●シャーカーンの元へ

バルト 次から次へと……しつこいやつらだぜ！

シャーカーン さすがはバルトロメイ殿下だがここから先は通さんぞ。

バルト 中央は潰滅したぜ。今更あがいて何をしようってんだ！　それよか、潔く殉死でもしたらどうだ？　その方がえせ聖職者の最期に相応しいぜ。

シャーカーン　『教会』と言ってもいろいろあってな、一枚岩ではないのだよ。それぞれ思惑があるのだ。中央が滅んだからといって私が敗北を認める必要はない。わしにはわしの目的がある。わしはその為にアヴェとゲブラーを利用させてもらっていたに過ぎないのだ。さて、これで至宝はわしのもの。おとなしくしていてもらおうか。

バルト　……くそ！　マルー！

●マルー逃げる

シャーカーン　追え！　ふん……ギア・バーラーを守ろうとでもいうのか。小娘ひとりに何が出来る！　自ら火の中に飛び込むとは、馬鹿な者よ！　今日こそかたをつけてやる！　わしをさんざん馬鹿にしおったあの小生意気な娘もろとも闇に葬り去ってくれるわ。

バルト　ちきしょう……てめえらどきやがれ！

――――　そこまでだ！

バルト　シグ！　お前、何でここに！？

ビリー　先生！

シグルド　王都制圧はメイソン卿に任せてきました。私達は貴方達が心配で戻ってきたのです。シャーカーン、ブレイダブリクが我らの手に還るのも時間の問題だ。もはや、この世界で貴公の行く先はないぞ。

シャーカーン　むう……安心するのはまだ早いぞ！　マルーは今我らの手の内にあるも同然。ひとまず、この場はあの娘に再び人質になってもらおうか。ギア・バーラーを頂いていくまでのな。

バルト　待て！

●碧玉のロック

バルト　ああっ！　俺にはファティマの碧玉が一つっきゃねえ！

シグルド　落ち着いて、若！

バルト　シグ……俺はどうしたらいいんだ！？

シグルド　無事な方の目を光にかざして！　もう片方は私がやります！

バルト　……なんだって？

シグルド　いいから早く！

●ロック解除

バルト　よしっ！　ロックが外れた。……？　シグ……なぜお前の目が反応する！？

シグルド　さあ時間がありません！　マルー様のところへ行きましょう！

バルト　……？

●エネルギー区画

バルト　マルー！　どこにいるんだ！？

シャーカーン　ええい、一体何を手間どっておるのだ！

――――　しかし……相手はギア・バーラー……。

シャーカーン　ばかもの！　乗っているのは小娘だぞ！　何が出来るというのだ！　さっさと取り押さえんか！

バルト　マルー……あの中に……！

フェイ　とにかく行ってみよう！

●ギア・バーラーの部屋

バルト　マルー！？　まさか……あれを動かしてるのか！？

●シャーカーン私兵の銃撃

バルト　……くそ！

●ギア・バーラーコクピット

バルト　大丈夫か！？
マルー　足…撃たれちゃった。へへへ……また迷惑かけちゃったかも。
バルト　馬鹿野郎！　なんでこんな無茶な事したんだ！？
マルー　だって……こんなことぐらいしか、若のためにしてやれることないんだもん。
バルト　……馬鹿野郎。馬鹿だよ！　大馬鹿野郎だ、お前は！
マルー　……へへへ。
バルト　……動けるか？
マルー　うん……何とか。
シャーカーン　多少の損傷ならば後で改修すれば済む！　コクピットを狙え！
バルト　しまった！　今外に出たら危ない。我慢できるか！？
マルー　ボクの事は気にしないで。
バルト　……ちきしょう！　な、なんだこれ！？　コントロールスティックがないぞ！？　どうやって動かすんだ！？
シグルド　若、大丈夫ですか！？
バルト　……シグか！？　お前、知らないか？　こいつの動かし方
シグルド　……どういうことですか！？
バルト　コントローラがねえんだよ！　どうしたらいいんだ！？

●敵ギアのビーム攻撃

バルト　うわあああああ！
シャーカーン　ええい、しぶとい奴め！
バルト　な、なんだ！？　どうやって動いたんだ！？
シタン　わかったぞ！　若くん、考えるんです！
バルト　その声……先生か！？
シタン　恐らく、そのギア・バーラーは機械的な操作ではなく精神的な操作で動かすに違いありません。エリィと反応したシェバトのギア・バーラーのことを思い出して下さい。
バルト　……しかし……
シタン　マルーさんがそれを動かしたのもきっと同じです。若くんはギアの動きをイメージすればいいんです。そうすればそのギアは若くんのイメージした一挙手一投足に反応して動くはずです。
バルト　……よおし。そうとなれば話は早いぜ！
シャーカーン　おのれ小僧！
フェイ　俺達も行こう！
ビリー　ああ！
<対　エトーン改戦>
シャーカーン　ええい、もう少しのところで！
バルト　あ！　てめえ待ちやがれ！

●シャーカーン逃走

バルト　あの野郎逃がさねえぞ！

シタン　待って下さい若くん！　マルーさんは大丈夫なんですか？

バルト　あ……そうだった！　おいマルー大丈夫……マルー！　おいマルーしっかりしろ！！　マルー！

シタン　幸い弾は貫通しています。応急処置だけはしておきました。あとは街へ戻ってきちんとした治療をしてもらいましょう。

バルト　そうか……とにかくよかった。気を失ったときはどうなるかと思ったぜ。

マルー　……若。

バルト　……大丈夫か？

マルー　……うん。でもね、気を失った後もずっと若の声だけは聞こえてたんだ。すごく不思議だけど……若の必死の声は届いてたの。だから、ボクも若の力にならなきゃって思って……。

バルト　……そうか。俺はお前に守ってもらったんだな。一緒に、戦ってたんだな。しかし、本当にこれが建国の絵巻にあった、伝説のギアなのか？　乗った感じとしてはブリガンディアより少々パワーが上がったようにしか見えないが……。

シタン　恐らくは……操作系と同じで出力系や武器も搭乗者の精神波の強さに比例して増大していくのでしょう。だとすれば、ギアとの精神接合を極めなければ、その本当の力は引き出せないということですね。先程、マルーさんが一人で乗ったときは必死になってあなたの力になろうとしていた……その気持ちの強さがギアを動かしたのです。

バルト　乗り慣れないとダメってことか？

シタン　そうなります。

バルト　ちぇっ。折角手に入れたのに……。

シタン　まぁ、いいじゃないですか。過去、この機体のもとになったもの『アニマの器』を巡って地上とソラリスの間で戦いが繰り広げられたことは事実なんです。現在もソラリスや『教会』がそれを求めている。彼等の手に渡らなかっただけでも良しとしなくては。いずれはその真の力を解放出来ますって。貴方はその力を正しい方向に使えば良いだけのことですよ。

●仮アジト

バルト　しばらくは安静だ。まぁ、たまにはおとなしくしてることだな。

マルー　たまにはってどういう意味！？

バルト　だからそう興奮するなってーの。ハッハッハ！

マルー　もーいじわる！

――――　シグルド様！

シグルド　………よし、わかった。メイソン卿には、もうしばらくこちらにいると伝えてくれ。

――――　わかりました！

シグルド　ブレイダブリクにいる部隊から連絡がありました。あちらの方は順調に作戦を展開。ファティマ城に入城したとのことです。シャーカーンが私室として使っていた、城の最上階を調べています。それともう一つ、近くに停泊していたユグドラシルのレーダーが、数機のギアの機影を捉えたとのことです。

バルト　シャーカーンだな！

シグルド　間違いないでしょう。しかし、そのギアは王都付近まで来て、そのままこちらの方角へ引き返したそうです。

フェイ　あいつ、王都の周辺でも旗色が悪いとみて逃げ出したな。

バルト　ああ。だが、こっちに戻ってるっていうのが気になるな。

フェイ　何があるんだろう……？

シグルド　そのことですが王都からの報告ですと……例の、障壁＜ゲート＞がこの近辺にあるのではないかということです。

フェイ　障壁＜ゲート＞だって！？

シタン　どこです？

シグルド　このニサンから西へまっすぐ行ったところだ。若、あそこに大きな洞窟があるのをご存知ですか？

バルト　洞窟……ああ、この大陸の西側か。海に近いところだな。俺の記憶じゃ、ギアが歩けるくらいのデカい穴だったような気がする。

シグルド　そこです。先の報告によるとあの洞窟の奥に大規模な建造物が存在する証拠を掴んだということです。

フェイ　シャーカーンはそこへ向かったのか……。どうする？

バルト　行くしかないだろ！

フェイ　よし！

シグルド　私はしばらくここにいて王都からの追加情報を待ちます。

マルー　気をつけてね。

アグネス　マルー様とバルト様……お二人が仲良くしていらっしゃる姿を見ていると私はうれしくなります。

マルー　やめてよシスター！　また変な事言おうとしてるでしょ！

アグネス　変な事ではありませんよ。古よりニサン教の教母様とアヴェの国王であられる方とは……

マルー　あー！　もういいの、その話は……あ……！　いたたた！

バルト　だから、おとなしくしてろっつーの。

マルー　もー！　いじわる！

シタン　障壁＜ゲート＞かあ！　ぜひこの目で見たいとは思いますがまぁでも今回は……遠慮しておきましょう。まだ二つ残っていることだし……。それに、事態が完全には掴めていない以上、我々は念のためここに残ってマルーさん達をお守りした方がいいでしょう。

バルト　わかった。後は頼んだぜ！

シグルド　シャーカーン達が向かった洞窟はニサンからほぼまっすぐ西へ行ったところです。大きな洞窟で、ギア部隊の残党が待ち構えている可能性があります。

バルト なんだありゃ！？　あんな穴、前に来た時にはなかったぜ。

●行く手を遮る敵ギア

フェイ さっきの生き残りか！
<対　エトーン改戦>

フェイ 今の連中、俺達を待ち伏せしてたように見えたぞ。

マリア 罠ではないでしょうか。

バルト どっちにしろ行くまでさ！　ここで奴を見逃したらそれこそ末代までの恥だぜ！

●イグニスゲート

フェイ これが……ゲート発生器！？

バルト あの野郎……アヴェの玉座に座りながらこいつも動かしてたのか。

シャーカーン その通り。貴様らがゲートの存在を知っていたとは、なかなか興味深いな。そもそもソラリスと地上を分かつゲートの管理は『教会』が担っていたのだ。最初はこれが何なのかも知らされずに管理するだけだった。だが、長年にわたる我等『教会』独自の研究により、その原理が解明され……その利用方法が編み出された。我等がソラリスから独立する為の一助としてな。これにはこういう使い方もあるのだ！

バルト こいつ！　最初からこれが目的だったのか。

フェイ 奴はこの空洞へ逃げて来たんじゃない！ 最初からゲート発生器のエネルギーが目的だったんだ！

マリア ？？？

シャーカーン バカな！？　そんなことが！？　このギアはゲートのエネルギーを利用することによって限界値以上の出力を引き出せる特別な機体！　設計上はなんの問題もなかったはずだ。何故だ！？　何故動かんのだっ！

バルト なんだなんだ失敗かぁ？やれやれ、こんな間抜けな野郎にはめられたと聞けば、俺のおやじもあの世で泣いてることだろうよ。

シャーカーン もともとこんなものなど必要ないわ！　わしの力だけで貴様を葬り去ってくれる！

―――― うぬは、力が欲しくないか？

シャーカーン な、何やつ！

バルト またあいつか！？

フェイ どこから入ってきたんだ！？

グラーフ 我はグラーフ。力の求道者。うぬは、力が欲しくないか？

シャーカーン 力？　何の力だというのだ！？　わしにはゲートのエネルギーがある！　この機体が動きさえすれば！！

グラーフ 所詮は、うわべの力。至らぬ知恵の創りし道具。果たして、それで勝てるかな？

シャーカーン 何と？　うわべの力だと？

グラーフ 地上人の少々の小賢さなど、真の力の前には無力。我が真の力を与えてやろう！　我の拳は神の息吹！　“墜ちたる種子”を開花させ、秘めたる力をつむぎ出す！！　美しき滅びの母の力を！

シャーカーン ぎにゅうぁぁぁあ……
<対　シャーカーン戦>

シャーカーン ば、ばかな！　このわしが！
バルト シャーカーン！！　お前が12年前、余計な欲をかかなきゃ、マルーは家族を失わなくても……厳しい砂漠暮らしをしなくても済んだんだ！！
シャーカーン 玉座に生まれた甘ったれが何を！！
バルト そんなもんが欲しけりゃくれてやらぁ！　王者ってのはなあ、一番重い荷物を背負い込む割に合わない商売なんだよ！　そんな事も知らねえのかこの三下が！！
シャーカーン うおおおお！！
フェイ 障壁<ゲート>に火が……！？

●イグニスゲート消滅

ファティマ城

バルト フェイ、俺が誰だろうとお前は友達だよな。シグ……お前は俺が何をしても、変わらないでいるか？
メイソン 若、どうなされた……？
バルト いや……頼まれ事は果たさなくちゃな。アヴェ国民諸君、私は第18代アヴェ国王エドバルト4世の息子バルトロメイ・ファティマ、第19代アヴェ国王である。止むを得ぬ状況の下、長年王城を離れ国民諸君には苦労をかけた事をまずは謝罪したい。キスレブとの戦役で家族を亡くされた方々には特に申し訳なく思っている。まずは早急にキスレブとの間に休戦をなし、両国犠牲者の補償を開始する。徴兵され各地に派遣された市民もいずれ家族の元に帰ることができる。力を合わせてアヴェの復興を成し遂げよう。……もう一つ重大な知らせがある。誰よりもアヴェの平和を願った前王エドバルト4世の遺志によって宣言する。第19代アヴェ国王、バルトロメイ・ファティマの命により……本日をもって王制を廃し、アヴェ全土を共和国家とする！
シグルド 若……。
メイソン これは一体……。
バルト これが、俺が親父から受けた遺言だ。二人とも、俺の王位の為に長年頑張ってくれたのにゴメンな。俺はもう王でもなんでもない。お前達は自由だぜ。
メイソン なにをおっしゃる……。
シグルド 甘いな。
メイソン シグルド殿？

シグルド　窓の外の大歓声が聞こえないか？　民衆が新しい当主に選ぶのは君だ。今まで以上に忙しくなるぞ。
バルト　シグ……。

●真夜中のファティマ城

メイソン　おや、これは若。まだお休みではありませなんだか？
バルト　爺、一つ聞きたい事がある。
メイソン　何でございましょう？
バルト　シグルドは、どういう生まれだ？
メイソン　若、それは……。
バルト　あいつの目はブルー……。ファティマの碧玉だ。
メイソン　……うむぅ……では、昔話をいたしましょう。まだ私めと陛下が若い時分……まだ若の御母堂を知られる遥か前、陛下はある御方と恋仲でいらした。アヴェ東方の異教の娘……ニサンとも『教会』とも違う小さな慎ましやかな教団の娘御で、それはおきれいな方でしてな。ある時を境にふっつりと姿を隠してしまわれたのだが、噂ではその直後にお子を持たれたとか持たれないとか……。
バルト　姿を消した？　親父が捨てたのか？
メイソン　いえ、私の知る限りでは、逆に陛下の方が捨てられたということでした。
バルト　シグはアヴェ東方の砂漠の出だ……。
メイソン　いかにも。10歳の年にエドバルト陛下付きの騎士見習いに上がられたのでしたな。

●テラス

シグルド　若ですか……。
バルト　やぁ。なんか寝られねえよな。
シグルド　いろんな事が一度にありましたからね。
バルト　なぁシグ……お前の母さんってどんな人だった？
シグルド　……まだ私が小さい時に亡くしましたが、何か？
バルト　想い出す事って、あるか？　どんな人だった？
シグルド　そうですね……母は優しい人で……ただ、生まれた時に医者から短命だと知らされていたそうです。ずっとそれを恐れて生きていました。そのせいで、好きな相手ができた時も死に別れる怖さに自分から身を引いたそうです。もっとも、あとあと最後まで共に過ごせばよかったと悔やんでいましたが……。
バルト　お前の親父さんは？
シグルド　私が生まれた事は知らないはずです。けど知らないなりに、実の息子のようによくしてもらいました。
バルト　なぜ親父さんに、言ってやらなかったんだ？　自分は息子だって。
シグルド　母が隠したかったのなら、そうしておきたかったのです。
バルト　今日の宣言にあった親父の遺言には続きがあるんだ。お前が得た物は、兄と分かち合いなさい。お前と兄が得たものは、すべての民と分かち合いなさい……ってさ。
シグルド　！
バルト　ずっと、何の事なんだか不思議だった。それを言っておきたくってさ……おやすみ！

●一夜明け、大広間にて

バルト　みんなのおかげでシャーカーンとゲブラーからアヴェを取り戻す事ができた。ありがとう。他の地域をゲブラー、ソラリスから取り戻すには残り二つのゲートを破壊してソラリスを表に引きずり出さなくちゃいけない。そしてシャーカーンの持っていた文書を解読した結果、どうやらゲートの位置は正三角形の頂点をなしているらしい。一つ目の頂点は大霊廟の所にあった。残りの頂点は二つだが……一つの場所はわかってるんだよな？

シタン　ええ、『教会』本部の地下です。しかし……

ビリー　ストーンを追って『教会』本部の地下に入った時には、そんなものはありませんでした。あるとすれば……さらに奥深くの地中に埋められているとしか……

リコ　そんなのどうやって破壊すりゃいいってんだ！

チュチュ　みんなのギアの力を合わせるのでチュ。

リコ　みんなのギアでどうするってんだ？　まさか穴を掘るってんじゃないだろうな。

チュチュ　ダメでチュか？

シグルド　……数年はかかりそうだな。

フェイ　シェバトの砲を使えばいいんじゃないかな……。

マリア　それが効くくらいなら、既にやっています。

フェイ　……そうか……。

シタン　すると、シェバトの砲よりも強力な火力が必要となるわけですね。

エリィ　そんなの、ゲブラーの戦艦でも持ってないわ。

フェイ　そんなに強力な武器が地上にあるのかな？

シタン　ゲブラーの戦艦やシェバトの砲が人類が今までに作った武器で一番火力があるものですからね……。

バルト　……何か……どこかで見た気がするんだけどな……

シグルド　何をですか？

バルト　その二つに匹敵するような火力を持った武器……あ！　あれだ！　碧玉要塞だよ！　あいつの砲は山一つぶっ飛ばしたぜ！　あれならいけるんじゃないか？　なんだよ、先生。

シタン　碧玉の火力がいくら強くてもどうやって『教会』本部の地下を狙うのです？　地下深くに存在するものにダメージを与えるには真上から攻撃しなければいけません。しかし、碧玉の砲台は……

シグルド　確かに……

リコ　するってえと、何だ。碧玉要塞をバベルの頂上まで持ち上げなきゃいけないのか？

ビリー　そういえばバベルの頂上なら『教会』本部からは見上げる形になりますね。あの位置からの攻撃なら地下に届くかもしれません。

シグルド　しかし、どうやって碧玉要塞を……

エリィ　無理だわ。あんな重い物を……

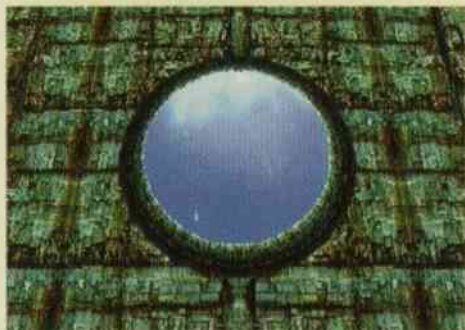
フェイ　！　バベルにあった操作室。あれは砲台か何かの操作室じゃないのか？　あの時は外側についてたでっかい鏡を動かすんだと思ったけど……。

バルト　マリア、そんなものがあるのか？

マリア　そういった話は聞いた事がありませんが……
フェイ　でも、あるかもしれない。探してみよう。
バルト　そうするか……
シタン　！　ちょっと待ってください……古代遺跡の巨大な鏡と同じく古代遺跡の巨大な砲台…………これは、何かありますよ。
バルト　何かって……？
シタン　ああ……、これで謎が解けました……。
シグルド　謎？　謎って何の謎だ？
シタン　バベルと碧玉……この二つの遺跡は同じ文明によるものです。我々よりも進んだ科学を持った……あの二つの建造物はよく似た雰囲気を持っているじゃないですか。それにどちらもギアの使用や強力な外敵を想定して作られています。
フェイ　ああ、それは気付いたよ。でも、だから何だっていうんだい？
シタン　つまり、バベルの巨大な鏡を作った人は、碧玉の巨大な砲台の事を知っていたということです。
バルト　それで……？　もったいつけずに話してくれよ。
シタン　あの鏡は碧玉の砲台から発射されたビームを反射するために作られたと考えるべきでしょう。
フェイ　反射？　あの鏡はビームを弾き返す事ができるっていうのかい？
シタン　ええ。
リコ　大昔にバベルと碧玉はお互いに戦争をしてたってことだな。
シタン　違います。バベルの鏡と碧玉の砲台は二つ合わせて一つの兵器なんです。
リコ　なんだって！？
エリィ　そんな……、あんなに遠くにあるものが一つの兵器だなんて……。
シタン　おや、ゲート発生装置もあれだけ離れていて一つの装置じゃないですか？
エリィ　……ええ、そういえばその通りだけど……。
ビリー　一体、何のための兵器なんでしょう？
シタン　さあ、それはわかりません。
バルト　そんな事はどうでもいいさ。結局、その二つで一つの兵器をどう使えばいいんだ？
シタン　碧玉の砲台であの鏡を狙ってビームを発射。鏡でビームを反射してゲートに当てるのです。
バルト　！
マリア　そんなことが、本当にできるの？
シタン　原理的には可能なはずです。微妙な調整は必要ですが……。
シグルド　鏡の方の調整が微妙だな。
シタン　二つが本来一つの兵器ならそんなに大変ではないはずですよ。むしろ……
リコ　だけどヤバイ仕事だぜ。敵が弾を撃つのを待って相手に弾き返すようなもんだろ。一歩間違えれば自分に当たっちまう。
シタン　ええ、その意味では砲台の方が大変です。必ず鏡に命中させなくてはいけませんから。二手に分かれる必要がありますね。片方は碧玉の砲台からビームを発射するチーム。もう一方は反射されたビームが『教会』本部に命中するように鏡の角度を調整するチームです。言い出したのは私ですから、危険な方、鏡の調整は私がやることにします。

シグルド そうだな、ヒュウガ、お前に任せる。お前好みの仕事みたいだからな。
フェイ 俺も行くよ。先生一人じゃ心配だからね。
エリィ 私も行くわ。先生もフェイだけじゃ心細いでしょうから。
シグルド じゃあ、バベルの方は三人に任せるとして、問題は砲台の方だが……
ビリー 僕がやります。それは僕好みの仕事みたいですから。大丈夫、外しませんよ。だてに銃を扱ってません。
バルト 碧玉なら俺も行った方がいいだろうな。
チュチュ チュチュも行くでチュ。
バルト よし、決まった。先生たちはバベルの鍵を操作して『教会』本部を狙う。俺たちは碧玉の砲台を操作して鍵を狙う。さっそくユグドラに戻って作戦開始だ！

ガゼル法院

―――― シェバトとの接触を許すとは……。
―――― シェバトだけではない。イグニスでの損失、タムズでの敗退。そう、エルルも確かお前が……。
―――― 相も変わらず役に立たぬ奴だな……。
―――― 所詮は出来損ないか……。
―――― “塵”……。
ラムサス き、貴様っ！　今何と言った！
―――― ふん。事実であろう。
―――― それに何かなその態度は……。主には忠義を尽くしてもらいたいものだな。
ラムサス 俺を、この俺を！　“塵”と馬鹿にするか！　貴様ぁーーっ！　ぐ、ぐあっ。
ミァン お静まり下さい、閣下！　お体に障ります。まだ先の戦闘での負傷が完治していないのですよ！　閣下！
―――― まあ、よい。
―――― ラムズ達は恐らくゲートの破壊に向かうはずだ。今度こそ……。
―――― その“本来の力”見せてもらいたいものだな。
―――― 貴様が“塵”でないというのであればな……。
ラムサス ミァン……艦を発進させろ…奴のもとに……私が…出る……今度こそ……奴をしとめてみせる……。
ミァン 閣下、そのお体では無理です！
ケルビナ その任、我々にお任せ願えませんでしょうか？　閣下。
ミァン あなた達が？
ドミニア 必ず、閣下の御期待に沿うよう、尽力いたします。
ケルビナ ですから、閣下は一刻も早くそのお体を……。
ドミニア 我等の理想の実現のために。
ケルビナ では、参ります。

フェイ　先生……。鏡って言うのは？

シタン　上を見てみなさい。あれが反射鏡です。碧玉要塞からのビーム砲をあれで反射させてゲートを破壊します。さあ、妨害がないうちに、反射鏡のコントロールルームへ急ぎましょう。

●ユグドラシル

ビリー　では我々の方も出発するとしましょう。

●反射鏡コントロールルーム

シタン　私が反射鏡を操作しますから、あなた達は敵の進入を、防いで下さい。

フェイ　大丈夫なのかよ、先生……。

シタン　やるしかないでしょう。では、頼みましたよ。

フェイ　よし！　こっちも行くぜ。

シタン　ビリー、ビリー、聞こえますか？　こちらの準備は整いました。作戦開始です。

●ドミニア・ケルビナ現る

フェイ　お前は……ドミニアか！？　まさか、俺達の作戦が読まれていたってのか！？

ドミニア　当然だ。イグニスに浮上した太古の機動砲台。それと対の兵器であるこのバベルのリフレクター。大方、この二つを使って『教会』地下のゲート発生器を破壊しようという魂胆だろうが、やらせはしない。

ケルビナ　閣下の名誉、そして我等エレメンツの誇りに賭けて、断固阻止させてもらいます！

ドミニア　行くぞ！！

＜対　ブレードガッシュ・マリンバッシャー戦＞

●碧玉要塞・ブリッジ

ビリー　それじゃ、早速準備を開始しよう。

バルト　さて、発射できるようになるまで、もう少し時間がかかりそうだな。先生の方は上手く行ってるんだろうか。

マリア　レーダーに反応あり！　大きさ等からいってギアだと思われます。

●要塞上空

セラフィータ　トロネちゃん、トロネちゃん！！　いた、いたちゃぁあんといたぁ！

トロネ　一回言やぁ、わかる。ふうん、ホントにやる気だったんだ。大型レーザの反射鏡攻撃なんておバカな事。

セラフィータ　ナナメけんすいが巨大だから、むずかしんだよね！！！　ちなみにセラフィーは、けんすい300回できちゃうぞぉ！

トロネ　ナナメ……？　……もしかして、"減衰率"の事か……？　確かに大気中での減衰率は大きいな。

バルト やはり来たな。
ビリー ああ、せっかくもう少しで発射できそうなのに！
バルト 外に出て応戦するぞ！　ビリー、大丈夫か？
ビリー やるしかないだろう！
バルト よし、俺達が食い止めてる間になんとかして発射するんだ！頼んだぜ！
ビリー 任せてくれ！

トロネ ふん、まさかこんな下らない作戦を本当に考えるとはね。
セラフィータ ……とはねー！！
バルト へっ！　そんなもんやってみなきゃわかんねえだろうが。
トロネ そうやって意気がっていられるのも今のうちだね。バベルタワーは今ごろドミニアとケルビナが片づけてくれてるはずさ。お前達もさっさと仲間のところへ行っちまうがいい！
セラフィータ ……がいー！！
＜対　スカイギーン・グランガオン戦＞

バルト 今だ、ビリー撃て！
ビリー 発射！

●バベルタワー

シタン ひゅうー……危ないですね。どうやら直撃だけは、避けた様です。ビリー、ここもそう長くは、持ちこたえられないでしょう。次を外せば終りです。しっかり狙って下さい。

ドミニア なかなか楽しませてくれる。次は本気で行くぞ！
フェイ くそっ！　外したのか。
ケルビナ いつまでもつかしら……行きます！
＜ブレードガッシュ・マリンバッシャー再戦＞

●碧玉要塞

ビリー ああ、失敗か！
バルト 気にすんな。
ビリー バルト！
バルト 落ち着いて狙うんだ！
マリア さっきの二人がまた来ました！
＜スカイギーン・グランガオン再戦＞

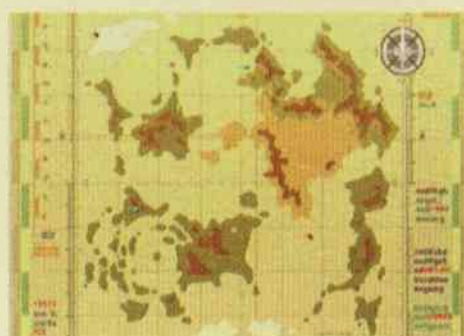
ビリー 行けぇ！！

●ビーム砲2発目発射

トロネ ちぃ！　ラムズふぜいが……！！
セラフィータ ……ふぜーがー！！
トロネ お前しゃべるなって言ってるだろーが！！

●ビーム砲、ゲートに命中

シタン　ビリー、やりましたね……。作戦は成功です！
フェイ　よしっ！　どうやら成功した様だな。
ドミニア　クソッ！　間に合わなかったか……。
ケルビナ　どうします、ドミニア？
ドミニア　ひとまず勝負は預けた！　退くぞ、ケルビナ！
ケルビナ　エリィ、あなたと敵同士にはなりたくなかったけれど……。そのよりどころとする立場が違うのでは仕方ありませんね。いずれまた。私達の決着はその時に。

ファティマ城·大広間

シタン　さて……。残る地上のゲートは後1つとなった訳ですが……。
バルト　問題はその場所がどこかだな。
フェイ　ゼファー女王は地上には全部で3つ、ソラリスに1つあると言っていたが……。
シグルド　各ゲートはソラリスを中心として正三角形を描く様に配置されている。シャーカーンの記録からは、そういうことだが……。
シタン　女王から頂いた、ゲート設置前の地図を見てみましょう。我々には見えない壁の向こう側の実際の地形がこれです。ゲートはこの地図上のどこかに設置されているはずです。まずイグニスのゲートが……ここ。アクヴィの『教会』がここですから……
フェイ　まあ、順当に考えれば、次はここか、ここのどっちかだな。
エリィ　北か南か……確率は2分の1ね。
バルト　両方あたってみればいいだけじゃねぇか？
シグルド　それは難しいだろう。よもや第2ゲートが破壊されるとは向こうも予想していなかっただろうからな。次は本腰を入れてくるに違いない。ここは時間をかけず確実にやるべきだ。
シタン　どのみちゲブラーの妨害があることは必至ですね。
フェイ　先生、エリィ、ソラリスの具体的な場所はどこなんだ？
エリィ　ソラリスにはソラリスの地図しかないの。地上の各エリアも、こっちに来てから知ったくらいだもの。
フェイ　ゲブラーでもか？
エリィ　地上との具体的な関係は、かなり上の者、司令官クラスの者以外には明かされていないのよ。

バルト とするとビリーの親父さんでも判らんかもしれんな。

シグルド 先輩はそこに至る途中であそこを出ているからな。

シタン 私もシグルドも密航組ですからね。船窓から外を眺めている暇はありませんでした。おまけにソラリスからゲートを抜ける際は、各ゲート間の境界面を利用して別の場所に転移しますからね。キスレブのゲート装備艦、ゴリアテとの接触時を思い出して下さい。あれと同じで、元いた場所はよく判らなくなってしまうんですよ。

フェイ ゲートによって他の空間から分断されているといっても、周りの地形くらいは判るんじゃないか？　山脈があったとか、ジャングルに覆われていたとか。

エリィ ……山脈はなかったように思う。どちらかというと周り一面海だったかな。

バルト 海か……てことは、北はあり得ないんじゃないか？　こっちは極点だぜ？　海どころか辺り一面雪だ。

フェイ ならば決まりだな。ゲートの場所はこの南側だよ。この三角形の中心には海しかない。反対に北側の頂点に設置されているとしたら、その中心は大陸の上になる。これは今のエリィの話とも一致するよ。

シタン そのようですね。

シグルド ちょっと待て。この海域の海上にはそういった施設の類は何もなかったはずだ。

エリィ それじゃあ水の中？

シグルド ウム……。しかしこの一帯は海溝だ。あるとしたらかなり深い位置に……。

フェイ ユグドラは潜水艦だろ。だったら問題ないじゃないか。

バルト 無茶言うんじゃねぇよ。確かにこいつは潜水艦だが、深海探査艦じゃねぇんだ。そんな深い所を潜るようには出来ていない。水圧であっと言う間に圧壊しちまう。

フェイ 参ったな……。

シタン まあ、サルベージャー達の使う深海探査艦やギアでも使えば何とかなるかもしれないですが…。

バルト サルベージャー？　そうか！　そうだよ！

フェイ ？？

バルト タムズの艦長んとこに行けばそんなもんゴロゴロしているはずだぜ。こないだの貸しもあることだしな。行こうぜ、タムズに！

シタン それが現在の状況で選べる最善の策かもしれませんね。行ってみましょうか、タムズに。

——　地上のゲート、残るは一つか。

——　ラムサスめ、防ぎきれぬとはな……。

——　何の為の存在か……。

——　所詮、“塵”は“塵”。そのようなモノに何を期待出来ようか。

——　しかし“アニムス”のデータを入手する前に同調される訳にはいかぬ。

——　然り。それでは型が取れない可能性が高くなる。

——　過去がそうであったように……

——　まだ、羊達を解き放つ訳にはゆかぬ。

カレルレン　障壁＜ゲート＞なぞどうでもよいではないか。

——　カレルレン……。

——　そうはいかん。このエテメンアンキにも動揺が拡がっておる。

カレルレン　市民などという衆愚なぞ天帝の御言葉一つでいかようにも操れる。

——　果たして、カインが受け入れるかな？

——　あれの肉体は、既に限界に来ておるからな……

カレルレン　いつものように模擬体＜ダミー＞を使えばよかろう。愚民共に違いなど判りはしない。それにたとえ障壁＜ゲート＞が破られたとしても、以前のような事態は起こり得ないよ。それよりも……メモリーキューブからの情報の中に非常に興味深いものがあったのだがな。

——　何だ、それは？

カレルレン　“母”だ。

——　“母”だと……？

カレルレン　そうだ。恐らく、あのラムズ達の中に“母”が存在している。

——　我等の“母”が他にもいるというのか？　何故今までそれに気付かなんだ……？

カレルレン　“母”なるものの証……“母”の仮面＜ペルソナ＞は一定の年齢に達しなければ現われぬのだよ……そしてそれは“対存在”の転生したものである可能性が高い……。

——　“対存在”……。あのニサンの女のか……。

カレルレン　そこでだ……。あのゼボイムのナノ技術の産物、“エメラダ”を使おうと思う。

——　タムズから回収したあれをか？　何故？

カレルレン　確認だよ。“母”が言うには、あのナノマシンの群体……人造生命体は“接触者”と“対存在”であった者によって創造されたらしい。4000年の昔にな。

——　“母”の記憶か……

カレルレン　そういうことだ。恐らくは何らかの反応が得られるはずだ。それに、たとえ何の反応も得られず、“エメラダ”が破壊されたとしても、データの採取は終わっている。あれを失ったところで何ら計画に支障はない。

タムズ

●ブリッジ

艦長 お、どうした？　何か用か？　ポイントx1507,z1235？　おいハンス、何か知ってるか？
ハンス 知ってるも何も、かのサルガッソーポイントですよ。
艦長 何？　サルガッソーポイント？
フェイ 何だ、それは？
艦長 いや、太古の微生物が長年の歳月を経て洞窟を形成した場所さ。お宝も眠ってるって噂もあったが、そこに行って帰ってきた奴はいねえ。何でも洞窟自体が生きてる、って怪談みたいな話もある。何だお前ら、サルガッソーに行くのか？
フェイ そういうことになるんだろうな。
艦長 お前らのギアじゃあんな深海にゃ潜れねえぞ。潜れてもほとんど身動きが取れねえ。うちでギアの水中装備してけ。そうすりゃお前らの船で行けるとこまで行って、その後はギアで潜水さ。なあに、酔っぱらい共を叩き起こしゃ、すぐさ。
フェイ いいのか？　いつも艦長には世話になりっ放しだな。
艦長 なあに、気にすんない。

●ギアの水中装備完了

艦長 よおし、終わったみてえだぜ。
フェイ は、早いな。
艦長 あったりめえだろ。俺達ゃ……
フェイ 海の、男、だろ？
艦長 お、おうよ、わかってんじゃねえか。じゃあ、気をつけてな。
フェイ ああ。
艦長 おお、そうだ、水中装備の使い方を言うのを忘れてたな。なあに、簡単だ。水中では、地面に足をつけなくてもジャンプできる。連続的にジャンプすることで速度もアップするのさ。なかなか気持よくギアで泳げるぜ。もしかするとそれをうまく使わねえと抜けられねえとこも出てくるかもしれねえな。
フェイ わかったよ、ありがとう。
艦長 礼にゃ及ばねぇや。ま、少しでも恩に感じてくれるならうちのギアショップで買い物でもしてってくれや。新しい商品も入ったみてぇだしよお。おう、気にせずにいつまでもこのタムズにいてくれていいんだぜ。おめえらの船とうちのドックは、相性ピッタンコみてえだからよお。

●ユグドラシル、海中へ

●宝箱を開け、激流を止める

フェイ　ここが、3番目のゲート…………！？

●クレスケンス出現

フェイ　お前は？

エメラダ　ワタシ……オマエ、コロス。

謎のギア　お初にお目にかかります。私はケンレン。カレルレン様の一の従者にてございます。出来れば私めの顔をお見せしたいのですが、何分人機融合を果たした身ゆえ、失礼仕ります。

バルト　カレルレンの従者だって？　俺はまた、あの金ピカ野郎が出張ってきたのかと思ったぜ。

ケンレン　今回の任はあくまでコレの実証検分。前後不覚のあの男に出られては台無しになってしまいます。ゆえに私のような冷静かつ沈着な者が適任なのです。あ、それとご安心下さい。私はここで検分するだけですから。あなた方のお相手はそこのエメラダがいたします。

エメラダ　……オマエ、コロス。

＜対　クレスケンス戦＞

エメラダ　キ……ム…？　あ、アア、あア、あたし……

ケンレン　ほうほうほう、成る程……。暴走……違いますね。これは記憶……記録でしょうか、それの解放現象と見るべきでしょう。やはりカレルレン様のおっしゃられた通りの結果……インプリンティングの発露となりましたか。とにかくこれで実証はされた訳ですね。それでは私は失礼いたします。結果を報告せねばなりませんので。あ、そうそう。その娘は進呈しますのでご自由にお使い下さい。なにせあなたの“娘”ですから……。

エメラダ　あ、ああ、あアアああ！！

●サルガッソーゲート消滅

ユグドラシル・ガンルーム

エメラダ キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！

フェイ ……………………え、と……こいつ、何言ってんだ？

エリィ ………………フェイ……いえ、この人が誰かに似てるの？

エメラダ 似てるって、何？　キムはキムだよ？

エリィ キム？　貴方が知ってるその人は、フェイに似ているのね？　それは誰？　貴方を創ってくれた人？

エメラダ あたしを創るって何？　キムはキム！　解んないかなぁ？　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　キム！　ホントに居たんだ！　夢かと思ってた。夢の中の人だって。そうだ、キム！　あのね、あたし、夢を見てたんだ！　長い長い夢。

エリィ どうやら、貴方が似てるみたいね。彼女の大事な誰か……恐らく彼女を創った人に……

フェイ ああ……？　……お、おい。俺の名はフェイだ。キムじゃないぞ。

エメラダ うん、わかった、フェイのキム！　あのね、あのね、あたし、夢を見てたんだよ！　ながいなが～い夢！

フェイ ……キムでいい……

シタン この子にとって、「キム」という言葉は単なる名前以上のモノらしいですね。……たとえば「おとうさん」みたいな。

フェイ ……オトオサン……？

シタン いえ、いえ、普遍的な意味がある、ということですよ。

エメラダ ねぇ、ねぇ、キム！　聞いて、聞いて！　あたし、夢を……ずっとずっと昔の夢見てたんだ。キムが今よりもっと大人で、あたしは、なにか、とーめいなつつの中に居て……キムは…なにか、ふわふわした白いおかしにロウソクをいっぱい立てて……何やってるんだろと思って、でも……でも、この人が自分を待ってる、あたしがここから出るのをすごく、楽しみにしてるってのは何となく、わかった…………でも……いつの間にか……だぁれも居なくなって………あたしも、からだが無くなって……どっか、暗いところで、長いことひとりで……ほんとに長いあいだ……ねえ？　もう居なくならない？　フェイのキム！

フェイ あ？　……ああ。

エメラダ ほんと？　ホントにほんと？
エリィ ホントにほんとよ。
エメラダ さっきからうるさいなぁ！　だれ？　おばさん？　あたし、キムと話してるの！
エリィ おば……！　も、一回、海の底に沈めてこようかしら……
フェイ おい……
エリィ その子のキムをやってあげたら？　フェイのキム！！
フェイ あの……なんだ…………そういえば、お前、名前はあるのか？
エメラダ ああ～！　ひどいなぁ、フェイのキム！　エメラダだよ、エメラダ！　エメラルド色の髪の毛だからってキムがつけてくれたんだよ！　忘れちゃってんのぉ……
フェイ ああ、わかった、わかった。エメラダだな？　わかったよ、エメラダ。今度はずっと一緒に居てやる、約束する！
エメラダ ほんと？　ホントにほんと？　やったぁ！
シタン ……カレルレンが、彼女を一介の兵士として使い捨てるため、わざわざ自ら動いたとは思えません。恐らく彼女の中に何らかの形であった情報がカレルレンの手に渡ったと見て間違いないでしょう。彼が次に何を引き起こすか……その前にソラリスの場所を突き止めないと……
―― シェバトから入電！　ゲートの影響が弱まったおかげで、ソラリスらしい都市を発見したそうです！！
シタン ちょうど良い！！　一旦シェバトへ戻りましょう！

●一路、シェバトへ

シェバト・女王の間

ゼファー　地上の3つの障壁<ゲート>を破壊したことにより、ついにソラリスの姿が、地上からも確認できるようになりました。しかし、ソラリス本土にある最後のメーン・ジェネレーターを破壊しないかぎり、障壁<ゲート>を完全に取り去ることはできません。
シタン　そこで、マリア。あなたとゼプツェンの出番になります。障壁<ゲート>の力の弱まっている今なら、ゼプツェンの重力子砲で空間を歪曲させれば、短時間なら障壁を中和できます！　ソラリス潜入後は、人目をひかぬよう、少人数で行動する方が無難でしょうね。まあ、できればここは……。
エリィ　はい……。ソラリス内部は……私が、案内します……。
フェイ　俺も、一緒に行く。どうも、エリィじゃ心配だからな。
エリィ　なんですって？　ちょっと待ってよ。別にあなたの……
シタン　わかりました！　それでは、エリィ、フェイ、そして私の3人で行動することにしましょう。残りは、別グループで潜入。マリア、あなたはゼプツェンと外で待機、という形になりますが。
マリア　仕方ありません……。わかりました。
シタン　それでは、一度解散しましょうか。出発の準備ができたら、ここに集まってください。それでは……。

屋上

ユイ　行くのですね……、ソラリスへ……。
シタン　ええ……、自分で決めた道です。もう、あともどりはできません……。
ユイ　傷つくわ……。彼らも……、あなたも……。
シタン　そうですね……。しかし、私には他にとるべき道を見つけられなかった……。もしも私が、闇の想念にとりこまれてしまうようなことにでもなったら……、その時には、私はもう……。
ユイ　それ以上なにも言わないで。承知しています……。さあ、これを。あなたの剣です……。どうぞ……、どうぞ、ご無事で！
シタン　あなたも……。ミドリをたのみます。

廊下

ジェシー　おい、ヒュウガ。俺も行くぜ、ソラリスへ。勘違いするなよ。別に、おまえたちに力を貸すってわけじゃねえ。貴様が何を考え、何をなさんとしてるのかは知らねえ……。しかし、貴様が向こう側に、敵にまわるなら、俺は迷わず貴様を撃つぜ。たとえ背後からでも、な。
シタン　ええ……。その時は、よろしくお願いします。
ジェシー　けっ……、張り合いのねえ……。

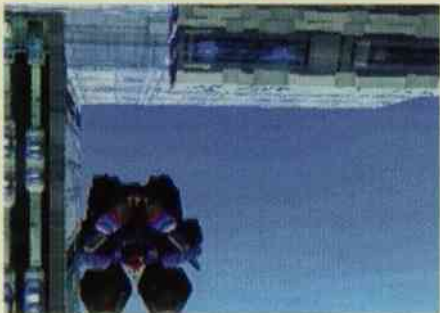
女王の間

シタン 準備はいいですか？
一同 行こう！
シタン よろしい。それでは、出発しましょう。お願いします、マリア。ゼプツェンで、我々をソラリスへ運んで行ってください。
マリア はい！　ゼプツェンは、いつでも出発できます！

●格納庫
マリア ゼプツェン発進！！

ソラリス領空

マリア いま行くわ、ソラリス……！　わたしとゼプツェンが、おまえたちに『死』を運ぶ、黒い翼になってやる！！　これが……、障壁！！　お願い、ゼプツェンっ！！重力子フィールド、局所展開！　空間歪曲補正開始しますっ！

ソラリス･物資集積分配所

バルト 固まって行くと危険だ。俺達は別ルートから潜入する。

ハマー 情報屋のおれっちがいるから大丈夫っす！！
リコ てめぇ、ヤジウマ根性でついて来やがって！！　足手まといにだけはなるなよ！
ハマー おれっちはウマじゃないっすよ！！
シタン マリア。
マリア はい。なんでしょう。
シタン ゼプツェンによるゲート強行突破時の空間の位相の乱れが回復しつつあります。ソラリスの索敵網が再び機能しだす前に、あなたは若くん達を降ろして急いでここから退避して下さい。後は私達に。
マリア わかりました。気をつけて下さい。
フェイ なんだか……、天地が逆さになってて気持ち悪いんだけど……。
エリィ ソラリスの重力は地上とは逆になってるの。難しい説明は省くけどじきになれるわよ。私たちも地上に降りてすぐはちょ

っと気持ち悪いもの。

フェイ　で、ここは一体どこなんだ……？

エリィ　多分、物資の集積分配所みたいなものじゃないかしら。私もよくは知らないんだけど、地上で採れた作物、資材、燃料なんかを用途、目的地別に振り分けているらしいの。つまりフェイ達地上の人が技術や製品と引き替えに「教会」に納めていたもの……、ということになるのかしら。

シタン　とりあえず情報収集と行きますか……。

フェイ　これがエリィがさっき言ってた物資輸送のコンテナかなんかか？

エリィ　さぁ……分からないわ。でもなんか見た事あるような気がする……。

フェイ　調べて……見るか？

エリィ　何言ってるのよ、今はそれどころじゃないでしょ？　早くここを抜け出さなくちゃ。

フェイ　さっき情報集めるって言ってたじゃないか。こいつに隠れて潜入できるかもしれないぜ？　わっ！！

エリィ　フェイ！！

シタン　フェイッ！

エリィ　……！！

第3級市民層

フェイ　？？　一体どこに運ばれちまったんだ……？

――　い、いやだぁ！！　もうこんなのはいやなんだぁ！　お、お前達どうかしてるぞっ！　来る日も来る日も、ただ機械人形の様に働かされて…。自分の意志なんてあったもんじゃない！　こんなのが生きてるってことなのか！？　こんなの…こ…。やめろっ！　放すんだだっ！　うわぁぁぁぁぁぁーーーーっ

――　近頃は自分のIDを書き換えてここを脱出しようとする輩も多い……。そんなやつらはたいてい失敗して“リアレンジ”と呼ばれる再教育を施される。お前も脱走なんて考えるな。

コンテナ・10-4-1

エリィ　フェイ！？

フェイ　エリィじゃないか！！

エリィ　フェイったら全然用心しないんだから。敵地に潜入するんだからもっと慎重にならないと……。

フェイ　すまない……。で、ここは一体？

エリィ　“ソラリス第3級市民層Fブロック”。全体で約20のブロックがあってその各ブロックごとに地上人達が住み分けされているの。私たちソラリス人にはあらゆる個人情報……、簡易DNA

組成状況までもが分子レベルで刻印されているの。その中には市民クラスも……。ここに住んでいる人達が、なんて呼ばれているかわかる？

フェイ　いや…。

エリィ　“働きバチ”。その居住区画の形状からついた名前よ。彼らは重要な労働力となってソラリスの根幹を支えているの。昔、見学で来た時は私には関係のない生活だと思っていたけど……。まさかこんな形でここに入るとは思ってもみなかった……。

フェイ　ってことはエリィはここがどの辺りだか知ってるんだな？

エリィ　なんとなくはね。まずはなんとかここを脱出しないと……。

フェイ　そうだ、先生は？

エリィ　あなたの後を追って別のポッドに入ったんだけど……。もしかしたら他の区画に出てしまったのかも。

フェイ　まいったな……。離ればなれか。

エリィ　先生なら心配ないと思う。この都市の構造については私よりも詳しいはずだから。

フェイ　バルト達は無事に潜入出来たんだろうか。

エリィ　向こうもジェシーさんがついているからきっと大丈夫よ。

フェイ　だといいんだが……。

エリィ　とにかく行きましょ。

コンテナ·12-3-6

フェイ　ティ、ティモシー！？

サムソン　残念ながら俺はティモシーとか言うやつじゃねぇ。サムソンってんだ。だがな、おめぇさんのことは知ってるぜ……！

フェイ　なっ、なんで俺を知ってるんだ？　お前は一体……？

サムソン　アヴェの大武会さ……。俺は残念ながら一回戦負けだったがな。故郷の村に帰る途中、いきなり気を失っちまって……。気付いたらこんなとこにぶち込まれてたのさ。他の奴は“アレンジ”と呼ばれる洗脳をされてて昔の記憶がねぇらしい。けど、オレはなぜかそれが失敗したらしくて昔の記憶が残ってる。

フェイ　ひょっとしてさっきのやつも……？

サムソン　ああ、あいつもだ。無駄死にしやがって……。あいつも数少ない仲間だったのに……。俺はあんなやり方はしねぇ。この横に監視塔があるだろ？　俺はそこを通って第2級市民層へ出たら軍港に忍び込んでこのソラリスから脱出するつもりだ。

フェイ　そんなことが出来るのか？

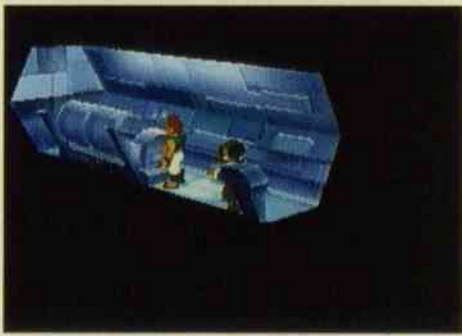
サムソン　ああ、使役許可証があるからな。俺は軍港で働かされているんだ。使役義務がない時以外はここから出られないが、それも“解決済み”さ。なぁ、お前も来ねぇか？　あの腕っぷしならきっと大丈夫だぜ！

フェイ　ああ、いいだろう

サムソン　よし、そうこなくっちゃ！　これをもってきな。

フェイ　……これは？

サムソン　俺のと同じ、第2級市民層での使役許可証だ。それがあれば地上人の俺達が多少うろついても怪しまれないはずだ。まあ、

監視塔

サムソン　俺だ、俺だ。さぁ、行くぞ
サムソン　ここからは二手に別れた方がいいだろう。迷路のようになっているから気をつけるんだな。
フェイ　ああ、お前の方こそ……。
エリィ　本当に大丈夫なのかしら……。

監視塔･出口

サムソン　さすがだな。じゃ、一足お先に行かせてもらうぜ！
エリィ　待って！　あなた、ガゼルじゃないのよ？　どうするの？
サムソン　心配ない、闇ルートで流れてる技術を使って、俺のIDは書き換え済みさ。
エリィ　……。
ゲート　＞＞＞IDえらー、消去シマス。
フェイ　サムソンっ！
サムソン　ま、待て！！　ウギャアア！
フェイ　！！　……。こいつ！！　壊してやるっ！！
エリィ　だめっ！
フェイ　わっ！！
エリィ　そんなことしても無駄よ。第1級市民＜ガゼル＞のIDか、軍関係者のID以外は絶対に通してくれないわ……。
フェイ　じゃあ、どうするんだよ……？
エリィ　ここでこうしている訳にもいかないし……。イチかバチかやってみるしかないわね。
フェイ　ダメならその時はその時……か？　なんだかバルトみたいだぞ、それ？
エリィ　失礼ね。あそこまで無計画じゃないわよ。
ゲート　＞＞＞第1級市民＜ガゼル＞ト承認。スミヤカニ通過シテ下サイ。
フェイ　通れるぞ！
エリィ　……。
フェイ　？　どうした？
エリィ　え？　うんちょっと……。あれだけのことやったんだもの。国家反逆者として手配されていてもいいはずなのに……。
フェイ　やつらが報告してないだけじゃないのか？　ゲブラーにとってみれば失態の繰り返しだった訳だろ。
エリィ　だといいんだけど……。
フェイ　とにかく行こう！！
エリィ　ええ。あ、私にぴったりくっついてきて。そうすればあなたは探知されないはずだから。

エテメンアンキ(第2級市民層)

警備兵　あっ！　お前ら何でこんなとこから出てくるんだ！　ちょっとこっちまで来い！

エリィ　私は帝室特設外務庁少尉、エレハイム・ヴァンホーテン。第3級市民層での特事徴集を終えこの地上人を連れ本部へ戻る途中です。問題でもあるの？

警備兵　ゲ、ゲブラー！？　い、いえ、そう言うわけでは……。どうぞお通り下さい。

アラボト広場·入口

――　この先はアラボト広場。もうすぐ観艦式が始まるけど。チケットが無いからダメね。

警備兵　ここから先は観艦式の特別席だ。ん？　チケットは無いのか。では通すわけにはいかんな……。

エリィ　観艦式か……。ソラリスの現在の状況が何かつかめるかもしれないわね。

フェイ　えっ？　なんだってそんなもん見なくちゃならないんだ？　仲間と合流するのが先決だろ？　そんなお祭りごとにつきあってる暇はないはずだ。

エリィ　これは単なるお祭りじゃないわ。ゲートが取り払われたことによって明らかに市民は動揺している。おそらく観艦式は、民衆の不安をぬぐい去る為のもの。地上に対するソラリスの姿勢も確認しておかなきゃ。フェイ、何とかしてチケットを手にいれましょ。

フェイ　そうか？　まあ、確かに敵の情勢はつかんどかなきゃならないか……。

エリィ　急ぎましょ。観艦式まであまり時間がないわ。

おじいさん　ソラリスの科学力でも老いは避けられないかのぉ。お偉い方々はそれさえも乗り越えているという話じゃが……。まぁ、スンバラしい子孫を残す事も出来たことだし、そこまで望むのはゼイタクじゃて。そう思わんか、若いの？

おばあさん　せっかく天帝がお見えになるのにギックリ腰で行けないなんて……。ほとんどの病気は治るというのにギックリ腰はだめなようねぇ。あれだけ苦労して手に入れたチケットなのに……。あ、若いお二人さん。観艦式のチケットをもらいに来たのかい？。あなたたちのような若者はぜひ見ておかないと！！

フェイ　ください

おばあさん　お金はいらないよ。ほら、早く行かないと間に合わないよ。あたしゃ、トリヴィジョンで見るとするかね。

観艦式場

警備兵 チケットはあるんだな。よし、通ってよろしい。急がないと間に合わないぞ！！

天帝 我が愛し子達よ安心するがよい。地上のゲート消失は前もって、われとガゼルの法院によって計画されていたことである。眠れる母なる神……。神によって選ばれし民、我等ガゼル……。その我等が神の御下、楽園へと回帰し、永遠の生を受ける刻が迫っておる。よってわれはその神の眠る地、知恵と力の源、"マハノン"への扉を開いたのだ。これに乗じ、地上人らはこぞりてその力を手中にせんとすだろう。だが、心配には及ばぬ。ソラリスにこの力がある限り……。愚かな獣、ラムズに我等の力を知らしめようぞ。

フェイ エリィ……？　おい、エリィ！

エリィ え？　何か言った？

フェイ "何か言った？"じゃないよ。どうしたんだよ？　ボーッとして。心ここにあらずって感じだったぜ？

エリ そ、そう？　ち、ちょっと考え事してただけよ。それに周りも結構騒がしいし……。

フェイ ？？

カレルレン 天帝の御子達よ、心して聞かれい。

エリィ カレルレンっ！

フェイ え？

エリィ あれがカレルレンよ。ソラリスの実質的指導者。滅多に私達の前に姿を現す人じゃないわ。それだけの事態ってことね。

フェイ あれが……、ソラリスの指導者……。なんだか……。なんだろう……？　この……懐かしい感じ……。

回想・フェイの記憶

カレルレン 久しぶりだな、ラカン。

ラカン カレルレン。戻ってたのか？

カレルレン ああ、昨夜着いたばかりだ。絵の具の顔料を採りに自宅に戻るんだろ？　ソフィア様から聞いたよ。私が送っていこう。

ラカン いいのか？

カレルレン ああ。僧兵隊の指揮は別の者にとらせておく。最近はソラリスのせいで道程、常に安全とはいかなくなってきたからな。それに、私の方が安心だろう？

ラカン ……すまない。……なんていった？　今お前が学んでいる師の名は？

カレルレン メルキオール師だ。

ラカン それにしてもどうして学問なんて？

カレルレン ソフィア様から心を落ち着けるには本を読むのが一番だって教えられてな……。それがきっかけなんだ。それからさ、私の向学心に火がついたのは。……今じゃ、日に3冊の本を読んでいる。

ラカン 変われば変わるもの。……武術のこと、それしか頭になかったお前がね……。
カレルレン おい、ひどいなそれは。こう見えても師の門人の中では最も優秀なんだぞ。
ラカン そうか……。いいな、そうやって打ち込むものがあるってのは……。
カレルレン 何を言う。お前だってあるじゃないか。“絵”という立派なやつが。あやかりたい位だよ……。

カレルレン 観てくれラカン。やっと形成に成功したんだ。これで人々は救われる。そうですね？　メルキオール師。これでソフィア様も……。

観艦式場

エリィ ……フェイ、フェイ？　あなたこそどうしたの？
フェイ あ、いや……何でもない……。ただ、あのカレルレンて男……、なんとなく、どこかで会ったことがあるような……、そんな感じがしてただけさ……。
エリィ 言葉解る？　訳そうか？
フェイ ああ、頼むよ。
カレルレン ……我等が管理するゲートは陛下の御存意によってとり払われたものである。しかしそれに乗じ、神聖なるこの地をその不浄なる足で汚した愚かなる獣達がいる！　その獣達はゲート消失の混乱に乗じ、こともあろうか我が天帝陛下の御座の下をうろついていた！！　これは本来あるまじき由由しき事態である。神の御座が汚されたのである！　しかし案ずることはない。その愚かしくも健気な不心得者達は捕らえられ、今ここにこうして繋ぎ止められている！

フェイ ！？　バルト！　……むぐっ！
エリィ もう！　大声出して……。地上人だってばれたらどうするのよ！
フェイ そんなこと言ったってしょうがないだろ。あいつらやっぱり捕まってたんだ！ 畜生……。行こう！　あいつらを助け……。
エリィ 待って！　まだ何か言っているわ……。

カレルレン 我等の始祖、古のガゼルをよみがえらせるために……、明後日、ソイレントシステムにてこの地上人達の処理を行う……。
フェイ ガゼルをよみがえらせる？　ソイレントシステム？　なんだよそれ？
エリィ ガゼルは純粋なソラリス人……、 第1級市民の事を指す言葉

だけれど……。多分、この場合ガゼルの法院の事を言ってるんじゃないかしら。遥か昔、その構成員である“ガゼルの法院”達は、このソラリスの人々を守るため、自分達の肉体を失ったらしいわ。“ソイレントシステム”についてはソラリスの根幹を支える重要なシステムだってことは聞いてるけど具体的なことは私も知らないの。でも、多分何かの実験の被験体にされることは間違いない……。

フェイ　勝手放題言いやがって！　俺は行くぞ！　今度こそあいつらを…。

エリィ　だから待ってって言ってるでしょ！　向こうの状況も判らずに今、のこのこ出ていっても彼らの二の舞になるのがおちだわ。宮の警備状況だって調べなきゃならないし……。第一どこに捕らわれているのかすら判っていないじゃない。まだ2日あるんだし、何か確実に助け出す方法がきっとあるはずよ。それを見つけなきゃ。

フェイ　そんなこと言っても、きっかり2日後っていう保証はあるのかよ？　やっぱり気が変わって、はい明日……。なんてこともあり得るんじゃないか？

エリィ　それは……そうかもしれないけど、でも今の私たちじゃ何も出来ないでしょ？　それにあの中に先生はいなかった。ということはきっとどこかで今の映像を見てるはずよ。まずははぐれた先生を捜さなきゃ。ソラリス中枢の構造については私よりも先生の方が詳しいし、その方が無謀に事を起こすより確実だと思うの。ね？

フェイ　で、その肝心の先生はどこにいるんだよ？

エリィ　そんなこと……私が知る訳ないじゃない。

フェイ　それでよく偉そうに言えるよな。お前だって実のところは何も考えていないじゃないか！

エリィ　わたしはただ、無謀にことを運ぶのはどうかって言ってるだけでしょ！

フェイ　けどなぁ！

エリィ　何よ！

警備兵　お前たち、何をしている！

フェイ　見ろ！　見つかっちまったじゃないか！

エリィ　あなたが大声張り上げてるからでしょ！　こっちよ！

警備兵　！！　シティへ報告！！　不審人物2名発見！　至急セキュリティブロックを派遣されたし！！

セキュリティブロック　ソコノ2人……申シ訳アリマセンガ、歩行ソノ他イッサイノ移動ヲ停止シテ下サイ。アラボト広場ニテ不審者アリトノ通報ニヨリ検問中デス！

フェイ　エリィ、うるさいのが来たぜっ！？

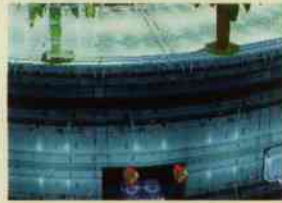
エリィ　セキュリティブロックに捕まったらまずいわ！　フェイ、こっち！

フェイ　エリィ！！

セキュリティブロック　移動ヲ停止シテクダサイ

フェイ　……。飛び込むしかねぇな！！

セキュリティブロック　！！　逃亡……デスカ？　デスネ……。攻撃モードおん。コッチカ！？　不審者、逃亡！！　至急応援モトム！！

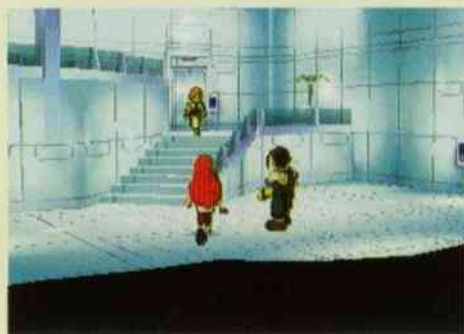
下水道

エリィ　フェイ、大丈夫？
フェイ　ああ。突然だったけどなんとかな。こうしちゃいられない！あの変なロボットたち、追いかけてくるぞっ！　……？　どうしたんだ、エリィ？
エリィ　……そうか、ここは……。何とかなるかもしれないわ。とにかく走りぬけましょう！！
フェイ　ああ！！

エリィの家

フェイ　ここは？
エリィ　第1級市民層。ガゼルと呼ばれるソラリス人達が住んでいる場所よ。ついてきて。
フェイ　お、おい。勝手にそんなとこに入ったらまたさっきの警備ロボットに……。
エリィ　心配しなくても大丈夫よ。ここ、私の家だから。
フェイ　わ、私の家？　じゃこのでっかい家はエリィの？
エリィ　そ。さあ、入って。

●母との再開

メディーナ　！！　エリィ！？　エリィなのねっ！
エリィ　母様っ！
メディーナ　お前……。そう、無事だったのね……。良かった……。軍からの連絡では任務遂行中に行方不明にって……。
エリィ　ううん、母様、それは間違いよ。ほら、こうやって生きてるじゃない！　で、母様、父様は？
メディーナ　まだ、宮の方よ。じき帰ってくると思うけど……。
エリィ　そう……。
メディーナ　エリィ、そちらの方は？
エリィ　え？　あ……、お、同じ特設外務庁の人。第3級市民層から特事徴集されて間もないんだけれど、彼が助けてくれたお陰で戻ってこれたの。ね、フェイ？
フェイ　え？　ああ、いや……その……
メディーナ　そう。それで地上人の格好をしているのね。あら？でもエリィと同じ特設外務庁の方なら制服はどうなさったのかしら……
エリィ　ご、ごめんなさい、母様。す、すぐに片づけなきゃならない報告書があるの。だから……。フェイ、来て。

エリィの部屋

エリィ ここが私の部屋よ……。あ〜、やっと落ち着けるわ。
フェイ すごく広いな！ 俺の住んでいた村長の家より大きいんじゃないか？
エリィ フフッ。じゃあ、私、走って汗かいちゃったから、オフロ入るわね。
フェイ へ、部屋にフロがあんのか？
エリィ 普通あるわよ？
フェイ ……（普通ないだろ）。
エリィ いつまで見てるつもり？
フェイ な、なあ？ さっきのがエリィのお母さんだろ？
エリィ ええ。
フェイ そうか。きれいな人だよな。
エリィ ……。そうね。
フェイ でも、あまりエリィとは似てないね。父親似なのかな？
エリィ フェイは気付かない？
フェイ 何が？
エリィ 私の肌や、髪や、瞳の色と、普通のソラリス人のそれが違うってこと……。
フェイ いや、注意して見てた訳じゃないから……。そうなのか、エリィ？
エリィ 昔ね、私が小さかった頃、乳母がいたの。とても優しくしてもらったわ。でね、その人、地上人だったのよ。第1級市民はね、滅多なことでは地上人を直接使役させることはしないの。でもその人は家に住み込んで、私の世話をしてくれた。何でも、第3級市民層にいた時に子供を失ったって……。それに同情した当時の父が保護したらしいの。でも、父はその人を表に出すことはしなかった……。
フェイ なぜ？
エリィ 体面を気にしていたのよ、父は……。気にしなきゃいけない理由があったのよ。多分、その人が私の本当の……。
フェイ エリィ……。
エリィ よそう、こんな話。聞きたくないでしょ？ ごめんね。
フェイ いや……。
エリィ さっ、次はフェイの番よ！
フェイ いいよ、俺は。そんなことしている暇はない。
エリィ 疲れ、とらなきゃ。こんな時でもないと、ね？
フェイ わかったよ、エリィがそこまで言うなら入るって！
エリィ 最初から素直にそうすればいいのよ。
フェイ ちぇっ！ わぁ〜！
エリィ 大丈夫。体の力を抜いて。
フェイ う……、うんうん、こりゃいいや、シタン先生の作ったボンボコ風呂とは比べもんにならないよ！ ！！ バ、バカッ！ 見てんじゃねぇよ！
エリィ 心配しなくても見えてないわ。調節してるだけよ。湯加減、どう？
フェイ あ、ああ。大丈夫だって。早くあっちに行ってくれ！！
エリィ クスクス、フェイもかわいいとこあるのね。
フェイ ……？？

フェイ　で、さっぱりしたとこでどうするか……、だな。落ち着いてる場合じゃない。
エリィ　うん、あんまりやりたくないんだけど……。あれしかなさそうね。
フェイ　なんかいい方法があるのか？
エリィ　父様の部屋にあるネットワーク端末よ。昔、知らずに触って怒られたわ。でも、そこにはごく一握りのソラリス人しか知ることの出来ない情報があふれかえっていたの。
フェイ　そいつを調べればバルトたちの居場所も分かるってわけだな？
エリィ　そう……だといいんだけど。

メディーナの部屋

メディーナ　エリィ……、とてもうれしいわ。もっと顔を見せて……。お父様はきっと帰ってくるっておっしゃってたけど私はもうダメなんじゃないかって。
エリィ　……母様。
メディーナ　しばらくはうちにいるんでしょう？　今度はゆっくりしてきなさい。ね？　お父様もお喜びになるわよ。
エリィ　え、えぇ、まぁね。
メディーナ　じゃあ、今日はごちそうにしなくちゃね。フェイさんもご一緒にどう？　エリィったらお友達とか全然呼ばないんですよ。仲良くしてやって下さいね。じゃあ、私、買い物に行ってくるから留守番しててちょうだい。

応接室

――　あらっ！　エリィお嬢さま！！　生きてらっしゃたんですね！？　あ～、びっくりしましたよぉ。あたしゃてっきりお亡くなりになったのかと思ってましたから……。御主人さまもお喜びになることでしょう。

エーリッヒの部屋

エリィ これこれ。これで宮殿警備防壁を突破して、帝宮の図面にアクセス出来れば…。IDはと……。きっとパスワードは娘に関するものなのよね。E·L·E·H·A·Y·Y·M……。

—— >>>アクセスは拒否されました。正しいパスワードを入力して下さい。

エリィ だめね。じゃあ、今度は逆さで……。M·Y·Y·A·H·E·L·E

—— >>>ようこそソラリスネットへ……。メイル未読分19通です。

エリィ やった！　成功よ！　さてと……、多分みんなは、帝宮内の研究施設か何かに連れて行かれたはずよ。そういえばソイレントシステムで処理するとか言ってたわね……。ソイレント……ソイレント……と。ここね。図面の形状からすると、ここは大規模な何かの処理施設みたいね。……ということは……このルートをたどって……。やっぱり！　フェイ、第3級市民層のダストシュートからみんなのところへ行けそうよ！

フェイ ってことは最初の場所に戻ることになるんだな。

エリィ 場所が分かればこっちのものよ！　さぁ、一刻も早く行きましょ！

エーリッヒ エリィ、どこへ行くんだ？

エリィ 父様！

エーリッヒ 何をしている、エリィ……。 前に言ったはずだ、ここに入るんじゃない、そして、その機械には 触るんじゃない、と。

エリィ ……。

エーリッヒ 軍警か。私だ、エーリッヒだ。賊が侵入した、そうだ、至急来てくれ。

エリィ 父様……！！　フェイは賊なんかじゃないわ！！

エーリッヒ では、何だ！？　見知らぬ男が私の部屋にいる……。 立派な賊ではないか？

エリィ これにはわけが……。！！　お願いッ。 撃たないで！　フェイは捕らえられた仲間を助けたいだけなの！　彼等は私の友達でもあるのよッ！

エーリッヒ だめだ！　たとえお前の友人だろうと、帝宮に潜入しようとする地上人を見過ごすわけにはいかん！

エリィ そう。だったら私も反逆者よ。撃ちたければ撃って！

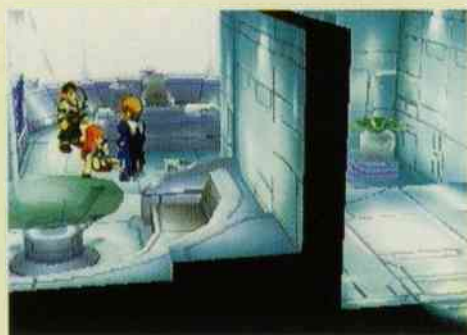
エーリッヒ ならんっ！　お前はここに居ればいい！　さあ、そこをどけっ、エリィ！！

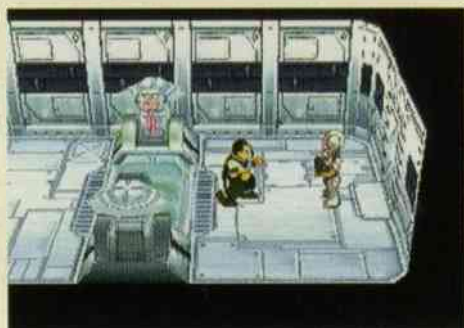
エリィ いやっ！

エーリッヒ ……。たとえ1級市民といえども、 反逆者がどう処分されるか知らぬ訳でもあるまい？　事情を知る侵入者を射殺すればお前の身は安全だ。これは、お前の身を案じて……。

エリィ 嘘！　父様はいつだってそう！　自分の立場が危うくなるのが嫌なだけ！　私がユーゲントに入るのを反対したのも、そうなんでしょ！？　私を、自分の娘を、みんなに見せたくなかっただけじゃない！　私が地上人との間に生まれた娘だから……！！

メディーナ ！！

エーリッヒ お前はまだそんな事を……！？　よく、母さんの前でそんな……！

エリィ　だって……！
フェイ　やめてくれ！！　俺のせいで父娘でケンカなんかしないでくれ。あなた方に迷惑はかけない。ここに来たのは俺の意志。俺は侵入者なんだ。俺がここから去ればいいだけだ。
エリィ　フェイ！？
フェイ　エリィ、お母さんの前であんなこと言うもんじゃないよ。真実がどうなのかは俺には判らない。けど、お母さんのあの表情は他人のものなんかじゃ決してない。そうじゃないか？
エリィ　……。
フェイ　さあ、どいてくれ。俺は急いで仲間を助けなきゃならない。だけど、あなたがあくまで俺を射殺するつもりならば、俺は最大限抵抗させてもらう。
エリィ　？　父様……？
エーリッヒ　侵入者は逃げた。さあ、行きたまえ。軍警が来るまでまだ間がある。
フェイ　……。
エーリッヒ　たとえ侵入者であっても、君が今まで娘を護っていてくれたことは事実だ。そんな君を撃てば、私は娘に二度と父親とは思ってもらえぬだろう。
エリィ　父様……。私もフェイと……！
エーリッヒ　それはダメだ。お前を行かすわけにはいかない。
エリィ　でも……！
フェイ　いいんだ。後は俺達地上人の問題。エリィたちに 迷惑はかけられない。だから俺一人で行くよ。
エリィ　フェイ！！
フェイ　エリィ、今度こそ軍は抜けろよ。今までありがとう。
エリィ　フェイ……。

第3級市民層

――　そこの男！！　お前もしや観艦式の時の……。
フェイ　……。
――　連行する！　そこの扉へ入れ！！
フェイ　俺をどうするつもりだ……？
――　やはり分からないようですね……！
フェイ　先生っ！！　何で先生がここに！？
シタン　3層E区のトリビジョンで、観艦式と捕らえられた若くん達の映像を見ましてね。
フェイ　先生もあれを見たのか？
シタン　ええ。ですがそこにあなた方の姿はなかった。その直後、第2層アラボト広場に侵入者ありの騒動じゃないですか。これはきっとフェイ達だろうと踏んで、ここで待っていたんです。その後、侵入者が捕らえられたという報もありませんでしたしね。
フェイ　何故俺がここに来るって？

シタン　天帝宮に潜入するには3層地下のダストシュートから入るのがもっとも確実。そしてその3層にはこの監視塔を経由しなければ戻れませんからね。しかしながら……毎度思うのですが、もう少し穏便には出来ないものですかねぇ。敵地潜入というものは暗中飛躍が基本じゃないですか。まったく、これだけ大騒ぎすれば、夜船の客だって目を覚ましますよ。

フェイ　いや、自分では穏便なつもりなんだけど……。

シタン　そういえば、エリィはどうしたんです？　一緒じゃないんですか？

フェイ　エリィは……自宅に戻ったよ。あいつはやはり俺達地上人の人間達に付き合うべきじゃない。あんな素晴らしい両親がいるんだから……。

シタン　そうですか……。そうですね。その方が彼女の為かもしれませんね。では、私達は急いでダストシュートを目指しましょう！

フェイ　ああ！

シタン　さあ、フェイ。 私にぴったりくっついて下さい。そうすればあなたは探知されませんから。

フェイ　？？　ちょっと待ってよ、先生。何で先生がここを通過出来るんだ？　エリィの話では第1級市民か、軍関係者しか通れないってことだけど……？

シタン　え！？　あ……いえ……。た、多分、私が軍属だった頃のIDが消されないまま、管理センターの記録バンクに登録されてるんですよ。いやぁ、ソラリスの管理も結構いいかげんですねぇ……。はははは……。

フェイ　……？？

ダストシュート・入口

シタン　恐らくこのスイッチで潜入できるのでしょう……。

――　＞＞ばきゅーむしすてむ作動ニハかーどガ必要デス……。かーどヲ入レテ下サイ。

シタン　……ダメなようですねぇ。どうしましょうか……。

フェイ　どうしましょうか、って先生は何か考えがあったんじゃないのか？

シタン　いえ、すみません……。なんとかなると思ったものですから。

フェイ　……。

エリィ　待って！！

シタン　エリィじゃないですか！？

フェイ　エリィ！？　なんでここに？

エリィ　うん……、あの後泣いていた私に母様が"行きなさい"って言ってくれて……。

エリィ邸宅・回想

メディーナ　エリィ……。

エリィ　……。

メディーナ　エリィ、あなたが望むままに振る舞えばいいと母さんは思うの。自分にとって大事な人達に危機が迫っているのならそれを放っておいてはいけない……。

エリィ　母様……、ごめんなさい、さっきはあんなこと言って……。

メディーナ　……ええ。でも、信じて……。まぎれも無くあなたは私の子よ。どんなことがあっても私のかわいい娘よ……。

エリィ　母様……。

メディーナ　さぁ……、早く行きなさい。

エリィ　はい……。母様も元気で……。

エーリッヒ　エリィ……。これを……。

エリィ　……父様？

エーリッヒ　自分の選んだ道を歩くこと、それは人本来の姿なのだよ……。

エリィ　……父様。

エーリッヒ　軍警が来たようだな……。帝室警護隊！？　軍警ではなく、何故お前達が……。

エリィ　え！？

エーリッヒ　何をする！　賊は逃走した。娘は関係ない！

——　そうはいかん、エーリッヒ卿。御令嬢は引き渡してもらう。これはカレルレン閣下の命なのだ。

エーリッヒ　閣下の？　なにゆえ閣下が娘を……はっ！？　まさか、ガゼルの……！？

——　貴殿が知る必要はない。連れて行けっ！

エーリッヒ　娘を放せ！　さもなくば！

エリィ　父様！？

——　な、何を！？　乱心したか！？　エーリッヒ卿！

エーリッヒ　私は正気だ！　娘を放せっ！

——　閣下の命はいわば天帝の命。それに背いて、貴殿の立場……どうなるか解っているのだろうな？　第3級市民への降格、免れえぬぞ！

エーリッヒ　承知している。だが、いくら閣下の命といえど、娘をガゼルの被験体として差し出すわけにはいかぬ。さあっ、エリィ、行きなさいっ！　ここは私に任せて！

エリィ　でも……！

エーリッヒ　私達のことなら大丈夫だ。行って、フェイ君を助けてあげなさい。

エリィ　父様……。

ダストシュート·入口

エリィ 父様、母様……。
フェイ エリィ……。
シタン "ガゼル"……ですね。
エリィ "ガゼル"!? 父様も言ってた!! 一体"ガゼル"って?
シタン ……それはこれから分かります。
フェイ 戻ろう! 親父さんを助けなきゃ!
エリィ だめっ! 今行ったらあなたまで捕まるわ。父様と母様のことならきっと大丈夫。特務庁での軍功は数え切れない程ある人たちだから。それに、もしもの時はみんなを助けた後で私が投降すればそれで済むこと……。
フェイ しかし……。
エリィ 行きましょ。こうしている内に、もしみんなの身に何かあったら、全てが無駄になってしまう。
シタン エリィの家族の事は気になりますが……。せっかくお父上が命がけで渡して下さったカードがあるんです。行きましょう!
フェイ ああ!
シタン しかし、こんな汚い所は勘弁して欲しいなぁ。あぁ、ポンポコ風呂に入りたい! ねぇ、フェイ?

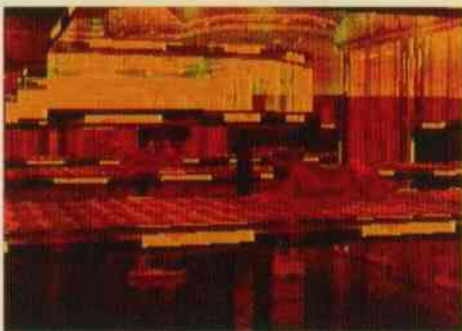
フェイ よし、行こう!

ダストシュート内

フェイ 痛えな、ちくしょう。ふー。危うくゴミにされるとこだったぜ。

フェイ そういえば、腹が減ったな……。おー。食い物があるぜ。ちょっと食っていこうぜ。
エリィ そうね……。この先何があるか、分からないし、ぜいたくは言ってられないわね。
フェイ 先生もどうだい?
シタン いいえ。わたしは遠慮しておきます。
フェイ そうかい? じゃあ俺たちは失礼して……。
フェイ·エリィ いただきまーす。

フェイ ふー。食った、食った。よし、行こうぜ!

ベルトコンベアーの部屋

フェイ　これは……？　さっき俺達が食べた物か……。

エリィ　ふうん……。普段、私達が使う薬品類は全てここで造られているのね……。

エリィ　いやね……。何の肉かしら……。

フェイ　うぅー……。作ってる所は見たくないな……。

シタン　待ちなさい、フェイ。あなた達は、あの食料を食べました。そのことをよく認識して、その扉を開けて下さい。

エリィ　あのカン詰めがどうかしたの？

フェイ　何だよ……。何があるんだよ……一体。

シタン　それは、あなた達自身の目で確かめて下さい。

フェイ　こ、これはまさか……。

エリィ　そんな、……。うそでしょ……。うっ……。

フェイ　な……何だよ……。こ……これは……一体何なんだよ！！うわーーーー！

シタン　ソイレントシステム。ソラリスの生体実験場とその処理施設。そして刻印＜リミッター＞維持の為の食料、薬品の生産施設。アクヴィの死霊＜ウェルス＞もここで創られたのです。エリィ。ドミニアが何故、あなたに……いえ、あなたのお父上であるエーリッヒ卿に憎悪の感情を抱いているのか解りますか？　その答えがここです。彼女の故国の人々はその能力の特異性故、M計画……ウェルスの母体とされていた種族の一つ。彼女はその最後の生き残り。エーリッヒ卿は、以前この施設の総括官だったのです。マリアのお父さん達と共にその研究に携わっていた。

エリィ い、いい加減なこと言わないで下さい！　父様がこんなことに手を貸すはずないわ！
シタン もちろんエーリッヒ卿は常に良心の呵責にさいなまれていた。だから、出来うる限り、集められた地上人を第3級市民として保護し、そして身を退いたんです。彼が現在特設外務庁の事務職に就いているのには、そういった経緯があるんですよ。
エリィ そんな……父様が……。嘘よ……。
シタン さあ、立ちなさいフェイ。立って、そしてもう一度見るのです……。
フェイ こんなのってあるかい…… 先生……。
シタン ……これが現実です。さあ、行きましょう。

シタン 己が人の命を絶ち、その<ししむら>を食ひなぞする者はかくぞある……か。

ギア格納庫

エリィ 何……この物体は……？
フェイ ギア……か！？
エリィ 違う……見て、装甲表面の形状を！　関節らしい関節もない……。これはバルトのE・アンドヴァリや、シェバトにあったものと同じ……。ギア・バーラーよ！
フェイ しかし、こいつはとてつもなくでかい……！
エリィ ええ。私達のギアの優に3倍はあるわ……？
シタン これが……、ソラリスのギア・バーラーです。

ロックされた扉

フェイ うん？　ここも開かないぜ。
シタン さあ、こっちです。
エリィ （どうして……ドアロックの解除コードが分かるのかしら？）
フェイ 待ってくれ先生……一体、ここの施設は何なんだ？
シタン もともとここは、原初の刻より生き続けている身まかられては困る御方。天帝を頂点とする、ガゼル法院の延命研究を兼ねた施設だった。
フェイ 原初の刻？

シタン　そう……。1万年の昔。この地上にヒトという生物が生まれた。その最初のヒトが天帝カインとガゼルの法院を構成する老人達なのです。
エリィ　そんな……。1万年も生きる人間なんて……。
シタン　もちろんそれは天帝ただ一人。彼は死ねない運命のヒトなのです。だが、ガゼルの運命は違った。かつての地上人との戦争……ディアボロスの侵攻によって、ガゼルの老人達は、肉体を失ってしまった。現在ソラリスを統治しているガゼルの法院は、メモリーバンク上に存在する、個々のパーソナリティーごとのデータに過ぎない。
フェイ　メモリーバンク上のデータだって？
シタン　そう。肉体も魂もない、ただの数字の列。実体あってなき存在……。崩壊の日の後、肉体に固執する彼等はその復活を望み、それに相応しい生体を創り出す為、研究施設として地上にあったソイレントシステムの一つをここエテメンアンキに移した。やがてその施設は、単に天帝と法院の延命処置、肉体復活の研究をするだけにとどまらず、特殊な添加物を混入した民意統制用の薬品や食料、生物兵器の研究施設としての役割も兼ねるようになっていった。フェイ達が何気なく使用しているメモリーキューブも、地上人の生体データを採取する為に設置された装置なのですよ。もちろん『教会』から送られてくる種々データも、その一助となっていた。
フェイ　それじゃあ俺達は、そのガゼルの老人達の為に、日々暮らしていたってのか！？
シタン　そうです。
エリィ　個々の生体データを、メモリーキューブによって記録を採る度に送信して法院の肉体の復活に役立てる為に！？
シタン　そうです。
フェイ　さっきの工場で分解されていた亜人達もそうだっていうのか！？
シタン　使用済みとなった出し殻……。それの再利用といったところでしょう。
フェイ　酷すぎる……。そんな事が……
エリィ　ちょっと待って、フェイ！　変よ！　おかしいわ！　何故先生がそんな事知っているんですか？　そんな事、政府や軍の要人だって知らない事なのに！
フェイ　えっ？
エリィ　今思えば、ここに来るまでだってわざと遠回りしていたように感じるわ。バルト達のところへ行くには、もっと早道があったはずなのに。それにこの区画へのルートは、ダウンロードした区画地図にすら載っていないのよ。それなのに何で正確な道が判るのかしら。
フェイ　先生だって調べたんじゃ……。
エリィ　それは無理よ。第一、この区画に入る時に通った隔壁。あれのパネルには、P4施設の表示がされていたわ。ソラリスの上級将校だっておいそれと入れる代物じゃないわ。そんなものが鍵も掛けられずに開けっ放しにしてあると思う？　それを開けることの出来る先生って一体何者なんです？
フェイ　ちょっと待てよ。たまたま運が良かったってことも……。

エリィ そんなことある訳ないじゃない！　本来警戒厳重であるべきソラリスに運良く潜入出来て、宮殿内部に苦もなく侵入し、更に運良くP4レベルの扉を開けることが出来て、その施設の目的まで知っている……なんて事があり得る？　父様のことだってそう。たしかにその当時、先生はソラリスにいたかもしれない。でも、同じ頃ソラリスにいたジェシーさんですら知らなかったM計画の実態を、何故先生が知っているんです？　それも当のマリアよりも詳しく……。おかしいわ……絶対に。

フェイ エリィ、あ、あのさぁ……

エリィ 黙って！　もっと早くに気付くべきだったのよ。先生……あなた、何者なんです？

フェイ な、なにっ！ ……おい、大丈夫か？　エリィ。エリィ……？　エリィ！　先生……先生！　くそっ！　やられた！　エリィ！　先生！　どこだー！

暗闇を歩き扉の中へ

フェイ エリィ……先生……いるのか？　うっ、な、なんだ……こ、これは……うわーーーー！

フェイ うん……むっ、これは……ぐぐ……だめだ……取れない。う……。これは……なんだこれは！？　なんだって俺にこんなものを見せる！？　誰だ！？　誰がこんなことを！？　エリィ！　先生！　どこだ！？　どこに……。

―― その光景はお前が生み出したもの……。その声はお前を呪う声……忌々しや、触れ得ざる者……神の愛し子たる、我らの悲願をはばむ者……捕らえよ……滅せよ……神の炎で焼き尽くせ……。

フェイ な……？　先生！？　こ、こいつらは？　何なんだ、これは！？　バルト！？　ビリー！　先生！！　こ、これはどういうことなんだ！？　みんなは何を……？　答えてくれ！ 先生！

―― ここにおるのは、ソラリス守護天使が一人、ヒュウガ・リクドウ。

―― この男はカイン……お前たちが天帝と呼ぶ者の命を受け、彼の地へと赴き、お前の監視を続けていた……。

フェイ ソラリス守護天使？　俺の監視だって……？

―― そうだ。そしてお前に引き寄せられるであろう、我等が"アニムス"となりうる者達を取捨選択、このソラリスまで導いてきたのだ。"アニムス"は、身体無き我らの復活に欠かせぬもの……。この者達は我等の肉体……憑代なのだ。

―― そう、ただそれのみの存在……。

フェイ バルト達がお前達の肉体……！？　本当なのか！？　先生！　こいつらの言っていることは……。

――― 何をそう、うろたえておる？　信じていた者に裏切られたからか？

フェイ　お前らなんかに聞いちゃいない！　答えてくれ！　先生！

シタン　3年間……。

フェイ　？ ……。

シタン　この3年の間、私はあなたの側にいた。そして見極めねばならなかった我々の仇となるかどうかを……。

フェイ　……仇？

――― そう、仇だ。お前は我等にとって危険な存在なのだ……。

――― 故に監視する必要があった。

――― もっとも監視をしろと下命したのはカインだが……。我等はそこの“アニムス”の選出と仇となるお前の消去を目論んだ。そしてヒュウガをお前の元へと赴かせた。だが、お前の消去はことごとく失敗した……。あのでき損ないの塵のせいで……。それでも“アニムス”は手中に出来た。ヒュウガはよく働いてくれたよ。

フェイ　本当……なんだな……？　こいつらとグルになって俺達を……。そのためにみんなは……。何故だ！　お前達は俺達地上の人間を意のままに操ってきた！　すでに世界をその手にしているも同じ！　この上何を求めるというんだ！？

――― お前も知っておろう。我等の目的は神の復活。

――― ヒトが地に満ちたとき、神はその永き眠りから目醒めるのだ……。その時、マハノンも目醒める……。

フェイ　天空の楽園マハノン？　地に墜ちたという……。

――― 楽園か……。ふふふ。それは正しい見方かもしれぬな…。我等の方舟……その中央ブロック“マハノン”神の封印されし場所。そこは神の知恵の源……。知識の楽園……。

――― その知恵を使い、目醒めた神を復活させ、神と我等を大宇宙へと誘う“方舟”を築くのだ。

――― 我等の方舟の建造……。大宇宙に君臨する為の神の軍団……天使＜マラーク＞の創造。その為のM計画……。

フェイ　何だって！？

――― 我等は宇宙の孤児なのだ。我々は神と共に孤独にもこの惑星に打ち捨てられたのだ。

――― 我々ヒトはこの星で生まれた生命体ではない。遥か昔、他の天体からこの星へとやってきた異星の生命体なのだよ。

フェイ　そんな馬鹿な！？

――― 嘘ではない。お前とて、地上のいたるところを見てきたであろう？　何故1万年より以前、人の存在がないのか……。

フェイ　……！？

――― これは神の意志なのだ。神の復活は古の原初より運命られしもの……。

――― そして我等はその神と一つとなる。新たな“アニムス”を得て……。再び星空の元へと還る……。

――― それが我等の存在意義。

――― それが我等の至高目的。

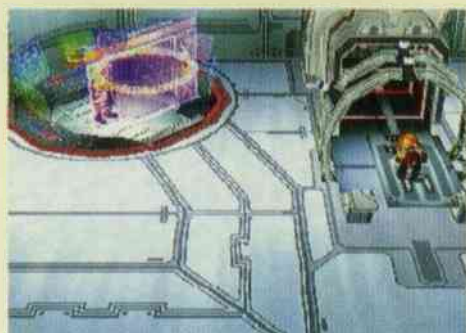
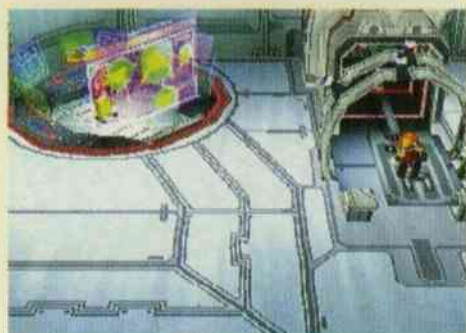
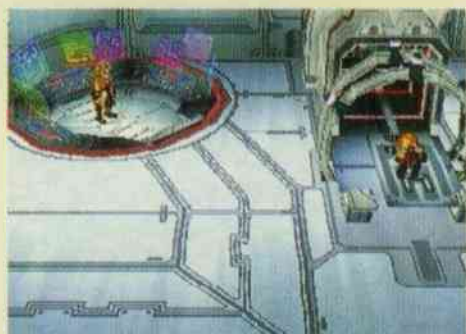
フェイ　……ソラリスの力を持って、世界に君臨することが目的ではないんだな？

―― 当然だ。このようなちっぽけな惑星ひとつ、手に入れたところで何の意味があろうか……。我等はこの大宇宙に君臨すべくその権利を神から与えられた。
―― そう。血のけがれのない我等だけが、その免罪符<インダルジェンス>を得られる……。
―― 故に神を復活させる。
―― 楽園より追放されて永劫。福音の刻までに神の復活が成されない場合、我等は滅びの道を辿らねばならぬ。だが……。
―― "アニムス"を得た今、我等の復活は約束された……。後は神の復活と……。
フェイ カレルレン！？
カレルレン この者の目醒めを待つだけ……。
フェイ エリィ！！？

カレルレンの私研究室

エリィ ここは……？
カレルレン 君の記録は調べさせてもらったよ。
エリィ カ、カレルレン……閣下？
カレルレン エレハイム・ヴァンホーテン。1年前のユーゲントでの事故……。ケース102、過度に調合された昂精神薬剤の投与による内的力動の解放。その時点でのエーテル感応値は400以上。一瞬の内に当該者2人が重傷、3人が再生処理。合っているかな？
エリィ やめて下さい！
カレルレン だがこの記録は間違いだ。これは、よくある昂精神薬による力の暴走ではない。
エリィ ……？
カレルレン これは、"君の中に眠るもう一人の君の一時的目醒め"によってもたらされたものなのだよ。

エリィ もう一人の私……？　フェイ達は、みんなは……？
カレルレン 彼等はガゼルの法院の復活の為に供される。あの人工生命体の娘も同様だ。サンプルは以前にとったもので十二分なのでね。私の計画もすでに第4段階まできている。後は最後のファクターがそろえばいいだけだ。故に彼等は私にとってなんら必要価値の見いだせないどうでもいい存在なのだよ。……ただの塵だ。だが、君は違う。
エリィ あの、研究施設の人達のようにするというの！　自分の欲望の為だけに……。あなたは自分が何をしているのか理解しているの！　人が人の命を玩ぶなんて、そんなこと絶対に許せない！

カレルレン そうか……下の研究施設を見てきたのだな。あそこは現在、ソラリスの研究員達が主に遺伝子工学の研究を行っている施設。有機生命体を操作し、偶然によって得られる成果と、非人道的な行為に快楽を覚える愚か者の巣窟だ。あれは私の管轄ではない。私の専門は分子工学……ナノテクノロジーだよ。

カレルレン　これが何か解るかね？　ナノマシン……分子機械だ。これはその中の一つ、アセンブラーといって、分子や原子を解体、再構築し、自在に物質を創ることの出来る機械なのだ。この球体一つ一つが原子の大きさに等しい。以前はこれの数十倍のサイズのものを作るのが精いっぱいだったが、あの娘……遥か昔に滅んだゼボイム文明の遺産のおかげで、ここまで小さくかつ精巧に作る事が出来た……。この機構が遥か4000年以上も昔に創られていたとは驚く他はない。それまでのものは、雑な仕事しか出来なかった……。せいぜい損傷した人の身体を外界から与えられたアミノ酸などを使って再構築したり、固有の能力を封じ込めたり……といったね。君もユーゲントで人の遺伝子構造くらいは学んでいるだろう。遺伝子内の各種酵素……あれも言ってみれば自然の創り出した分子機械だ。もっとも、我々が自然発生の始原生命体＜プロゲノート＞だとすればの話だが……。

エリィ　その分子機械を使ってあなたは何をしようというの？　それと私と何の関係があるの？

カレルレン　従来のナノマシンでは、遺伝子の組み替えは行えても、その更に内奥、二重螺旋の空隙部分……イントロンに隠されている情報までは解らなかった。だが新しいナノマシンはいとも容易くその空隙に隠されている情報を見つけてくれた。本来“あるべきでない”情報をね。まもなくその結果が出る。

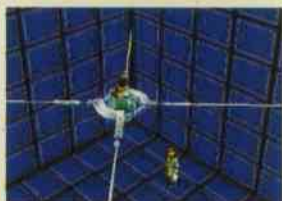
カレルレン　ふむ、転送されて来た記録通り、類似波形を描いている。そして…おお、ウロボロス環……！　やはりそうか、そうなのだな……？　ミァン、そしてラカンの動き……。これで全ての説明がつく。エレハイム……君が“母”だったのだな……。

エリィ　母……？

カレルレン　そう。これは君の遺伝子のエクソン置換前の空隙……。本来は情報の存在しえないイントロン部分を解析、概念化したものだ。見たまえ、このリング状の構造体を。これはウロボロスの環という、“ある特別な者”にしか存在しない“イントロン情報”だ。ウロボロス……大母とも準えられるこの概念のへびが、自らくわえたその尾を放し、かま首をもたげればどうなるか……。君はその姿に興味を抱かないか？

エリィ　…………。

カレルレン　エレハイム、君は美しい。君を見ていると、ヒトを形作るモノの芸術性、精巧さ……。そういったモノの力を感じずにはいられない。 私の分子機械なぞおよびもつかない程のね。君は“あの頃”と少しも変わっていない。あの“もう一人”のラカン同様に……。

フェイが拘束されている部屋

フェイ　う……。
シタン　気が付きましたか？
フェイ　先生……こ、これは……！？
シタン　動こうと思っても無駄ですよ。それは身体との神経の伝達を物理的にカットする装置です。頭でどう命令しても、あなたの身体は指一本動かせはしません。
フェイ　俺をどうする気だ？　バルト達は？　エリィはどこにいる？
シタン　心配には及びません。彼等には彼等の……あなたにはあなたの役割がある。私はそれを調べさせてもらうだけです……。
フェイ　畜生……こんな……俺は何の為に今まで……。
シタン　戦ってきたのか……ですか？　それは先ほど、法院の老人達が言ったとおりです……。
フェイ　ふざけるな！　俺達は奴等の為に生きているんじゃない！　その為にこのソラリスまで来たんじゃない！　みんな、自分の本当の居場所を作るために……そのために戦ってきたのに……。なのに……。
シタン　居場所なんてものは、自らが作り出すよりも、誰かに与えられる方が楽なんですよ。そんなことも解らないんですか？
フェイ　そんなものは本当の……！
シタン　青臭い理想論など現実の前では意味をなしません。事実、多くの人はそれを満足としているではないですか。与えられた居場所ならば、自分はそのリスクを背負わなくていい。たとえうまくいかなくても、その責任を転嫁出来るんです。人が何故個々人ではなく、集団、国家といったより大きなものに依存するのか解りますか？　人には寄る辺が必要なんですよ。自分が自分自身である為のね……それが強固であればある程よしとされる。ガゼルの法院は、その寄る辺を与えてくれるのです。絶対的な管理者の下でならば、人は個人を保とうとするリスクを背負う必要はない。自分は"一個の人間だ"という幻想だけ持って生きていける。なんと楽なことじゃないですか。事実は事実。受け入れましょう。その方が気が楽です。抵抗したところで虚しいだけです。辛いだけです。

フェイ　俺は……俺は……。
シタン　それともまだ何かしようというんですか？　あなたのその姿を見てごらんなさい……。この期におよんでどうするというんです？　身動きをとることすらままならない。共に戦い、あなたを必要としてくれていた友も守れない。あなたにとって大切なエリィさえも守れない。
フェイ　やめろ！　やめてくれっ！
シタン　あなたにはどうすることも出来ないんだ。
フェイ　やめて……くれ……。
シタン　これでゆっくり話ができますね……イド……。

カレルレンの私研究室

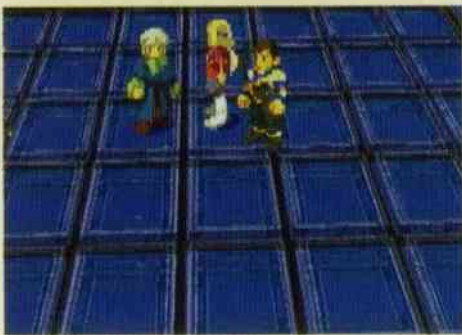
エリィ	か、閣下！？　な、何を！？
ラムサス	ど……だ……？
エリィ	え？
ラムサス	どこ…だ？　どこだと聞いている！！
エリィ	い、痛！　や、やめて！　やめて下さい！
ラムサス	あの男はどこだ！？　どこにいる！？　知っているはずだ！案内しろ！
エリィ	あの男って……フェイのこと……？
ラムサス	フェイ、フェイ、フェイ……どいつもこいつもフェイ。フェイ……！　あの男のどこが俺より優れているというのだ！認めぬ、俺は認めぬぞっ！！　ぐぅぅ……。
エリィ	ラ、ラムサス……その薬……精神安定剤……？　どうしてあなたがそこまで追いつめられなくてはならないの……？　フェイとの間に何が……
ラムサス	フェイめ……見ていろ……俺は……。
エリィ	ラムサス……。

フェイが拘束されていた部屋

バルト	フェイ、しっかりしろ！　気が付いたか？　フェイ？　さぁ！　行こうぜ！
フェイ	……………………。こ、この野郎！！
バルト	よ、よせ！　フェイ！
フェイ	止めるな、バルト！！　こいつは俺達を裏切ったんだ！　こいつは、俺達を、エリィを！
バルト	よせ！　フェイ！　そりゃお前の誤解だ！
フェイ	放せ！　放してくれっ！
ビリー	バルトの言っていることは嘘じゃない。だから落ち着いて、フェイ！！　僕達を助けてくれたのはシタンさんなんだよ！
フェイ	ビリー……！？
バルト	ふう……ビリーの言うことなら聞きやがる……。いいか？よっく聞けよ！　俺達の身体に刻まれた刻印<リミッター>。現時点で、それを解除させる為には、この研究施設でしか出来ない！　先生はカレルレン達の目をあざむき、俺達をここの施設へと連れ込んでリミッター解除の処置をしてくれたんだ！
フェイ	そんな……だって今さっき先生は……本当なのか？
バルト	ああ！
フェイ	先生？
シタン	あなた方をここに連れてきた目的はそれだけじゃありません。ソラリスからの独立を目指そうとしている者は、この国の実態を、真の姿を知らなければなりません。誰が、何のために、何を考え、何をなそうとしているのかをね。私は表向

きは、天帝の密命を受け法院の望む肉体を持った者と接触、データを転送……可能であればその肉体ごと持ち帰る……そういう任に就いていました。結果として、あなた達を騙す形をとるしかなかった。許して下さい

フェイ　そうだったのか……。
シタン　それに私自身も、ここの設備を使って……どうしても確認しておかなくてはならない事がありましたしね。
フェイ　確認？
シタン　それはここから無事脱出してから教えますよ。貴方にとっても"知らなくてはいけないこと"ですから。

バルト　ところで先生。フェイのリミッターもちゃんと外したんだろうな？
シタン　……え？　え、ええ……もちろん……。それは……。
バルト　よし、そうとなったらとっととここから出ようぜ！
フェイ　待ってくれ！　エリィはどうした？　一緒じゃないのか？
シタン　エリィはカレルレンの私研究室に連れて行かれました。流石にそれは止められなかった。すみません。
フェイ　何故エリィだけが……？
シタン　わかりません……。ただ、一つ引っかかることが……。カレルレンによってエリィが連れていかれる際、私は偶然、エリィの生体情報を入手する機会を得ました。分析してみると、興味深い…………いや失礼、不思議なことに、彼女には刻印<リミッター>が刻まれていないんです。
ビリー　刻印がないですって？　それは、エリィがソラリス人だからじゃないですか？
シタン　ソラリス人であっても刻印は生まれ持って刻まれています。例外として、私やラムサス、といった特別な者のみが、後々、私がバルト達に施した様な処置を受け、リミッターを外される。しかし、それには法院の許可が必要とされるのですよ。
フェイ　だからエリィを……？
シタン　それだけではないハズです。理由は定かではありませんが、カレルレンは彼女のデータにかなり、こだわっていました。
バルト　理由なんざ、何でもいいさ！　とりあえず、エリィを助けて早いトコずらかろう！
ビリー　そうだね。ここで僕らがもたついてたら先にエリィのご両親を助けに行った連中まで、危うくなる。シタンさん、では、手はず通りに、僕らはカレルレンの私研究室に。後ほど例の場所で落ち合いましょう。
フェイ　先生は……？
シタン　私にはまだやり残したことがあるのでね。障壁<ゲート>の最後の一つ、それを破壊してきます。
フェイ　先生！　刀を……？
シタン　……ええ。ユイから出しなに渡されたものです。彼女と出会う前に使っていました。ヒトを殺すワザ故に永らく自ら封じていたんですが、この期に及んで、ひとりだけきれい事も言っていられませんしね。
フェイ　……そうか……。……それにしても……。
シタン　なんですか？

フェイ　相変わらずヒトが悪いな、先生は……。
シタン　性分ですね。申し訳ありません。
バルト　おう！　先生！　フェイとエリィの事ぁ俺にまかせとけ！リミッターさえ外れりゃソラリスなんざしおしおのぱー、だ！
シタン　あ！　そうそう、若くん、リミッター解除の効果はそんなすぐに出ませんよ。あなた方の身体的なリミッターはすでに自然に外れていました。私が外したのは、精神的な方、つまり、無意識に法院や天帝を恐れ、敬う、その部分です。単に、思う存分戦えるようになっただけで、いきなり強くなったわけではないですから。
バルト　ま……マジ……すか？

カレルレン私研究所

フェイ　エリィ！！　…………大丈夫か？
エリィ　フェイ………ええ……ええ、大丈夫よ。
バルト　お二人さん、悪ぃが再会の感動に浸ってる暇ぁなさそうだぜ。
ビリー　さぁ、早くこちらへ。

障壁<ゲート>発生装置

ジェシー　おせぇよ！　こちとら弾には限りがあるんだ。とっととこいつを爆破しちまってくれ！
シタン　申し訳ありません。ちょいと野暮用で。
ジェシー　……で、なにやってたんだ？
シタン　陛下のところに……ね。
ジェシー　天帝のトコか……？　いいのか？　ヒュウガ……？
シタン　ええ。陛下は理解してくれました。……後は、“彼ら”に任せよう……と。

シタン　よし！　終わった！！　先輩！！
ジェシー　……っしゃ！　ずらかるぞ！！　……ん！？
ラムサス　奴はどこだ……？　ヒュウガ……。
シタン　……カール……？
ラムサス　貴様も……この俺を、裏切るというのか……。
シタン　カール、私と貴方とでは立つ場所が違うだけです。裏切った訳ではありません。私はフェイ達といようと……そう決めたんです。

ラムサス フェイだと！　き、貴様もフェイか！　奴を……貴様も奴を……許さん、許さんぞ！
ジェシー カール、敵同士とはいえ、小僧っ子一人に何故そこまで執着する！？　昔のオメェはそんなじゃなかったぜ！
ラムサス 黙れっ！　奴だけは俺のこの手で……。……その奴の下に行こうとする貴様等は敵だっ！　"俺のもの"を奪う敵だっ！　敵だっ！！　敵だっ！！　敵だっ！！
シタン カ、カール……
ジェシー お、おい。行くぜ！　何があったか知らねぇが、奴に構っている暇はねぇ！
シタン しかし……。
ジェシー ヒュウガ！！
シタン ……わかりました……。
ラムサス この、裏切り者ぉっ！！

合流ポイント

エメラダ あ！　フェイだ！！　フェイのキムが来た！！
エリィ 父様！　母様！
メディーナ エリィ！！
リコ ちょっとはハマーに感謝してくれよ！　ハマーの野郎がうまいコト連れて来てくれたんだ、あんたの両親を。なぁ、ハマー！
ハマー え？　ええ、ええ、そのとおりっス……。
エリィ あ、ありがとう、ハマー。
エーリッヒ 私たちからも礼を言わせてもらうよ。また娘に会えるとは思わなかった…。ありがとう、ハマー君。
シタン さぁ、みなさん、ぐずぐずしているヒマはありません。目立たないように二組に分かれて行きましょう。フェイ、ご苦労ですが、誰かふたり連れて先行して下さい。ここから南西の方向へ進んで、連絡可動橋を二つ越えれば、外へつながる格納庫へ出ます。そのそばの陸橋あたりで落ち合いましょう。青いメモリーキューブに話しかけると、他のメンバーと連絡が取れて、同行人が代えられます。
ジェシー ゲート壊しのついでにあちこちの警報機はだまらせたが、まだまだ危険だ。気をつけろ！
エーリッヒ 私は先に格納庫へ行って何か乗り物を準備しておくよ。今ソラリスは混乱しているから私ひとりなら、"顔"でなんとかなるだろう。
シタン ……わかりました。無理はなさらないで下さい。
エーリッヒ ああ、わかっている。エリィ、メディーナ……また、後でな。
メディーナ あなた……お気をつけて……。
エリィ 父さま……。

脱出口

バルト 何とか、来れたみたいだな。
エリィ よかった……みんな無事で……。父さまは大丈夫だったかしら……？
メディーナ ソラリスとも、お別れになるんですね……。なんであろうと、やっぱり生まれ育ったところですから……。
エメラダ 出口！　出口！　出口！
チュチュ ううっ、空が青いでチュ……。
リコ おおっし！　もう少しだぜ、ハマー！
ハマー 来ちゃったっす、ここまで、来ちゃったっす……。
ジェシー 最後の最後だ。気ぃ抜くなよ！
ビリー このまま、無事帰れたら……。プリム達は息災だろうか……？
シタン 格納庫はこのすぐ先です。

陸橋

ハマー と、止まるっす！！！　え、エリィさんにはこのまま、俺っちと一緒に戻ってもらうっす！！
エリィ な、何をするの？　ハマー？
ハマー 動いちゃだめっす！　本気っすよ！　俺っち！！
フェイ バカなことはやめろ！　何があったんだよ？　ハマー！？
ハマー カ、カレルレンさんという人と約束したっす。エリィさんを連れ戻したら、"変えないで"くれるって……。
リコ ハマー！！　てめぇ！！！
ハマー お、俺っちだってホントは、だ、大好きなエリィさんに、こんなことしたくないっす。でもでも、こうしなきゃ俺っちは…俺っちは…。俺っちにはこうするよかないんすよ！　だって、俺っちには、何もないんすから……兄貴のように腕っ節が強い訳でも、先生様のように賢い訳でも無いんす！　わ、解ってるっすよ。みなさん、俺っちのことなんか……。…どうせシタ先三寸、足手まといの便利屋程度にしか思ってないってことぐらい……。…それくらい…………。
リコ ハマー……。
ハマー 俺っちは兄貴達とは違うんすよ！　兄貴達みたいに"特別"じゃないんす！　俺っちみたいな"普通"の人間はこうするしかないんす！！　う、動いちゃ、だめっす！！　止まるッす！　止まるッす！
メディーナ 止まりません。止まりませんとも。……我が子が危険な時ですもの…。私は、ごく"普通"の母親ですから！！
ハマー ……ひ……。

メディーナ 私はごく普通に生まれ育った女です。夫や娘のように軍人でもない。鉄砲なんて、触ったこともない。ましてそれを向けられた事なんて…。その証拠に、私は今、がたがた震えています……。でも、止まるわけにはいかない。私はごく"普通"の母親ですから。"普通"だからこそ、守らねばならないモノがあるから……。エリィ、ゆっくりとこちらへ来なさい。大丈夫です。何があっても貴方は私が守ります。

エリィ か……母様……。

メディーナ エリィ、こちらへ来なさい。大丈夫です。

ハマー ……だめっす！　動いちゃあ、だめっす！　だめっす！

メディーナ 大丈夫です、エリィ。

エリィ フェイ！

ハマー ……だめっす！　行っちゃあ、だめっす！　だめ……っす……。……だ……だめッスよぉ……。行っちゃあ……だめッスよぉ……

エリィ 母様！？

ハマー ……ひ…………ひぁ……。ひぁぁあああ……あ……あ…。…うわぁぁあああああああ

エリィ 母様？　……母様……。かあ……さ……ま……。かぁさまぁぁあああああ！！

●凶弾に倒れるメディーナ

グラーフ その娘、置いていってもらおう。

フェイ グラーフ！　畜生！　こんな時に何故奴が！　……みんな、やるぞ！

グラーフ　なかなかやるようになったモノだな。……しかし！！

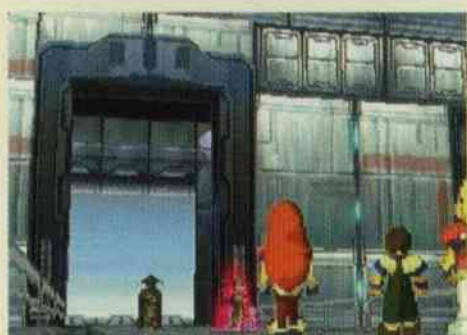
処刑人　あら……？

エーリッヒ　ここは私が引き受ける！　皆、早く逃げなさい！

エリィ　父様！

処刑人　ふふふふ……夫婦そろって子ボンノウなこと……。

エーリッヒ　ぐ、ぐわぁ！　え、エリィ……早く行きな……さい……エリィ、何があろうとも、信ずるに足る理であるならば振り返らずに行きなさい。その為ならば、私達は喜んでそのいしずえとなろう。それが私が出来るせめてもの償いだ……。エリィ……誰が何と言おうとも、お前は私とメディーナの間に生まれた娘だよ……。だから……。

エリィ　父様！！！

処刑人　あら、少し力が入りすぎたかしら？　お別れを言うヒマも無かったわね。でも、大丈夫。すぐ向こうで会わせてあげるわ……。

エリィ　………………。……よ、よくも……父様まで……！

処刑人　……非覚醒状態でそれだけのエーテル制御が出来るなんて流石ね。だけど……。

エリィ　きゃあぁああああ！！

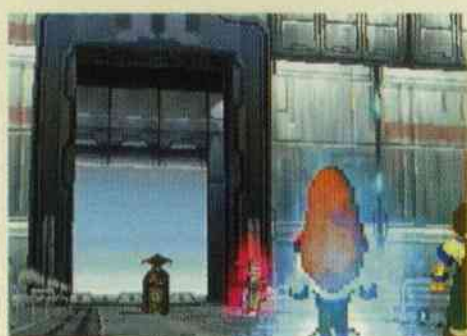
リコ　ぐわぁあああ！！

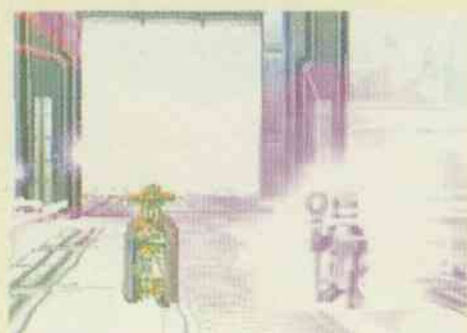
ビリー　うわぁ！！

バルト　ぐわぁぁ！！

エメラダ　わわわあ！！

チュチュ　きゅわわわわ！

フェイ　ぐ……！　エリィ……みんな……。

イド　くくく……。……お前は眠ってろ。

フェイ　うわあああああああああっ！！！！

ユグドラシル

——　シグルド卿！！　格納庫で、ギ、ギアが、ひとりでに……。
シグルド　何だ？　正確に報告しろ！

ソラリス領空

ラムサス　来い、来い、来い、来い、来い、この悪魔め……。今度こそ殺してやる！！　来た、来た、来た、来た……。ふふ……ふ……わざわざ殺されに来た……ふふふ…。

…………ぅ、うがぁあああああ！！

陸橋

カレルレン　現れたな……。
処刑人(ミァン)　ええ。かなりハッキリと。今までみたいな中途半端なものじゃないわ。

ミァン　今度はそう簡単にはステージから降りないでしょうね。フェイの精神的エネルギーもかなり弱まっていたみたいだし、それに……“昔と”状況も似ていたしね……。ふふふ……。
カレルレン　何がおかしい？
ミァン　時を経ても想う気持ちは変わらない。あなたも心中複雑といったところかしら？
カレルレン　ふっ、くだらんな。ところでラムサスはどうした？
ミァン　彼女を連れ戻させようという訳？　少し遅かったわね。カールなら出た後よ。
カレルレン　まったく余計な手間を……と、言いたいところだがまあよかろう。これでより制御が確実になったと思えば……な。それにしても……。
ミァン　なに？
カレルレン　勝てもしない戦い、よくも続けられるものだ……。
ミァン　それが目的でしょう？　そうしむけたのは私だけど……。でも、あと少しね。唯一の成功例。大事にしましょう。
カレルレン　何処までが本音か、解せぬ女だ。行くぞ。ここもじき崩壊する。
ミァン　そうね。カールも“助けてあげないと”……ね。

●ソラリス近空

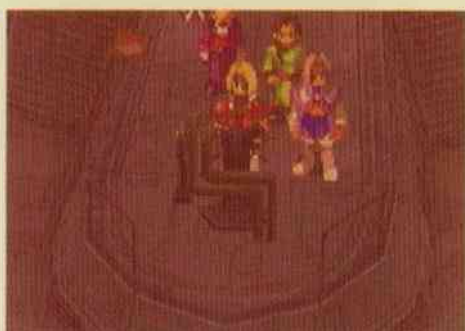
シタン　エリィ！　大丈夫ですか？　エリィ！　エリィ？　気がつきましたか？
エリィ　…………先生……マリア……？
バルト　空に放り出された俺達を助けてくれたんだ。他の連中も先に回収されてユグドラにいる。
エリィ　そう……。……フェイ……？　……フェイは？　フェイも、もうユグドラシルにいるの？　ソラリスが！！　……あの赤いギアは……！　いったい何が起きているの！　先生？　先生！！　フェイは？
シタン　落ち着いて、エリィ。フェイは……無事です。
エリィ　じゃあ、もうユグドラシルにいるの？
シタン　落ち着いて聞いて下さい、エリィ。あのギアにはフェイが乗っているんですよ。あれはヴェルトールの変化した、真の姿なんです。
エリィ　なんですって！！
シタン　彼の内に眠る、もう一人のフェイが目醒めたんです。フェイとイドは同一人物なんですよ……。
エリィ　！？　嘘でしょ！？　そんなこと信じられない！
バルト　嘘じゃないんだ……。俺達はその光景をこの目で見た。あいつがイドに変わっていく、その様を……。

陸橋·回想

フェイ ……やめろ！　やめてくれ！！　うわぁぁあぁああああああ！！！

ソラリス近空

エリィ フェイがイド……。そんな…………。

ユグドラシル

シタン　早くここから退避して下さい！　成層高度から落着するソラリスのエネルギーは反応兵器にも匹敵しますっ！
バルト　巻き込まれちまう！？　急げ！！　ユグドラシル！！

バルト　……………………。……ふぅ……なんとか……こらえ切れた……な……。な、なんだ？
バンス　れ、例の赤いギアが……！！　こっちに！！！！
バルト　やっべぇ！　こっちに気付きやがった！！
シタン　……エリィ？　……！
バルト　先生！　どうする？ どうすればいい？
シタン　え？　ええ……どうすればと言われても…。
バンス　甲板に誰かいる……。あれは……エリィさん！？
バルト　何だって！

シタン いけない、エリィ！！　すぐに戻りなさい！！
エリィ 私がやります。いえ、やらせて！
シタン 無茶です！
エリィ わかっています……。でも、いつかフェイが身を挺して私を救ってくれたように……今度は私がフェイを救わなければ……。そのためなら私、どうなっても構いません！
シタン エリィ……。

甲板

エリィ ……フェイ。
イド フフ……、お前か。殺されに来たのか？
エリィ ……ええ。それであなたの気が済むのなら私を殺せばいいわ。さあ……。
イド フン……いい子だ……。では、死ね！

イド ！？　離せ……。
エリィ くっ……フェイ……わ、私は絶対離さない！　フェイ……お願い、元のフェイに戻って！！
イド うぱぁっ！！　な、何っ！？
エリィ うあぁうあぅあぁぁ…フェイ！　お願いっ！！
イド チッ……。……この女やはり……。
フェイ ……うう……エ……リ……。
イド ……クソッ……ヤツが…目覚…た…。

シェバト·女王の間

シタン すみません。はっきりしたことが判るまではね、黙っておきたかったんです。私はソラリス天帝カインから、フェイを監視するとういう密命を受けて、行動していたのです。フェイが世界を滅ぼす者であるかそうでないかを見極めて欲しいと、そう私は指示されていたのですよ。"接触者"……。天帝は、フェイのことをそう呼んでいました……。

天帝 これがお前の結論か……。
シタン そうです。陛下。私なりに導き出した答えです。
天帝 アーネンエルベ……なせるというのか？
シタン はい。ヒトにはその可能性があります。もはや管理者は不要なのです。
天帝 "接触者"仇とならぬと？
シタン はい。陛下の仰る通り、フェイがそうであるのならば……。
天帝 ならば託そう……。それが私に出来る贖罪なのだ……。

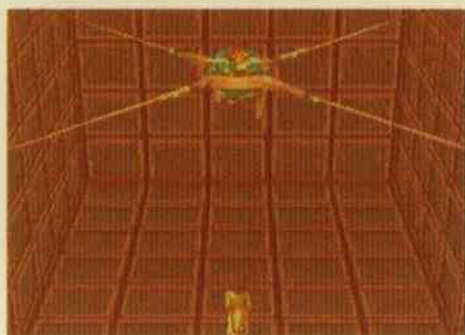
シタン "アーネンエルベ"……。この世界に生まれた人々と共に新たな地平へと歩み進む来るべき神の人。それは"接触者"の運命。天帝はフェイをそう呼んでいました。何故フェイのことをそう呼ぶのかは教えていただけませんでしたが。
シグルド 一体彼は何者なんだ？
シタン 彼はフェイです。そしてエルルを破壊、カールに重傷を負わし、ユグドラシルを沈め、キスレブでリコの部下を…これ以上言う必要はないでしょう。彼は……イドです。

シグルド なんだって！？　イド！？
ジェシー どういうこったそりゃ？
シタン 彼は……フェイはね、解離性同一性障害、つまりは多重人格者なのですよ。
ジェシー か、かい？
シタン 解離性同一性障害、多重人格。一人の人間が同時に複数の人格を持つという一種の精神障害です。
シグルド まさか、そんなことが現実に……。
シタン あるんです。フェイの存在自体がその証拠です。私は、『イド』という破壊者としての人格を内に持ったフェイをずっと見守ってきました。最初の頃は安定していたんです。ラハンで暮らしていた3年間は、全くといって良いほどフェイの解離は起らなかった。だが、それ以後、ラハンが襲われてからは違った。少しずつではありましたが、解離の回数と時間は増えていった。そしてソラリスでの完全なイドの発露が起きたのです。

シグルド　何故そうなってしまったんだ？　ラハンに居た時は大丈夫だったのだろう？
シタン　恐らく……これは本当に憶測ですがグラーフの出現がフェイに影響を与えたのではないかと思います。先輩はご存じでしょうが、フェイはラハンに住む以前は暗殺者イドとしてグラーフと行動を共にしていた。ドミニアの故国、エルルが潰滅されたのはその時です。グラーフは意図的にフェイの内……否、正確には内ではないのですが、イドを発露させようとしていました。
ジェシー　何の為に？
シタン　神を滅ぼす為……グラーフはそう言ってました。それ以外は私にも判りません。ただ、はっきりと言えることは、グラーフはイドの発露は促していたのですが、そのコントロールは出来ていませんでした。
シグルド　つまり持て余していたという訳か？
シタン　ええ。
ジェシー　はっきりしたことが判るまでと言ってたな？　あれはどういう意味なんだ？
シタン　それをこれからお話します。そこが最も重要な点なのです。

フェイ拘束・回想

シタン　……貴方にはどうすることも出来ないんだ。

イド　良く解っているじゃないか。流石はシタン……いや、先生と呼んでいたな。
シタン　会いたかったですよ、イド。会ってあなたと話をしたかった。それもこの脳神経と身体との伝達を機械的に遮断する拘束具のおかげですね。ところでフェイは今、どうしています？
イド　フェイ？　どのフェイのことを言っている？
シタン　フェイが何人もいるのですか？
イド　…………。
シタン　イド？
イド　あいつは、お前達がフェイと呼んでいる奴は寝ているよ。
シタン　寝ているのですか？
イド　あいつは俺が目醒めている間は寝ているんだ。だから俺が何をしているのか全く知らない。
シタン　何故知らないんですか？
イド　当然だろう。あいつは俺の支配下にあるんだからな。俺の記憶を見ることは出来ない。もともとあいつは存在しないはずのフェイ。あの男によって無理矢理作り出された人格。臆病者の部屋の間借り人さ……。
シタン　あの男？
イド　俺達の父親。カーンだ。あの男は俺の人格そのものを意識の深層に封印した。どういう方法でかは判らんがな。今のフェイはその時生まれたんだよ。

シタン　臆病者とは誰のことを指しているんですか？

イド　…………。奴のことを聞いてどうしようっていうんだ？　お前に何か出来るとでも思っているのか？

シタン　あなたのような、本当の多重人格者と話が出来るんです。滅多にあることじゃない。学問の徒として非常に興味深い実例です。

イド　ひどい友人を持ったものだなフェイも。気に入ったよ、先生。だがあんな奴のことはどうだっていいんだよ。所詮はでき損ない。“フェイという存在”の主たる資格もない臆病者だ。全ての現実から逃げ出した見下げ果てた奴。俺に支配されても、何一つ言い返そうとしない情けない奴。生きることを拒否した臆病者だ。消えてしまえばいい！　なのに何故奴は存在する！　何故消えない！　畜生……、俺と同じ身体に存在するというだけで虫酸が走る……。

シタン　話題を変えましょう。何故、あなた方の心は分かれてしまったのか、それを教えて欲しいんです。現時点での管理者であるあなたならば、それを知っているでしょう？　人の心が完全に解離してしまう事は普通ではありえないことだ。過去に何か大きな精神的外傷となるような出来事でもなければね。

イド　俺に思い出話でもしろというのか？　勘違いするなよ。俺は、お前に質問の機会なぞ与えちゃいない。拘束具で拘束されているからといっていい気になるな。この程度の拘束、その気になればすぐさま打ち破って、お前をくびり殺すことだって出来る。そのことを忘れるな。

シタン　では何故やらないんです？

イド　…………。

シタン　かわりにお答えしましょうか？　あなたはフェイをコントロール仕切れていないんでしょう？　完全には征服出来ていないんだ。たとえ今ここで、この拘束を打ち破ったとしても、それには多大な精神的エネルギーを消費してしまう。フェイの人格を御せていないあなたは、精神的エネルギーの消費によって、再びフェイの人格に取って代わられてしまい、ステージからおりなくてはならない。当然次に発露出来る日は判らない。だからやらない。違いますか？

イド　本当によく解っているじゃないか。そう、確かに俺は、あいつを……。

シタン　どうしました？　イド。

イド　貴様に無理矢理ステージに立たされたからな。あいつが目醒めやがった。だがな、本来ならば、俺はもう自分の意志でステージに立つ事が出来るんだ。だが依然果たせない。これはあの女のせいだ。あの女の存在がフェイをのさばらせている。

シタン　それはエリィの事ですか？

イド　あの女は……同じだ。みんな。だから……消し去ってやる……。

シタン　解らない。私には解りませんよイド。

イド　解る必要なんてない。ただその時が来たらあるがままを受け入れればいい。現実と死をな……。じゃあな。貴様も、いずれ消してやる……。

女王の間

シタン 現在のフェイの人格は、父親によって、何らかの方法でその情動部分を封印され……。まっさらとなったイドの人格の基礎部分……コンピューターにたとえるなら、OSに相当する部分の上に構築された模擬人格なんです。であるが故に、フェイには過去の記憶がないんです。イドとして生きてきた十年あまりの時間はイドが管理している記憶。イドが封印される前には存在していなかった今のフェイが知るはずがない。イドが記憶を渡さない限りね。現在のフェイの人格は、ラハンでの3年間の生活の中で、人の反応を学習することによって獲得された未発達の人格なんです。だから突発的事態や情動に対して対処しきれなくなるんですよ。エリィ、フェイと一番長い時間、行動を共にしていた貴方なら、解るんじゃないですか？　彼は精神的に不安定な時がままあったでしょう？　そううつが激しかったり、突然激昂してみたり……。

エリィ ……。ええ……。

ジェシー 彼の現在の人格は、仮初のものだってのか？

シタン そうは言ってません。現在のフェイはそれはそれで一つの人格ですからね。ただ、構造上はイドの部分を基礎として構築されていますから下位の人格である訳なんです。だからイドが発露している時はその記憶がない。

ジェシー だったら、いつかイドに飲み込まれるってこともあるんじゃねえか？

シタン ええ、イドとフェイだけならね。だがどうやらそうではないらしい。イドはフェイの精神的エネルギーが弱まったときに発露する。上位人格であるはずのイドが、下位人格であるはずのフェイに、抑制されていること自体がおかしいんですよ。フェイには明らかに第三の人格が存在する。臆病者とイドが呼ぶ存在。私はね、この臆病者と呼ばれる人格こそがフェイ本来の人格なんじゃないかと思うんです。イドの発露はフェイによって、制限されているのではなく、彼が臆病者と呼ぶ人格によって抑制されているのではないかと。

ジェシー ……ってことは、つまりどうなんだよ？

シタン イドはこの臆病者を憎み、さげすむと同時に、明らかに恐れている。そしてある意味において、この臆病者は現在フェイの表出を手助けしているともとれる訳です。どういった原因があってこの第三の人格、いえ、フェイ本来の人格が表出しないのかは判りませんが……。これが目醒めればイドとの合一……つまり元の一つの人格に戻れる可能性も出てくるのではないかと私は確信したんです。

ジェシー そりゃ確実なのか？

シタン 恐らく。ですが、一体どうすれば目醒めさせられるかまでは判りません。それを聞き出す前に、再びイドは引っ込んでしまいましたし、その後があれですからね。基本的にフェイ自身の存在が虚ろになるような出来事さえなければ、フェイはフェイでいられる訳です。しかし、彼をとりまく周囲がそれを許さないでしょう。平穏な場所で暮らせるのが一番なんですが……。

会議室

――― あやつはラカン……いや、黒衣の男、グラーフの再来だ！　即刻封印せねば、いかなる事態を引き起こすか判ったものではない！

ゼファー　おやめなさい！　せめてワイズマンが戻ってから決議をしてもよいのではないですか？

――― 軍師とはいえ、何故それをあの男に？　カーン亡き後、女王たっての取り立てということで黙っておりましたが、本来あのような素性の知れぬ者を何故？

ゼファー　それは……。

――― 現実をしかと見るべきです！　あの力の存在を！

バルト　ちょっと待ってくれ。グラーフの再来ってのはどういうこった？

――― 崩壊の日はグラーフによってもたらされたのだ。グラーフがディアボロスを操って、この世界を壊滅させたのだ。そしてイドの力は、あまりにもそのグラーフに似すぎている。そんな危険な存在を野放しには出来ない。即刻カーボナイト凍結にするべきだ。でなければいつまた……。

エリィ　そんな！　だって今のフェイはフェイなんでしょ？　だったら……

――― だが彼は危険過ぎる！　考えても見たまえ、あのソラリス帝都を単独で破壊してしまったんだぞ！　野放しには出来ん！

ジェシー　それだけじゃねぇな。過去、奴＜イド＞によって潰滅された都市は数知れない。目的は判らねぇが、それには必ずグラーフとカレルレンが絡んでいた。その一つがエルル。エレメンツのドミニアの故郷だ。ソラリスに反逆したエルルの粛清はイドによって行われた。その能力を見極めるためにな。結果、エルルだけでなく、その場に居合わせたソラリスの部隊も全滅だったが……。

バルト　あいつはユグドラシルを……俺達を……。

リコ　下水道でやられた、俺の手下連中も、やっぱりヤツに……。

エリィ　みんなどうして！？　仲間でしょ！？

シタン　どうやら皆さんの意見は一致しているようですね……。リスクが、大き過ぎます。

エリィ　先生！？　そんな……ひど過ぎるわ！

ゼファー　……。

――― 決まりですな。それでは、あの男は翌日にカーボナイト凍結処理とする！！

監房

フェイ 話ならさっき先生から聞いたよ。イド……か。……俺の中に、もう一人の俺がいるなんて……。
エリィ でも、今のフェイは私の知ってるいつものフェイよ。ちゃんと元に戻れたじゃない。だから、そんなに思い詰めないで。
フェイ 俺は、かつてこの世界全てを消滅させた、グラーフの再来なんだそうだ。グラーフは元はラカンという地上人だったらしい……。
エリィ そんなの出任せに決まってる！ あの人達は、単にあなたの力を目の当たりにして、混乱しているだけよ！
フェイ グラーフは以前俺を神を滅ぼす者と呼んだ。今なら……その言葉の意味が解る気がするよ。俺<イド>の力が少なくともグラーフと同質のものであるのなら……俺は……。
エリィ 逃げよう？ グラーフが、戦いの場がイドを引き出すのなら、二人で戦いのないところに行こう？
フェイ そんなことしたらお前の立場は……。
エリィ いいの……。私にも、もう帰る場所はないから……。
フェイ ありがとう、エリィ。でもだめだ。たとえ戦場から離れたからといってイドが現れないという保証は何処にもない。それに……。俺はエリィを殺そうとした……。それでもお前は平気なのか？
エリィ 本気で私を殺そうとしていたなら出来たはずでしょ？ だってイドの、もう一人のあなたの力はあんなものじゃないもの。でもあなたはそれをしなかった。すんでのところで外してくれた。それって今のあなた自身の意志が働いているってことじゃないかしら。それに……、もしあなたがイドに支配されて、周囲の人全てを敵にまわすことになっても……私だけは一緒にいてあげる。……だって……だって……一人じゃ寂しいものね。いま開けるわ。行きましょう、フェイ。
フェイ エリィ……。

ギアドック

シタン そろそろ来る頃なんじゃないかと思ってましたよ……。
エリィ 止めても無駄ですよ。邪魔をするならたとえあなただろうと……！！
シタン 女性がそんな物騒な言葉使いをしてはいけませんよ。私は見送りに来ただけです。
エリィ ？
シタン ヴェルトールの補給は済ませておきました。いつでも発進できます。

エリィ　……先生。
シタン　……しかし、エリィ、あなたのギアは修理中で使えません。
エリィ　え、じゃあ、あたしは……？
シタン　例のギア・バーラーがあるでしょう。あれを拝借すれば……。
フェイ　そんな。シェバトのものを勝手に持ってくなんて……。
シタン　あの機体の適合者はエリィしかいません。どうせ誰も乗れないのですから同じことです。
エリィ　いや……。いやっ！！　あれにだけは絶対乗りたくない！！
フェイ　エリィ……？　どうしたんだ？
エリィ　なんかとても怖いの……、だから、絶対いや！！
シタン　困りましたね……。
バルト　仲良く相乗りってのはどうだ？
フェイ　みんな……？
バルト　すまねぇ……、フェイ。
ビリー　ごめんなさい……。
マルー　ごめんね……。
フェイ　いや……。ありがとう、みんな。
シタン　ささ、名残惜しいのは分かりますが、夜が明けないうちに。レーダーに細工をしておきましたから大丈夫だと思いますがね！

●ヴェルトール発進

シタン　……行ってしまいましたね。
エメラダ　フェイ……どこ……。
シタン　フェイたちは遠くへ行ってしまったのですよ。
エメラダ　私……行く……。

ガゼル法院

――――　カインめ……ヒュウガごときと下らぬ茶番を仕組みおって……。
――――　数値化されることによってより高度な論理的思考を得ることとなった我々とはやはり違うな……。カインはヒトの形にとらわれすぎている。
――――　それにしても……。ただの一機でエテメンアンキを破壊してしまうとは……。奴の力、侮れん……。
――――　もはや、我々には時間がない。鍵だ、鍵を使うのだ……。

カレルレン　流石に少し肝を冷やしたか？
――――　カレルレンか……。カインの様子は？
カレルレン　いつもの延命処理中だ。あと少しは……保つだろう……。
――――　間に合わぬ可能性もある訳か……。
カレルレン　どうかな……。ところで、鍵を使うと言っていたが？　奴を消せる保証でもあるのか？
――――　それは判らん。相手が相手だ……奴が“接触者”であるならば変異しない可能性もある。代を重ねた生命体。確率の問題だ。

—— だからといって、手をこまねいている訳にもいかぬ。
—— 左様。このままでは過去の失敗の繰り返し。二度目のつまづきは許されぬ。
カレルレン まあ、そう焦るな。奴のもとにはラムサスを向かわせた。
—— あのような出来損ないに何が出来る？　エテメンアンキの防空すら満足にできぬ“塵”になぞ何も期待出来ぬのではないか？
カレルレン “アニマの器”、託してもか？
—— “器”だと……？
カレルレン 以前から回収済みであった器の一つと奴のギアを同調させた。これならば、文句はあるまい。奴も真の力を発揮出来るはずだ。
—— お前自ら手を下すというのか？　転生しているとはいえあれはかつての仲間であろう？　解らぬ奴よ。
カレルレン ヒトの情などという感情はとうの昔に捨て去った。今の私に必要なのは“彼女”だけだ。
—— それすらも、情ではないと言うか。
カレルレン ……当然だ。
—— 虚勢ではないと……。
カレルレン しつこいぞ。今、この場で消されたいか？
—— まあいい。そうしておくとしよう。

フェイを追うラムサス

ラムサス エレハイム……だと？
カレルレン そうだ。場所はここだ。お前には彼女を連れ帰ってきてもらいたい。私にとって大切な女性なのでな。
ラムサス ふざけるな。何故この俺が貴様の手足とならねばならん。その女が必要ならば貴様自ら出ればよかろう。
カレルレン 至極当然の答えだな。だがこれを見てもそういえるかな？
ラムサス こ、これは……。
カレルレン お前のギアとアニマの器を同調させた……。ギア・バーラーだ。そして彼女は今フェイといる。
ラムサス 何だと！？
カレルレン フェイに対する度重なる敗北……。ひとえにこれはギアの性能の差……私はそう思っているよ。どうだ？　お前ならばこの力、100%引き出せよう？　もっとも、これで勝てなければお前は本当の“塵”だがな。
ラムサス ……。
カレルレン 行ってくれるな？　ラムサス。

ミァン　行くの？　カール。
ラムサス　ああ。奴だけは俺のこの手で消し去らねばならん。
ミァン　気を付けて。誰が何と言おうとも、私はあなたの力を信じているわ。

ラムサス　“フェイ”！　忌々しい名前。俺の存在を拒む名前。俺は独力でここまで上り詰めた。だがそれもまたあいつのせいで……。！？　あの機影は……！　あいつだ！　俺は塵じゃない！　塵なんかじゃ！

フェイ　何だ……あの機体は……？
エリィ　！！　ギア・バーラー！！　しかも、このデータの示す数値は……バルトと呼応した機体やシェバトにあった機体とは明らかに違う……。……まさか！？　完全体とでもいうの！？
フェイ　完全体だって……？
エリィ　先生が言ってたでしょ？　ギア・バーラーは人の精神波によってコントロールされてるって。その強さ……、同調率によってポテンシャルが変動する。この数値はまるで、それが完全に同調＜シンクロ＞したかのよう。

ラムサス　遅いっ！　遅いわ！！

エリィ　追いつかれるっ！！

ラムサス　性能が違うのだよっ！　探したぞ、フェイ！！
フェイ　ラムサス！？
ラムサス　少尉を、エレハイムを渡してもらおう！
フェイ　何を！？　何だってエリィをお前らに……。！？　そうか、カレルレンの差し金か。冗談じゃない！　そんなこと聞けるものか！
ラムサス　実力で奪ってやってもいいのだぞ？　ただし、その時は、エレハイム、二度とその腕で抱けると思うな！
エリィ　フェイ！！
フェイ　大丈夫。お前は俺が護る。
ラムサス　良く言った。フェイ、お前からすべてを奪ってやる！！　これが最後の通告だ。エレハイム少尉を渡してもらおう！
フェイ　断るっ！
ラムサス　本当に断るのだな！　後悔しても遅いのだぞ！！
フェイ　ふざけるなっ！
ラムサス　フフフ……よく、わかった。では遠慮無くやらせてもらう。
ラムサス　そらそらそら！　どうした、フェイ！？　その貧弱さは！
この『ヴェンデッタ』の前では貴様もそのヴェルトールも、赤子に等しいぞ！　素晴らしい！　この歴然たる力の差！
ミァン！　観ているか！？　これならば……こいつならば奴を倒せる！　くっくっくっ……ふははははは！

エリィ　…………聞いて、ラムサス！　私、投降します！！　だから今すぐ攻撃をやめてっ！
フェイ　何を言ってるんだ！　そんなことしたら……。
エリィ　彼の目的は私よ！　私のせいであなたまで危険に巻き込む訳にはいかないもの！

エリィ　きゃあっ！　攻撃をやめてっ！　ラムサス！　私が目的なら、私だけを！

ラムサス　ふははははは！　勝てる！　勝てるぞっ！　私は塵じゃないっ！！

フェイ　ラムサス……！？　聞えていないのか……？
エリィ　ギアの性能に酔いしれて自分を見失っているんだわ……。フェイ、逃げて！

ラムサス　これで終わりだ！　フェイ！！

フェイ　うわぁーーーーーーっ！！
エリィ　きゃあーーーーーーっ！！

ラムサス　ぬははは、私は塵じゃない！　うひ、うひゃははは……。はぁ、はぁ…………ん？　！！　少尉ごと堕としてしまったか……。ちっ、指令を忘れていた……。ふん……まあ、いい……カレルレンの指令など、知ったことか……。

樹海

フェイ　畜生……。血が……血が止まらない……。このままじゃ……このままじゃエリィが死んでしまう……！
エリィ　……う……
フェイ　エリィ！　しっかりしろっ！　エリィ！　助けてやる、絶対に助けてやるからな！　エリィ……！！

●フェイの夢

フェイ 夢……俺は夢を見た……。それは忘れていた記憶だったのかもしれない……。夢……記憶……眠りにつくと思い出すもの……目醒めているとき忘れているもの……。記憶の深層は、夢の表層……そのどちらが現実でどちらが虚構なのか……目醒めてみなければ判らない……。あるいは、そのどちらもが現実でどちらもが虚構なのかもしれない……。境界のない……とてもあいまいなもの……。自分という存在と同じくらい虚ろなもの……。そんな夢を、俺は見た……。長い……語り尽くせない程の長い長い夢を見た……。

夢の中の女性 ……カン……ラカ……ン……ラカン、どうかしたの？　ラカン？

フェイ その夢の中で、俺は『ラカン』という名で呼ばれていた……。俺は絵描きだった……。その絵描きとしての腕を見込まれた俺は今こうしてニサンの聖母『ソフィア』の肖像画を描いている……。

ラカン ああ……、いや、何でもないんです。

ノソフィア ……今日はもうおしまいにしましょうか？　何だか疲れた顔しているもの。……大丈夫？

ラカン ええ、大丈夫ですよ。……そうですね。今日はもうやめにしましょう。“ソフィア”様こそお疲れなのではないですか？

ソフィア もう。二人きりの時はその呼び方はやめてと言ったでしょう？……昔通り、“エリィ”でいいわ。それと敬語もよしてちょうだい。

ラカン え、ああ、わかった。そうし……いや、そうするよ。“エリィ”……。

フェイ 『エリィ』……。彼女がその名で呼ばれていた頃、俺達は出会った……。その時の俺達にはお互いの立場も何も関係なかった……。それで良かった……ただそこに二人がいる……それだけでよかった……。

ラカン 一週間ほど……、自宅に戻ろうと思うんだ。

エリィ あら、どうして？

ラカン 絵の具が切れかけてるんだ。だから……、新しいのを作ってこなきゃいけない。

エリィ その為に、わざわざあそこまで帰るの？

ラカン あそこでないと、いい顔料がとれないからね。

エリィ そう……。では、教団の者＜カハル＞にギアで送らせましょう。それなら早く着くし、なにより安全だわ。

フェイ 俺は嘘を吐いた……。絵の具が尽きかけていたのではなかった。肖像画が完成してしまうのが恐かった。いつまでも描いていたかった。だから時間を稼ぎたかった……。こんな俺を彼女はさげすむだろうか……。否、いつもと同様優しく微笑んでくれるだろう。彼女はそういう女性だから……。

フェイ 夢……。ラカンという男の生涯……。そして何人もの男の生涯……。それが夢の全て……。目醒めてしまった今となっては全く憶い出せない程、それほど長く切ない夢の数々……。その夢の中で俺は一人の女を愛していた……。いつの日も、いつの時代もそれは変わらなかった……。女の名は……。

フェイ その夢は、俺を変えてくれた……。その夢がきっかけとなって俺は自分が何をすべきなのか判ったような気がする……。何を果たさねばならないかを……。長い、長い、夢の記憶……。それは魂の記憶なのかもしれない……。

●エリイの夢

エリィ 夢……。私は夢を見た……。それは遥かな時の彼方の記憶だったのかもしれない……。夢……記憶…………あの日、……あの時、伝えられなかった言葉……果たせなかった想い……言葉と想い……二つの関係……言葉がなければ想いは伝わらず……想いがなければ言葉は消えてしまう……。どちらも大切なもの……。決して分かてないもの……。天使の両翼……男と女……変えられない運命……変えたいと願う気持ち……私を変えてくれる人との出会い……そして変わっていく私……そんな夢を、私は見た……。長い……語り尽くせない程の長い長い夢を見た……。

夢の中の女性 ……カン……ラカ……ン……ラカン、どうかしたの？　ラカン？

エリィ その夢の中で、私は『ソフィア』という名で呼ばれていた……。聖母ソフィア……。象徴としての名前……人の寄る辺となる者に冠される名前……私がそれを望もうと、望むまいと運命られた名前……。

ラカン ああ……、いや、何でもないんです。
ソフィア ……今日はもうおしまいにしましょうか？　何だか疲れた顔しているもの。……大丈夫？
ラカン ええ、大丈夫ですよ。……そうですね。今日はもうやめにしましょう。"ソフィア"様こそお疲れなのではないですか？
ソフィア もう。二人きりの時はその呼び方はやめてと言ったでしょう？　……昔通り、"エリィ"でいいわ。それと敬語もよしてちょうだい。
ラカン え、ああ、わかった。そうし……いや、そうするよ。"エリィ"……。

エリィ 『エレハイム』……私はその名前が好きだった……。彼と初めて出会った時、そう呼ばれていたから……私の本当の名前だから……。

ラカン 一週間ほど……、自宅に戻ろうと思うんだ。
エリィ あら、どうして？
ラカン 絵の具が切れかけてるんだ。だから……、新しいのを作ってこなきゃいけない。
エリィ その為に、わざわざあそこまで帰るの？
ラカン あそこでないと、いい顔料がとれないからね。
エリィ そう……。では、教団の者<カハル>にギアで送らせましょう。それなら早く着くし、なにより安全だわ。

エリィ いつからだろう……彼が私を拒むようになったのは……。二人を隔てる壁……『立場』……『境遇』……彼はそういったものを拒絶していた……。違う……それは私自身……。だから……そんなものいらない……。ありのままの二人でありたい……。そう私は願っていた……。だから……私は描いてもらっている……。こうしてありのままの私を……。

エリィ 夢……。ソフィアという女の生涯……。そして何人もの女の生涯……。それが夢の全て……。目醒めてしまった今となっては全く憶い出せない程、それほど長く切ない夢の数々……。その夢の中で私は一人の男を愛していた……。いつの日も、いつの時代もそれは変わらなかった……。男の名は……。

エリィ その夢は、私を変えてくれた……。その夢がきっかけとなって、私は自分が何をすべきなのか判ったような気がする……何を果たさねばならないかを……。長い、長い、夢の記憶……。それは魂の記憶なのかもしれない……。

トーラの研究所

謎の爺さん フム、やっと目を覚ましたようじゃな……。ヨッコラショ。
フェイ 俺の体、治ってる。
謎の爺さん お前さんはそこのナノリアクターで３週間も眠っておったのじゃ。
フェイ ナノリアクター？　あんたは一体……？
謎の爺さん わしか……？　名前など忘れてしもうたわい……。まぁ、トーラと呼ぶ奴もおるがの。お前さんの方は完治したようじゃな。むごたらしい傷じゃったが若さと体力のおかげかのぅ……。じゃが連れの方はお前さんより損傷がひどくてな、もうしばらくかかりそうじゃ……。
フェイ もう１人……？　エリィ！！　エリィ……。
トーラ これ！　いつまでも婦女子の裸体をしげしげ眺めとるんじゃない！　こっちに来んか！
フェイ ！！　エリィ……？

シタン　フェイ！！
フェイ　シタン先生！！
シタン　トーラ先生から連絡を受けて駆けつけたんですよ！　いやぁ、よかった、幸運にも落下先が先生の研究所の近くとは……。
トーラ　フン、研究所なんぞではないわ。"男の隠れ家" じゃよ。シタン殿からお前さんらの事は聞いておる。びっくりしたぞぃ、血だらけのあべっくが倒れておったのじゃからな。
フェイ　（あべっく……）
シタン　何はともあれ、九死に一生を得たのです。よく礼を言うのですよ！
フェイ　トーラ爺さん、俺、本当に感謝してる……。エリィを助けてくれて……。でもさ、俺もエリィも体、ズタズタだったのに……。あの機械は……？
トーラ　あれはナノリアクターといってな。物質を原子単位で再構築することの出来る装置じゃ。ナノ技術は人の治療だけでなく理論上はあらゆる物質を創り出すことが出来る。
フェイ　それって、ソラリスにいたあの男……カレルレンが研究しているものと同じ……？
トーラ　そうじゃ。きゃつにナノ技術を教えたのは他でもない、このワシじゃ……。
フェイ　爺さんが？
トーラ　さて、いらん話はこれぐらいにせねば。娘の治療も終わったようじゃ。ああ、お前さんは来んでいい。そこで待っとれ。
フェイ　……。
シタン　フェイ……。
フェイ　エリィ！！
エリィ　フェイ……。わたし……。
トーラ　コホン、さあ、二人は外の空気を吸って来るんじゃ。急激な身体の変化をやわらげてくれるじゃろうて。

森

フェイ　やっぱりエリィだ……。
エリィ　フェイ……？
フェイ　さっきエリィが部屋に入ってきた時……、もしかしてエリィが俺のことも何もかも忘れてしまってるんじゃないかって……。
エリィ　えっ……？
フェイ　だって……、エリィ、なんか前と少し感じが違ったから……。
エリィ　私の顔、変わっちゃった？
フェイ　ううん、そうじゃない、そうじゃないんだ……。何て言うか……、フンイキって言うのかな？　前と少しだけど……。でも、なんか懐かしい感じもしたんだ。初めて会った時も思った……、いつかどこかで会ってたようなあの不思議な気持ち……。
エリィ　フェイ……。
フェイ　ん？
エリィ　私、撃墜されてからのこと、あんまり覚えてないの……。
フェイ　覚えてない方が幸せだよ。

エリィ　でも、どこからか私の名前が聞こえて……、とてもあたたかいものに包まれてたような……、そんな気がしたの。それだけははっきりと覚えてるわ……。ありがとう、フェイ。
フェイ　……エリィ……。
エリィ　フェイ……。
トーラ　おーい、もうそろそろ戻ってくるんじゃ、大事な話がある。
フェイ　……。う、うん、すぐ戻るよ。さ、エリィ、行こうか。
エリィ　え、ええ……。

トーラ　どうじゃ？　体に森の空気が染み込んで気持ち良かったじゃろ？　で、その刻印の解除じゃが……。おぬしらを再生したナノ技術によって解放できる事がわかったんじゃ。このポッドにナノアセンブラーを封入してある。
シタン　そいつを世界中にばらまく事が出来ればいいのですが……。
トーラ　ここの近くに古代の軍事施設があるんじゃが……。そこにあるマスドライバーで射出すれば大気対流で広く世界中に散布することが出来るかもしれんな。わしがじきじき赴きたいとこなんじゃが、いかんせん歳にはかなわんよ……。まぁ、お前さんらの未来のためだ。老人がでしゃばらんと若人が自らの手で道を切り開くのがよかろうて。ほれ。で、な。もちろんただでやってくれとは言っておらん。このリストバンドをつけてみぃ。

フェイ　？
シタン　それが先日、通信でおっしゃっていた？
トーラ　うむ。これはな、ナノ技術を応用した“感情抑制装置”じゃ。そのリストバンドを模した機械から皮下に注入されたナノマシンは、やがて脳神経内に達する。そこで脳内物質であるセロトニンなどを精製し、感情を制御するのじゃ。

フェイ　？？
トーラ　まぁ、少々難しい話じゃったかもしれんが……。要はお前さんの第二人格“イド”の発露を物理的に抑制出来るってことじゃ。
フェイ　イド……。
エリィ　フェイ……。

トーラ　まぁ、理論的には、じゃがな。もひとつ、オマケがあるんじゃ。同様の抑制機構をお前さんのギアにも施しておいたから……。
シタン　例のフェイの中に眠るイドの“力だけ”を任意に解放する……という機構ですか？
トーラ　そうじゃ。名付けて“システムイド”。じゃが、もちろん多用は禁物。最後の切り札として使うんじゃな。
フェイ　エリィ、先生、オレ……。

シタン　フェイ、気に病むことはありません。今のあなたは、私達のよく知っているフェイじゃないですか。自分の心に自信を持って……。ね。
トーラ　まぁ、信ずるも信ぜずもお前さん次第じゃ。
フェイ　……。
トーラ　ん？　客人かの？

シェバトの使者　フェイ殿……、大変でございます！！　今日、シェバトにおいてアヴェとキスレブの和平調印が行われていたのですが……。そのシェバトにソラリスの機動兵器が近づきつつあるのです！　是非お力をお貸し下さい！
トーラ　そんなことはこの若者には関係の無い事じゃ！！
シェバトの使者　トーラ様！！
トーラ　勝手なことばかりぬかしおって。シタン殿から聞いたぞ。イドのコントロールが可能になったと聞いてのこのこと現れおって……。お主等は恥ずかしくないのか？　"あの頃" から全く変わっとらんな。己の立場の保全しか考えとらん。一度はお前を葬り去ろうとした、こやつらの言うことなんぞ聞く必要はないぞ、フェイ！
フェイ　でも……。
シタン　……。
エリィ　行ってあげて。マスドライバーには私が行くから……。
フェイ　エリィ？
エリィ　以前はどうあれ、今シェバトはあなたの力を必要としている。それは一部の特別な人にとっては都合のいいことなのかもしれない。だけど、国や世界は多くの普通の人々の生活があって、初めて成り立っている。そのことを忘れないで。その生活を守るためにバルト達は戦っているんでしょ？　だから、だから行ってあげて！
フェイ　いいのか？　お前の方はどうするんだ？
エリィ　私のことだったら心配しないで。何とかなるから。
フェイ　しかし一人じゃ……。
シタン　私が同行しましょう。なに、心配せずとも結構。私専用のギア・バーラーを持って来てありますから。
フェイ　先生のギア・バーラー……？
シタン　ギア・バーラー"E・フェンリル"。ソラリス守護天使当時に本国から持ち出してあったものでね。いざという時の為に、ガスパール師の下に預けておいたんですよ。
フェイ　わかった。先生、エリィのこと頼むよ。エリィ、気をつけてな。
エリィ　うん。
シェバトの使者　かたじけない、フェイ殿！！
トーラ　フン！　勝手にするがいい。
フェイ　場所はイグニスなんだな？
シェバトの使者　はい。イグニスの都市破壊を目的とする敵は、ブレイダブリクを半壊させ、4時間後にはニサン上空に達するものと。シェバトは総力をあげてこれを撃退する構えです。
フェイ　4時間……ギリギリじゃないか！
トーラ　なに、心配いらん。お前のギアはワシとバルタザールがナノマシンで修復しておいた。以前より遥かにパワーアップしとる。半分の時間で着くはずだ。
フェイ　えっ？　バル爺さんがいるのか？
シタン　エメラダも来ていますよ。

フェイ　こいつは凄い！

バル爺　久しぶりじゃな……。神を滅ぼす者の憑代……。まさかわしがまたこいつをいじるとはな……。

フェイ　どうしてトーラ爺さんもバル爺さんも俺たちを助けてくれる……？

トーラ　運命……、という言葉では片付けられぬ何かがあるのかもしれんな。それはお前さんがその目で確かめるがよい。

エメラダ　フェイ……、行くの？

フェイ　あぁ、急がないと！　あ、どこへっ？

シェバトの使者　フェイ殿、お急ぎ下さい！

フェイ　あ、ああ。

●フェイ、単独でイグニスへ

シタン　いいんですか？　フェイの為に戦場から離れ、共に静かに暮らそうとしていたのに。

エリィ　私、気付いたんです。現実から逃げてるって……。最初は自分の境遇を彼に重ねていた。フェイなら、私の気持ちを理解してくれるかも……って思ってた。本当に好きだったかどうかなんて判らない……。父様と母様を亡くして、自棄になってたのかもしれない。

シタン　エリィ……。

エリィ　それでも……やっぱり……好きなのかな？　フェイのこと……。だからもう一度、フェイはフェイ、私は私に出来ることをしてみようって思うんです。一度離れて、そうやって見つめ直してみたいんです。お互いを……。そして、確かめたい……。自分の本当の気持ちを……。

シタン　……。それにしても変わりましたね、エリィ。この三週間の間に何があったんです？

エリィ　そうですか？　別に私、何も変わっていないと思うけど……。

シタン　いえ、変わりましたよ。何か、こう、大人になったっていうか……。お母さんのような感じがしますね。

エリィ　もうっ！　まだ18ですよ。先生のお母さんになれる程、歳じゃありません！

シタン　いや、これは失礼。何となくそんな印象を受けただけですよ。

エリィ　それじゃあ先生、私、行きます。

シタン　ええ。私もここでの用事を済ませたらすぐに後を……。

エメラダ　あ、あたしも行く。
エリィ　え？
エメラダ　行く！
エリィ　エメラダ、こんな事に人数は割けないわ。私一人で大丈夫よ。
エメラダ　エリィが行くなら、行く。絶対行く。
エリィ　エメラダ……？
エメラダ　行くったら、行く！
シタン　良いじゃないですか。ソラリスもリミッターの事を薄々感づいているでしょう。何か妨害があるかもしれません。あなた一人では心許ないでしょう。エメラダの能力はこの仕事にうってつけでしょう。（……それにこの様子じゃ止めてもついてっちゃいますよ。私が行くまでうまくやって下さい。ね？）
エリィ　仕方ないわね。じゃ、二人で頑張ろうか？
エメラダ　あたし一人でも十分だよ。エリィは後ろで見てな。

研究室

トーラ　むむぅ……。フムフム……。！！　やはりな……。フェイ達をワシの所まで運んできたのはお前だったか……。あの二人を見てすぐに気がついたよ。否、気がつかないはずはないのだ。あの頃のお前と……彼女にうりふたつなのだからな。のう、ラカン……。

ガゼル法院

——　何だと！？　生きておるというのか……。
カレルレン　ああ。
——　馬鹿な。ラムサスが撃墜したのではなかったのか？
カレルレン　奴が撃墜したギアには彼女が同乗していたのだぞ。死んでもらっては困る。
——　“母”ならばおるではないか……。たとえ“対存在”としても、今の“母”さえおれば……。
カレルレン　私にとって、それは完全とは言えん。

——— こだわるな……。ヒトの情、捨てたのではなかったのか？

カレルレン 下らんな……。奴には再びラムサスを差し向ける。異存はあるまい？　現在の場所は判るか？

——— エテメンアンキは崩壊したが、メモリーキューブの機能はまだ一部が生きている。個々人の場所位ならば特定出来る。

——— 暫し待て……。撃墜された場所から離れ、イグニスへと向かっている途中のようだ。

カレルレン そうか。あの地を離れたか……（ということは……刻印の解除、時間の問題だな……）

——— 何か言ったか？

カレルレン 何でもない。まあ、そこで吉報でも待っていろ。

——— 娘の回収はどうするのだ？　鍵が鳴動を始めておる。神の復活の時が近づきつつあるのだ。

カレルレン 娘の回収はいつでも出来るよ。今でなくてもな……。いずれは……。

フェイ・回想

フェイ イグニスへと向かう途中、俺は奴と再会した。カーラン・ラムサス……ラムサスはギア・バーラー『ヴェンデッタ』を駆り、再び俺の前に立ちふさがった。避けられない戦いだった。俺はセカンドに搭載された新機能、「システム・イド」を解放させた。

<対　ヴェンデッタ戦>

フェイ ラムサスの絶対的な自信は砕かれた。驚きと恨みの声を残し、ラムサスの機体は樹海の中に消えていった。何故、奴がここまで俺に固執するのかは解らない。ただ、奴は言った。お前さえいなければ……と。

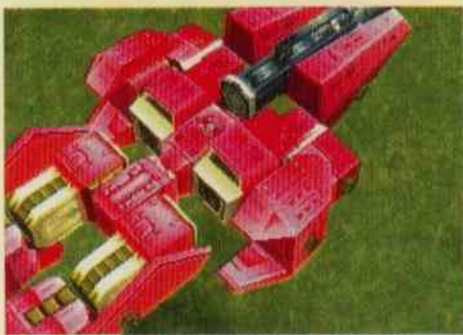
エリィ・回想

エリィ　ナノマシン散布の為、ゼボイム文明遺跡の一つ、マスドライバー施設へと私とエメラダは向かった。幸いにして、施設の動力は生きており私達は労せずして中央制御室を目指すことが出来た。途中、ゼボイム時代に作られたミサイル、大型ロケットの類が、さながら……太古文明人の墓標の様に立っていた。それは、おごりたかぶり、お互いを拒絶しあった人々の墓所だった。中央制御室にたどり着いた私達は、合流した先生の協力を得て、マスドライバーを起動。刻印＜リミッター＞解除の為のナノマシンの入ったカプセルの射出に成功した。大気上層に散布されたナノマシンは自己増殖を開始し、世界全体に拡がっていった。太陽光を受けて輝くナノマシン。大空を流れる大河……。そのきらめきは、全ての人の「鎖」を外し真の自由を取り戻そうとする私達の希望の光となるはずだった……。

フェイ・回想

フェイ　ソラリスの「地上制圧用機動兵器」の侵攻は激しく、シェバトやニサンの通常のギア部隊で防ぎきれるものではなかった。ソラリス機動兵器のニサン到達は時間の問題だった。俺達はソラリスのギア部隊を退けつつ、機動兵器に対抗する「唯一の手段」を得る為、キスレブ帝都、総統府へと向かった。

キスレブ

フェイ　「キスレブ総統府」その実態は、過去のソラリスとの大戦後、バルトの祖先、「ロニ・ファティマ」によって建造された「秘戦艦」であった。秘戦艦は、その存在を隠されたまま、その後、この地に建国されたキスレブ帝都の一部として使用されていたのだった。その事実を過去の記録から突き止めたバルトは、秘戦艦を起動させ、ソラリス機動兵器に対抗しようとした。「潜砂艦ユグドラシル」をそのコントロール中枢、及び、主兵装として使用する秘戦艦は……500年の長き眠りか

ら目醒め、その真の姿を俺達の前に現した。『新たな主』を得た秘戦艦を駆り、俺達は機動兵器の前に立った。

バルト　っしゃぁぁぁ！　変形完了だっ！！　いくぜ、バケモノ！

＜ユグドラシル4対ハリケーン要塞戦＞

フェイ・回想

ソラリス　機動兵器は破壊され……イグニスに一時の安息が訪れた。和平は調印され、イグニスの地は、500年の時を経て、再び一つとなった。沸き返るアヴェ、ニサン、キスレブ、シェバト……。それを祝うかのように空にきらめきが走った。エリィ達の手によって、大気中にナノマシンが散布されたのだ。……異変はその時起こった。勝利の凱歌は、やがてそこここから響きわたる……阿鼻叫喚へと転調した……。最初は何が起きたのか全く解らなかった。俺達は……この世ならざるものを目の当たりにした。人々が次々と異形のものへと変異していった。それは、過去、カレルレンに施された刻印＜リミッター＞がナノマシンによって外されたことを引き金として起きた事態……。本来の能力が開花された……『ヒト』の姿だった。俺はそのとき、ソラリスでのハマーの言葉を思い出していた。『普通の人間がどうなるか』という言葉を……。

ガゼル法院

―――　神の復活が近づいたことによる自然発芽か……。
―――　しもべの肉体となる者……。鍵を使わずとも、これだけの数が存在していたとはな……。
―――　だが、未だ発芽しない者もいる……。神の肉体に運命られし者達であろう。
―――　あるいは、神に仇なす者達かもしれぬ……。要所のソイレントの再起動を行おう……。
―――　いずれにせよ、中途半端な者達の変異。このままでは使いものにならぬ。
―――　神の使徒。多いにこしたことはない……。

ミァン　あなたによって押さえられていた『鎖』が外れたようね。
カレルレン　別にこれで計画に狂いが生じる訳ではばい。すでに処理済みだよ。先のソラリス帝都爆発の際、大気中に拡散するよう、ナノマシンウィルスを仕掛けておいた。いずれ奴等が刻印を解除することは判っていたからな……。まあ、きわどいタイミングではあったが……。現在のヒトの異形化は、それの初期反応だ……。世界中に広まったウィルスは発芽した原体をその本来のものではなく、コントロールできるものへと変化させている。鍵の発動に頼らずして目醒める者達は必要なのだ。言わば神本来の肉体を乗っ取る為の存在……。
ミァン　神との同化の際に放たれる、トロイの木馬……。文字どおりのウィルス……。でも……、あの子達の思惑とは違うわね……？
カレルレン　当然だ。奴等の好きにはさせんよ。『神の方舟』は私のものだ。
ミァン　……私にとってはどちらでもいいことね。より確実な方へつくだけだから……。

ソイレントシステム

フェイ　ソイレントシステム…過去ソラリスによって創られた施設。この施設は地上の至るところに存在した。当初は生体実験や、人を洗脳することに使われていたのだという……。この施設に、ウェルス……本質的なヒトの姿……と呼ばれるものに変異してしまった人々が集まっていた。ウェルスとなった人の中には健常体の人を襲い、その血と肉をむさぼる者もいた。健常体の人の血肉は、急激な分子変化に伴う苦痛を和らげ、いくばくか命を長らえることが出来たからだった。彼等の命はそれほど短かった……。やがて、重度な変異体の者は、より軽度な変異体である者の血肉をも求めるようになっていった。ソイレントシステムは、そんな変異してしまった人々の肉体を分子レベルで分解融合……より完璧な一個の生命体……『兵器』として作り替える装置だった。それがガゼル法院の“M計画”の真相だった。あの施設に行けば、耐え難い苦痛から解放される……ただそれだけを求めて、人々は集まっていた。そこには救済がある……誰が言い出した訳でもなくそ

の情報は広まっていった……。

エリィ　その変異した血が、『そこに集え』と、人々に語りかけていたのかもしれなかった……。私達はソイレントシステムを破壊する為、……そこへ赴いた。そこでは限られた生への免罪符を手にしようとする人々が互いに我先にと争っていた……。生へと固執する、醜い争い……。傍目にはそう映るのかもしれない……。でも、私の瞳に映るそれは……必死に生きようとしている、一人一人の『人の自然な姿』だった。『持てる者と持たざる者』がそこには存在していた……。そして……、かつてのソラリスの仲間達もそこにいた……。彼等は私達の血肉を要求した。『持てる者は、持たざる者』へ分け与えるべきだ……。そう彼等は言った。持てる者である私達に、この苦しみが解るのか……。そうも言った。私は答えられなかった……。何を言ってもそれは、持てる者のおごりとして聞こえてしまうのだから……。それでも彼等の苦痛が癒されるのであれば……私はそう決意していた……。遠い過去……夢の記憶の中の自分がそうであったように……。その時、突如システムが暴走した。集合処理中の一体の『集合体』と呼ばれる巨大生命体が生成装置の隔壁を突き破り私達の前に姿を現した。人の姿を失ったそれ……かつて人であったモノはその場に居あわせた救済を求める人々を食らっていった……。私達は戦うしかなかった……。人々を救うにはそれしかなかったから……。そして、『彼』を救うにはそうするしかなかったから……。苦痛よりも死を……。その、かつて人であったモノの瞳は、そう私達に訴えかけていたから……。

エリィ　シタン先生……私に刀を貸して下さい。

・ううっ……ああ……。

・結局私、あなたに何もしてあげられなかった。もう今の私には、こうして傷の痛みを消してあげることしか…………。

・ああ、本当にごめんなさい……。

・エリィ……おまえ……。

エリィ　お願い！　私の話を聞いて！　同じ人同士、争いあうのはやめて！　この施設は、ガゼル法院の途方もない計画の為に作られた施設なのよ。変異してしまった人達を、自らの野望の手足となるべき兵器に作り替える施設。彼等による民族浄化の一環なのよ。

ソフィア幻　確かに今、彼等の庇護の傘の下に入れば、絶対的な死は免れられるかもしれない。でもそれが人として生きることにつながるの？　他人を糧として、心も無く、ただ自分一人だけが、生きて何の意味があるというの？

エリィ　みんな誰かに好かれたい、必要とされたいって思うから、他人を求める……。一人じゃ寂しいから、お互い寄り添い合って生きる……。それが人間……。そうやって人は生きてきたの。片手だけでは手は鳴らないでしょ？

ソフィア幻　あなた方の苦痛を癒すのに、私の血肉が必要なら、いくらでもあげます。だから……どうか人であることの尊厳を捨てないで……。人の心だけは離さないで……。

フェイ　エリィ……！　大丈夫か！？　何故こんな……。

エリィ　馬鹿なことをした……って？

フェイ　いや……。

エリィ　私は、今の私が出来ることをしただけ。偽善者なのかもしれない。持てる者のゆとりなのかもしれない……。持たざる者への哀れみなのかもしれない……。でもね、そうやって少しずつ自分の中の生命を与えていく事の喜びを知ることが出来れば、いつか本当の意味で、人は人に愛を与えることが出来るって私は信じている。だから……。

フェイ　エリィ……。

フェイ・回想

フェイ　その後、俺達は地上に設置されたソイレントシステムの全てを破壊してまわり、そこに収容されていた人々を解放していった。変異体となってしまった人々はニサンが全面的に受け入れてくれ、そこで治療をすることとなった。進行状態の軽い者達はトーラのナノマシンによって体組成を修復、元の体へと戻る事が出来たが、進行状態の重い者はそうはいかなかった……。彼等の身体は辛うじて人の形らしきものを保っておくのが精一杯だった。だが、不思議とソイレントシステムに収容されていた時のようにお互いが存続する為に争うようなことはなくなっていた。もちろん治療によって身体的苦痛が取り払われていたこともあったのだが、それだけではなかった……。ニサンに受け入れられた者達のほとんどがエリィに諭され、人本来の在り方に気付いた者達ばかりだった。エリィはソイレント破壊活動の合間を見てはニサンに収容されている人々の看護をして回っていた。変異した身体の手当てをし、寄る辺を失いかけつつある人々の話相手もしていた……。

エリィのその姿はこのニサンを創った女性の生き写しだった……。『聖母ソフィア』……。誰ともなく、エリィの事をそのソフィアの再来だと噂するようになっていた。

フェイ　ニサンに行けば救済が得られる……。そんな情報も広まり、ニサンには各地から肉体的、精神的救いを求める人々が集まって来ていた。ソラリスの管理下から解放された地上人達が一ヶ所に集結しつつあったのだ。

ガゼル法院

――――　神のしもべの肉体に運命られし者の発芽。
――――　過去と同じく、ニサンにヒトが集まりつつある。このままでは……。
――――　否、それは、かえって都合が良いかも知れぬぞ。
――――　刻はさし迫っておる。神の肉体となる者、神の目醒めを称えし者達を用意しようではないか。
――――　“ゲーティアの小鍵”、今こそ、発動の時……。
――――　な、何っ！？
――――　カインか！
天帝カイン　お前たち、これ以上何をしようというのだ。“鍵”を使うこと、この私が断じて許さぬぞ！
――――　カイン！　何をする！　神の復活なくして我等の目的は達成されぬのだ！
――――　それとも……神と共に滅びようというのか、カイン……我等の目的を遂行せずして……。
天帝カイン　目的……。それこそ、原初より運命られし鎖。それが自らの意志によるものでないことに、何故お前達は気付かぬのか。
――――　聞く耳、持たぬな……。
――――　そう。これは我等の意志なのだ……。
――――　それに逆らう、と言うのであれば……。
――――　ぐぅおおおっ！
天帝カイン　忘れたか？　お前達が私に従属するものであるということを。このまま消し去ってやってもよいのだぞ？
――――　ぬぅぅぅ……。
天帝カイン　もはや我々の役目は終わった。その舵を次代に渡すのだ。ヒトは滅びはしない……。

フェイ・回想

フェイ 刻印<リミッター>の解放によって一時は混乱に陥った地上人達だったが、それも何とか落ち着きを取り戻し始めていた。俺達は残された『アニマの器』……ギア・バーラーの素体となるべきものを探すことになった。過去発見された器は10……。その約半数が法院の手中にあるという。ゼファーの話では、地上にはまだいくつかの器が眠っているはずだという。事実、ソラリスはそれを探索していた。それを奴等に渡す訳にはいかなかった。過去の記録から、かつてゼファー達が器を見つけるきっかけとなった場所を訪れ、そこから得た情報に従って、ある太古文明の遺跡と思しき場所に向かった。

アニマの器1

エリィ これが……。

ビリー アニマの器の……。誰？　僕に話かけるのは……？　解らない。解らないよ……。僕にどうしろって…待っていた……？僕を……？

フェイ ビリー？

ビリー 今のは？　僕のギアに……似てた？

フェイ もしかして、ビリーのギアに何か変化が？　取りあえず出口に行ってみよう。

•エレメンツ現る

フェイ お前達！？

ビリー エレメンツ！

ドミニア どうやら、新たにアニマの器と同調したギアを手に入れた様だな。

ケルビナ それは本来、私達が手に入れるべきもの。ラムサス閣下の悲願達成の為には、より強い力が必要なの。

トロネ そう、そして、私達の理想の国家建立の一助とする為、そいつを渡す訳にはいかないよ。

セラフィータ だからちょーだい。

フェイ お前達、ソラリスが地上の人間に対して何をやっているのか、今この地上がどういう状況になってるか知ってて……。

ドミニア ガゼルが何をやろうと、ラムズがどうなろうと、私の知ったことではない。私達にはそれぞれ、なすべき責務がある。お前達のように、弱い者、劣る者にかまけている程暇ではないのさ。

エリィ ドミニア……。あなた本気でそう思っているの！？

ドミニア　そうさ。現に、お前達を始めとして、強い者、優れた者達は変異することなく、その身体を保っている。違うのか？

フェイ　力も能力も一切関係ない。俺達が変異しなかったのは単なる偶然なだけだ！

ビリー　人は人。それ以上もそれ以下もありません。たしかに現実には力無き者、弱き者がいることは認めます。だけど、だからこそ、僕達はそういった人達を見捨てることは出来ない。同じ人として！

ドミニア　それで……救いを求めてきた者に手を差し伸べるという訳か？

セラフィータ　やさしいんだねぇー。

ケルビナ　それは立派なことですわ。でも……果たしてそれが、本当に、人の為になることなのかしら？

エリィ　あなた達だってもともとは地上人。ソラリスに虐げられて生きて来たんでしょう？　持たざる者の気持ちが理解出来ないはずはないのに何故！？

ケルビナ　人はどんな境遇に置かれても自らの力で立たねばならない。過保護は人の自立を阻みます。それは結果として世界の、人の成長をむしばむものとなる。私達は身を持ってそれを体験してきた。自らの力で、足で生きてきたのです。弱い者が淘汰されていくことは悲しいことだけれど、振り返ることは出来ない。それが人が生きる上の摂理なのだから。

エリィ　それは持てる者の摂理なのよ。

ドミニア　ふん。ならば、持たざる者へ加担するというお前達の摂理、今この場で見せてもらおう！　行くぞ！！

＜対　エレメンツ戦＞

ドミニア　くっ……流石に生身では分が悪い！　ギアで決着つけてやる。追ってこい！

ドミニア　遅い！

フェイ　この戦いに、何の意味がある！

ドミニア　うるさい！　こうなってしまった以上戦うしかない。我らエレメンツの真の力をみせてやる！　行くぞ！

ケルビナ　合体しましょ！

エレメンツ　エレメンツフォーメーション！！

●4体のギアが合体し、Gエレメンツに

＜対　Gエレメンツ戦＞

エリィ　弱い人には弱い人にしか見えないものがあるの……。弱いからって、卑屈になる人達ばかりじゃないわ。弱いからこそ優しさを育める……。弱いからこそ、高みからでは決して見ることの出来ない、本当の人同士の触れ合いがそこにはある。人は誰しも弱い部分を持っている。あなた達も最初はそうだったんでしょ？　弱かったからこそお互いを求めた……。そして強くなろうとした……。その最初の気持ちを忘れないで……。寄り添って生きていた時のことを……。

ドミニア　待て！　私に情けをかけるというのか？　持てる者のゆとりを見せつけようと……。

エリィ　それは違うわ、ドミニア。私達の歩む道は違うけれど、目指す地平はきっと同じ……。だからあなたとはもう戦えない。私にはあなたと戦う理由がないもの。それだけよ。

ケルビナ　……私達の完全な負け……みたいね。

ドミニア　フッ……。

フェイ・回想

フェイ　ラムサスの悲願達成の力とする為、器を狙ってきたエレメンツを退けた俺達は、最後の器を求め、記された もう一つの場所の情報を得る為……再び活動を開始した。

ガゼル法院

——　もはや、あれは我等と同じではない……。そう、我等の目的に逆らう者。奴と同じ……。

——　我等であれば、鍵は発動出来る……。

——　その障害となる奴を……。カインを消し去るのだ……。

——　だが、あれの力には、我等では抗しきれぬ。

——　“カイン”を滅する者は、“カイン”のみ……。

——　……やってくれるか？　“母”よ。

ミァン　そうね……。カレルレンは何か言っていたかしら？

―――　相殺存在としての潜在能力、その全てが一点に向けられればと……。

ミァン　そう……。先日のフェイへの敗北……。あれによってカールはかなり不安定になっているわ。後少し……もう少し……ね。

―――　ならば、待とう。その時を……。

ドミニア　カレルレン……？　相殺存在だと……？　あの女……一体何を…………閣下……。

ラムサス　そこをどけぃっ！　行くぞ！　私は！　何としても奴を！　奴を捜し出し、この手で……！！

ケルビナ　お静まり下さい閣下！

トロネ　奴等の件ならば私達が！

ラムサス　お前達に何が出来るというのだ！　出来損ない共がっ！　奴を倒せるのはこの私だけだ！　全てのヒトを超越したこの私だけが……！　どけいっ！！

ドミニア　閣下！　お待ちを！　閣下！

エリィ・回想

エリィ　フェイ達が、最後のアニマの器の眠る地を探している最中、私は一時ニサンに戻った。何故戻ったのかはわからない。ただ……人々に何かの危険が迫っている……そんな胸騒ぎがしたから……。ニサンで受け入れた人々は、快方に向かっていた。いまだ体組織の復元のかなわぬ人もいたが、トーラのナノマシンは日々進化していた。それによる治療が功を奏し、全ての人が元の身体を取り戻せる日も近かった。震動……突如ニサンの市街で爆発が起きた。燃えあがるニサンの街……。その中に立ち尽くす金色のギア・バーラー……ラムサスだった。彼はフェイを倒すためここニサンに来襲したのだった。己の存在意義を賭けて……。ニサンとシェバトの僧兵隊、ソラリスからここを守ってくれているランク達が応戦したが、その侵攻を阻むことは出来なかった。逃げ惑う人々は聖堂に避難した。フェイを探すラムサスは僧兵隊を蹴散らし、聖堂に迫った……。彼は……壊れていた……。ただ、ただ、フェイを求めていた……。私は彼の前に立った。

ラムサス　どこだ！　あの男はどこだ！　いるはずだ！　ここに！　なぜ出てこないっ！

エリィ　ラムサス！　あなたの探すフェイはここにはいないわ。だからこんな無意味なことはもうやめて！

ラムサス　貴様……そうだ……貴様を……出てこい！　フェイ！　出てこなければ、エレハイムをこのままひねり潰すぞ！

エリィ　う……！

マルー　エリィさん！

ランク　隊長！

エリィ　は、離れていて……。

ラムサス　出て来んか……よかろう。ならば今宵から、この女のムクロを抱きしめて眠りにつくがいい！

エリィ　うわぁっ！！

ラムサス　ば、馬鹿な！　何が起こったというのだ！　なぜ動かん！？

マルー　エリィさん！

ランク　大丈夫か！？

ラムサス　き、貴様如きに……お、俺は、奴だけでなく、貴様にも劣るというのか……！　この俺は！

エリィ　何があったの、ラムサス……？　なぜあなたはそこまでフェイを……、そして物事の優劣にこだわるの？

ラムサス　俺は、元々貴様等ヒトの能力の統合体としてつくられた……。全てのアニマの器との同調体……。天帝カインの能力を持つ者として創られた。俺は、言わばヒトの行き着く理想形……。だが俺は……、奴が生まれたことによって廃棄処分とされた。塵だめの中で生を受けたのだ……。暗く、冷たい、塵だめの中で……。しかし俺はそこから這い上がった！　己が生きる為、自らのこの力で！　俺を捨てたあいつらを見返す為に！　そしてこの地位を手に入れた！　俺自身が生きる為に必要な温もりを！　だが、奴は俺の前に再び立ちはだかった！　俺から再び温もりを奪おうとした！　奴がいる限り、俺は……俺の居場所は……！

エリィ　なぜ、あなたがフェイに対してそこまでこだわるか、解った気がする……。あなたは自分が何をすべきか本当は判らない人……。あなたはただ、自分を護る為にフェイを……、他人を攻撃する事によって自分の存在を確認している。人の上に立とうとするのもそう……。そうしないと虚ろになってしまうから……。自分が消えてしまうから……。心の空白が拡がってしまうから……。愛にしがみつきたいから……。

ラムサス　うるさいっ！　貴様もこの俺から奪うのか！？　……温もりを！　この俺がやっと手に入れた温もりを！

エリィ　ラムサス……。誰もあなたを攻撃していないわ。誰もあなたの大事なものを奪おうとはしない……。あなたの存在を脅かしてなどいない……。あなたがそう感じているだけ。だから心を隠さないで……。愛に怯えないで……。

ラムサス　き、貴様は……貴様は……うわぁぁぁーーーー！

エリィ　ラムサスは恐れていた。自分の存在する場所が無くなることを……。フェイがそれを奪う者と、そう捉えていた……。愛を奪うものだと……。彼は誰よりも愛を渇望していた……。

ガゼル法院

――――　塵め……塵め……。

――――　塵め……。

――――　何の為のその存在か……出来損ない……。

――――　失せろ……。もはや、貴様は用済み……。否、用すらなさない塵だ……。

ラムサス　……。

ミァン　カール……。心配しないで。私はいつも貴方といるわ。貴方の事は、私が一番良く知っている……。だから……。

ラムサス　ミァン！　俺の、俺の力は……これだけなのか？　この程度の力しか、俺にはないというのか？　奴に勝てず、あの女の前でも何一つ出来なかった……。俺はここまでの存在なのか！　俺の能力は……。

カレルレン　……カインと同じだよ。全てのヒトを超越する原初の存在。そのように、この私がお前を創ったのだからな。お前の力の解放を妨げているのが、あの男だ。分かたれた力。お前の原形となった男。原初からの時の超越者……。それさえ消し去ればお前は……。

ミァン　そう。優れた素質を持ちながら、オリジナルが存在するが故に、貴方は、疎まれる。分かたれた力を消し去れば、全ては貴方のもの。そうでしょ？　カール……。

フェイ・回想

フェイ　一つ目のアニマの器はビリーとの同調を果たし、ビリーの駆るギアの形態を著しく変容させた。無生物と融合するユニット……。アニマの器が古代に何の目的で創られたかは依然解らなかったが、それに兵器としての側面があることは容易に想像出来た。いずれは解放されるであろうその真の力……。それを奴等に渡す訳にはいかない。俺達は最後の器を手にするため、一万年近くの昔に作られたと思われる原初民の遺跡へと向かった。そして……そこで"あいつ"との再会が俺達を待っていた……。

アニマの器2

エリィ　こんな遺跡の奥にもアニマの器があるのね。
リコ　ふん、昔の野郎共もくだらねえものを拝んでやがったんだな。誰だ！？　何言ってやがる……？　もっと解る言葉でしゃべりやがれ！　誰だ、てめぇは！？　人の頭の中に入ってくんじねぇ！
フェイ　大丈夫か！？　リコ！
リコ　どっかで見たような形だな。
フェイ　今度はリコのギアの番じゃないのか？　まあ、外に出ればすぐわかるさ。

フェイ　む！　何だ？
ハマー　あ、あにきー……へへへ。お久しぶりですね。あ、あにき……。
フェイ　お、お前は！　ハ、ハマーなのか！？　どうしたんだその姿は！
ハマー　お、俺っちも手に入れたですよ。兄貴達と同じ位、強い力を。き、気持ちいいっすよ、ギアと一つになれるってのは。これもカレルレン様のお陰っす。さあ、そのギアとエリィさんをお、置いて行ってもらうっす。抵抗しても無駄っすよ。今の俺っちは、とんでもなくつ、強いんすから……。
フェイ　何を言ってるんだハマー！
ハマー　わ、渡さないんすか？　……そうっすか。そんじゃ力ずくでう、奪ってやるっすよ！
リコ　やめろ！　ハマー！
ハマー　た、たとえキングと言えども、今の俺っちには勝てないっす。行くっすよーー！

＜対　ハマー戦＞

ハマー　へへへ……。いやぁ……やっぱ兄貴は強いっす……。折角俺っちも強くなったってのに……。
リコ　ハマー、お前……。
ハマー　キング……。キスレブにいつか戻って下さいね……。あなたは……総統の正統な血筋を受け継ぐ方……。
リコ　知っていたのか……。
ハマー　俺っちの情報網を甘く見ちゃあいけませんぜ……。でも……ダメっすね……俺っちは…………。こういうのが端役の俺っちには……相応しい終わり方かも……しれないっす……ね……。
フェイ　ハマーーーー！

フェイ·回想

フェイ　ハマーは満ち足りた笑顔を残して谷間へと消えていった……。『束の間得られた力』……ハマーはそれを得られて幸せだったのだろうか……。ハマーの笑顔……それは力を得られた喜びなのだろうか……。それとも変異による苦痛から解放された安らぎからだろうか……。結局、俺達は自らが生き残るため、仲間であるハマーを倒すしかなかった……。他に方法がなかったのだろうか……。これほど戦いが虚しいと思ったことはなかった……。エリィはいつまでも泣いていた……。何もしてやれなかった自分の力のなさを悔やんで泣いていた。そのエリィを見て、俺は思った。これ以上、彼女を戦わせることは出来ないと……。俺達はやりきれない気持ちのままイグニスに戻った……。

天帝の部屋

天帝カイン　何用だ……ラムサス……。
ラムサス　お前……お前さえいなければ……私は……。だから……消し去って……やる……お前を……。奴に勝つために……。
天帝カイン　何の真似だ？　ラムサス……馬鹿な！　私の力を中和するだと……！？
カレルレン　当然だ。そのように創ったのだからな。
天帝カイン　カレルレン……！？　よもやあやつらと！？

カレルレン　まさか。単なるSOL-9000上のデータとなり果ててまで、生にしがみつこうとしている老人達の事などどうでもいい。お前の存在は、私の目的成就の障害となる。単にそれだけだ。
天帝カイン　ヒトの未来の為に、ヒトを生き長らえさせる為に動いていたのではないのか？　その為に私はお前を……。
カレルレン　ああ、その通りだよ。私は“私のやり方”でヒトを導こうとしている。それに変わりはない。
天帝カイン　カレルレン、お前は……！？
カレルレン　殺れ、“ラメセス”。
ラムサス　うおおおおっ！！

ガゼル法院

――――　カインが、逝ったな……。
――――　ああ。
――――　永きに渡り肉体に縛られた者の末路か……。
――――　我等のような論理性が奴にもあればな……。
――――　不要な肉体に支配されていたが故の結末。よくやった、カレルレン。
カレルレン　…………。
――――　これで、我等の目的遂行を妨げるものは、ない。
――――　“アニムス<同調者>”を得て目醒めた“アニマの器”。地上人と同調したダン、ヨセフ、カド……。
――――　ヒュウガのアシェル、ラムサスのゼブルン、カレルレンのユダ、ソフィアのディナ……。
――――　500年前、既に同調を果たしているルベン、シメオン、レビ、そしてイサカル……。
――――　そして、グラーフのナフタリ……。全ての“アニマの器”は起動された。
――――　“母”の仮面<ペルソナ>の存在も明らかとなった。
――――　刻は、来たれり。
――――　神の肉体とその知恵を得る為、今こそ神の国への扉を開こう……。
――――　真の目醒めの時……。我等を新たな地平へ……。福音の刻、来たれり……。
――――　さあ、ヒトよ。神の目醒めを称えるのだ。

フェイ　突如その咆哮は起こった。それまで異形化していなかった人々までもがウェルスへと変異。何かを呼ぶかのような雄叫びをあげはじめた。それは、ラムサスを操り、天帝を暗殺。その歯止めがなくなった法院の発動した『ゲーティアの小鍵』の効果……神によって運命られた人々の変異現象だった。神によって運命られた人々は、地上人、ソラリス人を問わず、次々とその姿を変えていった……。その咆哮は地に満ちた人々が神を呼ぶ声だったのだ。『ヒトが地に満ちたとき、神はその永き眠りから目醒める……。そして天空の楽園マハノンも目醒める……』法院の語った言葉の真の意味、伝承の正体がやっと理解できた。『ヒトが地に満ちる』ということは、こういうことだったのだ……。やがて、人々の呼び声に呼応するかのように、神の眠る地『マハノン』が、その永き眠りから目醒め、浮上。俺達の前にその威容を現した……。

フェイ　ソラリス－ガゼルの法院は『神と神の知恵』を得るため、そこに大軍勢を差し向けた。……だがしかし、既にソラリスという国もゲブラーという組織もそこには存在していなかった。そこにあるのは……無数の兵器群だけだった。ほとんど全てのソラリス人は兵器へと変容されていた……。ガゼルの法院はその統率者として君臨していた。神と神の知恵を法院に渡す訳にはいかなかった。俺達は持てる総力を結集させ、マハノンへと向かうこととなった。危険な戦いだった。生きて帰れる保証もなかった。決行は明朝。だから俺は、一つの決意を固めた。あいつを……。

ユグドラシル・ガンルーム

エリィ　ちょっと待って！　私に残れってどういうこと？　行くわ、私も！
フェイ　だめだ。危険過ぎる……。
エリィ　何故？　危険な目になら今まで何度も遭ってきたわ。今回だけじゃない！
フェイ　だめだと言ったらだめだ！　お前を連れていく訳にはいかないんだ。解ってくれ！
エリィ　いやよ！　私達、ずっと一緒に戦ってきた仲間でしょ！？　それを急に「行くな」だなんて納得出来ない！
フェイ　ただの戦いじゃないんだ！　神の創造した知恵を巡っての戦い。生きるか死ぬか。これを制した者が、この世界の真の支配者になるかって戦いなんだぞ！？　法院だって今回の戦いに最大限の戦力を割いてくることは目に見えている。生きて戻れる保証はない！
エリィ　だからこそ私も一緒に……！
フェイ　お前、何も解ってないんだな……。
エリィ　何を解ってないっていうの！？
フェイ　敵が法院と只の機械兵ならまだいい。だが奴等の軍団を構成するそのほとんどが、もとは俺達と同じ人間なんだぞ！？
エリィ　！
フェイ　あの施設で見た、人から創られたギアなんだ。ハマーと同じ奴等なんだ……。今のお前にそれが破壊出来るのか！？　自分達が生き延びる為に、かつての仲間を、人を殺せるのか！？　どうなんだっ！
エリィ　そ、それは……。
フェイ　そういう決断が迫られる戦いに人一人殺せない奴が混じってたんじゃ……、かえって足手まといなんだよ。
エリィ　！？
フェイ　邪魔な……だけだ。

●部屋を飛び出すエリィ

バルト　なぁ、いくらなんでも言い過ぎじゃねぇか？
シタン　彼女の気持ちは当然ですよ。それ位汲であげないと。
フェイ　エリィの気持ちなら知ってるさ。ずっと俺達と一緒に行動してきたんだ。ただ来るなって言っても聞かないだろう。だから、ああでも言わないと……。ニサンに集まった人達にはエリィが必要だ。今のエリィは、自分がいかに人の寄る辺となっているのか、もっと知らなきゃいけないんだ。危険な目に遭わせる訳にはいかないよ……。

マルー　でも言い方がちょっと冷たいよ。
ビリー　何もあんな突き放す様な言い方しなくても。泣いてたよ？　エリィさん。
フェイ　しかし……。
シタン　そういうことは彼女も解っていると思いますよ。
バルト　そうそう。解ってないの、実はお前の方なんじゃねぇの？
フェイ　解ってない？　俺が？
マルー　女心……かな？
ビリー　彼女、行きたいんですよ。"フェイと一緒に"。最後まで。
マルー　うん。

バルト　俺ならこう……ガシッと抱いてだな、『俺についてくるか？』……って具合に。
マルー　ホント？
バルト　あ、いや……、その、だな……。
メイソン　若、ご無理はなさらない方が……。
バルト　う、うるせいやい。ま、なんだ。フォローって奴？　して来いよ。一緒に行くにせよ、行かないにせよ。ちゃんと言葉で説明してやらにゃあ、な。解らんだろ？　そういうの。お前がそんだけ彼女を大切に想っているんなら尚更だ。
シタン　想いは言葉に……ですか？
フェイ　お、俺は別に……！
バルト　何を今更。バレバレなんだよ、お前は。
シタン　素直じゃないですね。
マルー　そうそう。
エメラダ　フェイ……、ちゃんと……、言うの。
マルー　さ、早く後を追って。ね？

エリィの部屋

フェイ　その……さっきは悪かった……。ごめん……。でも、解って欲しいんだ。今、地上人、ソラリスを問わず、初めて人々の心が一つにまとまってきている。だけど、皆が皆、この船のクルーやシェバトの人みたいに強い人間ばかりじゃない。俺達だって行く先が見えなくなりかける事があるのに、普通の人なら尚更だろ？　だから､人々にはお前のような寄る辺が、光が必要なんだよ。この数百年間、法院の道具として利用されるしかなかった人の心を、その呪縛から解放したのはエリィ、お前なんだ。エリィの身体は、もうお前一人だけのものじゃない。危険にさらす訳にはいかない。俺は、もうエリィを戦わせたくないんだ。
エリィ　……不思議ね。
フェイ　え？
エリィ　私達、もとは敵同士だったはずなのに、今はこうして一緒にいるなんて……。私ね、最初はあなたに自分を投影していた。私と似たような境遇のあなたに自分自身を重ねていた。あなたと一緒にいる時だけは、孤独も、不安も感じることはなかった。だから、私はフェイのことが好きなんだなって、思ってた。でも、それは違ってた。私には本当の自分を見つめる勇気がなかっただけ。あなたの中に逃げていただけなの。それを愛情と勘違いしていた。でも、今は違う。正面から自分の境遇と向き合える。私は私……、あなたはあなた。それが、ハッキリと解ったの。そして、私にはやっぱりあなたが必要なんだって改めて気付いたの。自分が不安から解放されたい

からあなたが必要なんじゃない。あなたを愛してるから、だからあなたが必要なの。

フェイ　エリィ……。

エリィ　フェイの言ってること、よく解るよ。私の身を気遣ってくれてるのも知ってる。でもね、私……恐いの。もうこれで二度と会えなくなるんじゃないかって……。そんな予感がするの……。

フェイ　大丈夫、俺は死なないよ。

エリィ　そうじゃない……、そうじゃないの。もっと違う何か……。抗えない何かに引き裂かれて、私が私でなくなって……。たとえあなたが戻って来ても……もう……。それが、たまらなく不安なの。だから、あなたと一緒に行きたい。片時も離れていたくない。

フェイ　俺だって同じさ。樹海で出会ってからずっと感じていたこと……。それは多分エリィが感じてたことと同じなんだと思う。俺もエリィの中に逃げていたんだ。だけど俺の問題は、俺自身の力で解決しなくちゃならない。エリィには背負わせちゃいけないんだ。俺の中にはもう一人の俺、＜イド＞がいる。いつかイドに覆い尽くされるかもしれないって恐怖に押し潰されそうになる。そんな不安定な俺がこうしていられるのはエリィのお陰さ。エリィがいつも側にいてくれたから、俺は俺自身を保てるんだ。俺、絶対に、必ず戻ってくるよ。だから……その……、エリィには、何としても生きて戻るんだっていう目標に……帰るべき家になって欲しいんだ。エリィが帰りを待っててくれるのなら、所は違っても側で見ててくれるなら俺、頑張れるから……。

エリィ　フェイ……。

エリィ　行くの？
フェイ　ああ、すまない。起こした？
エリィ　平気。ずっと起きてたから……。
フェイ　ずっと？
エリィ　うん。あなたの寝顔眺めてたら朝に……。
フェイ　……。そ、それじゃあ行くよ。
エリィ　行ってらっしゃい。気をつけて……。
フェイ　ああ……。！　そうだ。これ預かっておいてくれないか？
エリィ　何？　これは……ペンダント？
フェイ　それ、誰の物かは判らないんだ。俺がラハンに担ぎ込まれた時にはもう持っていたらしい。俺の物なのかもしれないし、もしかしたら……。
エリィ　もしかしたら……？
フェイ　いや、いいんだ。頼めるかな？
エリィ　わかった。預かっておくね。
フェイ　すまない。……それじゃ。
エリィ　あ……、フェイ。
フェイ　え？
エリィ　ありがとう……。

ニサン

マルー　いいの？　エリィさん。ホントは側にいたいんでしょ？
エリィ　そうね……でも、信じてるから。常に寄り添っているだけが愛情じゃないでしょ？
マルー　でも……勝手だよ、男の人って……。大事な時になると、危険だ……、ついてくるな……とか言っちゃって女を弱いものみたいに扱って。たしかに今のボクじゃ若達の役には立てないかもしれないけど……。
エリィ　それは違うわ。みんな、大切な人に待っててほしいのよ。自分の帰るべき場所を守っていてほしいのよ。そうしないと不安で居ても立ってもいられないから……。だから精一杯強がって……。かわいいよね、男の人って。
マルー　そうか、そうだね……。
エリィ　さ、私達は私達のやるべきことをしましょう。そして、みんなが無事に帰ってくるよう祈りましょう。
マルー　神様に？
エリィ　……ううん。みんなを信じている自分自身の内なる想いに……。どうしたの？

マルー　やっぱりそうか……。うん、そうだよ！
エリィ　何が？
マルー　エリィさん、みんなが言うようにソフィア様の生まれ変わりに違いないよ！　ニサンの教義を知らないはずなのにエリィさんの言うことってソフィア様の遺されたお言葉と同じなんだもん。
エリィ　そうね……。そうかもしれない。

エリィ　初めてここを訪れた時、何か不思議な感じがした。懐かしいような……、悲しいような……、夢の中で何度も訪れたような……。どこに何の部屋があって、そこに何があるのかも判っている。きっと遥か昔、自分はここにいたんだろうって……。以前なら、そんなことあるはずないって笑って済ませていただろうけれど……今は何となくそう思える。あの時果たせなかったことを、今果たそうとしているのかもしれない……。
マルー　果たせなかったこと……？
エリィ　……そう。果たせなかったこと……。

フェイ・回想

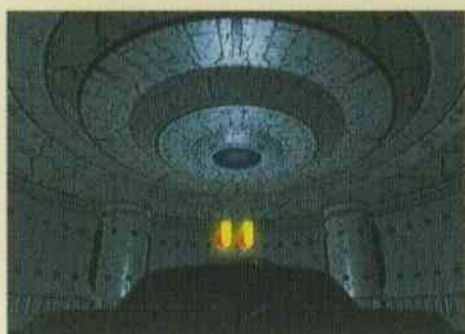
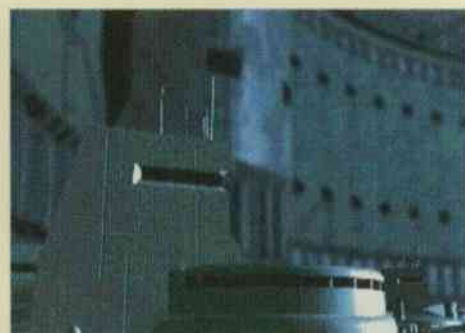
フェイ　俺達はソラリスの迎撃部隊を退け、浮上した大陸、マハノンへと取り付いた。それは、差し渡し40ケルテ以上はあろうかという程の巨大な宇宙船の中央船体だった。船内の調査によって、この船が約一万年前、この星に墜落したものであることが判明した。『遥か昔、他の天体からこの星へとやってきた異星の生命体……』かつて俺達の祖先はこの船に乗って、この惑星に降り立ったのだろうか……。俺達はここマハノンに眠ると言われる神と神の知恵『ラジエルの樹』を求め更に奥へと進んだ。

マハノン内部

フェイ　その最深部で俺達は異形のモノを見た。腐りかけ、所々が化石化した、グロテスクな巨大な生命体……。“それ”は得体の知れない威圧感を俺達に投射した。それは、遺伝子の奥底に刻まれた絶対者への恐怖心そのものだったのかもしれない……。

＜対　デウス戦＞

フェイ　これが……こんなのが究極の力の正体だったのか？

フェイ　腐りかけたその巨大生命体はやがて自壊していった。俺達は更に奥へと進んだ。

フェイ　辿り着いたそこは、アヴェの王都がそのまま入るかという程の巨大な空洞だった。その中央には、淡く光る二対の物体があった。それこそが神の知恵の源、『ラジエルの樹』だった。そしてこの空洞そのものが、ラジエルという巨大コンピューターそのものだったのだ。ラジエルに秘められている神の知恵……データにアクセスした俺達は、そこに途方もないものが記憶されていることを知った。星系と星系を渡りゆく、無人の大型戦略兵器とその端末兵器群。そしてその移送に使われる、半島ほどもある超大型母艦……。大宇宙に君臨する為の神の軍団、天使＜マラーク＞の創造……神の方舟の建造……。それらの兵器群は、星間戦略統合兵器システム『デウス』と呼ばれるものだった。ガゼルの法院の求めるものがここにはあった。先に倒した、腐りかけた巨大生命体は、そのシステムの中枢であることをデータが示していた。そして、それら兵器群、母艦といったものを全てを制御稼動する中枢神経回路、動力炉を兼ねた存在、『ゾハル』と呼ばれる物体のデータにアクセスしようとした矢先……“奴”が現れた。

カレルレン　ラジエルの樹に秘められたデータ。そこを退いてもらおうか？　これは、お前達には過ぎたものだからな……。

フェイ　とにかくここを死守するんだ！　ラジエルのデータを絶対に渡しちゃならない！

シタン　お願いします！　私は取れるだけのデータをとってみます！万が一の場合には、ここを破壊します！

＜対　ORヴェルトール戦＞

フェイ　ぐ、ぐうう……。

グラーフ　そこまでのようだな。悔しいか？　だが“それで当然”なのだ。お前は不完全なのだからな。

フェイ　ふ、不完全だと！？

グラーフ　そう。今のお前に欠けているもの。即ち怒りの欠落が、本来持ちえた力を制御しているのだ！

フェイ　い、怒り……？

グラーフ　怒りとは相手を滅ぼそうとする破壊と殺戮の欲動、魂の力だ！相手を滅することによって初めて得られる欲動の昇華。その昇華こそが秘めたる力を引き出すのだ！　いくばくとも理性にすがり、怒りを、欲動を押さえ込んでいるようでは真の力の解放なぞ夢のまた夢。知っておろう。お前自身の心に怒りが芽生えた時、その機体は応えたのではないか？　機体の力を引き出したもの、それこそが魂の欲動、『イド』なのだ。お前が望み、持ちえた生来の暗殺者としての印なのだ！

フェイ　違うっ！　断じて違うっ！　俺は、俺は『イド』じゃない！俺は……。
グラーフ　潮時だ……。お前の魂、我が食らってやろう。そしてその力を極限まで引き出してくれるわ！
カレルレン　そこまで！
グラーフ　む？　何故止める！
カレルレン　そいつはエサだ。貴様がそのエサを殺してしまっては折角の小鳥が逃げてしまうのだよ。私の"悲願の成就に欠かせない"大切な小鳥がね。解るだろう？　ラカン……。
グラーフ　……好きにしろ。
カレルレン　この者達をはりつけにする。場所はここより西のゴルゴダの地。壊れたギアごと回収しておけ！

ニサン

エリィ　フェイ達がマハノンの最深部に到達した頃私はニサンで新たに変異してしまった人々の介護をしていた……。次々と変異していく人々……。永遠に目覚めない悪夢のように私達の介護活動は続くかに思えた。

マルー　大丈夫？　ここんとこ休んでないでしょ？　ボクがしばらく一人でこなすから、エリィさんは少し散歩でもしてくれば？
エリィ　ありがとう。でも私は大丈夫よ。むしろ動いてる方が色々考えなくてすむし……。
マルー　そっか。あれ？　エリィさんそれ？
エリィ　これ？
マルー　ちょっと見せて……。やっぱりニサンのペンダントだ。でもなんでエリィさんがそれ持ってるの？
エリィ　フェイから預かったものだけど……。でも……ずっと以前から身に付けていたような気がする……。
マルー　ふうん……。そうしているとますますソフィア様そっくりだよ。
エリィ　もう。おだてても何も出ないわよ。それより早く他の人達にも新しい変異抑制アセンブラーを試してもらいましょう。みんなをこれ以上変えさせる訳にはいかないもの。

●ペンダントの鎖がちぎれる
エリィ　あ……。まさか……。フェイ達の身に何か……。

エリィ　言い知れぬ不安に襲われた私は、ニサンの上空にとどまっているシェバトへ上がった。そこで私を待っていたものは、カレルレンからの通信だった……。カレルレンは私に、フェイ達を助けたくば『ゴルゴダの地』まで来いといった。カレルレンは私を求めていた。私はフェイ達を救うため、シェバトにただ一機残されていたギア・バーラーに搭乗した。以前このギアから感じた恐怖心は、仲間を救いたいという想いがかき消してくれた。

ランク　本気で一人で行くつもりか！？

エリィ　カレルレンは、私に一人で来いと言ったわ。それを守らない訳にはいかない。だから貴方達はシェバトに残って。みんなを護ってあげて。

ヘルムホルツ　しかし、そりゃ罠だ！

エリィ　知っているわ。

ストラッキィ　だったら！

エリィ　私が行かなければフェイ達は確実に処刑される……。カレルレンにとって、私以外の人間は興味の対象外なの。

ランク　だからって、奴が約束を守るって保証があるのか？　助けられるって確証があっての行動なのか？

エリィ　ないわ……。

フランツ　自殺行為だよ！

エリィ　そうかもしれない。でも、今の私が在るのはフェイ達のお陰だもの。私を受け入れてくれた仲間だから。

ランク　あんたがいなくなったら残された俺達……、いや、ニサン＜あそこ＞に集まった連中はどうすればいい？　皆、あんたが心の支えなんだぜ？

エリィ　ニサンの人達なら大丈夫。支えなんかなくたって、みんな自分の足で立派に歩いていける人達よ。もちろんあなた達も……ね。

ブロイアー　なぜそうまでして……。

エリィ　そうね……女としてのわがまま……かな。

ヘルムホルツ　女として？

エリィ　私は、聖女なんかじゃない。ごく普通の女。怒って、泣いて、笑って……。時には人を憎むこともあるけれど、反対に愛することも知っているわ。大勢の人を愛したり、ただ一人の男＜ひと＞だけを愛したり……。私は、その男＜ひと＞と身体を重ねることに至福を感じる。自分の持っているものを与え、彼が与えてくれるものを受け取って、一つになる。その瞬間、この上ない安心を得られるの。私はね、その愛する男＜ひと＞を救いたいだけ。一人の女として……。

フランツ　隊長……。

エリィ　ごめんね。……わがまま言って。私は私に出来ることをして来ます。だからあなた達はあなた達に出来ることをしてちょうだい。

ランク　…………。

エリィ　それじゃあ、行ってきます。

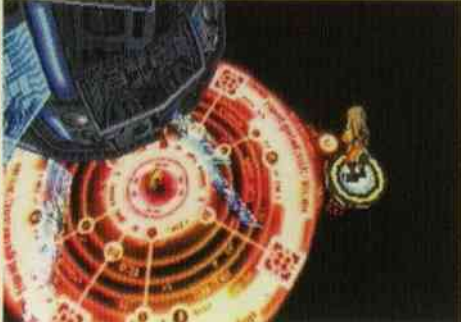
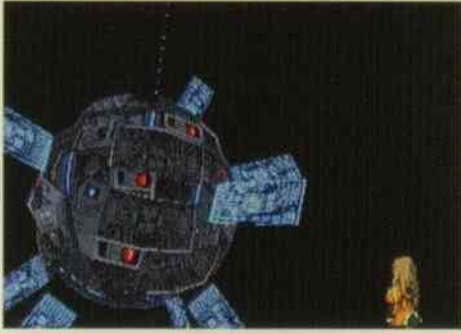
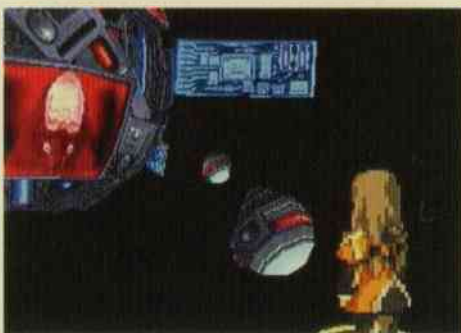
シタン　エリィ！？
フェイ　馬鹿野郎っ！　どうして来たんだっ！　奴は、カレルレンはお前を！　俺達のことはいい！　早く逃げろ！！
エリィ　言われた通りに来たわよ。あなたにとって必要なのは私だけでしょう。彼等は関係ないわ。さぁ、フェイ達を解放して！
カレルレン　りりしいな、エレハイム。まるで“昔の光景が現在に甦った”ようだよ。そうか、ギア・バーラーで来たか。それも『彼女の機体』。ふむ……。ならば一つ確かめさせてもらおう。この二人を倒すことが出来たなら、この者達の処遇、考えてやってもいい。どうかな？　エレハイム。
フェイ　よせっ！　奴は何かたくらんでいる！　受けるんじゃない！
シタン　そうです！　この男が甘言を呈する時は必ず腹に一物ある時です！　有言実行とはおよそこの男とは無縁の言葉。それにその者達はカレルレンによって造られた戦闘機械。その戦闘力は計り知れないんです！　あなた独りでどうなるもんじゃない！　誘いに乗ってはだめです！　逃げて！！
カレルレン　……やれやれ、ひどい言われようだな。私はそこまで人非人ではないよ。さあ、どうするエレハイム？　今更逃げ出したところでこの包囲網からはそうそう逃げ切れるものではない。それよりはわずかな可能性、奇跡とやらに希望を賭けてみる方が得策ではないか？
フェイ　やめろっ！
エリィ　わかったわ。
カレルレン　よろしい。それでこそ私の小鳥だ。やれっ！

エリィ　は、速いっ！！　こんなにも力の差があるなんて。ギア・バーラーに乗っているのに……。でも……このままじゃ……負けられない！！　な、何とか……動きを……止めなくちゃ……。
エリィ　止まった！？　今ならっ！　はぁぁぁっ！
エリィ　やった！？　そ、そんな！？　手応えあったのに……。

—— この小娘、いてぇじゃねぇか！　ゆ・る・さ・んんーーっ！！
—— 我々の力、あなどってもらっては困りますよ。お嬢さん。
エリィ ぐふっ……ぐっ……！　はぁ…はぁ…。
—— ううむ、実に手応えがない。仕方ありません、テンボウ。そろそろトドメをさしてあげましょう。
—— グへへへ、落ちたかぁ！？　無理もない。複雑骨折に出血多量恐らくコクピットの中は血の海でしょう。下手すりゃ死んでるかも知れんなぁ！　ゲへゲへゲへ！！　ま、まさか！？あのダメージで立ち上がれるはずが……。

—— テ、テンボウ！！？　お、おのれ！　よくも私のパートナーを！

フェイ エリィが……。まさか……。
カレルレン 真の覚醒……それとも……主を護ったか。いずれにせよ、私の求めていた存在<はは>であることに間違いない……。よし、機体の回収をしろ。搭乗者の確保が最優先だ。搭乗者の生命維持を！　では、この娘は頂いていく。お前達はそこで己の無力さでもかみしめているといい。
グラーフ ……哀れよな。一人の女すら守れんとは。ふぬけたお前なぞ、止めを刺す価値すらないわ。

フェイ エリィは連れ去られた……。そして、俺達は奴の言葉通り生かされた……。カレルレンは約束を守ったのだろうか……。……だがそれは違っていた……。俺達が止めも刺されずに生かされていた本当の理由……。それは……。

―――　神の肉体の回収もなった……。
―――　アニマもアニムスを得られた……。
―――　後は我等がアニムスに取って代わり、母の仮面<ペルソナ>と一つとなるのみ……。
カレルレン　……それは、違う。
―――　何？　どういう事だカレルレン。今、何と？
―――　な、何をする！　カレルレン、血迷ったか！？
―――　メモリーバンクを何とする！？
―――　それに触れるな！　それが無くなれば我等は……。
カレルレン　鍵はお前達でなければ作動できなかったからな。だが、その発動なった今、お前達の存在価値はない。お前達には消えてもらうことにするよ。
―――　何だと！
カレルレン　“私”の目的遂行の為の、唯一の障害であったカインは、もういない。私達“ヒト”に対して絶対的行使力を持ったカインは私の障害だった。カインを消し去ることが出来るのは、カインのみ。その為に創り育てた“カインのコピー”ラムサスは思惑通り動き、そしてカインを消去してくれた。“私”を止める者はもはやない。それに私は、貴様らの求める権力なぞには興味がない。お前達は、自己意志決定をしているつもりか？　システムに縛られしモノ達よ。所詮、お前達などは、侵略制圧兵器として創られた端末でしかないのだよ。
―――　我……等は神に……なれるのだぞ！　そ……れを……。
カレルレン　神？　誰が神になるというのだ？　おこがましいことを言う。私達はヒトだ。神の端末として生成された貴様らとて、それは同じこと。“ヒトは神になれぬ”のだよ。私達に出来ることは、ただその身を神に委ねることだけだ。
―――　ば……カな……母ノ……意……しにハン…す……コト……をし………。
カレルレン　反してはいないさ。これはもう一人の彼女の意志でもある。
―――　我……が消失……て……カミの……ふっか…つが……なせ……る と……オモ……ウのカ……。
カレルレン　それが、出来るのだよ。崩壊の日々の後、世界を存続させる為に放った貴様らの遺伝子はヒトの中に息づいている。器<アニマ>と同調者<アニムス>……。そして<ペルソナ>……。それらと私のナノマシンを結合させることによって、ヒトは貴様らと同等の存在となる。いや、それ以上の、神の端末に相応しい存在となる事が出来るのだ。貴様らの存在価値はもはやない。神<デウス>は結果のみを求めている。過程なぞ、どうでもいいのだ。それが私の“方舟計画”。即ち<プロジェクト・ノア>。
―――　カれ……ル……れ……。
カレルレン　もう、これでわずらい悩まされることもなかろう。一足先に心静かにお休み。ヒトの始祖達よ……。これで私は、あなたと……ソフィアよ……これで……。

フェイ・回想

フェイ 俺は無力だった……。連れ去られていくエリィの姿を、なす術なく、ただ見ていることしか出来なかった……。俺は……無力な俺は……。

ワイズマン そこで何をしておる？

フェイ あんたか……。俺は……グラーフに勝てなかった……。奴の足下にも及ばなかった……。そりゃあそうだよ。あんな化け物みたいな機体に乗ってる奴に、勝てるわけがなかったんだ……。だのに……エリィは馬鹿だ……。あれ程来るなと言ったのに……。逃げろと言ったのに……。ワナだと判っていたなずなのに。

ワイズマン ……ふむ。確かにそれでは勝てんな……。お前がそんな気持ちで戦っていたのではな。

フェイ …………？

ワイズマン お前が奴に敗れ、あの娘が連れ去られてしまったのは、ひとえにお前の慢心から。制御出来るとおごり、錯覚した「イドの力」、機体の力に頼り切っていたからなのではないか？
グラーフの力の源は何だ？　機体か？　技能か？　経験か？
　違うな……。……それは想いだ。奴の心は、この世界全てに対する怒りに支配されている。その怒りの想いこそが奴の力の源なのだ。お前には、そのグラーフに対抗するだけの想いがなかった。だから奴に勝てなかったのだ。それが強さだ。本当の強さが何か解らないまま、戦っていたのでは無理もなかったな……。

フェイ ワイズマン……。

ワイズマン あの娘は……。お前達を助けたい一心で恐怖心を振り払い、あの機体に乗ったのだぞ。その想いがあったからこそ、結果として、お前達は生き残った……。私はそう思うよ。たしかにお前は敗れた。だが、これで終わった訳ではない。お前は彼女の想いにどう応える？　今度はお前が彼女を助ける番。……違うか？

フェイ …………。

ワイズマン さあ、お前はこれからどうするのだ？　……フェイよ。

フェイ 俺は……。俺は……。

フェイ 俺達はエリィを救い出す為、その行方を必死になって探した。そして、それが判明したのは2週間後だった。カレルレンはラジエルから得たデータと、自らのナノマシンによって、神の方舟「メルカバー」の建造に着手しており、その完成は間近に迫っていた。俺達はその起動を防ぎエリィを救い出す為、メルカバーへと向かった。

フェイ お前達……？　お前達も行くというのか？

ドミニア 勘違いしないでもらおう。天帝という存在を、消去する目的の為だけに存在させられていた閣下は、ミァンとカレルレンによって、その心を操られている。私達はその呪縛から、閣下をお救いしたいだけだ！　世界の為でも……、エレハイムの為でもない！　貴様らとの共同戦線を張ろうなどとも思っていない！

フェイ ……ああ。俺達は俺達の、お前達にはお前達の戦いがある……それでいいさ。ただし……、途中でやばくなったら戻れよ。後の全ては俺達が引き受ける。
ドミニア ……ふん。その言葉、そのまま返してやるよ。

フェイ メルカバー内部へと突入した俺達は、ナノマシンによって自己再生してくる兵器群を打ち倒しながらその中心部を目指した……。そして……俺達の前にまたしてもラムサスが立ちはだかった。

メルカバー内部

ラムサス 待ちわびたぞ、フェイ！！
フェイ ラムサスか！？
ラムサス フェイ……貴様さえいなければ……俺は……俺は……！　今日こそ、決着をつけてやる！！
フェイ やめろラムサス！　俺達がこれ以上戦って何の意味がある！　お前は誰の為に戦っている！　何故そこまで俺にこだわるんだ！　教えてくれ！！
ラムサス 全ては貴様がいたから……。あの時……俺は……貴様さえいなければ……俺は……カレルレンの研究室のリアクターの中で生を受けた。全てのヒトの超越者としての生を……。だが……。

ラムサス・回想

カレルレン ほぉ……。"今度の"体は若いな。
カレン ……前の体は古くなっていたのよ。
カレルレン ……名前は？
カレン カレン……。でも私にとって個体の名前は意味をなさないわ。
カレルレン ……で、わざわざここにくるとは何用だ？
カレン このリアクター内のものは例の？
カレルレン ん？　……ああ。識別コード、0808191－"ラメセス"。天帝には人工接合者のヒナ形と伝えてある。
カレン 状態はどう？。
カレルレン いわゆる第一次成長期に入ったところだ。後の成長、固着するまでは常人の倍の早さとなる。だが、いささか精神のコントロールが難しい……。……複製なのだから当然と言えば当然だがな。
カレン 動いている……。聞こえているのかしら？

カレルレン　……ああ。これに意志は既に存在している。

カレン　そう……。ならいい方法があるわ。捨てましょう。これは必要ないわ。私の子供がいるから。今年で4歳になるわ。

カレルレン　お前が子を生すとはな……。余程のことか。

カレン　……ええ。調べてわかったのだけど、"接触者"に間違いないわ。

カレルレン　名前は？

カレン　"フェイ"。それが私の子の名前。だから……わかるでしょう？

カレルレン　対となる存在が……。

カレン　……ええ。恐らくはどこかに生まれているはず。……最後のね。

カレルレン　ならば、……こいつは嗤だ。

カレン　嗤ね。フフフ……追いかけなさい、"坊や"。いくら求めても得られない愛を。その刻まで……。

ラムサス　貴様が存在したおかげで、この俺は廃棄処分とされたのだ……！　天帝の力を持ち、神の代弁者として、絶対的な行使力を持った存在として、俺は生まれるはずだった。なのに……、すべて貴様のせいで！！

フェイ　お、俺の母さんが……？　何故……そんなことを……ラムサス……。

ドミニア　閣下！　もうおやめ下さいっ！　閣下のおっしゃった事が事実であるというのならば、尚更、閣下が戦われる理由はないのです！　閣下はカレルレンらにたぶらかされ……。

ラムサス　だまれっ！！　貴様、貴様までこの俺を攻撃するのか！？被験体となりかけていたところを救ってやったこの俺を！！

ドミニア　それは違いますッ！　私達は閣下の御身の為を思えばこそ……。

ラムサス　黙れっ！！　所詮、俺には、俺しかない！　俺は俺によってしか癒されない！　行くぞ、フェイ！！　これが最後だっ！！

<対　アンフィスバエナ戦>

フェイ　ここは……？

――――　カールの生まれた場所。そしてあなたへの憎しみが育まれた場所……。

フェイ　誰だッ！？　こ、ここは……？　……！！　あれは、エリィ！！　エリィ！！

カレルレン　よくぞここまで……と言いたいところだが……。それも徒労に終わったな。神<デウス>の復活は間近だ。その娘をいけにえとして、神は復活する。

フェイ　ふざけるな！！　どうしてエリィがいけにえなんかに！？

カレルレン　お前達が知る必要はない。お前達はここで終わるのだからな……。

フェイ　くッ！？

ミァン　フフ……さよなら、ぼうや達……。

<対　オピオモルプス戦>

ミァン　あら、強いわね……ふふ……さあ、もう一度最初からよ。今度は勝てるかしら？

フェイ　そんな馬鹿な……！？　倒したはずなのに……！？

カレルレン　ナノマシンによる自己修復能力を手に入れたものには通常の攻撃は無意味だ。原子にまで分解しない限りな……。

ミァン　さあ、大いなる目醒めの刻が、はじまるわ！

バルト　な、なんだ、こりゃ！？　か、体が……、バラバラになっちまいそうだ！！

シタン　まさか、これは……、ギア・バーラーが！？

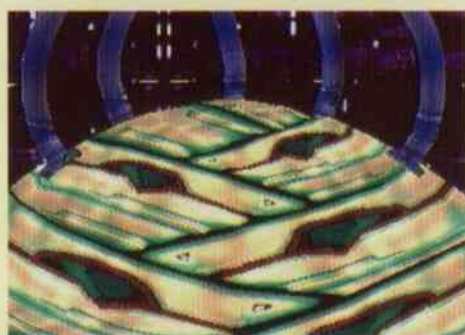
バルト　ヤ、ヤツに……引きずり込まれるような感じだぜ……！！

フェイ　ちくしょう、一体、何が起ったっていうんだ！　はッ！？　あれは……！？　バーラー……？　いや、ちがう！！　あれは……アニマの器か！？

シタン　ギア・バーラーからアニマの器が、分離しようとしているのか！？

フェイ　アニマの器が……、デウスに飲み込まれる！？

バルト　どうしちまったんだ？　ギア・バーラーが……動かねえ！？　まるで、死んじまったみたいだぜ……！

ミァン　これこそがアニマの器の真の意味。アニムスを得てペルソナへと還る。アニマの器の真の姿とは、運命られた者と同調することによって本来の機能を取り戻す、神<デウス>を構成する部品の一つ。アニマの器の抜けたバーラーは、もはやただのでく人形。中身の失われた、容れ物に過ぎない。

カレルレン　そしてこの娘も、生まれた時から、神の一部となることを運命られた存在。神の部分なのだよ、エレハイムも……。
フェイ　なんだって！？
カレルレン　お前達は、我々のために、部品をわざわざこの場まで運んでくれたという訳だ。おめでたいヤツらだよ。まるで、道化だな……。
ミァン　過去、私とガゼルの法院によって捏造された創世の伝承に従ってね……。
フェイ　そんな……！？　そんなことって……。
ミァン　別行動をとり、まだ内部をさまよっているお前達の仲間のバーラーも、死んだ。過去分かたれた神の部品。その全てが、今ここに集まったのだ。
カレルレン　ああ。今こそ我等の神が復活する刻だ。
ラムサス　な、何だったんだ……俺のやって来たことは……
フェイ　ラムサス！？
カレルレン　ふん……。貴様か……。
ミァン　そこで何をしているの？　カール。
ラムサス　それでは、俺は……俺という存在には……、一体何の意味があったんだ？
ミァン　あなたの存在意義はただ一つ。天帝カインを消すこと。カインはヒトとしての意志が強くなり過ぎていた。ヒトにこだわり過ぎていた。神の復活というその当初の使命を忘れてね。だからあなたを創ったの。私達の障害となるカインを消す為だけに、あなたは創られたのよ。原初生命体として絶対的な力を持つカイン。カインに抗敵させるには、あなたの精神を一点に集中させる必要があった。しかし、人工生命体であるあなたの精神状態は不安定だった。だから……フェイという存在を利用したの。憎しみ……それがあなたの力の源……。あなたは見事私達の期待に応えてくれたわ。でもね……あなたはもう用済みなのよ？　解っているかしら？　もうあなたの出る幕はないの。あなたは塵なの。塵は塵らしく、この場から退場なさい。ふふふふ。
ラムサス　俺は……俺は……、何のために生まれ、何のために生きてきたのだ？
カレルレン　愚かな生命よ。お前は人ですら、ない。くくく……。ハハハハ……！
ミァン　さあ、後はあなた達の処遇だけど……。そうね、ただ殺すには、あなた達は本当、色々と役に立ってくれたわ。だから、せめてものお礼よ、神のいけにえとして、この娘と一緒に吸収してあげ……うぐっ！！
フェイ　ラムサス！！
ミァン　そう……、それでいいのよ、カール……。私は、自らを滅することは、出来ない運命……。これで……全て……の願いが……かな……う。あなたと……
ラムサス　………。ミァン……。う、うわぁぁぁぁぁっ！！

リコ　遅くなった。途中でバーラーがおかしくなっちまってな。はやいとこ、エリィを助けてやろう！
フェイ　ああ、わかってる。待ってろ、エリィ。今すぐ降ろしてやるからな。

●狂気と化したエリィの銃弾に倒れるフェイ

フェイ　ぐはっ！
シタン　フェイ！　しっかりして下さい！
ビリー　ぼ、僕の銃で……！？
バルト　な、何故、エリィ……？
シタン　エリィ！？　どうしてしまったんですか！？　何故こんなことを！？
バルト　まさか……洗脳！？
カレルレン　洗脳ではないよ……私の身体はほとんどがナノマシンの群体で構成されている。延命……そして“母”との合一の為にな……この程度の損傷などすぐに修復出来るのだよ。
シタン　母との合一ですって……？
カレルレン　その娘……エレハイムは我々の“母”なのだ。
エリィ　そう。私は全てのヒトの母……
フェイ　エリィ……！？
バルト　何を訳の解らないことを！　目を醒ませ！　エリィ！！
エリィ　相変わらず鈍いのね……。でも、無理もないわね……。いいわ。全てを教えてあげる。あなた方に神と呼ばれているデウス……。それは太古の昔、異星の人間によって創造された“星間戦略兵器システム”。自らの意志で行動し、対象となる惑星を制圧する目的で創られた自動兵器。それはラジエルの記録で見て知っているでしょう？　デウスは、その試験運転の時、暴走。その力を解放し、一つの惑星をまるごと破壊したの。計り知れない戦闘力を持つ兵器、“デウス”に脅威を抱いた創造者達は、デウスを強制的に起動停止状態とした。そのコア毎に分解し、暴走原因の調査の為、星間移民船に載せ、他の星系にある惑星に移送しようとした。分かたれたデウスは抵抗した。移送途中にその星間移民船を乗っ取ろうとした。でも予期せぬ創造者の抵抗にあい、船は大破。そして、この星に墜落したの。墜落の際、大破もしくは地表との衝突による消滅を免れられないと結論したデウスは、その動力炉“ゾハル”から中枢部分を分離。

フェイ　ゾ……ハル……？

エリィ　“ゾハル”……。全てのギアを駆動する、スレイブジェネレーターの親機であり、あなた達の使う、エーテル力の源。事象変移機関という、未来の可能性事象……エネルギーの変位を自在に創り出すことの出来る無限エネルギー機関。

バルト　俺達のエーテル力の源だって！？

シタン　すべてはその動力炉から得られる力だというのですか！？

エリィ　ゾハルから分離した中枢……“生体電脳カドモニ”は原始のこの惑星に着陸した。そして、来るべき日、再びデウスが復活するようその生体素子維持プラント“ペルソナ”を使用。そこから人間が創造された。それが天帝カインとガゼルの法院達……。

リコ　天帝とガゼルが、デウスから生まれた人間だと言うのか！？

エリィ　何故、ガゼルの法院はアニマの器と、あなた達の肉体を求めたのか解る？　それはね……、法院の肉体は、ヒトとなる前は“デウス”を構成する中枢回路の生体素子の一部だったのよ。アニマと呼ばれるメス型とアニムスと呼ばれるオス型の生体素子。それはデウスの端末兵器として対象となる機械と融合、機動端末としての能力も兼ね備えていた。つまり、あなた達の使用していたギア・バーラーはその一形態なの。アニムスであった法院は、神の復活の刻、分かたれたアニマと合一するはずだった……。でも、500年前の戦いで、その肉体は失われてしまった。そこで、自分達の子孫であるヒトの遺伝子内に息づく、自分達の因子を取り出そうとしたの。アニマと一つになる為にね。

マリア　子孫ですって！？

バルト　それじゃあ、俺達は……！？

エリィ　そう、あなた方ヒトは、全てカイン達の子孫……。ペルソナから生まれたカイン達は子を産み、増やしていったの。いつの日か再び、大破してしまったデウスを復活させるというプログラムに命じられるままね。

シタン　では、この世界の人間は、全てデウスを復活させる為に創造されたというのですか！？

エリィ　そうよ。単にデウスを修復するだけじゃない。兵器デウスは、その構造の大半が生体部品で構築されていた。変異した人間達が居たでしょ？　彼等はデウスの部品となるべく運命られたヒト達だったのよ。

ビリー　僕達人間が……神の部品……。

エリィ　そう、ほぼ全てのヒトは、デウスの部品となるべく運命られているのよ。でもあなた達は違うわ。代を重ねることによってその本来の運命から解放されたヒト……と言ってもいいかしら……。実際デウスの部品は足りなかった……。でも、それを補ってくれたのがカレルレン。彼の創り出したナノマシンは代を重ねることによって希薄化した部品……ヒトの因子を補うだけでなかった。新たな機能も付加してくれた。デウスは兵器として完璧なものへと進化したの。

フェイ　エリィ……お前は一体……？　何故、そのことを……知って……

エリィ　私はミァン。刻の管理者。神<デウス>の代弁者。ヒトをデウス復活の為、あるべき方向へと導く道標として生み出されたのが私なのよ。

バルト　馬鹿な！　ミァンはさっき……

エリィ　理解力に乏しいのね……ミァンの因子はね、全ての女性の中に息づいているの。世代を超越し、ヒトを管理する者。前任者が死ねば、どこかで後任のミァンが覚醒する。そうなるように遺伝子にプログラムされているの。誰がその跡を継ぐかは確率の問題。フェイ。私も、そこのミァンも、全ては同一の存在。デウスの部品。ヒトの管理者なのよ。解るかしら？お話はこれくらいにしておきましょうか。デウスは目醒めたわ。私はデウスを構成する部品の一つ。だから一つにならなくてはならないの。

シタン　エリィ！　何故それがあなたでなければならないんです。ミァンがデウスの部品ならばもっと以前に……

カレルレン　彼女の覚醒では不完全なのだよ。彼女はミァンであっても、“彼女そのものではないのだから”な。

シタン　“彼女そのものではない”……？

エリィ　行きましょう、カレルレン。後は、この星の文明を消し去り、元の場所へと還り、最後欠片、原初の地に堕ちた動力炉……“事象変移機関ゾハル”との合一を果たすだけ……。

シタン　文明の根絶ですって！？　そんなことに何の意味があるというのですか！？

エリィ　さあ……？　神を創造しうる存在は、いずれ障害となる。だから消去する。私にはそうプログラムされているだけよ……。

カレルレン　さあ……真の“母”のめざめの刻だ。

フェイ　待って……くれ……エリィ……

エリィ　さよなら……フェイ。安らかな“めざめ”を……。

●カレルレンと共に去って行くエリィ

フェイ　エリィ！！

シタン　待ちなさい！！　フェイ！　システムを解放してはいけない！！

バルト　待てッ、先生！！　こっちまで危ない！　ここは、ひとまず脱出だ！！

●メルカバー脱出

シタン・回想

シタン　神……、星間戦略兵器であるデウスは目醒め、その方舟であるメルカバーは起動しました。デウスは、その部品となることを運命られた、変異した人々を次々と吸収し、変異しなかった者……いずれはその脅威となるであろう我々と、その文明を根絶する為、活動を開始しました。地上はメルカバーと、そこから生み出された「天使＜アイオーン＞」と呼ばれる兵器群によって蹂躙されたのです。覚醒したデウスの後を追い、その消息を絶ったままであったフェイは……元々メルカバーのあった場所からヴェルトールの機体ごと発見されました……。一時はフェイの帰還を喜んだ我々でしたが、……それも束の間の事でした。フェイは……原因不明の仮死状態となったまま……発見されたのです。フェイの意識は戻りませんでした。フェイ……いえ、イドの力の再発を恐れたシェバトと我々は……やむなくフェイを……「カーボナイト凍結」としたのです。

シタン　……女王。シェバトの方々は、何故そこまでフェイを恐れるのです？　グラーフとイドの力がいくら同質のものだといっても……

ゼファー　…………。彼が恐ろしいのではありません。私達自らが犯した過ちを恐れ、それに蓋をしようとしているのです……。

シタン　あなた方が犯した過ち？

ゼファー　500年前、私達シェバトはソラリスから独立するための戦を起こしました。ですが、それは"権力欲"に取り付かれてのこと……。戦乱の最中、人々の意志が我々シェバトではなく、ニサンの聖母、ソフィアの下に集うことを恐れた、当時のシェバト長老会議は……ソラリスとある取引をしたのです。

シタン　取引ですって？

ゼファー　……はい。当時ソラリス、ガゼルの法院はその裏で実権を握る一人の女と反目しあっていました。

シタン　……それはミァンではないのですか？

ゼファー　恐らくはそうでしょう。ニサンに集う人々の力がこれ以上大きくなることを恐れたガゼルの法院は、反目していたミァンを私達に引き渡すよう工作地上の分割統治を約束する。その代わりに……ニサンに集った反乱軍の人々とその寄る辺となっていたソフィアを差し出させました……。シェバト重鎮達はその申し出を受けそして……対ソラリスとの最終決戦の地がその場所に選ばれたのです。シェバトはその戦に加担はしませんでした……。ソラリスの大軍勢にはばまれたニサン反乱軍の人々は、その退路を断たれ、成す術なく殺されていったのです……。その中に、ラカンと、バルトの祖先であるロニ、私、そして……"カレルレン"がいたのです。

シタン　貴女もそこに？

ゼファー　……はい。四方を敵に囲まれ、私達は死を覚悟しました。その時、反乱軍の旗艦に乗艦していたソフィアは我々の退路を築く為、自らの身を犠牲にし……敵主力艦めがけて特攻をかけたのです。

ゼファー　ソフィアの犠牲によって私達は生き長らえました。ですが、彼女の死は二人の男の運命を大きく変えてしまったのです……。ニサンの僧兵長として、彼女に付き従っていたカレルレンは、呼んでも応えない神、信仰に絶望し『自らの手で神を創り出す』……そう言い残して私達の前から姿を消しました。そしてラカンは……彼女の死を前にして、何も出来なかった自分の力のなさを悔やみ…………『伝承の力』を求めました。

シタン　伝承の力？

ゼファー　神の眠る地『マハノン』……その知恵の源『ラジエル』……神の知恵によって創られた『アニマの器』……それ以外に……、もう一つの伝承があるのです。

シタン　それは？

ゼファー　『ゾハル』……。

シタン　ゾハルですって！？　それは、ミァンの言っていた、神……デウスや……我々の持つエーテル力の源といわれる動力炉、『事象変移機関』の名前と同じではないですか！

ゼファー　それは……きっと同じものなのでしょう。運命られし者だけが見つけられる究極の、この世界の根元の力が存在する場所……。人というものに絶望したラカンはそれを求めました……。そして……ラカンはグラーフとなり、世界は崩壊しました……。全ては当時の人の権力欲が引き起こした悲劇……。それを止められなかった私にもその責任の一端があるのです……。そのグラーフと同質の力を持つフェイ……。我々は自らの悪業そのものを封印したかったのです……。

●シタン・回想

シタン　かつてグラーフ……ラカンという男が求めた『ゾハルの力』……。グラーフと同質の力を持つフェイ……。私にはいつか彼がその力を求め、目醒めるのではないかという予感がありました。……そして、それは現実のものとなったのです。

フェイ・回想

フェイ　ここは……どこだ？　俺は……誰だ？　ここは……俺の記憶？　先生……バルト……リコ……ビリー……ワイズマン……グラーフ……みんな……俺の……記憶。エリィ？　母さん？　お前は？

イド　恐れ入った。うまいことするじゃないか。

フェイ　お前は……イド？

イド　少々みくびっていたよ。模擬人格のお前に、まさか四人目が作れるとはな。

フェイ　四人目？

イド　そいつは何も感じることはない。自我の殻に閉じこもったんだ。押し寄せる事実と直視したくない真実。それらを恐れたお前は外界からの完全な隔絶を望んだ。そして四人目の人格を形成した。四人目のフェイ。名前は……どうでもいい。今、ステージに立っているのはこいつだ。こいつが俺達の体を掌握してる。だが、それも無駄な抵抗だ。来いよ。

フェイ　待て、何をするんだ！

イド　鍵はこいつが持っている。それを使わせてもらうだけさ。俺には、行かなければいけない場所があるんだ。お前も……来るかい？

●たき火を囲むラカン、カレルレン、ロニ、レネ

ロニ　まあ、食ってくれ。最近じゃこういったものは、手に入らないだろ？　まぁ、これも、この俺の商才のなせる技かねぇ。

レネ　……どうした？　ラカン。何、気難しい顔をしてる？　悩み事でもあるのかい？

ラカン　……いや、例のソフィアの肖像画の話さ。なぜ、肖像画を描くことを承知したのかわからないってね……。

レネ　ソフィアって、お前の幼なじみだったっていうニサンの聖母のことかい？

ラカン　幼なじみなんていうほどのものじゃない。ただ子供の頃、俺の自宅近くの修道院に療養に来てた時、顔見知りになったってだけだよ。体が弱かったんだ、彼女。

レネ　……で、わからないってのは？

ラカン　彼女は、教団の為とはいえ、自分自らが象徴になるようなことは望まない人だ。……事実、肖像画を描くことには乗り気ではなかったらしい。なのに、絵描き手が俺に決まったと聞いて承知したらしいんだ。それがわからなくてさ……。

ロニ　そうか……。……それはきっと君に気があるんだな。その御方は……。

ラカン　な、何を言い出すんだよ。

ロニ　そういうもんだよ、女心ってものは……。なぁ、カレル……？おい、カレル。

カレルレン　え？

レネ　……なんだよ？　食わないのか？　もう、焼けてるぜ。

カレルレン　あ、ああ……。

ロニ　ニサンの聖母……男冥利に尽きるじゃないか？　ええ、ラカン。

ラカン　よしてくれ……。そんなんじゃ……ない……。な、何だよ？

ロニ　暗いな、君は……。

● カレルレンの記憶

カレルレン 心を落ちつけるには書物を読むのが一番だと、ソフィア様に勧められて始めたんだが、のめり込んでしまってね。今では結構物知りになったよ。自分で言うのもなんだがな。最近はこんなものを読んでいる。

ラカン なんだい？　それは？

カレルレン メルキオール師からお借りしたものなんだ。分子工学……ナノテクノロジー。太古に滅んだゼボイムとよばれる文明の遺跡から発見された書物。だれかの研究リポートの複製らしくてね、完全ではない。もっと凄いことが書かれていたみたいなんだが……。

エリィ どうしたの？　具合、悪そう。ここのところ毎日ふさぎ込んでいるような気がする。何かあった？

ラカン 自分でも解らない。だけどなぜだか筆が進まないんだ。ごめん、もう今日は……。

エリィ そう……。無理は良くないわ。暫く休んでみたらどうかしら。カレルレンに送らせ……

カレルレン これでも昔は相当悪どい事をやって過ごしていた時もあった。手当たり次第にかみついて……周りはみな私を恐れた。……仲間ですらな。怯えた視線の中で生きていたよ。だが彼女だけは私を恐れなかった。彼女は笑った。安らぎ……。それを教え、与えてくれたのが彼女だった……。彼女は私に人としての生き方を教えてくれたんだ……。

カレルレン 何をしている、ラカン？

ラカン カレルレンか……。絵を…肖像画を描くのをやめようかと…。

カレルレン なぜ……やめる？

ラカン こんな状況だしね。もう絵を描いていられる場合じゃない。いずれ彼女も戦線に立たねばならなくなる。だから……

カレルレン 本当にそれだけか？

ラカン …………。

カレルレン ラカン……？

ラカン ……俺は彼女の笑顔が辛い。彼女が微笑みかけてくれればくれる程、俺は……自分が小さな存在に思えてならない。心の中が“カラッポ”な存在。絵を描くこと以外、なんの取り柄もない俺……。そんな俺にも分け隔てなく彼女は接してくれる。ますます俺は自分が小さなものに感じられる。最初はこんな気持ちじゃなかった。一分、一秒でも長く絵を描いていたかった。いつまでもこの絵を描き続けていたかった。だけど、だめだ。絵が完成に近づくに連れて、俺の中の“カラッポ”な部分が筆に出てくるんだ。俺は彼女のありのままの姿を描かなきゃならないのに……。でも……この絵は……俺自身だ……。そこにカラッポの俺がいる。だから……やめる。

カレルレン お前自身……？　お前は逃げているだけだ！　微笑むソフィア様のその眼差しに耐えられないんだ。肖像画を描くことによって、己の内面の空疎さと、彼女の内面の豊かさとの隙間

に気付き、それが埋められなくなった。だから描くのをやめるんだ。お前は彼女を拒絶している！　かといって離れる決心もつかない。なのになぜ彼女はお前に微笑む！？　気持ちを受け止められない、受け止める気もないのに…なぜだ！　私ならばそれを…その気持ちを……。

●ソフィアを諫めるカレルレン

カレルレン　あなたは自分を粗末にし過ぎる！　どうしてもっと自分を大切にしないんだっ！

ロニ　……これって、彼女の表情そのまんま？

ラカン　ああ……。傍目には……ね……。

ロニ　微笑みねぇ……そうかなぁ……。彼女が普段僕等に見せてくれる笑顔と、この絵の彼女の笑顔とはどこか違う気がするんだけどなぁ。たしかにラカンの心情って奴が入ってることは入ってるんだろうが、でも……人前でここまで自分の内面を吐露する様な表情＜かお＞したことないと思うよ、彼女。こんな素晴らしい表情のソフィアを描いていながらなぜやめるなんて言うんだ？

ラカン　……素晴らしい？　よしてくれよ。そんな絵…ちっとも……

ロニ　ラカン、君は自分の事をカラッポだと言う。ならばなぜ僕等と行動を共にする？　僕等のしてきたことは単なる人助けとは違う。自由を勝ち取る為の戦いだ。何度も命を失おうって危険にさらされてきた。心に何もない人間に出来ることじゃない。……違うかい？

ラカン　買いかぶり過ぎだよ、ロニ。何かしていれば……体を動かしていれば、自分が虚ろだということを気にしないで済む。もともと存在自体が虚ろなんだ。死んだってかまやしない……それだけさ……。

ロニ　相変わらず暗いなぁ、ラカン……。それに嘘をついている。

ラカン　…………。

ロニ　単に君は自分の感情を表現するのが下手なだけだ。カラッポなんかじゃない。そのことを彼女は知っている。だから君だけに本当の微笑みを見せるんだよ。

ラカン　俺には彼女の微笑みを受ける資格なんてない。彼女は人々の希望だ。支えなんだ。成さなければならない事が沢山ある。一介の絵描きである俺一人の為に心を開いてくれる訳が……

レネ　兄貴ーっ！　兄貴ーっ！　なんだよ兄貴、こんな所にいたのか。

ロニ　どうした？

ゼファー　シェバトの長老会議の決定が出ました。私達は明日ソイレントに出発です。

ロニ　ソイレントだって！？　あそこはソラリスに……

レネ　そうだ。それと、ソフィアも同行することになった。

カレルレン　馬鹿な！　これだけ難民が増えているというのに、ソフィア様がニサンを離れることなど出来るわけがない！　その上、ソイレントに行くなんて無茶だ！　危険過ぎる！　長老会議は何を考えているのだ！

ゼファー　いえ、そうではありません。これはソフィア個人の意志なのです。彼女自ら進んで願い出たことらしいのです。

カレルレン　そんな……何をお考えになっておられるのだ。
レネ　最初は俺達だけで、って話らしかったんだが……
カレルレン　私達だけ……？
ラカン　…………。

●ソフィア倒れる

カレルレン　ソフィア様っ！　ソフィア様……何をやっていたんだっ！　ラカン！　もういいっ！　貴様にソフィア様は任せられん！　彼女は私がこの命に代えてでも護ってみせる！

ロニ　いい加減寝たらどうだ？　カレル……。一昨日からずっとなんだろう？　体がもたんぞ。
カレルレン　大丈夫だ、この程度……
ロニ　それ見ろ。ここは僕が看ているから行って寝てこいよ。ここでお前にまで倒れられちゃあいざって時どうする？　お前も大事な戦力の一人なんだってことを忘れるなよ。
カレルレン　ああ……分かった。

ラカン　すまない、エリィ。俺は……。俺の判断のミスが君をこんな目に遭わせてしまった。俺は恐かった……。全てを見透かされているようで……君の瞳が……視線が。あれは君の瞳に映った俺自身だったんだ。俺はそんな自分を見るのが、描くのが嫌で……だから……君は一体、俺の中に何を見つけたんだ？　君が目醒めたらそれを聞こうと……いや、やめとくよ。やはり俺なんかの為に君に迷惑はかけられない。それにきっと聞けっこない……。君の瞳を見れば何も話せなくなってしまうんだ。俺は、自分の気持ちも伝えられない……
ソフィア　あなたは誰よりも優しいわ……。
ラカン　エリィ……
エリィ　あなたは自分の行為によって誰かが傷つく事が耐えられない人。だからいつも自分を押し殺してしまっている。自分が傷ついて済むならそれでいいって…私は……、そんなあなたが好き。
ラカン　よせ。言ってはだめだ。今の君がただの人になってしまったらみんなは……。
エリィ　人は……そんなに弱くはないわ。形だけの象徴なんて必要ない。心の中に光を持っていれば、どんな苦難だってきっと乗り越えられる。私はそう信じている。私のしてきたことはただ、その光が誰の心の中にも存在するってことを教えてあげていただけ。私だって一人の女だもの。その性を貫く為なら、今の立場、捨ててもいいって思っている。私はソフィアを演じているだけ。私は私。昔から変わらない。臆病で、泣き虫で、身勝手で……それが私。あなた、そうやって自分を偽って生きて幸せ……？　私は……そんなのいや。私はね、ラカン。もっと自分に素直に生きたいの。好きな人には好きって告げたい。断られて傷ついてもいい。たった一度の人生だもの、後になって振り返ることなんてしたくない……。
ラカン　俺は……、俺は……

カレルレン こんな所で終わってたまるか！　俺達はあいつらの所有物じゃないっ！　何をするつもりなんだ!?　ソフィア！！

ソフィア ……これで終わりにします。もうあなた達が戦う必要はありません。だからカレルレン……。どうか、その拳を開いて……。開いたその掌で、これから生きていく人達を優しく包んであげて……。

ラカン 馬鹿な真似は止めろ！　君は俺達が必ず逃して見せる！　だから……！

ソフィア ありがとう、ラカン……。でも……ごめんなさい……。今の私にはこうするしか……。

ラカン エリィ！

ソフィア 人はお互いを補いあって生きていく。それは幸せなことだから……その幸せを分けあって…そして……生きて！　ラカン！

ラカン エリィーーーーーー！！

● ソラリス艦隊へ特攻するソフィア（エリィ）

カレルレン 私達は捨て石だったんだ……。奴等は自らの権威を守る為にソフィアを……。これが……、こんなことが私達の目指していた理想の世界だったのか？　私達のしてきたことは、一体何だったんだ？　ソフィアの目指していた理想……救済の結末がこれか？　これじゃあんまりだ……あんな奴等の為にソフィアは犠牲になって……ソフィアは信仰さえ持てば己が望むべく道が開けると言った。だが現実はどうだ？　神は応えなかった……。私達に信仰心がなかったからなのか？　たとえ私達に信仰がなかったとしても、ソフィアにはあったんだ。その彼女が何故犠牲にならねばならない!?　『神は死んだのか』……？　いないのか……？　そんなものは最初から存在しなかったというのか!?

● ニサン大聖堂

ソフィア 神への信仰……それは外に求めるものではなく、内に芽生えさせるものなのです……

カレルレン ははははは……そういうことか……。……いいだろう。この世界に神が存在しないのならば、私がこの手で創り出してやる！

ラカン カレルレン……。

カレルレン ソフィア……私を導いてくれ……。見せかけの愛など壊してやる……。

ロニ ……。俺達は生き残った同士を集める。個人で戦っていたのでは奴等は倒せない。だからいつか奴等に対抗出来る国を作って、その時こそ……。君はどうするんだ？　ラカン……？

ラカン 俺は……

● カーボナイト凍結機

ラカン　……エリィ！？

ミァン　……力さえあれば助けられたのにね。欲しいんでしょ？　何者にも屈しない力が。成りたいんでしょ？　絶対的な存在に……。

ラカン　あそこに……俺の求めるものが……違う！　俺が望むのはこんなことではない！　いや、これこそが……俺自身が望んだことなのだ！

ソフィア　……生きて

ダン　フェイのヤツが捕まってるのは、ここか！？　ザマーミヤガレってんだ！　それじゃオイラが、泣きっ面をおがんでやるとするかな！　へへッ。う……！　こ、これは……！？　ひ、ひどい……。い、いくらなんでも、ここまですることないじゃんかよ……。生きてるんだろ、まだ……？　どうして、こんなことできるんだよ！？　同じ人間なんだろ、チクショー！　フェイ……兄ちゃん……。

ミドリ　泣いてる……。

ダン　えッ……！？　な、なんだ、ミドリか。ビックリさせるなよ。な、泣いてるって誰がだよ。フェイ兄ちゃんが！？

ミドリ　怒ってる……傷ついてる……。彼がもうじき、目を醒ますわ……。あいつが呼んでるもの……。

ダン　何だって！？　わわっ……！！　な、何だ！？

フェイ　……ぐッ！　あぐッ……！！　や……やめろ……やめ……ろッ！！

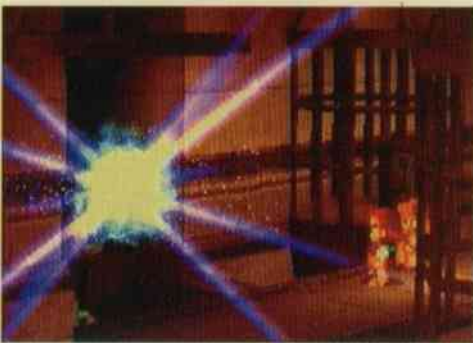
ダン　フェイ兄ちゃん！？

フェイ　ダン……、ミド……リ……！　に……、逃げろ……はや……く……はやくッ！！

ダン　うわあッ！！

● シタン・回想

シタン　カーボナイト凍結を打ち破った『イド』……フェイは、ゾハルを求め、ヴェルトールと共に飛び去りました。私達はフェイの後を追いました。そして……、太古の昔、ゾハルが落着した場所へとたどり着いたのです……。そこで私達の見たものは……

シタン　あれは……？　ここが、その場所だと……

●イドと対峙するフェイ

フェイ　待ってくれ！

イド　お前が来ることが出来るのはここまでだ。ここから先は俺の世界。入ってくることは出来ない。

フェイ　どういうことだ？

イド　お前がより下位の、俺に従属する模擬人格だからさ。

フェイ　下位の模擬人格だって？

イド　そう。……あの時、あいつは俺の記憶の一部を……俺の存在意義である欲動<イド>そのものを封印した。俺があいつに封印されたことによって、初期化された基礎人格。その上に、その後の経験によって新たに構築された人格……それが今のお前なんだ。

フェイ　あいつ！？　それはもしかして親父のことを言っているのか？

イド　あいつを親父と呼ぶのか？　お前は？　何もしてくれなかった、あいつの事を。あいつが、不甲斐ない所為で……あいつが俺を護ることが出来さえすれば……そうすれば……母は死なずに済んだ……。

フェイ　母さんは俺が生まれてすぐに死んだんじゃなかったのか！？一体母さんの身に何が起きたんだ！？　教えてくれ！　イド！

イド　お前が知る必要はないんだ。どうせじきお前は消滅する。お前の基礎人格である“あの臆病者”といっしょにな。俺は存在の力によって俺自身を支配する。

フェイ　？？

イド　お前が知らないのも無理はない。あれは、俺自身の輪廻の記憶に刻まれたものだからな。模擬人格であるお前は、記憶を管理する意識上<ステージ>には上がれない。

フェイ　夢や幻覚の記憶のことなら知っている。俺は何度もそういったものを見てきた！

イド　それは意図的に俺がお前に見せていたものさ。封印を解く為、お前自身の存在としての力を弱めるように選んでな。お前の精神的エネルギーが弱まれば俺は自由に活動出来たんだ。

フェイ　何！？

イド　もっとも、中には俺が見せたもの以外のものもあったがな……ん！？　どうやら誰か来たらしい。多分、お前の仲間だ。俺を追って来たんだろう。

フェイ　どこへ行く！？

イド　俺は存在と再び接触する為にここに来た。太古より続く記憶の糸をつなぎ合わせ、全てを断ち切る存在となる……それが接触者としての運命。準備は整った。真の覚醒の時だ。手始めに偽善だらけのあいつらを消滅させる。

フェイ　待て！　待ってくれ！　イド！

イド　お前はそこで見物していろ。

●イド化したヴェルトールに遭遇

シタン　こ、これは………フェイ！？　で、ではこれはヴェルトールの変化した姿だと言うのですか？
＜対　イド戦＞

ワイズマン　無事か？

シタン　ワイズマン！？

ワイズマン　もはやこうなっては手遅れだ。力を貸せ！イドを消滅させる！

シタン　！？

ワイズマン　ゾハルはデウスの中枢。スレイブジェネレーターやエーテルなど……全てのエネルギーの源。その力を得、覚醒したイドはこの世界を消滅させる気だっ！　ゾハルとの接触は、本来のフェイの人格に統合されてからでなくてはならなかったのだ！！　むっ！？　離れろっ！

イド　ふん。また貴様か。いちいち邪魔をする。だが、貴様に俺を止めることは出来ん。自らの妻も、息子も、守れなかった貴様にはな！　息子に会わせる顔がないからそんな面を被っていたのだろう？　カーン！

シタン　息子！？

イド　そうだ。その男こそフェイの……いや、俺の父親、ウォン・カーンだ！！

●**ワイズマンからカーンに変化**

カーン　……フェイはどうした！　イド！

イド　残念だったな。貴様によって生み出された新しい人格のフェイ……それによって、俺達を完全な一個の人格とすべく度々導いていたようだが、それも徒労に終わる。あいつはもうじき俺に飲み込まれる。

カーン　そうはさせん！　その前にお前を消滅させる！

イド　ふぬけの貴様に出来るものかっ！　貴様が不甲斐ない所為で母は死に！　奴は思い出の中に逃げ込んだ！　俺は全ての嫌なものを背負わされ存在し続けた！　それが貴様に解るか！

カーン　私はただ導いていたわけではないっ！　私やお前の感じた想い、悲しみ、憎しみ……そういったものを経験しても、フェイは自らを築きあげようとしていた。今のフェイにならば、お前の想いが理解できるはずだ。その理解者を、フェイをも消滅させ、お前は何を望むっ！

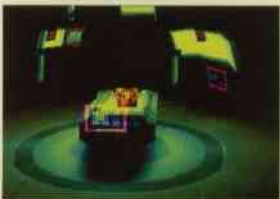
イド　今更何を訊く！！　俺の目的は“奴”と同じ滅尽滅相！　ただ一つ！！

カーン　それ程憎いかこの世界が……お前の中には憎しみしか存在しないというのか！

イド　それを創り出したのは貴様とあの女だっ！！　白々しいぞっ！

カーン　……くっ……聞こえるか？　フェイ！　私が打ち込む想いの拳、受け取めてくれっ！　そして一つとなれっ！

シタン　フェイ！！　本当の貴方はどこに行ったんです！　思い出して！　エリィを救い出すんじゃなかったんですか！？

イドの精神世界

フェイ そうか……ここはイドの中。憎しみと悲しみに満ちた世界。在るのはそれだけ。そうだよな…わかるよ、イド。お前が何故世界を憎むか。お前には何もなかったんだな、何も……。楽しい思い出はみんな…なのに……なんて心地いいんだ……気持ちいい……そうだ……抵抗することなんてない。もともと俺はイドを覆い隠すためだけの存在。ならその場所に還った方が……一緒にいよう……全てを消し去って…俺達も……

シタンの声 思い出して！　エリィを救い出すんじゃなかったんですか！？

フェイ エリィ？　……そうだ！　俺は、エリィを！　ここは……？

イド ……余計な事を。自分のためだけに呼び込んだか……。ここは基礎人格の殻の内部、"臆病者" の部屋さ。お前も何度か来ているはずだ。

フェイ そうか……覚えがあるぞ。たしかここには夢の中で……

イド そいつが嫌なもの、望まぬものすべてを俺に押しつけて、自分の殻に閉じこもった "臆病者"「フェイ」。俺達の基となった人格だ。

臆病者フェイ 君は誰？　……そうか。君は僕の……ねぇ、君も一緒に観ようよ。僕の大切な、宝物なんだ……

イド ふん、そうやって何度も何度も幸せに満ちあふれた時を再生し、その中で生きているんだ。そいつは。そしてこの俺が生きることが出来るのは、その残りカスの中だけさ。お前にも見せてやるよ……俺の "全て" を。

●イド・回想

イド ごく普通の家庭だった。厳格だが、頼りがいのある父。優しく全てを包んでくれる母。それまでの日々は、幸せだった。だがある日……突然母が変った。全くの、別人のようになった。その日から、「フェイ」の居場所はなくなった。父は、よく家を留守にした。何か大事な仕事があるようだった。「フェイ」は父の留守の度に、不可思議な機械が設置された場所に連れて行かれた。そこには、奇妙な格好をした奴等がいた。そして「フェイ」の身体に計測器具のようなものを付け、何かの実験を始めた。実験は、苦痛を伴った。

フェイ 助けて、母さん！！　何をするのっ！？　いやだっ！！　いやだよぉ！

イド 母は、助けてはくれなかった。幼い「フェイ」には抗う術はなかった。だが、"それには" 耐えることが出来たんだ。やがて実験は "耐えられない" ものへと変わっていった。「フェイ」の前に何人もの人が集められた。そいつらは、アニマの器との同調率の高い者達だった。それは「フェイ」を覚醒させる為の、精神接合だった。だが、「フェイ」との接合に抗しきれる者は一人としていなかった。「フェイ」の意志とは関係なく引き出された力は、そいつらを破壊していった。

フェイ　信じられるものか！　母さんがそんなことを……精神接合だって？　俺を覚醒させることに何の意味がある？
イド　神の目醒めの為には、何一つとして欠けることは許されなかった……。過去分かたれたものは、完璧にならなくてはいけないからな……。

イド　フェイの前で何人もの人間が死んでいった。男、女、老人、少女、亜人もいたか……苦しみ、悲痛、恐怖、恍惚……様々な表情と言葉を遺して……それらは脆く、バラバラと、壊れた人形のように、『フェイ』の周囲に転がっていた……その光景は、地獄だった。母は父の前では普段と変わりなく振る舞った。『フェイ』が母の奇行と自分の体験を話しても、仕事に追われる父は聞く耳を持たなかった。幼子の空想としか、思わなかった。だが、それもしばらくの辛抱だった。『フェイ』は、その精神的苦痛から逃れるために、ある方法を無意識に思いついたんだ。辛いもの、嫌なものを担当する人格を形成、元の人格から解離させた。あいつは自分を蚊帳の外においた。俺は、その発生当初から全ての嫌なものを押しつけられる役割だった。俺は解離した時から憎しみに支配されていた。憎しみは破壊衝動へと自然と変化した。俺は全てを壊したかった。母も、父も、世界も……やがて父は母の行動がおかしいことに気がついたが、すでに遅かった。俺は、元の俺自身、その臆病者と完全に解離していた。人形達は壊れ、そして……、『フェイ』の心も壊れた……。

フェイ　なぜ母さんがそんな……？
イド　俺に内在する力の存在を知った母は、その真相を究明すべく、実験を繰り返したんだ。そう、あの女は……母は、ミァンだったんだよ。
フェイ　嘘だっ！
イド　嘘じゃないさ。母は、ミァンだったんだよ。

カーン　……そうだ。カレンはミァンとなっていた。
シタン　何ですって！？
カーン　別に不思議なことではない。ミァンの補体は一人ではないのだ。ミァンの因子はほぼ全ての女性の遺伝子内に封印されている。誰もがミァンとなる可能性を持っていた。
イド　それがたまたま母だっただけさ。もっともエリィだけは“特別”だがな！！
カーン　ぬぅおっ！　フェイの記憶の時間軸が二重三重になっている事に気付いたカレン＜ミァン＞は確信した。フェイが“接触者”なのだと！
シタン　接触者！？
イド　……そう、俺は接触者だった。その為にあの男が呼ばれ……、そしてあの時がやってきた……

フェイ　やめて！　もうやめて！　父さん！　父さん！！　母さん！　父さんを助けて！　ねぇ母さん！　何故助けてくれないの？　父さんが、父さんが死んじゃうよぉ！

イド　グラーフは、俺に内在する力を求めてやってきた。自らの肉体に戻るためにな。もうわかっているだろう？　グラーフは、ラカン。500年前に分かれた俺達の半身、残留思念だ。グラーフとなり、この地上を破壊し尽くしたラカンは、人の精神に宿る術を身に付けた。恐らくは“存在”との接触によって身に付いたものだろう。肉体は滅んだが、ラカンの精神は人の肉体に憑依することによって生き長らえた。そして再び転生した自分自身の肉体に、魂に戻る為現れたんだ。父は……あいつは闘った。だが、あいつは俺も、母も護ることができなかった。情けなく血ヘドを吐きながら闘っていたのにな。父がグラーフになぶられ、助けを求めた母は助けてくれない。その場の状況に耐えきれなくなった“そいつ”は……自らの感情にまかせ、力を暴走させ、そしてその結果…………母が死んだ。

臆病者フェイ　母さん！

イド　そして、“そいつ”はその結果すらこの俺に押しつけた。母を殺した責任から逃れるため、俺を表に立たせた。“俺は、母をも殺したんだ。”そいつは、嫌なものすべてを俺に押し付け、そして母の愛、幸福に満ちた思い出だけ独り占めにした。そしてそれら思い出と共に永遠に自分の殻の中に閉じこもったんだ。その場所がここさ。俺達の目の前にあるこの光景は、そいつが作り出したものだ。思い出にしがみついているだけだ。これが……

フェイ　やめろ！　もうやめてくれっ！　これが、こんな光景が俺達の全てなのか？　あんまりだっ！　ここには何もない！　こんな偽りと苦痛だらけの世界が……

イド　仕方ないさ。これが俺達の世界<すべて>なんだから……。

カーン　私が愚かだった。全ては私の責任だ。シェバトからの責務に忙殺され、カレンの変化に気付かなかった。助けを求めていたお前を救うことが出来なかった。

イド　救うだと！？　今さら何を！　もはや何も変えられはしない。貴様に出来ることは、この俺によって葬り去られることだけだっ！

カーン　ぐぅおぉーーーっ！！　そ……それでも、私は……お前を、救ってみせる。

フェイ　親父っ！！　やめろっ！　イド！　親父には何の罪もない！

イド　知ってるよ。本当に悪いのはこいつだ。母も父もキッカケに過ぎない。

●フェイの足元に転がるボール

臆病者フェイ ありがとう。それ、返して。母さんと遊ぶんだ。

フェイ こんなものは……現実じゃない！！　嘘だっ！　偽りだ！　まやかしだ！　みんな、みんな、みんな……。

臆病者フェイ いやだっ！　出てって！　ここは僕の部屋なんだっ！　君なら僕と一緒にいつまでもいてくれると思ったのに！

フェイ 何故現実を見ようとしないんだ！　楽しかったことも辛かったことも、それは全部合わせて一つのものじゃないか！　何故見せてやらないっ！？　君がいつも見ているものをイドにも！

臆病者フェイ 嫌だっ！　あれは僕のものだっ！　母さんを殺した奴なんかに見せるのは嫌だっ！

イド よく言うぜ。殺したのはお前じゃないか？

臆病者フェイ 違うっ！　僕は殺してないっ！　母さんを殺したのはお前だっ！　僕は母さんを殺してなんかないっ！　母さんが振り向いてくれなかったから、父さんが気付いてくれなかったから、だからお前は母さんを……だから僕は殺してなんかないっ！　殺してなんかないっ！　殺して……

フェイ いいかげんにするんだっ！！　……母さんを殺してしまったのは“俺達”だよ。誰のせいでもない。母さんがミァンになったからでも、父さんが気付いてくれなかったからでもない。原因を外に求めてはだめだよ。責任を自分以外に押しつけちゃだめだ。確かに母さんはミァンだったかも知れない。君が体験した日々が辛かったこともわかる。誰だって耐えられないよ。だけど、だからってそれをイド一人に押しつけてはだめだ！　俺達はみんなで一人なんだ。俺達は一つにならなきゃいけないんだ。そうだろう？　フェイ……。さあ、自分の足で歩くんだ。見たくない現実に目を向けるんだ。イドに見せてあげるんだ。君が独り占めにしてしまったものを……

●身を挺してフェイを守る母―カレン

イド 嘘だっ！　あの女が！　この光景は、そいつが創り出した幻想だっ！　俺は、俺の存在意義は、こんな騙しを見せられたって揺らがないぞっ！　俺は……！　俺は……！

フェイ イド……もうやめよう。俺達がこんなことをしていたって何の解決もないんだ。母さんは最後に俺達を救ってくれた。それは事実だ。そうだろう？　辛い現実ばかりじゃないんだよ、イド……。

イド 俺の……、俺の力は誰も救えなかった。ただ、破壊するだけだった。人との一体感は、それを壊すことによってしか得られないと思っていた。だから全てを壊すしかなかった……。人も、世界も……エリィも……。

フェイ でも、そうじゃない。ミァンであった母さんが俺達を救ってくれたのと同じに救えるんだよ。俺達の力は……人を、そして……エリィを。

イド ……初めてだよ。母親とはこんなにもあたたかなものだったなんて……俺には……あたたか過ぎる……。フェイ。俺の持っている記憶を渡そう。そうして知るんだ。今までの生き様を。俺達が何者なのかを。そして何を成すべきかを。まだ俺達の本当の統合は済んでいないんだ。

●遠い日の記憶

アベル エレハイム！！

エレハイム アベル……生きて……

●ナノリアクター室

エリィ ……その子を……わたすわけには…………い…か……な…い……よ、ね…………生き……て…

●ニサン大聖堂

ソフィア ラカン！　生きて！

カレルレン この世界に神がいないのなら、俺がこの手で創ってやる！

ラカン ……どこだ、ここは……？　……ここは処刑場なのか？　……何故逃げる？　俺達は仲間じゃなかったのか？　……誰だ？　こいつは？

ラカン これは……俺が生み出したものなのか？　どうなってしまったんだ俺は……俺は……一体……何者なんだ……？

ソフィアの声 ……生きて！

ラカン ……生きてやる……たとえ地獄に堕ちようとも、この世の滅ぶその劫まで俺は……生きてやる。それでも尚、世に滅びが訪れないのであれば……俺がこの手で滅ぼしてくれよう！

●“波動存在”との出会い

——— ……フェイ……フェイ……

フェイ 誰だ？　俺に話し掛けるのは……

——— わ……しは……ハル……

フェイ この光は……？

波動存在 私は……私はゾハルに宿るもの。最先にして最後のもの。始めにして終わりのもの。

フェイ ……神？

波動存在 神……そう捉える者もいる。確かにそれはある見方では正しい。だがそうでないとも言える。私は…君自身でもあるのだ。

フェイ 俺自身？

波動存在 人の観測行為によって私は定義づけられる。今君に向かって話し掛けている私は、“君が知覚する為に、君によって擬似的に創られた私”なのだ。

フェイ 何のことだかわからないよ。一体あんたは何者なんだ？

波動存在 一言でいうならば……そう、存在だ。

フェイ 存在？

波動存在 私は本来、肉体というものを持たない高次元の“存在”。それは君達には知覚することが出来ない、ある種、波のように振る舞うもので満たされた世界。空間と時間の支配する、この四次元宇宙の源となった場所。無のゆらぎ……波動存在。

フェイ その存在が、何故俺に……？

波動存在 古の昔、事象変移機関という半永久無限エネルギー機関が創造された。機関は『ゾハル』と名付けられた。それは太古の異星の人々が、この四次元宇宙で考えられる最高のエネルギーを得ようとして創造した機関だった。やがて人はその機関を利用した究極の星間戦争用戦略兵器『デウス』をも創造し、ゾハルはその主動力炉として使用される事となった。しかし予期せぬ事態が起った。完成したデウスとゾハルとの連結実験の最中、無限の可能性事象……エネルギーを求めた機関は、本来別のものである、この次元と高次元空間とを結び付け、結果、そこに存在していた高次元の波……私と結合＜シンクロ＞した。私は、機関の作り出した高次元との接点……『セフィロートの道』、現在君がいるこの領域を降＜とお＞って四次元世界に具現化した。四次元世界へと“降臨”した私は、物質として四次元世界に安定することと引き替えに事象変移機関……つまり『ゾハル』という“肉体のおり”に束縛されてしまったのだ。ゾハルに束縛された私は、もとの次元に還ることを望み、……そして結論した。経てきた過程の逆、私に『意志』というこの次元の特質を持たせた者の手による解放を……。それが君だ。

フェイ 俺が決めた？　特質を？？

波動存在 そう。私は接触者である君の観測行為によって人の特質……母の意志を持ったのだ。

フェイ 母の意志？

波動存在 覚えているはずだ。私の降臨直後の事象変移機関、『ゾハル』と君は接触している。

フェイ　！！

波動存在　接触者である幼い君の中の母親への回帰願望によって定義づけられた私は、母親としての意志を備えた。それがエレハイムだ。

フェイ　エリィが俺によって？

波動存在　そうだ。私の意志はデウスの要であった生体コンピューターを介して具現化した。私と結合した生体コンピューターは、その機能を進化させ、そのバイオプラントによって一つの中枢素子を生成した。それが彼女なのだ。君との接触によって私は分かたれた。ゾハルという肉体、エレハイムという意志。そして君の中に流れ込んだ力。故に私は君との融合を待った。そして今、それが成就された。残された私の願いは分かたれたもう一つの私の肉体『デウス』とそれと共にあるエレハイムと融合し、完全体となり、その"肉体のおりを壊す"だけだ。私がもとの次元に還る方法は、肉体の破壊以外にない。四次元世界で完全無欠なるゾハルを消滅させるには、私の特質を決めた君の力が必要なのだ。ゾハルは"接触者"の手によってしか破壊出来ない。

フェイ　エリィは？　ゾハルを破壊したらエリィはどうなるんだ！？

波動存在　ゾハルとデウスのシステムは一体。彼女はシステムと、私との合一を望む者の意志によって縛られている。彼女を解放するためにはデウスの兵器としてのシステムそのものを破壊しなくてはならない。だが兵器として創られたデウスのシステムは、私とは違った目的で君達との合一を求めるだろう。解放は、本来ならば高次への回帰を望む私が行うべきこと。しかし彼女同様、私もシステムに縛られている。関与することは出来ない。それに彼女を呪縛から解放出来る者は君以外にはいない。私とデウスが不可分であるのと同じに、君と彼女もまた不可分なんだよ。

フェイ　……わかったよ。俺はデウスを、ゾハルを破壊する。そして、エリィを救い出す。

波動存在　君は数々の喪失を体験した。それは悲劇だった。君の人格が分かれてしまったことも、そもそもは私との接触による意志と力の転移が原因だったのかもしれない。

フェイ　それは違うよ。原因を外に求めちゃダメなんだ。過去に何かがあって、その蓄積が遠因となっていたとしても、それは……全ては俺自身の問題なんだ……

波動存在　そうか……。それら悲劇を受け入れ、全てを許容、包含し、自らの立つべき場所を見つけることが出来た君ならば、きっと出来るはずだ。全ての解放を……ゼノ……ギアス……を使

って…………ゾハル……を破壊……のだ……

フェイ 待ってくれ！　まだ聞きたいことが……

波動存在 システム…目醒めようとして……後…彼女に聞くといい……

覚醒　ゼノギアス

フェイ 父さん！！　父さん！　大丈夫か？　父さん！　すまない……俺のせいで、こんな……

カーン フェイ……？　そうか、元に戻れたのだな……一つになれたのだな……

フェイ ああ、みんなのおかげだ。父さんやみんなが呼んでくれなければ俺は……

カーン ぐふっ！

フェイ 父さん！

カーン 気にするな……これで良かったのだ……こ……れで、後は……私は……

フェイ 父さん？

カーン お前と……お前と一体になるだけだぁーっ！！

フェイ ぐぁっ！　ぐ、グラーフ！？　なんで……

グラーフ ふふふ…“私”は三年前のあの日、憑依した肉体に限界が来ていた……“私”は、お前が真の覚醒を果たすまでの間の憑依としての肉体、お前の父親の身体を得たのだ。覚醒、統合し、連なる記憶を得たといっても、私とカーンの融合前に、その時点での記憶を奪われたお前が知る由もなかったろう。

フェイ そ、んな……。それじゃあワイズマンは、父さんは……

グラーフ 無論私の一部だが、私とてカーンの全てを掌握出来た訳ではなかったのだ。カーンの自我の力は思いの外強く、私の束縛が弱まった時に表出、ワイズマンの姿をとって、お前を導いていたのだ。

フェイ ぐぅぅ……

グラーフ お前は覚醒を果たした。この肉体ももはや不要。後は本来の肉体に戻るだけだ。

フェイ や、やめてくれ……父さん……

グラーフ ああ、聞こえているぞ、フェイ。表裏一体。私はカーンであり、カーンは私なのだからな。さあ、心を開いて私と一つとなれ。そして全てを消し去ろう。

フェイ い、やだ……俺は……あんたに……操られる訳には、いかないんだぁーっ！

グラーフ　ふん。主を護るか。よかろう。その機体ごと融合してくれる！　さあ、拳を交えようぞ、フェイ！

フェイ　無理だ！　確かにあんたはラカン、俺の分身かもしれない。だけど、それでも俺の父さんであることに変わりはないんだっ！　そんなあんたと本気で戦える訳ないじゃないかっ！

グラーフ　甘いわ！　その甘さがソフィアを、母＜カレン＞を殺したと何故わからぬ！

フェイ　わかっている！　そんなことはわかっている！　だから俺は誓った。もう逃げないと。必ずエリィを助け出すと。だから邪魔をしないでくれっ！　目を醒ましてくれっ！　父さん＜ラカン＞っ！

グラーフ　ならば戦え！　戦って……

フェイ　出来ないっ！

グラーフ　そうか、ならば仕方あるまい。

フェイ　！？

グラーフ　お前が不甲斐ないのでな。奴等をえさにする。

フェイ　やめろ！　俺達の想いは、あの時感じた悲しみは同じはずだ。なのに、なぜ、なぜあんたは全てを滅ぼそうとするんだっ！　デウスを止めれば終わることじゃないかっ！

グラーフ　お前は存在と接触してもなお理解出来ぬのか？　私は、存在との接触で知った。たとえデウスを破壊したところで、人がこの地に息づくうちは何度でもミァン……エレハイムは生まれてくる。ならば人を、生けるもの全てをデウスと共に葬り去る。それこそが繰り返される造られた生命、歴史の悲劇、運命の呪縛から人が、我等が解放される唯一の道なのだ！　デウスを兵器として覚醒させ、全ての生物を根絶した後、覚醒したお前とその機体を使い、全てを無に還す……そう私は結論した。ミァンもエレハイムも、単なるデウスの代弁者ではない！　あの女が本体なのだ。何故それが解らぬ！

フェイ　それは違う！　母さんはあの時、俺をかばって死んだんだ！　あの時の母さんの目はミァンのものなんかじゃないっ！　最期のあの一瞬、ミァンは母さんに戻ったんだ！　ミァンも、母さんも……エリィも、この惑星で生まれた人間！　デウスなんて関係ないっ！　俺は、俺は必ずエリィを連れ戻して見せるっ！　父さん……いや、グラーフ＜ラカン＞！　あなたが退かないつもりなら……

グラーフ　愚問！

フェイ　ならばっ！　今こそ我ら、真に一つとなる時！

＜対　真ヴェルトール戦＞

グラーフ　ぬぅ……　ぐはっ！

● グラーフから語られる真実

グラーフ　何故、とどめを刺さぬ。"私"を消し去らねば、お前の望みはかなえられんぞ。

フェイ　もういいんだ……父さん。知ってるよ。あんたはグラーフなんかじゃない。俺の父さんだ。父さんとグラーフは一つ、その意志も目的も何ら変わりはない。それが戦っていてわかったんだ。もうやめよう。俺達の目的は一緒のはず。それは一つになったのと同じ事。戦うことなんてないんだ。ぐあっ！　な、何だ……！？　身体が……！

グラーフ　求めているのだ。ゾハルが。デウスのシステムが最後の欠片との融合を。原初に分離したお前との合一を。

フェイ　な、何を……！

グラーフ　これはラカンの望んだことなのだよ。所詮、私は不完全な存在。こうなることは必然だったのだ。過去、波動存在との不完全な第二次接触はラカンの人格を二つに分けてしまった。やがてその肉体は滅び、接触者としての運命を持ったまま、本来のラカンは今のお前に転生した。だが残された人格、その念だけは、人に憑依することによって生き長らえた。それがグラーフ、……私なのだ。しかし、私はラカンの意志こそ受け継いではいるが、"接触者ラカン"そのものではない。私では駄目なのだよ。真の統合と解放はあり得ない。だが、肉体は違えど、私は分かれたお前の半身であるのもまた事実。こんな不完全な私でも、一時的にゾハルと融合し、時間を稼ぐことぐらいは出来る。こうすることでしか私はお前と一つになれないのだよ。私に出来ることはここまでだ。いずれデウスのシステムは再びお前を求める。それまでの間に完全体となったデウスと、ゾハルを破壊するのだ。神の肉体を包む壁を破壊できるのは、その一部であるお前自身。

フェイ　父さんっ！

グラーフ　お前の言うとおり、あれはカレンだったよ。ミァンは代を重ねたことによって、その束縛から解放されつつある。今のエレハイムは、デウスと融合したことによって全ての記憶を持っている。接触者の対として生まれた原初からの転生の記憶以外にも、全てのミァンとその代替者達の記憶を。そう、お前の母の記憶も……。

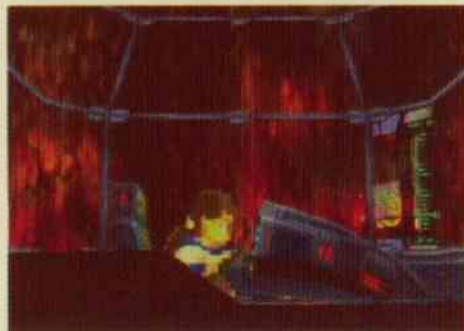
フェイ　母さん達の……？

グラーフ　フェイ。全ての呪縛を断ち切るのだ……今のお前ならば、それが出来るはずだ。彼女達を救ってやってくれ。頼んだぞ、フェイ……

● ゾハルと融合していくグラーフ

フェイ　これは……このペンダントは……これは、ソフィアのものなんだろうか……それとも母さんの……。

シタン　？

フェイ　いや、何でもないんだ。みんな……、すまない、俺の為に。行こう。もうあまり時間がない。俺にも、この惑星にも。

原初の地

シタン こ、これは……！？
フェイ 原初に全てが始まった場所。俺達は……、いや。人はここから生まれたんだ。……遥か昔、移民船と一緒にこの惑星に墜落したデウスはいつの日か自分を再生する為にゾハルの中枢部分を分離させた。……やがて着陸したこの中枢ユニットから一人の女が目醒めた。彼女は全ての人の母……目醒めた彼女は、その全能力を使い全ての人の始祖となるべき生体をいくつか産み落とした。それが天帝達なんだ。そして最後に人の管理者として自分の複製を産んだ。二人の自分。母＜ひと＞と兵器。主体と補体。それがエリィと……ミァンなんだ。墜落した移民船のただ一人の生き残りだった俺は、エリィと出会い……全てはここから始まった……。原初＜カドモニ＞の地……それがここなんだ。
バルト それにしてもお前。太古からのデウスとの因縁があるとはいえよくそんな昔の記憶を……？
フェイ 普通、人の記憶は明確な形で代を重ねて存続させる事は出来ない。ヒトの体組成は、基本的にはそういったハッキリとした記憶情報をイントロン下に圧縮し刻印出来る能力がないんだ。でも俺とエリィ、そしてミァンは違った。波動存在との関係……つまりゾハルの可能性事象を変位させる能力によってそのイントロン下に明確な形で情報……つまり記憶を残すことが出来た。……その情報はゾハルに波動存在が束縛されているのと同じように、この俺自身に波動存在の力の一部を固着させていると言っていい。
シタン こ、これは……！？
フェイ エリィとミァンがまだ一つだった頃の姿。この世界の最初の女性だ……。……俺達の母さんだよ……。

秘戦艦エクスカリバー

バルト つまりはそのゾハルってのを破壊すれば全ては終わる訳だな？
シタン ええ。我々のエーテル力の源も、ギアを駆動させているジェネレーターも……全ては可能性事象を自在にコントロール出来る事象変位機関ゾハルからのもの。それを破壊すればデウスも天使＜アイオーン＞もその活動を停止し……、デウスの兵器システムに束縛されミァンとなってしまったエリィも元に戻れるはずです。ね、フェイ。
フェイ ああ。波動存在はそう言っていた。
シタン まぁ反面、我々のギアやエーテル能力も使えなくなってしまいますがね。
リコ それにしてもあの天使＜アイオーン＞達の姿は何だ？　兵器とも生物ともつかない不確かなあの姿は……。
シタン 天使＜アイオーン＞の軍団は人の意識をゾハルが感じとって具現化しているものです。
ビリー 人の意識……？

シタン　ゾハル、それ自体が不確定性を内包しているのです。観測者による観測行為そのものが、実体を決定づけている。即ち、部品としてデウスに取り込まれた人々に内在する精神を具現化した形があの天使達なのでしょう。

バルト　その奴等がこの地上の文明を消し去って、一体何のメリットがあるというんだ？

マリア　人として生き残った者に対する恨み？

シタン　まさか。デウスの部品となるべく創られ、取り込まれてしまった人々にはそのような意志はありませんよ。ミァンとなったエリィが語った言葉を思い出して下さい。

フェイ　“神を創造しうる存在は、いずれ障害となる。だから消去する”……。

シタン　そう。だからメルカバーを使って破壊を始めた。しかし……デウスはそのプログラムに従って文明を残さぬように地上を破壊しているはずなのですが……。デウスの端末であるアイオーンはナノマシンの群体で構成されているその身体を使って大勢の人をその生死を問わず吸収している。変異した人、しない人を問わず。これはおかしい……。本来、破壊・消滅すべき人間を取り込むという、相反する行為がそこにあるのです。

フェイ　部品が足りないんじゃないのか？

シタン　それはありえない。肉体の運命により、その部品となるしかなかった人はともかく、ナノマシンの能力を獲得している今のデウスにとっては、本体を構成する素の物質は何だって良いはず。明らかに別の目的があっての行為としか考えようがない。この行為……。カレルレンは神<デウス>を母と捉えていました。神が母であるとすれば、これは大母の行為なんです……。子の成長を阻み、飲み込み、自らの一部として子宮内へと還す行為なのです。こんなプログラムはデウスの設計上存在しない。恐らくは誰かの意志によって新たに芽生えた特性。デウスと同調したエリィのものか…あるいは……。

フェイ　どのみち、戦うことには変わりがない。奴等の目的が何であれな。問題はそんなとんでもない奴等とどう戦うかだ。現在の戦力でいけるのか？

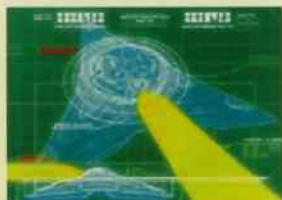
ゼファー　最後の戦いにはこの秘戦艦エクスカリバーも戦列に加わります。その他、地上の全ての戦力がここに集結しつつあります。

バルト　数は揃えられたとしても、当面の問題は、メルカバーの主兵装。あれをどう攻略するかだな。あれが攻略出来んことには……。

シタン　メルカバーの超長射程の主砲は、全ての物体を蒸発させてしまいます。そして奴等の周囲には障壁が張り巡らされ、いかなる攻撃をも受け付けない。

ゼファー　これまでも何度かメルカバーの侵攻を止めるべく戦いました。しかし、近づくことすら出来ず全て撤退を余儀なくされています。

フェイ　くそっ！　エリィを救い出そうとしてもメルカバー内に突入出来なければ意味がない。

シグルド　加えて厄介なのは、近接防御端末として機能する天使<アイオーン>だ。これの戦闘力は、ギア・バーラークラスといっても過言じゃない。

バルト　ナノマシンによる自己修復機能も持っているしな。

トーラ　それだったら心配いらん。ゾハルとの接触によって変異進化したゼノギアスから得られたデータがあるんじゃ。それを使ったお主らの新たなギアがじき完成する。その他の兵器、武器に関しても、ディスアセンブルデバイスを使用したものに換装中だしな。

ビリー　ディスアセンブルデバイス？

トーラ　ナノアセンブラーが物質の生成、修理を行うものであるのに対して、ディスアセンブラーは解体を行う。ナノマシンによる復元力も、ディスアセンブラーによる修復プログラムの解除によって役に立たん。これはデウスの天使<アイオーン>達にも十分効果のあるものじゃて。

フェイ　しかし天使はそれでいいとしても、一体どうやってあのメルカバーを？　近付くことすらままならないってんじゃ……。

シタン　この世に完璧なものなんてありませんよ。方法はあります。こちらを見て下さい。メルカバーの主砲はその大出力故に、次の斉射までに1.2秒のインターバルを必要としています。そして、主砲発射の際は部分的にではありますが障壁の一部が解除されるのです。その障壁が再び復活するまでの時間は1.87秒。この間を狙って主砲を破壊出来れば接近することが可能となります。接近さえ出来れば、後は重力場空間補正によって突破出来る。まぁ、ざっとこんな感じですが。

シグルド　しかしそんな短い間を狙って、長距離から主砲を破壊出来るような兵器は我々にはない。

バルト　要するにその厄介な主砲を黙らせればいいわけだろう？

●とんでもない作戦を思いつくバルト

フェイ　……メルカバーめがけて突っ込むだって！？

ビリー　また、そんな無謀な……。それじゃあ玉砕必至だよ。

バルト　まぁ、聞けって。ただ、突入するんじゃない。障壁なら、俺のユグドラシル4や、このエクスカリバーにも搭載されている。それを使うんだ。短い時間だが、メルカバーの主砲の直撃にも耐えられる。そして接近、障壁の解かれる瞬間を狙って破壊する。

フェイ　どの程度保つんだ？

バルト　各々約20秒ってとこだな。

フェイ　たったそれだけか？　そんな短い間では、どんなに全速で飛んだとしても到底こちらの有効射程に届く前に障壁が切れてしまう。おまけにその数値はジェネレーターの全力運転での数値だろう？　その他の動力、推進力を犠牲にしてのものじゃないか。

バルト　何もこっちも負けじと飛び道具を使って抵抗しようだなんて言ってねぇじゃねぇか。直接フタをするんだよ、直接！！

フェイ　？

バルト　おっしゃる通り、ユグドラシル4やエクスカリバーの障壁では、メルカバーの攻撃を防ぎきれん。ジェネレーターが一つではな……。

ビリー　つまり……？

バルト　そう。二つのジェネレーターを直結させれば倍の40秒間は防

ぐことが出来る。これならばメルカバーの懐深くまで潜り込めるぜ。

メイソン しかし、それでは推力が……。

バルト 話は最後まで聞けって。そこでだ、まず俺のユグドラシルを強襲形態に変形させてエクスカリバーに乗せ、二艦のジェネレーターを直結させる。その際、障壁の展開以外に使用するエネルギーは艦体の落下質量を支えるだけにとどめる。これなら余計なエネルギーを食われることなく、そのほとんどを障壁用として使える。そして障壁は、その全てを前方、主砲の直撃するただ一点に集約、展開させるんだ。そして移動だな。まずはエクスカリバーのジェネレーターをフル運転させて障壁を展開。その間の推進力はユグドラに搭載したマスドライバー遺跡から拝借してきた大型固体ロケットを使用する。エクスカリバーの障壁が切れると同時に今度はユグドラ4のジェネレーターを使用して障壁を展開。固体ロケットを切り放し、エクスカリバーは通常飛行へと移行する。この方法でメルカバーの目前まで到達。主砲発射後、無防備となったメルカバーの砲口をエクスカリバーの艦首ラムを使って塞ぎ、障壁復活までの0.67秒間に……エクスカリバーからの砲撃によってユグドラ4のスレイブジェネレーターごと破壊、メルカバーを沈黙させ、突入口を作る。……とまぁ、ざっとこんなとこだ。両艦の障壁のコンビネーション、メルカバーへの突入、エクスカリバーの主砲タイミング。どれをとってもかなりシビアだ。操艦者の息を合わせる必要がある。そこでエクスカリバーの操艦はシグにやってもらいたいんだが。

シグルド 私だったら構わないが……。

バルト どうだい女王？　おたくの戦艦、貸してくれるかい？

ゼファー 他に方法がない以上、それで行くしかなさそうですね。いかようにでもお使い下さい。

シタン しかし、これは……到達時間と障壁展開時間から算出するにほとんどギリギリの作戦ですね。下手をすれば到達前に障壁が途切れてしまうこともありうる。

シグルド それに、両艦のジェネレーターの全てを障壁展開に使用してしまうと近接防御が全く出来ないのでは？　メルカバーへの接近途中に天使＜アイオーン＞どもに攻め入られたらひとたまりもない。

フェイ それは、俺達が必ず防いでみせる。バルト達はメルカバーの主砲を沈黙させることだけに神経を注いでくれ。

バルト すまんな。頼んだぜ。

フェイ もはや、地上に掃討されずに残っている場所はここしかない。これが本当の最後の決戦だ。

フェイ 俺達は絶対的攻撃力と防御力を誇る神の方舟、『メルカバー』を沈黙させ、その内部へと突入……ゾハルを破壊する為の作戦を決行した。

●メルカバーへの攻撃敢行、そして……

フェイ　ば、馬鹿な！

ビリー　誘爆だって！？

シタン　しまったぁ！　私としたことがなんという計算ミスを！　爆発の規模が大き過ぎたんです。主砲の直下にあるメインコンデンサーと反応して、誘爆を起こしてしまうなんて……

バルト　が、がんばり過ぎたってのか！？

シタン　何故もっと早く気付かなかったんだ！　これでは……これではエリィまで……

フェイ　そ、そんな……エリィ……！！

ビリー　な、何だ？　今度は？

バルト　この上、一体何が起こるってんだ！？　おい、先生！

シタン　メ、メルカバーの中心部で何か変化が起りつつあります……。こ、これは……！！

●テラフォームを始めたデウス

フェイ　その時大地が激しく揺れ動き、地表が盛り上がり、メルカバーの墜落した場所から更に巨大な物体が姿を現した。それはデウスの最終形態であった。メルカバーは単なる器にすぎなかった。デウスはカレルレンのナノマシンによって、惑星規模の兵器として進化し、テラフォームを開始した。この星そのものが兵器となろうとしていたのだ……。俺達は一旦体勢を立て直す為に、雪原の拠点へと退避……再度デウス内へ突入を仕掛ける事となった。俺達に残された時間は僅かだった。

雪原アジト

●旧シェバト屋上

ゼファー　雪が降る……。この世のすべてを優しく覆い隠して……。私たちの哀しみも、汚れも、あやまちも……この雪に隠された世界のように消し去ることができたなら……。私たちは……、私は……この500年もの間何をしていたのだろう……何を求めて来たのだろう……。そう言えば……、メルカバーから救出された人は、その後どうです？　意識を回復したと聞きましたが……。

シタン　はい。最初は自分を失っていましたが、もう大丈夫でしょう。カールは復活してくれました。本当の自分の存在意義を見つけたのです。彼が共に戦ってくれたら、我々の戦力もかなりプラスされますよ。

●ラムサスに加勢を願い出るシタン

シタン　カール……、聞いて下さい。今は我々が敵味方といった関係を越えて協力せねばならぬ時なのです。そして、あなたの力も必要なのです。

ラムサス　……。俺は……塵だ。もう…生きて……俺の……塵……。

シタン　甘ったれたことを言うんじゃないっ！！

シグルド　ヒュウガ！？　お前……

シタン　塵……。あなたはそういって自分を卑しめていればいいかもしれない。でも、彼女達はどうするんです！？　あなたを慕って集った彼女達も塵なんですか？　寄る辺のなかった彼女達を護った理由。それは健全なものではなかったのかもしれない。でもね、それでも彼女達はあなたの下を離れなかった。何故だか解りますか？　あの娘達はね、誰よりもあなたの真実の姿を知っているんですよ。愛を求めていたが故の、その心根に流れる本当の優しさを知っているんです。だからあなたの下を離れない。カール……。あの娘達まで塵にしちゃあいけませんよ。

ドミニア　閣下……。

ラムサス　お前達……。

シタン　もちろんあなただって塵ではない。それは私達が一番よく知っていることです。

ラムサス　俺の……。俺の求めていたものが、こんなに近くにあったなんて……。それに気付かずに、俺は……。すまぬ……。

ドミニア　閣下……！！

フェイ　あいつとは、いろいろあったから……。この戦いが終わったら、ラムサスとは一武道家として手合わせしてみたいんだ。

ゼファー　きっと、向こうの方もそれを望んでいると思いますよ。

フェイ　そうかな。

ゼファー　フェイ……、ひとつ聞いてもいいでしょうか？　彼女が……もしエリィが、ゾハルの呪縛を解いても元に戻らなかったら……。

フェイ　エリィは必ず元のエリィに戻ってくれる。俺はそう信じている。だが、もしそれがかなわないのであれば……俺はエリィを……その覚悟は出来ているよ。

ゼファー　無理してやらなくとも、良いのですよ。相手はあなたの愛する女性＜ひと＞なんですから。ここでやめても、誰もあなたをとがめはしません。

フェイ　それじゃあ意味がないんだ。今まで戦ってきた意味も生きている意味もなくなってしまうよ。人は自由であるべきだ。何者にも束縛されず、何者をも束縛しない……。俺の中には、その自由を望む自分と、希望を与える自分がいる。だから戦って真の自由を勝ち取る。俺達はまだ生きているんだから。俺達が生きる為に戦う。それが俺の戦う理由。人として生きる証なんだ。それに俺は父さんと俺自身に約束した。エリィをデウスの束縛から解き放つと。必ず救い出すと……。

ゼファー　わかりました。それでは、信じましょう。奇跡の起こるのを……。

●ダンとの再会、そして和解

ダン　牢屋で怪物に変身したフェイ兄ちゃんを見た時、わかったんだ。フェイ兄ちゃんの中に、フェイ兄ちゃんじゃない化け物が住んでて、悪いのはそいつだったんだって……。だから、その……許すとか、許さないとか、そういうんじゃなくてさ。もう昔みたいになんか戻れるわけないし……、でも……、それでも……うまく言えないんだけど……、ゴ、ゴメンよ……お……、おいら……おいら……！

フェイ　もういい……。もう、いいんだ、ダン。わかってるよ。悪かったな。お前に、こんなツライ想いさせちまって……。

ダン　…………。

フェイ　最後に、こうしてお前と仲直りできて、良かったよ。いつまでも元気で、な。

ミドリ　フェイ兄ちゃん……ちょっと怖かったけど、怖くなかった。あいつのなかで、フェイ兄ちゃんが、いっしょうけんめいがんばってるの、わかってたから。

●タムズの仲間たちとの再会

ランス　お前なんか父ちゃんやないっ！！
ハンス　ランス！！
フェイ　ハンスじゃないか！！
ハンス　あなたは……！　生きてらしたんですか！？
フェイ　おお、お前も……でもお前がここにいるってことはタムズももしかして……
ハンス　タムズは……沈みました。『天使』たちに襲われて……死霊の襲撃にも耐えたタムズも『天使』たちの前にはひとたまりもなく……。ほとんどの者たちは逃げ遅れ……タムズと共に……。
バルト　ちょ、ちょっと待て艦長はどうした？　どうせピンピンしてんだろ
ハンス　艦長は……自分はタムズの最後を見届ける……って……
バルト　お、おい冗談だろ？　まさかあのおっさんが死……
ハンス　いえ！　艦長は生きてます。殺しても死にませんよ……あの人は……。
フェイ　そう言えばお前、どうしたんだ？　息子なんていたのか？さっき出ていったあの子、何だか怒ってたぞ。
ハンス　ああ、これはみっともない所を見られてしまいましたね。タムズが沈む少し前、僕は家庭を持ったんです。彼女はアンナ。僕の妻です。彼女は死霊に船団が襲われた時にタムズに救助されたんです。その時に不幸にもご主人を亡くして……。勘違いしないで下さい。別に同情だとかそんなんじゃなくって……いや、もしかしたら同情なのかもしれない。彼女を守ってあげたくなった。それだけです。それを同情と呼ぶなら、僕はそれでも構わないって思うんです。艦長には、ひやかされましたよ。おめえみてえな冷めた野郎が未亡人口説くたあな。ま、ガキに嫌われねえようにな……って。ははっ、艦長の言う通りだ。僕みたいな者には義理の息子はなかなか、なついてくれません。でも、いつかは……。
フェイ　そうか……何だかお前、変わったな。
ハンス　ははっ。フェイさんこそ明らかに変わられましたよ。うまくは言えないけど。僕は……どうしてでしょうね。今までは守ってくれる人がいたから……

フェイ　ハンス……
ハンス　フェイさん、僕、信じてるんです。いつの日か艦長が、杖をコツコツと鳴らしながらそこの階段を降りてきて……こう言うんです。ハーーンス、とびっきりのお宝にありつけそうだぜ！！　何だそのツラは？　お前疑ってやがるな！？　今度の情報は間違いねえって！　……って、いつの日か……
艦長　ハーーンス、とびっきりのお宝にありつけそうだぜ！！
フェイ達　！
艦長　なんだぁ、そのシケたツラは！？
ハンス　か、か、か……かんちょぉおーーーーー！！
艦長　なーーにが『かんちょぉおーーーーー！！』だ。情けねぇ声出すんじゃねえ。
ハンス　ど、ど、どれだけ心配したと思ってるんですかぁ！！

艦長 だぁーーーっ、いっつも言ってるだろうが！ ,わかんねえ野郎だな。いいか……海の！ 男は！ 不死身だぜ！ がっはっはっはーーー！！

ハンス ほんとに……あなたって人は……

艦長 ハンス！ 今度の情報は間違いねぇ！ お宝の眠る島だ。その名もサンドマンズ島。古代の勇者が怪物を倒した、伝説の剣が眠るとされている地だ。

ハンス つかんだ情報……って、場所はわかってるんですか？ それに船はどうするんです？

艦長 場所は知らねえ！ 船もねえ！ まあ気にすんない、細けぇこたぁよぉ！！ おめぇはそんなだからあのガキにもなつかれねぇんだ。

ハンス 余計なお世話です！

艦長 まぁ、お前がガキになつかれるようになった頃にゃ新しい船も何とかなんだろ。それまでせいぜいカゾクサービスだ、カゾクサービス！！ がっはっはっはーーー！！

ハンス 全く……あの人は……

アンナ 主人を亡くして間もないのに……ふしだらな女と思わないで下さいね。でもこの人のおかげで私……ポッ。

ユグドラシル

●ガンルーム

メイソン いよいよ最後の時がやってきましたな……。必要とあらばこのメイソンもネジリハチマキ・タスキがけで駆けつけますぞ！！

ビリー 長い旅路でした……。我々のやってきたことは無駄では無かったはずです。それを証明しましょう！

マリア お父様との絆……、無くすわけにないかない！

エメラダ エメラダ……。行く……。

リコ 罪の無いあいつをあんなにした奴ら……。ただじゃおかねぇ！

● マルーの部屋

マルー　もう君たちしかいないんだ！　頼んだよ！　若……。死ぬんじゃないぞ！　絶対だぞ！！

バルト　当ったり前じゃねぇか！　オレは死なねぇ！　変な事言うんじゃねぇよ！

マルー　ゴメン……。うん……、そうだよね……。きっと帰ってくるよね……。帰って来たらそん時はボク……。もっと若のそばに……いれたらいいなぁ……なんて。

バルト　わわっ、何言ってんだマルー。やめろって！！

マルー　フフッ、なんちゃって！！　若ったらローバイしちゃって！！

バルト　……。

マルー　っかしぃなぁ……。チュチュが見当たんないんだよね！　どこ行ったか知らない？

ギアハンガー

親方　こいつは……て、チュチュ！　おめぇこんなとこで何してやがる！　おめぇにゃ整備するとこなんざひとっつもねぇ！！　邪魔だ！　飯でも食って、とっとと寝ちまえ！

チュチュ　わたチュも疲れてるんでチュからマッサージしてほしいでチュ！！　というのは冗談でチュ……。あの優しかったエリィしゃん……。いなくなって寂しいのはわたチュだけではないはずでチュ。きっと、バルトしゃんも、マルーしゃんも、ビリーしゃんも、シタンしぇんしぇえも、リコしゃんも、マリアしゃんも、エメラダしゃんも、もちろんフェイしゃんも……。口には出さないけどわたチュにはわかりまチュ……。ここに立ってるとあのエリィしゃんの優しい笑顔を思い出しまチュ……。きっと、きっとエリィしゃんはまた戻ってきまチュよね？

フェイ　……。ありがとう、チュチュ。このピリピリした空気を和らげようとしてくれてんだよな。その気持ち……、忘れないよ。きっとエリィは生きてるさ！　な？

チュチュ　フェイしゃん……。

フェイ　さぁ、部屋へ帰るんだ。マルーが心配してたぞ。

チュチュ　わかったでチュ。

ブリッジ

シグルド ゾハルと一体となり、覚醒したデウスだが……。墜落したメルカバーから生まれたあの巨大構造体内の中心部にいることが判った。デウスを破壊するには、直接内部に突入しそこにたどり着く以外に方法はないだろう。あの構造体はもとはメルカバーであった物だが内部はかなり変化していると見た方がいい。どんな危険が待ち受けているか判らない。十分注意してくれ。

フェイ ああ、任せてくれ。必ずデウスを破壊してみせるよ。全てと引き替えにしてでも……

バルト フェイ……。本当にそれでいいのか？

フェイ バルト……？

バルト お前が今、何を考えているのか、俺にはよっく解る。確かにデウスを破壊すれば、この星そのものを兵器化しようとするナノマシンの増殖は止められるだろうさ……。だが、その為にデウスと融合したエリィまで失うことになってしまっては何もならないんじゃねぇか？

フェイ しかし……

シグルド その通りだよ、フェイ君。彼女は我々と行動を共にしてきた仲間だ。星を守り、世界を救う……。そんな大義名分ではなく、大切な仲間を救い出す……。それが今の我々の戦う理由なのではないかな。第一、それが出来ずして、世界を救えるはずがない。違うかい？

バルト ああ、シグの言う通りだ。フェイ。たとえどんなことになっても決してあきらめるんじゃねぇ！　エリィをデウスの呪縛から解放出来るのはお前だけなんだ。その為には俺達も最大限のバックアップをさせてもらうぜ。だから……

フェイ ありがとう。バルト、シグルド……。俺は、決してあきらめないよ。

シグルド 君は若や我々の為に、その身を挺して戦ってくれた。今度は我々が君と彼女の為に戦う番だ。さあ行こう、フェイ君！！真の自由をこの手につかむ為に！！

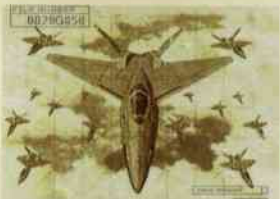
トーラの家

トーラ　よく来たの。見たところ元気そうで何よりじゃ。わしももっとお前さんらの手伝いをしたいんじゃが……。この体がもうここの空気を吸っとらんとダメなようじゃ……。もうそこまでお迎えが来とるようじゃの、フォフォフォ。
フェイ　トーラ爺さん……。
トーラ　ウム、そんな話はさておき、お前さんらに素敵なプレゼントがあるんじゃ。世界の運命はお前さんたちにかかっとる。頼んだぞ……！　わしはここからそれを眺めさせてもらうとするか……。

灯台

シタン　この灯台の台座部分は、何千年も前からここに建っているそうです。多島海の人たちが、後から灯りを乗せて灯台にしたそうですが、建物自体が何なのか、誰も知らないそうです。

フェイ　……エメラダの遺跡から見下ろした街か…………あんなところから来ることが出来たとは……な。

●旧テレビ局

シタン　この映像は……？
フェイ　遥か4000年の昔に滅んだゼボイム文明の記録映像だよ。
シタン　止めて！　こ、この女性は……！？
フェイ　ゼボイム時代のミァンさ。補体となっていたのが誰なのかは判らないけどね。彼女は当時の国家元首の側近として、裏で世界を操作していたんだ。
シタン　デウスの復活の為？

フェイ　最初の内はね。でも最後は違った。当時の人々は生体として子孫を残せない者が多かった。ヒトとして欠陥品だったんだ。だから……彼女はもう一度やり直した。ヒトを戦争によって滅亡直前まで追い込み、そこから生まれてくる新たな生体に次代を継がせようとしたんだ。マスドライバー施設にミサイル群があったろ？　あれはその当時のゼボイム人の遺品さ。そして今の俺達はその結果、僅かに生き残った強靭なヒト達の子孫なんだよ。困窮する経済、はびこる犯罪…退廃していく街。寄る辺を求め、絶対的指導者や教祖の下に集う狂信的な国民。遺伝子障害によって次代に命をつなげない人々。放っておいても滅亡していた人々だった。だから俺とエリィはヒトの希望を託してエメラダを創った…。

旧地下鉄の駅

フェイ　……ここは……

●回想　～ゼボイム時代の記憶～

キム　おめでとうエリィ。今年もどうやら年が越せた。
エリィ　おめでとう、キム。なに？　年寄り臭いこと言っちゃって。
キム　いや、なに、去年の今頃はここまで戦場になるんじゃないかと気が気でなかったからね。
エリィ　……そうね。巻き込まれずには済んだわ。
キム　でも、収まったわけでもない。今、この瞬間にも死にゆく奴はいる。
エリィ　……やめましょう、新年早々こんな話は……
キム　そうだな……。今日くらいは、脳天気に過ごしたいな。

●レストラン

キム　馬鹿だ！　馬鹿だ！　馬鹿ばっかりだ！

エリィ　キム……声が大きいわ。

キム　聞こえたって構うもんか！　どうせここにいるのも、馬鹿ばっかりだ！

エリィ　キム！！

キム　だってそうだろう？　こんなちっぽけな惑星で何を取り合うって言うんだ？　何かに追い立てられるかの様に生き急いで、まるで限られた生の指定席を奪うかの様に戦争をして……その戦争を始めるのも馬鹿なら、それをあおって広げるのも馬鹿、それに反対する為のテロでまた人を殺すのも馬鹿。馬鹿だらけだ！

エリィ　……キム、あの子は気の毒だったわ。でも、ラヴィーネの人たちだって、そんなつもりで発電所を壊したんじゃないと思う。多分。あの人達は、他に表現方法がないのよ。それを封じているのは政府だわ。

キム　あの子が……それで死んだ連中が納得するのか？　そんな理由で？　そんなに大したオペじゃなかったんだ。難しいけど、十分勝算はあったんだ……設備がまともだったら……電気が来てたら、助かってたんだ、あの子は……あの子だけじゃない。うちの病院だけでも、他に５人も死んでいる。ICUしか機能しなくなって……馬鹿だ。馬鹿ばっかりだ。人は、生き物は生き続けてこそなのに、何で滅びたがる？　何で自ら首を絞める？　人間は生き物として欠陥品だ。馬鹿ばっかりだ！　だから、最近遺伝子障害も多い。出生率も低下している。わずか三十余年しか与えられない命……自然が、星が、人の生き続けることを許さないんだ。

エリィ　………………私も……馬鹿？

キム　え……？

エリィ　今日、病院で検査受けたの…………子供、出来ないんだって。先天的な遺伝子障害で…………私は命をつむげない、つなげられない。滅びるだけの生き物よ。……私も、馬鹿？

キム　…………

●寝室

キム　………………駄目だ。……このままじゃ、駄目だ。何とか、何とかこの呪縛を断ち切らないと、この星の人間は滅んでしまう。いや、人なんてどうでもいい。何かしなければ、この星から生命そのものが滅んでしまう…何か……呪われていない、真っ白な命を……何か…………

●ナノリアクター室

キム　これが、これが呪縛を断ち切る、新たな魂の器だ。まだ目醒めてはいない。ナノマシンで外形は形成されたが、アセンブラータワーによるニューラルシミュレーションがまだなんだ。現在は物質として安定してはいるが、生物としては機能していない。

エリィ　ナノマシン群体……

キム　いくら遺伝暗号を書き換えても、僕等の体に刻まれた刻印は止められない。より深く、探求する必要があった。分子、いや、原子レベルでの作り替えをしなければならなかった。……君と僕の体の構成パターンを参考にしてね。この子には……僕らの未来と、可能性がある……

エリィ　この子は、生き急ぐ私達に時間＜とき＞をもたらしてくれる、天使になれるかしら？

●現実に戻る

エメラダ　……思い、出したよ……キムは……もうずっと前にやっぱり……死んでたんだ……この町が死ぬ少し前に……あたしを利用しようとしたこの町の軍人のせいで……

フェイ　……そうだな……俺の魂に記憶を……お前の為に託して……

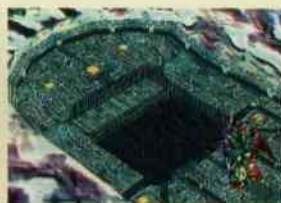
エメラダ　捕まってたとき、カレルレンが言ってたんだ。あたしは、技術の生んだ最高の美術品だって……そう、あたしは自分でも自分をモノだと思ってた。こんな身体だし……マリアやマルーや…………エリィとはぜんぜん違う、まがい物のヒトだって……でも……でも違った！　キムやあのエリィは、あたしの事を天使だって……

フェイ　……ああ、お前は望まれた子供だよ。4000年も昔から、キムが、俺の血の中にいたんだ。自分では、とうとう抱けなかった、自分の子が、いつか生まれて来る日のために。

エメラダ　フェイ！　今までキムの代わりをしてくれてありがとう！　でも、もう大丈夫だよ！　あたしは、キムやエリィたちの子にふさわしいように、強くなる！　……あ、あれ……？　フェイ……からだが……なんか……あつ…い……よ……フェイ……あたしを……しっかり……抱いてて……

●エメラダが成体になる

エメラダ　フェイ……からだが…………お、おとなになっちゃった……おとなに……あたし…これで、もう、フェイの足手まといにならない！！

最終決戦 ～デウス～

フェイ　デウス内部マップセット終了。よし！　行くぞ、みんな！

●迷宮を抜け、デウスへ

フェイ　これがデウス……なのか！？
チュチュ　まわりの4つの玉はなんでチュかね？
マリア　まるで、4つの力で中心を支えてるみたい。
リコ　ってことは、真ん中のデカイのがデウス本体ってことか？
シタン　恐らく。
バルト　そんな玉っころなんて関係ないだろ。一気に本体を叩き潰そうぜ。
シタン　消費する前に一気に叩く、それも一つの手ですね。しかし、周りから行くという手もあると思います。もし、周りから行くのであれば私たちに任せて下さい。フェイの力を使わなくとも私たちの力だけでも何とかなるでしょう。
エメラダ　ゼノギアスの全ての力でデウスを倒すため、そう、エリィを助けるために。
ビリー　一気に行くも、まわりから行くもフェイ次第です。
フェイ　……みんな、ありがとう。一気にデウスを叩くか、周りから潰していくか。どっちで行くか、か……。

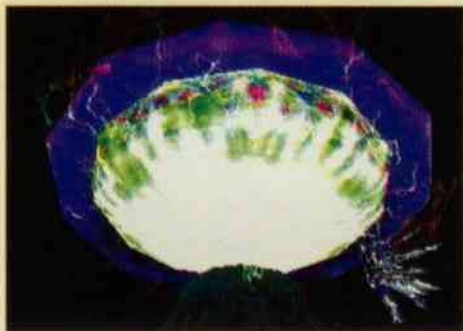
対 四柱神戦

●四柱神ハールートを倒し
デウスの「天からふり注ぐもの」を封じた

●四柱神マールートを倒し
デウスの「フュエルドレイン」を封じた

●四柱神サンダルフォンを倒し
デウスの「ヒーリング」を封じた

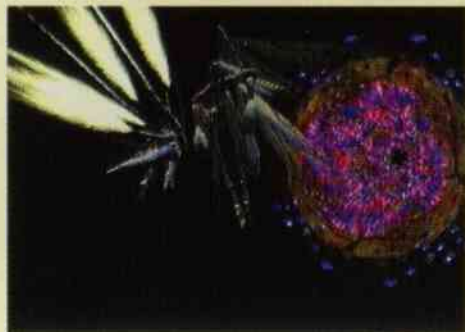
●四柱神メタトロンを倒し
デウスの「地よりわき立つもの」を封じた

対 デウス戦

●デウスを撃破

フェイ どう……なったんだ？
リコ 俺のギアがウンともスンとも動かなくなっちまった。
シタン 事象変移機関ゾハルの活動は停止しています。我々のギアが動かなくなったのはそのせいでしょう。本体からの反応も極僅かな残留エネルギーのみです。
フェイ エリィは？　取り込まれたエリィはどうなった？　デウスのシステムの呪縛はもう解けているはずだ。なのに、何故何の反応もない！？　ま、まさか、今の戦いで……
シタン 落ちついてフェイ！　センサーがデウス内の生命反応を捉えています。恐らくはエリィのもの。大丈夫、無事ですよ。
フェイ エリィ！　聞こえるか？　エリィ！　デウスの活動は停止した。終わったんだ、みんな。だから、そこから出てきて顔を見せてくれっ！　エリィ！　エリィ！
バルト な、何だ？　これは……！？
フェイ どうした？　先生！？
シタン デ、デウスの中心からものすごいエネルギーが検出されています。まるで、それまで封じられていた何かが、一気に解放されたかのように大きくなってきている……
フェイ まさか……波動存在！
バルト 波動存在だって！？
フェイ 間違いない。ゾハルという肉体のオリから解放された波動存在が本来の高次元へと回帰しようとしているんだ。
シタン ということは…これは次元シフトの余波ということですか！？
リコ 何なんだよぉ！　その余波ってやつは！？
シタン 次元が転位することによって発生する衝撃波みたいなものです。そ、それにしてもこんな……こんなエネルギーが今ここで解放されたら……
フェイ 解放されたらどうなるってんだ！？　はっきり言ってくれ！
シタン この星は消滅してしまう！　この数値は惑星一個消し去るには十分過ぎる程のエネルギー量です！
チュチュ 何でチュって！？
バルト そんな馬鹿な！
ビリー ここまでみんながんばって来たってのに！
フェイ 何か、何か方法はないのか！？　その余波を食い止める手は！
シタン 残念ながら我々には成す術がありません……。ゾハルの停止によって私達のギアを含めたほとんどの機械は止まってしまっている。これぱかりはどうしようもない……はっきりいって終わりです……。
バルト ふざけんじゃねぇ！　こんな結末ってありかよ！　こんなんじゃあ、これまで俺達が戦ってきた意味がまるでねぇじゃねぇか！
ビリー し、震動が更に激しく……
リコ いや、ちょっと待て……違うぞ、この揺れは……何か別の……
マリア 見て！
バルト デ、デウスが……！
フェイ 上昇していく！？

チュチュ　今度は何なんでチュか！？
シタン　デウスは残った僅かなエネルギーを放出してどんどん加速しています。このまま加速を続ければやがて宇宙空間に……
フェイ　……まさかっ！？
バルト　どうした！？
フェイ　エリィだ！　エリィがデウスを！
リコ　本当か！？
フェイ　ああ、間違いない！　エリィは俺達を救うためにデウスをこの星から遠ざける気なんだ！　自分を犠牲にして……。
マリア　そんな……エリィさん……
ビリー　どうしようもないんですか……？　ただ見ているだけしか僕達には出来ないんですか？
シタン　…………。
フェイ　いや、方法はまだある！
チュチュ　フェイしゃん！？　何を！？
フェイ　こいつはまだ動く。ギアの動力源であったゾハルの消失した今、動くことが出来るのはデウス同様、ゾハルと接触した俺とこいつだけだ。俺はエリィを助けに行く！
シタン　無茶です！　たとえデウスに追いつけたとしても、戻って来れるエネルギーはない！
フェイ　それでも俺は行かなきゃならない。エリィは全てを背負って行くつもりなんだ！　もしもの時は……俺も一緒に……。
バルト　おいっ！　ちょっと待て！　心中するつもりだったら俺は許さねぇからな！！
フェイ　バルト……
バルト　……、絶対生きて還ってこい！　絶対だ！　約束しろ！！それなら行かせてやる！！
フェイ　……ありがとう、バルト。約束する。俺はエリィを連れて必ず還ってくる。
バルト　必ずだぞ。
フェイ　ああ。
バルト　よしっ！　そんなら行って来い！
シタン　しかし……！
バルト　行かせてやろうぜ、先生。今、エリィを連れ戻せるのはフェイだけなんだからさ。俺達がとやかく口出しできることじゃないよ。
シタン　……そうですね。フェイ、必ず……。
ビリー　絶対に……。
マリア　フェイさんとエリィさん……
エメラダ　二人で……。
リコ　還って来いよ……。
チュチュ　待ってるでチュ。
フェイ　すまない……バルト……みんな……行って来るよ。お前ともこれが最後だな……。頼んだぜ！　相棒！

●エリィを救うため、デウスを追うフェイ

フェイ　エリィーーー！！

精神世界

フェイ　ここは……！　エリィ！　それじゃあここは、デウスの中なのか？

――――　それは正確ではない。お前の実体は物体……デウスの外殻に取り込まれているだけだ。お前の意識のみがここにある。当然目の前に彼女もまた、本当の彼女ではない。意識がその姿を構築しているに過ぎない。

フェイ　！？　波動存在……？　いや、違う……。何だ……？　まさか……！？　お前はカレルレン！？　そうなんだな……。カレルレン！　お前がエリィを！

カレルレン　セフィロートの道は繋がった。神の旅立ちは、もはや誰にも止めることは出来ない。今更何をしに来たんだ？　ラカン。

フェイ　俺は愛する人を取り戻す為にここに来た！　エリィを放せ！　デウスのシステムは破壊した。全ては終わったんだ！　だのに、お前はまだ何をしようというんだ！

カレルレン　全てが始まったあの刻。全てが一つだったあの場所へと還るのだ。

フェイ　あの場所？

カレルレン　宇宙の始まり以前、高次元の波動の場において、全ては一つだった。そこから波動がこぼれ落ちることによってこの四次元宇宙が創られたのだ。そこから生まれたヒトもヒトの魂も、こぼれ落ちた波動の残りかすなのだ。だから……

フェイ　そこへ還るというのか？　それがお前の望んでいたことなのか？

カレルレン　ラカン……。何故そうまで頑なに神との合一を拒む。くだらん現世に何の未練がある？　他人を傷つけ、自分を傷つけ、互いを削りながら短い生を全うして土に還ることに何の意味がある？　ここには全てがある。愛に思い悩むこともない。ここには神の愛が満ちている。

フェイ　俺は、お前ほど人に対して絶望してはいない！　人にはいつか解り合える時が来る！　俺はそう信じている！

カレルレン　何故そう言いきれる？　ヒトとヒトとは、決して解り合うことはない。お前は彼女を愛していると言った。だがそれは本当に解り合っていると言えるのか？　所詮ヒトは、お互いにとって都合のいいように距離を置き、仮初のそれを、相互理解、精神の合一、真実の愛と偽っているにすぎない。ヒトは自らをあざむく事によってしか、他人と交わることができないのだよ。そう創られているのだから……。

フェイ　だからといって、たった一人のエゴが、全ての人の運命を決めていいはずがない！　人には自分の運命を自分で決める権利がある！　自由な意志があるんだ！

カレルレン　その意志すらも、事前にとり決められたものであったとしたらどうする？　創られた始原生物であるヒトに自由意志などというものはない……。ただ"そのように""そうなるように"不完全な状態のまま、生かされているだけなのだ……。それ故に、なまじ意志などというものがあるが故に、ヒトは悲しみと喪失を経験しなければならない。誰かが何かを得るということは別の誰かが何かを失うことなのだ……限られた"モノ"と"想い"は共有することはかなわない…だから私は、全てを最初の時点に戻そうと結論した。波動という、それ以外何もない、一つの存在であったあの刻に……。これは私<ヒト>のエゴではない。波動<神>の意志なのだ……。

フェイ　それでもいいさ……。不完全でも構わない。いや、不完全だからこそ、お互い欠けている何かを補いあい生きていく……それが人だ……。それが解り合うということなんだ！　俺はそんな人であることに喜びを感じている！　エリィは、そう選択した俺達に未来<あした>を託して、今こうやって、俺達の星からデウスを遠ざけようとしてくれている。そしてまた、たった独りで、神と旅立とうとしている。お前の心を癒そうと……。そのエリィの気持ちが、お前には解らないのか！？　神と一つにならなければ、それが解らないのか？　俺には解る……我が身のようにエリィの想いが……。……そう、俺達は一つなんだ！　神の力なんか借りなくても！！

カレルレン　ならばそれを私に見せてくれ。神の下から巣立とうと言うお前達ヒトの力<愛>を……。

対 ウロボロス戦

終息の刻

フェイ　エリィ……。
エリィ　フェイ……私を解放してくれたのは、カレルレン……。
フェイ　カレルレンが……？
エリィ　ええ。カレルレンと一つになって解ったの。彼の心は悲しみに満ちていた。だから彼は私との、神との合一を願った……。それがすべての原点への回帰だったから……。彼が言ってくれたの……あなたと一緒に居るべきだって……そう言ってくれたの……。私は解っていたわ……私の想いも、あなたの想いも……。でも、どうしようもなかった……。人であることを、全ての想いを捨ててでも、彼は前に進むしかなかった……。全ての人の為に……。決して後戻りは出来なかった……。振り返れば、そこは思い出で一杯の場所だから……。そこに……還りたくなってしまうから……。だから、彼を赦してあげて……。カレルレンは誰よりも人を愛していたのだから……。
フェイ　そんなこと……そんなこと、はじめから解っていたさ。あいつがそういう奴だって事ぐらい……。
エリィ　……ごめんなさい……。私は間違っていたのね。私は、自分を犠牲にしてでも、他人を救うのが正しいことだと思っていた。でも、私の行為は、遺されたあなた達の心の中に悲しみを残すだけだった。その悲しみが、また新たな悲しみを生んでしまった。私という存在があなた達の中にも生きている以上、私の命は私だけのものじゃない。
フェイ　エリィ……それは間違いなんかじゃないよ。誰かの為に、自分を捧げるのは尊いことだ。それがたとえ自分の為であったとしてもそんなことは問題じゃない。そこには必ず、癒されている人が存在するのだから……。愛は、与える者と受ける者、二つの関係があってはじめて本来の輝きを成すもの。どちらが欠けても不完全……。二つは一つ。そう、教えてくれたのはエリィじゃないか。それが人であることの意義なんだと俺は思う。今の俺にはその大切さが理解出来る。正しい答えなのかどうかはわからない……でも、そのことについて考える時間はたくさんあるよ。カレルレンが見つけようとしていたもの……答えは……俺達が見つけよう。
エリィ　ありがとう……フェイ。
フェイ　エリィ……

フェイ　還ろう、僕らの星に

エリィ　あの光が……私達の世界との接点。でも次元シフトはもう始まっている。果たして間に合うかどうか……

フェイ　走れるか？

エリィ　ええ、あなたとなら……

フェイ　エリィーーーッ！！

フェイ　カレルレン……お前。

カレルレン　もう時間がない。ここもじきに消滅する。

カレルレン　これで神はいなくなる。この星は人の惑星……
自らの足で歩むお前達の故郷だ。

フェイ　カレルレン……行けないのか？

カレルレン　ああ……私はあの時を境にして、人としての道を失った……

カレルレン　多くの禁を犯した……もはや人として生きることは
許されまい。私を許してくれるのは神のみなんだよ。

フェイ　そんなことはない！　きっとみんなだって解ってくれるさ。
罪滅ぼしの時間だってたくさんある。お前にならそれが出来るよ。

カレルレン　相変わらず優しいんだな、ラカン。……きっとそれが人であることの意義なんだろうな。
だが行けないよ。もう決めたことなんだ。……私は神と歩む。
それに、たとえ還ったところで……私の居場所など……

カレルレン　そろそろ行くよ　　**フェイ**　カレルレン……　　**カレルレン**　お前達が
うらやましいよ……

シタン　フェーーーイッ！！

シタン　どうなりましたか？

観測員　爆発の余波による電離層の乱れで観測不能です。
恐らくは爆発に巻き込まれて……

バルト　そんなワケあるかっ！！　あいつは必ず
還って来るって約束したんだ。必ず還って来るって！！

Xenogears Episode V —— END

ゼノギアス　メモリアルアルバム

THOUSANDS OF DAGGERS

STAFF

Editor
中村寛文
堀貝真和

Editorial Staff
瀧井　亮
木村聡好
山田博美

Visual Taker
桜井亜己

Text Picker
荒井美帆
福井温子

Art Direction+Design
中島基文

Designer
浅野康弘
保田知美 for CREATURE

Cover graphics Art Direction+Design
吉田直之 from NRS516
吉積里枝 from NRS516

Supervisor
野村　匡 (for SQUARE)
伊藤幸正 (for SQUARE)
宮崎克巳 (for SQUARE)

高橋哲哉 (for SQUARE)

Character Design
田中久仁彦

Mechanic Design
石垣純哉

発行：1998年5月30日　初版

発行人：鈴木　尚
編集人：横田洋文

発行所：株式会社デジキューブ
東京都渋谷区恵比寿1-20-18　三富ビル新館
TEL. 03-3444-5765　FAX. 03-3444-5940

印刷：凸版印刷株式会社

ISBN4-925075-27-6 C0076